

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十四年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十四年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

「実践倫理講話筆記」の発行について

1. 表題は「実践倫理講話筆記」であるが、内容は本学創立者成瀬仁蔵が全学生あるいは卒業生に向けておこなった講話を収録したものである。当館所蔵のこの筆記録は、概ね年度ごとにまとめて綴じられている。

所蔵年度

明治 38 年度から大正 6 年度までのものがある。但し、明治 38 年度の綴りの初めには、明治 37 年度 3 月の三講話と一緒に綴じられている。

原稿

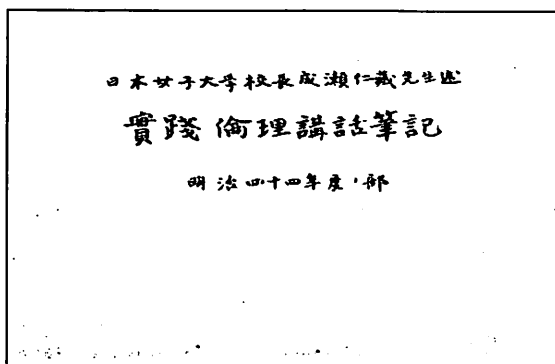
筆記録は横書きで、特定の和紙にカーボン紙を使用して複写されている。

年度によっては複数部残されているが、それらを照合すると一部分欠けて綴じられているものも見られる。

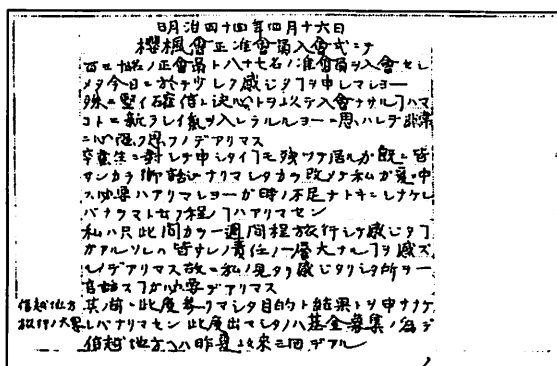
筆記状態

片仮名書き(一部平仮名書き)、句読点がない。

2. 今回の印刷は明治 44 年度のものである。
3. 初期のものはすでに「成瀬記念館」に発表してきているが、それらを含めて今回と同様の体裁で順次発行する予定である。



中表紙



本文

目次

明治四十四年四月十六日 桜楓会正准会員入会式にて	5	明治四十四年十一月八日 大学部全体の為に	77
明治四十四年四月二十一日 創立十年記念祝賀会にて	7	明治四十四年十一月十五日 大学部全体の為に	79
明治四十四年四月二十六日 大学部二、三学年にて	8	明治四十四年十一月二十二日 大学部全体の為に	82
明治四十四年四月二十八日 一年生に	11	明治四十四年十一月二十六日 桜楓会例会にて	85
明治四十四年五月三日 大学部本年度計画発表会にて	13	明治四十四年十一月二十九日 大学部全体の為に	86
明治四十四年五月二十四日 大学部二、三年にて	14	明治四十四年十二月六日 大学部全体の為に	90
明治四十四年五月二十八日 地久節祝賀式の御話	15	明治四十四年十二月十三日 大学部全体の為に	94
明治四十四年五月三十一日 大学部全体	17	明治四十四年十二月十七日 豊明寮記念式にて	96
明治四十四年六月三日 桜楓会にて	20	明治四十四年十二月十八日 大学部一年及予科生の為に	100
明治四十四年六月七日 大学部二、三年生に	20	明治四十四年十二月二十日 大学部並びに予科全体の試験問題	101
明治四十四年六月十四日 大学部二、三年の御話	21	明治四十四年十二月二十四日 第二学期終業式	102
明治四十四年六月十七日 大学部一年生に	23	明治四十五年一月一日 新年祝賀式に於て	105
明治四十四年六月二十一日 大学部二、三年の御話	25	明治四十五年一月八日 第三学期始業式にて	108
明治四十四年六月二十四日 大学部一年の御話	27	明治四十五年一月十日 大学部全体の為に	110
明治四十四年六月二十五日 桜楓会例会にて	30	明治四十五年一月十七日 故森村菊子夫人追悼会	113
明治四十四年六月二十六日 高等女学校臨時講話会にて	30	明治四十五年一月二十四日 大学部全体の為に	117
明治四十四年六月二十八日 大学部二、三年の御話	33	明治四十五年一月二十八日 正准会員修養会	119
明治四十四年七月一日 第一学年にて	36	明治四十五年一月三十一日 大学部全体の為に	126
明治四十四年七月五日 大学部第二、三学年にて	39	明治四十五年二月七日 大学部全体の為に	128
明治四十四年七月九日 第一学年生まとめの会	42	明治四十五年二月十一日 紀元節に於て	131
明治四十四年七月十日 第一学期終業式	44	明治四十五年二月十四日 大学部全体のために	132
明治四十四年九月十一日 第二学期始業式	46	明治四十五年二月二十八日 大学部全体の為に	135
明治四十四年九月十三日 第二、三学年にて	48	明治四十五年三月九日 正会員会に於て	139
明治四十四年九月十六日 第一学年及び予科の為に	50	明治四十五年三月十一日 大学部一年のために	141
明治四十四年九月二十日 大学部全体の為に	51	明治四十五年三月十三日 大学部二年及び三年にて	143
明治四十四年九月二十五日 桜楓会正准会員の為に	53	明治四十五年三月十八日 第一学年及び予科生の為に	147
明治四十四年九月二十七日 大学部全体の為に	54	明治四十五年三月二十日 大学部二、三年の為に	150
明治四十四年十月四日 大学部全体の為に	57	明治四十五年三月二十五日 大学部一年の為に	153
明治四十四年十月十一日 大学部全体の為に	60	明治四十五年三月二十七日 大学部二、三年の為に	154
明治四十四年十月十六日 第一学年及び予科生の為に	64	明治四十五年三月三十日 修業証書授与式並びに第三学期終業式	157
明治四十四年十月二十五日 大学部全体の為に	66	明治四十五年三月三十一日 桜楓会例会の御話	159
明治四十四年十月二十六日 高等女学校生徒全体の為に	70	明治四十五年四月七日 桜楓会大会に於て	160
明治四十四年十一月一日 大学部全体の為に	71	明治四十五年四月十三日 卒業証書授与式	162
明治四十四年十一月三日 天長節祝賀式にて	74		
明治四十四年十一月三日 第十一回秋季運動会批評会にて	76		

凡例

1. 印刷に際し、筆記原稿の体裁を保持しつつ、以下の点に留意して一部手を加え統一を図った。
2. 表記に関しては、片仮名書きの原文筆記を平仮名表記とし、明らかな誤字・脱字を改めると共に、文字を統一した。
3. 漢字は原則として常用漢字を用いた。
4. あて字については原文通りとした。
5. 文意を明確にするため、句読点を付した。
6. 欄外に書かれた註を一部見出しとした。
7. 筆記原稿の不明確な部分は原稿通りとした。
但し英文については、前後の文脈に基づき加筆訂正した箇所がある。

[中表紙]
正准会員入会式の御話
明治四十四年四月十六日

明治四十四年四月十六日
桜楓会正准会員入会式にて

百三十五名の正会員と八十七名の准会員を入会せしめた今日に於て、少しく感じたことを申しませよ。殊に堅い確信と決心とを以て入会なさることは、まことに新しい気を入れられるよ一に思はれて非常に心強く思ふのであります。

卒業生に対して申したいことも残つて居るが、既に皆さんから御話しになりましたから、改めて私が爰に申す必要はありません。時々の不足なときにしなければならぬと云ふ程のことはありません。

私は只、此間から一週間程旅行して感じたことがある。それは、皆さんの責任の一層大なることを感ずるのであります。故に、私の見たり感じたりした所を一言話すことが必要であります。

[信越地方旅行の大略]

其の前に、此度参りました目的と結果とを申さなければなりません。此度出ましたのは基金募集の爲で、信越地方へは昨夏以来三回である。

この様に遅くなつたのは関西地方へ大隈伯爵も行かれる事になつたので、其の御都合を待ち合せて居たからである。夫れ故、私は此の度の旅行も記念式後にしよと云ふことを洗澤さんに言ふたのですが、式に少しなりとも結果を表したらよいと言はれたので出かけたのである。

此の度の旅行で地方の状況もよくわかり、又女をど一云ふ様に取り扱つて居るか云ふ事も知りました。人は女に重大なことを聞かせない。譬へば一家が破産して絶体絶命の淵にあつても、それを知らせないから女には社会の真相がわからないのである。其の一例を挙げるならば、爰に一つの実談があるのである。

或る家に今年八十九歳になる老母がある。病んだことはない云ふが、片目で耳が遠いのである。其の子息の今年五十四になつたのが今日死んだと云ひ、孫の女は危篤である。其の外に訴訟が起つて居ると云ふ一家の状態である。私はこれを知り、同情に堪へなかつた。御老母はさぞ心配だらうと聞くと、皆が言ふに、一切それに関しては聞かせてないのであると言ふて居る。これは老母に話した所で救はれないのであるから、聞かせないがよいと云ふことからである。一家に生死、訴訟の重大なことが起つて居るのに老母は少しも知らないのである。私は此の老母に会して、いろいろの感じがしたのである。

かく世には大なる変動がある割合に、あなた方は心配せず本気にならないのである。それは知らないからである。聞かせないからである。女には知らせないのである。若い奥様は良人の心配、趣味を知らないで、自分の身を飾る事ばかり思つて居ると云ふ様な、今日の女は誠に社会のほんといがわか

らないのである。知らせないのである。又知らせて心配させても役に立たぬと考へて居るのである。これが、も一つ婦人が真面目に本気にならない、これが末葉の遊びをして根本のことが出来ないわけであると思ふ。

田舎に行つて殊によくわかり、女の社会と一般社会とを見て、誠に気の毒に思ふたのである。

そこで私は少し実験談を申しませよ。少し知らせて置かないとわからぬから、ほんといの所を少し話して置かうと思ふのである。

第一、基本金募集の真相。第四回募集の時、応じた人の中でのかしらは、五万円、三万円、一万五千元、一万円、五千元と、こ一云ふ風に初めの一枚に十余万円書いてあるのを見て、地方の人は驚いて居るのである。

昨夏、或る人が言ふに、洗澤さんと森村さんが地方に出て募集するより自分で出したがよかろ一、と言ふた。それで私が答へて曰ふに、此の兩人はじめ他の評議員が此の校を起すに当り、森村さんが百万円出してこしらへた。又、洗澤、廣岡、土倉、三井が出したと云ふ。此の人達に力がないのではない。

此の間も、大坂に百五十万の財産の中、百万円、大坂市の爲に出したと云ふこともあるが、此の学校は一人であることを好まず、多くの人に依つて出来たもので、金高や働きによつて此の校の価を定めることは出来ぬ。皆の共同で出来たのである。百円と云ふても、一万円よりは高いかもしれぬ。寄附者、教員、卒業生みなで出来たので、功も名誉も皆にあるので、誰れのものでもなく、又、そ一云ふことを願はないのである。

この精神で本校は出来て居るのである。成る程、基本金があるなら五十万円はよろしいと云ふ力のない人はないのである。併しそれはいけなないのである。成る可く広く天下に訴へてしたいと云ふ精神から成つて居るので、決して金高で定めるわけには行かないのである。新潟で集つた金高は少いが、纏まつた所には永久の価値があり、大学の力が信越地方に及び、広まつたと言へるのである。金の高にはよらないで、其の寄附の動機によるのである。金銭をばいやしめるが、生涯を捧げて稼いだのであるから、金銭を出すと云ふことは心を出すと云ふことであつて、決して金は物質なりとのみ言ふことは出来ないのである。

世には金銭によつて名譽を得たいと望むものもあるが、これは卑しむ可きものである。

我々の独立主義を唱へたのも、如何なる動機で此の事業に捧げらるゝかと云ふことを重んずるので、此の度の旅行も主旨を賛成し、教育の爲に力を尽し、其の興味を起させよ一と云ふ考へである。之れが真相である。

今度長野へ行つた。柏崎から二人曳きを走らせて八時につき、二、三時間走り回つて、同夜十一時に汽車に乗つたのである。三日前に早稲田大学から高田、穂積の二氏がやはり募集に来て居るので、今は時機がよろしくないから、今少し延ばしては、と言ふ人もあつたが、生徒の親達は、それはつまらぬ。先きをこさされてもかまはぬ、私が骨折つて纏めよ一、と言ふ

て居られた。之れを聞くと、恰度、早稲田大学と女子大学とが寄附金募集の競争をして居ると思ふ者もあらう。大坂の時もこちらが遠慮し、岡山も亦先きをこされるよ一であるから、伯爵にも、此度は神戸迄にしてもらひたいと言ふたが、伯爵は、是非、岡山迄行かうと言はれた。これは一寸競争の様である。他の学校ばかりでなく、赤十字社の募集もあつて、衝突して居るよ一に見えるが、そ一ではないのである。

私は、大隈伯爵の御心には常に感心して居る。過去十年間に三十六万円の損害に遇はれ、地面も道具も売り、やつと整理がつかけて居るので、それが済まなければ大坂へ行くことは出来ぬと言はれるから、費用だけ学校から出さうと言ふたが、それは本旨ではないと言はれた。

早稲田大学の経営は誠に困難である。しかし、国の教育をほんといにするには、それだけしなければ、しかたがないのである。自分の為にならばわるいが、女子の教育を進め、女子を改善しよ一と云ふ為に行くなれば、決して恥づべきではないと思ふ。

名譽の為の出金は、当方から謝絶するのである。我々は金がほしくて行くのではないのである。

【大隈伯爵の背景】

大隈伯爵は、初めから此の学校に約束されたのは、三千五百円である。内二千円は今出すが、七月には後の金を出すから、何時でも取りに寄こすよ一に、と言はれたのである。かく都合の悪い時でも行かうと言はれ、出さうと言はることは、伯爵の広量で小人でない所があるのである。且つ、女子教育の為には、外務大臣、総理大臣の時から少しも心を変へず、今日迄一貫して其の態度に出らることは、記念日に言ふ可きことで、覚ゆ可き事である。此の貴い価を、私共は Appreciate しなければならぬ。其の熱心、深く広い心を、私共は見ることがなければならぬ。之れは最近、伯爵の背景を私に画いたのである。此の真相は式当日に言はれぬから、今日言ふたのである。此の外、本校に尽して下さる方々は名譽心、野心を以て居らるのでなく、主義、真理、人道の為、我国婦人を進める為に、国を進めると云ふ動機でなされたことを認めなければならぬ。それで此の度は、多少を言はず広く募集に出よ一と云ふのである。

【長岡の状況】

私は十二時半に長岡の宿屋に行き、各委員に電話で通知して、西洋料理店迄四時に集つてほしいと云ふことを申しましたらば、すぐ集まれたのである。

寄つたものは、長岡銀行の頭取、ほ一でん(寶田)の社長、山田六松、渡邊藤吉、川上佐七郎、(空白)等、七人ばかりよつたのである。相談の上、長岡市中にて百円以上の所、三十四軒ある。それに手紙を書いて印を捺し、私一緒に出よ一と言ふ。併し、之れには多くの時を要し、此の外に郡部に五十人許りあるが、之れにも一週間位は要するので、止むなく委員を定めて後日来ることにしたのである。百万円の財産家に千円出させよ一としたが、ほんといは二百円程しか出さぬ。それで、新潟も長岡も少し標準を高くしてほしいと熟談の結果、なかなかだめである。遂に二百円の所を五百円に漕ぎつ

けたのである。

【新潟の状況】

新潟では、明日十一時からイタリヤ軒にて御相談したいと手紙を出して置いた所、池原とか長谷川等云ふ人九人が、都合して出て来てくれたのである。かく一本の手紙で出て来ると云ふだけの態度が出来て居るので、うれしく思ふた。

爰に金を出さぬ人が一人ある。新潟女学校が危ふくなつた時、骨折つて五百円寄附させた。其の一番の筆頭は三百円で、嘗て三十円しか出したことのない人が三百円出し、他の一人は同じ事で、未曾有で五百円出した。

三條等はあまりよくなかつた。

【柏崎の状況】

柏崎は大に歓迎したが、内藤、牧内、二宮の外、百円出す人は、町内に一人もない。

結果はまづ、わるい方ではないと思ふ。兎に角、日本の富みの少いことを知り、又、地方の状況が能くわかつた。故に、此の度の金が、ど一か日本全体の為に女子大学になつてほしいと思ふ。それには、卒業生皆がつとめなければならぬ。

【新潟の女子教育に対する態度】

昨夏、私共が新潟へ行つて、師範学校で女子高等教育の必要を説きすゝめたのである。それに本年、新潟女学校から一人もこない。これは、此の間新潟の女学校の卒業式に訓諭として主席教諭が言つたことで、他を印象せしめたことである。

夫れは、去年は卒業生の中に、以上の望みを以て東京に出たが、前よりは人が減じて喜んで居たのに、本年は又、一人もないのは大に賀すべき事である。皆が女学校卒業で満足して居らることは、大に喜ぶ可きであると言ふたが、聴者中一人も、之れに反問する人がなかつたと云ふ。実に嘆く可きである。

私と新潟学校を起した人は皆故人となり、只今は其孫や子がして居るのである。併し此等の人は皆、市でも勢力あり有力なる人となつて居るのである。

【憐むべき青年】

私は一人の青年に遇ふた。それで、あなたはどこですかと言へば、中学を出てから後、学問はしませぬと言つた。今日の青年で教育がなく、しかも老翁の努力、豪毅な長所は一つも受けず、飲酒、蓄妾等の悪弊を見習ひ、より以上に行ひ、形のみ紳士然として居るのである。実に悲しむ可き青年である。此の若い人は、もはや家の傾きつゝあるを知らないのである。之れを見て私は、日本の教育、家庭改善はむづかしいと云ふことを感ずると同時に、皆さん責任の非常に重大な事を知つたのである。

【砂漠中に立てる松】

昨日は早くから田舎の方に行きました。途中一里半ばかりは全く草一本なく、木は或る一方に向いて居る。それは風向きの具合であらうと思ふたが、用事の後で聞くと、風の影響である。ど一かして矯めよ一と思つて手をつけて木を植えるが、百本の中三本しかつかないが、それでも毎年植うるとの事である。帰りに気をつけて見ると、木の一方は赤くて、一

方は青である。七年間で漸く二尺位になるのである。其の小松の所には、芋もあり麦も生長し、苔もあるのである。毎年の寒風に堪へる意志の強い者でも、斯う云ふ有様である。此の三本はどーして残ったかと云ふに、九十七本が犠牲になったからである。此の松は、非常に私を刺激した。それは、松すら境遇がなくては育ち得ない。如何な強い松でも一本では立たれないのである。之れを見て、私は昨日の会を思ひ出しました。

つき立つて、風には決して敗けないと云つても、一本ではだめである。一人では、事が出来ないのである。力を合せて共に助け合つて始めて境遇がひらけてくるのである。実に新潟は境遇が悪く、女の価を定めることは、砂漠に木を植えると同じである。

あなた方の少しでも生き残つて結合したならば、大きな林が出来、林が出来れば草も生へ、家も出来、車も通るのである。其の境遇をひらき、女子教育の倉を大きくして行く事は困難ではあるが、不可能ではない。境遇の悪い所に、たゞかる松の操を保たなければならぬと云ふことを感じたのである。

通りかゝる女の人を見て、着飾る人に何処に価があるか。金箔を去れば何の価もない。今日帰つて、こゝを見ると、みな飾つて居ないが、何か価があり輝いて居るよーに思はれ、遇ふ度毎に美に見える。これ即ち修養が積んで居るからである。

新潟の長所も一寸言ふならば、文明的生活をして居ると云ふことである。それは凡て市場を開いて、女が売つて居り、買ふものも亦、女である。此の風は百六十年続いて居ると云ふ。亀田もさうである。信濃川の船頭も客も女であつた。

何事にも勇気が出れば、必ず出来るのである。責任を果たさなければならぬと云ふ決心ですらば、如何なる困難にもかつて、最後の勝利を占めることが出来るのである。十年のことを思ひ、三十年のことを思ふと、微力であるが千人余りの松もあることで、段々林も深くなるよーであり、八回生の仰つた決心を以て進んでほしい。大なる責任を思つて、十分の決心と覚悟とを以て進まれん事を切に望むのであります。

[中表紙]

第十年記念祝賀会の御話
明治四十四年四月二十一日

明治四十四年四月二十一日
創立十年記念祝賀会にて

今日は皆様より熱誠の祝辞を述べられまして、感慨に堪へませぬ。茲に、私は母校を代表して深く感謝の意を表します。

昨日も、多くの方面から御親切なる祝辞を受け、各地の桜楓会員からも祝電があり、又、各自にふさはしきものに祝意

を込めてそれぞれ自分の意を表はされました。卒業生の父兄からも寄附を申し込まれる向きもあり、私は一々これに御礼を申し述べる事は出来ませんでした、深く感謝して居る処であります。

今日も大坂の本山君から若干円の寄附金に添へて書簡がありました。其の一節を読みますと、

(前略) 小生老母の微志に依り少々貴大学へ寄附

過般、多額の寄附をなすつた時にも、此の大学に捧ぐる金は命である。即ち戦士が命掛けて戦をすると同じく、其の覚悟と愛国心とを以て血と汗を流して働いて得た金は、実業家の生命である。故に、其の金を捧ぐるは、心を捧ぐると同じである。どーか私の命を受け取つて貰ひ度いと申されて居ります。本山君が、この書を認められたのも同じ意味であろーと考へられます。即ち、本山君は高尚なる考へを以て母校の精神、即ち我々の奉仕する神に捧げられたるものであります。

又、此の十年の発達に就いて忘れてならぬものは、帝国大学の教授方が最も女子教育に賛成を表され、同情を以て尽されたる事でありませぬ。

斯かる事は欧米に於ては余り珍らしくはないが、我が国に取りては誠に珍らしい事でありませぬ。多くの人は事情を知らなかつたで有りませぬが、女子大学創立当時、有力なる反対論者は実に、帝国大学内にあつたのであるが、夫れ等を排して進んで教授たる事を承諾せられ、今日迄一日の如く導かれましたことに向つて、感謝を忘れてはならないのであります。又、高等師範の教授、同志社より出られた人、早稲田出身の方々にて私の友人、知人、少なくとも信仰、主義に於ての友が困難なる場合にも常に尽されたのは、衷心感謝の念を禁ずる事が出来ないのであります。其の他、教授を初め事務所の人々、通信教育会等に向つて、一々感謝すべきであるが、今日は時がありませんので、凡てに感謝致して置きます。

[各回生に対する過去の追想]

只今又、一回生より十回生迄の決心、希望を話されましたが、私は一々感慨に堪へませぬ。各回生の責任、其の働きは十分に記憶して居るが、一回、二回の尽されし苦心、熱心、其の力の集注点は即ち桜楓会の命を生み出す所にあつたのであります。即ち、生みの苦勞を取り乍ら、玉石混淆の時代に校風を作られた事である。第三回に於ては、自然淘汰、改善も少しく行はれ、母校の一枚風が成立したる時であつて、其の働きに力あつたのは、実に三回生である。

其の精神を受けて、今一つの発展を試み、これを社会に出さんとしたのが、四回生である。我々は之れに望みを属して、如何に四回生を苦しめたか解らない。或る時は、殆んど力なき者の如く思つたこともあつたが、夫れは、親が無経験であつた為に厳格に失したのであります。併し、子供は力の限り努力してバザーを催し、当時、文芸を発達させたのであつた。其の後に立つて、之れに鑑みて進まんとしたのが、第五回生であつた。稍々勝利を得たとの自覚も出来たのであつたが、思ふ様には出来なかつたのである。

第六回生は其の後に繼いで、大学拡張を明らかにし、校外教育に貢献されたのであります。其の熱心と桜楓会員の熱心

とによって、四千の会員を有する通信教育会は開始されたのであります。

第七回、第八回生は、最も反動の寒気烈しき時代に外と戦ひ、内を守るに力を尽されたのである。校運を持續し、校風に何かを加ふる為めに戦闘されたのが、七回生でありました。

九回生は其の人数、遂に八十七名に減じましたが、これは大なる犠牲に依りて八十七本の木が助けられたので、其の勇氣と操は、四十七士にも劣らぬ女子教育に頼もしき態度で尽された勇士である。

然るに、其の反動時代も過ぎ、茲に十年を迎ふる時を得ましたにつけても、私共は過去を想起し、十年間の働きの実を捧げて感謝の祭りをなし、過去の美点を生かして将来に発展せんが為、数時間に十年間の出来事を茲に相互に述べましたのは、決して無益ではありません。然し此の際、私共が最も感じ、最も深く思はなければならぬのは前途であります。又私共は、此の記念式に於て記念し感謝するは、十年間に於ける光明なる方面であります。同時に又、反省を要するのは暗黒面、即ち欠点、過失、罪悪である。殊に私は傷の多い人間でありますから、其の傷を省みる事が必要であります。

我々が真に戦ふならば、必ず危険を冒さなければならぬ。敵弾に当たるを恐れて居ては、成功する事は不可能であります。我々には、拡張し過ぎたる事、其の他省みれば、沢山不足の所、色々の欠点を有して居ります。然し、此の傷は研究の為、高尚なる目的に向ふ発展の為に受けたる負傷である。即ち、階段として止むを得ないのであります。故に私共は今日、之等を悔い改め、人の誤りを許し、新らしき傷を予防し、試みて度々頭を打ち、斃れては又起ち、痛みに堪へて其の目的に達せんことを期し、過去の光明、過失は不必要ならば此の場を限り捨て、心を合せて一意、主義の貫徹を計らねばなりません。

[後を振り向かず、一意目的に向かつて突進せよ]

我々は不熟練ではあるが、自分の及ばん限り、力のある限り、命の限り、日に進みて後を向かないのは、神の命令であります。神は決して後を向く事を許しません。若し命令に叛きて後を向くならば、我々は直ちに転ぶでありませう。今日、我々が耳を澄ませば、足を止めるな、後を向かず一所に進め、と言ふ神の声のみ聞こえて居ります。昔、この命令に叛きて後を振り向きたる婦人は、遂に塩となつたと云ふ話があります。即ち、生命を失ふに至るのである。即ち今日は、過去を改めて将来の計を立つるの日であります。

十年の過去は激戦でありました。敵弾に斃れたる戦死者も多くありました。併し、此の後は一層激戦であることを覚悟し、之れに敗れしものは一身を滅ぼし、責任を果す事は出来ません。故に、皆様は此の式に於て充分なる感謝をなすと共に、將に進まんとする覚悟を充分になされん事を希望致します。

[中表紙]

大学部二、三年の御話
明治四十四年四月二十六日

明治四十四年四月二十六日
大学部二、三学年にて

愈々今日を以て、本校の第十一学年、即ち母校の第二小世紀の業を開始すると云ふ日となりました。夫れで先づ今日は、第二発展の仕事始めをすると云ふよ一な訳であると思ふ。其期におきまして、今年の最も重い責任を担ふ第九回生、之れを助けておいでになる第十回生及び第十一回生が、斯く健全なる態度を以て此の大切な時機を始めて行くと云ふことは、誠に喜ばしいことであると思ふのであります。其の丁度事を始めて行かんければならぬ、即ち事の始めと事の終りは最も大切なものでありますから、此の学年の始めに最もよく今年の仕事を始めておくことは、前途の為に誠に大切なことと思ひます。其の大事な時期におきまして私が又、旅をしなければならぬことになりました。夫れで私は、あなた方と共にいろいろ御相談を致して着手したいと思ふことが有りますが、又一方には、第二発展の始めにおきまして、外部に活動しなければならぬことになりました。故に、私は近々留守になりますので、多分此の次ぎの水曜日から三度許りの水曜日を、あなた方の自動によつてなさることをきめておかねばならぬ。此の大事な時に私が席を欠きますことは残念なよ一にも感じますが、併し一方から考へれば、第二の時機に於て最も大切なことは、あなた方が自動の態度にならねばならぬと云ふことで、十年間いろいろ経験して参りまして、愈々校風が充実して、無論、指導者の力を借りますが、其の初めに於て実をあげることが出来たならば、今後の発展は大に見るべきものがあろ一と思ふ。

[今後十年の計画]

丁度学年の始めでありますから、第一に此の学年の時間はど一云ふ様に用いて行くか、つまり、今年の仕事をして行くに、なくてはならぬ時間は充分にあるか、若し足らぬならば、ど一云ふ風に用ひなければならぬかを始めに當つて時間を計つておくこと、及び、十年の始めにすべき事業の計画等を立てておくことが必要であると思ふ。故に、あなたの Note の初めに曆を作つて、割り当てておいて、着々実をあげてお進みになるよ一にありたいと思ひます。夫れで先づ、事業初めとして割り当てる時間を、四月の数日と五月の一ヶ月をあててお置きになることを申しておきます。そして、私の留守の三週間、即ち五月三日、十日、十七日の水曜日、今日から云へばざつと四週間に、大きく云へば第二小世紀の事業の計画が立たねばならぬと考へる。私は、其の三週間に皆さんがお調べなさつたことを、五月の第一、第二、第三水曜日の三度に発表なさる様な仕事をしたいと思ふ。

[計画第一]

第一は、第九回生の責任を明らかにしておくと思ふこと。即ち第九回生が、第十一学年に於て必ず仕遂げなければなら

ぬ事業は何であるかと云ふことを確定しておかねばならぬ。之れは、あなた方の研究判断にお任せしておきますが、少し御参考になる一かと思ふことを申すならば、第九回生は此の第二発展の土台を築き上げねばならぬ。此の大事業の起りを成就しなければならぬ。之れは第一に、第八回生のあとをおつぎにならんければならぬ。即ち、第十年の仕事をお継ぎにならんければならぬ。即ち、第十年の仕事をおつぎになつて第二期の仕事に移るよになさらんければなりませんので、其内容は過日十年の最後、即ち二十一日の記念会に於て充分其の決心が表れ、其の希望が明らかになつたのでありますから、略ぼあなた方に案が出来て居るかと思へます。故に私から説き明かしをする必要はないと思ひますが、併し斯う云ふ時にあなた方がしよと思ふことの材料は出来るだけ広く集めねばならぬ。其材料は此の学校で出来て居る印刷物にも表れて居りますが、最近の十年記念に出しました女子大学の過去、現在及び将来、斯う云ふものはよくお調べになることが必要であります。其計画を立て、発表なさるのに、五月の三日をお使ひになつたらよいでせう。

[十年記念式は我が国女子教育の三十年式]

夫れから私共は、此の学校の歴史をわけて十年づつに致しまして、其の第一の十年記念式を此の間舉行したのであります。併し、我が国の女子教育の起りから云ふと、三十年式と言ふことが出来ると思ふ。此の学校が興りますのには、其の前に二十年位の間、此の学校の主義、方針を行ふて見たのである。併し、私共が望んだ程の校風も充実し、思ふ程の実を結ぶことが出来たかと云ふと、未だそ一ではない。半ば達したが、半ばは未だ達しないのである。其原因には種々ある。

[十年間に校風の更らに充実せざりし原因]

元来教育と云ふものは、只、教育者と被教育者だけで出来るものではない。其の他に学校以外の複雑なる関係がある。其の学校以外の関係、境遇と云ふものが甚だ宜しくない。其の中で育てよとした、いろいろの困難がありました。そ一して、何故出来ないかと云ふ原因に就いては私自身にはわかつて居るけれども、あなた方には充分看破なさることがむづかしいであらう。けれども略ぼ察することは出来るであらう。其のも一つ教育を有効にすることが出来なかつた、も一つ私共の立てた主義、方針を実現することの出来なかつたと云ふことの訳は、過去十年間は創業の際であつたと云ふことと、分量の上に於て余り急激に進み過ぎたと云ふこともあつた。此の教育と云ふものは機械的には出来ないので、順序と時をかけませんと思ふ様には出来ないのです。併し、過去十年間に必要上余り急激に大きくなりすぎて、適当な教育をすることが出来なかつたと云ふこともある。併し、今日は幸か不幸か女子教育の反動時代に遭遇して、幾らか少数になつて居る。是れが、自動的の教育を施すに便利だと云ふこともある。又、あなた方は十年の後を受けて居るから、精選せられた善い種であると云ふことも言はれる。故に、その善い種をよく育てたならば、今度こそは、私共の望んで居つた所の結果を得ることは必ずしも出来がたいことではあるまいと云ふことが、第十一学年の始めには本校の主義、方針を明らかにし、其の

主義、方針の応用を確実にし、出来るだけよい結果をあげたいと云ふことは、此の学年の始めに於て最も切なる要求である。

[教育の目的を達するに最も適切なる材料]

然らば、其の適切な教育の目的に達する最も適切なる教育法は、如何なるものであるかと云ふことを定めておく必要があるのです。其の問題を研究なさるに是非必要な材料であると思ふて集めましたことが、Life の四号に有ります。故に、此の中から材料をおとりになつて、其の問題をおきめなさることを希望致します。

(7) Unfoldment of Genius
(天賦性の発揚)

(27) The Philosophy of Expression
(発表の哲学)

(31-35) Phonetics and the Vocal Organs
(声音と発声器)

(36) The Adolescent in Modern Society
(近世社会に於ける青年)

(40) Growth of Individuality Through Social Organization
(社会的關係に於ける個性の發展)

(46) Necessary Qualities of the Educator
(教育者に必要な品性)

(53) The Meaning of Education
(教育の意義)

(54) Dangers of Modern Education
(近世教育の危険)

(63) How to Think
(如何に思考すべきか)

(71) How to Learn Languages
(如何に語学を研究すべきか)

之れは直ぐ様、私共が此の学校の中で採用して行く所の教育の方法である。之れを五月十日に発表なさる様に致したい。[今後の發展を期するには我が国の将来、今日の時代精神を知るべし]

第三の問題は、今後凡そ十年間の四囲の境遇で、今の問題をお読みなさるとわかる。教育の一番の本は、銘々の中に与へられてある所の Genius の種のよ一なものがあるけれども、之れは自分一人で出来るものではない。いろいろ刺激せられたり、反応したりすることによるので、今後の十年間の發展は、社会的遺伝、国民性及び先祖伝来の遺伝と云ふよ一なもの、あなた方の力になる。併し、夫れだけではいかぬ。万有によつて受くる所の感化によるのである。

故に、今後の發展を期するには、我が国の将来及び今日の時代の精神がわからねばならぬ。又、どのよ一な發展をしよう一と試みて居るかと思ふことがわからねばならぬ。

[我が国の宗教界の傾向]

之れは六ヶ敷いことではありますが、第一は宗教。つまり、我が国今日の宗教界の傾向はど一なつて居るか。又、今日我が国の精神界、之れはあなた方と共に研究して参りましたから、臆気ながらおわかりになつて居ると思ふ。夫れを研究して、今日我が国に動きつゝある思想はど一云ふものか、其の

程度はど一云ふものであるかと云ふことをお考へになる様に致したい。

そこで、先づこの頃の事実から推して見るならば、我が国の文明と云ふものが、過去半世紀間に世界の刺激によつて覺醒致しました。文明が是れ迄一番東洋に欠けて居つた。物質的文明、機械的の活動と云ふだけでは、到底いけない。只、是れだけで行きよつたら危い。ど一しても国の活動は魂である。魂の命である。故に魂のない活動はいけないと云ふことは、殆んど誰れも気づいて参りました。其の証拠は、危険思想が発生したり、人情風俗が浮薄に陥り、社会の信用が地に落ちて参りまして、内外共に非常な危険に陥つて居ると云ふことを見まして、只、科学の発達、応用の統御を欠いではならぬと云ふことに気づいたと思ふ。

此の頃、政府の意向と云ふものが、内務大臣、文部大臣の演説に由つてわかる。其の大体は、ど一しても我が国に宗教を起さねばならぬ、夫れには神社、仏閣等を起し、旧式な祭礼等をも興さねばならぬと云ふことの様であります。我が国の教育と云ふものは是れ迄、勉めて宗教を排斥しました。そこで今、為政者のとつて居らるゝ仕方については、私共は異論がないではない。果して旧式な宗教道徳を復興することに由つて、國が維持せられて行きますかど一かと云ふことは、問題である。併し、國は物質的文明のみで栄えて行くものではない。教育にも、ど一しても精神教育を欠くことは出来ない。ど一しても國の魂を養ふて行き、精神的活動を興さねばならぬと云ふことを気づかれた所の兆候であると思ふ。

夫れで、此の過去三十年の間、宗教の必要を説いて、其の伝播に全力を尽したと云ふことは宗教家に限る。併し、クリスト教徒、仏教徒、及び其他の人々が過去三十年間、力を尽して参りましたが、果して國家の必要を充たすことが出来たかと云ふことは、是れ亦問題である。今度は内閣の力を以て、政治の力を以て、神道の如きものを復興して行けばよいと云ふ訓示、演説を以て出来るものであろ一かと云ふと、私は不可能であると答へる。如何となれば、是れ迄そ一云ふ例は、世界各国にないことである。然らば如何にすればよいかと云ふと、容易に答へることは出来ないのである。是れが、即ち私共が教育の本として此の学校の本源としてとり來つた所の方針である。ど一しても私共は宗派によつて行くことは出来ぬ。之れは迷信である。又、昔の儘の仕來りによつて、我が國を維持して行くことは出来ぬ。併し、宗教なくして此の國を維持することは出来ぬ。物質的文明のみを以て、世界と対立して行くことは出来ぬと云ふことは、始めから気づいて居りましたが、誰れも其所に気づいてくれる人はなかつたのです。併し此の頃、有力なる人々が気づいて來たと云ふことは、國家の爲めに喜ぶべき兆候であると思ふ。

[眞の宗教は応用實驗的なるべし]

今後の發展の一要素は確に宗教であると思ふ。其の要素は如何にして發展するものであろ一か。又、其の宗教とは如何なるものであろ一かと云ふことであります。私共は其宗教は只、宗派的ではだめである。只 Creed ではだめである。今日銘々の生活に應用、實驗の出来るものでなければならぬと云

ふ考へである。私共は、其の生きた生活を味はうて行かうと云ふことを過去十年間に勉めて來たのである。本校校風の眞髓、原動力となつて居るのは、實に其の實驗であると信じて、其の發現に力を注いだのである。然るに、其の命の成長すると云ふことは非常に困難であつて、過去十年間に屢々發達の萌しが現はれては後戻りをしたにも拘らず、十年の終りに於て、校風の土台となる生命が存在して居る、發展しかけて居ると云ふことが少しく認められたかと思ふ。

[第九、十回生の考ふべきこと]

夫れで第九回、十回生は、我が國の宗教界がど一向つて居るか、又、銘々の信じて居ることが如何に働きつゝあるか、広くは世界の大勢と云ふものがど一進みつゝ有つて、今後十年間には如何に發展するものであろ一かと云ふことをお考へにならねばならぬ。

第二には、現今の宗教界の傾向及び十年間の變化と云ふものを考へねばならぬ。之れは一言で言へば、今日は反動時代であつて、守旧的傾向に傾いて居ると申さんければならぬかと思ふ。夫れで此の前の二十二日でありましたか、或る県の知事が二人ばかり此の學校を參觀に來られて、女子教育に就いてはど一云ふ考へを持つて居られるかと云ふことを聞いて、私は驚かざるを得なかつた。又、新潟県立高等女學校の教頭の演説はど一云ふものであるか、又、關西地方に於ける教育家の態度はど一なつて居るか、父兄が子供の教育をする考へはど一云ふ様になつて居るかと云ふことを考へるならば、今日の傾きを知ることは難くはない。併し、世界各国の勢から考へると、十年後の我が國の女子教育はど一なつて行くかと云ふことの凡そを知らねばならぬ。そ一云ふことについて、出来るだけの材料を集めて判断をしたならば、ど一も今日の傾きは保守的である。機械的である。物質的に傾きつゝあると云ふことが言へる。併し又一方には、實に感ずべきものがある。此の間の記念式に、此の堂に列した人が一種言ふべからざる感にうたれたと云ふことであります。

[高等教育に対する賛成者]

又、此の高等教育に就いては、中々反対者がある様である。けれども亦一方には、中々熱心な賛成者がある。之れは今迄なかつた現象であると云ふことが言へるのであります。一例を言へば、此の第二發展の劈頭に於て、此の學校の關係者は如何なる態度を表して居らるゝかと云ふと、今後私共が行かうと思つて居る關西の巡回には、先づ我が國では政治界、實業界に最も有力なる方々が、自分の本職でない方面に態々出かけよ一と云ふことである。大隈伯、澁澤男、森村氏と云ふ様な方々が丁度昨年夏、北越に出かけた様に、非常に忙しい時をさいて、恰も宗教家が伝道する様に女子教育を天下に訴へよ一と云ふ様なことは、是れ迄余り我が國に於ては例のないことであります。兎も角も、そ一云ふ兩方面を考へて見るならば、今後の趨勢が凡そわかるであろ一。のみならず、外國との關係が是れ迄にない非常な速力を以て、我が國がど一しても此の儘眠つて居てはならぬと云ふことを予想しなければならぬ。

[詞と文字の変化]

第四には、詞と文字との変化と云ふことを考へておかねばならぬ。世界と共に学問及び文字の競争をして、後れをとらぬ様にせんければならぬと云ふ必要は刻々迫つて居るのである。故に、其の競争に負けぬ様にするには、詞の難である所の最も便利なる文字と言語とを使用しなければならぬ。是れは余り大事な事と気づかぬ人があるけれども、非常に大切なことである。今後の力は、只国民の人口ではなくて、品質である。其の品質と云ふのは、頭の働きを敏活に複雑に発達させなければならぬ。夫れに最も与つて力あるものは言語であり、又、言語の機械である所の文字である。之れは知力の競争場裏に立つて是非とも何とかしなければならぬと云ふ時になつて居る。夫れは種々なわけから、文字は Roma 字と云ふ機械になり、言語は段々にも一つ便利なものとなり、其の足らぬ所を補ふに外国語を加へねばならぬであらう。此の間、あなた方のお出しなさつた表を見ると、も一我が国の詞となつて居る外国語が沢山ある。特に商売語には、英語を知らぬ人が沢山英語を使つて居るのである。そ一云ふ文字の上に今後十年、二十年のうちには、いろいろ変化が起つて来ると云ふことを考へねばならぬ。斯う云ふことは、つまりあなた方の今後十年の教育をお受けなさる方針を立つる上に、必要なる材料となるのであります。ど一しても外国語を学ぶことが必要であるとわかれば、やはり今日から本気に学ばねばならぬのである。ほんといに気がつくならば、自分の頭を開くに最も必要なる学問をしなければならぬと云ふ様なことを充分お考へになつて、今後の方針をお立てになることが大切である。時間が参りましたから、悉く申す暇がありませんが、今日私の申さうと思つて居りました箇条をあぐるならば、

第五 経済界の変化、婦人の職業

第六 大学拡張と今後の四囲の境遇との関係

第七 婦人の協同事業

現時の境遇及び今後十年間の変遷と云ふことを、凡そ予想しておかねばならぬ。其の材料として、Life の第三号を發行致しました。三号は充分研究なさつたけれども、未だなさらぬ所もある。今、私が申したことの材料が所々にありますから、よく調べて、十七日に発表なさるよ一に致したい。この三週間に、今迄申したことを全校に発表して、此の学年の仕事始めにかへたいと思ふ。私はあなた方が初陣の戦功としてどれだけの結果を収めることがお出来なさるかと云ふことを考へて居るのであります。

[中表紙]

大学部一年の御話
明治四十四年四月二十八日

明治四十四年四月二十八日
一年生に

先達てお出しになつたお答へによつて、あなた方のお育ちになつた家庭や校風が明らかにわかりまして、殊に其の学校の風が質素、健実であること、又、校長先生、朋友等の人格の感化をお受けになつて居ると云ふ報告が見え、前後の書き方により、其の健康状態であることなどがわかり、大体は善い方が余計に表はれ、私は満足して居るのであります。然るに皆さんの性質の所に、意志が薄弱であると云ふよ一に御答へになつた方が大分見当りました。この学校に入学の動機、又成就するに就いての決心につきては大分感心する所があり、略ぼ了解りました。併し、意志が未だ充分でないといふは如何なることか。内容がわかり兼ねる所もある。これは謙遜でなく、銘々の思ひのまゝをおかきになつたものと思ふ。

[意志の教育]

皆さんに第一に出来なければならぬことは、意志である。今日から学問を始め、修養をお始めになり、これを成就するに至り満足を得るよ一になるには、先づ意志が働かんければならぬのである。今日、意志の教育に就いて考へることは大切である。今年夏休み迄に時を設けて、直接皆さんに面会致して伺ひませう。今日は、一般がど一であるか、先づ意志の教育に就き如何にすべきか、皆さんが今日学ぶにつき如何なる態度が必要かを調べなければならぬ。

[身体、精神]

この意志の力がどれだけ出来て居るかといふことを見るには二つの方面がある。

(一) 健康の状態 これは最もわかりやすく

(二) 精神の方面 である。

先づ始めに、我々が自分の体を支配することが出来る。身体の欲望、矛盾、衝突を統一することが出来なければならぬ。又、境遇の圧迫にも抵抗することが出来なければならぬ。誰れの体にも、何かの欠点、不平均な処が生じ易い。これを支配することが出来、健康が維持し得る人は、意志の練れた人といふことが出来る。健康状態は、勉強其他の働きに堪へ得る力が如何に発達して居るかを調べて始めてわかるのであります。勿論、健康にも程度があるが、今私が申した様に、体を支配することは随分骨が折れる。極つまらぬ煙草や酒を飲むことをこらへられず、健康を損し病氣となり、貧乏となる者もある。医者から忠告を受け、自分も悪いとは知りながら、なかなかなほすことが出来ぬ。

[言行一致]

夫れで、言ふことは易いが、実行することは六ヶ敷い。併し、其の六ヶ敷いことに勝つても体の弱い人がある。併し、意志を以て克ち、健康を持ち得るに至つた人もある。永久に生きる人は、意志の強い人である。意志の弱い人は、根底の

無い人間である。意志が強いと言ふても、程度である。先づ毎日のことに希望を持って出来る人は、意志の土台が出来た人である。それで、あなた方とこの学年の業を始めますに当り、最初に御注意して置かねばならぬことは、矢張り其の点である。又、根本として着手すべき所は、意志の教育をしなければならぬと云ふことである。併し、あなた方自身がこの点に注意せらるゝに至つたことは、大学生の態度が成立せんとして居ると言へると思ふ。夫れで先づ初めに、も少し意志の教育が大切であると云ふ、其の内容を自らおさとりになる様にして置きたい。

[本校は品性の教育に重きをおく]

夫れで、この学校では品性の教育と云ふことを重んじて居ります。此の最も骨子になるものは、意志の教育と云ふことである。然るに、世間では其の真意を解しないで、この教育は意志教育に偏るではないか、又、余り強過ぎるではないかと云ふことを言ふ。女子は一体感情的なものであるから、感情教育をもつとしなければならぬと言ふ人が多い。勿論、感情は人間の力の本源である。意志の真髓も感情であると言へる。夫れから今日、婦人の意志が薄弱である。婦人の感情が断片的である。従つて病的である。夫れに陥るのは明がたらぬのである。光りが無いからである。即ち知識が無いからである。夫れで、教育の最も骨髄は知識である。頭脳をも一つ養はんければいかぬと考へるのである。

[教育の骨子は意志にあり]

勿論、道理がある。併し今日、教育学、心理学、宗教の方面から参りましても、骨子となつて居るものは、矢張り意志であると云ふことになつて居る。併し、本校が是れに偏すると云ふのではない。教育の起りは意志である。今後の進歩の原動力は意志である。教育の最も大切なることは、この意志の教育であります。然るに、今日我が国の教育界及び今日の青年の呼吸して居る空気が意志教育を弱くし、妨害する傾向があると云ふことは、実に憂ふべき点であると考へる。今日の空気は、女子の意志を殺害するのである。

[向上心]

意志教育に必要なは、目的を追求する向上心である。これは客観的に見た方面である。も一つは動機、即ち其の内から動く所の力、即ち熱心と云ふ、進まうと云ふ、よくならうと云ふ其熱心を消す様な、其の銘々の心の中に起る興味を消さうとする様な教育の仕方であることが、漸々実証されて来て居る。あなた方の中には之れに勝つて来た人もありませう。又、半信半疑で来た方もある一。兎に角、今日の空気が動機をくじく様な暗示を与へることは事実であります。

意志を育てることが出来ぬと、自覚が出来ぬのである。根本の力を養ふに妨害物あるから、警戒をするのである。其証拠となるべき事実は沢山ありますが、申す時がありません。

そ一云ふ教育が今日行はれて居ります。我が国婦人は此の様な教育を受けてど一なつて居るか。あなた方は我が国の最も進んだ教育を受けた人、最も意志の発達した撰に這入つた一人である。併し夫れにも拘らず、この学校に這入つて意志の弱いことを感じなさるのである。其他一般の女子は意志が

弱いことは事実であらう一。是れは何であられるか。近来、我が国女子の特色は柔弱である。柔和と弱いと云ふことが混同されて居る。女子教育は弱くする方がよいと云ふ様に見える。可愛想なのがよい。女は子供の様に扱ふのがよいとして居る。女子はそこで依頼心を起す。これがよいとなつて居るのである。又、人形の様に玩具の様になつたのがよいかの如く思ひ、女自身も夫れを思ひ、可愛がられ、遊び相手になるのが女子の徳であると云ふ様に思はれて居るから、ますます弱くなるのである。

併し、実際の生活はこの様なものではない。嫁にいつて、始めは之れでよいかも知れぬが、後には用に立たぬとて虐待され、かくてヒステリーになる。かくて婦人は薄弱で意志なく、体も弱い。子供が出来ても、母の死ぬのが多い。かくて継母が多く出来る。これ、妻の体が弱いから来るのである。死ななければ半病人になる。かくて一家おもしろからず。国民を弱くし、社会の秩序を乱し、国家を危くするのである。

世間の親達が娘の幸福を思ふ丈けでも、本当の教育をしなければならぬ。ことに子孫、国家など云ふことを考へたならば、ど一しても本当の教育をしなければならぬ。今年全国で高等女学校を卒業した人が四万五千人の中、先づ諸子は、志を立て、根本の教育を受けなければならぬと云ふことに心づいた方である。そして、未だ意志が弱いと心づいた方である。これは誠によいことで、この根本が出来ないと何も出来ぬ。

[先づ抵抗力を養ふべし]

先づ、皆さんは物にこわされぬ、抗抵に堪へる、永久に堪へることの出来る根を作らなければならぬ。然るに、今日は枝葉の方を重にして、教育の土台を築くことを怠つて居る。皆さんには種々の困難に堪へ得る力、種々なる迫害に抗する力が先づ出来なければならぬ。本当に幸福なる生涯の土台を作るには、意志が、即ち根本が出来なければならぬと云ふことが今日おわかりになることが大切であります。

夫れで先づ始めに御注意せなければならぬことは、健康を維持しなければならぬことと、四囲の境遇に対し注意しなければならぬことにつき、お話したのである。健康を維持するにつき、其の病源は微菌と云ふ敵である。之れに抗する力を要するのである。是れから殊に気をつけねばならぬことは、空気もさうであるが、飲食物は殊に注意しなければならぬ。併し、夫れよりも一層大切なことがある。微菌を防ぐことも大切だが、ど一しても微菌を少しも近づけないわけには行かぬ。微菌を少し許り飲んで何ともない抵抗力を養つて置かなければならぬ。之れがどれだけ皆さんの幸福を増す本となるかわからず、皆さんもこの様な時候に堪へて来られたから、比較的丈夫な方である。之れからは、世界と競争しなければならぬ。他國に負けぬ様に進まなければならぬ。非常に時を制限し、頭を働かし集注しなければならぬ。其の戦ひに勝ち得る力を養はんければならぬ。内外から攻められる敵と戦ふことの出来る人とならねばならぬ。之れが出来ないでは国民の母となることが出来ぬ。かく防御することと、抵抗力を養ふことが大切である。抵抗力とは意志力なり。之れが出来ると、病気がなくなるのである。女と雖も危険なことに当らね

ばならぬのであります。

[態度の確立]

其れよりも必要なことは、皆さんの態度が確立することである。精神的方面に於ての意志が確立すること、向上して止まぬ熱心、即ち銘々の内から発する態度が初めに出来なければならぬ。其れをも一つ深くおわかりになるよーにしたいと思ひますが、時が参りましたから、唯皆さんの目標となる一つの言葉を差し上げておきます。夫れは陶淵明の詩の一句、冬嶺秀孤松であります。英語で言ふならば、

Your attitude must be as far and magnificent as yon mountain peak. あなたの態度は、しっかりした山の如き、岩の如きであり、

Your virtue must be as noble and enduring as a pine on its peak. 其徳は、恰もあの峠の岩の上の松の、変らぬ高尚で抗抵力のある忍耐力のあるものでなければならぬ。

私は幼少の時、泉山と云ふ山で遊んだのであります。岩山から大きな松が生へ出て居た。この山の如き態度、又松の如き変らぬ立派な松の操を欲するのであります。斯くあつて始めて今後の我が国女子の境遇を開いて行くことが出来るのである。我が国の婦人は、どーしても冬嶺秀孤松と云ふ如き態度でなければならぬと思ひます。之れを目標として、いつでも此所で養ふた態度を永久にくづさぬよーに。態度は山の如く、操は松の如くあると云ふ如き人となつて下さることを希望するのであります。之れが、あなたの土台になるのです。永久の学校の価値を失はぬ様にするには、之れを養はねばならぬ。斯く其の教育を、其の修養を、今日からお始めになることを願ふのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年五月三日

明治四十四年五月三日
大学部本年度計画発表会にて

会の前に只一言皆さんに御答へをして、立つ前に是非すまして置きたいことがあるから、只今少し話したいと思ふのである。それは主として本年入学なさつた方々に答へるのであるが、猶全体の為にもなるから申すのである。

古い方はよくわかつて居るかも知れぬが、又御聞きになつて、一年の方に詳しくわかるよーに教へてもらふことが必要である。それは、此の学校の出来る前から批難されたり、かれこれ言はれたことでありますが、入学した上は、それをよく聞いてわかつて置くことが大切で、又、教育上最も必要である。

それはいろいろの質問がありました。過日、横二年から代表者を以て御尋ねになつたことで、福来先生、高島先生など心理学、或は児童研究の先生をおやめになつたことは如何

なる理由か、願はくば此等の教授を入れてもらひ度いと云ふことであつて、其の時私はそれについて話しましたから、代表者の方は能くわかつたのである。

次には、新入生の問ひの中に、此の学期から文科の募集をなさらぬのはどー云ふのかと云ふ質問もありました。

次には、此の学校は營業の爲に開いて居るのであると地方では言つて居る。然るに入学して見ると、やはり他の学校よりは月謝も高く、其の外に別科授業料とか実習兼修と云つて多くの費用を課せられるので、世評の様に營業にして居らるのかと疑つて居たが、寮監に聞いて今日ではわかつたが、初め少しは疑つたと云ふ打ち開いての話である。此の外にも斯様な考へを持つて居る人がないとも限らないから、一言答へよーと思ふのである。

次には答案からでもなく、又生徒から聞いたのもなく、地方から聞いたのである。それは、通信教育会から講義録を出し、昨年亦英文雑誌を出した。それで、校長は金儲けをして居ると云ふ評がある。夫れ等に就いて説き明して置きたいと思ふのであるが、時も足りないから極めて簡単に申しますから、後によく上級生なり先生等からお聞きになつて、よくわかつてもらひ度い。

成る程、学校を營業的に設立して居る人がないではない。あるのである。多くの中には、私立学校を興して自らをこやし、金をつくつた人を見ないではない。学校が倒れても設立者は多くの財を持つて居ると云ふ人もないではない。又、高等女学校などでは月謝で学校を維持するばかりでなく、貯蓄をして居る所のあるのも事実らしい。しかしながら、高等教育を施す学校にして、十分の設備と教授を選択して十分に教育の目的を遂げよーとするには、月謝ばかりで到底出来るものではない。之れは我国ばかりでなく、外国に於ても其の例を聞かないのである。

此の学校の財産は地価にして百万円位を有して居る。其の百万円位の財産は誰れの所有かと云ふに、之れは財団法人になつて居るのである。此の事は此の間の報告書にあるから、一度読んで御覧になればわかるのである。それ故、教育の目的外に一文たりとも使用するものはないのである。も一つ、此の学校は教育の爲に金を寄せたと云ふことから、此の経営者は誠に金を愛するものである。寧ろ教育家たるよりは金をつくる Business をする方が適當であると迄、批難するものがあるのである。其の手段として人の前に額づけよーが何せられよーが、金を得さへすればよいのである。只金を出す人の勢権によつて主張を遂げることが出来ないのであると言つたが、私は黙して答へないのである。

此の間の記念式にお出になつた方は御存じでしよーが、神の前に捧げものでもするよーにして、洗濯さんや森村さんは感謝して居られるのである。そして、洗濯さんの如きはすべての会社をやめ、只第一銀行と養育院を残した外はみな謝絶されたが、此の学校のみは依然として尽くされ、今なほ力ぞへをして下さるのである。森村さんも亦其の通りである。

此の度も大隈さん、洗濯さん、森村さんの三人を揃へて、大学の爲に出掛けると云ふことはよく出来たと言ふ人も多く

あるのである。利益の為に財産家が力をさいて外に出、私自身が金を作る為に三十年もこんなことをしましよ一か。私は大坂の梅花女学校に居た時は六円を得て居たので、其の後は親から受けたものもみな無くして、三十年間一文も財は出来ぬので、却て借財が弁じ得らるゝかと案ずる程である。若し私が金好きならば、こんなことを致しましよ一か。決して致さないでしよ一。成る程、私は講義録を書き、出版もして居る。原稿料も少しは取って居る。英語の雑誌もしたのである。併し、これは皆の知って居るよ一に、研究の為に卒業生に仕事を分け、報酬を分けてして居るのである。講義録も大学拡張の目的を達する為にして居るので、利はないのである。

凡て自ら書く暇がないから、只立案して、後は皆人にさせて居るのである。英語の雑誌も、ど一か英語力の足しになるよ一に、英文科の眠りを醒ましたいと云ふことから始めたのである。

私が働けば動くだけ金はいるので、利があることは更にないのである。又、利を得よ一とは決して思はないのである。私の動機は決して悪くないのである。然るに世評に上ると云ふのは、誰れかが見誤まつて言ふのであろ一。講義録も学生の参考、卒業生の進歩の為にして居るのである。実は、本年から講義録を参考書として皆に用ふるよ一に勧めたいと思つて居る所に、営業と云ふことを聞いて黙したのであるが、黙して居ても何の利にもならぬから、打ちあけて言はうと云ふことにしたのである。先づ此の動機ですべてをして居ると云ふことを、一言弁解しておくのである。

其の外、月謝の徴収が多くないかと云ふ疑問が起るかと思ふ。之れは、今日の教育と云ふものは非常に費用がかかるのである。実験する為には六十円、百円と云ふ顕微鏡を幾台となく備へなければならぬのである。其の他、化学館の設備もあれだけにするには多くの金を要するのである。此の図書館にしても形だけ出来て居るが、書物が足りないから研究の為にはいけないのである。

福来、高島教授を一時やめたと云ふのも、みな経済上からである。

今日の設備を以て教育を充分にするには、生徒の月謝だけでは足りないのである。或る科の如きは月謝を受ける外に、一人に十円、乃至十五円の補助をして居るのである。しからば、それは人数が少いからだと言はれるかもしれぬが、英文科、文科は多い程ににくいのである。少い所が眞の効果を得らるのである。

高等教育を充分にするには、多くの費用を要するのである。官立のよ一に国庫の金を使用すると云ふことは、私立では出来ない。故に、茲に熱心家あつて同志の人が揃はなければ、大学を興し育てゝ行くことが出来ないのである。以上の答へで、略疑ひは解けたであろ一と思ふ。此の学校の性質を考へて根本を知れば、すべて解決せられることと思ふ。

十年間に多くの此の校風が出来、其の感化力によつて自然に世を導き、根本の力が出るよ一になつたのである。此の学校の精神、命は形式又は金の光りで決して出来るのではない。

此の校風を養ひ行く為に、適当なる機関を充分にする為に、

基本金、月謝が必要なのである。此の後の参考書、教科書は常に新しく成長しなければならぬ。其の為には出版をしなければならぬ。それ等の為に生徒が幾分の責めを負はなければ愛校心が起こらないのである。あなた方が此の責めを負ふのは、国民が納税の義務を有するのと同じである。

教育の為に、校風の真髓を発揮する為に、して居るに外ならぬのである。これが即ち事実である。故に、若しわからなければ聞いて貰ひ度い。

も一一言、一年生に申します。今日、計画の発表の中に信仰の確立と云ふことが出て来ましたが、誰れも人は確信と云ふものがある。又なければならぬ。従来、宗教は教育からのけられてあつたのであるが、実際、人は宗教を去つて十分の満足は得られぬものである。此の事に就いては、内務大臣、文部大臣も説いて居られるが、雑誌の成功には此度、各宗教から意見を出して居るが、何れを見ても人間には宗教の根がなければならぬと言つて居る。

之れが、此の校の初めから精神の土台に宗教の必要を説いた所以である。その事は十年記念日に出した本校の過去、現在及び将来に載せてあるから、よく御覧なさい。

猶よく御考へになつて、此の宗教について皆さんの御考へを纏めて、私が帰る迄に出して下さい。

[中表紙]

大学部二、三年の為に

明治四十四年五月二十五日 *

* 注：本文の日付と一致していない。

明治四十四年五月二十四日

大学部二、三年にて

今日は時がありませんから、只一言だけ終りに申しておいて、他日、も一つ纏めておく必要がありません。過日、私も学監も幹事の塘君も総出で関西へ出かけて、内をからあきにした様な感じがある。之れは外にも其の必要があり、又、教育は内ばかりで出来るものではないと云ふことは前にも申してある。故に必要な上、進撃的にいつたのである。我々も随分睡眠不足をしたのであるが、其の割合にはお年寄達が元氣であつた。併し、ど一やらこ一やら私共の出かけて行つた目的は半ば達した様である。我々は出来るだけ外で働いて見たのでありますが、始終気にかゝるのは内の事である。故に、私が戻ると直ぐ聞いたのは内のことで、ど一云ふ風であるかと云ふことを聞きましたが、皆さんは熱心出来るだけのことをなされたと云ふことである。又、今日ど一云ふ報告が出来るかと云ふことについては懸念して居りましたが、丁度各部に適当な問題をおとりになつて、其の間に自ら連絡もあつて、時間は不足であつたけれども出来るだけ研究をなさつて、大分大学生活が出来る様になりかけて来たと感じること出来るのは、誠に喜ばしい事と考へるのであります。大体につ

いては私も、あなた方の御報告なされたことに御同意することが出来る。又、今度報告するに必要な材料をお總めになされた故に、あなた方の為めにも自分で骨を折つたと云ふことは確に損にはならぬ。あなた方の為めにも確かになつたのであると考へるのです。夫れで、あなた方自身の為めにも、亦学校全体の為めにも、我々の留守の間、あなた方が共同して夫れだけのことをなされたと云ふことは誠に喜ばしいことである。併し、私が此の間出した問題について、も一つ考へて、も一つ大きい纏めをつけることが必要であると思ふが、之れは他日、よい折を見て申すことに致しましよ。

[中表紙]

地久節祝賀式の御話
明治四十四年五月二十八日

明治四十四年五月二十八日
地久節祝賀式の御話

今日は 国母陛下の第六十二回の御誕生日を御祝ひする為に此に集まりまして、各組を代表してお喜びを申し上げましたのであります。

幼稚園の子どもも小学校の子どもも、 皇后陛下、即ち我が国のお母さんのお誕生の日であると云ふことを皆さんが知つておいでになるであらう。今日は日本の総ての小供も大人も、殊に我が国の女の子ども、或は全国の総ての女学校の生徒は殊に 陛下の御徳を慕ひ奉り、又、御健康を祈つて居るのでありますが、 皇后陛下は我が国の女の子供、即ち御自身の多くの娘の事をお覚えになつて居る。即ち我が国の女子の教育が進歩、発達する様にお考へになつていらつしやることと思ひます。ど一でありましよ一か。殊に此の東京にある日本女子大学校及び其の中にある豊明小学校、豊明幼稚園の子どもがど一云ふ風に学んで、ど一云ふ風に進んで居るかと思ふことを御承知でありましよ一か。如何でしよ一か。

・御承知であります。

いつぞや内親王様が此の学校へおいでになつたことがある。皇后陛下は未だおいでになつたことはないけれども、おいでになると云ふ御沙汰があつて、私共はお待ち申して居つたこともありますが、御都合でおよしになつたのです。

之れから先き、おいでになることがあるかも知れない。此の間十年間に、此の学校の事を委しく書きあらはした本が出来ました。あゝ云ふものは何時も差し上げますから、御読みにするのであります。

夫れから、前宮内大臣 故岩倉公爵は本校の評議員でありました。此の岩倉公爵や、皇后宮大夫と云つて始終 陛下の御用を勤めて居らるゝ香川伯爵あたりから、 陛下は此の学校の事をお聞きになるのであります。

今から九年前、女子大学と云ふよ一な高い学校は余り入らないと世間では言つて居つた頃、 皇后陛下は此の学校の事

をお聞きになつて、時の宮内大臣に命じて、其の時に必要なものを贈り、其の思召を書いてお贈りになつたことがあります。夫れで 皇后陛下は今から九年前に此の学校の事をお聞きになつて、下さり物があつたのです。夫れは 皇后陛下の御手許金から二千円を賜はりました。此の事は非常に此の学校の生徒を励まし、又、日本の総ての女子教育と云ふものを非常に御奨励になつたのであります。此の事は私共が此の御誕辰をお祝ひ申すに當つて、深く 陛下の御思召を悟りまして、 陛下の御思召に叶ふ様な人になつて、御国の為に尽さなければなりません。

[今後の教育]

昔は、教育は学校で出来るものである、訓練は教場内に於て成さるゝものであると考へて居りましたが、今日は学校と云ふもの、又は教場の課業と云ふものは只其の教育の補助機関に過ぎぬものである。人間の総ての生活の間に人間は育てらるゝ、教育は出来るのである。故に、若し教室以外の生活が適当に導かれなければ、学校で如何に骨を折つても其の目的を完うすることは出来ないと云ふことは、最早、世の定論となりました。文部省でも此の度、文芸委員会を設けられ、又、通俗教育調査会を組織せられましたのは、大に此に着眼せられたものと思ひます。又、昨日の様な記念日には海軍の軍人も学校に出かけて、国家に關係ある大事実を学生の頭に入れると云ふよ一な事も行はれる様になつたのである。

[真の教育は家庭、社会と学校との連絡にあり]

此の学校と家庭、学校と社会との連絡を充分につけなければ、ほんとの教育は出来ないと云ふことは、本校が創立の当初から大に主張して居る所でありました。

近来におきまして、益々其の必要を感じ、急務と思ひまして、独り此の校内の教育、校風の充実、教育機関の完備と云ふことのみならず、社会の教育、家庭の教育、輿論の喚起と云ふことも誠に大切であると考へますので、二、三年前から大学拡張と云ふ目的を以て通信教育、通俗講義と云ふ様な事を始めました。

[関西地方旅行の概略]

夫れのみならず、皆さん御承知の通り、昨年の夏は北越、信州地方に巡回し、今年は又、大隈伯爵、森村さん、渋澤男爵、こ一云ふ有力な方と御一緒に関西地方を旅行致しました。伯爵が言はるゝのに、我々三人は二百十九歳であると。それは伯爵が七十四歳、森村さんが七十三歳、渋澤男爵が七十二歳と云ふ御高齢であるからです。昨年の様に洪水の危険を冒すと云ふことはなかつたけれども、今年も随分戦ふ可き困難はありました。併し、皆さんの非常なる御熱心によりまして、私共が久しく望んで居た処の地位に我が国の女子教育を引き上げたとは言はれますまいが、先づ輿論だけは喚起することが出来ました。昨年も其の御一行をお迎へ致して、歓迎の意を表し、且ついろいろ御旅行中の実験談を伺ひましたが、今年も丁度此の地久節に當りまして、お疲れの時にも拘らずお三人の御出席を請ふたのであります。森村さんだけお出で戴くことが出来ました。大隈伯は今日から又地方へ旅行せら

れ、洗澤男爵は是非お出でになるお考へでありましたが、先日來御風氣でありますので、どーしても今日はお出でになることが出来ないと言ふ事であります。昨日は皆さんが海戦の話をお聞きになつた様に、女子教育の遠征談を伺ふことは誠に有益なことで考へます。猶、皆さんの方からも、いろいろ感謝の意を表したいとお考へのことと思ひますが、時をとりますから、私が代つて申すことに致しましよ。

私も御一行に加はつて旅行致しまして、いろいろ感じたことが御座いますが、実は大坂、神戸地方に出向きまして、女子の高等教育の必要を説き、我が女子高等教育の報告をし、女子教育の会をしたことは確、十四年ぶりであると記憶致します。此の十四年の間に女子教育は如何に進歩、発達したかと云ふ事を、私は著しく感じました。北越地方へは折々参つても見ましたが、関西、中国筋は余り行つても見ず、注意も致しませんでした。併し、今度前後二回の旅行をして、いろいろ観察、調査して、如何に大勢が變りつゝあるかと云ふことに気づきました。

[女子高等教育は必要である]

其の要点を申すならば、第一、我が國に於ても女子高等教育は必要なものである。其の機関として、此の女子大学の如きものを関西にも、其の他の地方にも興す必要があると云ふことに気がついて参りました。今から十二、三年前、即ち、此の學校を興さうと云ふ時には、未だ早いと云ふ尚早論が盛んであつた。女子の高等教育を稱へるのは女子を生意気にし、独身者をふやして人口を少くする、亡國論を唱導するものであると云ふ様な議論もあつて、嘲弄的態度を以て之れを見たのである。昨年、北越地方に参りました時は、唯だ女子教育と云ふ問題をとりました。然るに今度は、女子の高等教育又は女子大学の設立と云ふ様な、明らかな旗幟を以て立つたのである。今度は大隈伯も森村さんも洗澤男爵も、皆さんが女子高等教育と云ふ問題をとつて極力主張せられたが、至る所非常な歓迎で、其の意見に賛成せられたのみならず、若し大坂や岡山に女子大学の分校を設立するならば、地方人士は喜んで力を致すと云ふことで、之れは殆ど予想以外である。

第二には、社會が此の東京にある女子大学の価値を認め、千幾百の女子大学卒業生を認める様になりましたこと。之れは只社會が認めるばかりでなく、卒業生自身が自ら経験し、内に貯へた所の力によるのである。我が國に多くの婦人会があるけれども、婦人が表面に立つて活動すると云ふことは未だ我が國の社會は認めないのである。実は此の間、統監と汽車に同乗している話を致しましたが、未だ朝鮮あたりでは婦人の力を認めないと云ふことである。私自身も日夜、我が國の婦人のことを思ひ、どーかして御婦人を進めよ一、高めよ一と考へ、成る可く偏見を去つて同情して居る私ですら、未だどーも御婦人の価値を認めることが出来なかつた。遺憾ながら感心することの出来ない点があつた。然らば、一般世間が同情しないのも無理からんことである。そこで我々は其の欠点をどーかして改めたいと三十年間苦心致しましたが、どーも思ふ様に出来ませんでした。

併し、此の十年間女子高等教育に力を尽して見て、我が國

婦人を高めることに尽して見て、如何なる困難にも、どー云ふ反対にも戦つて、努力奮闘して出来るだけやつて見たのである。評議員のお方も恐らく是れ程力をお尽しになつたことはあるまい。洗澤さんの話の中にもあるが、今度の旅行は女子教育以外の事には五分の時も使はなかつたと言はるゝ。五分所か、一分も他の事には用ひられなかつたのである。我が國では婦人を尊敬しない。婦人の前に出ると真面目にならぬ。そ一云ふ中に立つて、婦人を高める、之れに教育を施して人格を与へると云ふ様なことが出来るものではないと考へられて居つた。然るに、今日ではど一なつたかと云ふことがわかる。女子教育は最も卑めらるゝことであり、又、私立學校と云へば社會から最も輕侮せらるゝことである。然るに、此の私立の女子大学の為、六十餘万円と云ふ基金がどーして集まつたか。之れだけでも実に不思議なことである。又、我が國の評議員の中には四人の総理大臣がある。夫れは、故伊藤公爵、大隈伯爵、松方侯爵、並びに西園寺侯爵と云ふ四人である。夫れに山縣公爵も入れることが出来る。夫れは私が大坂へ出かける前に内閣へ参りまして、私は是れから大坂へ行つて女子大学の基礎をかためて來るから、其の眞つ魁として此の帳面にあなたの自筆でお書き下さいと申しました所が、公爵は内閣々議を少々待つて貰つて直ちにお書きになり、猶他の大臣へも勧めよ一とのことでありました。そして我が評議員の中に、是れ迄文部大臣であつた方も四人程ある。其の他、皇后陛下の御下賜金と云ふことでも、他に類類がないのである。然らば、此の女子大学を成立する為、有力な人々がどれだけ力を尽して居らるゝかと云ふことはわかるであらう。又、教職員の方でも、どれだけ力を入れて居るかも知れぬ。夫れから、卒業生の力と云ふものが又非常に有力なものである。即ち只今こゝでは申しませんが、若し大坂に女子大学が出来たならば、之れを建つるものは表面は男子であるが、そ一云ふ機運を導いたものは婦人である。岡山の動いたのも、其の本は卒業生である。大隈伯爵も公衆の前で言はれた。大隈伯爵も、伯爵について行かれた久松君も、實際卒業生の結果を見て居らるゝ。味はうて居らるゝのである。故に、少し善いことがあれば此の様に人が喜ぶ。其処に少しでも実が出来かけたならば、此の様に世間が動くのである。そ一かと言つて我々は決して自惚れてはなりません、校風即ちあなた方の自動的態度と云ふものが其処に価値を現して來るのである。夫れで今度も少しく第二の發展の曙光が見えかけて來たのも、夫れだけ多くのお方が力を尽されたのみならず、あなた方が一生懸命になつて、精神的に真面目に修養せられたからである。故に未だ足らぬことは沢山あるけれども、之れだけに動いて來たことは何より嬉しいのである。夫れで私共は一層骨を折つて、其の大なる責任を全うしなければならぬと考へるのであります。森村さんはよく車の後おしをすると云ふ例をおひきになるが、我々は今一歩行つて居りまして、も一進むことが出来なくなつて居つた所をこゝ迄進むことの出來ましたのは、そ一云ふ有力なあとおしがあつたからであります。

皆さん、同様に此の感謝の念に打たれておいでのことと考

へますが、其の感謝の意を表する方法は、我々が深く銘々の責任を感じて、其の實を挙げる様に致さなければなりません。私は皆に代つて一寸御挨拶を致します。是れから森村さんの御話を伺ふことに致しましよ。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年五月三十一日

明治四十四年五月三十一日
大学部全体

此の頃、関西地方に旅行を致し暫く皆さんと会いませんでしたが、近々今一度、一週間程また留守をあけなければならなくなったので、此の第十一年目の第一学年の大切な時に於て屢々留守になり、殊に一年、予科等の丁度今、学校の主義を能くわかつて、将来の方針を定めなければならぬ大切な期に於て、受持の實踐倫理を欠くことは大に気がかりに思ふのである。

過去十年間一度も、此の度のよ一に外に出たことはなかつたが、此の度、斯様な事を試みたのは、一つは外部の運動をよくしたいと思つたのと、一つは内部には最早自動的の校風が出来、指導者の経験も出来た所から、私が暫く居なくても差支へないと思つたのである。

それで此の前に、あなた方が自動的に研究をなさる様に申して置いたのであるが、私の希望に近い様な方法で、あなた方の満足して出来る様に書いたもので報告をなされ、又此の前の水曜に直接、口でよくわかる様に御発表なされたのでから、多分皆さんよくおわかりになつた事と思ふ。

そこで今日は、あなた方がお調べになつた総ての事に対して、総ぐくりをしなければなりません。其の總めたのが、丁度此の学年の方針を定めるに必要であり、又それに答へることは一年及び予科の問題として居ることに適當なる故に、時間の經濟の為、又問題が一つになつて居る為に、土曜日の代りに今日一緒にすることになつたのである。一年、予科には今一回土曜日にしたいと思ふたが、少しそれは出来にくいよ一だから一緒にしたわけである。

明日と明後日と時をあけて、新しく入学した方々に面会し、答案と本人とをよく知り、問題があれば適切に答へて、銘々の事情を明らかにしたいと思ふのである。

今日は三年、二年に結論を致すのであるが、成る可く一年の問題にも答へるよ一に致しますから、時には一年にむづかしく、二年、三年には少し不必要なこともあるが、双方とも注意なさつて御聞きになり、猶わからぬ所は組で互に補ふ様に致せば、銘々の目的が達せらると思ふから、其のことにつき今の時間を使ひたいのである。

[国力増進の第一原動力は智力である]

これは、此の頃、内務省から出たものでありますが、世界

の主なる国々の国力を比較したものであります。国力を増進する所の第一の原動力は、智力である。私が此の一月に出したのものによれば、發明、発見と云ふ様な力に於て、我が国は米国の 1/100 である。確信とか信用とか云ふ内部の力はど一かと云ふと、やはり Anglo-Saxon が第一位を占めて居る。故に、我が国が一等国になつたとか何と云つても、名だけでは仕方がない。やはり實際の力を養はねばならぬと云ふことは、誰れが考へてもわかることでありましよ。

過日来、あなた方が自動的にお調べになる様に申したのは、何の為でありましよ一か。

[教育問題の内面は Genius の發揚である]

教育問題を定めるに、二方面ある。其の内面は Genius の發揚である。先づ教育について、ど一してもわからなければならぬものは、個人の中にある Genius の發揚である。

Genius は造らるるものにあらず生れたるもので、一朝一夕に成れるものではない。數万年間に蓄積せられたものである。故に、教育の一方面は個人にある。今後、己が目的を定むるに最も必要なものは、自分の中にある力を見出す事である。[外面は四圍の境遇である]

教育の外面は四圍の境遇である。

今後の教育は、文部省が定める制度、学校だけで出来るものでない。其の境遇と云ふものは誠に広く、学校のみならず宗教、政治、商業、工業等あらゆる人間の活動、思想、感情、制度は、悉く此の今後の教育に関係するものである。故に、今後の境遇を解しなければ教育をすることが出来ない。然るに今後、男女に拘らず、人生に必要な我々の思想、感情、知識、經濟界、工業、職業、家庭が如何なる変化を受くるかと云ふに、益々世界的關係になるのである。婦人の職業、位置、本務が皆世界的關係となり、其の關係から皆、今後の各自の生活に影響を蒙るのである。故に境遇の如何が、今後の教育の変化、又それに伴ふ覚悟を定むることによつてわかる。今後二十年の万国の均衡、實力の發展を比較したのは、将来の教育の境遇を定める必要があつたからである。天賦性をもととし、同時に教育は広い四圍の境遇から出来るもので、学校ばかりでない。従つて婦人と雖も、国、世間、社會の關係を知らなければならぬ。國民を教育する境遇は、益々拡大して来るのである。

過日来、皆さんに問題を出したのは、其の教育の最も重要な要素となる所に着眼し、根本を養ふと云ふ所に力を注ぐんとすることを気づかせる為である。

次に、今後の教育は如何になるべきかと云ふことを研究する為である。

[現今の教育は過去を重視する傾きがある]

只今、我が教育界を支配せる力は、我が國の教育の過去で、過去の教育を重視する傾きを存するのである。余り現在の制度、習慣、風俗、現在の學說、教授法にとらはれて居る。行き悩んで居るのである。第二の發展をせんとすれば我が國の婦人を覚醒せしめ、我々将来の教育、明日の教育が、今後の教育が如何になる可きかを知らなければならぬ。

人間は、将来を見る先見の明がなければ進むことはないの

である。又、人間の最も高尚なる命である目的を追求し、理想を熱望する熱心、又は精神 Genius と云ふ勢力の集注、又は幾万年養ひ来つた精力を発揮して、新しい人格を発現せんとする雄大なる力を発揮することが出来ないのである。然るに、今日の教育は現実に囚はれ、将来に思ひ至ると云ふことが欠けて居る。こゝを真に心づく様にさせるのが、一つの目的である。

[明日の教育は凡て過去の制度から解放しなければならぬ]

紐育の World Work と云ふ雑誌におきまして、此の間、広く世界の教育者に徴して、明日の教育を尋ねたのである。即ち、将来の教育は如何になる可きかと云ふことを尋ねたのである。有力なる教育家、学者、母等、凡そ三百人答へたが、異口同音に或る一点に議決したのである。其の大意は次のようである。

今後の教育は現在の教授法、教育学の学説、そ一云ふものについての教義の束縛から、大部分解放せられねばならぬ。

つまり、今日の試験制度などから解放せられねばならぬ。英米の教育家の中にすら、猶此の教授法や試験制度等によつて、如何に束縛せられて居るかがわかる。殊に我が国の授業時間の多いことは、英米の人が見て驚くのである。其の証拠には、一番あらはれねばならぬ所の発明や発見が少しも出来ぬ。之れに由つても、わかるのである。之に由つて、如何に展びよ一とする所の力を妨げられて居るかも知れぬ。故に明日の教育は、此の束縛から解放すると云ふことにあるのです。此の学校に対してもいろいろ批難がありました。此の頃、卒業生に対しての評判がよくなった。併し未だ中々、我が国に於ては批難の声が多いのである。之れは何故かと云ふと、学校の試験を受けたとか、卒業証書を授けられたとか云ふことを以て、教育を受けたと思ふからである。之れは未だほんとの教育を受けて居ないのみならず、束縛せられて居るのであります。然らば、ほんとの教育はど一して受けられるものであるかと云ふ、其のほんとの意味をあなた方にわかる様にしよう一と云ふことが、又一つの考へでありました。

夫れで先づ過日來、我々が研究して到達しよう一と思つた要點は、第一、教育と云ふものは、銘々の中に与へられてある天賦性を發揚すると云ふことである。

第二は、其の天賦性がほんとうに發現すると云ふことは、四圍の境遇によらんければならぬ。四圍の境遇に順応し、境遇を動かすと云ふことでなければならぬ。其の教育は、現在と将来とに重きをおかねばならぬ。

第三には、今後の教育はど一なるべきであるかと云ふことを定める為である。即ち教育の目的、教育の主義、方針を明らかにする為である。

第四には、今後の教育は女子教育と児童の教育と云ふことに、今日迄よりも以上に重きをおかねばならぬと云ふことである。

第五には、其の目的を達するには女子の高等教育、即ち大学教育を出来るだけ拡張しなければならぬと云ふことをきめる為である。

此の意義を明らかに致しませんと、今後の教育の方針がきまらないのである。今後の教育の方針がきまりかねると、あなた方銘々の天職を自覚して、其の目的を達することが六かしいのである。夫れで、過日來の材料を使つてお考へになれば、そ一疑問は起らないであらうと思ふけれども、も一残つて居るのは、如何なる範圍に於て受く可きものかと云ふことがわからないであらう。併し今後の教育と云ふことがわかつたならば、今後の女子教育は如何にあらねばならぬか、女子高等教育が如何に必要なものであるかと云ふことがわかつて来るのであります。

[女子高等教育の必要]

夫れで私は、女子の大学教育とはど一云ふことを意味するのであるかと云ふことの要點を、初めに申しておくことが必要であると思ふ。女子高等教育の必要と云ふことは、学科目の多少、又は学問の程度、或は専門の種類と云ふよ一なこと、之れを具体的に言へば、今我が国の帝国大学に教授して居ります学問の組織、其の学科目の程度と云ふ一つの標準を立て、其の標準に丁度相当する様にして行く、又帝国大学に行ふて居る試験を通過して学位を受ける、其の目的に叶ふ様な学問をすることが女子を高めること、女子の高等教育であると云ふ風に言ふ人があるけれども、そ一ではない。高等教育と云ふことが決して、其の試験を通過するとか学位を得るとか云ふことではない。学位を貰つて居る人の中に、未だほんとの教育を受けて居ない無学な者が沢山ある。

[女子を教育するには制限を打破しなければならぬ]

然らば、ほんとうの高等教育とはど一云ふことであるかと云ふと、第一に、我々は女子の發展に制限を加へないと云ふこと。譬へば、今日女子の問題として、女子は高等女学校で充分である、或は女子の教育は十八歳で出来上るものであると云ふ制限を打破したいのである。何とならば、女子も人間である故に、永久展びると云ふことは命である。其の命に制限を加へ、命の發展を止めたならば展びないのである。故に、年限を以て女子の發達を限るのは間違ひである。夫れを私共は破つて行かうと云ふのである。

之れが即ち Higher education である。又境遇によつて限らないのである。つまり高等教育と云ふものは、与へられてある天賦性、即ち銘々の中にある眞価値を發現するのである。之れを具体的に言へば、も少し女子の健康を増進し、女子の人格を拡大し、女子の生活を幸福にし、女子の中にある精神的要求を満足させよ一、つまり、も少し女子の自覚を明らかにし、其の意識を増進せしめ様と云ふのが、女子の高等教育であります。夫れで昔から、此の教育の意義とか目的とか云ふことを多くの学者、教育家が論定しよう一と試みましたが、併し夫れは何時までも成長、發達するもので、未だ一定の形にはきまらないのである。併し其の要素には、不變の眞理がある。そこで、女子の中にある不變の眞理を実現すると云ふことを具体的に要素をわけて申すならば、其の目的がおわかりなるかと思ふ。

[女子高等教育の目的 1. 健康の増進]

極簡短なもの、土台になるものから申せば、高等教育の目

的は、

第一、銘々の健康を増進し、其の健康を永久に保存して止まないと云ふ所にあるのです。此の健康と云ふのが、我々の身体の真価値である。どーしても身体を持って居る以上は、健康がなければ実は価値がないのである。併し健康は身体の価値であるのみならず、我々の内にある自我の価値である。此の健康はやはり我々の価値であつて、始終増進し、始終発達することが出来ねばならぬ。夫れを保つには高等教育を受けねばならぬ。即ち感情に於て、思想に於て、始終発達する所があつて始めて健康は増進するのである。又、人間は若返ることが出来、長命することが出来るのである。

[2. 健康に伴ふ美]

そーして、健康に伴ふ所のも一つの価値は美であつて、其の美を発揮することが出来るのが、又一つの教育の目的である。真の美を益々発揮し、其の美が永久に保たれる様にすることが大切である。

昔の Greek の教育の目的は、美であつた。道徳の目的も、美であつた。そこで体育を奨励して、全体を最もよく发育せしむると云ふことが Greek の教育の目的であつた。故に Greek の美は、主として人間の健康から発する処のものであつた。只の装飾ではなかつた。故に手にも足にも、身体の一部に渡つて居つたので、真の健康から現れる処の美を一番に尊んだものであります。夫れで其の理想を、或は彫刻に、又其の他の美術に描いて、Greek 人は朝に夕に夫れを思ひ、夫れを慕うて養生したのである。之れが Greek の文明の本をなしたのであります。故に私共は今日もやはり、此の健康から現れる処の美と云ふものが、婦人の価値であると思ふ。

然るに、今日の傾きはどーかと云ふと、やはり装飾に偏する。外からものをくつつけて綺麗に見せよとする。夫れで婦人の誇つて居る美、又人から尊敬せらるる美は虚である。うそである。直にはげて了うのであります。夫れで、あなた方は其の虚をのけて了つて、真の健康を増進し、年をとらない様にし、其所から出る所の真価を発揮することが必要であります。

そして此の美と云ふことは健康からも来ますが、一つは精神状態からも来るのである。故に、いつも立派な精神状態を保つには、教育と云ふものが年限を限られてはならぬのであります。

[3. 自覚]

次には、意識の範囲を拡大し、意識の力を益々強く且つ深くし、意識の関係を益々複雑に進めて行くことと云ふことです。之れを、あなた方が普通に使つて居らるゝ詞で言へば、自覚を得ると云ふことも言へる。つまり私共の生活は無意識から始まつて、Sub-consciousness 潜在意識、或は本能とか衝動とか言つて、我々に与へられてある力の芽が深く潜んで居る。

[自覚の要素 1. 弁別力]

之れが意識世界に発現して来ること、即ち意識が醒めて来て、意識の力が増進し、其の範囲が拡大せられて来ることであります。意識の増進するとは、弁別力の発達することである。其の最初のものは自我意識で、自分と人との区別がわか

つて来るのである。其の弁別力の一番高潮に達したものが、価値の鑑定力である。善悪、正邪の区別、醜美の区別と云ふ様なもので、善悪を区別する力を良心と言ひ、之れのわからぬものを愚鈍と言ふのである。正邪の判断も出来ず、行ひの標準もわからぬ様な人は、意識の最も弱いものである。

[自分の価値を知る者は修養の道を知る]

私共には非常な力を持って居るものである、自分には価値があり、自分の活動力、天賦性があると云ふことを見出すことが出来ると、其の人は誠に満足することが出来る。けれども其の弁別の出来ない人は、少しも自分の価値を知らぬ人がある。自分の欠点を知る者は、必ず其の修養の道を知る人である。自分の価値を知る人は、必ず人の価値を見出すのである。自分の価値を知り、人の価値を見出す程、満足なことはない。是れによつて益々熱心になることが出来る。此の力を生涯かゝつて、益々発達することの出来る様に養つて行く。之れが即ち高等教育であります。

[2. 活動]

次は活動、即ち働きである。此の弁識力が出来る、即ち智力が出来て自分を知り、人を知り、価値を知る。そーして、其の価値を現さうとし、自分を実現しようとする。此に於て活動が起る。そーして益々正確なる、丁度目的に叶ふ様に出来る様に、之れが、活動の出来ることが価値を知るのである。複雑になつて行く活動が互に共働して行き、活動を盛んならしめ複雑にして行くのである。それが意識の増進と云ふことである。

[3. 目的の構成]

次には、目的を構成するのである。理想を意識するのである。即ち、将来に希望を属し、目的を追求する処の意識が進んで行くのであります。之れが、意識の第三種に数へるのである。

[4. 改善、進歩]

次は改善、進歩。つまり、英語で Modify と云ふ処の力である。人間は現状に満足しない。現実に安んじない。必ず、是れ迄ある処の習慣を改めよと云ふ心がある。今の境遇を、もう少し理想的にかへよとする考へがある。即ち、一日も同じことを繰り返しては満足しないのである。銘々にある処の習慣、遺伝、風俗、是れ等のものを改めて行く。改める為に、努力、抗抵する所の力がある。其の為に益々、我々の意識を明らかにする。一旦意識に上つた所の力は一時消える様に見えるけれども、潜在意識の中に永久に残つて、やはり意識の要素をなすのであります。此の働きを総称して、或は自覚など言ふ。

[婦人は自覚して初めて尊いものである]

婦人が自覚したならば、初めて婦人も尊いものである。婦人も大切な天職を帯びたものである。永久すたらない処の尊いものを持って居るものである。今の現実の困難、現実の醜は悉く除き得らるゝもの、現実の困難には悉く勝つて行くことが出来、充分満足の出来るもの、幸福な経験の得らるゝものであると云ふことを見出し、此に始めて自重心が出来、一種言ふ可からざる、何物も辱ふことの出来ない、何物も隠

すことの出来ないものが起つて来る。あゝ嬉しい、満足な、と云ふものが内に生じて来る。そこで社会を感化したり、賢母良妻となる事が出来る。其の意識を自分の中に生じて来る事が高等の教育で、之れが出来て初めて満足することが出来る。そこで始めて婦人を救ひ、婦人を高める事が出来る。夫れを高等教育と言ふのであります。ど一か、あなた方は、ほんとの女子の教育と云ふものをお借りになつて、ほんとの教育をお受けになることを希望致します。

[中表紙]

桜楓会の御話

明治四十四年六月三日

明治四十四年六月三日

桜楓会にて

今日は、森村さんの御法事の所をまげてお出で下さいましたことは、実に感謝に堪へませぬ。二、三日前の新聞に、女子大学の教育を奨励するは亡国の卵を養ふが如しと、住友家の鈴木氏が出し、其の後大阪の宴会にて其の話をししたら、鈴木氏の説ならば信ずることが出来ぬと言へば、鈴木氏曰く、御説には賛成する、大胆には感服すると嘲笑したとは、私が住友さんから聞いたことである。かゝる反対もあるが、此の度の関西旅行中には殆んど反対をきかず、多衆が襟を正して聞いたことは、従来珍らしいことである。森村さん、濹澤男の二氏は、女子大学の為めに来たことを明言されて、信じて居らるゝことを公衆の前に発表されたのである。亡国の卵を養ふと説く人があるよ一な中に、高等教育の為に尽して下さることは独り学校を助けられたばかりでなく、此の挙により尊い所の証拠を以て賛成の意をおあらはしになつたわけである。

昨日濹澤さんのお宅にいったらば、森村さんの質素には実に感心であると言はれた。そ一云ふよ一に日頃の生活をなされて、忙しい所を女子教育の為に深き熱心を以てお助けになることは、其至誠は学校、桜楓会の精神を發展せしむるのみならず、命の基礎を加へらるゝよ一な気がするのである。そして、御多忙中お出で下さつたことを、私は大に感謝するのであります。

○

遠征に出かけ、精しい報知を受けまして、今、男爵が百言は一行にしかずと言はれましたが、これは誰れもがうなづく真理である。今御報告になつたよ一に、男爵は女子教育の為に声をからして叫ばれ、なほ直接に女子大学の証明におつとめになつたのであります。のみならず今回は、お三人の先輩が、一行を以てではない百行を以て、むしろ全力を注いで女子教育の必要を鼓吹して下さつたのであります。

只今も男爵より直接のお話あり、此の間の報知新聞欄外にも出て居つたよ一に、五分の時も他にさかず、女子教育の他

のことに一切たづさはらずに、女子教育の為に尽されたことは、誰れも疑ふ余地はないのである。それにも拘はらず、過日、岡山より帰る時、かゝる雑誌が車中にくばられた。其の中には一行の絵をかゝけて、そこに隗より始めよ、とある。昨年も汗を流して行かれたのに、何故、森村さん、濹澤さんが自分でせられぬかと言つた人がある。

此の二人が、如何にこの学校の為に尽されてあるかを知らないのである。大隈伯は早稲田大学を經營して居らるゝに拘らず、此の学校の為に二千円を御寄附になつたのである。私は、重荷のあるのにこの大学の為に尽し下さると云ふことは、実にお察し申したのである。声をからし百行を以て力を添へて下され、事業を育て下さつたことは誰れもわかることである。

[至誠]

発起人の中には金は出すが名を出さないと云ふ人もあつたが、このお三人は初めから賛成して下さい、今日もなほお力を尽して下さい、頼んで下さることは、実に困難なことである。基金募集と云ふことを標榜して、此の度の旅行を企て、朝は早くから夜は遅く迄、十分のひまもなく、お勞れの所、又お出掛けになると云ふことは、至誠でなくては出来ぬことと私は深く感謝して居るのであります。

[中表紙]

大学部二、三年の御話

明治四十四年六月七日

明治四十四年六月七日

大学部二、三年生に

私は、今年輕井澤に三年寮、校内に二年寮を開かれるに付いて一言話します。夫れで、余り他と云ふことを考へず、唯自分の論文を書く、又英語をすると云ふよ一にしてゆけるか。夫れでもゆける。私も自身だけで集注することを望んだ。現在輕井澤に寮舎の有るものは、私の要求によつたのである。其の最初に於ける二週間の集注は大に効力があつた。不眠病は是れが為め癒え、勞れた神経は是れが為めに元氣を与へられたのである。かく大変に自分の為になつたのみならず、同時に一つの新しい意識を生み出した。それはど一して得たか。此の時は決して利己的に考へたのではなかつた。それでは、ど一なつて其の集注があらはれたか。即ち豊明館が出来、本校第二の發展が出来たのである。夫れで、皆さんもこの期を益あるよ一に考へることは大に大切である。併し、皆さんが仲間を組んで第二期發展の基礎を作ると云ふ共通の目的を以て行かれる以上は、も一一つ其の点を明らかにしておく必要がある。行く人も止まる人も、之が実に大切なことである。それからも一一つ大切なことがある。是れは、各自の中に原動力を蓄へることである。第二には、之を發展する所の機会、材料をつかまへると云ふことである。其の内の力、

即ち天才が外にあらはす其の材料がなくてはならぬと云ふことである。この二つを欠いてはならぬ。夫れで私は、皆さんが常に苦んで結果が挙がらないと云ふのは、この二つが意の如くならぬから来ると思ふのであります。これはあなた方許りでなく、我が国一般の婦人の欠点であります。

[人間は熱しなればならぬ]

聖書に「私はあなた方に望む。それは冷と熱であつて、其の中間のぬるいことを嫌ふ」と。然るに女性は其のぬるい方である。人間は熱しなればならぬ。実がなるときには熱する、生命懸けにならなければ人間は出来ぬ。品性は出来ぬ。天才は出ない。私はなぜかく鞭うつか。必要上致し方がないのである——

女子は八十度位熱して、其れ以上にはのぼらぬ。本気に生命懸けにならぬので、ど一しても一つ発展が出来ないのである。克己力、熱心が足らぬ。これがなければ本当の美がないのである。この内に熱する原動力がなければ、本当の生命は発展しないのである。皆さんには之が足らぬ。あくまで忍耐すると云ふ熱誠が足らぬ。困難に堪へる力が足らぬ。我が国婦人に感化力の足らぬのは、皆之に原因するのである。

銘々はこの原動力を養はねばならぬ。内に之が充実しなければならぬ。然らざれば、凡て機械的になつて何の爲めにもならぬのであります。夏期祭に於て是れがなければならぬ。その本を養ふことが出来なければ、皆さんの目的を果すことは出来ぬと思ふ——

[高調なる精神を団体に向つて發揮せよ]

我々は其の内に、高調になつた精神をど一云ふ材料に向つて発表するか。最も高尚、有力なる材料、これは団体、即ち人間社会の間に其の生命を發揮するのである。これが人道の爲め、国家の爲めに尽すと云ふのであります。この高調した力を発表する。之が高尚なる行為であり、人格であり、力である。これは皆さんが夏期にあらはすべき其れである。最も大切なる時に於て、一年中の最高調の精神を發揮すべきである。

[中表紙]

大学部二、三年の御話
明治四十四年六月十四日

明治四十四年六月十四日
大学部二、三年の御話

先週水曜日に此の時間を了へて直ちに立出してから種々予想以外のこと起つたので、果たして今日帰ることが出来るかど一かと案ぜられたのであります。此の度の目的の爲には明後日迄のばす必要があつたのですけれども、都合して漸く帰ることが出来たのであります。夫れ故到着の報知も遅かつたから、今日私が此処に出るかど一かと云ふことは皆知らなかつたことと思ふのであります。若し私が帰らなければ、先日

の問題について今一層深く研究なさるお考へであつたと云ふことを聞いて、満足に思つたのであります。しかし、私が帰りました故に、私から話しをとのことで、私も其の必要を感じて帰つたのであるから、私からも言ひますが、それより先き皆さんにお尋ねしたい事があるのであります。

此の一週間能く守り、よく全体を導いて、自動的に万事をやつて下さつたことは、私の喜ぶ所であります。あなた方の御考へになつた所、又今日の傾向を少しでも聞くことが出来るならば幸であり、参考になると思ふから、それを一言聞きたいのである。丁度夏季祭の目的を定めるについても、此の学年、殊に母校の第十一年、母校第二の小世紀に於て、殊に此の第九回生は此の三年に於てお尽しにならなければならぬ最も大切なる責任は果して何か、今日の集注点は何かと云ふことを先づ初めに明らかにし、深く考へなければならぬことである。故に留守中に御總めになつた一端を、此の後集注なさる要点は何処にあると云ふことを見出されたであらうから、夫れを一言短かく言つてもらひ度いのであります。

本校が十年以来主張して来た所は、果して女子教育として真に是か非かは今に於て問題なれど、高等教育の必要は最早多くの人の是とする所となつて来たのである。只其の方法は女子大学が取り来つた方針でよいか、又夫れ以上の方法があるか否かについては猶問題である。十年の過去を顧み、将来の趨勢及び今日我が国の現状を研究して、果して根本の方針は誤つて居ない、益此の主義を完うして進み、実現する爲にも一つ決心せねばならぬものか。又猶方法に就いて講究すべきかについて、あなた方は如何よ一におきめになつて居るかを聞き度いのであります。

(一) 我が主義、我が方針を確信す。

これに異存のない人………皆

此の学校の理想を実現するに、第十一学年を始める責任を負ふ九回生は、殊に先づ本学年に如何なる方面に向つて最も力を尽し、突進しなければならぬか。其の点を挙げてもらひ度い。

つまり内は何処に集注し、外は何処に進みて活動す可きか。如何なる具合に境遇を開拓して行かなければならぬか。具体的に計画すべき期に達したる今日、あなた方はど一考へて居らるゝかを聞きたいのである。

(二) 〔内=自覚 確信 真価値 校風
外=大学拡張 社会〕

此れ等は常に變ずるもので、又之れは一つの具体的のもので、其の時の特色を有して居るものである。それで、今日私共の決心をして居る覚悟をききましたと仰しやるならば、確かに今日あなたの特別な一つの決心である。之れは勿論抽象的の言葉で、一回生から之れを望み、自覚し、確信し、価値を發揮したのである。しかし今日は、今日のあなた方のものがなければならぬ。愈私は確信し決心し、燃ゆるが如き熱誠が我が中に動いて居る。生きた目的がなければならぬ。活動しつゝある自覚、確信、価値は何かと聞くのである。又社会に向ふ活動も内にあるものが現れるので、内外同一で決して異なるものでない。信仰が生きて居るならば、必ず外に向つて

働き、外と相呼応して働き合ふものである。今年のあなた方の決心、今の取る可き方針、今出来た信仰が必ずあると思ふ。それがなくて只方針を知つたばかりでは抽象的で、生きて居る生命価値とは言はれないのである。なほ其の覚悟は何であるか。又何処から来たか。何処に向つて居るかと云ふことが聞き度いのである。

先日、Genius を發揮するよに申したのである。しかし、此の芽はど一して向上するか、活動的目的を成就し願ひを満足し得るか、それを考へなければならぬ。夫れには今一方面を考ふる必要がある。

内にある数百万年の間、進化して来て居る銘々の内にある尊い傾き、これには健全なものと不健全なものとあつて、完全ではない故、これを進化し完全にし、複雑にし、も一つ以上の自覚をすることはど一して出来るか。此の自覚、決心を致すこと、又新なる確信を得ること、今私の申した生きた具体的な内の力はど一して出来るかと云ふに、之れには今一つ大なる条件がある。之れを指して Environment と称し、四囲の境遇に応化して行く其の働きが誠に大切であることを私が申したのである。

私が申す信仰、自覚、価値と云ふ内にある原動力は、如何なる経路によつて出来たかと云ふに、之れは我が内から湧き出たのである。此の形となつたのは、他の多くの原因があると云ふことである。

今爰に私があなた方に是非話さなければならぬ、是非良心に訴へたいことは、私の中にある一種の確信、覚悟である。それがど一して今日新しく生れたよに思ふか。其の決心、考へは何から出たか、ど一して成長したかと云ふに、二つの原因がある。

〔一行為と雖も必ず深い原因があるのである〕

今日行ふ一つの行為は、とてもはかる可からざる遠い原因があるので、又決して自分ばかりで定まるものでない。先週水曜日の午後、私は二等の寝台付きの汽車で大坂へ行きました。其の車中、如何なる考へをなし、如何なる行為をなす可く決したか。此の行為をしたとすると、行為の前に如何なる感情変化があつて、如何に考へて、後に於て一つの行為が成り立つのである。故に、人間の行為の原因は実に複雑してくるものであることを、自分は感じたのである。

此の度は大坂に二日、京都に二日、神戸、岡山に一日と云ふ予定で出かけたのである。それは決して無謀ではない。先達て北越地方に出かけた経験からである。所が、昨朝迄一步も大坂を出ることが出来ないのみか、宿から出ることも出来ない程であつたのである。先日も清水谷の十年記念式に招かれて忙しい中を出かけて行つた所、十分と経ぬ間に電話で呼び返されると云ふ有様であつたのである。

基金募集と云へばこちらから出て頼むのが常であるのに、此の度は態々先方から訪問して来られるので、宿をあけるわけには行かなかつた程忙しかつたのである。女子大学の基金応募は狭いけれども深く、数が少いけれども大きいのである。数は少いが、皆一生懸命である。分校が愈設立の運びに至るか、一時中止となるか。又我が国の女子高等教育が爰に再興

するか否かと云ふ大問題であるから、其の感化は実に深大である。これが、私の大坂を去り得られなかつた理由である。かゝる四囲の境遇が自分の心の中に入り、終りに初めて私の新しい決心、新しい信仰が定まるのである。今爰に抱く考へも実に複雑で、一時的でなく三十年前から持つて居る所のものである。

此の度、関西に分校を建てると云ふことについて、金を出さうと云ふ其の人が果して決心するか否か。之れにも必ず遠い原因があるのである。そこで、我々の行為は只我々ばかりで定まるものでない。我々の直接奮闘する凡ての関係から出来るので、決して一時的に空想的にものが出来てくるものではない。私が一週間の旅行をして、大に母校が今後十年間に発展すべき方針、教育主義にも一層深く考へて、も一つ新しいと思ふ程に新しい考へが生れて来たかのよに思はれる。決心が湧いたのである。

〔我々の主義、方針は真理である〕

若し社会に出なかつたならば、果してそ一云ふ決心が出来たかど一か、之れは問題である。之れを抽象的に言へば、前から言ふた言葉と変りはない。只今の我が決心、我が活動を問はるゝならば、こはもはや新しいのである。そ一云ふ所から、我が主義、我が方針を確信す、と言ふことに躊躇することはないと云ふことを確める為に聞いたのである。今日は最早証明されて、我々のたてた方針は確かに真理である、こ一なければならぬと云ふ確信が出来なければならぬのである。

私は此の主義で精神教育に重きをおき、猶此の後の教育はこ一ある可きである、根本の命はそこを味はなければ、あなた方の将来の運命は開けないと言つたが、此の度は特にそれを思つたのである。と同時に、我々と同じ考へで働くものが、決して自分独りでないことを信じたのである。此の主義はど一しても実在で、只一部のみですと思つたが、世界には我々と一緒の考へを持つて居る人があるのである。

先日留守中に Theosophy の一信者が爰に来て、主義、方針を知つて、我々の行く可き所は此処である、Point Loma の一部が日本にあつたか、と言つたと聞いて、初めて世界には同志の人があることを知つたのである。関西の空気が従前と異り、予想外の結果を来たしたのは、全く会員の精神感化である。今一つ見出したことは、会員の経験の尊いことである。〔桜楓会員の責任は愈重大である〕

第二の女子大学が成立するか、又時機を待たなければならぬか、一時騰つた空気が冷却しないか、又、我が文明に第二の発展を来すか、或は一蹶跌を来すかと云ふことは、其の責任は全く桜楓会員の態度如何にあるのである。此処迄漕ぎつけたのも会員であるが、爰にもし中止されるに至れば、これも亦会員である。只熱誠が充分であるかないかである。

私は今迄、青年男子は物質的で、婦人に対して不真面目で、眞の婦人の人格を認めないとばかり思ふたが、豈計らんや、全く反対である。青年男子の中には実に立派なものがある。特に会員の夫の中に人物があるのである。もはや、あなた方が遅れて、主人が先きに行つて居るのである。其の人が言ふ

に、会員の熱心は未だ足りない。老人の熱誠に対し、会員の働きが足りない。今の空気を充たすには、も一つ熱誠でなければならぬ、と言ふて居る。其の外、一々其の人の言に感心したのである。

あなた方は、今日の男子は眞の価値を認めないと思ふたが、反対である。今では、あなた方がまどろしい。も少し精神的に、宗教的に尊敬するよ一に価値をつけたいとは、其の男子の要求である。之れは、京坂地方の形勢である。今日迄、女が家に入れば読書することが出来ない。又、すれば之れをいやしむと思ふて居たが、京坂地方ではまるで違つて居る。此の間、京都について朝通知をして、一時に集まるよ一に会員に出したが、皆集まつていろいろ経験を聞くと、夫が、高等教育を受けたものがど一して進まないか、何故読書しないかと云ふのが、夫の要求であると言つて居た。本校の卒業生は自動的で、向上すると云ふ決心であるが、子が出来ると自身で読書して進むことが甚だ乏しいと言ふて居る。それではとても将来だめである。其の夫は私と同じことを妻に要求して居るのである。母も決して止めることなく、此の主義に進みたいと言ふのである。

それから今迄は支部会に出ることも容易でなかつたが、今では却つて出会を奨励され、もつと会の為めに働かなければだめであると迄、言はるゝよ一になつたと言つて居るのである。

清水谷の女学校で小島君が祝辞を述べて、女子高等教育の必要を説いたと云ふことである。

今日猶、卒業生の嘆ずるのは、も一つ眞の読書が出来ないと云ふことである。誰れも同音に、此の学校に対する感謝の語を發するのである。實際を以て証明して、母校の主義、精神でなければならぬと夫も母も言つて居るのである。

京都のよ一な保守的な所にも女子高等教育の必要であることを、滔々と述べて居ると云ふことである。それで私は信ずるに、もはや田は充分に実りかけて居る。只遺憾なのは、刈り入れる人がないのである。世の前進をした会員が、今や一歩後れたよ一な感じがするのである。今動かんとする輿論を成就して、女子高等教育を今一段進むのは、あなた方の熱心である。若い人でもはや之れに捧げますと言ふ人があるのである。今、人の見聞せんとするは会員の活動である。

一週間に於ける考へを持って、観察に来る人が沢山あるのである。かゝる人々の頭脳にうつる校の空気は、第二の発展を促す動機となるのである。これを見て、我が主義、我が方針は決して誤らず、益進めなければならぬと同時に、会員諸子の大なる責任を思ふのである。故に、あなた方の内の力を益実現せらるゝこととなるを信ずるのであります。これは大坂、京都にて見た所から考へた一端であります。

私が直接一週間に観察して、我が国が如何に傾きつゝあるかを報らせて、あなた方の考の参考とするのである。

[中表紙]
大学部一年生への御話
明治四十四年六月十七日

明治四十四年六月十七日
大学部一年生に

[学問の消化力]

この前に、此の度あなた方が高等教育の門に被入つて、是れ迄の教育法と今日の教育法とがちがふと云ふことを見出だされ、そして其の習慣を改めよ一として、夫れが未だ出来ない。これは消化力が未だ乏しいと云ふのであつて、全体殆んど、そ一云ふよ一にお考へになつたよ一である。それは教育を致す上に一番の根本の問題である。是れがわからなければ、いくら学問をしてもだめであります。故に、消化の出来るよ一に勉強の方法を改めなければなりません。只今の境遇にあつて、ど一したら改めることが出来るか。ど一云ふ養生法をとつたらばよいか。又、其の実行が自分の方から出来るよ一にならなければならぬ。其の道を充分考究なさるよ一に、実験の出来るよ一に、先達との面会の際に話したわけである。其の消化力を回復する道が見出だされたか。第二に、それを行つて消化力を大に用いて居るか。夫れに就いて如何にお考へになつておいでになるか、伺ひたいのであります。

過日あなた方は、課目中心はいけない、学生中心でなければならぬと云ふことを感ぜられたのである。然るに只今の手のあがり方では、あなた方が願つておいでになる目的が違はれる様に思はれるでせうか……

必要を感じなければ、研究は出来ぬ。進歩を見ることは出来ないのである。

[自分で研究すべきである]

新しい学問とは何であるか。自分で研究することである。其の問題に就いて自分で判断をすることである。然るにそれに就いて一層深く考へ、研究し判断し、其の問題に解釈を下すことをしない。これは如何なるわけでせうか……

あなた方は先輩の学説を其のまゝ受けて行くだけでは消化ではない。あなた方はその受けたものを、ど一しておいでになりますか。自分で組み立て、自分で考へるのはおもしろくない。先輩の説のみをおもしろいと思ふて、きくのであるか。

自分が考へるよりも、人から受ける方がおもしろい方は……なし

自分で組み立てゝ行く方のおもしろい方……全体

然らば、次の問題が起ります。それは一番必要と思ふて居ることが一番六ヶ敷い。その原因はどこにあるでせうか？

(一) 時間の不足

(二) 自動的の態度の欠乏

[眞の研究とは如何なるものか]

参考書を使ふことは中等程度の学校でもして居る。高等教育を受けて居るものには、講義も一つの参考である。自分で研究する、一つの材料を以てそれを研究するに、幾冊の書も入るのである。本当の研究をするには、図書館の中に入り込

まなければ出来ぬ。私は、女子教育と宗教との二つの問題の爲めに、其の最も適当なる国に行き、図書館に入り、講師について研究致したのであります。併し、其のよ一な所に参りましても、数十巻の書物のうち自分の思ひにかなふものは極く僅かしかなく、講師の講義に致しても人格から受ける所もあるが、余り一卷の書とはちがはぬのである。その様な中から参考になる材料をとり、研究の方法を見出したらよいか、これは甚だ六ヶ敷いのである。本をたゞ読むことはいかにも易い。誰れにでも出来る。聖書やお経を読むも同じことである。併しこれを読んで自分の生命の糧とし、これを消化し、自身の力にすることは六ヶ敷いのである。然るに、時間が足らぬと言はれるが、これは人から定められたことをそのまま他動的に、工夫も考へも目的もなくするからであります。大学生活はこ一云ふことではありません。自分で材料をあつめ、目的にかなふ学説を構成して行く。これでなければならぬ。併しこれは随分六ヶ敷いことである。あなた方、自分で選択して居るか。発明して居るか。之れが出来なければ、研究的ではない。之れが出来なければ、学問が消化したと言ふことは出来ないのである。唯先生方の言はれた通りする。それで時間が足りないのである。然らば、之れをど一するかを研究しなければならぬ。ど一したら時間が足るよ一になるか、そこに自分で研究する問題が既にあるのであります。尚ほ、それのみではいかぬ。全体のことに興味を持たなければならぬ。それで、あなた方の生活は余程複雑である。あなた方は、この間に立つて問題が起りませんか？ こ一云ふよ一にせよと人から言はれた通りをして、学生の本分はつきて居ると思ふのでありますか？ きめられた通り、習慣になつてをる通りして行くことは易いことで、誰れにでも出来るのである。之れは如何に材料を多く集め、本を多く読んでも、本当の人間の価値はあらはれぬ。そこで少くも、このよ一なことが問題になつて来なければならぬ。口ばかりではだめであります。あなた方全体は時間が足りないと言ふことを問題にして居られます。先づ、これを説かなければなりません。次に、自動的にすると云ふことが六ヶ敷いと云ふことであります。自分の天賦を現はして行くことが出来ぬと云ふことであります。

なほ、この他にありますか？ ……

本当の事をするには時間が足らぬ。ど一してよいかわからぬ人？ …… 多数

これもつまり、自分の原動力の熱度が低いのである。

之れが大切であると思ひながら、出来ないのであると思ふ人？ …… 多数

〔原動力の不足〕

時間が足りないと云ふのは、原動力が足りないのである。其の根になるものは、皆さん一人一人持つて居るのである。併し、それだけでは未だ起つて来ないのであります。

中に自動して向はうとする、其の要求して一番大切と思ふ、其の生命と思ふ目的を見出ださなければならぬ。この間、皆さんから伺ひました中に、目的と云ふことがありました。

〔目的の確立〕

(三) 目的

これが定まらなければ出来ぬと云ふことである。故に、目的の確立と云ふことを要求なさるであります。目的には小目的もあり、これに達する方法、人類としての目的、婦人として、個人としての問題もあり、これが一所になつて、最終の目的となるのである。

その目的が自分の内にはつきりして来たと思ふ方 …… 少数

未だ確立しない方 …… 多数

目的、理想、確信、信仰、主義、この言葉の内容は幾分かがひ、共通の要素もあるが、この大凡の意味はおわかりになると思ひます。

も一一つ聞きませう。兎も角も、人間が本務を完うし満足するには、ど一してもこ一に目的とか理想とか確信とかか出来て来なければならぬ。これが非常に熱望して来る様にならなければならぬ。そのど一しても明らかになり度いと云ふ要求が多分あると思ふ。これが出来なければ、も一一つ勉強も出来ないとお考へになると思ふ。既に出来たと思ふ人も、程度である。出来ぬ人も、も一一つ強い自覚が出来ない迄のことである。何をしても目的とか計画とか方針とかか出来なければ、強い行ひは出来るものではない。この複雑な世にあつて、ど一しても之れがわからねばならぬ。

時間が足らぬこと、自動的態度の欠乏を感じると共に、目的が定まらなければならぬと云ふことを同じ程度に於て、或は夫れ以上に、其の必要を感じると云ふ方 …… 多数

あなた方は未だ受動的である。あなた方自身、これが聞きたいと云ふよ一に動いて来なければならぬ。人間で有る以上は、何か求めて感じて居る筈である。あなた方は何を感じ、何に興味を持ち、何に向つて進んで居りますか。私は此れが聞き度いのである。何を言つても、あなた方が立たねばならぬ。あなた方が動かねばならぬ。たゞ一様な Monotonous、たゞ同じ調子に外からの命令に動いて行くのでは、とてもだめである。自動とは、字でも形でもない。實際することである。私は何とも感じないと云ふのでは、だめである。何か答へをしなければならぬ。尚ほ他に、ど一云ふことが有りますか。

(四) 専心になることが出来ぬ。

(五) 哲学、音楽、英語をよく学び得ぬ。

(六) 自制力の不足。

大凡、あなた方の一番大切にお思ひになること、先づ是非自分の力にしたい、自分が是非断行して見たいと云ふ要求がわかる。時間の足らぬと云ふ所には、力が足らぬと云ふことが有る。故に、力があるよ一にならなければならぬ。ど一したら得られるでせう。

〔思考力、観察、判断力、意志、感情の力〕

自動的になるには習慣から変へなければならぬ。目的を定めるとは思想を統一すると云ふことである。凡ての学説を批評することである。ど一して思考力、観察、判断力、意志の力、感情の調和を得るに到るか。このよ一なことに能力がよく活かなければならぬ。

専心、集注、思考統一、意志と云ふ高等の能力が活動しなければ、自分の要求を満たすことは出来ぬ。

哲学、音楽、英語と云ふことも、情、知、意の凡ての方面が最もよく発達しなければ、其の力を養ふと云ふことが出来ないのである。

自制力とは意志が身体の本能、又、種々の衝動を支配する。実に強固なる意志の力が働くよ一に到らんければ、其の要求を満たすことは出来ないのである。

これを一つにして、是非あなた方が欲しいと思ふ其の願ひを満足させる、希望に充ち満足なる生活が出来るよ一になるには、ど一したらよいか。

人から、或は学校から要求されたことを善く受けて行く、本の中に書いてあることを読むと云ふことが、あなた方が為る仕事の中の多くを占めて居るであらう。しかし、これは比較的容易で価値も安いのであります。併し、その中にて自分の工夫、判断を為ることは六ヶ敷いのである。

それでは今、あなた方が今日この学校の習慣、即ちあなた方の力が、先き言はれた程にしか働いて居らぬ。それで居て今、あなた方が一番大事と云つて手を挙げられた、夫れを得られると思ふ人……無し

それでは、ど一したらよいでせう。あなた方が目的を得るに、このあなた方の働きがど一ならなければならぬか。ど一云ふことに力を入れなければならぬか。

〔婦人の得意なる模倣力、暗記力を破るべし〕

- | | | |
|---------|---|--|
| (一) 熱心力 | } | これは皆、力である。婦人には暗記力、模倣力が比較的多い。併し、これは唯、感情、本能に従ふと云ふ、そ一云ふ力は、あなた方の要求して居るのものには役に立たない。否、むしろ妨げとなつて、あなた方の目的を達し得ないのである。 |
| (二) 統一力 | | |
| (三) 自重 | | |
| (五) 精神力 | | |
| (六) 研究力 | | |
| (七) 分解力 | | |
| (八) 思考力 | | |
| (九) 習慣力 | | |
| (十) 向上心 | | |

あなた方の要求する所のものを得んとするには、あなた方の得意なる模倣力、暗記力を破らなければならぬ。この習慣を破り進歩するには、発明、発見の力がなくてはならぬ。今日、世界の最文明国は最も発明、発見する所の力の多い国である。新しい理想を組み立てる力、現実よりも今迄ない所のものを構成する力がど一してもなくては、進歩も、境遇に適應して行くこと、境遇を開拓して行くこと、新しい習慣をこしらへ出すことが出来ない。構成力、発明力、熱心、旧習を破り圧迫に堪へて新しい習慣を作る、忍耐、克己力、こ一云ふ力がなくては、とてもあなた方の力が発揮しないのである。ど一してこの力を得ることが出来るかが問題である。

〔根本の力、永久の人格は如何にして作り得るか〕

只、物がわかるよ一になつたと云ふだけでは、決してあなた方の力が出来、人格が育たないのである。其の根本の力、其の永久の人格が出来ずに一時的、暗記的の知識で動いて居るならば、到底、其の満足を得、あなた方の目的に対し生涯の本分を完うし得ることが出来ない。故に、過日來話した消化力、時間の問題を如何にするかによつて、あなた方が目的に向つて実現し得るか否かが決定せられるのである。それが

出来んければ、従来の注的的教育からのがれることは出来ないのである。

〔身体の健康〕

要は、あなた方の身体、健康の上に、精神の上に着々其の實があがつて来なければ、あなた方の力も品性も進歩しないのである。そこで先づ、其の實を挙げ、其の習慣を破り、新しい習慣を立て、行きますと云ふ、其れを実行にあらはすべきである。

先づ身体が、あなたの信仰のよ一に變つて来なければならぬ。これをするには、発明、発見、研究、意志力、精神力、統一力が働かんければならぬ。それが出来るや否やが問題で有る。習慣から根本の問題から改めて、銘々からお始めにならなければならぬ。そして新しい習慣を築いて行かねばならぬのであります。

〔中表紙〕

大学部二、三年の御話
明治四十四年六月二十一日

明治四十四年六月二十一日
大学部二、三年の御話

此の東京府下に、女子教育を研究する目的で出来て居る会がいろいろあります。其中で、最も女子の高等教育を研究するものは此の学校で催して居る会でありまして、之れを毎月会と言ふのであります。

此の七月二日には、女子大学の創立十年を期して女子の高等教育を研究し、且つ此の女子大学の實際を紹介する様に致したい。其の他に、帝国教育会で開かるゝ女子教育懇談会と云ふのがある。其の他に、女学雑誌の記者が十数人よつて、やはり此の女子教育を研究して居るのであります。斯う云ふ風に府下だけでもいろいろ会をして、女子の教育並びに婦人問題と云ふ様なことを研究して居ると云ふことで、之れは誠に喜ぶべき事であると思ふ。

此の婦人問題と女子教育問題が議せらるる度に此の学校のことが出るのみならず、其の他のことについても、此の学校が目目せられて居る。そ一して、是れ等の問題を解決するのは此の学校であると云ふ風に見られて居る。故に、我々は銘々の為にも、女子教育の為にも大に注意しなければならぬ。

最近の問題となつて、少壮なる評論家、記者達に議せられて居る問題がある。其の中には、此の学校が十年期をしたと云ふこともある。其の中に又いろいろあつて、文学部中止と云ふこともある。之れは人のお世話をするよ一であるが、之れを当局者に訴へるとか、我々に忠告を与へると云ふ風にしてくれれば誠に善いのであるが、そ一云ふことはせずして、之れを或る新聞に出して、当局者の反省を促すと云ふ手段をとつて居ると云ふことであります。

其の中に、我々の是非考へんければならぬ問題がある。夫

れは、我が国の高等教育の先導として十年間敢々として高等教育を試みました。其の高等教育の結果として出した千数百の卒業生の中に、未だ之れと云ふ天才を出さないと云ふことである。是れに私は答へをして、自分は過去三十年の間、女子の教育を試みて見ましたが、其の前の二十年は女子の普通教育、即ち高等女学校程度に於て出来るだけの事を致しました。けれども満足することが出来なかつた。其の他の婦人の事業についても、ど一も感服することの出来ないことが多いけれども、今日此の学校の満十年を迎ふるに當つて満足する点が多いと云ふことを申しました。是れは天下の教育者の見られた所、及び私自身の経験に由つて、卒業後の結果は良好であると云ふことを申しました。

そ一すると其の人達は、夫れならよかつたけれども、私共は校長自ら不満足を感じて居らるるであらうと思つたと言ひますから、夫れはど一云ふ訳であるか。此の学校が出来たと云ふことを以て成功したと思はない、未だ改良しなければならぬことが多い。併しあなたの言はるゝ意味から言へば、私は満足であると言ひました。そしてよく聞くと、日本の婦人は碌な者ではない。之れを支那、朝鮮の婦人に比べると、未だ彼の国婦人がましである。故に、校長自身も満足して居られぬのであらうと思つて居つたと云ふ話であります。

夫れで私は、此の学校の評議員方、いろいろ世間の味はひを知つて居らるゝ方々の集めた材料に於ても、亦私自身の卒業生に対して経験したことなど総てについて、公会の席でも明らかにしました。斯う云ふ訳で、沢山の人の考へをも聞かず、一部をあげて全体を否定するのは速断であると云ふことを申しましたら、其の人は、夫れならよいと言つて歸りました。世間でも、此の校の卒業生については今日は大分よいと認めて来た様であるが、併し斯う云ふ風に速断する人がないではない。是れは我々にとっては重要な問題で、我々は如何なる人材を陶冶するものであるかと云ふことは非常に大切なことであります。之れについては、私は過去十年の結果について成るべく公平な判断を下して、あなた方にも度々批評を試みたことがある。あなた方も昨年以來、いろいろと研究なさつたことと思ふ。是れを一言に言へば、消極的に女子教育の弊害を防ぐことだけは出来たのである。私共の仮説として居るものを試験的に実験して、確信とすることが出来たと云ふことは言へるのである。母校が出しました卒業生、及び桜楓会の事業、又校風、即ち学校の命、世間で言ふ処の女子高等教育の結果、我々が十年の間骨折つて培ひました処の果実、即ち蓄積、保存せられた処の生命は、ど一云ふ程度に達して居るかと思つたらば、私は斯う言ひたいのである。

[九回生は田植えをする人である]

丁度今日の時節に於て、農夫が次の収穫を目的として全国に用意して居ります苗代、即ち四月頃から用意して漸く此の頃のびて来ました苗が出来たのである。十年の間に余程種を選んだり、作り方を吟味したりして、漸く苗から出来たのである。即ち種を蒔いて其の種が芽をふいて、漸く是れから適當なる境遇に植へつけて、是れからほんとの収穫を得よ一と云ふのである。即ち私共は、是れから女子教育の期待し

た処の収穫を得よ一とするのである。故に、第九回生は是れから田植えをしなければならぬ。其の苗と申すのは、卒業生、及び只今の母校の学生、及び其の学生の個人、並びに其の個人が団結して居る処の団体、及び団体の中に籠つて居る処の理想、計画である。其の個人並びに団体の理想、目的、確信と云ふ苗が出来たから、之れを適當なる境遇に植へつける処の田植えをすると云ふことが、第九回生、第十回生の責任であると言はねばならぬ。

[田植えに最も大切なる要素の第一は精神的生命である]

此の苗を、肥料や水分などの最もよく与へられてある処の田の中に、最も適當な方法によつて植へつけて行かねばならぬ。其の個人と其の団体の脳裏に蓄積せられて居る処の生命は、即ち銘々の形となつて居る処の苗は、如何なるものを言ふのであるかと申すならば、先づ之れを三大別して、其の第一に申す可きは精神的生命、我々の申す処の宗教である。其の苗が芽を出して少しくのびるには、十年の星霜を要したのである。哲学からも行き、科学からも入り、過去十年の経歴をお考へになれば、ど一云ふ順序に於て、ど一云ふ苗が出来て来たかと云ふことは、説き明かしをしなくてもおわかりになるのである。

此の苗をど一云ふ所に植へかけたかと云ふと、先づ母校内にある処の桜楓会本部、及び母校の近くに居る人々の会合と云ふ様なものが、此の本部の中堅に於て出来かけたのである。夫れは毎日曜日の朝六時から、正会員が熱心に修養会をして居らるるのであります。之れは時機が到来致しまして、私も其の中に入る必要があつて四、五回出ましたが、之れは一つの苗を植へつけた仕事として、私は考へて居るのであります。之れは、ほんといへば皆を満足せしむる処の生命が出来るであろ一と思ふ。そこで此の苗は決して会員だけの間に植へつけて行くべきものではない。学生の間にも、其の修養会の間にも、母校学風の間にも段々に植へつけて行く可きものである。其の植へつけをすべき用意と土地の開墾とをして居つたのであるが、此に時機到来して、今や將に植へつけをすべき時であると思ふ。此に此の苗を植へつけをすることが、此の夏の休業中の仕事である。あなた方が夏期寮に残り、又銘々の家庭に歸つてなされる可きことであろ一と思ふ。皆が出来るだけ集注して植へつけて見よ一と云ふのは、今年の三泉寮の生活であります。此の宗教的生活をほんといへば日常生活の上の実験し、愈々此の十年かゝつて養つた所の母校々風の中に確に植へつけましたと云ふことであろ一。独り輕井澤に行く人ばかりではなく、校内の寮舎に残る人も、家庭に歸る人も、夫れ夫れ務むべきことである。夫れで願はくは此の桜楓会員のして居らるる会にも、二、三人宛委員を選んで出席して觀察なさることが必要でありましょ一。併し、之れは余程 Insight 卓見がなければ、さ程是れ迄と變つた処がない様に見えるかも知れぬ。けれどもよく味はうて御覽なさると、成る程此に生命が育ちつゝあると云ふことがわかるでありましょ一。ど一云ふ方法に於て苗が育ちつゝあるかと云ふことがおわかりになつたならば、確に今年の方針が立つてあろ一。是れには指導者が要るのであるが、其の指導者には銘々がな

ると云ふ覚悟が必要であります。

昨年は誠に大切な時であると思ひましたが、到底一日も私は軽井澤に足を留めて居ることは出来なかつたのであります。

今年は誠に大切な時であるから、私も出来るだけお手伝ひをしたいのであるから、始めと終りには行かうと思つて居ります。私はどーかして、あなた方自ら見出だして下さることを待つて居りました。

十年間に計画し、十年間に研究し、十年間に種を作つて、漸く作つて、漸く此に出来かけました。此の種を植えつけて、ほんとの収穫を得るよ一にすると云ふことが第二期の仕事である。故に特に其の初めに於て、最も謹慎な態度を以て進まねばならぬ。

第二に此の種を植えつけらるゝ所は京都である。京都の支部会は熱心に之れを実現する力があるであらうと思ふ。そこで私は帰京後もいろいろと考へまして、有志家にも計つて居りますが、第一、京都には桜楓館、支部館、標品館、図書館が必要である。つまり精神的生命を養ふ所の修養の場所が必要である。斯くの如き桜楓支部館と云ふものが、近く彼処に現れて来るであらう。

次には大坂に於て、斯くの如きものが出来かけて居るのであります。斯くの如くして、私共は段々と其の種を植えつけて参りまして、ほんとの収穫を得なければならぬと云ふ時である。其の第一期の収穫、又収穫と迄ならずとも立派な花を開き実を結ぶ様にする処の責任は、実に第九回生にあるのである。私共は此の学年に於て、其の用意をしなければならぬと云ふことを信じて居るのであります。

夫れから、此の十年の間に実を結ばせて行かねばならぬ方面がいろいろあるけれども、三大別して見れば、今申しました精神的方面が第一であります。

[第二 経済的要素]

第二は経済的要素、即ち組合事業の如きもの。之れに就いては、他日委しく申します。

[第三 教育の改良]

第三は教育改良。殊に学校以外の家庭、社会等の教育である。之れが(空白) of theory 或は Method of education である。いろいろの束縛や Dogma から解放して、結果を挙げよ一と云ふのである。

[卒業生の教育]

夫れをも一つ具体的に項目をあげて言ふと、此の十年間に私共の最も力をいれねばならぬことは卒業生の教育、即ち卒業後の大学教育である。即ち桜楓会三部の理想計画を実現して、家庭、社会に於ける実行の出来る様に経済的方面を開くと云ふこと。夫れは組合組織の成立によつて、田園生活を有効にし有趣味にし、之れを改善すると云ふことに、教育を受けた婦人が力を尽すこと。

[大学教育の普及]

次には、此の大学教育の程度を高め、其の方法を改善し、又之れが普及を計ると云ふことである。此の程度の女子大学が此の三年間に多分大坂付近に起るであらう。其の次の三年か、も一少し先きに九州方面に起るであらう。又、起さんけ

ればならぬのである。若い多数の婦人がど一なるかと云ふと、早婚の弊に陥らざれば、仕立屋の如き所に行つて甚だ華美な、又忌はしき風に陥ると云ふ此の弊を救済しなければならぬ。此の程度のものが大坂に、岡山に、福岡に、又新潟に、長岡に起らねばならぬ。そ一して、東京に於ては、ほんとの University を作ると云ふ様にならんければならぬ。

第五に、此の十年間に Genius を發揮しなければならぬ。Genius と云ふ語には語弊があるから、The unfoldment of Genius と云ふことを、あなた方に送るつもりで書いておきました。之れは男女の区別なく論じたのであります。斯くの如くして沢山な苗を所々々に植えつけて、ほんとの収穫を得るには、其の指導者即ち働き人が出来ねばならぬ。此の十年間に斯くの如き有力なる、有徳なる婦人が出るであらうと思ふ。今、既にのびよ一として居る者があるであらう。或る意味から言へば、卒業生総てが何かの指導者をし、何かの仕事が出来る様にならねばならぬ。そこで我々は此の立派なる、有徳なる、畏敬すべき所の賢婦人を作らねばならぬ。又銘々がそれにならねばならぬ。此に於て私は、分量にあらず品質を要求するのである。仮令少数でも宜い。人、真に賢母良妻となる模範となるので、其の地方を導くことの出来る婦人を作らねばならぬ。之れを作るに必要な経済を作る為、基金の充実などを、此の二、三年間にしなければならぬ。

そ一して我々が真理であると信じて居ることが、学生の間に、校風の上に、着々出来て来なければならぬと思つて居ります。即ち、過去十年間に作つた処の苗を方々の田に植えつけて、十年間に収穫を得なければならぬと云ふこと。之れが此の第二期に於て、是非共、私共の成就しなければならぬ計画であり、目的であります。

[中表紙]

大学部一年の御話
明治四十四年六月二十四日

明治四十四年六月二十四日
大学部一年の御話

先週の土曜日には、少し元気が足りないよ一に見受けられたが、今日は大分よい方に向つて居られるよ一であります。殊に予科の生徒が病氣になつたので、私も見舞ひに行つて心配したのであるが、両親、寮監、友人等の熱心と青山医学博士の治療、其のよろしきを得て、此等皆の心尽し、即ち精神で回復せしめ得たことは実に喜ばしいことである。

私は精神の力がどれだけ関係するものかを経験して、其の事から見出だす所があつて、今日は大に喜んで居るのである。

此の一週間は殊に時候がわるかつたからど一かと案じて居たが、皆さんは非常に元氣づいて見えるので、うれしく思ふのである。

それで、此の一週間の皆の経験を少し聞きたいのである。

前週に、何れか判然せぬものが二つ程残つて居たと思ふ。

其の一つは自動的の勉強をすることがむづかしいと云ふことであつたが、それが皆に出来たかど一か、又問題が解決されたかど一か。其の当時問題が複雑して居つてわかりにくかつたと、代表者からの言葉によつて知つたのである。

あなた方は消化力が何処迄進んで居るか、明らかにわかりませぬ。今少し具体的に経験を聞いたならばわかるだろと思ふ。故に初めに、あなた方はど一云ふ仕方でも書物を使つて居るか、其の書物があなたの為にどれだけ利益を与へて居るか、又少ない時間に於て、己が興味を以て目的に適ふよ一にお使ひになることが出来たかど一かを、一寸聞くのである。

女学校卒業後今日に至る迄、修養でも、倫理でも、歴史でも、心理に關してでも一巻の書を読んで、一巻だけは先づ自分の為になるよ一に讀んだ。よくわかるよ一読み、ほんといに能く讀んだ。一巻の書から得た利益によつて一進歩を為し得たと云ふことの言へる人は幾人あるか。

四人ですか。ど一云ふものを読みましたか。

- ・理想の人 美術に關する書物
- クリスト教問答 聖靈の恩物

次には、ノートをおとりになる経験を聞きたい。私は毎年、卒業前にノートを見るのですが、其の取り方に二つある。

- 甲. 先生の話言葉を通り取つて、そして成る可く講義を覚え、講義にある知識を自分のものにして居る取り方。
- 乙. 講義の要点を取る。即ち、其の趣意、真髄を取つて置くと云ふ仕方。

此の要点をとる人は頭の働く人で、言葉通りに取る人は注文的で消化しないのである。凡て二様の働きがあるから、皆の程度をはかるのである。

甲の取り方の出来る人……………半数

乙の取り方の出来る人……………半数

判然とせぬ人……………少数

力があつても、実行して居るかど一かを聞かなければわからぬ。

其の取り方は主意を取ることを実行して居る人……………三分一
大学部に入学して以来の勉強法がわからぬと云ふ問題について、時間の不足と云ふことが出て居る。教育部の二年から出て居るのは、毎日七時間宛の授業があつて、自分の勉強時は一日に一時間乃至一時間半にすぎず、それもノートの整理と英語の下読みにとられて、興味を以て自修する余地がないと云ふことである。あなた方も一年の中はそ一云ふことは深く感じないかも知れぬが、二年になれば又其の問題が出るから、やはり今から研究して行かぬばなりませぬ。

皆さんは勉強が有効に、満足な仕方を取つて居るかど一か。もしなさるならば、それはあなたが發明した経験であるから、私はそ一云ふ風に頭の向くのを望んで居るのであるが、その出来る、困難に勝つて勉強の方法を見出した人は……………充分にわかりかねる人……………大多数

一体、問題は何を聞いて居るか、其の要点がわからなければならぬ。修養にも学力にも自分で満足するよ一になり、教

育の目的が達せらるゝよ一、あなたを導くには、ど一しても自動的にしなければならぬ。実行がど一しても伴はぬ、教育の働きが起こらぬ、只忙しく毎日沢山のことを頭の中に覚えて、毎日のことにおはれて動いて居るのは、他動である。此の時間と勉強法については、次の水曜日に説明する筈ですから、皆さんも成る可く聞いてもらひたい。夏休み迄に進む態度を作る必要があるから、こ一云ふ問題は一緒に聞いて、しまひ迄に追々自分で開いて行かれる迄にしてもらひたい。そして此の答へは水曜日に説明致しますから、今日はそれには答へないのである。併し、つゞいてこれを研究し、考へる態度は失はないよ一にしてもらひたい。そ一でない、自分の損である。

此の大切なる態度、忙しい時にも考へることの必要なる理由も説き明かしたいが、時がないからやめて、本論に入ることと致しましよ一。

此の前に健康状態について、意志を養ひ身体にかつよ一に、自制せらるゝ人にならなければならぬと言つたが、之れを聞いて弱い人も一緒につとめられたと見え、今日は皆が元氣のよ一に見えます。精神状態の健全と云ふことは出来る、心の迷ひを防止することが出来ぬと言はれたのであるが、修養の方法も自動的、或は精神的生活を動的態度にして行くと云ふのであるから、其の修養の方法がわかつて居るかと云ふことだけでも、明らかにしておかなければならぬ。修養の方は勉強の方よりも一層複雑だから、なほ能くわかつて、修養の態度は夏休み前に是非経験しておいてもらひ度いと望むのである。

此の前、悪習を改める必要があると言つたが、入学して従来、自分に持たなかつた新しい習慣、即ち此の学校に入つて学校の感化、教師、先輩の人格に接し、学校と云ふ社会に接し、良感化から新しい品性、習慣を養ふた所があると云ふ経験はどれ程あるか聞くのである。

出来たと云ふ人……………大多数

善なる方が出来れば、其の反対が少し宛改まつて来なければならぬ。

[習慣には積極と消極とある]

も一一つ、誰れにもわかる経験のあることを聞いて見たい。新しい習慣を積極と消極と二つに分けると、積極の方は容易に出来たが、消極の方は出来ぬと言はれるが、一体自動と云ふ字には、自由、独立と云ふ意をも含む、自分の傾きを行ふて行くことになる。他より受ける制裁を逃がれると云ふ意にて、己が意志を貫くと云ふと従順の徳が欠けて来る。

[従順は積極の徳である]

従順は積極の徳である。これが出来ぬと云ふ悪い習慣、之れを我儘と言ふ。もし従順が出来れば、我儘を制し得たのである。習慣を改めなければ善い徳が発揮しない。もし積極の徳が出来れば、従来の悪習が改まらなければならぬ。然るに皆の答へによると、我儘は取り除き難いが、従順の徳は養はれたと云ふよ一に聞こえるが、併しそれは、我儘なれど自動と云ふことが出来て来たと云ふのであろ一と思ふのであります。

我が国の学風にわるい癖がある。それを何と言ふかと云ふに、学校騒動である。これは教育者と被教育者との軋轢である。女の学校にも、まゝあるのである。此の間も大坂の相愛女学校にあつた。これは我が国の学校の悪風で、これは我儘である。之れを新旧衝突と言ひ、家族制度に於ける姑嫁の衝突である。

之れは今日教育界の問題である。女子に高等教育を授けると、夫婦の間に争ひが起ると云ふのである。我が国の女徳は昔から従順である。女は絶対に家長に服従し、君には忠、親には孝でなければならぬ。若し女子の覚醒をなし、意志の自由を与ふる様にならば、我が国の根本制度を破るに至る。故に、女子の人格を授くる高等教育は家族制度に反すると言ふものがあるのである。

これは、ど一云ふことであらうか。高等教育は女子に授けてならぬと言へば、そ一かと信じ、又高等教育を授けなければならぬと言ふと、又それに耳を傾けると云ふ。こ一云ふのを従順と言ふのではない。斯う云ふことについて、自分の判断が出来なければならぬのである。

学校騒動等は其のもと、消極と積極の衝突である。

消極とは勿れ主義、即ち Don't である。勿論、勿れはなくてならぬことであるが、只其の禁ずるが主になつては、誤りである。

女は高等教育を受けるなど言ふ。若いものはしたいと言ふ。年寄はするなど言ふのである。此の外、いろいろ悪い風習がある。若いものは、之れを迷信である、害であるから、それを捨て、前に進まうと言ふのを、一方では出るなど止めるのである。

学校騒動の中にはいろいろの原因があるが、教育者の責めを負ふ可き所が多いのである。学生が自分の名誉を捨て、改善を迫るは、新旧の衝突である。感情に融和せぬを不従順、我儘と言ふのである。そ一云ふ意味で、我儘は真の不従順かど一かは問題である。必ず誤りであると知りながら従ふのは、従順ではないのである。

今後社会を進め、子孫を幸福にさせるならば、只形式に容れるよ一な束縛教育は改めなければならぬ。之れを指して子どもの開放、婦人の開放と言ふ。其の束縛を避けるは勿論である。其の意味で、我儘、不従順と言はれることは忍ばなければならぬ。

夫れ故、高等教育を受けたものは、其の調和をして行くことが出来、社会の弱点に勝つて進めることが出来るのである。併しあなた方に能く言ふことは、我儘と従順の意味を取り違へぬよ一にして貰ひたいのである。そ一でない、学校で言ふ自修の修養法がわからないのである。之れがほんと一にわかれば、学校騒動、新旧衝突も癒すことが出来るのである。私共の悪い癖の中で我儘ほど、自分を苦しみ、我々を醜にするものはない。我が徳を傷つけるものはない。此の我儘を除くことが出来ませんと、ほんと一の修養にならぬのである。之れが精神の病根で、種々の害を来すのである。

之れをど一して取り除くかと云ふに、積極の修養によらなければならぬ。即ち、従順の徳を養ふことが大切である。人

格を傷つけると云ふことは、此の従順の徳を欠くからである。これを養はなければ、到底他の徳を立て、行くことは出来ないのである。此の我儘を矯めて、其の反対の従順の徳を養ふには、自動的修養法、自分で自修するにあるのである。自発的修養と云ふのである。

[自動とは個人的ではない]

之れはど一云ふことかと云ふに、他動の反対で、自分で自分の意志をつかつて行くのである。これは深く考へないと誤るのである。今一つ誤り易きは、自動と云ふと個人的とみなすであらうが、そ一ではない。修養法は個人的でも、其の目的は社会的でなければならぬのである。斯う云ふことがあなた方を迷はせ、真相を誤らすのである。自動的は個人主義と云ふことでない。自動と云ふは孤立的働き、他の関係をはなれた活動の意味でない。自動的修養とは、悪習を止め善習をとり、益自身を發展して行く。修養法に忘る可からざる根本的要素は二種ある。其の関係を明らかにしないと、真意がわかりかぬのである。

第一、修養を積む、習慣を養ふと云ふことは、誰れも知つて居る行ひである。唯空想ではなく、実践躬行である。ど一しても行為に頼らなければならぬ。

実行と云ふことは、必ず筋肉に精神が発表しなければならぬ。之れを称して行ひと言ふのである。

此の行為が重なつて、習慣となるのである。習慣を改めるには、行為を変じなければならぬ。

行ひの根は心、即ち真意にあるのである。考への習慣を改めることも内の原因、心の元を改めなければならぬ。そ一でなければ、到底ほんと一の結果は得られないのである。其の心を動かし、品性を改める働きをなす根に、二つの大なる原因がある。

其の一つは自分の中にある天賦性、即ち銘々特色を持つ独特の性、之れを生れつきと言ふ。之れが習慣になる根である。其の性が動いて来るのを衝動と言ふ。衝動とは、いろいろの感情が一つになつて現るゝものである。之れが体を動かすもとである。

此の衝動は自分だけで動くものではない。之れが動くには必ず刺激があつて、内の天性が動くのである。之れを反動と言ふ。我々の行ひは反動である。行ひには必ず原因、結果がある故、衝動が原因で、行ひが結果となるのである。宇宙は斯うして常に動いて居るのである。常に動き合つて居るのである。

此の衝動と刺激の内外の関係で行ひ、習慣、意識、品格が出来るのである。凡て我々の人格、価値は二つの関係から来るので、其の関係よろしきを得ることが、即ち自動的修養である。

内にあるものが、必ず外に出よ一とする。之れを目的々活動と言ふ。其の脳力を練ることは、最も自分の天性に重きをおかねばならぬが、猶他の外から来る関係を忘れてはならぬ。修養は只独りでは出来ないのである。

[自動とは刺激に反応するのである]

自動と云ふのは外の刺激に反応するのである。強き刺激を

受けなければ、強い活動は出来ないのである。汝等笛吹けども我れ踊らず、と云ふのが偉いと思ふものもあるが、之れは誤りである。

どれだけ内に宝を持って居ても、外に反響しなければだめである。只、悪い反響をしないと云ふだけの心を持って居なければならぬ。之れが修養の秘法である。自他の関係よろしきを得て反響し合はねば、自動的修養と言ふことは出来ないのである。此の刺激に応ずることを、従順と言ふのである。応じなければそれは我儘で、之れが即ち頑固で、濟度し難い、人に同情なく、尊敬もない人である。偉人は能く真理の聲に最もよく反響し、時代、精神、天の命を受けて世に立つたのである。此の良心に従ひ、良い空気を喜んで受ける人が従順である。此の従順の出来ないものは修養が出来ないのである。これの出来るものは意志の自由を得て、人を導くことも出来、種々の困難を解決して、適当な行為が出来、人を満足させることが出来るのである。

今日私が言った刺激を喜んで受ける人は、早く進むのである。善い暗示を受けて動く人に、善い品性が出るのである。刺激と反動とがよく出来る人を、真の従順な人と言ふのである。

[中表紙]

桜楓会例会 及 高等女学校臨時講話会にて
明治四十四年六月二十五日 同二十六日

明治四十四年六月二十五日
桜楓会例会にて

私は、あなた方の経験を直接に聞きまして、准会員並びに正会員の傾向と其の進歩の程度とを公平に観察して、大抵間違はない判断を下すことが出来たであると思ふのです。私は今日最も注意して、あなた方の御話を聞いて居りまして、自分に学ぶ所、参考とする所、又自分の考へて居ることをきめる上に必要なる材料となるよな考へを集めることの出来たのは、非常に満足して居るのであります。

夫れについて私の感じて居ることを、あなた方にお話ししたいこともあるのです。又、其所をど一云ふ風に導かねばならぬかと云ふことの気づかれて居ることもあります。併し私思ふに、皆さんが既に希望をお述べになり、目的を立て、夫れに就いて考へて、いろいろ研究しておいでになる大体的方針については誤つては居らぬ。猶其の必要について一層深く考へて、其決心を貫く、其の確得しておいでになることを一生懸命に尽すならば、必らず出来る。又、我が国に必要な人間が乏しい、我々の希望して居るよな人が出て来ないと云ふことは、我れも人も心づいて居るのである。併し、あなた方のうちに殊に九回生は多くの中からすぐれた方である。又、多くの試みに堪へて勝利者として生存して居るものである。故に私はあなた方の力を、今あなた方の目的として居る

所は確かに出来ると信じて居るのであります。我が会員の中に人がないと云ふ世間の噂であるけれども、私は出来ると思ふ。故に我々は意を強うして、将来益々志す所を成し遂げることが出来ると思ひます。

夫れで私はいろいろお話ししたいことがありますけれども、暑い時であり、時も余程過ぎて居りますから、そ一云ふ深いことを申しかけても、一寸の間に充分申し尽されるものでもありませんから、今日は是れだけにしておきます。夫れで此の後を皆さんで、水曜日のこと又は夏期休暇のことについてなりと銘々よく考へになつて、将来の爲めに充分熱心に高調に達して、目的を達することの出来るよ一に、其の力をあなたの方から自動的に現はして下さることを希望致します。大体に於て、私は此の頃の実相を観察することが出来て、希望を厲し且つ喜んで居る所であります。

明治四十四年六月二十六日
高等女学校臨時講話会にて

此の学期に修養会、父母の会、其の孰れかに一度は是非出席致したいと思つて居りましたが、已むを得ず差支へまして、高等女学校として、あなた方にお目にかゝる機会がありませんで、夏休み前に一度、ど一云ふ傾向になつて居りますか、直接あなた方を見て、私が聞くこと、あなた方のお答へになることによつて、よくわかつておきたいと思ひました。夫れで今日は特別に時間を設けて、あなた方にあふことに致した訳であります。

お目にかゝりまして、私の目に映る皆さんは元気に満ちて居る様に見えるのです。又、内面も即ち全体の傾向及び銘々の品性の傾きも、多分美しい形に出来て居るである一と云ふことを想像致します。併し只あなた方の頭、即ち今私が此の所に立つて見ますと、あなた方の顔よりも頭の方がよく見えます。夫れから今、夏であるから白いあい縞が余計に目につくのであるが、其の中から小さな顔が見えます。あなたの外に現れた所、我々の肉眼に見える所はよくわかりますが、夫れはほんとの美ではない。其の中に籠つて居る所のほんとの美、生命と云ふものが現れる様になりたいと思ふ。私は只御一人を見て居る訳に参りませんから、あなた方の感じて居ること、考へて居ることを少し表して貰ひたいと考へます。

初めに、此の学年に入つて、第一学期に於てあなた方が修養なさつた、よく自分のものとなつた一番尊い所の銘々の品性がど一でありませうか。

次には、其の品性がお互に働きあふて、又一緒に集まりまして出来た所の銘々の組の級風、又は校風と云ふものは、ど一云ふ様に出来て居りませうか。そ一云ふことが私によくわかる様に表して貰ひたい。

[価値をはかる二標準 消極、積極]

私はほんとの一によく、今日あなた方を、今年の高女学校の五年から一年までがど一云ふ組であるか、其のほんとの一

価値を見たい。又、ほんとの進歩の程度を見たい。其の程度をはかるには、二つの標準がある。其の一つを消極と言ひ、一つを積極と言ふ。そ一云ふ詞はわかりにくいせう。併し、いろいろ学問をなさつたから、わかる人もあるであらう。先づ初めには消極の方から調べて見たいのである。

消極と云ふのは、あなた方の品性にわるい所、何か欠けて居る所。即ち、悪い癖があるならば、其の人の品性は余りよくない、尊くない、美しくないと言ふ、即ち欠点のことである。積極と云ふのは、あなたの長所の方をさすのであります。

夫れで初めに、あなたの悪い癖がなほらんと云ふことはあるまいか。あなたの内に隠れて居る所の性質が、健全に成長することが出来たかど一かを調べたいのであります。

先づ、欠点の根になつて居るものを醜と言ひ、又之れを不潔と言ふ。

心の清き者は幸なり

其の人は神を見る事を得べければなり

と云ふことがある。

グリーキの学者にプラトーと云ふ人がある。其の人は、

美を愛する者に悪人なし

美を愛するは総ての善の根なり

と言つて居る。故に、美を愛する者、又自分の心の中が美しくなつて居る、即ち其の中に醜く汚ない所のない者、又心の清潔なる者は幸である。心の清潔なる者は真理を悟ることが出来、美を愛することが出来、善を行ふことが出来る。

そこで若しも心に汚れを持たない、醜な所のない人は完全なる人、誠に健全なる人であると言ふことが出来ます。若し私共の心が汚れて居り、性質が醜くありましたならば、どんな飾りをつけても、どんな立派な衣服を着けても、丁度豚の鼻に真珠をかけた様なものである。故に私共は先づ自分の心の中の感じ、考へ、性質を顧みなければならぬ。

斯う云ふことを言ひますと、心の内の疚しい人は成るべく聞きたくない、厭なと云ふ感じが起るでせう。

諫言耳に逆ふ。良薬口に苦し。あなた方はそ一云ふ詞、そ一云ふ考へを聞くことに於て、ど一云ふ様に感ずるのであるか。若し自分に誤りがあるならば、自分に欠けて居る所があるならば、改めよ一と云ふ考へが起りますか。又、聞きたくないのですか。ど一云ふ考へが起るかと言ふことによつて、自分がわかるのである。

併し、心が汚く有るか、又美しくあるかと云ふことは、子供もあつてわかりにくいのでありますから、先づあなた方はど一云ふことを考へ、ど一云ふことを行ひ、ど一云ふことに興味があるか。ど一云ふことが友となり易いのであるか、心が行き易いのであるか。夫れを考へて見ねばならぬ。

[心を清くするには先づ目より入るものに注意せよ]

私共の心には始終奇麗なもの、汚いものも入り易いのである。夫れには耳もあり、口もあり、いろいろあります。けれども一番盛んな入口は、目である。若し我々の目がきれいであつたならば、目によく気をつけて善いものを見る様に勉めて居る人ならば、心も清いのである。故に、心の清き者は幸なりと言はれたお方は、若しも我々の目がわるいものを見る

ならば、之れを引き抜いて捨てた方がましであると云ふことを注意せられたのであります。

あなた方は通学の途中で、いろいろなことが目に入るのである。新聞や雑誌を手にするならば、いろいろさまざまの記事やら画などが目に入るのである。演劇は俳優がし、踊りは芸者がする。そ一云ふことを喜んで見る人がある。お母さんが、そ一云ふものを見るとよくないものが頭に入るから行かないがよいと止めるにも拘らず、かくれて行く人がある。之れに反して、あなた方が誠に立派な徳の高い人に接するならば、確かに自分の心に立派なものが映つて来るのである。そ一云ふ風に変つて来るのであります。そこで、演劇や踊などを見るならば、目が汚れたと言ふのである。そ一云ふ人は大抵、心がどぶの様になつて居るのであります。

夫れで先づ私は、あなた方の目が奇麗であるか。奇麗なものを見る為に花とか天然とか美術とか、又は高尚な人格に接すると云ふことに勉めて居るならば、必ず心も奇麗である。目の奇麗なものは……

手の奇麗なもの、即ち公園へ行つて人の知らない間に花を折り取るとか、人の物をそつと拾つておく様な人、之れは手の長い人である。

手は奇麗ですか……

斯う云ふことを尋ねると手は挙げるけれども、何やら心が苦しいのである。多分此の中には、苦しい人はあるまいと思ふ。又苦しい人はないことを希望するのである。

又我が足は学校へ行くとか、お母さんと美術館に行くとか、之れはよいけれども、御婦人として女の子供として行くべからざる所に足が向いたり、人に誘はれて入つたりする人は、夫れは足ばかりでいつたとは言はれないが、行くべからざる所に行つたと云ふ足に、汚れのないと言はれるものは……

次には口。ど一云ふものが私共の口から流れ出るかと言ふことに由つて、私共の心が知れるのである。人の前では余程親切な様なことを言つて、陰では人のよくないことを言ふ人がある。又は、人の前でも怨言を言ふたり、又は少し怒りの詞を発したりする人がある。又、一番わるいのは心と違つたことを言ふ人がある。故に昔から、詞に誤りのない人は余程完全な人であると云ふことを申します。故に私共の心の中が誠に清い泉のよ一であるならば、奇麗なものが流れ出るのである。

自分の口は清潔であると言へるものは……

言へないものは……

斯う云ふことを以て多分、あなた方が心の清いと云ふことと立派なと云ふこと、又は醜であるとはど一云ふことを言ふかと云ふことが、おわかりになつたことと思ひます。

自分の心は美であると思ふお方は……

手を挙げんことがあなた方の正直であること、及びそ一云ふことについて判断が出来て居ると云ふ証拠であると思ふ。

次には、高等女学校の校風及びあなたの級風は、ど一であらうか。地方に出て見ますと、東京の町は一体、華美である。其の中に立つて居る学校は華美である。故に娘を東京の学校に入れると虚栄心が強くなつて、よくないと思つて居る人も

あります。

虚栄とか華美とか云ふことは、ほんとのものではない。装ふて居るものである。虚のものであると云ふことです。我が校では、衣服とか装飾とか云ふものについてはど一云ふ考へを持つて居るか云ふことは、度々申してあるからおわかりであります。地方へ出ると、ほんとの東京は華美であると思はせるよ一なことがある。大阪の数々ある学校とか、岡山の学校とか、岡山の婦人の集まりとかを見ると、頭に飾りをつけて居るものは一人もない。我が校はど一であるか。若し表面を飾つたものであるならば、之れを虚飾と言ふ。誠に気高い重々しい所があつて立派であるならば、夫れは誠に学ぶべきであるが、之れに反して、自分は何の価値もないのにえらばつて生意気であるならば、夫れは虚栄と言ふのである。

今、全体の向つて居る所はそ一でありませんと言はれる人は……… 多数

未だ判断の六ヶ敷い人は………

夫れで先づ善い方と見る人が大多数である。

併しながら、も一一つ聞いて見ましょ一。今、あなたの答へを聞いて私が喜ぶのであるが、夫れについていくらかわかる様になつたのは、幾らか判断力が出来たのである。

今尋ねたのは醜美と云ふことである。この醜とか美とか云ふことについて判断することは誰れも出来るけれども、人格とか高尚なる美術とか、或は情操と云ふよ一なものに対して判断することは容易に出来ない。此の醜と美とを判断すること、先づあなた方の教育で一番大切とも言ふべきものは何でしよ一。

智であります。

夫れでは、も一一つ聞きますが、之れは真である、これは偽であると判断する力は、

夫れが智であります。

善とか悪とか判断する力は、

良心 — 本心 — Conscience

醜美を分つものを趣味と言ふのである。

此の中に人の物を盗んだり、虚を言つたりする人があるならば、之れは憎むべきものゝ様であるけれども、実は甚だ憐れむべきもので、之れを改めんければ、到底幸は得られないのであります。

あなた方の返答によつて、凡そあなた方の程度及び傾向がわかるのである。大体については余り心配はいらないけれども、今、心の清いものと言ふと、手をおあげになつた。併し、此に一つの不審がある。此の期になつて、幾らか紛失物が有る。そ一して夫れは道で失つたとか、置き間違へであろ一とは思へないことがある。失せたと云ふ結果があるならば、原因がなくてならぬ。

此の世の中には汚い物、不健全なものが満ちて居つて、あなた方を取りまいて居る。故に余程、健全な力を強くしなければならぬ。

幾らか虚栄とか、華美とか、不真面目とか云ふ心配がないでもないと思ふ人は………

何所の社会でも、何時の時代でも、残らず完全無欠で有るとは言はれない。然らば我々は出来る丈け力を集めて、之を善く導かねばならぬ。も一あと二週間ばかりの間に、ど一しなければならぬであろ一か。斯う云ふことについて答へらるゝ人は、之れは美であります、醜でありますと言ふよりも一層判断力の出来た人である。若し之れに答へらるゝならば、手を挙げて御覧。

今、之れ迄問答をして、始めてあなた方が深い問題を考へておいでになる。始めて興味が起りかけて来た。即ち注意力が働いて来ました。あなたの人格がほんとの一に現れて来ました。そこであなた方の心の内から輝いて出て来る所の気が、幾らか感ぜらるゝ様になりました。

其所に於て始めて、ほんとの一あなた方の価値又は力を感ぜることが出来るのである。夫れで幾らか華美とか虚栄とか云ふことも、東京の町及び其の町にある学校が感染して居ると云ふことも事実である。併し、此の学校では精神修養と云ふことに重きをおいて居りますから、そ一云ふことには感じにくゝなつて居ります。けれども、其の中に仮令一部分であつても幾らかそ一云ふ風に感ぜらるゝ所があるならば、我々はど一しても直さねばならぬ。又、あなた方の中に幾らか欠点があるならば、ど一しても改めねばならぬ。殊に今の手の汚れた様なものがあるならば、是れは殆んど一種の病気であるから、ど一しても根治しなければならぬ。然らば、ど一云ふ方法をとつて根治しなければならぬであろ一か。若し此に、も一一つ皆さんが覚醒して強い感化力を生じたならば、之を治することが出来るのである。

銘々の欠点をなほすには、ど一云ふことを改めたならば直すことが出来ませうか。若し明日から、第一に飾りである所のリボンをとつて了うとか、衣服は木綿でなければならぬ、糸入りはいけないと言つたならば、あなた方は喜んでこのリボンを捨てることが出来るであろ一か。

演劇には行くことはならぬ、小説も読んでならぬ、歌舞音楽は一切ならぬ、紅、白粉はつけてはならぬ、只御飯を炊いて、只針仕事をせよと、斯う言はれた時代もある。今でも或る学校では規則を以て、リボンを着けてはならぬ、絹物は着てはならぬと云ふ所がある。夫れで根本から改めることが出来るならば、誠に簡短である。

併し皆さんは、そ一云ふことを喜んで賛成することが出来ますか………

出来ぬと思ふ人は……… 多数

然らば、如何にすればよいであろ一か。ど一しても女の方は金がかゝる。夫れは何故かと云ふと、美がすぎであるからです。併し、日本は貧乏国である故に、私共は今日の如く華美、虚栄に陥るが儘にしておいてはならぬと思ふ。然らば、ど一すればよいでしよ一か。

今、ほんとの一愛を満たす様にすること、教育によつて内から改める様にすること、第三に仰つたことは、意志を作らねばならぬと云ふことであつた。之れ等の答へは皆かなつたものであります。

外から禁ずると云ふことは、ほんとの一に効能のあるもので

大学部二、三年の御話
明治四十四年六月二十八日

明治四十四年六月二十八日
大学部二、三年の御話

はない。人間の内から出る強い力は趣味である。プラト一の言つた美を愛すると云ふことは万善の本で、之れが人間の本である。此の美を愛すると云ふことを禁遏すると云ふことは到底出来ないこと、行はれざることである。夫れで、あなた方が美を愛する、したい、見たい、飾りたいと云ふことはわるくはないが、華美がわるい、虚栄がわるいのである。

[真の美を養ひ愛せよ かくて生じたる趣味は其の人の人格なり]

ほんと一に徳を養ふて謙遜にあり、親切であり、其の徳が輝いて発揮する所のは、ほんと一の美である。故に、あなた方がほんと一の美を愛し、ほんと一の美を養ふならば、虚の美はなくなつて了ふのである。故に、あなた方がほんと一の美を愛するならば、ほんと一の趣味を養ふて、ほんと一の趣味を行ふ様になる。其のほんと一の美の趣味の集まつたものが、我々の人格である。故に我々の人格の本は、ほんと一の趣味である。故に、いろいろと詞を飾つたり、えらばつたりする人は、ほんと一の趣味はないのである。

ほんと一の趣味を養ひ、ほんと一の人格を養ふ人は、余り飾りはつけないのである。故に昔から、ほんと一の修養をする人は、心の鏡に照らして修養をする。そこで、そ一云ふ人は永久年をとらない、衰へない人である。ほんと一に徳の高い人であるならば、ほんと一に親切な人であるならば、ほんと一に高尚なる人であるならば、誠に威厳がある。何人も其の人の前に頭を下げずには居られないのであります。何時でも自分の中を清くする、即ち心を美くするならば、自然に其の人は美しくなつて来るのであります。

私共の一番表面に現れて居るものは、飾りと表皮と身体である。其の下にあるものは真皮である、意識である。其のも一つ奥にあるものは私共でもよくわからない所のもの、之れを潜在意識と言ふ。其のも一つ奥にあるものを精神界と言ふ。或は美とも、真とも言ふ。丁度大洋に魚が泳いで生活する様に、我々は宇宙の精神界と云ふ深い海がある。私共は此の精神界と云ふ深い天地の海に入つて神と交通して、神の御心と一つになるのである。然るに其の本を養はずして、只表面のことばかりを飾る、之れが今日の有様である。併し其の本を養はんければ、ほんと一の修養は出来ない。其所を皆さんがお勉めになるならば、誠に清く美しくなり、又大なる感化力を養ふことが出来るでありますよ一。終りに申添へておくことは、衣服とか飾りとかについては私から斯うなさいと云ふ命令は致しません。故に、ど一すれば丁度よいか、銘々に考へて下さい。成る可く表面の飾りを少くして、心の内の美を加へる様な傾きになりたいのであります。そこで、ど一なさいとは申しませんが、自分の身として丁度適當であるかど一かと云ふことを考へて頂きたいのであります。

今日は、非常に空気に湿度が多くてむしあつちいものですか、銘々の身体に一種の圧迫を感じる。私は、そ一云ふ変化に支配せられない様に克つつもりであります、何処か非常に抑へつけらるゝ様に感じますから、皆さんも、誰れもそ一云ふ気分があるであらう。且つ、外が風の為に騒々しいのである。注意を集めるのに、我々が深い事を考へよ一とするのに幾らか外からの妨げがありますので、此に私共の望む内部の空気、内部の気分を引き立てる為に銘々の注意が、又夫れについて圧迫の感じをも一つ善い方に、即ち精神的に深い経験に向ける様に、お互が一つ注意をせんければならぬと思ふ。私の気分には斯う云ふ天気が一番感じ易い。殊に湿度の多い日は頭が重い。自分がそ一感ずるから、始めに夫れをあなた方に訴へておいて、あなた方と成る可く考へ及び感情を合す様にしておいて、そ一して深い問題に入りたいと思ふ。
[身体と境遇]

我々の身体の境遇がよく四圍の境遇に順応して、よく平均がとれて居るならば、非常に活動が出来るのであるが、私共の身体は半ば以上境遇に支配せられ、精神は又身体に支配せられる。若し此の身体が境遇に負けて了うとか、精神が身体に妨げらるるとかすると、忍ぢ力を失ふのである。故に我々は先づ、之れに克たねばならぬ。

併るに、其の身体が寒さ暑さに感染し易い。又、いろいろ社会の競争場裏に立つて、自然の微菌に戦つて、勝つて行くことは困難である。然るに、人は誠に弱い者であつて、其の変化に侵され、又内から起る処の病源に妨げられて屢々疲労を感じ、又一種の病に犯されて、年の若い人でも夭死を免れ得ないこともある。

我々の知つて居る人の中にも今日病に犯されて、殊に神経衰弱になつて頭の活動が完全でない、充分な仕事が出来んと云ふお方もある。

又、我々も度を過すと幾ら氣をつけて居りましても屢々病に犯されて、折角拵へかけて居つた力を消費することが多い。此の病になる程、人間に不幸なことではない。又、不利益なことではない。併し、其の不幸な経験を我々は殆んど誰れも嘗めずには、味はずには過すことが出来ないのである。

猶夫れよりも一層私共を悩ます、今此の堂にお集まりになつたお方残らず、内に何か不足に思ふとか又は憂ひに沈んで居ると云ふ人が必ずあるに違ひない。只其の程度を異にするばかりである。何かの煩悶がある、心配がある。昔から賢人、君子と尊まるゝ様な、偉人と崇めらるる様な人も、内なる人の中には非常なる苦しみがあつたのである。故に聖人と雖も、時々なやめる人なるかなと言つて、かこつ様な経験をしない人はない。其の自分を憂ひに沈め、或は心配に堪へないと云ふ、何かの弱点が銘々にあるのである。其の弱点が人によつ

て違ふ。又、其の時と場合とによつて違ふのである。

今、二年生の中には誠に時が足らぬ、力が乏しい、即ち、非常に自分の境遇の貧しきこと、学生生活に於て非常なる逆境に遭遇して居ると云ふことを感じて、最も深く苦んで居る。これは、唯二年生のみならず、我々皆の感ずる処である。力を展ばして行くに、時が不充分である。境遇が宜しくない。書物、器械、境遇を作るに必要な経済も宜しくない。之れをさして、貧乏と言ふ。

大きく考へれば、我が国の苦しみ一つは貧しいと云ふことである。我々の境遇にも経済の不如意と云ふこともあるが、夫ればかりでなく、自分の力の貧しいと云ふこともある。進まうとして進まれない。力をつけよ一としてもつかないと云ふことは、我々にとつて甚だ苦しい経験である。併し、身体の病氣、境遇の困難と云ふことは苦しいには違ひないが、之れは猶忍ぶことも出来、之れを癒すことも決して絶無ではない。併し、境遇の困難、不如意と云ふことのも一つ元に入つて考へて見ると、人間は夫れよりも猶深い心配を心に抱いて居るのである。之れをさして、精神の病氣と申すのであります。

其の病氣を癒し、銘々の人格を発現したいと云ふ目的を以て、日夜人間は努力、奮闘してやまないであります。併し、如何に一生懸命になりましても、如何に修養を勉めましても、亦殆んど命をかけて及ぶ限りの力を尽しましても、折角進みかけて参つた、折角少しの重みが出来かけたと喜んで居ると、何時の間にか何かの強い試みが起り、何かの強い刺激に妨げられて、折角立てかけた志をこはされて了うのである。此の失敗、此の人間が其の中に度々犯す処の罪、過失、或は墮落、是れ程人間を悩ます者はないのである。

其の苦しみを深く感じ、其の煩悶の経験を持つて居る人は、多くは真面目に修養に勉めて居る、熱心に向上しよと努力して怠らない人にある。不真面目なる、放蕩なる、我が儘なる者が、そ一云ふ苦しみを受けたか、困難を感ずると云ふことは、之れは当然である。然るに、真面目に熱心に修養して居る人に、其の苦しみが起る。丁度毎日躰身して、余程よく養生する人に流行病、其の他の病氣が不意に襲ひ来つて、惜しむ可き人物が其の難に觸れて、中途にして斃るゝことも少なくない。其処に於て人間は益、非常に悲観するよ一になり、自分の運命を疑ひ、天命の是か非か、深く疑問を生じて来るのであります。之れが、世の中に宗教と云ふ経験が人間社会に生じた所以であらうと思ふのであります。

独り自分の生活について斯くの如き煩悶をするばかりでなく、世の為、人の為に身を捧げて、ど一か此の世の困難を、社会の苦しみを救護したいと云ふ高尚な目的を以て働く者も、果して世を進めることが出来るか。教育と云ふものが果して人類を救ひ得るか、宗教と云ふものが世を感化し得るかど一かと云ふ疑問が生じて来るのであります。

[宇宙の実体は決して悲観すべきものではない]

併し斯う云ふ考へが、時々我々に起つて来ることがある。そ一云ふ考へが我々の心を乱して、我々を失望の淵に陥れることがあるのです。併し之れは、身体が病氣になり、或は精

神が病体に陥つて来まして、其の病の結果で我々が経験する処の妄想に過ぎないのである。若しも我々がそ一云ふ病氣にかゝり、又は悲観に陥りました時に、真に我々が自分を遡り、真面目に其の救ひの道を求めて、公平に誠を探求して見ましたならば、此の天地の実体と云ふものは、即ち Nature 自然、又は天、宗教で言へば神、即ち此の人生の真相と云ふものは、此の宇宙の実体と云ふものは、今、我々が病状に於て観する如き、悲観すべきのろはれたるものではないと云ふことを、私共は見出すことが出来るのである。

之れは今私共が自分の弱いと云ふことを深く感じまして、自分の力が乏しい、自分の意志が薄弱である、自分の志を遂ぐるに満ちない、内を見ても外を考へても失望のために行くべき道がない、とりつくしまがないと云ふ場合に、つまり、之れは人生の最も苦しい経験であります。一番、煩悶の極に陥つた経験である。

[苦しみの中に自ら天の美を見出し得るゝのである]

併し此の間私が申した様に、人生は Rhythm である。非常に高調に達する時もあれば、又非常に沈むこともある。併し、真面目に修養し、高尚なる目的の為に働いて居る時に失敗をするとか、苦しみに陥ることがある。併し之れは、此の苦しい時に此に天地の美を見出し、再び進歩、向上の道を感悟し得るゝのである。其の苦しみの極、悲しみの極度に達して、そこに真の眼を開くと黒い雲の間から、天の光りが見え初めた時に、其の天、其の Reality、Nature は決して悲観すべき貧しきものではなく、実に人生は豊富なるものである。人間の身体は経済的なものである。即ち向上、幸福と云ふことが常態である。其の宇宙の真髓、其の真相は真であり、善であり、美である。即ち、我々の理想に叶ふ処の最も豊富な命である。しかも宇宙は進歩的である。即ち進化の法則に支配せられ、目的々活動をして居るものである。完全を目的として、命に満ちた、希望に満ちた、幸福に満ちた、美に満ちたものである。之れが常態である。此に、私共が病を癒し、苦しみから救はるゝ所のほんとの救ひ主を見出すのである。

そこで、我々の求めて居る処の、身を捧げて居る処の神とも言ふべきもの、即ち我々が生きて居ります、我々が存在して居ります、総てが存在して居ります処の Nature、人生の本体と云ふものは、我々を此の苦しみから救はうとして居る処の恵みある、命に満ちて居る処の神であると云ふことが言へるのであります。

[人間の本体は幸福である]

そこで、今日私共、即ち力の乏しいことに苦しんで居る、非常なる困難なる境遇に悩まされて居るもの、身体には病あり、心には過ち多き、意志薄弱なる、品性不完全なる、誠に見苦しい我れ、及び此の社会全体を救ふ神あり、救ふ所の宗教あり、力あるものを見出すことが出来るのである。

夫れでつまり、人間の本体は幸福なものであり、完全に進みつゝあるものである。命を豊富にして居るもので、決して心配をしたり、煩らうたり、苦しんだりすべきものではない。然るに我々人間は、人生の経験の中に斯くの如き苦しき有様のあるのは、我々の内に病氣あり、愚痴あり、苦しきあり、衝

突のあるのは何故であるか。之れを最もよく一言で現す詞を見出さずならば、之れは力の浪費と言つてよいのである。命の浪費、即ち不経済の為に斯う云ふ結果を生じて来るのである。

そこで、宗教は此の状態から人を救ふと云ふのは、つまり人間をして無益に消費して居る処の力を補ふのである。つまり人生の生活をほんとうに経済的に消費をせず、ほんとうに生活の出来る様に導くのである。其の様に積極的に生活をかへて行くのを、救済と言ふのである。

[教育も科学もみな人間を救ふの道である]

又教育と云ふものも、人間、自然の力を応用したり、又伝説を以て之れを圧迫したり、害用して居る。其の圧迫、害用を除いて、真の力が展びる様に、つまり人間に与へられてある力を無益に費さない様にする。之れが本体であり、常態である。教育は即ち、人間を救ふ道であると言ふことが出来るのである。

又、近世起りました科学の目的も、同じく人間を救ふ為に起つたものである。人間の生活を経済的に進めたのである。故に此の科学は又、世を救ふ救ひ主であると云ふことが言へるのである。

そこでつまり人間が今、宗教により、教育により、科学により、美術により、文学に由つて自分の目的を遂げて行かう、理想を実現して行かうと云ふのは、つまり此の人間の苦しみを、其の人間の罪を、其の身体の病を、其の他の総ての弊害を救はう、即ち世を救ひ、人を救ひ、自分を救はうと云ふ目的があるからで、即ち我々が今日研究し、修養を積んで居る所以である。

私共があなた方と共に、此の間から重い責任を負うて行く上に誠に力が乏しい、時が足りない、身体が弱い、経済が不如意であると云ふことを嘆いて居り、悲しんで居り、憂へて居る。皆が謙遜になつて居る其の時に於て、我々を此の状態から救ひ出だす救ひ主がある。其の足りない力、足りない時、足りない健康を経済にして行く方法がある。夫れを見出だしたならば、総てを満す所の方法があると仮定するならば、我々は今之れを見出ださんとして、方法を講じて居るのである。

私は之れを見出だしたと思ふ。其の方法を以て、あなた方を救ひ得ると云ふ、私は確信を持つて居る。此の学校で宗教の Essence を研究し、学生々生活を豊富にしよと勉めて居る所以である。之れは、私が今新らしく御紹介をしなくても、あなた方は其の何たるを、凡そ御承知のことと思ふ。

[自ら見出だし自ら生活の経験することが今日の急務である]

今日の急務は他にある。只あなた方が其の宗教、其の教育、其の技術を、自分に生活する。あなた方自身が自分で経験して見、生活して見る。自分に決して夫れを断行して見る。も一此に於て、行ふと云ふより他に道はない。ど一しても、お互がすると云ふことより他に道はないのである。

そこで、今日は只あなた方が決心なさつて、銘々で今日から断行して行く、自分で生活をする、兎も角も試みると云ふことを始めて貰ひたいと思ふのです。

之れを行ふ、之れを我々の間に生活するにつきまして、ど一云ふ態度が必要であるか。ど一云ふ生活が大切であるか。ど一云ふ心得が大切であるか。又夫れには、ど一云ふ順序、方法が必要であるか。も一今日は之れを個人的にしなければならぬ。そ一して銘々が呼吸する空気を作る様に、其の実際をつかまへねばならぬ。之れは六かしいことの様であるけれども、出来るのがほんとうである。此に何かの妨げがあるけれども、其の妨げを除き、病に勝ち、ほんとうに銘々が味はうと云ふ境涯におはいらにならんけければならぬと思つて居るのであります。

之れは、之れ迄も申さんことはない、又試みんと云ふことでもなかつたのですけれども、未だど一も満足する迄に、全校が行くことは出来なかつた。けれども最早十一年目にもなり、又遺傳的にも蓄積した力を持つて居りますから、今日はも一出来んことあるまいと思ふから、皆さんに訴へ、又相談をして見たいと思ひます。

夫れでわからぬ所は充分質しても見、又研究もして、試みて見る様に致したいのである。

[生活の三種]

其の生活には先づ三つありまして、第一は身体の生活、第二は知的生活、第三が精神生活と、斯う云ふ風になるのです。此の順序に従つて進むと時間が足りませんから、第二の知的生活から始めることとして、其の中に身体生活をも加へて申したい。

あなた方が知的生活に苦しむのは知的生活の境遇であつて、殊に之れを感じるのが教育部の二年であります。殆んど注入的の教育で、そ一云ふ教育の方法は間違ひであると云ふこともわかつて来た。夫れを救ふには如何にすべきでありましょ一か。私思ふに、夫れを救ふには二つあつて、一つは教育の制度を改革すると云ふことである。之れは職者も心づいて来たのである。私共も小さい時から、小供ながらに感じて居つたことである。併し、我が国の制度を改むると云ふことは、一朝一夕に出来るものではない。又、只之れを外から改善しよ一としても、目的は達せられないのである。故に私は、其の本から改善しなければならぬ、又今日から着手し得ることから始めねばならぬと思ふ。先づあなた方を救ひ、あなたの家庭を救ひ、あなたの子供を救ひ、あなたの生活する社会を救ふ様にしなければならぬ。私は根本を言ふのであるから、無邪気に公平にお考へにならねばならぬ。今困難にあつて居る人、即ち学生から救ひ上げて行かねばならぬ。

[境遇の圧迫より逃るゝのは自分である]

夫れはど一して行くか、ど一して此の境遇の圧迫から免れるか、ど一して此の制度から逃れるかと云ふと、只注入的に他動的に逃れるより他に道はないと考へるであらうけれども、あなた方の中から自分で逃れねばならぬと云ふ。無論、外から改めることも怠りはしないけれども、夫れでは間にあはぬ。自分からしなければならぬ。其の態度を Self-making attitude と言ふ。昔から Self-made man と言ふことがあるが、教育の中心は我れなり。此の学校を改善し、此の校風を感化するものは我れなりと云ふ態度である。

此の Self-made と云ふことは誠に堅いこと、立派なこと、偉大なることであつて、其の著しきものをあぐれば、Lincoln とか Garfield とか、米國に於ても有数の人である。英國の Darwin, Spencer, 皆之れである。そーすると、あなた方は斯う云ふ偉人でなければ出来ぬことと思ふかも知れぬけれども、私はそーは思はない。

此の人にして始めて、此の教育の圧迫、伝説、制度の圧迫から逃れて、ほんとの人格が出来る。此の人にあらざれば、日本を教ふことは出来ぬ。此の態度が出来たならば、始めてあなた方を満足させ、あなたの境遇から救ひ得るのである。

Self-made と云ふことは、自分を作るものは我が内にありと云ふことである。之れ迄は、我れを作れるものは我が母であり、我が先生であり、我が崇拜する偉人であると思つて居つた。けれども、此の Self-making の人でなければ、其の母、其の先生、其の尊崇する偉人から感化を受けることは出来ない。あなた方の中にならうとするもの、出ようとするものがある。夫れを発揮して、其の興味を原動力として自分の趣味を展ばすのである。学校の規則でするのではない。之れは私の趣味である、興味である。故に此の本を読み、此の芸術を学ぶのである。之れが私の興味である、私の傾きであるから、どーしてもやめることは出来ぬと云ふ態度、夫れであるから興味が津津として湧き出づるのである。今言ふ Self-making attitude とは、そこを言ふのである。自分が目的をきめる人であり、自分が学科を選ぶ人である。自分で方法を編み出だすのである。先生を使つて行くのである。(と言つても、先生を敬はないと云ふ訳ではないが。) 境遇を開いて行くのである。

斯う言つても、只個人的になつて団体を構はないと云ふことではない。自分の中から発するものが本であるが、夫れは外からの刺激をよく受ける人でなければならぬ。

夫れから、ほんとの柔順であるのです。故に Self-making の人は、実に Self-sacrifice でなければならぬ。そこで此の人は、確乎たる目的を持つて居なければならぬ。永久の大目的を有し、天職を自覺して居る人である。毎日の生活をするのに、本を読むのに、講義を聞くのに、文を書くのに、観察をし、実験をするのに特別な目的を持つて居る。只漫然と生活をし、知識の為に知識を収集する様なことでは、Self-making attitude とは言へない。毎日課業を受けるに、一つの目的を持つて居なければならぬ。此の目的があると、あなたの学ぶこと、いろいろの種類の学科、又あなたのお集めになる事実が、ちゃんと一つの組織あるものとなり、統一あるものとなるのであります。

私の経験を申すならば、私は沢山本を買ふ。身分不相当な程本を買ふけれども、買ふ前にはよく選ぶので、決して只買ふのではなく、又読むのにも漫然と読むのではなく、必ず一つの仮説を作つて研究するのである。そーすると總ての知識がちゃんと一つに組み立てられて、誠に面白い。そーして悉くみになるのであります。今度私が Life に出す為に、The rhythm of life と云ふことを書きました。

之れを書く為に、私は此の間から生理の書物を沢山よんだ。

そーして、音楽を始め心理学を読み、歴史を読む。そーすると社会の空氣と云ふものが始終、波の様に上つたり下つたりして、其の時代を代表する様な偉人が出て来る。大変面白い。其の他教育学を読み、社会学を読む。そーすると、ちゃんと組み立てが出来るのである。そーして只本を読むばかりではなく、自分に生活するのであります。

斯様に目的を以て統一して行くなれば、非常に時を經濟に使うことが出来るのである。故に、Self-making attitude で生活すると、誠に面白く、嬉しくなるのであります。こー云ふ様に、いろいろの事を考へてしなければならぬ。何とならば、人間は生きて居るものであるからである。

今日は、いろいろ憂へたことを申しましたが、どーかして之れを救はねばならぬ。之れを自ら見だしてお勉めになるならば、必ず皆さんが自ら満足し、人生を完うなさせることが出来るのであります。

[中表紙]

大学部一年生の御話
明治四十四年七月一日

明治四十四年七月一日
第一学年にて

二、三日前に英國の ロンドンタイムス の主筆 ウオーカー 夫人が、勸業銀行總裁の 添田 一君と此の学校を見に来られまして、非常に喜んで帰られました。其の後、ウオーカー 夫人は日光から手紙をよこして言はるゝに、自分は始めて此の学校を參觀して大変興味を感じずのみならず、斯う云ふ学校のあることは日本のために誠に喜ばしいことである。さて、図書館も出来て居るのに、未だ公開の運びに至らないそーであるが、自分は何か出来るだけの助力をしたいから、入用の書物があるならば、何々と言つておよこしになれば取り揃へてお送りしよと云ふことであります。あゝ云ふ人は、私はない。どーかして出来るだけの力を添へたいと云ふ厚意を持つて居られます。二、三年前に英國の紳士が見に来られて、感ずる所があつて五百円を寄附して行かれたことがある。英文科の方は覚えて居られると思ふ。ミス・ヒューズ と云ふ人は先年この校の教授にも頼みましたが、五十年前に女子大学に入られた女子高等教育の先駆者である。そーして彼國に帰つても、始終同情を表して居られます。之れは私共の知つて居る僅かな人であるが、此の学校には世界各国の人々が沢山見に来られる。日本の人も昨日のよーに、各府県郡視學と云ふよーな識者の来られることは珍らしくない。そーして皆、何かを感じて行かれるのです。殊に、此の間の タイムス 社長の奥さんから手紙を貰つて感じました。口数を言はぬ人であるが、英國の人々は誠がある。何か感ずる所があるならば、出来るだけのことをしよと云ふ考へがある。そーして、一旦相知ることが出来たならば、変らない所の Confidence がある。

信用が出来るのである。其の他にも、いろいろ此の学校の為めに何か尽したいと云ふ手紙の来たことも度々ありますが、人と約束をしたならば変らないと云ふ自尊心、愛国心の強い所がある。又、非常に国自慢な所がある。又、賄賂などを使う卑劣なことをしない、自尊心のある国民であると云ふことを聞いて居りましたが、此の間の手紙を見て、一層深く感じました。

も一つ私の感じたことは、人の事について Appreciation がある。女子の教育について骨を折って居る、心配して居ると云ふことを見ましたならば、同情を表する。Appreciate する。之れが即ち、此の間申しました所の、反響する所の国民である。何かの刺激を受けたなら響きのある人である。つまり、教育ある人と言ふことが出来る。

夫れで、ど一か我が国の御婦人が、しっかりした所があり、人のよいことを見ては尊敬することが出来る、何かの反響ある人になって戴きたいと思ひます。

此の間、小学校で久留島と云ふ人の話に、或る所に学校を建てよと云ふ相談が起つたけれども、費用がない。其の時に、或る一人の有志者があつた。此の人は、喜んで私がこの小学校を建てたいと言つて、二万何千円かを出して、と一と一学校を拵へた。この一人一人のために村中の人が奮ひ起つて、続々寄附をして、忽ちに出来あがつたと云ふことです。

此の感動、人のよい行ひにあうたときに奮ひ動くと言ふことは、男子よりも女子の長所である。然るに近来、日本の婦人の心が麻痺して動かないと云ふ。併し、この学校の卒業生が母校を愛することはひどいものである。大阪、神戸あたりへ行くと、実に会員が熱心に働いて居られます。そ一して、銘々の家族の人を何時とはなしに感化して居るのです。併し男子の方は余程先きに進んで居ります。此の暑い時、又多忙な時に、大隈伯、渋澤男、森村翁と云ふよ一な方が揃つて出掛けるのは珍らしいことである。其の珍らしいことに対して、桜楓会員の働きが不充分である。何故あれだけのことを見たならば、も一つ動かないであろ一かと云ふことを若い人が言つた。あゝ云ふ年寄が、国の為めにしよ一と思つて、熱心に尽して居るゝことは疑ひないのである。又、あなた方の御両親が、此の不景氣な時にあなたをこゝ迄出して居るゝのは、どれだけ骨を折って居るゝかも知れぬ。

然るに、そ一云ふことには一向興味が無い、一向動かないと云ふことが美はしいものであろ一か。私は、も一つやはらかな頭になつて、も少し反響してもらひたい。私は、あなた方にお目にかゝることを愉快に思ひますが、それよりも一層愉快なことは、外国へ参りまして、大学生に話をしたこと。実に愉快である。夫れは共に動くからであるけれども、我が国で御婦人と共に事をすると、少しも動かない。何となれば、頭がかたいからである。故に、頭の用意をさせるために非常に時を要するのである。これをせず、只知識を注ぎ込むばかりでは仕方がないのであります。ど一かあなた方は、何時もこの心の用意を怠らない様にして貰ひたいのであります。

今日は七月の一日であります。此の学年の終業式は十日で

あります。故に、今日と終業式とを数へまして、十日しかありません。休みの日と今日とを引いたなら、一週間しかありません。時が誠に少なくなりました。そ一すると、あなた方はも一週間すると、各々郷里へお歸りにならねばならぬ。あなた方は志を立てゝ此の校へおいでになつてから、錦を着て故郷へ帰らねばならぬ。そ一すると、あなた方は先生や指導者の充分喜ぶに足るだけのおき土産を残し、又、自分の立てた志もかはることなく、お互に満足して帰ることが出来るであろ一か。又、私も夫れ迄に、あなた方に対して是非訴へておかねばならぬ希望があるので。

故に、ど一かそれについて銘々に反省して貰ひたい。このお土産とする物、及びあなた方の内の飾りとなるべきものは、只点数や成績の上にはあらはれた所の皮相な浅薄な知識を獲得し、又、職業的の技芸を大分新に覚えて来たとか云ふよ一なことばかり、あなたの両親の要求する所ではあるまい。又、あなた自身の要求も、そ一云ふものではありませんまい。

あなた自身のほんとの価値が出来て居るならば、ほんとのあなたの中に貯へて居るものがあるならば、何時も其の光りは蔽ふことは出来ない、消すことは出来ないのです。私は決して、夫れが出来あがつたとか、あなたの満足の出来るよ一に迄なつたとは思はないけれども、或る程度迄は達しておかねばならぬと思ふ。其の前に、達しておきたい、拵へておかねばならぬと思ふことと一致しなければならぬ。ど一かそこに精力集注の出来るよ一に、皆さんとおつづくよ一にしたいと考へます。

兎も角も、皆さんは東京の女子大学に遊学なさつたのは、あなた方は是非生涯の間、生命にもかへられない所のものは、此の宝の山の中にあるのである。殊に私は申しておく。あなたの頭の中には、限りなき力を有するのである。併し、その宝を掘りあてるには努力を要し、忍耐を要するのである。果して、それを取ることが出来たかど一か。又は、其の金をとりさつた後のかすを取り、塊をとつて、夫れが宝であるかのよ一に思ひ、或は誤られて、此の学校が創立以来戦ふて居る所のわるい方についたならば、それは容易ならぬことである。この声の聞こえる方は、ど一か聞いて欲しい。此の声の聞こえない方は仕方がないから集まつて、よく相談をして貰ひたいのである。

英國のよ一な所は、汽車に懐中物を忘れても取る人はない。食堂に入つても見張りをする人はないけれども、食ひ逃げをする人はないのである。斯う云ふ風は、ニユウ イングランドにもあるのである。併し、如何なる所でも悉く完全など言ふことは出来ぬ。

昔から自ら、自らを売り、自らを破壊するものがあるけれども、人の物を取るよりも、もつと悪いものがある。公共の利益を盗む者がある。ど一かしてよくしよ一と思つて、折角温めて居るものを冷して、全校の空気を害するものがある。斯う云ふ者は、公共の害を為す者であつて、人の懐中物を盗むよりも一層大きな害毒を流す者である。斯くの如き人は、全体の事には少しも心が動かない。只利己と云ふ事より他はないのである。そ一云ふ人の心には暗い所があるのである。

そ一云ふ人が郷里へ帰るならば、親は喜ばない。ど一も東京へ出したのは悪かった、やつぱり虚栄に捕はれた、と嘆ずるのである。斯う云ふ人は頑固な人、化石のような人であるから、試験の点数はとるかも知らないが、人としての価値はないのである。

Plasticity, Susceptibility, Educability, 斯う云ふ人は成形せらるゝことの出来る、教育の出来る人である。先づあなた方は郷里へ帰る前に、教育することの出来る、化することの出来る頭にならねばならぬ。之れが出来て始めて、両親に、ほんとうに柔順になることが出来る。朋友に対して、ほんとうに親切になることが出来る。郷に入つて郷に従ふ所の、伸縮自在な人となれるのであります。夫れで先づ第一に、やはらかな温かな頭となつて、第二に、自制することの出来る人とならねばならぬ。自ら、自らを拵へ、人を教育し、互に相反することの出来る人とならねばならぬ。第三には、郷里へおかへりになつて、学校と先生と友達とに離れましても、ど一云ふ不利益な境遇になりましても、あなた方が自ら、自らを開き教育することの出来る人とならねばならぬ。即ち、境遇を自ら開拓する所のでだてが、あなた方に見出だされて居なければならぬ。併し、このでだては只方法で、Methodで出来るかと言ふと、出来るとも言はれるし、又出来ぬとも言はるゝのであります。あなた方に適当した方法であるならば、確かに出来ると言はるゝのであります。然らばこの方法は、人に教はることが出来るか、教育学で研究するならば見出ださるゝかと云ふと、そ一は出来ぬ。この間から申す通り、あなた方の力が消費せられて居ることが、随分多いのである。

私は、この方法と云ふのは目的に行く手段であると申しましょ一。故に目的が確立したならば、理想が成立したならば、必ず見出ださるゝと思ふ。志のある所には必ず道あり、と云ふ格言もあるのである。私は、あなた方が夏休みに入る前に目的を充分にお立てになると云ふこと、つまり、これがSelf-making manと言はるゝ人には目的が立たねばならぬ。目的を持たずに人格と云ふものは出来ることはない、意志の貫かれる筈はないのであります。

[生涯の目的を確立せよ]

故に私は、あなたの生涯の目的、又は将来の目的が立つたならば、方法は確かに見出だされて来る。又、今迄にいろいろ消費せられて居る所の力、及び時間は省かれて来るのであります。夫れで一寸お尋ねして見ますが、未だ一年には余り申さなかつたが、私共の生涯には目的が立たねばならぬ。此の目的と云ふものは男子には必要であるが、女には余り必要でないと言ふ人もある。之れは丁度、人格と云ふものを男には必要であるが、女にはいらぬであら一と言ふと同じことで、道理のわからぬ説をなす人も随分世間にあるのであります。夫れはも一申さない。わかつたものとして申しますが、その目的には二つあつて、一つは大きな目的、国家社会とか宇宙、人生の目的とか、之れに対する目的と云ふことになり、も一一つは自分についてのもの、譬へば天職を選ぶと云ふよ一なことに關するものである。兎に角、

・目的と云ふもののわかつた方は………全体

・目的の立つたと信ずることの出来る人は………2/3

・未だ出来ないと思ふ人は………1/3

目的と云ふことはわかつたよ一であるが、未だ少し明瞭にならぬよ一である。明瞭にならぬうちは、未だほんとうにわかつたと言はれないから、明瞭にしておきたいと考へる。

・目的と理想とは似たよ一な詞であるが、同じことであると思ふ人は………

・違ふと思ふ人は………

違ふならば、その訳を言つて御覽。

・目的と云ふことを英語では、Aim, Purpose, End.

・理想と云ふことは、Ideal, Idea.

・思想と云ふことは、Concept.

[思想]

思想は簡短なものであるが、夫れを段々論じていつて、統一して主義とか目的とか云ふものになつて来ると、理想と言ふ。

[理想]

も一一つは、理想と云へば知識であり事実であつて、頭の中に描いた像に過ぎないのである。あなた方が毎日注的に学んで、頭の中に貯へてあるものは事実である。

[希望]

理想になると、この思想から出来た一つは思想で、其所まで行かう、夫れに達しよ一、其の思想になりたい、是非行かうと云ふので、希望があり熱誠があるのである。

[目的]

又それを、も一一つ統一したものを目的と言ふのであるが、時には理想を目的と同じよ一に言ふこともあるのです。又、目的にも理想にも、終局の目的、終局の理想と云ふものがあるのです。たとへば仁とか愛とか、親子の間を孝と言ひ、君臣の間を忠と言ふ。此の孝と云ふ考へを行つて、自分が孝行な子供になりたい、親に柔順な孝行と云ふ人間になりたい。美と云ふのは調和であり均一であり、又律動である。自分の理想、健康は其の平均がとれ調和が出来て、ど一も立派なる美と云ふものになりたい、其所まで達したいと描いた意匠の通りに人格がなつて行くと、之れを目的と言ふ。理想と云ふのは、あの通りやらなければやまないと云ふ希望、熱心を以て進む。夫れをさして理想と言ひ、目的と言ふのである。

我々の学問には理想がなければならぬ。必ず其所まで行く、達しなければやまぬと云ふ熱心、それをさして目的的活動と言ふ。其の目的々活動は、自動によつて出来るのである。故に、先づ私共には、ちゃんと一つの理想と云ふものが総てのことについてなくてはならぬ。

第一についての理想がなければならぬ。健全な身体には、健全な理想が會つて来る。故に、健康と云ふ理想は、いろいろの学問によつて統一せられたもので、是非夫れになる決心を以て毎日の生活に注意をして行くなれば、之れは健康の理想である。又、文学をして本を読み、立派なる人の思想に触れると云ふだけでは何の役にもたゝぬ。必ず夫れを身に行つて、自分の書いた文章に、或は彫刻、其の他の美術に現すと云ふことが出来て始めて、之れを理想と言ふのである。故に、理

想と云ふものには熱心、努力、実現、成形、知力を要する。此の標準、此の知力が我が頭となる。

[人格的理想]

又、道徳も、倫理で学ぶ所は倫理に対する思想である。夫れを身に行ふ、自ら夫れに成つたと云ふことが出来て始めて、理想となるのである。只、消極的に十戒とか云ふようなものを作り、それに束縛せらるゝのは実に苦しいことで、そ一云ふことでは、決して立派な人物は出来ないのである。私共はいろいろの学説を研究して、立派なる道徳観念、主義と云ふものが出来て、其の中に酔ふ。ど一かして、そ一云ふ立派な行ひの人になりたいと。斯う云ふ風になつて始めて、道徳的理想、又は人格的理想と言ふのであります。

皆さんは、其の理想を以て志を立て、此の校においでになつたのである。身体は健康になり、判断が出来るよ一になり、立派なる品性が出来たならば、是れが御ち、あなたの価値である。永久不朽の宝である。之れが出来たならば、立派なるおみやげである。之れをさして、錦を心に着ると言ふのである。是れが出来たならば、人を教育することが出来る。一村一県をも感化することが出来るのである。之れが出来て始めて、あなたの天職がきまるのであります。之れは人格的理想である。

[社会的理想]

第二のものをさして大目的と言ひ、又之れを社会的理想、或は全体的理想と言ふのである。併し、此の社会的理想と人格的理想と云ふものは二つのものではなく、一つのものの両面であります。私共が徳とか仁とか愛とか言ふものは、やはり社会的理想である。親子の愛、夫婦の愛、兄弟の愛、朋友の愛、学校を愛する愛、国を愛する愛、自然を愛する愛、神を愛する愛、其の愛の理想、自分の幸福を願ふよ一に、親なり兄弟なりの幸福を願ふ。自分の家を改善するよ一に勉めると共に、一國なり一社会なりの改善を計る。其の為に祈り、其の為に願ひ、立派なる桜楓会員を作り、理想の社会を作つて國家社会に貢献したい。其の為に何かの専門を以て尽したいと云ふこと、これが社会的理想である。

[人格的理想と社会的理想の合致]

故に、私共が立派なる人格となると云ふことは、此の人格的理想と社会的理想との合致することにあるので、其の最もよく出来た人を偉人と言ふ。例へば、アメリカのワシントン、リンコンの如きは、自分の理想即ち主義と、其の時代のアメリカ合衆国の理想と合致し、且つ、これが人道の理想と合致したと言ふべきである。

ナポレオンの如きは、自分の理想と当時の佛国の理想とは合致することは出来たけれども、人道の理想とは合致しなかつた。故に、豪傑とは言はれよ一けれども、偉人と称することは出来ぬ。

又、エス・クリスト、ソクラテスの如きは、自分の理想と其の当時の人の理想とは相反したけれども、人道の理想とは合致したと言ふべきである。そ一して之れを發揮せられたから、実に偉人である。又、深い感化を与へられたのである。

故に、私共は自分の理想と社会的理想、詞をかへて言へば、

自分の意志と全体の意志とが合致するよ一に勉めなければならぬ。其の理想が出来て始めて、私共の天職が見出だされ、ほんとの役に立つ学問が出来る様になるのであります。

ど一か夏休みまでに其の目的が立ち、其の経験が出来て、錦を心に着て、内に力を貯へてお歸りになるよ一に致したいと考へます。

[中表紙]

大学部二、三年への御話
明治四十四年七月五日

明治四十四年七月五日

大学部第二、三学年にて

[婦人の生活に対する理想]

今日、あなた方は是非達して見たい、協力して実現して見たいと思ふのは、我々の生活、殊に御婦人の生活に関する問題であります。始めに其の理想を申しておくならば、御婦人の生活と云ふものを、もう少し幸福に、もう少し美麗に、もう少し自身に満足の行く様にしたい。

[生活には波瀾、進歩が必要である]

そこへ行くには、もう少し有効に、もう少し美麗に、もう少し幸福に、そして、もう少しあなたの生活が進歩的でなければならぬ。然るに、長くあなた方と共同生活を經驗致しました所によりますと、御婦人の生活は余り単調である。余り繰り返す事が多い。余り感情の上に、動機の上に、小さい衝突、細かい軋轢が免れん様である。もう少しあなたの生活が有効になり、美になり、多趣味に、豊穡になるには、もう少し仕方に高低があり、波瀾があり、進歩があると云ふことが必要であると思ふ。

[生活の高調]

そこで、私は是れについて自分に試験的に大分行うて見ましたことを、此にて丁度夏お別れする前に、あなた方の御参考に呈したい。あなた方が夏お歸りになるについて、私がLife 五号に書きましたことは、生活の調律とでも訳しましよ一か。言ひかへれば、生活の高調、若くは生活の高潮と書いても宜しい。併し其の深い考へを、到底短い論文に願ひ尽くすことは出来ぬ。故に、其の論文を組み立つる為に使ひました材料、及び生活に實驗致しましたことを述べておく必要があると思ふ。

そこで、其の論文に書いてあることと、所々に使うてある六かしい語について今日少しお話しますれば、生活の高調、及び其の生活の高調に至る道は何であるか、如何にすれば其の高調に達することをを得るかと云ふことについて、簡短に述べよ一と思ひます。

[我々の生活は律動である]

我々の生活は律動である。広くは宇内の進化、又は人間の歴史は音調であると云ふことは、学理も音楽も美術も宗教も、同意致して証明する所である。其の証明、其の訳は今日は申

しません。寧ろ論文の中に論じてあります夫れよりも奥にある意を話したいと思ふのである。

[我々の生活は複雑で、抑揚、高低がなければならぬ]

我々の生活は単調ではいけない。複雑でなければならぬ。変化がなければならぬ。其の変化は抑揚、高低、動揺、波瀾が必要である。其の抑揚、高低、動揺、波瀾が、時と空間との関係よろしきを得て、真の人生の調和が起ると云ふことは申す迄もないことである。併し今日最も私が申したいことは、其の高調と云ふことである。大波瀾と云ふ所にある。此の波瀾と言ひましょーか、高調と言ひましょーか、強度と言ひましょーか、其の最も高く進み、最も深く達し、最も強く緊張すると云ふ、之れがあなた方の生活に欠けて居る。其の為に、も一つの変化、も一つの進化、も一つの向上、も一つの生れかはりが出来ないのである。病気が治らんのも、風が改まらんのも、実力がも一つ出来ないのも、生活の高調と云ふことが出来ないからである。之れは、長い間の経験によつて、そ一云ふ結論を拵へることが出来ます。

[高調とは人格の深さと広さとが最高度に達したことを言ふのである]

そこで此の高調に達する、極度に届くと云ふことが必要である。人間の究極の目的は、其処に達しよと云ふことである。其の高調と云ふことは、之れを人格の發揮とか、力の緊張とか、意志の集中とか、有頂点に達した状態とか、熱心とか、誠心一到とか、いろいろの詞を以て表すのであるが、つまり之れを分類して申すならば、人格の深さと広さととの最高度に達したことを申すのである。之れ迄の解釈によれば、高調とは、高度の深さに達したことを申すのであるが、併し今日の研究の結果を申すならば、高度と広度との融合を以て出来たもので、之れを我々は、Conscious 意識と言ふのである。

其の意識には様々の階級がある。其の一番上にあるものが人格、或は Conscious の表皮と云ふのである。夫れから其の次の深さ、又其の次の深さと云ふものがある。其の深さを英語で Intensity と申します。Intensity とは、熱ならば熱の非常な高度に達したものを言ふのである。其の拡がりを Extensity と言ふ。我々の Conscious には広さと深さとあつて、其の拡がりは物質である。其の物質の拡がりは、我々の身体にしても神経の末端にある。表皮の一番上にあるものは感覚である。故に此の表面は、人格の末端は、四圍の境遇と接触して居る。直接に反応して居る。之れが人格の拡がり、大きさである。人格の深さと云ふのは、Time の関係である。永続の関係である。寧ろ Intensity とは、長い間の経験が積み上げられたものである。故に、我々の人格の深さは先祖から数代、或は数十年代続いて居る処の力である。故に寧ろ此の Intensity と云ふのは、時間の関係であります。

そこで、今日我々が人格を養成する、又は知識を貯へる習慣を養ふと云ふことは、全く此の人格の深さを強めることと、人格の拡がりを増すと云ふことに過ぎないのである。横に拡げて行く関係と、縦に深く経験を強めて行くことと云ふ、此の二つの関係に過ぎないのである。

そこで人生の生活は、其の両関係が常に動揺し、常に変化

してやまないものである。其のやまない活動、やまない変化の調子が人生である。故に、人生には何時も高低、波瀾が絶えないのである。

何人と雖も、此の高低、動揺、波瀾は免れないのみならず、之れがある可き筈であるが、只其の生活に大波瀾の起る人と小波瀾の起る人とある。私が今、高調の経験がいると言ふのは、其の大波瀾が起るよ一な力があると云ふことで、御婦人の生活は小波が起るに過ぎない、表皮の動揺に過ぎないと言つてもよいと思ふ。夫れであるから、大人物が出来ない所以である。御婦人も興味ある生活、も少し幸福なる生活、自分も人も感心する美を發揮するには、も少し大きな波瀾が起らねばならぬ。之れを海に譬ふるならば、上は只海になつて居る。併し此の下は、幾百丈、幾千丈いつて居るかわからないのである。大波の高さは非常に高く大きくうつけけれども、其の力は非常に深い所から起つて、深さは測り知るべからざる、当る可からざるものである。

夫れで我々の生活の高調も、全人格の上に其の変化を及ぼし関係をつけることにしないと、浅薄なる人間、薄弱なる人間に陥つて了うのである。つまり、こゝで Intensity と言へば、情の浅い処は Senses と言ひ、深い処は Emotion と言ふのである。目に見、耳に聞き、口に食する如きは浅いものであるが、情緒とか情操とか云ふことは深い処から出たものである。此の Emotion は長い間、古い経験を積み重ねて出来たものである。そ一云ふ経験が現場の感じに呼び起こされて、一緒に其処に現れて来るのである。我々が物を見て直ぐわかる、鳥である、虫であるとわかるのは古い経験であつて、夫れが感情の世界に入つて感ずるのである。

其の感じの強い人が Intensity の深い人である。たとへば愛ならば、ほんといふに熱誠の籠つた深い愛であつて欲しい。面白いならば、其の樂みが非常に深いのが宜しい。其の例を言へば、髪をぬいたよりも齒をぬいた方が痛い。又、夜の行灯の光りよりも、昼の日光の方が強いと云ふ。併し其の刺激ばかりでは、私共の感情 Emotion はきまらないのである。つまり、反応で古い処の感情経験が呼び起こされて始めてきまるのである。又、私共が高調に達すると云ふのは、深い処の感情が其処に動いて、其の感情の熱度が非常に強くなつて来なければ起らぬ。そこで、私共の最も深い処の情が起つて現れて来るものと考えても、間違ひではないのです。

そこで、私共の日頃から修養し學問して、自分の力を育て、行くことと云ふことがも一つ根本に達して行かねば、も一つ高調に達すると云ふことが出来ない。そこで、此の間からの事に結びつけて、力の發揮、人格の救助と云ふことについて考へて欲しい。

[記憶力の必要]

あなた方の學問、あなた方の修養と云ふことが、只人格の表皮に止まらずして、も少し深い根底に達したいと思ふ。そこで詞をかへて言へば、力の保存、之れに必要なものは記憶力である。あなた方學生として、新知識を貯へ、新習慣を作つて行く上に、此の記憶力と云ふものが非常に大切であります。殊に、日本の人は外国語を學ぶ外にも漢學をしなければ

ならぬ。古い国語をも覚えねばならぬと云ふ訳であるから、覚えねばならぬことが沢山ある。然るに、そ一云ふものを一番浅い処の表皮の間に貯へてある。之れが非常に不経済である。あなた方は夫れを一番深い所の根に持って行って、植えつけておかねばならぬ。あなたの人格の中に、永久保存せらるゝ処に貯へておかねばならぬ。其の永久の蔵は何処にあるかと云ふと、表皮ではない。第二、第三の深い処に関係をつけて、其の要素と化しておかねばならぬ。

そこに二つあつて、記憶力の Extensity と記憶力の Intensity とある。記憶力の Extensity とは画である、像である。画のよ一な拡がりであつて、之れを鸚鵡的と言ふ。第二の Intensity と云ふ深さのある記憶力は、之れを Habit と言ふ。之れは同化力から出来て居る。私共の中にある処の傾向、銘々の中にある処の天才は先祖からのもので、或る人は之れを人類的記憶力と言ふ。其の人類の蓄積であつて、永く失はれない処の記憶であつて、此の二つに帰するのである。

そこで、我々が日々学ぶ処の新知識を全人格に結びつけて、一度得たならば決して失ふ事のない様に保存しようと思ふならば、之れ迄の経験に結びつけて、あなたの学ぶ知識は皆仮説として帰納的方法によつて取らねばならぬ。夫れを一々事実で徴してしなければならぬ。次には比較力である。それから得た概念を比較して、関係をつけたのを推理と言ふ。知識が知識として止まつてはだめである。其の主義、理想が実際に適応されなければならぬ。之れが即ち演繹である。斯う云ふ意識の階段を経て、表皮の像からして、行為の習慣となつて生活に応用したならば、之れは始めて人格的に織りなされた所のものである。そ一して之れがいろいろの感動となるから、忘れることはありません。一度印象したならば、決して失ふことはない。之れが、我が力として保存することが出来る一番有効なものであります。之れによつて、又人格を構成することが出来るのであります。

[構成力の必要]

次には構成力、即ち知識の構成力である。之れを名づけて、英語では Idea と申します。Idea は、又之れを觀念、或は思想と言つてもよいのである。

此の Idea はど一云ふものかと云ふと、つまり形式を拵へたに過ぎない。やはり心に描いた処の一つの画に過ぎないのであります。未だ構成だけでは力にはならぬ。

[Knowledge is power]

西洋の諺に、Knowledge is power と云ふことがある。此の Idea は何か構成されて筋肉に表らはれて来るもの、五官に影響を起して来るものであるけれども、之れは意識の小波に過ぎないものであります。も一一つ、之れが深くなつて来なければならぬ。人格の Intensity に結びついて、力とならねばならぬ。其の知識が、理想と云ふものになつて来んければならぬ。我々の拵へた法則、主義、又は規則と云ふものに鑄込まねばならぬ。向ふにかゝつて居る処の形に必ず達して行く、其の階段には必ず自分が達しなければやまない、其の形式に必ず自分がはまり込む、夫れを実現すると云ふ非常な欲望、熱心が起り、精神が活動して来る。夫れをさして理想と言ふ。

其処に達しなければ我々の知識は死したものであるから、到底、大波瀾を起すことは出来ないのである。

[我々の理想は強度の Intensity である]

そこで理想とは、我々の最も強度なる Intensity の活動する状態を申すのである。其の理想が出来、其の目的に従つて我々が活動して行くことを、人格を発現すると言ふ。品性を養ふと申すのであります。此の理想が、即ち我々の目的であります。

目的は、即ち私共が客観的の外の境遇に向うて居る、我々のほるか向ふにかけて居る処の一種の目的物である。其の目的物に向つて居る所の知識と名づけるものは、私共の深い処、Subconsciousness の中にある。

[自重心の必要]

又、其の根にある主観の方から見る所の力が働いて居なければならぬ。夫れを指して、Self-making attitude 自作的態度と言ふべきもの。其の自作的態度の Essence は何かと云ふと、自重心 Self-respect である。此の自重心とは、我が中に在る人格的価値、我が真価値を自分で認める力。私は是れだけが出来る、自分は斯う云ふ人間である、是れだけの事が出来ると云ふ価値を認める。是れは、たとへ人から誤解を受けよ一と、悪く言はれよ一と、自分にはどれだけの徳があるかと云ふことを認める。是れ程尊いものはない。之れが出来ずに、自分で自分を信ずることが出来ぬのに、人がど一して認めてくれよ一か。自分で自分が認めらるゝ力、自分で自分の価値が認めらるゝ力、是れ程尊いものはない。自分の中に非常に尊いものが潜んで居ると云ふことが認められたならば、是れ程勇気を与えるものはない。是れ程よい暗示を与えるものはない。是れ程深い信仰の起るものはない。私共が非常に深い大洋のよ一な意識界に大波を起こすものは、一つは高調であるけれども、一つは此の自重心である。此の自奮力である。之れが、私はあなた方御婦人によほど欠け易い、自分の中にある価値を認めにくい、又、いろいろ毀誉褒貶によつて自分の価値までも消し易いと思ふ。夫れで、私共があなた方に望む処は、自分で自分の力を養ふよ一になさること。之れが最もよく力を保存する方法であり、又最もよく力を発展する方法であると思ふ。

[理想の二方面]

又、理想には二方面あつて、Personal idea と Social idea、即ち人格的理想と社会的理想とがあつて、此の二つが融合致しまして始めて深い人物となるのであります。併し、私は之れをさして、世界的理想と申すのであります。(人格的理想と社会的理想と Subconsciousness と共同して出来たもの)即ち、此の地球の 2/3 を包んで居る処の大洋の広さ、深さの人格と申します。併し、人間は夫れだけでは満足は出来ません。猶其の大洋を一層深い海に通じて高調に達する。之れを宇内と云ふ、其の宇内の広さに拡げる。之れをさして、宗教的生活と言ふのであります。

今まで申しました理想は、人格的から社会的に拡がりまして、其の深さも個人意志から社会意志迄、深入りを致しました。今度は、其の以上の関係であります。即ち全体の関係で、

是れ迄のものは部分と部分との関係でありましたが、此の上は、部分と全体の関係をつけて行かなければならぬ。其の目的は宇宙の目的で、其の意志は神の意志と同じものである。其の理想は宇宙の真、善、美の極致であると言ってもよいのである。即ち、我々の感情と意志とが融和して出来て居る処の最大の意志、目的に自分を捧げる。其の為に自分を忘れる。之れが即ち、健全なる強固なる意志であり、健全なる強固なる人格である。即ち、宇内と云ふも一層深い処の海に通じたものであり、其の目的にかんふ処の人道とか愛とか云ふ其の傾きに全身を捧げる。其の完全の為に全く己を Devote する。之れが即ち、我々の言ふ処の全人格である。其の愛、其の信、総ての融合して居る処の宇宙の意志に己を Devote する。汝の「御心を成させ給へ」、其の意志に全く自分を Devote する。之れが、昔から数世紀間にをりをり現るゝ偉人であります。[Self-devotion]

此の Self-devotion、己れを捧げる、己がなくなる、只、目的、理想と言ふか、或は全体と言ひますか、我々がつまり自分と最も深く、即ち無限に深い処の Conscious、無限に大きい処の全体と云ふものと関係あることがわかり、夫れに真に融合する。之れが何も言へない処、殆んど自他がわからぬ、自分と云ふものが忘れられて了う処の境涯、之れを高調と言ふのである。之れが太陽の高い Ether の如き、或は Astral light の如き、深い所の太洋の波が活動致します。活動の間に出来る処の高い波、之れをさして人生の高調と申します。

夫れで、此の深い Consciousness を日頃から養うておかねば、到底深い処へは行かないのである。我々の修養が只表皮の間に止まつて居るならば、其の活動は小波の如きものに過ぎないのであります。夫れで、も一つ大きい波を立てる、も一つ高い波を立てる。此の平坦なる国に生れて、此に大波が起こらなければ、将来の進歩、確信を望むわけには行かないのである。

我が国に於て、又我々其の一要素を作らうと思ふ処の、又学生諸君が重んじて居る様な高い波は、あなた方銘々では、一人だけでは到底斯くの如き大波は立てられんと云ふ事である。之れがわかるや否や歴史を研究致しまして、如何なる強さ、如何なる拡がりをして、斯くの如き波を立つるには、限りなき深さと限りなき拡がりとかなければならぬか。つまり一言で要点を申すならば、度々繰り返へされた処の人生に経験され、進歩された高潮からなれる凡ての人類と、今ある処の人類とが最大の Extensity である。そ一して、一万年の過去と未来とに由つて出来る処の Extensity と Intensity とが調和されて、始めて高調をなし得ると思ふ。

我が国にも、我が学校にも、桜楓会にも、銘々其の高調に達する処の生活をしなければ、到底此の大波は起らない。其の時代の精神、宇内の潮流が、も一層高調に達しなければならぬ。

【類似の法則と接続の法則】

其の高調を作る一要素としては、過去と云ふものがある。過去は何かと云へば、やはり Intensity と Extensity とによつて作られ、且つ再現するものである。其の再現には二つあ

つて、類似の法則と接続の法則とである。此の新らしいものと古いものとが結びついた関係が明らかでない、記憶は呼び起されぬ。又、接続の方は、其の時の高調、其の時の自分と、其の時の境遇とが適合したので、其の通りのことが保存せられて居る。そ一して現在の知覚と共に呼び起されて、我々の今日の意識が出来て来る。又、長く続いて居る宇宙と此の社会とが適合する。其の反応である未来とは何であるか。やはり我々の古い経験と現在の実感とが結びついて、之れが創造せられて将来の自我があり、将来の境遇がある。其の間の適合が将来である。故に今の力、今の感覚は皆、過去から出来たものである。

其の目的は即ち将来である。故に今日の我々は過去、現在、未来が一つになつて活動して居るのである。其の過去、現在、未来、凡ての自我の協同から出来たものと、此の宇宙との適合から出来た処の思想、感情、情緒、或は喜び、幸福、満足と云ふもの、名状すべからざるものが、之れが人間の真価値である。故に、個人個人ばかりでは出来ないのである。私共が只単に皮相の働きをして居り、又只狭い処の自我に満足して居るならば出来ぬことで、此の広い天と地と又社会と融合して、共通的働きが出来て始めて高調することが出来るのである。此の意味は深重であつて、到底詞には言ひ表せないのであるけれども、凡その処がわかつたならば、銘々で深く研究して、此の高調に達することが、将に十年を終へて十一年を迎へる其の夏の時に於て、誠に大切なことであると思ふ。故に、校の外内にあるに拘らず私共が出来ただけ高調に達して、愉快なる音楽を奏して見たいのである。御婦人には未だそれが出来にくいのである。ど一か、皆さんが野蛮時代から来て居る小波瀾に妨げらるゝことなく、最高調にお達しなさることを希望致すのであります。

【中表紙】

大学部一年生の御話
明治四十四年七月九日

明治四十四年七月九日
第一学年生まとめの会

【修養上最も大切なことは自分を知ることなり】

皆さんから経験を一々聞くことは出来ませんから、只これだけのことを聞いて、大体の事実を判断したらよからう。先づ修養をするにも、力を養ふにも大切なことは、自分がわかる、自分の価値がほんとにわかる、自分の内にあるもの、又自分の内から出て行くものがほんとにわかると云ふこと。之れが誠に大切なことで、之れが自分の力を出すと云ふか、又自分を圧迫し、きずつけると云ふこともあるのですが、中々見分け悪いのである。其の訳にもいろいろありますが、夫れは今こゝで申さない。

其の現れ方に二つあつて、一つを自重心とか自敬とか言ひ、

其の反対の者を自暴自棄とか言ふのである。あなた方の問題に自覚と云ふことがありますが、其の要素はやはり自尊、自敬である。併し、人に褒めらるゝと云ふことも時には間違ひがあつて、価値以上に思はれることもあります。おあいそつうに言はるゝとわかつて居つても、何やら嬉しい様に感ずることもあつて。又、其の反対に、全くないことを企てゝ居るよ一に言はれたり、陰で伝はつて居るとか云ふことを大層心配する人もあるけれども、世の毀誉褒貶によつて浮いて見たり沈んで見たり、夫れがために喜んで見たり失望したりすることもある。けれども、たとひ人からあなた方が誤解せられても、夫れは一大事と云ふ程のことではない。ほんとに大切なことは、自分の内に価値があるかないか、ほんとに徳があるかないかと云ふこと。夫れより他に問題は何にもないのである。自分で自分の事を感じ、自分で自分の力を満足する。人に知つて貰ふ必要はないのである。自分は之れに由つて居る、之れが自分の価値であると云ふこと、之れが一番大切であります。

自分には何も力がないのに心と違つた事を言つて、いろいろ噂を立てゝ、人からちやほや言はれて喜んで居る人がある。之れはうぬぼれである。うぬぼれ、高慢は根治しなければならぬ。何も人に吹聴する必要はない。ほんとに力があるならば、人は自然に尊敬するのである。我々学生の中にありがちな弊はうぬぼれである。も一つ御婦人にありがちな欠点は自暴自棄である。自分で自分を軽蔑し、自分で自分を捨てゝ居る。斯う云ふことでは力が出よ一がない。此のうぬぼれにも陥らず、自暴自棄にもならぬ、ほんとにSelf-respectが出来たかど一か。其の出来ると云ふことが、完全無欠と云ふ訳ではないが、此の二つを反省なさつて、ほんとの所を聞きたいのであります。

- ・自敬の出来る人は……………
- ・自暴自棄になり易いと思ふ人は……………
- ・うぬぼれ心を抑へることに骨が折れると思ふ人は……………

も一つ、実行と云ふこと。会などで団体と共に修養することなどは喜ばぬ人がある。昔から我が国では、高僧と云ふよ一な人は深山へ入つて一人で行などをすることがある。之れがほんとと一であると云ふよ一に思ふことがある。此の点については私、余程申したつもりであるが、私共の実践躬行と云ふことは確かに道徳的行為である。之れを二つにして、個人としての行為と、人に対する行為とある。斯う分けて言ふけれども、実際はそ一二つに分けられるものではない。人に余り関係のない、只一人ですと云ふことはないものである。

たとへば此の間死にました、数千、否数十万と云ふ人を動かしたム一デーと云ふよ一な人が、会堂へ入る前には三時間或は五時間、人に面会を謝絶して祈つたと云ふ。夫れは何の爲めであるか。只自分の爲めではない。如何にすれば、人を救ふことが出来るか。此の国、この迷うて居る聖霊、之れを救はんが爲めである。人である。人の為に動いて居るのである。クリストも山に登つて、或は人の知らぬ所で深く折られたのは皆、人の爲めでありませう。

釈尊は自分の大きな宮殿もあつた、奴婢もあつたけれども、

夫れを悉く捨てたのは何の爲めであるか。遍く天下の衆生を濟度せんが爲めでありませう。

[団体と個人]

私が一人で部屋に居る、一人で修養をして居る、夫れは何であるか。我が国の将来、我が国御婦人、此の多くのあなた方銘々の事、又は共に働いて居る人々のことでもつて、頭はみたされて居るのである。自分はないのである。夫れで団体から離れた個人と云ふものはないのである。

[知識と実行]

も一つ、知識と実行、或は理想と實際、之れが一致しにくいと云ふ考へ、之れは非常な間違ひである。あなたの頭の中に之れをすると云ふ考へなしに、一つの行ひが出来てくるか。あなた方が大学に入ると云ふ志なしに、身体が此の校へ来るかど一か。頭に考へなくして出来る行ひはないのである。然らば、精神があつて行ひがないと云ふ筈がない。精神とか理想とか考へとか云ふものは、やはり行ひの一部である。否、精神の要素である。夫れを別々のものの様に考へるのは誤りでありませう。斯う云ふことは、只詞があなた方を迷はせて居りはしないかと思ふ。故にこの三つのことを、よく弁へておいて欲しいのであります。

[文科]

殊に私の喜ぶのは文科である。之れは私が二年にも申しましたが、文科は今年は經濟上の都合で外からの募集は致しませんで、普通予科からお入りになつた方で一部が出来たのである。

文科と云ふものは、この十年間に、此の学校で言ふほんとの一の価値をあらはすことが出来なかつた。若しこの力が団体の働きにも個人の行為にも表れたならば、たとひ世間がど一言はうとも挽回することは敢て難くはない。是非ど一してもこの力を養はんければならぬと決心なさつたことは、非常に喜ぶ所でありませう。

[英文科]

次に英文科も、今は誠に数の上から小さくなつて居りますが、英文科の一年及び予科と云ふものが責任の重いことを自重なさつて、仮令力は弱くとも母校のために、国のために救ふ所の責任を負はねばならぬと決心して頂きたい。

山縣公、井上公、桂公と云ふよ一な、私の国でも小身な人が、あれまでに立身をしたのみならず、何かとり所がある。夫れは何故であるか。己を捧げたからである。

我々も、及ばずながら一身を國に捧げたのである。其の時に力が発揮したのである。学力も確かに其の時、進んだのです。日露の大戦に、我が国はど一して勝つたか。殆んど全滅と云ふ時に、乃木大将の率うる軍隊が決死の戦ひをして、旅順を陥れたのである。

英文科が少人数の中で己を組に捧げたから、力がつかぬと云ふのは誤りである。其の爲めに、あなたの力がついたのである。人格が磨かれたのであります。故にその決心がついたならば、確かに文学部も英文学部も非常なる力が現はるゝのである。併し一方には、同情に堪へないのである。故に、全体が之れを助け、之れを育てゝ、少しのよいことを賞揚し、

少しのよいことを自認して、全体が力を合して本校の主義に叶ふてお立ちになるならば、必らず全級が奮ふのである。

殊に喜びますのは、予科の泥谷と云ふ生徒は尿毒症にかゝつて、昏睡状態に陥つて医師も殆んど匙を投げたので、我々も非常に心配致しましたが、幸に蘇つて救はれました。之れは誠に幸である。ど一か、お互に身心共に健全になつて、総て組が復活するよ一に、皆さんで氣をつけて、共同して進みたいと云ふことを希望致します。

[中表紙]

第一学期終業式の御話
明治四十四年七月十日

明治四十四年七月十日
第一学期終業式

[我が校とポイントローマ]

私の留守に瑞西の人が来まして、此の学校を見ての話に、日本に斯う云ふ学校のあることは誠に結構である。私共がこれから行かうと思ふて居るポイントローマの学校によく似て居る、と言はれたそ一です。此の学校も、沢山の木や沢山の畑に花が咲いて居ります。毎年運動会があり、又時々面白い文芸会があります。皆がうはべでなく、心から喜んで勉強して居る有様は、アメリカの海岸にあるポイントローマと云ふ学校によく似て居ると云ふことである。其のポイントローマの学校は、此の学校の二万坪ではない。数百倍、又は数千倍の広さである。其の学校の人で、始終此の学校に同情して手紙をよこしたり、彼方の有様を知らして下さる人があります。おばあさんかど一か知らないが、多分、女のお方と思ひます。其所には幼稚園があり、高等女学校があり、其の上にも一一つ程度の高いものがあつて、此の学校とよく似て居ると云ふことである。

[バーバンクス]

これはアメリカの面白い所であるが、も一一つある。それは日本にも滅多にない、軽井澤あたりに行くと広い野原がありますが、ま一そんなものでしょ一か。広い広い花畑がある。其所にあるものは日本にも類がなく、世界中にないものがある。木や花や菓物やらを沢山作つて、思ふ様に育て居る。そ一云ふ珍しいものゝ出来る大きなガーデンを拵へた人を「バーバンクス」と言ふ。この人が小さい時、未だ幼稚園へも行かない位、這うて居る位の時から不思議に花が好きであつて、夫れから歩き出した頃に、姉さんから霸王樹(さぼてん)を鉢に植えて与へた所が、大喜びで持ち回つて居つたが、或る時おもちゃにつまづいて其の鉢を落した。そこで霸王樹が折れたから大声で泣いて、二、三日は兄弟でもなくなつたかのよ一に悲しんだそ一である。夫れから毎日毎日、其の枝をつがうとして見たり、水をやつて見たりして、と一と一だめだと思ふと、他のあらゆる草木を可愛がつて育てた

と云ふことです。其の「バーバンクス」と云ふ人が、今日あなた方の村よりも大きな花畑を作るよ一になつたのである。

[休みの遊び]

夫れで、あなた方も此の夏のお休みには、斯う云ふ舟を作つて水に浮すことも、亦お母さんと船に乗つて涼しい所へ行くのも大変おもしろいことではありますが、それよりも、どこにでも有るものは花である。其の花を育てたり、虫をのけたりして、九月には方々にある珍しい花を持って歸つたら、大変おもしろいで有りませう。之れからお母さんの言ふことを聞いて、姉さんや妹や皆と仲よくして、花でも鳥でも犬でも猫でも皆可愛いがつて、秋には大きくなつてお歸りなさい。

[アメリカ合衆国]

近来、アメリカ合衆国は工業が非常に発展致しまして、過日、森村組の村井保固と云ふ方の手紙に、自分は一年日本に歸つて紐育に来て見ると、まるで新天地になつて居つて一驚を喫した。森村組は紐育の中心であると思つて居つたが、も一田舎になつた。百スツリートが十年月には二百スツリートになつた。そこで森村組は、今迄の処を売り払ふて中央の方に移ることに決議したと云ふことである。も一一つ驚くべきことは、紐育のセンツラルステーションの出来たこと。それは五階程になつて、汽車が走つて居ると書いてあります。アメリカ合衆国の急激なる進歩は、実に斯くの如きものであります。

[我が国の教育]

翻つて我が国の現状を顧みますれば、如何でありませうか。我が国の教育は、其の変化に依つて生存競争の出来る国民を作らねばならぬ。其の国民の養成所である所の家庭が進まねばならぬ。も一遅れて居る故に、我々は非常なる決心を以て進まねばならぬのであります。も一一つ、人の氣つかないことがある。アメリカは天然の財源に富み、面積の広いことは言ふ迄もありませんが、アメリカ国民の先見の明のあることは驚くべきである。

其の一つは、天然の材源を保存すると云ふことを国会で議決したと云ふことである。又、農作を有効に多趣味にする為めに、Dry farming conference と云ふ運動を始めて居るのである。又、婦人の生活を豊かにする為めに、婦人の万国的会合を此の九月から開く。故に、此の女子大学からも代表者を一人派遣して貰ひたいと云ふことである。

アメリカ合衆国が、バーバンクスの如き天然を教育する偉人を生み出したことは、如何に世界を益したであろ一か。そして、アメリカ国民が牛や馬のよ一な動物を可愛がることは非常なものである。私共が真に動植物を可愛いがり、天然を愛し、土地を豊穡にする為に天然を愛し、之を喜び、之を歌ふ、そ一して天然を楽しむと云ふ心掛けが必要である。殊に御婦人には大切である。之れからお互が四方に散乱するに當つて、山や川に行き、天然を愛することは誠に大切である。又、此の炎天に曝されて泥田に入つて働く農夫は、今を決して遊ぶ時とは思つて居ない。此の植物を愛し、食物を作つてくれる農民を尊敬する、此の労働者に対して勞をいたはる、同情

を表すると云ふ心が誠に大切であります。

〔水戸烈公〕

水戸の烈公は世の華美を戒め、勤勉の風を作るために、近辺にかまどを作り、農民の姿と笠と蓑と稲束とをよせた土人形を拵へさせ、之れを烈公のお膳において、箸をとる度に三度三度、先づこの土人形に食物を捧げて其の労を慰し、下民を思ふて食事せられたと云ふことである。

〔夏休みは仕事を変へる為めである〕

之れから夏期休業になります、夏休みは遊ぶ為めではない。仕事をかへる為めである。我々は、此の農民の事を思ふて銘々のなすべきことをする。朝涼しいうちにさつさと手まめに働いて、忠実に仕事をすると云ふことが、国風を作る上にも、あなたの家の為めにも大切である。

水戸烈公が農民を尊敬し、「パーバンクス」が植物を愛すると云ふよ一に、総てのものを愛する、総てのものに恵みを施すと云ふ心があつたならば、仕事も十倍、二十倍の事が出来る。之れに反して、若しも心に弛みがあり、冷淡であるならば、軽井澤のよ一な涼しい所へ行つてもだめであります。私達は、この農民達の労苦を思ひ、総ての物を愛して、熱心に勤勞しなければなりません。

アメリカに靴商売をして居る者があつて、毎日カチカチと釘を打つて居る。夫れで或る人が、おまへは毎日同じ仕事をして、嘸飽きるであらうと申しましたら、答へて言ふのに、いゝえ、決してそ一云ふことはありません。次にうつ釘は始めのよりも上手に打たうと思ふて居る。故に、之れ程おもしろいことはありません、と言つたそ一である。何をしても、自分の内から出ぬことは面白くは出来ないのです。

〔喜んで働け〕

アメリカに工場を持つて居る人がある。其の人の話に、私は先づ職工の心を支配する。其の職工が喜んで働くならば、出来上つたものは必ずよいと云ふことであります。

あなた方も、この農民や職工のやうに楽しんで働かねばならぬ。先達から私は、あなた方が心を修むることを先づお勉めなさらねばならぬと云ふことを奨励致しましたが、其の後目撃する所や何かによつて、今日は何やら実が出来たよ一である。何所となく重々しくなしまして、ふわふわしないのである。大学部三年は、これから国へ帰る人もありますが、又少数の方は軽井澤にいつて、も一集注して三週間の団体的生活を試みよ一と云ふことである。之れは誠によいことである。物は始めが大切でありますから、余程の決心を要するのである。夏向きの心得について申したいことを約めてお話しするならば、

我々の口が禍の出る門であり、又禍の入る門である。併し、其の門は心の僕であるから、心を守ると云ふことが大切である。あなたの守り神は、つまりあなたの心の中にある。之れは古くから言つたことで、我が国民性の根となつて居るのである。私は此の間から、我が国の古いものを読んで見ましたが、なかなかよいことがある。口につきては、これは簡短な詞であります、意味は誠に深長であります。

「人の短を言ふこと勿れ。己が長を説くこと勿れ。」(松

尾芭蕉 座右銘)

「病は口より入るもの多し。禍は口より出づるもの多し。」
「詞花咲く者は、心必ず実なし。口に蜜を作る者は、心必ず針あり。みだりに誉むる者は、みだりにそしる。妄に喜ぶ者は、妄に悲む(中略)利欲に耽るものは、長く人倫の道を失ふ。書を読みて邪智あるものは、国の大義を害す。心に感じて為すことは、未を遂げて成就す。氣に感じて始むることは、暫くにして消散す。」(新井白蛾 冠言)

徳川家宣と云ふお方は、此の心を修むること、国を治むること、家を斉ふることを非常に勉められたのであります。其のお壁書と云ふものに、

「心に物ある時は、心せばく、体窮屈なり。物なき時は、心広うして、体ゆたかなり。心に我慢ある時は、愛敬を失ふ。我慢なき時は、愛敬備はる。心に欲なき時は、義を思ふ。欲ある時は、義を思はず。心に飾ある時は、偽りを思ふ。飾なき時は、偽りなし。心に驕りある時は、人を恨む。驕りなき時は、人を敬ふ。心に私ある時は、人を疑ふ。私なき時は、疑ひなし。心に誤りある時は、人を恐る。誤りなき時は、恐るゝ事なし。心に邪見ある時は、人を損ふ。直なる時は、損はず。心に怒りある時は、詞烈し。怒りなき時は、詞やはらかなり。心に食りある時は、心隘ふ。食りなき時は、隘ひなし。心に堪忍なき時は、物を損ふ。堪忍有る時は、物を整ふ。心に憂ひなき時は、悔いなし。愁ひある時は、悔い多し。心に自慢ある時は、人の善を知らず。自慢なき時は、人の善を知る。心に迷ひあれば、人を咎む。迷ひなき時は、咎むることなし。心賤しき時は、願ひ賤し。欲あらざれば、願ひなし。心に誠ある時は、分を安んず。誠なき時は、分に安んぜず。」

又、大和俗訓に、

「心は天君と云ふ身の主なり。思ふを以て職分とす。耳目口鼻形は五官と云ふ。官はつかさどるなり。役をつとむるを云ふ。耳は聞くことをつかさどり、目は見ることをつかさどる。口は物食ひ物言ひ、鼻は香をかぎ、手足の形は動くことをつかさどる。此の五官は各々一つづつの役ありて、他事に通ぜず。心は天君なれば、五官をさしつかふ主なり。」

其の関係が、今日の心理学の解釈とちがはない。

「人の為めに謀りて心を尽し、或は其の才能を君相にすゝめ、人のため害を除き、貧困をめぐみ救ひ、人に恩を施すこと、只一筋に仁心より行ふべし。人の悦びて其の返報せんことを望むべからず。又、名聞の為にす可からず。之れ、陰徳なり。若し名聞の為に善を行なひ、又、人に施して其報いを望まば、仁心空しくなる。此の如くすれば、力を用いて善を行へども其の事は是にして、其の事は非なる事惜むべし。誠の道にあらざればなり。」
ど一です。若し報いをあてにし、人に褒められよ一としてするならば、仁心空し、自分の内なる価値はなくなるのである。

「世は海なり。身は舟なり。志は楫なり。楫をあしくとれば、行くべき方に行かず。楫のとりよ一悪くして、舟を覆すが如し。

我が身に事たる事を知れば、貧賤にしても亦楽しむ。足ることを知らざれば、富貴なりと雖も楽しまず。君子は人を責むる心、常に少なく、己を責むる心、常に多し。人を恨み憎む心、常に少なく、人をゆるし堪忍する心、常に多し。小人は、このうらなり。此の故に、君子の心は常に平らかにして、小人の心は常に険しくして、憂ひ多し。万の事つらつら思案して、後のあやまりなく悔いながらんことをはかるべし。思案なくして怒りと欲とを去らざれば、後の禍となる。是れ、智者の仕業にあらず。

(中略) 怒りと欲とによりて、少しの事を堪忍せずして莫大のあやまりとなり、一生の禍となる。果ては身を失ふに至ることあり、慎むべし。少しの間慎まずして禍に至るは、至りて愚なり。(中略) 利を求むれば、必ず害あり。福を求むれば、必ず禍あり。故に、韓詩外伝に曰く、利は害の本、福は禍の先とす」

即ち、利は害の本であると教へられてあります。

「求めざるに自然に福来るはよし。我れより求むべからず。我れより求めたる福は、必ず禍となる。只我が身を慎み、分を安んじ、我が職分をつとめて天命に任ずべし。利とは財利のみにあらず。一切の我が身の為めに便よきことは皆、利なり。我が為めに便よきことをはかるは皆、人に害あり。故に、我が利は人の害なり。人の害は又我が害となる。(中略) 人生、此の日の再び得がたきことを知りて、時々其の事を勉めて怠らず。日々この生を楽しみて、憂へず、よく勉め、よく楽しむ人は、一日を以て一月とし、一年を以て十年とし、十年を以て百年とす。勉めと楽しみを以て身を終る智者のしわざ、斯くの如し。勤めと楽しみを知らざる人は、仮令百歳の長寿を保つとも、常に怠りて一生の間、何のなし出せる善事なし。是れ、勤めざればなり。常に憂ひ、苦しみ多し。これ、楽しまざればなり。斯くの如くなれば、人となるかひなし。生けるばかりを思ひ出にす。生を得たりと言ひがたし。

(中略)

禮記に、君子は道を得ることを楽しみ、小人は欲を得ることを楽しむ。道を以て欲を制すれば、楽みて迷はず。欲を以て道を失なへば、迷ひて楽まずと云へり。君子は常に楽みて日を送り、小人は常に憂ひて日を送る。衰老の身は殊に余日少なければ、一日を以て一月とし、一月を以て一年とする工夫をなすべし。一日一時も楽まずして、あだに時日を送るは愚なりと云ふべし。」

我々は、実は今日生れて、此の一日は我が一生涯である。此の一生涯は今夜死にまして、又新たに生れ變つて来るのである。故に、今日の我れと明日の我れとは決して同じ者ではない。故に、今日行つた力は何時迄も保存せられて、又明日以後の力の本となるのであります。

[人生は働くため、勉むるためのものなり]

人生は働くため、勉むるためのもので、決して無意味に過

すべきものではありません。故に、我が使命を完うする為めに迫害にあふても、之れ又喜ばしいことである。ほんとの喜ばしい経験である。即ち楽しんで勉むれば、一日が一月に当り、一月が一年となり、一年が十年にも相当するのであります。故に此の二ヶ月は、使ひよ一によつては二年に当る。夫れだけ我れに価値をつけてくれることが出来る。この先輩の経験を何うて見れば、我が日本魂、我が国民性は銘々の精神の力である、靈の力であると云ふことが信ぜられるのであります。故に我々は、お互に誠の善を行つて、此の二ヶ月を最も有益に使ひまして、其の目的を成就して、心身共に健全にして秋には一同又此の堂に会したいものであると希望致します。

[中表紙]

始業式の御話

明治四十四年九月十一日

明治四十四年九月十一日

第二学期始業式

此の学期の始まりに於て、本校の第十周記念式を催し、是れ迄多くの人々の努力の結果であります収穫を供へて、今後第二の発展を期しました際に、あなた方全体が深く考へ、堅く決心する所があつて、猶、此の問題に深く集中すべき夏期休業を迎へて、軽井澤の三泉寮から校内の普通寮に至る迄、及び郷里に同じ決心と同じ目的を懐いて歸られた一同が、近来稀に現はれた高調に達した様な経験をなさつたのみならず、實際、生活に之を試みて、多分銘々深く何か味はふ所があり、又、期する所があつて、一同此所にお集まりになつたことと思ひます。

此の大事な時機に於て、只今学監から有益な、しかも誰れもよくわかつたであると思はるゝお話がありまして、私も誠に同感であります。

私が今朝申さうと思ふ所も夫れに外ならぬので、今朝は時もありませんし、又追々と各級に申すつもりでありますから、今朝は極大体を一言に申しておく必要があると思ふ。

此の頃、世界の平和問題について、米国よりジョルダンと云ふ生物博士、スタンフォード大学の総長が来られました。夫れと同じ様な目的を以て、我が国からは新渡戸第一高等学校長、及び島田三郎君が渡米せられました。又、世界の富豪を以て名高きカーネギーは、此の問題の研究、及び其の助けとして一千万円を平和協会に捧げられたと云ふことである。其の外、仲裁問題、平和問題と云ふことが世界の列強間に喧しく称へられて居る。之れは何を意味するものであろ一か。

本校の教務委員 西園寺侯爵は、新内閣を組織する所の光榮ある責任を荷はれた。斯う云ふ大きな問題が続々起つて来る。之れは果して如何なる兆候であろ一か。之れは世界的の問題であつて、我々個人、殊に我が国婦人と云ふ様な方には関係

なきことであるか。我々婦人は斯くの如き問題は考へ能はない、又、日常生活に関係なき空漠たることであるか。

[Eugenics]

此の問題に最も熱中して居る有力な学者 ジョルダン博士を我が校に招いて、同時に府下の有力なる人々をも招待し、博士の女子教育談を聞かうとして居るが、之れは何を意味するものか。又は無意味、無趣味なるものであろうか。殊に博士の齎して居る所の問題は、Eugenics であります。Eugenics は生物学と社会学との協同によつて出来ました民種改良、或は人種改良と云ふ目的を以て称へられて居るものである。之れが今、学監の言はれた胎内教育、特殊教育、斯う云ふ問題が皆、其の中に入つて居るのである。近来、教育の問題を説くに大事なるものは教育学、心理学、社会学などで、国民教育、人類教育と云ふよ一な、是れ迄無意識におかれて居つたものが有意識的になつて来たのである。此のEugenicsの学問の目的を完うするには、女子の教育、婦人の経験を新にすると云ふことが、非常に根本なる問題となつて居る。是れ迄、其の教育はひき出すと云ふことで、外から注ぎ込むのではない。即ち、遺伝によつて伝はつて居る天賦の力を発展せしむると云ふことにある。ガルトンと云ふ熱心なる研究者が現れ、此の銘々へられて居る傾きを研究することが必要になり、なほ、児童の爲めには児童心理学などが盛んになつて来て、詩的教育が重んぜらるゝ様になりました。又、知育に偏る観念教育はど一言ふかと云ふと、人間の頭は恰も白紙の如きもので、教育は其の上へ書く活字の如きものであると云ふ考へがあつた。此の両極端の説が相容れなかつたことであります。併し、Eugenicsを土台とし最も進んだ教育は、成る程、人間は与へらるゝ者、教へらるゝものではなく、数千年前から遺伝して来たものである。併し、之れに境遇を与へ、適当に育てねばならぬと云つて、生物学、社会学両方面から考へて、国民教育、人種改良、社会政策に応用しよ一としてある。故に、真理を實際生活の上へ応用する、即ち其の応用がEugenicsである。この土台に考へをおいてジョルダン博士は、世界的平和を唱導せらるゝのであります。

ナポレオンがロシアを征する時、六十万の精鋭を率いて行つたが、生きて歸る者は僅かに二万人。此の戦争に斃れたる壯丁は三百万余り、殆ど四百万に近いものである。此の戦争は実に惨憺たるものであつた。其の後、平時に於ても何十万と云ふ金を軍備の爲めに使ふて居る。これに依つて国利民福をどれだけ害して居るかしれぬ。博士は、余命を此の使命の爲めに捧げて居らるゝのであります。此の運動の開始せられてからは是れ迄、空想の如く見做されて居つた人種改良問題は、忽ち世人が注意し、研究するよ一になつたのであります。

又、自分が合衆国のClark Universityに學んで居つた頃、其の総長は大部なる著述を始め居られたが、其の助け人は誰れかと云ふと、女学生であり、女教授であり、アメリカの母親である。斯くの如き女性が尽力した所のものは、二、三年前出版せられました。之れが即ちAddressenceであります。夫れから又、之れを応用した所のProblem of Educationと云ふ本が、今年になつて出たのであります。之れによつても、

アメリカの教育が此の四、五年間に如何に発達したかがわかる。今後の國家は國民の力に在ると云ふことは言ふ迄もない。其のEugenicsを応用し、國民全体を教育して居る所の國々は、今後益々其の研究を応用し進まうとして居るのである。

彼のバナーマ地峡が開通せられ、アメリカ合衆國が若し仮りに武装したとするならば、我が國は果して之れに対する力があるか。此の危機に際して此の勢を挽回することの出来得る者は教育である。其の本は我が國の婦人である。茲に十年の結果を得て、益々発展しよ一として居るのである。其の教育に現れて居る所の実験を応用して、此の学年よりは私共は一層有力なる教育の実を擧げて行かねばならぬ。其の又根本である所の銘々の人格を築く爲めに、充分修養を積んで行かねばならぬ。

[學者の無常識]

然るに、我が國の教育は益々形式に流れて居る。其の原因は何所にあるかと云ふに、今学監からも言はれたよ一に、只覺えて置くことと云ふことに汲々として、之れを實際に味はう、行ふと云ふことに遅れて居るからである。此の弊は、今始まつたことではなく昔から認めて居つたので、東洋で言ふ所の論語読みの論語知らず、學者の無常識と云ふことになりました。私が若い時に熊毛郡^[1]の二島と云ふ所の校長として赴任した。其の前に校長があつた。此の人は萩の儒者で、書物の講釈をさすればどんな書物でも立派に出来るけれども、其の意味は少しもわからない。論語に書いてあることの実行は出来ぬのである。其の人の終りはど一なつたかと云ふと、小学校長に任ぜられた辞令書を持って、帰りがけに途中で自殺をしたのである。之れ等は、論語読みの論語知らずの適例である。昔から漢學者と云ふものは誠に鈍いものである。今日でも帝国大學を出た人、博士と云ふ様な人は優等で卒業したに違ひないけれども、無力である。今日の教育は試験學問である。之れが、今日の學問の弊を世間が攻撃する所以であります。我が國の教育が、斯くの如き論語読みの論語知らずを作つて居ると云ふことがわからない。斯くの如き教育をして居つて、先進國に對せらるゝものでない。我が校でも自動的と云ふことを言つて居る。併し、教育制度によつて如何に束縛せられて居るかもしれない。この弊を打破して、真に國民の根本から改善しよ一と云ふ様な人が何所にありませうか。我が國の教育を司つて居る所の文部省と云ふ所でも出来ない。文部大臣のことは、世間でも伴食大臣と言つて居る。

之れは、ほんといの力を養ふと云ふ教育をしない証拠である。夫れで、広く世界の大勢を見まして我が國家の將來を考ふるならば、あなた方の今後の責任は如何に重大なものでありませうか。只其の弊に甘んじて、只其の六ヶ敷い事に驚いて、何時迄も眠つて居つてはならないと云ふことを申したい。私は、この夏も出来るだけ研究をして見ましたが、麻生君も叫ばれたよ一に、ど一も我々の方針は間違つて居ない様であるのみならず、益々我々の確信を強められて来るのであります。

[編者注] 原文当該部に「？」の加筆が見られる。室津郡の誤記ではないかと思われる。

麻生君も言はれた様に、実際と云へばど一するかと云ふ問題が起る。然るにあなた方、四十余時間と云ふものをつめ込み教育を受けてど一なるか。頭はからつぽになつて了うのである。あなた方の前には、そ一云ふ大問題が横たはつて居る。實際をやると云ふのには、先づ活問題について判断をしなければならぬ。此の解決が出来なければ、今後の道は開けないのである。又、高等女学校の方で云へば、華美にしてはいけぬと言はれる。併し又一方には、そんなに男らしくなつてはならぬと言はれる。夫れならばど一すればよいか。そ一云ふ小さい問題でも、一々解決しなければならぬ。昔の教育では、買ひ物をしたり、貯蓄をしたり、利を思ふと云ふことがあつてはならぬと言つたけれども、此の学校では買ひ物もし、台所の事も出来る様にと云ふので、購買会も銀行部もたててあるのである。けれども、買ひ物をするから飲食店へも行かう、牛肉屋へも入らうと云ふ様になつてはならぬ。万事そ一云ふわけで、本を読むことはやさしいが、實際問題は誠に六ヶ敷い。併しその出来るのが、学問が出来たと言ふのである。日常の出来事には必ず意義がある。夫れがわからねば学問が出来たと言はれない。其の意義の意義がわかる様に育てるのが教育である。其の意義と云ふのは何でありませうか。価値とか欲望とか希望とか目的とか云ふ様なものがあります。今、私が皆さんに話をして居る、夫れには必ず価値がある、目的があるのです。世の中のあらゆる事実、あらゆる出来事、其の他天地間のあらゆる事柄には、必ず何かの意義がある。夫れがわからねばならぬ。其の判断の出来るのが尊いのである。之れが毎日の行為、毎日の道徳問題をきめる上に大切なことで、其の活問題をきめる事の出来る様にするのが教育である。然るに益々遠ざけて了うのが、今日の教育の弊である。

活問題の意義と道義の關係が理解できる。夫れに一々解決をつけて總ての統一をつけたのが、我々の理想である。故に毎日の活問題が、我々の品性、行為に關係がついて実行とならねば、何の価値もない。之れが何かの行為にあらはれて始めて、我々は物知りになつた、学問が出来たと言ふことが出来るのであります。之れが、ほんとの一の行ひとなり経験となるよ一に、ほんとの一の教育の実を挙げて行かねばならぬ。これは、夏前から皆さん熱心に研究なさつたことでありますが、今学期は是非、其の解決をつけて実行に着手したいものであります。

[中表紙]

大学部二、三年の御話
明治四十四年九月十三日

明治四十四年九月十三日
第二、三学年にて

此の始まりに於て、夏期休業の間に銘々が経験致しました新しい知識を交換致しまして、又同時に、今後の方針等に就

いて考へました。将来の望みをお互に明らかに致して、此に全体の意気を揃へる様にすることが大切でありませう。又、私が導くにつきましては、成る可く委しく、今日のあなた方の経験を聞くことが必要であります。故に、全体が一緒に集まる必要があるが、ど一もよい時がありませんから、次の水曜日を取るより外あるまいと思ひます。

そして一週間の中に、今後の決心、希望、要求等を文に綴つてお出しになる様に致したい。今日は幾らか次の準備の為に、又、大体がど一向いて居るかと云ふことのわかる様に、始めの時間を使つて簡短に発表なさることを希望致します。

○

夏の皆さんの御経験を大体聞いたので、お帰りになつた方の家庭には私は参らんのでよくわかりませんが、併し、輕井澤の寮舎と二年、一年の寮舎には直接、会にも臨みましたので、今あなた方の仰つたことは何を意味するかと云ふことがよくわかります。輕井澤へ行つた方は一言で言へば、知つたことと、努めたことと、味はうたことであると言はれたが、夫れはど一云ふ意味であると云ふことがわかります。之れは共に経験した人でなければ到底わからないのである。之れを一時の感じて雷同であると云ふ様に疑ふ人は多分ありますまいが、又、夫れを真に自分のこととして確信することも六かしいでありませう。併し、ど一か其の熱心を以て実行に現して貰ひたいと云ふ希望が全体に満ち渡つて居ると思ふ。そこで、輕井澤へおいでになつた方の喜びも深く御座りませうが、又、あなた方全体の責任も誠に重いのであります。之れが今年の夏休みの獲物であるとして、あなた方全体が勝ち得た所のものを必ず実行に顕して、全体に及ぼさねばなりません。輕井澤をすませて、私は或る用務を帯びて、其の用務もあなた方だけでは言つてもよいが、私は近来、我が国の教育について甚だ憂慮に堪へんものがありました。夫れで私は、昨年桂公爵に面会致しましたと一日違ひの、恰も同時刻に参りまして訴へました。其の中には女子教育と云ふこともありました。其の問題を述べますと、桂公は案外にもよくわかつて下さつて、是非一度見に行きたいから、此の秋行かうと言はれました。

それから、ど一も西園寺内閣になりそ一であるから、渋澤さんの伊香保に行かれるのについて、西園寺侯に言づけを致しましたが、一緒に行かうと云ふことで同行致しまして、渋澤さんの奥さんや御子息の一緒に行つておいでになる処へ泊りましたところが、奥さんから私に対して宗教の事を尋ねられる。又、渋澤男も此の頃は鬼神論を調べて居ると言はれる。夫れから、帝国大学や高等学校に入つて居らるゝ子息方ともいろいろ話を致しましたが、其の時若い人達が言はるるのに、其のあなたの言はるる、迷信を去り總ての宗派を去つて一致する事の出来る処の宗教で、真に人の心に命を与へらるゝものであ一かと言はれましたので、私は輕井澤の生活を話し、我が校で十年間経験して来たことを話しました。そ一すると、果してそ一云ふことが行はれて居り、其の実を見る事が出来るならば、誠に幸であると云ふ様な話になりました。

そこで、あなた方が其の實をあげて証明することが出来るならば、誠に力あるものである。先進国の人々が日本を見に来ると云ふのは、只外部の事ではない。真に我が国の文明の命、国力の土台と云ふものは何処にあるかと云ふことに、始終目をつけて居るのである。先年、洪澤男が觀光団の一行を率いて行かれた時に、アメリカ政府から頼まれて其の接待員として始終引きまはした人が此の間来ましたので、洪澤男は早稲田大学や帝国大学を見せた後に、此の学校を見せられたれば、其の人は、我々の望んで居ることを此の校に於て見る事が出来た、と言はれたのです。

今度ジョルダン博士が来らるるのも、一面からは我が日本を研究せんが為である。英國の社会学者シドニー・ウェブと云ふ人も、此の頃夫婦で来て居る。此の人も今度此方へ来るならば、此の学校を見に来るでありますよ。外国人の多くは、我が国婦人はつまらぬものであると思つて居るのです。此の時に當つて、若しも我が国の婦人が世界の国民に対して、是れだけの人間である、是れだけの知力も人格も備へて居るものであると云ふことを實質に於て証明しなければ、真に我が國文明も発達し得るものであると云ふ信をおかしむるには足りないであらう。我が女子大学はそ一云ふことを目的として奮闘努力して居るのである。故に、此の度あなた方が経験したことは、只我々お互ばかりではない。世界の国民、眞の有識者、愛国家が齊しく見んことを望んで居るのである。故に此校へ来るものは、最も緻密なる観察をするのであらう。あなた方は果して、是れを証明するに足るだけの實を得たであらうかど一か。真に今年の四十余人が、殆んど口に言ふことの出来ない程の感謝を以て満たされて居ると云ふことであるから、果して我々が待ち望んで居る処の我が國婦人が生れたのであるかど一か。之れは自分にも反省したいと思ふことであり、又、世間の人々が是れを見たいと待ち望んで居るものであらう。故に其の實質が如何なるものであるかと云ふことはよく確めて、今日只今の現実を調べておいて、将来の方針に向つて進まねばならぬ。夫れで先づ私は、今年の得たと云ふこと、此の団体の間に出来たと云ふものゝ實質を確めておくことが必要であると思ふ。又、夫れを明らかにしておかないと、實質はありながら見れども見え、聞けども聞かえずと云ふことにならうと思ふ。故に、どの方面から云つても確めておくことが大切である。之れは詞で言ひ表すことの出来る訳でもないから、今後の実行活動によつて見る外はないのである。又、之れを如何にすれば、今後益々発展し得るものであるかと云ふことをも研究しなければなりません。之れは銘々でよくお考へになつたことと思ひます。夫れを始めに於て判然としておいた方がよからうと思ひますから、私はそ一云ふ問題を此に出したのであります。

そこで、宗教の命が生れたと云ふ譬への詞を用いる外はない。我が國の娘が生れた、賢婦人が生れた、命が発生したと云ふ様な詞を使はねばならぬ。そ一言へば、わかるのである。之れは果して真であるか、偽であるか。実であるか、虚であるか。仮令小なりとも実であるならば、必ず我々の希望する処のものが育つて行くのであります。故に、それを如何に育

つればよいかと云ふ、今後の問題も起つて来るのであるから、どの道、之れを証明しなければならぬ。其の前に、科学で言へば先づHypothesisが出来て後、証明が出来るのであるから、私は夫れを尋ねたいのである。之れは詞でお答へが出来なくても、必ずしも出来て居ないとは思ひませんが、私はあなた方がそ一云ふ活問題を考へることの出来る様に導きたいと思ひます。

【實際とは何か】

今、知つたと仰やる。之れは知力の働きである。又、味はうたと仰やる。之れは深い情緒が動いたのである。或は、努めたと仰やる。之れは行ひを見たならば、あゝ之れであるとわかるのであらうか。ど一も夫れだけではわからない様である。然らば、出来たとは何であらうか。何が出来たならば、ほんとに出来たのであらうか。何を見たならば、私共が確信することが出来るのであらうか。之れを先づ聞きたいと思ふのであります。

行ひと言ひ、實際と言ふ。ど一しても実行が出来ぬと言ふ。其の實際について見なければならぬと言ふ。其の實際とは何であらうか。

私は此の度、あなた方が言ひ表すことの出来ない精神を以て満たされた。之れを例へば麗しい花の香気が満ちたと云ふことについては、誠に喜ぶのであります。是れ迄、私は使命の為に一命を捧げますと云ふ決心、夫れに似た詞は幾度か聞きましたが、此の夏のお表しになつたものは、程度に於て最も深いものであると思ひます。其の麗しい決心が一時的のものであつたならば、何にもならぬ。併し、そ一ではない。之れが決して一時ではなく、永久である。科学も、哲学も、形而上学も、宗教も、最も根本なる考へを纏めて確立した処のものを経験して、夫れを味はうて、永久と云ふこと。其の経験はずつと生涯に一貫して、四方に拡大して行くと云ふ決心である。そこの経験である。夫れから、其処に行く迄に非常なる矛盾、衝突があつたものである。けれども、終りには夫れがよくわかつて、意志の方からも、感情の方からも、個人の方からも、社会の方からも、そ一云ふ矛盾、衝突が一つもなくなつて、英語で言ふOrganizationとなつて、一つの關係に結びつけて其処に現れた所の深い感情である。其のUnity organizationと云ふものが、何時迄も限りなく働いて行く処の要素が出来たと云ふこと。是れ迄幾度か立派なものも現れても、一時的のもので信頼するに足らないけれども、今度は出来たと云ふことである。之れを一言で言へば、人格と言ふ。婦人には人格がないと言ふ。西洋でも古い書物などには、女子は人格を認むることの出来ないものと云ふ風に書かれて居る。

【婦人が生れたと云ふのは人格が認められたことである】

私共が、婦人が生れたとか此の女子教育に実がなつたとか言ふのは、あなた方に人格が認められたと云ふことである。又、桜楓会が出来たと言ふのは、其の個人と個人によつた処の桜楓会に人格が出来たと云ふことで、桜楓会に人格が出来たならば、其の使命を成し遂げて行くことが出来ると思ふことになる。又、母校に命が出来たと言ふならば、母校に人格が出来たと云ふことを意味するのであります。

[人格とは何か]

私は、此の人格が出来たと云ふことについて計りたいと思ふ。然らば、其の人格と云ふものは何であるか。抑も我々は、人格のある人と人格のない人とは、何を以て言ふのであるか。我が国婦人には人格がないとは、何を以て言ふか。我が国の婦人には意志がない、欲望がない、熱望がないと云ふことを以て言ふのであるか。そ一ではない。婦人にも確かに意志がある。欲望があるのである。併し之れがあると云つて、婦人に人格が出来たとは言はないのである。

[人格のある人と無い人]

其の婦人には、人間であるから意志がある。欲望があるに違ひない。女は受動的であると言ふけれども、内から起こる処の何かしたいと云ふ衝動があるに違ひない。けれども、其の衝動が四圍の境遇に支配せらるゝのである。之れを**風見(かざみ)**に譬へることが出来るのです。人格のない人間は、丁度**かざみ**が風のまにまに動く様に、外の境遇の様に動いて了うのである。親なり権者なりが命令するならば、道理に背いたことでも泣く泣く其の意志に従ふて了うのである。即ち、始終外からの刺激の為に動かされて居るのである。故に、外から動かされて居る人は人格がないと言ふのである。

然らば人格があると云ふならば、内から自分を支配する人であるか。風向きを却て、我が内から起る処の意志、希望等に従はせる、即ち外から起るものを我が内から起るものに合せる様にして了うことかと云ふと。之れは半ば真理で、半ばそ一でないと言ふべきであらぬ。内から動き、内から起る傾きに従ふ。之れに他のものを従はせると云ふだけでは、人格があるとは言へない。其の内から出る衝動にのみ従ふ人は、之れを本能の人と言ふ。其の時其の時の情欲にのみ従ふ人は、人格を破壊し、人格を失ふ人である。故に、人格ある人は、内から起る処の個々の衝動を制することの出来る人でなければならぬ。然るに、我が国の婦人には其の衝動を抑へることの出来る人が少ない。我儘な人、女々しい人、煩悶に陥る人、甚だ弱い人が多いのである。即ち、其の衝動のまゝに動かさるゝ人が多いのである。故に、我が国の婦人には未だ人格がないと言ふのである。そこで、人格のない人とは外の勢力に抑へられ、内の衝動に動かされて居る人を申すのであります。

も一つ、我が国の婦人には物がわからぬ。四圍の境遇がわからない。自他の関係、社会の真相が見えない。そ一して自分の我が強い。自分から出る傾きに四圍の境遇をかまはず押し通そ一とするのである。向ふ意気が強いのである。そ一云ふのを頑迷と言ふ。斯う云ふ人が物をすると、ど一してもよく出来ない。故に意志の自由がないのである。斯う云ふ人は、やはり人格がないと言ふのであります。之れは私が消極の方から申したのである。

然らば、人格とはど一云ふことであるか。人格と云ふことは第一に、今あなた方が仰つた、決して一方に偏して居つてはならぬ。其の人格に必要な、或る要素を欠いて居つてはならぬ。即ち、之れを一言で言ふと、人格は英語で言ふと Unify、総ての要素の統一したものである。即ち有機的に Organization になつて居るものを申すのである。故に其の人

格は悟りがなくてはならぬ。知、情、行為とがあつて、進歩がなくてはならぬ。永久的な秩序がなくてはならぬ。

[人格ある人には必ず意志がある]

其の傾きは、此の間申した意義の調和とも言ふべきもので、人格の人には必ず意志があり、意志の人には必ず人格がある。そ一して、意志の人は永久的の人であり、其の進歩が止まらない人である。永く続いて一貫して行くのであるから、必ず目的とか理想とか主義とか云ふよ一な、即ち知識の働きの由つて理想的に出来た処のものがあつて、全体を統一して居らんければならぬ。之れを持って居なければ、決して永久的にはならぬ。総ての行為を統一することは出来ぬ。其の目的、其の意志に由つて四圍の境遇を支配し、又、内の衝動を制御して行くものが、即ち人格と名づくるものである。故に我々の知識、我々の感情、我々の衝動、行為が斯くの如き人格となつて参りましたならば、始めて私共は自分について満足することが出来る。又、自分の使命、天職について確信することが出来る。又、自分の行為、又は人に対して誓ひすることが出来る。私は必ず之れを成し遂げます、決して挫折致しませんと言ふことが出来るのであります。此の誓ひが出来て始めて、我が国の婦人が生れた、桜楓会が出来たと言はるるのであります。

私は人格と云ふことの外容を述べたのである。是れから其の内容について、も一つ如何なるものかと云ふことを考へて、此に我々が一層人格を発揮する処の道を講じたいと云ふ考へで、此の論を起して来たのであります。も一時も大分過ぎましたから、銘々で、も一つよく考へになつて纏めたものをお出しになる様に致したいと思ひます。

[中表紙]

大学部一年及び予科の御話
明治四十四年九月十六日

明治四十四年九月十六日
第一学年及び予科の為に

[休み中に於ける各自の心身状態]

此の第二学期を始めるに当りまして、過半の新しい入学生及び予科高等女学校から大学部におはりになつて一期の間、是れ迄と少し違ふ新しい経験をなさつたあなた方の健康と心理状態がど一であるかと云ふことを案じて、あなた方をお迎へしたのであります。然るに未だ委しい報告を得る前ではありますが、大體健康も勝れて、寧ろ是れ迄の弱い所も直つて回復なさつた様である。また、色々強い試みもあつた様であるが、挫折することなく志を全うして帰られたことは、誠に喜ばしいことであります。そ一して先学期の終り、重患に陥られて危篤の状態となり、私共は只一線の望みを以て、ど一かして救ひたいと云ふ様に心切かに折つて居りました予科の泥谷と云ふ人、私も其のわるい頂上に行つて見ましたが、無

意識になつてひきつけが四日続いて居りました。今迄そ一云ふ風になつた人で助かることは珍しいのであるが、高田病院に入つて、青山博士の診察をも受けた。其の時からよくなりかけて、遂に病魔に勝つことが出来た。一種の病気を追ひ出すことが出来た。昔なら奇跡とでも言ふべきであらう。そして夏中、国へ歸つて養生をして居られました。九月となつて、幸に健康にして、今度歸つて顔を合せた時は誠に嬉しく感じました。是れは薬ばかりで治つたのではない。自分にも一種の信仰を持つて居つた人でありましたが、其の親と云ひ、看護をした人と云ひ、総ての熱心がよつて助かつたものと言ふべきでありませう。其の他、之れに似たよ一な経験をした人があらう。又、夫れ程危険に陥つたのではないが、何かの試みに勝つことが出来たと云ふことがあらう。此の夏、一年寮を導かれた中村寮監は、一年寮がすんで後、少しく疲れを感じられて未だ快復せられない為に、多分今朝あたり青山博士の診察を受けらるゝ筈であります。

[内心の誘惑に勝てる事実]

之れは身体のことであるが、又、我々の心の内に誘惑と言ひませうか、迷ひと言ひませうか、内に起る所の危険にあふた人があらう。併し、眼に見えぬ所の勇気を以て戦ひ勝つて、再び業に就くことのお出来になつたことは、誠に喜ぶのであります。

[三泉寮]

独り一年生のみならず、此の夏、深い感動に満ちて人生の高調に達したと云ふ様な経験をしたのは、輕井澤の三泉寮でありませう。其の他二年寮に於ても、深い経験をなされたのである。故に、其の経験を交換なさることは誠に有益であります。夫れで、此の次の水曜日を使ひまして、予科以上一緒に此所に来て、お話になつた方がよかろ。併し、夫れだけでは銘々の経験を漏れなく聞くことが出来ませんから、夫れ迄に銘々の経験を纏めなされて、書いてお出しになることを希望致します。其の準備ともなることであるから、今日実践倫理を始める前に、大体のことをお話なさる様に致します。

[休み中の獲物は経験と決心]

今、あなた方が夏の間経験なされたことと云ふことを分類して見ると、何か経験なされたことと云ふことと、も一つは、夫れによつて将来の爲めに何か決心する所があつたと云ふことになる。

- (1) 獲物を得る 1/2
- (2) 態度 一人
- (3) 実行
- (4) 識る
- (5) 自ら直す

- (1) 思想と実行との一致
- (2) 熱心、忠実の必要
- (3) 目的的活動

一番大切なものは何。

- ・ 団体の爲めに身を犠牲にすること。
- ・ 真心。

無論、皆、答へが違つては居りませんが、夫れが、も一つよくわからんと、ほんとの事がわからないのであります。故に、も一つ研究をしなければならぬ。実は今日、私が申したいことがあるのです。其の爲めに用意をしたのでありますが、あなた方の注意がど一も集まらぬのである。故に私は、あなた方を其所に導かうと思つて準備をして居ります間に時がたちました。併し之れは無益ではなかつた。故に私が申すよりも、あなた方自身で深くお考へになることが大切であるから、よく考へを纏めて書いたものをお出しになる様に。

[自知の経験]

も一つ聞きますが、自知と云ふことの経験ををした人は……多数

此に自他の関係と云ふことがあります。之れは自知と云ふことの、も一少し大きくなつたものである。此の経験ををした人は……

目的を立つることの必要を感じた人は……

安心立命と云ふことの経験ををした人は

[自己発展に対する興味の有無]

一寸、私聞きますが、考へると云ふ経験をしないものはない。又、あなた方がいろいろの事を習ふて居る。其の本を読むときに、本に書いてあることのわかる様に、又、其の原理、原則の合点が行くよ一にと考へて読まないものはない。そ一云ふ意味で考へると云ふことをしないものはない。

けれども、自分の人格を築く爲めに、いろいろの知識を纏めて品性を養ふ爲めに、自分の人格を実現する爲めにいろいろの疑問が起り、夫れに対して深く考へて見るとか、又自分を進め、自分の力をつけて行くにはど一云ふ働きをしなければならぬかと云ふことをいろいろ考へて、熱心を起して来て深い経験が出来るのである。其の経験があなた方の間に出来たかど一か。何かについて覚えて居る、何かを暗記して居ると云ふことは確かであるけれども、自分の一生について、自分の根本について、自分を将来発展する爲めに深く考へたのであるかど一か。そ一云ふ問題を興味を以て考へると云ふ経験が出来たと言はるゝものは……大多数

多分そ一あらうと思ふ。故に、猶深くお考へになる様に致したい。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年九月二十日

明治四十四年九月二十日
大学部全体の爲に

も一時間がありませんから、終りに一言だけ私の感じを申して此の会を閉ぢましょ。

今日は非常にむし暑いにも拘らず、一同がよく親切な注意

を以て人の善を聞くことに、人の善い結果に耳をよく傾けてお聞きになったこと、又、弱い人、猶後輩の訴へに等しく親切な注意をお払ひになつたと云ふことは、今日の会の特色であり、又此の特色が今日の総てを支配して居る空気の実体を表す処のしるしとも言ふべきものである。兎角、我々は人のよいことを好まないもの、人のよいことを聞くには出席することを好まない者、又人の善い事に対しては譏りをなし易いものである。

善い人を見ては、必ず内に批評する。そ—してけちをつけたがるものである。何、あれは口ばかりである。夫れだけの感じ、夫れだけの考へは誰れでも言ふことである。誰れでも出来ることであると云ふ考へが起り易いのである。口下手な人が面白くない話をするならば、必ず隣の人に何か批評をする様な顔色をするのである。

之れに反して、人の善いことに耳を傾け、人の善いことを喜ぶ人は、人の欠点を気の毒に思ふ人は、如何なる性質なるものであるか。如何なる人格の人であるか。我が考へ、我が注意を省みて見たならば、如何なるものであるか。夫れに由つて人格がわかるのであります。

人の我が前に来ておじぎをする、其の態度にも人格はわかるのです。今日暑いのに忍耐して、非常なる熱心と同情を以て人の善いことを聞いた人、此の忙しいのに時間を繰り合して此堂に会した人、非常に忙しいのにいろいろと差し繰つて此処に出た人、夫れだけでも其の人の人格はわかるのであります。

暑いから耐らない、あんなお話を聞くことはつまらないと言つて半途で出る人、夫れはも—夫れだけの人である。今日あなた方の経験に由つて、行ひと云ふこと、実際と云ふことに重きをおいて居る様である。

[実際とは如何なることか]

実際とは如何なるものであ—るか。総て行ひと云ふものには本がある、思想がある。故に思想なき行ひの出来るものではない。而して其の思想と云ふものが我々の心の傾きをつくるのである。故に、先づ心の中から正さねばなりません。然るに我々の心の中には、直ぐ人の欠点を思ふ。人の悪を思ふ。此の考へが行ひの根となつて居るのではないか。此の考へ、此の思想を支配することは如何なる勇者でも六かしい。之れに克つことは城をとるにも勝るのである。之れに克つ人であつて始めて尊敬すべき人、勇気ある人と言ふことが出来ます。

此くの如き会に出て、人と交際して、我々の心の中に起つて来る考へを制することの出来るのは何であ—るか。之が即ち其の人の力、吾人の意志である。意志の力である。此の意志の態度、意志の力は、人格の土台をなして居るもの、行ひの基、實際の根である。此の空気の要素であるのであります。若しも立派なる思想を貯へ、善い考へに注意が注ぎ、其の将来の目的、将来の理想が明らかに立つ人は、誠に立派なる人と言はんければならぬのであります。いろいろ此の夏の経験をお語りになつたのであるが、其の中で最も主なることは、私を捨て、己に克つと云ふことである。又、小我を捨て、も—も一層大きい、高い我れに捧げると云ふことをお話しにな

つた様である。私、察するに、修養の一番本になつて居ることは、我が儘を捨て、真理につく、誠を行ふと云ふことであつたよ—であるのです。若しも此の我が儘を捨つることが出来たならば、此の Selfishness を捨てることが出来たならば、我が国の家庭、我が国の社会、我が国の婦人の間に曾て出来なかつたことが出来るので、之れは奇跡とも言ふべきもの、山を海に移したと云ふ如き大事業であるのです。之れは六かしいことではない。皆さん、此の満堂に在る処の一番若い人に至る迄、決心すれば必ず出来ることであります。此の我が儘と云ふのは何であるか。此の私を捨てるとは何であるか。一言で言へばつまり、あなた方を支配し、あなた方を苦める処のもの、あなた方の物の真相のわからないのは何であるか。之れを一言で言へば、競争心、嫉み、冷淡、かげごと、分離、嘲笑である。之れ等の妨げによつて、個人と団体と一致することが出来ないことである。之れが又、競争心、嫉みとなるのである。

[競争心に就て]

只、競争と言ふと、少し日本語が不充分でわかりにくいのであるが、英語では Competition と言ふ。之れは商売や実業で言ふことで、我々の多くは利益の競争である。人を斃しても、ど—か己れの利益を得たいと云ふ心であります。

其の次は Emulation と言ふ。之れは学生に最も強く行はるゝ処のもので、芸術に於て、学問に於て、我が仲間に於て勝ちを得たい、我が名誉を博したい、組の中で優等の地位を占めたい云ふこと。殊に我が国の如き試験学問の行はるる処では、殊に之れが激しいのである。御婦人の中には、此の競争心はない様に見えるけれども、そ—ではない。中々あるのである。我が組の進歩することを好まないものである。我が組の学問と自分の学力と比べて見て、又、組の空気と自分の修養と比べて見て少しでも遜色があるならば、甚だ不快を感じるのみならず、之を冷そ—と云ふ感じが起るのである。

第三に起るものは、Rivalry と言ふ。之れは親の愛とか、男女の愛とか、友達との愛とか云ふ総ての愛が、自分に一番多くありたい。自分よりも他の人を愛せらるゝならば不愉快である。又、此の Rival と云ふことは、Leaders の間にもある。政治家、教員、夫婦、友人等の間に於て凡て、愛の専有を欲する処に起り易いのである。

貝原益軒先生は、我が国婦人の病の中で一番重いものは、嫉妬心であると言はれた。其の競争心、卑劣心が己を煩悶に陥れ、友達の信用を欠いて来る。そ—して段々自分の社会を狭くし、段々自分の心を窮屈にする。之れが友達の間をさき、人間を苦めるものである。今日迄、我が国の女子教育を苦むるものは、此の力である。互に妨げをするものは、互に熱を消しあふものは、實に此にあると言はんければならぬ。

然るに、此の夏期の修養に於て、輕井澤の三年寮を始めとして、校内の二年寮、一年寮、普通寮に至る迄、又郷里にお歸りになつた方々の修養に於て、此の我が儘、利己的の心を制して此に人と共同することが出来る様になり、互に相勵まし、互に相助け、相喜ぶ様になつたと云ふことである。

斯くの如き精神を以て、ほんと—に人を尊敬する、ほんと—

一に人のよいことに耳を傾ける、ほんといに弱いものを助けよ一と云ふ優しい情が燃えることの出来る様になったと云ふことが事実ならば、実に之れは奇跡と言ふべき大事業である。其の人格の根底に何かの偉大なるものが醒めて来たと言ふことが出来ると信ずる。私の観察によれば、今年程、察に残つたお方と国へ帰つたお方との間に、又二年と三年との間に、互に批評する、けちをつけると云ふことの行はれずして、人の善い所を尊敬し、弱い処を認めて、互に助けあひ、互に直しあつて、そ一して各自の個人性をのばせよ一、人の善を育てよ一と云ふことの行はれたことはないと思ふ。今年は斯う云ふ情が、お互の間に最もよく動いて居るかと思ふ。

[婦人にも其の徳が顕れかけた]

今日、此の暑いのに誠に善い態度で辛抱して、互に人の善を喜んでお聞きになつたことは、心ひそかに喜んで居り、感謝して居るのであります。此の空気は、私共の考へがど一云ふ風に働いて出来たのであるか。此の我儘をずることが出来た、利己心に勝つことが出来たとすれば、今後の働きは確に見るべきものがあると思ふ。我々が期待して居つた御婦人の徳が顕れかけたのである。御婦人の人格が出来かけたのである。

此の善い事に考へが向く、此の力があらはれたならば、人格の中心であるからして、あなた方の間に人格が出来たと言ふことが出来ると考へて、私は喜ぶのである。猶、此の経験について申したいことがいろいろありますが、時間がなから只一点を申して、今後益々皆さんが研究なさつて、益々進まれたいと云ふことを切に希望するのであります。

[中表紙]

第六回桜楓会記念日の御話

明治四十四年九月二十五日

明治四十四年九月二十五日

桜楓会正准会員の為めに

今日、浮田博士の婦人問題につきお考へを聞くと云ふことになつて居るから、私は余りお話をする積りではなかつたのですが、矢張りそのよ一なお話をとのことでありますから、只一言、博士をあなた方に紹介すると云ふことに兼ねて、桜楓館 第六回の記念会を迎へるに就いて、思ひ起つて来た考へを簡短にお話し、其の婦人問題に深き注意をなされるよ一に致したい。

[桜楓樹]

桜楓会を第一回生に相談して始めて組織致しますときに、何を以て桜楓会をあらはすかをかけたとき、私は桜楓樹にたとへるのが一番よいと思ひ、桜楓樹を想像して絵がいたことがありました。

[発達を意味す]

其の意味は皆おわかりと思ふが、これは、小さい種子から

漸次芽が出、枝が生じ、葉が繁り、果が実ると云ふ、つまり桜楓の発達を現はして居る。

従来我が婦人界は形式に流れ、生命精神を欠いて居ると云ふことは、永く私共の感じて居る処である。

[桜楓樹は我が国婦人の自動をあらはす]

第二には、同じ程度に止まつて居て、内から出る力を伸ばすことが出来ない。進歩を助けることが出来ない。夫れは、我が国婦人が自分の境遇を自分で開拓し得るか否かをためす為めに、桜楓樹にたとへたのであります。桜楓樹は我が国婦人の自動を示すものである。其の樹の中から新しい芽を出し、力を出して来る。新しい仕事、新しい活動、是れ迄ない所の力が生じて来る。自分からものを起して来る、始めて来ると思ふことである。毎年毎年、樹木は内から枝を出して来る。この桜楓会は只あなた方が外から動かさるゝのではない。自ら考へを立てゝ、それを実行して行くと云ふ希望を以て描いたのである。然るに、十年の歴史を考へて見ると未だ微弱であるかもしれぬが、兎に角、自分の内に命をもつて居ると云ふ経験は、銘々が出来なすつた様に思ふ。

従来、我が婦人の欠点としては、団体の間に一つの目的を持って、それに向つて動くと思ふことは出来なかつた。然るに此所に、たとへ雛形と雖も少しの経験をなし得たと云ふことが、十年間に出来たかと思ふ。又、進歩も鈍いが、知らず識らず少し宛進んだと言ふことが出来る。桜楓樹が細に生長しつゝある。其の過去十年の間を顧みると、随分烈しい暴風にあてられ、酷暑に逢ひ、随分の圧迫を受けた様な感もあり、又、内から出る力の鈍いことを感じたこともあるが、決して死んでは居らぬ。充分伸びて行かう、戦つて行かう、其の目的に達せんければ止まぬと云ふかたい決心を以て、一同が弱いながら本氣になつて共同し、同情しあふて、出来得るだけ進みつゝあると思ふことは、今日私達銘々が自信することが出来る。

[研究心の必要を感ずる所以]

併し、今日の現状に安んじて居るかと思ふと、決してそれではない。この中には家庭をもち、人の母となつて居る人も有り、学校に居て勉強して居るもの、或は桜楓館に働いて居るものも有り、此れ等の内で満足を感じ得る様になつたと云ふ者も有り、希望が生じたと思ふ人もあり、併し、未だ不十分であると思ふ感じの方が強いかもしれぬ。境遇から考へても、あなた方の意に満たぬ点も多いのである。広く世界の婦人もそ一である。夫れに由つて一層、会員が婦人問題研究の必要がおこつて居る。又、我が国婦人一般の改善をはかり進歩を促すにつき、その研究の一層必要なるを感じて居られ、も一一つは母校創立十年に当り、同時に第六年記念式を挙げる時機に當つて居るから研究心も余程おこり、かゝる問題を扱ふことも出来るよ一になつたことと思ふ。如何となれば、この桜楓樹が自動的にあなたの経験を増し、進めて行くには、もすこしあなたの研究をすゝめなければ如何なることも徒勞に終るから、根本的に研究をする必要を感じて、それに考へをむけらるゝよ一になることは至当のことと思ふ。

今日は充分に、博士の社会学の立場からお考へになり、御

研究になつた結果を伺ひ度いと思ひます。私としては時がありませんから、この問題を如何に研究すべきかと云ふことを簡短に述べて見たいと思ひます。

[婦人問題研究の三方面]

これを研究するに、先づ三方面から進んで参らねばならぬ。この三方面を明瞭に區別し、又、其の近來の景況がど一なつて居るか云ふことをお話したい。この頃、欧米に於て、この問題につき用いられて居る言葉を示しませう。我が国にはこの様な意味の言葉はありません。併し、向ふには既に有るのであります。その中の一つは最も新しいものであります。他の二つは、七、八十年前に出来たもので、其の研究は一層盛んになつて居ります。

[Utopia Eugenics Eunoia]

- 第一、Utopia、Uは善、topiaは境遇の意である。
- 第二、Eugenics はGood heredityの意であり、
- 第三、Eunoia はGood willの意である。

- 1 人間は境遇から出来たものであるから、人間を幸福にするには社会をよくせねばならぬ。つまり是れは、社会問題である。これに付き、最も満足を与へらるゝ方は浮田博士であらうと思ふ。私は三、四十年前から親友として親しんだが、婦人の同情者として尽さるゝ有情なる社会学者であるから、この方は博士の方からきく様にせられたい。
- 2 夫れ丈で人間が出来るか。ことに必要なるは、Eugenicsである。社会学と遺伝生物学研究の結果、人間は善いも悪いも先祖から作らるゝ。故に、よき遺伝の力を有益に夫婦の関係の上に、社会の上に与へて行くと云ふのである。あなた方の研究にも、これを要する。
- 3 第三にはGood will。即ち、善き意志が支配する様でなければならぬ。しかも共同でなくてはならない。ことに女子の自覚、又は女子の人格、個性の發揮は、その最も主なるものである。

[我が国婦人の欠点]

其のGood willが健全でなければ、家庭を、又子供を立派にすることは到底出来ない。今日の我が国の婦人は、実に此所に欠点を以て居ると思ふ。この意志、ことに御婦人の経験は、婦人自身が研究しなければならぬ問題である。これをなすにあらざれば、あなた方、桜楓会の目的を達し得ないのである。私は桜楓館設立の当時に、最も此の点に注意をしました。併し、なかなか六ヶ敷いのである。

[女子教育に志したる動機]

私は幸か不幸か、六才の時に母を失ひ、母と云ふことを考へた。その後、継母に仕へて、又思ふ処があつた。其の後、ど一した訳か女子教育をするよ一になつた。あなた方と共に希望を持つて婦人と調子を合せ、御婦人の経験を味はひ度いと思ひ、其の後、幾万の婦人に接したのである。米國に於ても多数の婦人におつき合ひをし、其の後、日本の御婦人と日夜共に同じく考へた結果、どこに欠点があり、長所があるかと云ふことがわかつた。

[婦人問題は婦人自ら研究すべし]

併し、わかつた様で、なかなかわからぬ。わかつても、さて、

ど一してよいか。私は頭が鈍いからおそいが、これは深い問題であるから、婦人は如何なるものか、男子との協同はど一して出来るものか、ど一したらわかるかを、婦人自ら研究すべきである。自ら感じ、意志により実行し、証明しなければならぬ。私は、かゝる問題を博士から聞くことは大切と思ふが、かゝる問題を自分で研究すべきことを、深くお考へになるよ一に切に希望するのである。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年九月二十七日

明治四十四年九月二十七日

大学部全体の為に

前回には時間が足りませんで、一年の方へも、二年、三年の方へも、申すことが不充分でありました。又、全体の報告、過日の係の報告の時にも時間が来まして、御注意を申したいことが残りました。夫れで必要もあり、月曜日に差支へもありましたので、今日再び予科以上全体が此に会することに致しました。

そこで、一年の方へも、二年の方へも、三年の方へも申したいことがいろいろありますが、先づ一年の方から順を追うて申しますならば、此の前の土曜日にあなた方の経験を聞きまして、猶其の内容を探りたいと思ひまして、いろいろ問答を致しました。其の時も時間が足りませんでしたが、先づ全体の傾向はど一かと云ふと、此の学校の主義、方針が明らかになつたと云ふこと。又、此の主義、方針でなければならぬ、大分明瞭にわかつて来たと云ふ。夫れはど一云ふことがわかつたかと云ふと、自動、自奮、自修、自知と云ふ様な点がわかつて、此の学期から大に勉めんければならぬと云ふ決心が出来たと云ふことです。

二年の方は、其の一年の経験と關係して居るが、其の特徴としてあぐべき点は、今、我が国の婦人、殊に今あなた方が生活して居る境遇がわかりかけて来た。殊に学生の生活が、教育界の宿弊の為に苦しめられて居る。故に之れを救ふには、先づ自ら醒めんければならぬと云ふことで、此の境遇改善の意氣が出来かけた様である。

第三年生は、婦人の覚醒と云ふことがわかりかけて、少しく夫れを実験なさつたかと思ふ。そこで、第一年は自分と云ふものがわかり、第二年は自分の境遇、及び夫れについての實驗が出来かけ、第三年は其の二つを合せた処の意志と云ふものが、少しく出来かけたと思ふ。

之れは、私が此の学期に改善し着手しよ一として、又是非、其の三学年に其の傾向を益々おす様に導きたいと思ふて居つたことに、自ら符合して来たよ一である。又、今年は三学部が誠に理想的に銘々の特色を表して、其の關係宜しきを得て、誠に美しい態度を以て一致協同しよ一と云ふ意氣が盛ん

になつた様である。猶、之れを導く上に今年の境遇が適切になりかけて居ると云ふことが、あなた方の為に誠に有益であると思ふ。詞を換へて言へば、是れからはど一やら順風に帆をあげて行かれるではあるまいかと思ふ。夫れは教育界の有様を始めとして、世界共通の運動が、今我々の最も深く感じて居ることと一致協同する様になつたと思ふ。此にあなた方が充分覚醒したならば、外界の境遇はあなた方を助ける様になつたではあるまいかと考へます。之れは今、一々申すことが出来ぬから、私は教育問題から入らうと思ふ。

[教育問題]

之れは、前にもお話しした様であります。過去三十年間、教育の根本問題を科学的に研究し、即ち人間の本性を根本から研究し、其の研究の結果を表す為に応用しかけて来た所は、亜米利加合衆国である。

児童研究から始めて、大部の著述をせられた Clark 大学の総長 Stanley Hall 氏の言はるゝに、過去五年間にアメリカの教育の進歩、改善したことは、過去二十五年間の進歩よりも遙かに多いと言はねばならぬ、と言つて居る。

[アメリカに於ける新教育の結果実例 シチス氏の子息]

其の一例を申すならば、医学博士のシチスと云ふ人、今其の人の子が十二になります。其の十二年の結果を報告して居るものによりますと、今日の教育は教科書の乾燥、枯死して居る処の骨を以て、死んで居る処の形式教育を以て、非常に児童の発達を妨害して居る。殊に児童の二歳、三歳と云ふ非常に生涯の大事なる時に於て、知識的欲望に於て既に飢渴を与へて居る。彼れの子供の五歳の時に古典学を読むことは、十五、六歳の子供が小説を読む、味はひを持って了解することが出来た。只今、Harvard 大学に於て高等数学、比較言語学、米国史、天文学、哲学等をも解することが出来ると云ふことです。そ一して彼れが今日の機械的学問を排して知力の発達につとめたことは大変なもので、十二にして身体の發育も十六歳のものの程度に迄進んで居る。之れは、身体の發育を計ることが、知力の上にも影響することの夥しいことを証明したものと言はねばならぬ。

[ウィーナ氏の子息]

又、ウィーナ教授の倅は十四歳にしてタフト大学を卒業した。此の子が字を覚えたいと云ふ好奇心の起つたのは、生後僅かに十八ヶ月である。三歳にして書物を音読し、六歳にして六かしい書物を読んだ。此のウィーナ教授の骨を折つたことも、思考力を練ることであつて、記憶を強いなかつた。即ち、飽く迄も思考主義をとつた。

[ストナー夫人の令嬢]

ストナー夫人は、自分の娘の三歳の時に、もはや詩を朗読することを経験した。此の娘は五歳の時に**お伽譚**を創作し、そ一して友達と計つて、之れを劇にのぼせたと云ふこともあり、今、九歳で五ヶ国の詞をよくして居る。此のストナー夫人は、彼れを教育するに最も善き境遇を与へたのであります。

[ゼームス博士の子息]

Harvard 大学の心理学教授ゼームス博士の子供も、十四歳で College を卒業した。

[アメリカの元老院議員]

今、アメリカの Senate に三十二歳の Senator がある。之れは十八で大学を卒業して居る。

[ヘレン ケラー]

又、かたわで驚く可き力を表したヘレン ケラーは、彼れが覚醒した時は満六歳であり、十八歳の時、殆んど大学を卒業する程の成功をした。そ一して二十三歳にして、も一著述をしたのである。夫れを認めれば我々にしても、幾らか感化を与へらるゝ程のものを書いて居ります。

ど一でしよ一。盲人が余り困難を感じずに高等な学問が出来る、十二歳の子供が哲学を考へることが出来る、九歳の子供が五ヶ国の詞を学んで興味を持つて進みつゝあると云ふことは、我が国では二十五歳になつても未だ充分英語がわからない。大学を卒業しても、未だほんとの事がわからない。少し六かしいことを言ふと、も一わからない。少し大学生扱ひにしよ一とすると、非常に苦情が多いのである。反対が多いのです。

ヘレン ケラーにしても、も一出来たと云つてもよい。彼れは、も一三十歳以上であるから。

[Edison]

Edison にしても、一人の頭からあれだけの複雑な発明が出来たのである。斯う云ふ人をさして、低能児に対して高能児と言ふのである。此の高能児 Genius の教育と云ふことが、今盛んに行はるゝ様になりました。今、アメリカでは、十五、六歳で大学教育が出来ると云ふことが大分信じらる様になつたのであります。斯う云ふことを考へて見ると、アメリカの国民が高能児であるならば、我が国民はど一しても低能児と言はねばならぬ。之れは情ないことである。今日の様な英語の仕方、ものになるであらうか。ど一であらう。之れは甚だ心配であると思ふことが、問題にならざるを得ぬ訳であると思ふ。故に私は、今年は此の英語のほんとの研究が我が国學生間に行はるゝ様になり、我が国識者の間に少しほんとの事が見えかけて来たではないかと思ふ。

そこで、教育の趨勢が、ど一云ふ勢が動きかけて居るか、又、世界の大事勢はど一云ふ処に向ひつゝあるかと云ふことに着眼して大体の処を見ておきませんと、あなたの行為、方針が断片的になり、そこに矛盾、衝突を来す様になり、今、我々が大に勉めよ一として居る協同一致と云ふことを欠く様になる。故に今、我々の立場を明らかにしておくの必要があると思ふ。

[世界潮流の三要素 1、理想的遺伝 2、理想的境遇 3、理想的意志]

今、世界を流れて居る潮流の要素を大別すれば、三つに帰するのである。其の三つの力が相協同して、此に偉大なる社会の改善力、人類の教育力、人間の精神力を發揮せんとして居るので、先づ此の三つを頭に描くことが必要であるのです。

そこで我が国民も、十五や十六では物がわからぬと云ふ偏見を去らねばならぬ。

一年の自らを知ると思ふことは、自分の可能性を知ること、之れはど一云ふ力に由つて此の力を展ばすことが出来る

かと云ふと、

第一は Eugenics である。此の Eugenics の Eu はギリキの詞で Good と云ふことで、Genic は Heredity と云ふことで、善い遺伝、即ち理想的遺伝と云ふことで、今、一年生の理想である。

第二は Eutopia = Utopia で、Ideal place 又は Good where と云ふことで、理想的境遇である。

第三は Eunoia で、之れは Good will と同じことで、理想的意志と言つても宜しい。

今日の問題は此の Eunoia である。十八世紀頃迄は Eutopia 問題であつたが、此の Eunoia と云ふ字は More と云ふ人に由つて拵へられ、Eutopia は Galton と云ふ人が拵へたものである。

[三つの力の協同によつて人格が出来るのである]

之れが世界の三つの問題であり、又、教育の三問題である。教育は種の力と、其の種を蒔く畑の力と、又、此の畑で種の力を発展する処の意志の力とである。此の三つの力が協同して、我々の人格が出来るのである。我々人間が発現するのであります。

そこで我々は、此に大に実力を養ひ、根本の修養をするにつきまして、此の三つの力を養ひ、此の三つの力の協同の働きを起して、有力なる働きをとりたいと思つて居ります。

然るに、第一年生は自分の中にある力を少し味はうて、夫れを発現せんが爲に集注を試み、第二年は Eutopia を開拓せんと試み、第三年は、ほんとの意志、ほんとの人格を作つて、卒業後、中絶しない力を養はうと云ふことに集注して来たのみならず、其のほんとのものを全体に普及しよとし、第二年生は十年間我々が叫んで来たのであるが、も一ど一でも實際に着手しなければならぬ。ほんとの畑へ鍬を入れねばならぬ。之れは理論ではなくて、實際である。一年生は、枯れた様な、死んだよな教育を受くることをやめて、生きた処の学問をしよとして居らると思ふ。

[如何にせば自動的の働きを成就せらるゝか]

然らば、ど一したらならば此の自動的の働きを成就することが出来よ一か。又、三年、二年の此の間お答へになつた夏期休業中に経験なされた、其の永久に希望を懐いて居る、其の意志の内容を益々開発し発展して、遺伝と境遇とに働きかけて行くには、ど一しなければならぬか。又、私が一年の間ひに答へたのは、其の必要を一層強く感ぜしめよ一と思つたからであります。故に、一年にお答へをするのと二年、三年にお答へするのは、其の間に自ら違ひがありますけれども、先づ、大体の所を統一しておいて後、又、各組に分れて申すことに致したいのであります。

先づ、此の前に二年、三年の経験を纏めて、其の結果としては、人格ある婦人たることを得た。婦人の間にも人格が生れ出た。之れが夏、深い経験を味はうたと云ふ実である。又一年の方では、自動と云ふことが出来る様になつたと云ふことである。其の人格と云ふものには、自動と云ふことがなくてはならぬ。何とならば、人格の一要素は自動である。自動即ち Self-activity と云ふことは、Self-initiative movement

である。暗記は繰り返すことであるが、自動、又は Initiate と云ふことは、何か新しい物を拵へる、創始すると云ふことである。又、古い教育と新しい教育との分け目は其処にあるのです。故に人格の要素は Initiate、或は Create である。

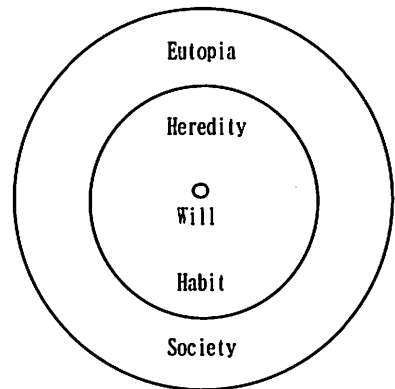
[思考は創造の要素である]

処が、是れ迄の教育では、研究とか発明とか云ふことは大学へでも入つてすることのみと思はれて居つたが、今のウイナー教授のした様に思考主義に由つて育つことが出来る。そ一して、此の思考と云ふことは又、Create の要素となるのである。

又、観念と云ふこと、想像と云ふこと、何でもよいが、総て思考と云ふことは、観念を組み立てることである。我々は観念でも記憶でも、何でも材料を頭の中に貯へて居るが、夫れを組み立てたものを思想と言ふ。其の思想が人間の経験に上り、味はゝれたものとなつた時、之れを知識と言ふのである。之れを靈知とも言ふのです。

人間の頭の中に出来、心の目に見える処のものにも、非常に等差があります。人がわかる、宇宙がわかる、神が見えると云ふこと、宇宙自身が意識せらるゝとは、実に不思議なことであるが、此に人間の魔力がある。其の不思議な力が働く。即ち、其の思考を支配し、其の心中に組み立て、心中に描く処の概念或は観念を選択し、其の働きを指揮する処の又不思議な力がある。其の力をさして、英語で Attention 注意力と言ふ。此の注意力は即ち意志の真髓と申してもよいものである。又、意志、即ち宇宙の Consciousness、人間の Consciousness の真髓と申してもよいのであります。

斯う云ふことを私があなた方に考へさせるのは、ど一云ふ目的であるか。之れを一つ画にかけば、之れは我々の自我である。此の自我の中には遺伝もあり、習慣もあり、其の中心とも言ふべきものは意志である。其の外の周囲が即ち Eutopia で理想的境遇、即ち社会である。斯う云ふ風にして自我が出て行くのである。



つまり自分が経験をすると云ふことは、自我と境遇との關係を作らずしては出来ることではない。つまり、私共は万有と共に生活して行く間に、無数の衝動、観念等が起る。之れを如何に結びつけて行くか、此の無数の力を如何に導いて行

くか、又、中心が何処に向つて進むかと云ふことが大切である。

我々の中の此の国王の權威が薄くなると、内乱が起るのである。故に、我々の一番恐る可き敵は、我が内にあるのである。其の国王はどの様な政治をしるか、どの様な憲法を立つるか、どの様に國民を導くか、どの様な働きをするか、どの様な動きをとるのでありましょか。其の国王が第一着にとることは、此の頃の内閣で言へば、政綱をたてねばならぬ。目的を定めねばならぬ。我々は如何に動かうと思つても、先づ此に国王の命令を受けねばならぬ。意志の指揮を仰がねばならぬ。其の意志なしに一時的的感情に動かされて居つては内乱を免れぬ。そ一云ふ人間には人格はないのである。故に性格と人格とを持った人間は、此の意志の命に従はねばならぬ。其の意志を育つるには、先づ考へを要するのである。之れを思想と言ひ、理想と言ひ、統覚と言ふのである。夫れには如何なるものを選ぶか、如何なる組み立てをするかと云ふことに頭を向けて行くこと、之れを注意力と言ふのである。
[注意力の必要]

此の注意力が何かの考へを拵へなければならぬ。何かの Create をしなければならぬ。何かの考へが出来て始めて、私共の手が上り、足が上り、筋肉の運動が始まるのであります。ところが、此の間からあなた方の中に問題がある。夫れは、考へと行ひとが一致しないと云ふこと。此の学校では宗教を説き、哲学を説き、そ一して目的をきめさせ、理想を立せさせるけれども、実行が伴はないと言ふのである。そこで近来、頻りに実行と云ふことを尊ぶ教育でも、女が賢母良妻となるには、一週十八時間も裁縫をしなければならぬと云ふ。私は之れをとめはしない。あなた方が勉強する、働くと言ふことは、余り怠つて居はしないと思ふけれども、ど一も思ふ様に進まれないのは、私思ふに、思考力が足りない、創始力と云ふものが足りないと言ふ処に原因して居ると思ふ。故に、其の偏見を去らねばならぬ。

幼児は何も考へはしない。又、今迄の母親は、何にも理想とか目的とか云ふことについて考へはしないではないか。そ一して居て、君には忠、親には孝と云ふことをして来たではないかと云ふ不審も起るであらう。併し、無意識の心理学、有意識の心理学と云ふものがある様に、無意識的の注意力と云ふものもあるのである。

そこで、一番低い所の人間のすることを模倣的と言ふ。模倣とはどんなものかと云ふと、先づ母親がわんねの歌を歌うて聞かするならば、子供は少し口が動く様になれば、直ぐまねをするのである。Mamma, Baby と言ふならば、夫れを覚えて、Mamma, Baby と言ふのであります。

今の三歳で詩を暗誦したと云ふのは、母親が其の遊戯室に美しい画をかけたり、面白い詩を歌つて聞かせたりしたから、無意識に覚えたのである。夫れであるから、東洋にも孟母の三遷と云ふことがあるのです。嬰兒の心の鏡に、母親のすること、言ふこと、行ふことが映るのである。其の映じた所の印象が、其の子供の行為となるのである。故に行為もやはり、觀念がもとであります。又、觀念と云ふものも、人の觀

念、即ち暗示が我が觀念に映じて、夫れから行為となるので、人の觀念が我が行為となることもある。

又、も少し大きくなると、我が趣味に従ふて独特の行為をするのである。併し、此の独特の行為も、先見、卓見なくして出来るものではない。故に、総ての觀念が描かれて、目的が立つて始めて、成功する処の実ある行ひが出来るのである。故に、選択的、理想的行為は、此の有意的注意の働きによつて出来る処の思想なくして、生み出ださるゝものでない。つまり、考へが役に立たぬと云ふことは、暗記的知識、試験學問の弊をさして、人が言ふのであります。そこで、之れを宗教的に言へば祈りです。静かな山間で黙想するとか、宗教家が座禪を組むとか云ふことである。

[理性と感情とが一致して初めて実行が出来る]

天地の真理を明らかに見て、其の真理と目的と神と我れと一つにならうと云ふことである。其の人間の矛盾を除かんければ、又我が兄弟、友達と心から和らぎを求めて、心から協同一致し、心から満足をしなければ、即ち心から理性と感情とが一致しなければ、立派なる行為は出来ないのである。そこで祈りをすると言ふことは、考へを大きく開いて、大きく一致して、感情も行ひも何も彼も一致融合しなければならぬ。夫れが祈りであります。又、科学の目的は何であるか。ほんとの一の実体を見よと云ふのである。其の真理と自分とが一致する。其の真理の法則、万物の本体と自分とが一致して行くことが出来るのです。其の科学の真理と真理を統一して、根本原理の法則を明らかにしたものが、哲学である。我々は其の哲学をしたり、科学をしたり、文学を味はうことが出来、此に自ら思考し実験し、又祈りをしたり、活動したり、いろいろと Initiate し Create することが出来るから、此に立派な行為をすることが出来、私共の人格が作り上げらるるのであります。

其の本を忘れて、只むやみに一生懸命になつて目的を追求すると云ふのは、恰も盲人が驀地になつて突進すると同じことである。此の道理がよくわかつたならば、ほんとの一の修養も出来、有効なる勉強も出来る様になるのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年十月四日

明治四十四年十月四日
大学部全体の為に

此の前の処について、銘々にもお互にも段々お調べになつたことと思ひますが、猶不審になる様な処があるならば、腹藏なくお尋ねになる様にしたいと思ひます。

[知識と実行とに就て]

一寸聞く処によりますと、予科あたりでは、知識と実行とは離れたものでないと云ふことに就いて、少しわからない方

があると云ふことである。之れは、我が国の教育が是れ迄、知識の方にばかり偏して居つたから、そ一云ふ疑問の起ることは無理からんこととあります。

之れを能くわかる様にするには、実地の例証をあげる必要がある。其の実地の中でも我々の毎日経験することをあげたならば、猶よくわかるかと思ふ。例へば、今日は実践倫理の日である。時には此の時間を待ちかねると云ふ様なことがある。又、其の為にいろいろ用意をして会すると云ふことが、之れ迄も度度あつた。又、実際あるのである。そ一云ふ時には只校内の学生のみならず、既に卒業して家を持つて居ると云ふ人々でも、いろいろ都合をつけて風雨を犯しても来ると云ふことがある。即ち、時々高調に達すると云ふ時は、誠に熱心に親切に人の為に仕へよ一、何かを捧げたいと云ふ時である。又、自分に深く責任を感じて居つて、ど一か此の責任を全うしたいと考へて居る。其の為に実行に勉め、益々深く真理を追求する様になるのである。

之れに反して自ら高くし、人を輕蔑する人は誠を好まない。真理を愛しない。そ一云ふ人は見れども見えず、聞けども聞こえず、食へども其の味はひを知らずと云ふ風で、一向ほんとのことがわからないのです。

真理を愛する人は、必ず行ひに勉める人である。又、其の勉めて居る人は、真髓をつかまへることが出来る。行ひに勉めない人、実行を好まない人は、決して真髓をつかまへることが出来ぬ、表つらである。之れは、あなた方がよく考へて見るとわかるのである。

[知の伴はぬ実行は空である]

又、実行の伴はないことを空と言ふ。空と偽とは同じことである。故に、実行の伴はないことは価値ある考へと思はない。又、考への伴はない実行は、一向役に立たぬしひらである。先日、私は書物を読んで居つて考へたことであるが、紐育のピーチャーの教会に一人の淑女がありました。或る日、此の淑女が川に溺れかけたのを、ある筋骨逞ましい男が救ひ上げました。此の男の勇氣と義侠心とを、翌朝の新聞に書き立て、大褒賞讃しました。そこでピーチャーは、此の男をつれて教会の人々を集め、此の男の功を賞し、銀のメダルと金銭とを与へよ一とした。其の時、男は答へて言ふに、私は賞讃せらるゝ価値はない。只私は身体が強い、水泳が出来る故に急に應じて救ふただけであつて、斯くの如く賞讃せらるゝには当らないと申しました。さて、其の男は貰つた金を持つて、紐育で大酒を飲んで公衆の迷惑をかけ、其の上に罪を犯して獄につなげたと云ふことである。

人の為に命を賭して危きを冒したと云ふことは、廣瀬中佐の行ひと変りはないのであるけれども、廣瀬中佐は君を思ひ、国を思ひ、且つ此の海を封鎖する為に命を捨てたのである。けれども此の男は、そ一云ふ高尚な考へはなく、折角人を救ふても、其の善行のあとで直ぐ犯罪をする様なことになつた。之れはど一云ふ訳でしよ一か。例へば一昨夜、私の処に犬が大褒吠えた。そこで私は外へ出て見たけれども、何も居なかつた。けれども、若し其の晩に強盗が居つて、人を殺して金を取らうと思つて居たかも知れない。幸にようはいらなかつ

たけれども、そ一云ふ考へを持つたならば、も一罪を犯したも同じことである。

クリストは、人を怒るものは心に人の災を考へて居るならば、既に人殺しである。汝の中に悪い事を考へて居るならば、もはや悪を行うたと同じことであると言はれました。然らば、悪を行うたと悪を考へたとは何程の違ひがあるか。又、私共は其の行為を支配するのと、頭の中に起つて来る考へを支配するのとは、孰れが難きであらうか。あなた方の中には人を殺すものはないけれども、頭の中に不親切なことを考へることはあらう。之れを支配しなかつたらど一である。

又、私共は断行と云ふことを言ふ。此の頃の大きいことと言へば、我が国の經濟について山本蔵相が難局に立つたと言ふ。果して之れは如何にすべきであらうか。又、山縣公爵が日露戦争を開始するに當つて如何に決断せられたか。一步誤つたならば、此の三千年來続いて来た処の帝国を焦土とするに云ふことになるのです。夫れにも拘らず、国家の為に戦ひを開くと決断せられたのである。決断はやさしいのである。殊に我が国の人には容易である。併し之れを決するには、只現在のことだけではない。必ず過去、現在及び未来に対して先見が明らかでなければならぬ。私共の健康にしても、如何にすればよいか、夫れがわからずに実行の出来るものではない。ど一しても思考力を以て研究をして、誤らぬ判断をすることが誠に困難である。私共は前から沢山の御婦人に御交際をしましたけれども、ど一も物のわからぬ人が多い。あゝお気の毒だと思つたことが幾度もある。故に實際實際と言つても、考へない實際はあるものでない。そこで私は、知識と實際とは離るべきものではない、別々のものではないと云ふことを申したので、猶深く進むには、哲学問題に入らねばならぬ。併し、夫れは今日申す暇はありませんから、段々申すことに致しましよ一。

此の前、人格と云ふことに就いて、其の關係を申して、人格の真髓は意志である。其の意志はど一して出来るかと云ふことを少し申したのである。其の意志の我々に必要なことは、個人性が出来るについて意志の働きが必要である。其の意志の働きによつてのみ、個人性が出来る。此の個人性あるが為に社会性が出来る。個人は、此の間申した様に、境遇が必要であるが、個人があるから社会が出来るとも言はるゝ。又、境遇があるから個人が続き得るとも言はるゝのである。

[人格とは諸要素の統一である]

此の個人の遺伝と境遇、及び意志、此の三つが統一して出来たものを人格と云ふ。故に、人格又は性格とは、いろいろな要素の統一したものである。其の統一が永久、強固なることを得るものである。此のUnity統一と云ふことは、人格の最も重い処の要件である。故に之れは委しく説かねばならぬから、題目として、統一と統一の強固、永久と云ふことについてお話し致したいと思ふ。

今の人格と云ふのは、其の諸要素の統一したものが不易なものとなり、余程丈夫なる關係を保つことである。故に先づ此に、其の調和、統一の程度と其の關係の強度の差によりまして、種々様々な性格の違ひが生じて来るのであります。

[人格の分類]

私は之れを五種類ばかりに大別して考へて見て、猶其の以上に違ひを生ずることと、其の違ひが如何に統一せらるるかを申したい。

[1. 強固なる性格]

第一種に属する性格を、Strong character 強固なる性格と言ひます。

此の強固なる性格と云ふものは、一定の主義、目的を持つて居りまして、其の主義、目的に反抗する四圍の障碍、及び自分の内部から生ずる誘惑に勝つて、其処に完全なる統一を持って、自分の最後の大目的に向つて居るものである。故に其の強固なる性格と云ふものは、独り強固なる意志の働きのみではなく、明晰なる観察力を持つて居るもの。詞をかへて言へば、現状を見、将来を察する処の卓見を持つて居るもの。即ち、活眼を開いて自分の持つて居る困難なる境遇、自分の目的に対する障碍物を承認する。自分は困難なる境遇に立つて居る、沢山の敵がある、反対があると云ふことを目をあけて見ると同時に、其の困難に服従することに肯んぜず、境遇に支配せらるることを甘んぜずして、之れに戦つて、却つて我が望みに叶ふ様に改造する処の勇氣と知識と、又夫れを断行する処の勇氣ある人である。故に詞をかへて言へば、強固なる性格の人は、社会に順応することをせずして、社会及び四圍の境遇を自己化する。自分の考へ通りなものにして行くと言ふ力のあるもの。其の働きの出来るのを、強固なる性格と言ふのであります。

[2. 頑固なる性格]

茲に、其の種類に属する様で、似て非なる所の第二のものがある。之れを頑固なる性格と言ふ。

頑固なる性格は、我が四圍の事情を其の儘に見ることを好まない。即ち己に適しない、己の好まない境遇を目をつぶつて見ない人、成るべくほと一の事を見ない様に聞こえない様に、自分の不利なることを聞かない様に、目をつぶり心をかたくなにするのである。故に、四圍の境遇の見えない人は頑固なる人である。そ—して自分のすることが成功しまいが、社会に害毒を流さうが、人に迷惑をかけよ—が、一向構はず無頓着に突進する、所謂猪武者である。そ—云ふ人は狭隘なる人、頑固なる人で、其の根はやはり極端なる利己主義の人である。故に、私共は此の頑固なる人は立派なる人とは見ないのである。

[3. 薄弱なる性格]

第三の性格を薄弱なる性格と言ふのである。つまり、目的が一貫して行けない人である。其の人の約束やら決心やらが永く続かない人である。即ち、動き易く、変り易く、砕け易い人の弱い人である。此の弱いと云ふ原因は、外部から来るものと内部から来るものと二つある。即ち我々の意志、目的を破らうとし、変更させよ—とする反対物が二つある。其の—つは外界の障碍で、他の—つは内から来る人の誘引である。此の両方面の反抗に勝ち得ない人、其の衝動を意志で制御し得ない人を薄弱なる人、又は人格のない人と言ふのである。そ—して、外部の抵抗に堪へ得ない人をさして弱い人と言ふ。

第一、此の弱い人の特色は、成る程其の人の中に何かの主義があり、説があり、目的があるのであるけれども、其の説なり主義なり目的なりは、多くは外から受けたもので、自分の腹から出たものではない。夫れであるから、一時は熱心である様に見え、其の主義に動いて居る様であり、活発に働いて居る様であるけれども、模倣的に、暗示的に、始終他の刺激の儘に動かされつゝあるのである。

そ—云ふ人の態度は、何時かも申したかざみの様に、人の説なり輿論なりの動かす儘に變つて行くのです。斯う云ふ人の意志、知力は不健全でありまして、斯う云ふ人に余り多くを望むことは出来ぬ。余り深い信頼は出来ないであります。斯う云ふ人は外の刺激に靡く人、夫れに勝てない人であります。

[4. 浮薄なる性格]

第四のもの、之れは弱いのであるが、二つに區別すると、(1)は浮薄な人。之れは内から起る感情、情欲、衝動に勝てない人である。此の内の衝動に勝てない人を、浮薄な人と言ふのです。斯う云ふ人には主義もなく、目的もなく、一時ある様であるが、何か非常な誘惑があると變つてうて永續きのしない人で、所謂意志で勝つとか永續するとか云ふ、其の徳を欠いた者であります。内の感情に支配せらるゝ人、其の時其の時の衝動の満足する様に動いて行くので、斯う云ふ人は怒り易く喜び易いので、之れは多血質に属するものである。度々目的を立てるが、度々放棄し易いのである。

(2)は恐怖の情に捕はるゝ人で、此の人は厭世的な人、即ち自殺したり、心配をしたりする方である。そこで此の弱い人、即ち浮薄な人と陰鬱なる性格の人とは虫がつき易い。心中の虫は恐るべきものである。或は斯う云ふ人の心中には内乱が起り易いのである。国家でも内乱が起れば亡びると同じ様に、弱い人は統一を欠き易いから、統一を欠くと、即ち人格を欠くこととなる。其の結果、あの人は人格のない人と云ふことになる。そこで、斯う云ふ人格があると云ふことを以て銘々を省みて見たならば、自分は人格がある、自分の人格は之れであると云ふ様な判断がつくと思ふ。

人格は統一の強固なことである。其の人格が永久続くものであると云ふことが少しくわかるである。猶進んで、統一ある人の個人と言ふことが出来ますが、併し、其の統一と云ふことは猶深い意味があるのである。其の意味はど—して表すかと云ふと、Organic unity 組織ある即ち有機的關係ある統一と云ふことになる。此の有機的と云ふことには非常に深い意味がある。其の個人と云ふものと社会と云ふものがあり、も—つ個人的遺伝と云ふものがある。之れ等がよく有機的統一をして居るものが人格であります。

[人格の土台は個性である]

そこで、此の人格に最も重きをおいて、其の人格の土台とも言ふべきものは個性である。個性と云ふことはUnique 銘々の特色がある。之れが一番自分の自分たる価値、人にならぬ善い性質である。之れが人の喜ぶもの、自分が自分を見出だすものである。故に、自分の独特の面白い処がなくてはならぬ。人まねばかりになつてはならぬ。所謂、世間一般になつてはな

らぬ。之れが自動でなければ出来ぬ処である。自分が何かを考へねば、自分から出るものを起さねば、自動的仕事をしなければ、個性は出来ぬ。故に、社会が文明に進めば進む程、個性が進み、個性が発揮すればする程、社会も利益を受け、自分も満足するのである。

夫れで、も一つ考へておかねばならぬことは、男女の区別である。個性ある人格と云ふのは、男子は男子らしく特性を表し、女子は女子らしい特性を発揮することでありませぬかと言ふ人があるけれども、教育の進んで居る所程、各特性を発揮して居るのである。故に、Organic unity と云ふことは個性を発揮して統一すると云ふことで、個性をなくすると云ふこととは違ふ。

[理想国は社会が個人化され、個人が社会された所である]

さて、組み立てられた統一と云ふものは、社会と個人と理想的関係、即ち理想的反応を起して進むもので、其の働きをわけて二種とするのである。其の一つは個人を社会化すると云ふことで、他の一つは社会を個人化すると云ふことである。

Best society is highly individual society.

Best individuality is highly socialized.

と云ふことが言はるゝ。之れに深い意味があります。社会は如何にして改善せらるゝものであるか。

此の間申した理想国は、如何にして建設せらるゝものであるかと云ふと、最も此の個人性の発達した、最も高尚なる個人が拵へたもの、其の個人化したものである。夫れによると、社会は偉人によつて作られ、天国は偉人によつて成さるゝと言ふことが出来る。即ち、Christ とか Socrates とか孔子とか云ふ人が出て、Christ 化し、Socrates 化し、孔子化せられたるものが天国であると言ふことが出来ます。即ち、理想国と云ふものは社会一般の事を看破し、社会に身を捧げた処の偉人が、其の社会を個人化した時に出来る。故に我々が社会を改善しよ一と思ふならば、Leaders を作らねばならぬ。偉人を作らねばならぬ。

又、個人はど一して出来るかと云ふと、最もよく社会化したものの、社会の立派な風俗、秩序、理想に感じて個人が動いたならば、其の Movement と個人とが一致したならば、狭いよ一な邪悪なよ一な性を捨てたならば、此に立派な個人が出来る。故に、個人と社会とは互に相反して居るもので、互に相助けて始めて立派なる個人、立派なる社会が出来るのであります。

そこで、社会は個人の発達を妨げないばかりでなく、之れを育てねばならぬ。又、個人は自分の利益の為に社会の空気を冷したり、善い向きを妨げてはならぬ。立派なる個人があるならば、社会は之れを喜ばねばならぬ。又、社会が自分を育てる様な、善い個性を發展せしむる様な社会であるならば、個人は喜んで夫れを受けねばならぬ。斯くして、個人も社会も共に發展するのであります。

[中表紙]
大学部全体の御話
明治四十四年十月十一日

明治四十四年十月十一日
大学部全体の為めに

[自動的研究]

今日は此の前の続きをしまひまして、次にあなた方の自動的研究をど一導いたら宜しいか、其の方法に入りたいつもりでありましたが、考へて見ると、其の両方を此の時間で充分目的を達する様にすることは困難である。故に今日は此の前の続きは延ばしておいて、あなた方の自動的研究の方法について申したいと思ふ。此の自動的と云ふことには深い意味があつて、学問の上にも修養の上にも申すことである。夫れで準備として、あなた方の態度について考へて見る必要があります。

私は此の自動的方法について始終研究し、殊に外国にある間は大家について其の経験を聞きました。或る大家は申しませぬのに、或る書物を読むに當つて一行に足らぬ One sentence を解するに六ヶ月を要したと云ふ。之れは一方の極端の例である。夫れに対する一方の極端の例は、英国の文豪 Carlyle は毎日平均 Dozen volumes 即ち十二巻づつ読んだと言ふて居る。一章に六ヶ月を要したと云ふと、毎日平均十二巻づつ読んだのとは非常な差である。此の違いは、ど一云ふことから起るであらうか。

英国の哲学者 Bacon と云ふ人は、其の書物を読む経験について、或る書物は味はうべきものである。又、他の数巻は飲むべきものである。而して極僅かなる、時々大事なる書物に出逢ふことがある。夫れはよく噛んで、消化し尽すべきものであると言つて居ります。

そこで、今の平均十二巻も読む人は、只食つて通る、匂うて見る丈けである。故に、ある書は水や Milk の様に飲んで了へばよいのであるけれども、中には大層かたい物がある。夫れはよく噛んで行かねばならぬ。併し Carlyle の様な人は、巻頭から終り迄読まなくても、其の本ののどくびを直ぐつかまへることが出来る。其の粹を抜くことの出来る学者である。併し、其のよ一な学者であつても、One chapter を読むに数ヶ月を要すると云ふことが時々あるのである。又、数ヶ月かゝつても猶、其の著者の真意を見ることが容易に出来ないと言ふこともあります。

私が或る書物を読んだときに見たことであるが、著者の名を失念しました。其の人は、大切な書物を読んで著者の説を傾聴する所の態度を誠に面白く譬へてあります。Australia の金坑の坑夫に譬へてある。金は窟の中にあるので、夫れを掘るのは誠に骨が折れるものである。私共が知識の真価を見出し、学問の目的を達すると云ふことは、宝の中でも最も貴しとせられて居る所の金にたとへて、斯くの如き宝は滅多ころげては居ない。故に宝蔵の中に入つて掘りあてると云ふことの為めには、恰も坑夫が金坑に入つて骨を折る程の苦心を

せねばならぬ。

[学問の目的を達する為の苦心と努力、其の適當の方法]

故に学生に対して先づ第一に尋ねることは、此の金坑を穿つ所の我々の Picker, Shovel 等は充分調ふて居るかど一か。又堅固なものであるかど一か。我々の健康は適當であるか。我々の扮装は適當であるかど一か。筒袖はかひなまでまくりあげて、我が呼吸は充分なる緊調であるか否や。

次に尋ねることは、金を掘つて其の鉱物を砕いて投ぐる所の我が hearth、即ち火むろは充分なる温度を保つて居るか否や。今の金坑を穿つ所の Tool 即ち器械は何かと云ふと、我が注意力、我が知恵、我が勉強である。之れは何をさすかと云へば、我が研究の方法は宜しきを得て居るか否かと云ふことである。

[更らに熱烈なる精神を要す]

併し、著者の深い意義は其の勉強、其の方法だけではだめである。只、金塊をとるだけではいかぬ。砕くだけではまだ足らぬ。之を熔かす所の炉がいるのである。Thoughtful soul 非常に熱心なる所の精神、我が内にある所の熔かす炉を用意して居るか否や。斯う云ふことを先づ尋ねて、我が態度を反省せよと云ふことを注意してあるのです。

[自ら研究するの至難]

夫れで、あなた方が此の以上に力を増すと云ふこと、又、卒業後、猶進み得るか否やと云ふことは、自ら研究することが出来るかど一かと云ふことであります。ところが、此の研究と云ふことは非常に六ヶ敷い。そこで先づあなた方に尋ねる問題は、私は之を三つにする。

第一、Picker なり Shovel なりの機械は調ふて居るか否や。

第二は、夫れを熔かして了う所の研究の熱心、熱烈なる精神生活と云ふものが、あなたがたに出来得るかど一かと云ふことである。

若し此の二条件が揃ふたならば、研究が出来て参りまして、皆さんが探し求めて居る所の真理は見出さるゝであらう。併し、未だ夫れだけでは不充分である。次に起ることは、其の研究の用である。即ち、夫れを応用して役に立てる所は実行であります。故に、

第三、研究をつみて銘々の生活をゆたかにし、総ての生活に命あらしむる様にする所の其の力は、出来て居るか否や。此の問ひに対する答へは今、此所で聞きたいのでありますが、併しこれは重大な問題でありますから、別に時をとつて研究しなければなるまいと思ふ。此れに対する困難が続く起ると思ふ。

[研究の際困難なる点]

(1) 時間

其の第一は、時間の問題である。あなた方に Carlyle の様な明晰なる脳力があるとしても、六ヶ敷いであらう。嚙むのも少なからう。或は丸呑みにする人も少ないかもしれぬ。あなた方のとつた金属を、あたまの中の炉壺に投げ込んで、熔かすと云ふ其の暇もないのである。

小学校の教育を十数年間続けて来た所の、之れは合衆国の人であります。其の教授の時間、一時間に対する準備の研

究……………(研究と云ふ詞を子供のことに使ふならば獨逸などでは笑ふのであるが、合衆国では一詞が出来て居るのみならず、小学校、幼稚園教育にも盛んに行つて居るのである)

子供の一時間の為めには、一時間半を要すると云ふことである。今、あなた方の時間をつもつて見ると、教育部二年あたりでは一週三十六時間、家政科の方は三十四時間で、両者の違ひは僅かに二時間でありませうけれども、一週四十余時間もある人は、ほとんどの自分で研究する時間と云つたら、少ない人は一時間半である。斯う云ふ人々は匂ひをかぐことは出来るけれども、之れを嚙むこと、味はうこと、まして消化する等のことは不可能であらう。

文科三年が二十八時間、二年が二十六時間、一年が二十五時間、英文科三年が二十五時間、二年が二十六時間、一年が二十五時間、英文予科が二十五時間、普通予科が三十時間ある。

夫れで、此にど一しても自動的態度でほんとに研究をしよ一、そして之れを耳に聞いただけでなく実行に顕さうと云ふには、ど一しても時が足りないのである。故に、ど一して之れを改良しよ一かと云ふことがきまらなければ、実効は期し難いのである。

次には、あなた方がほんとに之れをなさるには、道具がいるのである。其の道具として不足を告げるものは、書物である。私は実践倫理をそ一云ふ風にしようと思つて、此の間からいろいろ考へて居るが、其の考へを得よ一としても、本を読む力がない。故に、ど一しても外国語を一ヶ国語位は、ど一しても得なければならぬ。そこで私はど一かして此の力を得させよ一と思つて、昨年あたりからいろいろ工夫をして居りますが、之れは只飲んで了ふよ一なものではない。よく嚙んで味はうて見なければならぬ。骨が折れるのであるけれども、骨を折らねば宝の山に入つてもかひはないのである。故に、彼処に使うてあるだけでも消化することが出来なければ、何の役に立たないのである。一時は一寸火が燃えた様であつたけれども、矢張り六ヶ敷いと云ふ声があつた様である。そこで今度は其所迄達する準備として、誰れにも読める様なものを拵へつゝあるのです。今度は誰れも六ヶ敷いとは言はれまいと思ふ。

(2) 研究の材料

本を使ふと云ふこと、研究の材料を探すと云ふことについては如何にすべきかと云ふこと。

(3) 研究の方法

第三には、其の研究の方法がわかりかねると云ふこと。其の手段にいろいろあるが、第一、あなた方に乏しいものは思考力で、自分で創造して行く所の力が乏しい。又、如何にして其の力を拵へて行くかと云ふことがわからない様であるが、之れはあなた方の急務であると思ふ。

(4) 消化力

第四には、今は炉壺が未だ充分に出来ない。真理に達する方法、自分の頭に消化する消化力、即ち今の金坑採掘事業で言へば、Smelting-furnace が未だ出来て居らんと云ふよ一な困難でありはしないかと思ふ。

(5) 境遇の圧迫

第五は、其の境遇の圧迫で、自動的に行かうとしても防げらるゝ。折角内から熱しよーとしても、外から冷すと云ふ様な困難がありはせぬか。其の境遇は如何にすれば開拓せらるゝかと云ふ難問があるのである。

之れは先づ、そー云ふ研究にかゝる用意として研究しなければならぬ問題である。斯う云ふことを、此の間私が申しました様な順序で、一年、二年と銘々の研究法を担当して、研究を開始する必要があるかと思ふ。そこで私が一年に対し、二年に対し希望することがあるが、夫れは今日は省いておきます。

[指導者]

夫れから之れには、指導者と云つても桜楓会なり、学校なり、又寮舎なりの責任を持つて居らるゝ其の上に、尚仕事を増して重荷を負はせると云ふ訳ではない。故に、其の方法についてはいろいろ御相談をしよーと思つて居りますが、兎に角、指導者の働きを要することは確かなことである。

又、あなた方の組の中に、級の中に指導者を作ることも出来る。又、ほんといふに自分を進める所の指導者は我れであると云ふことも言はれるのであります。

そして、自分の興味、選択に従ふて行かうと云ふことは六かしいものであるから、其の困難に辟易して満足の得らるゝ迄行かないで、躊躇したと云ふこともありません。

昔は重罪を犯したものは大抵、死刑に処したのであるが、其のしおきに逢ふ前一日の恩典は、其の罪人の欲する所何でも許してやると云ふことがあつた。も一明日、刑に処せらるゝのであるから、大抵は好きなものでも沢山は食べないけれども、亦中には随分望みを言つて其の通りさして貰ふ者もあつたことは、私も子供心に覚えて居ります。

夫れと之れとは違ふけれども、自分に一番好きな、一番必要であると思ふものをさせよーと云ふこと、之れは誰れも喜ぶ所である。夫れと同じ様に、自動的に研究すると云ふことは、一番自分の好きなこと、必要なことであるから、ほんといふに出来るよーになつたなら嫌ふ筈はないと思ふ。故に始めのうちは六かしいかも知れぬけれども、少しわかつて来たならば、之れは斯うすべきである、こゝであると云ふことが首肯せらるゝ様になると思ふ。又、これがあなた方の天与の生れつきであると思ふ。

そこで、これについてはいろいろ具体的相談をしなければならぬが、中々時がかゝるから、これは時を設けて相談することに致しませう。

之れから、今のいろいろ出ました問題は銘々で、もう少し研究なさる様に致したい。先づ其の研究を始めまして、始めのことであるから、私も充分骨を折つて指導する様にしたいと考へる。

先づ第一には、其の宝を掘る所の機械の問題で、第二は、其の鉱物を溶かす所の炉の問題である。

此の雛形の様なことは、此の夏、少し始まつたのである。此の夏の経験を代表する者は輕井澤の生活であります。夫れは此の二、三年間説きました所の真理の問題、之れは孰れも浅いものではないが、其の真意を見出だすと云ふことに勉め、

第二期におきまして、其の中の鉱物を溶かして純金をとくすと云ふ働きをとり、第三に、之れが実行を試みて生活に表したのであります。

昨日も報告によれば、Note にとつただけのことでも、ほんとに消化する迄に至つて居らぬと云ふことである。こー云ふことはあなた方自ら経験なされたことであるが、今日の問題は、之れを用に立てる、其の宝が真に用を為す所の道を論じておきたい。

[人格問題の根本は意志に有り]

此の間は人格問題につきまして思想、知識と云ふ方から入りましたが、今日は行ひ、即ち我々の経験と云ふ方から入るのである。之れはどちらが本であるかと云ふと、今日の進んだ解釈によれば、寧ろ行為と云ふことを土台とする、意志を本体とすると云ふことであります。

そこで此の間は、研究と云ふことは先づ考へを構成し、即ち行ひの雛形と云ふものを製造して、之れを行ひに化して行くものであると云ふ方からして、知識はやはり行ひの一部であると云ふ風に申しました。それで、先づ注意力の働きを學ぶとわかると云ふことが出来て、而して後に行ひと云ふものが出来ると云ふ風に申したのである。

今日は、行ふと云ふことと知ると云ふことと、どちらが先きであらうか。又、知ると云ふことは、考へると云ふことに由つて知るであらうか。行ふと云ふことに由つて知るであらうか。之れはあなた方もわかることと思ひますが、其の本である活動と云ふことが経験せられて、夫れから出来得るのである。記憶とか観念とか思考とか云ふものは、行ひと云ふものがなかつたならば、人間の経験と云ふものがなかつたならば、観念と云ふものはどーしても出来得ないのである。

そー云ふ風に根本を尋ねて行くと、行ふと云ふことが本となるのである。そこで、英国の詞には、Learning by doing. Doing is learning. 又、今日の詞で言へば、Living is learning. とも言はるゝし、夫れを反対に Life is knowledge. 或は Life is experience. と言ふことも出来る。

夫れで、今日はどー云ふ知識を重んずるのであるか。此の間から或る組で問題となりました様に、知識と実行とが伴はないとか、立派なる考へのある人が必ずしも立派な行ひが出来て居らぬと云ふことも、つまり、此の知識と云ふことは概念に重きをおいたのである。思弁と云ふことに重きをおいたのである。此の概念、思弁と云ふよーなものは必ずしも経験によらないのである。よく言へば思弁、わるく言へば空想である。つまり、之れは絵である。想像に由つて、絵で書くことは幾らでも出来るのである。そー云ふ風に人間が想像を以ていろいろと絵を書いたので、Kant の言ふ様に、Absolute conception 抽象的概念、其の抽象的なものが知識の一番の真髓であるとした。夫れを必ずしも人間の経験で例証すると云ふことをとらなかつた故に、空中の樓閣を描いて頭で眺めて居つたのである。夫れが一番尊いもの、夫れが真理であり、夫れが學問であると云ふ様に考へて居つた。夫れであるから、其の人の知識と実行とはどーしても伴はない。其の人の信仰と経験とが相離れるのであります。

[人間の知覚は経験に重きをおく]

けれども今日では、人間の知覚と云ふものは経験に重きをおくのである。故に、概念の出来たものが違つて居るならば、決して役には立たないのである。其の本を究めずして実行の出来るものではない。故に、今日では知覚の方に重きをおく様になつて居るのであります。

[真理の発見、境遇の開拓を怠ること勿れ]

そこで、私共の知識を益々明瞭にし、益々完全に向上して行くことと云ふことは、つまり銘々の経験を深くし、経験を広くする、即ち銘々の生活をゆたかにすると云ふことである。故に、ど一しても経験をつみ、猶新しい真理を発見し、境遇を開拓すると云ふことを怠つてはならぬ。

[経験は生活、行為は学問]

Living is learning 経験は即ち生活である。行為は学問である。経験の教ふる所の知識でなければ、さだかではないと云ふことであります。

そこで、必ずしも研究と云ふことは、書物がなければ出来ない、外国語の書物が読めなければ出来ませんと云ふ様に思ふのは間違ひである。

[無学者の識者]

例へば、実行の事にしても森村翁は何時も言はるゝのに、私は学問のないものであると仰せられるけれども、そ一云ふ人を商業大学を出た人と比べて見ると、ど一であるか。此の自ら無学と言ふ人の方が遥かに優つて居るのではないか。して見ると、世に論語読みの論語知らずのがあると同時に、無学者の識者と云ふものがあるのである。

又、岡山県に中川横太郎と云ふ人がある。此のお方は所謂学問はないけれども、県下の事一つとして此の中川氏に倅たないことはない。如何なる事業でも議論でも、一に此の人によつて決せられて居るのであります。

又、アメリカにムーデーと云ふ人があつた。此の人は学問のない商人であるが、学者よりもえらい。私も一と夏、此の講習に参りましたが、其の会合にはシカゴ大学総長と云ふ様なアメリカで一、二を争ふ人々が講師となつて居らるゝ。其の校長として、ほんとの精神教育をした人はムーデーである。その学問なきムーデーは学者を使ふて、学者以上にわかるのである。本を読まなくても、読む程の経験を持つて居り、生活がゆたかであり、夫れだけの人の頭を読むことが出来、夫れ丈の仕事をとつて行かれる人をさして、学問がないとは言はれない。

今の概念ばかりの、論語読みの論語知らずと云ふものはあるが、又一方に無学者の識者と云ふものもある。ムーデーの如く、森村翁の如く、又、中川氏の如きは、即ち其の人であります。故に、必ずしも本がないから研究が出来ないと云ふ様に考へるならば、それは非常な間違ひであります。

研究をするには、Hypothesis を拵へることが必要である。其の仮説と云ふことは、学問をするに目的を持つて居ると云ふことと同じことである。故に、仮説の出来る人は誠に望みを属するに足るのである。将来、大に発達することの出来る人であります。何とならば、其の本は銘々の中にあるのであ

るから、之れが外の刺激、即ち外からあなたを召す所の呼び声である。あなた方を、来れ、向へ、と命ずる所の号令で、其の本は皆、銘々の内にあるのです。其の本は必要で、必要(Need)と云ふことの根は意志、即ち活動しよ一、開いて行かうと云ふものが内にあるから起るのである。故に、昔から哲学は驚嘆 Wonder と云ふことから来ると言ひます。そこで、仮説は驚くと云ふことと必要と云ふことから起るのである。例へて見れば、昔から人間が一番驚いたのは病気で、其の内でも一番怖ろしいものは流行病、疫病である。其の疫病と云ふものは一家一村を絶やすと云ふこともあつて、之れは魔の神が人を罰すると云ふ風に考へて居りました。ところが、之れに就いて疑問を起して、解釈した理屈を応用して見ると、少しつゝ其の災を逃れることが出来るとわかつたので、段々疑問を起すことを覚えて、ど一かして病気を防がう、苦痛を免れよ一と云ふ所から、此に医学が起り、其の必要から仮説に仮説を重ね、其の結果、真理が発見せらるゝ様になつたのであります。

[必要は発明を生ず]

昔は、そ一云ふ災がとりつくと思つて居つたが、熱病の本は黴菌である。其の黴菌の仲介は空気である、水である、風であると思つたが、又研究の結果、其の媒介は動物ではあるまいかと云ふ仮説を立てた。夫れから蚊と云ふもの、蚤と云ふものを、其の島から全く退治で見ると、全く風土病を絶つことが出来たと云ふ様なこともある。即ち、其の必要が発明を生じたのである。

此の頃の例で言へば、深呼吸と云ふことが流行する。これは医者から始まつたのではなく、素人から起つたのである。夫れは、自分が病氣にかゝつて医者に世話になつても治らぬ、苦しうて仕方がないから、いろいろと工夫をした結果である。此の頃始まつた様に言ふけれども、之れは五十年前からのことである。

スカッター博士のお父さんは八十余り迄生きた人であるが、五十余りの時、肺結核だと云つて医者に匙を投げられてから深呼吸を始めて、自ら養生法を見出したのであります。又、ノースロップと云ふ人もそ一である。フレッチャーと云ふ人は体重三十六貫もある人であるが、夫れが二十六貫になる迄も断食をして、自ら強くなつたのである。我が国でも近頃、腹式呼吸が盛んになつて、二木博士、藤田靈齋、及び岡田虎二郎と云ふ人達によつて唱導せられ、其の方法も多少異なつて居るのである。又、クリスチャン サイアンスを発明して、此の間死にました婦人なども、自分の身体が弱うて仕方がない。夫れで、いろいろと工夫をして最も適切なる方法を自ら編み出したのであります。

腹式呼吸、逆式呼吸、冷水浴と云ふ様なことをして、どれ丈け人を救ふたかもしれぬ。大澤博士も、このことに就いて此の間、小冊子を書かれたのであります。

夫れで熱心に其の事を研究して、一つの仮説がひよつと頭に浮んだと云ふのは、ど一かして健康にしよ一と云ふ必要から得たところの賜であります。研究と云ふことには、大きな問題もあれば小さいこともあるが、此の意味の研究によつて、

すつくり身体を改造することが出来るのであります。只、医者が斯う云ふ薬を飲めと言ったから飲み、斯う云ふ方法をとれと言ったからして見る。それだけでは、なほるものではありません。つまり、研究的生活が出来ねば、先づ健康から充分に進んで来なければ、他の仕事は出来るものではないのであります。

私も先年病氣をした時に、医者から、あなたは肺がわるいと言はれ、又、他の医者に見てもらうと、いや、肺ではない、心臓がわるいのであると言はれました。けれども私の身体は肺も心臓もわるくはないと云ふことがわかった。併し只弱いのは脳と腸胃であつて、これには困りましたが、夫れもと一自分で考へて發明して、なほしたのであります。

[声と筋肉と精神を同時に働かすこと]

私の健康を拵へ、研究をすることの秘訣を一言に言へば、此の間、私が書いた所の Rhythm である。私の深呼吸は音楽、即ち声と筋肉と精神とを一緒に働かすのである。声を出すと云ふことは、何か非常に深い所の感情がなければならぬ。其の深い感情の奥底から声を出し、それと同時に精神をこめて筋肉の練習をもする。斯う云ふことを研究すると、いろいろおもしろい結果があらはれるのであります。

[中表紙]

大学部及予科生の御話
明治四十四年十月十六日

明治四十四年十月十六日
第一学年及び予科生の為に

此の間私が説いたことについて、答へよ一とか、又は質問しよ一とか、何かの用意をしておいでになつた方は………
……なし

[実践倫理は実行するためのものなり]

私は、あなた方が自分で興味を感じない問題を説いても役に立たず、又、実にもなるまいと思ふ。実践倫理と云ふものは実行しなければ、只聞いて居るだけでは役に立たぬ。ほかの学科にしても、そ一云ふ仕方では一向勞して効なしであらうと思ふ。皆さんが何所に興味を持って居るか、何所に反動して居るかと云ふことがわからないと、私は話を始められないのであります。あなた方は何時でも受ける用意はして居る。命令が出たら他動的に動く用意は出来て居るが、此の間から私共が、も一つ向けたいと思つて居る方へは動かない。夫れでは余り働きがなさ過ぎる様に思ふのですが、ど一ですか。

積極的に興味が起らないならば、消極的に何かあなたの境遇について、或は身体や品性について、何か求める所でもないかと云ふことを、次に聞きたいのです。

二、三日前に、同志社を卒業して家庭と云ふ雑誌の記者をして居る人が尋ねて参りまして、何か私に聞きたいと云ふことです。此の人は妻子もあり、いろいろ家庭、社会の経験を

した人でありますが、其の人の言ふのには、我が国の家庭を見るに、ど一も其の夫たる人が満足に思ひ、妻たる人が幸福に感じて居る所は少ない様である。夫がよそから勞れて歸つて来て少し休まうと思つても、慰安を与へるところではない。疲れた頭に猶家庭の心配を訴へられる。そこで、妻と共に食事をするのが面白くない。故に、友達の家へ行くか、どこかよそに行くより外、勞れた気分を転ずることが出来ぬと云ふことになる。夫は未だ外へでも行くが、妻はそ一することは出来ないから、猶屈託して益、不愉快な人になる。之れはど一云ふ訳であるか。何故、そ一云ふ不安の状態に陥るのであるか。之れは一般日本人の風である。

も一つはそ一云ふ国民であるから、外国人が来て、日本人に逢ふのは不愉快である。此の間の シドニー・ウェブ と云ふ人にしても、夫婦の間が誠に睦まじく立派に出来て居るから、そ一云ふ人格のある人の側に居ると、此方も誠に面白くなる。けれども、何の趣味もなく、何の考へもない妻君に向つて話の出来るものではない。其の原因は甚だ複雑なるものであるが、其の一つは経験である。

此の間、或る会社で一人の書記をかへよ一とした。其の月給は僅かに十八円であるが、其の募りに応じた者は四百人あつたと云ふこと。又、外務省あたりで一人の外交官を採用する時には六百人からの候補者があると云ふことです。

日本は今、経済と云ふことについては、誠に苦しいのである。貧乏な上に戦時税が課せられてある。之れを何時除くことが出来るかと云ふと、目あてはつかないのである。夫れで、斯う云ふ経済の重荷を負ふと、青年の進取の氣象もなくなつて来、其の有様を意気消沈と言ふのであるが、此の意気消沈と云ふ様なことは、我が国婦人は考へなくてよいものであるか。決して、そ一ではない。

[境遇の開拓をすべし]

此の境遇を開くと云ふことが出来なければ、子供を育てることも、家を治めることも出来ないのである。此の間の ウェブ さん夫婦が言はるゝのに、Woman suffrage と云ふことは、婦人が議員にならなくてもよいが、選挙するだけの権利は是非得なければならぬと云ふこと。斯う云ふ考へは、非常に時勢遅れの者の外は一人でも考へない者はないと云ふことです。

[自動的たれ]

我が国の教育ある婦人として、只じつとしては居られないと私共が思ふ時に、そ一云ふ態度で今後の国民の母として人を育て、国を保つて行かるといふものであるかど一か。私はそ一云ふこと迄考へさせよ一と思つて、此の間申しかけたのでありますが、積極的にあなた方には興味不起らない。然らば消極的に、近くは自分の身体でも思ふ様に維持して居るであらうか。何か欠点がありはすまいか。夫れでは逆も進むことは出来ぬ。又、将来家は持てないのである。若し此に身体の欠点があるならば、夫れをよくしなければならぬ。寮舎の規則に従ふとか、医者にかゝつて薬を飲むと云ふだけならば、之れを他動と言ふのである。其れ以上、何か自分に適する様に治さなければならぬ。故に先づ自分の工夫により、自分の意志を以て治さうと云ふ決心だけでも、つかねばならぬ。

【知識】

次には知識についても不満足な所はないか。私は三十年ばかりの間にいろいろ経験を致しました。例えば良心と云ふことでも、卒業間際迄、自分の欠点に心づかず居つて、さて、人々にも知れ、自分にもわかる様になつても、も一時間が足りない云ふことが有る。又、人間と云ふものは悪く言へば誤魔化しがきけるものだから、例えば試験などでもどーにかすませて、さて、学校を出よーとすると、一向出来て居ない。幸にして卒業はしても、夫れから後に失望の淵に陥らざるを得ないと云ふこともあります。

【遺伝の悪を除くべし】

我々には沢山先祖の遺伝もあるが、其の裏には悪い遺伝が沢山ある。其れが如何に我々を妨げて居るかもしれぬ。故に之れを除くと云ふことは、決して怠つてはならぬことである。夫れで、私は皆さんが之れをお考へになる様に、之れを積極に言へば、自動と申すのです。故に、先づ其の障害をとり除くと云ふだけでも手をつけねばなりません。

そこで、あなた方に聞きますが、先づ身体のことについて考へて、自分には一つの欠点を持つて居るとすれば、夫れを治さねばならぬ。其の治すと云ふ必要にあふて、斯うして治さうと云ふ興味を持つて居ると云ふことがあるならば、其れが即ち研究の問題となるのであるから、問題と言つてもよい。其の何か身体についての問題を持つて居る人は……

【知力】

次には知力の方で、人に教へることは出来るけれども、自分で考へると云ふこと、又、考へた上を纏める、即ち集中すると云ふことについて欠点がある。之れを、どーして改めよーかと云ふ問題を持つて居る人は……多数

【品性】

第三には品性の問題であります。我々はどーかして完全に進みたい、卑劣なる感情や想像を起さない、成るべく清く高尚なる所に進みたいと思つて居りますが、どーも遺伝とか習慣とか云ふことに捕はれて、立派な行ひが出来ないと云ふことがあろー。我々は兎に角、欠点の多いものであるが、どーしたならば、自我を満足させることが出来るかと云ふ問題を持つて居る人は……多数

そー云ふことも、やはり自分について考へねばならぬ問題である。夫れでは先づ、其所を問題として自分を改善しよー、今迄の性質を生れ変るよーにしよーと云ふことになると、あなた方はどーか其の原因を見出だして直したいと云ふ心が銘々の内から起る。之れを指して、やはり自動と言ふのであります。

【我の生と死】

第一に起る問題は、一体我れと云へば、我が個人、我が個性、即ち我れである。我が個性は果して存在して居るものであるかどーか。自分と云ふものは何時、何所から生れたものであるか。又、我れと云ふ実体は何から起つたものであるか。又、将来は死と云ふことであるが、死と云ふものは我が始めであるか、終りであるか。

【価値】

次に起る問題は価値である。我れに病氣や欠点があるならば、骨を折つて治さうと云ふ、其れだけの価値あるものであろーか。其の価値をどれだけ増進して行かれるものであろーかと云ふ問題が起つて来るのである。

之れを哲学の問題として、此に説明を試みる暇がない。故に今は斯う云ふ問題について、さ程困難を感じない位において、先きに進んだ方がよいかと思ふ。

【自我の存在】

夫れについて、先覚者が申した所の考へを二、三申すならば、あなた方の参考になるかと思ふ。先づ、あなた方が斯う云ふ問題を起して来るのは、我々が自覚したと云ふのである。主観と客観、即ち自他の関係から自我意識と云ふものが出来る。そー云ふ問題を考へると云ふことが、既に自我の存在を明らかにしたわけで、其の関係を最もよく言つたのは、Descartes である。我れ思ふ故に我れあり (Cogito ergo sum) と言ひました。之れは我々の経験が、我は存在すと云ふことを証明するので、此の我れ思ふ故に我れ存在す、と云ふことをよく探つて行きますと、我れと云ふのは何であるかと云ふことになる。そーして、夫れは我れ思ふと云ふことである。我れ考へると云ふことが、今日使ふ所の自動と云ふことのほんとの意義で、我れと云ふことを委しく研究して行くと、其所に歸するのであります。

【個性とは何ぞ】

然らば、我が個性と云ふものは何であるかと云ふことを尋ねると、近世の科学の立場から言つて最もよい答へと思ふのは、近世の児童研究などを致しました Stanley Hall であります。我れと云ふことを研究するには、我れの起りを探るのが必要である。

我れの起りと云へば、之れは遺伝と云ふことになる。此の遺伝は人類の長い歴史を持つて居るものであるが、其所から我が個性、我が個人はどーして出来たかと云ふと、其の起りは自動と云ふことになる。我れと云ふものには二つの種がある。其の種が自動して出来たのである。

【自動は自他の間より生ず】

自動と云へば、利己的のよーに間違ひ易いが、自動と云ふことは決して一人では出来ない。自他の両方から動く働きで、外から非常に促すもの、誘ふものがある。即ち、外からつくものがあると同時に、自分の方から非常に衝動する所があつて、双方の働きあひから出来るもの、之れをさして意志と言ふのであります。

【意志】

此の自動によつて我れが出来る。自我の要素は意志であると云ふのは、そこである。故に、自我の本体は自動である。意志の働きによつて非常に進歩、発展するものが個性であります。故に、種の時から既に自動である。其の種の働きから身体が出来て来て、此に自動の働きをなし、自我を構成するのである。

Kant も、子供が我れと云ふことが出来たなら、其の時が誕生である。若しも我が乗る馬が我れと云ふことが出来たなら、

我れは馬から下りて尊敬しよ一と申しました。

其の我れと云ふものが、教育によつて最も進んだ者を偉人と言ふ。其の我れと云ふ者は教育によつて、いろいろ等差があるので有る。故に此においてになる皆さん、我れを教育して、最もよく進まうと云ふ個人には個性がある。此の自動と云ふものは如何なる働きによつて出来るか。夫れに圧迫を加へない様にするにはど一したらよいかと云ふと、二つの方面がある。

其の一つは意志のもととなるもので、之れを Impulse と言ひ、動かうとするもの、働きかけよ一とするものである。他の一は其衝動を動かさうとするもの、外から来る刺激、之れを感化力とでも言ひましよ一か。境遇から受ける所の刺激であつて、此の二つの働きが結び合つて自我を拵へるものであると云ふことは、十七世紀あたりから盛んに称へられたのである。即ち、Leibnitz、Descartes、Locke と云ふ様な人々であります。中にも Locke と云ふ人が、此の間私の申しました Perception 知覚と云ふものは経験に依つて出来るものと云ふので、之れを Empiricism 経験派と云ふ学派が生れたのであります。Locke は The Origin, certainty and extent of knowledge 知識の起原、確実及び其の範囲と云ふ本を書いて、其の中に言つてあることは、There is nothing in the intellect which come not through senses. 我々の知識と云ふものは、我々の感覚を通して来ないものはない。其の感覚を通して来たものを知覚と言ふのである。さて、この Senses と云ふものは、もとは外からの刺激であるが、夫れが非常な力を以て誘ひを与へる。そこで、内から応ずると云ふ働きが起るのであります。之れは自動の一方面であるが、夫れだけでは足りない。も一つの方面があるのです。The senses give us reports of out-world things, but it is the mind which receives and apprehends reflect and though repute and its duties and creations. 其の感覚からもたらす報告を受けて、夫れについてよく反省して、其の物の美とか関係とか事実の意義とか、又は価値とかを考へるものは、我々の心である。即ち、精神の働きであります。

〔自動の両面（主観、客観）〕

Leibnitz は Monad 説を起した人である。そこで事実の美とか関係とかを察知して、其の物に意義あり価値あらしむるものは、も一つある。これ即ち自動と言ふ。故に、両方面があるのです。故に自動と云ふことは、決して孤独に主観だけで出来るものではない。外から促し誘ふ所の余程な請求にあふ。夫れに応じて受けたいと云ふ傾きがあり、又、夫れに及ぼして行かうと云ふ働きがある。其の二つの働きが相よつて出来るものが、即ち自動である。

〔機敏な人、鈍な人〕

我々の身体は其の中間に立つて媒介をするものである。此の身体によつて我々は外界に反応して居るもので、此の衝動は総ての人に出来ることであるが、其の反応のよく出来る人を機敏な人と言ひ、鈍いのを鈍な人と言ふのである。そして、外界の刺激にはいろいろあつて、どの刺激に応じてもよいと云ふことはないから、そこに選択を要することとなる。つま

り、自動と云ふことは外界の事物を我が精神生活に利用することであるから、其の刺激を受けること、選ぶこと、よく反応することが盛んであつて始めて、よく自動が出来る様になり、人格が発展するのであります。

〔Doing things〕

そこで、此の間私が経験に重きをおかねばならぬと言つたのは、私が外界の事物に向つて働きかけること、言ひかへれば、事物を行ふと云ふことになる。之れを私は Doing things 或は Doing action と言つてもよい。外界の Attribute を研究することが学問であるが、Doing things を最もよくすることは、矢張り我々の道徳的行為である。故に学問と修養とが離れたものではない。そこに一致が出来にくいと云ふことは、ない筈であります。我々が学問をするのは、感覚を通して来る外界の事物の外に、も一つ深いものがある。之れを精神界と申します。

〔統覚〕

私が此の間申した Perception の外に Apperception 統覚と云ふものがある。統覚、知覚は孰れも我々の経験であるが、統覚と云ふことは今日申す暇がありませんから、此の知覚と云ふことを皆さんに自分で調べて、此の自動と云ふことのよくわかる様にして戴きたいと考へます。

〔中表紙〕

大学部全体の御話

明治四十四年十月二十五日

明治四十四年十月二十五日

大学部全体の為に

今日は要求的修養について説かう。

予て学校の主義とし、又、全体が各自の力の土台をきづかうと云ふ希望を持つて居る故、是非意味が明らかにとれるよ一にしたいと思つて、殊更に此の時間を設けたのである。

来月末には関西へ旅行しなければならぬ故、其の方法を各方面から見たいと思つて急いで居るが、用意する前に一つ緊急問題が生じたのである。

先づ、此の問題をあなた方に提出する必要があるのである。之れは今、急に生じたのではなく、我が国教育の一問題である。これを深く研究する必要がある、之れに注意を集めることは必要と思ふ。順序を少しかへて提出し度いと思ふ。

〔我国女性の僻について〕

私は三十年余り女子教育をして居りまして、非常に不思議に思ふ、女子の生理上に解釈に苦しむことがあるのである。それは簡短で複雑な原因から起つて居るのである。それを一言で言へば、我国の女子の病氣の中に比較的に拡がり、比較的根が深いのである。

それは茲に露骨に突然に言ふことは憚るが、時をとるから言ふが、之れは我国の女性には盗みをすると思ふ僻がある。

之れは、誠に其の誘惑の原因、衝動の種類が甚だきめにくいやうに、私は考へるのである。

比較的、我が国婦人にかゝる弱点があると云ふは独断であるが、私の経験、各女学校、社会に起る事実を以て、その判断を下すことをするより外にないのである。然らば、男子にはかゝる弱点はないかと云ふに、あるけれども稀であると言はなければならぬのである。然し、この府下に二十年以上中学校の教師して居る人があるが、一年の時に盗みの癖を持つて居るときいた。私共が子供の時代にそんな事があつたかと聞くに、そんなことはない。又、師範学校時代に於ても、記憶して居ることは一度しかないのである。それは墨を一本盗んだのである。それにど一云ふ制裁を加へたかと云ふと、学生が其の墨一挺盗んだ者を池につき込んで、濡れ鼠の様にして、殆んど死ぬかと思ふ位な目にあはせた。けれども、そ一云ふ制裁を加へても、先生から何の小言をも受けなかつたのである。そ一して家に帰ると両親が大變怒つて、此の者に腹を切れと言つたが、隣の人の同情によつて漸う死ぬることだけは許されたが、此の事の為に、と一と一親から勘当されたのであります。

又、或る村の庄屋の家に居つた若者が、一錢五厘の卵を一錢八厘とつけて、卵一個につき三厘の利をとらうとしたことがわかつて、其の者は村中の人に顔むけが出来なくなり、遂に殺されねばならぬと云ふ騒ぎ。庄屋の方では、うちの召使の中から斯様な者を出して甚だ申し訳のないことである。併し此の様な不屈者を自分のうちで殺されては、誠に家の汚れであると云ふ所から、隊長に願つて許されたのである。

そこで、盗みをするると云ふことは、男学生には余りない。此の小盗みをする者ならば、強盗をするかも知れない。酒を飲み、煙草を吸ひ、放火をすると云ふ如き、男子の罪惡は直ちに発覚する。火薬の様に外に向つて爆発するのが常である。[婦人の罪惡は多く内にこもる]

ところが、婦人の罪惡は内に籠るのである。人殺しはせぬ。窃盜はしない。必ず毒藥を盛るとか、讒謗をするとか、こそそと悪いことをする。私は三十年来の長い経験によつて考へますのに、少くも私の出逢ふた Case によれば、盗みをするると云ふことは、貧窮で學費に困る人がするかと云ふと、そ一ではない。却つて富裕なる人の娘がする。今、立派な人の奥さんと、我が國に名を知られて居る人にもあつたのであるが、之れは人のよくないことであるから、誰れも言はないのです。比較的、女の学校に盗みをする者が多い。猶、此の学校にもそ一云ふ人があるかも知れぬ。

斯くの如き秘密を行つて、不知不識、其の毒に中つて眠つて居る者があるかも知れぬ。故に、若しあるとすれば、其の救濟法を講じなければならぬから、私は此の問題を露骨に皆さんの前に提供するのであります。

此の盗みと云ふことは、一つの Category にするのである。其の兄弟姉妹が親類のよ一なものに、詐欺、偽り、欺き、俗に言ふずると云ふこと、其の次にはうらおもてのあること、不公平、不規律、違約、我が儘、猿知恵、うぬぼれ、即ちわからぬのにわかつた顔すること、中傷（とは陰で人の名譽を傷

づけること）、かゝることは、多くは女子の中にあると思ふのである。

男学生に不平があれば、学校騒動を起す。同盟休校をする。ところが女子は、匿名で投書をする者がある。母校のことを、自分のうちのことをさらけ出して、さも悪い様に吹聴し、そ一して母校全体の名譽を傷つけよ一とかゝるのである。斯う云ふことは男子にはない。西洋にもない。我が國の女学校に限る。又、人の物を使用する。人の物を借りて、人が忘れて居るよ一ならば、臆面もなく之れを使用するのである。又、自分の欲しいと思ふ物が落ちて居るならば、そつと拾つて懐へかくしておいて、自分の名に書きかへておくと云ふ様なことがある。斯う云ふ様なことは皆、ぬすみと云ふ Categoryの中に入ることである。

斯う云ふ欠点は何によるかと云ふと、女子の弱点である。故に、之れを皆さんに問うて見るのである。若しもあなた方が、夫れは非常な冤罪である、我々の仲間には決してそ一云ふことはないと言しやるならば、私は非常に喜ぶのである。安心するのであります。

[ぬすみと云ふことの性質]

さて、此の弱点はど一云ふ性質のものであるかと云ふことを分類するならば、此のぬすみと云ふことは、第一、人の所有權を侵すのである。自分にも所有權があるならば、人にも所有權がある。夫れを知りつゝ侵すのである。

第二は、公有權、公共の利益を侵すのである。

第三は、自らを欺き、自らを傷つけると云ふことである。人を苦めると同時に自らを苦め、人を欺くと同時に自らを欺くのである。

そこで先づ斯う云ふことが、婦人の欠点である。併し、悉くそ一であるとは言はない。ほんの僅か 1/1000 か 1/10000 か極一部分にあるのである。人のかげごとを言つて名譽を傷つけるのである。人を欺くと云つても程度によるのであるが、男子よりも女子に多く、外國の婦人よりも我が國の婦人に多いのである。

其の原因は何かと云へば、第一、我が國の婦人の腦力は男子及び歐米の文明國の婦人に比べて幼稚である、低能児であると云ふことになる。

第二は、婦人は男子よりも衝動的なもので、感情的なものである。其の時、其の時の感情によつて行為をきめるのである。故に其の産物、例へば、婦人の文學と云ふよ一なものも断片的である。甚だ Pedant を氣取るけれども、人の批評にしても、ど一もつまらないことが多い。

第三は遺傳である。我が國の婦人は長い間の遺傳で、自分の意志を行ふことが出来ないから、親にかくし、夫にかくし、こつそりともをやる。斯う云ふことが遺傳になつて居るから、人の物をこそそと取ると云ふ訳ではないか。

第四は社會の風に感染したのではないか。我が國、現時の風にあつたものではないか。けれども、斯くの如き社會の改善者となるべき者が、そ一云ふ風であつてよいかど一か。私は事の起る度に、うちの人にはない。外からであろ一と何時も考へるのであるけれども、たまに内の人の仕業とわかる時

には案外に思ふのであります。

第五、我が国婦人の頭には法律の頭がないが、婦人も国民の義務がある。英国の婦人などは、参政権を得んが為に熱烈なる運動を試みて居るのである。夫れは多数の同志を糾合して、銘々が此の意志を作り、此の目的を立つるに当つて国民の一人であると云ふ考へがあるに違ひない。我が国の婦人には之れがない。社会はど一かと云ふと、女子は教育する価値のないものと見放す。故に、此の頭のない婦人が、若し一旦過つならば社会はど一かと云ふと、男子よりも酷に取り扱ふのである。そして、婦人は解放を叫ぶのである、自由を欲するのであるけれども、権利と云ふことは英語の Right と云ふことで、正義と同じことであるけれども、社会的、道德的、法則的法律を遵奉せずして、権利を要求するのである。監督せらるゝことを束縛の如く考へるのである。けれども、そんな幼稚な頭の者に一人歩きをさせたならば、どんな間違ひが起るかも知れぬ。故に、義務を果さない人に権利はないのである。どんな国でも、共和政体の国でも、法律のないところはない。故にあなた方がほんとに法律を遵奉することが出来、ほんとに一に婦人の義務を果すことが出来る様になつたならば、権利は自然について来るのであります。

第六は、良心、或は本心 Conscience の欠乏である。是非の判断力が未だ充分に発達しないのではないか。

之れは私が一寸数へたてたのである。

[其の救済法]

次には、其の原因がわかり、其の病が知れたならば、之れを根治しなければならぬ。其の救済法は如何にすればよいかと云ふことが問題になるのである。此の方法については、いろいろ申さんければならぬことがある。

[自身の判断力が発生しなければならぬ]

併しながら、其の中で一番根本と思ふことは、独立の意志が出来ねばならぬ。詞をかへて言へば、自身の判断力が発生しなければならぬ。此に、私は女子の過渡時代の危険があると思ふ。之れ迄、女子は親や夫の保護によつて無事に過すことが出来て居りました。ところが今日では、女子も独立の判断をしなければならぬことになつたから、只自らを護るだけでは世に立たれなくなつた。誠に事情が複雑になりましたから、自分の目的を立てるとか、天職をきめるとか云ふ上には、自らの判断を下さねばならぬ。実行はやさしい。犠牲となることは、そ一六かしくはない。けれども、何を実行しなければならぬか。何処に犠牲となるべきであるか。斯う云ふことについても、自ら判断しなければならぬ。そこで、只物を暗記して居る、覚えておくとか云ふだけではいけない。広く物を考へて、深く思慮分別を回らさねばならぬ。故に之れは問題として、あなた方に訴へておきます。故に皆さん、自分のこととして深くお考へになつて、出来るだけ立派なる健全なる校風を作ることに勉めねばなりません。

そこで私は其の救済法として大事なことを今日少しく申しておきたいと思ひます。其の順序として、過日三年生に申しかけたこと、一年生に申したこととありますが、一年生に申しかけた順序に従つて続けることが必要であると考へます。

此の間、積極と消極と云ふことを申しましたが、姑息なことでもいかぬ、旧式でもいかぬ、迷信でもだめである。然らばど一すればよいかと云ふと、三年の方では、兎も角も意志と云ふものが大切である故に、人格を養はねばならぬと云ふことである。自動と云ふことは相対的のものであるから、孤独では出来ぬと云ふことを申しかけましたが、之れは大きい問題である。我々の意志には二つの要素があつて、其の関係から出づる内のものを、衝動、欲望、本能、動機、感情、情緒、情操と言ひ、或は之れを意志と言ふのである。斯う云ふ風に語はいろいろあるけれども、之れは発達段階によつてつけた名前、其の本は一つである。

フランスの学者 Bergson と云ふ人が、Creative evolution 即ち創始的進化論と云ふ本を書いて、人間の一番のもとには本能であると言つて居ります。故に人間の本体の真髓を本能と言ふことは、決して私の独断ではない。今日の思潮が其の方に向きかけて居ることがわかる。

[本能について]

之れを説くには、原子から始めて精神界の頂上にまで進まねばならぬ。ところが、此の本能は物質から始まつて居る様である。故に、之れを物質的本能と言ふのである。原子と原子とが接触して適当な境遇におかれた場合には、二つが一つに溶解されるのである。この働きを Fusion と言ふのである。Unit と Unit、Individual と Individual とが接触して適当な境遇におかれると、此に一つの新しい物質が出来る。之れを物質的本能と言ふ。

細胞と細胞とが接触すると、此に第三の個体が出来る。此の活動をさして、細胞的本能と言ふ。殊に動物になると遺伝があつて、細胞と細胞とがよつて一つの細胞となる一とする。之れを身体的本能、人格的細胞と言ふ。食物等については細胞が夫れを同化しよ一とする。之れを食欲と言ひ、その他、目に見、耳に聞くと云ふ様なことを総称して物質的本能と言ふのである。

私共が非常に欲望を起して、ど一かして之れを成しとげたいと考へるのは、其の物質的本能があるからである。その他、愛と云ふことも、人格的欲望、社会的本能があるからである。我々は一方から言へば、實に本能のかたまりである。

意志、衝動を刺激する社会、宇宙があるによつて、我々が自動するのである。我々の行為や感情や満足の起る本は何であるか。此の外からの力と内から応ずる処の力とが、互に密着して融合する所から起るのである。

此の力は男女両性の興味、及び其の間に起る所の活動であつて、其の結果は、實に宇宙の間の最も模範的のものである一と思ふ。二つの元素がよつて、一つの新しいものを作るのである。我々の行為と云ふものゝ最も理想的に行はるゝものは、人生の大札である処の夫婦の関係によつて子供が生れ、夫れから又、多くの家庭が出来て行くのである。

之れは二つの人格があつて、他の人格を呼ぶ。又、之れに応ずる所の人格があつて、友を求むる。此の友情愛と云ふものは親に対しても、兄弟に対しても、亦友人に対してもある。其の友を呼ぶ呼び声に応じて応ずるものがある。其の愛の最

も高尚なるもの、及び人格的欲望の最も強きものは夫婦間の愛であります。併しながら、どの刺激にでも応ずるかと思ふと、そ一ではない。若しも我々が只其の呼び声の儘に應ずるならば、人倫は立たぬのである。

故に其の何れを捨て、何れを取るべきかと思ふことを考へて見るならば、第一、Taste 趣味と思ふのは醜美の区別をする、即ち審美的価値を定むるもの。之れが即ち意志の自由で自定力である。

第二は経済的価値を定むるもの。之れは利益であるかないかを見定むることで、商売をしたり、政治を行つたり、外交をしたりするのである。

第三の判断力を Conscience 良心と言ふ。之れは善悪の区別を立てることで、之れが即ち我が行為を選ぶ、何れを制し、何れを行ふと思ふことを判断する。之れが即ち、醜であるか美であるか、利益であるか不利益であるかと思ふこと、其の他いろいろ複雑なことを考へて、我が行為をきめるのである。故に、之れを只衝動できめてはならぬ。其れをきめることによつて運命がきまるのである。

此の二つの種によつて、人格が完成するのであります。故に私共はそ一思ふ刺激がある、招きがあるから応ずるかと思ふと、そ一ではない。斯くの如き人格の興味と思ふものを定むることは、只一度である。そして其の選択の自由は幾度もあるのである。故によく考へねばならぬ。斯くの如きことは只一度であるが、其の他の小さい衝動、刺激と思ふものは、毎日毎日幾つとなく、小さいものは何万と思ふものを容れることが出来るのです。

此の良心が輝き、此の本心の眼が明らかでなければ、到底私共は立派なる行ひをし、永久の目的を立て、ほんとの幸福を得ることは出来ないであります。故に、其の選択の力を養ふことが必要である。之れが出来なければ、其の他のことは総て水泡に帰するのであります。故に、馬鹿なことをして人にだまされたり、つまらないことをこそそしたりすることを改めるには、此の良心を育てることに力を尽さねばならぬ。

私の長い間の経験から考へても、ど一も此の良心を育てるより外はないのである。故に其の参考として、学者の言つて居ることを紹介致しましよ。

[良心の病ひ]

チャーレス ホールと思ふ人は、良心の Disease は癩病よりも猶恐るべきものである。此の良心の病気は我々をつんばにし、神の声を聞くことが出来ぬ様にする。又、善悪を見分ける処の明を失ふめくらにするもの。又、正しい欲望、正当なる刺激に対しては嘔吐を催し、腐亂を起すものである。自分の行為に対しては欺瞞をおこし、人の行為を批評し、煩惱の熱は彼れの身体を焦してう。斯くの如く癩病よりも恐ろしきものは良心の病気である。

之れに反して、良心の健全なることは完全なる身体の美よりも美しいもの。之れは精神の力である。注意深く、よく平均をとつた明晰なる明である。彼れは悪を喜ばず、誠を愛し、理性に支配せられ、善に勇み、正義に楽しむものである。

[良心の病を癒すには人格の感化に浴することが必要である]

然らば、良心の弱点を癒し、健全なる発達を遂ぐる為如何なる教育を施すべきであるかと思すならば、第一に、最も高尚なる、最も完全なる模範の人格の感化に浴すると思ふことが第一に必要である。我々が醜美の判断を養ふには、成る可く立派なる、古来稀なる美術品に対して其の美を味はふ、又、自然の美、文学の美を味はふことは、最も尊いことである。斯くの如く最も発達したる、高尚なる人格の感化を受くと思ふことが一番大切であります。

例へば、ワシントンが父親の秘蔵の木を切つて自白した時、少しも怒らなかつた父親の人格、其の喜び。又、彼れがアメリカ国民の為に大統領になつた、此の親子の間の情愛はまことである。此のワシントン、又はクリスト、東洋に於ては孔子、又は釋尊、斯う思ふ人格に接することが誠に大切である。[空気にふれることが亦大切である]

次には、其の人格と人格との Fusion、其の融合から出来た所の社会、即ち我々が言ふ処の空気にふれることが其の病を癒すに足るのである。

近くは輕井澤に於て、皆が非常に人格を高め、自覚して来た時には、今迄眠つて居つたものも自ら罪を悔いて生れかほつたのである。

又、私が今から二十四、五年前、大坂の梅花女学校で、そ一思ふことがありました。私は責めどももしないのに、皆、私の前に出て参りまして、私は紙をとりました、針をとりましたと白状しました。そして盗まん人でも、私は傲慢でありました、片意地でありましたと言つて、すつくり直りました。其の時の喜び、全体の活動と思ふものは非常なもので、此の時、非常なる進歩を致しました。

私は此に於て、斯くの如く潜んで居る所の良心の病が、此に於て人格の光りを發揮して、此の良心の病を癒すことが出来たならば、実に立派なものと思ふ。之れが良心の教育の一つの方法であります。

運動会についても、運動の興味、遊戯的本能が發揮して、或は文学となり、冒険となり、又は発明となる。此の遊戯的本能の眠らぬ間は、其の国民は年をとらないのである。之れにより又、社会を教育すると思ふ社会的興味を持つて、私共は運動をするのでありますが、之れによつて私共は如何なる刺激を与へることが出来るであらうか。又、夫れによつて如何なる感化を受けることが出来るのであらうか。ど一か、此の光りを明らかにし、判断力を充分堅くなさつて、運動会を有効になさる様に。充分成功なさる様に、よい空気を作つて、此の本心の眠つて居る空気を改めて、本心を立派にお育てになる様に。運動についても此の覚悟が大切であります。

[中表紙]

高等女学校生徒全体の御話
明治四十四年十月二十六日

明治四十四年十月二十六日
高等女学校生徒全体の為に

[自治制度とは何ぞ]

代表者の方は立つて御覧。夫れから、文芸係、農芸係、経済係、整理係、衛生体育の係。宜しい。

そ一云ふ係を組織致しまして、之れを自治制度と言ふのである。此の学校で、自治制度と云ふ教育の方針をとりました其の主なる目的は何で有りませうか。わかつて居る人は………なし

自治と云ふことのわかつて居る人は………

・自らを治めると云ふことであると思ひます。

治と云ふ字は、ど一云ふ意味からとつたでしょ一か………なし

治とは政治と云ふことからとつたもので、政治とは国を治める組織である。桂内閣がやまつて、今度、西園寺内閣と云ふものに代りました。国家には、即ち国を治めるには、必らず其の国に相当する所の政治がある。其の政治は大別すれば幾つあるか。

我が国の政体は何でありますか………

・立憲政体であります。

其の他、何がありますか………

・共和政治、君主専制。

そ一、アメリカのよ一な共和政治と、其の他に専制政治、又は寡頭政治とも言ひますね。専制政治には君主専制、貴族専制などありまして、少ない人数の考へによつて行はれる。天子様のお考へが国家の法律となり、夫れで命令して行くのが君主専制である。又、専制政治には宗教上の意味もあつて、僧侶の権によつて政をとるものもある。

自治と云ふのは、自分達の考へで国を治めることで、国と云へば社会である。其の小さい国家は学校であり、寮舎である。其のも一一つ小さいものが、あなた方の家庭である。故に、国を治め、家を治め、身を治めると云ふことがある。之等は皆、政治の治と云ふ意味で、をさめることで有ります。

若し君主専制の様にすれば、学校であるならば校長の意見を以て、先生の考へを以て生徒に命令するのである。或は教授会で先生の意見をきめておいて、生徒を盲従させるのである。そ一云ふ風にすると、先生がこはいから従ふことになる。そ一云ふ考へで学問をするのは奴隷のよ一なものであるから、此の学校ではそ一はせず、自治制度をとつたのである。

[学校の係組織]

此の学校にいろいろの係をおく。之れを自治組織の機関と言ふのである。斯う云ふ制度をとつたのは、ど一云ふ様にさせんが為めでありませうか。

- ・実力を養成する為めであります。
- ・卒業後に、ものが出来るよ一に。

[私と云ふ国家の王は私なり]

是れ迄は、女は子供の時は親によつて居ればよい。嫁しては夫にすがつて居ればよい。又、年をとつたら子供によつて居ればよいのであります。けれども、是れから先きは夫れではいかぬから、力がなければならぬ。其の力は實際することによつて出来るから、其の力をつけるには、自分ですると云ふことをせねばならぬ。未だ其の他に理由が有りますが、之れは主なる理由である。此の自治の一番主なる目的は、学生銘々が学問をする為めに、又、行ひをきめる為めに、銘々の品性を拵へる為めには、自治でなければならぬ。其の責任は自分が持つて居るのである。我が身を治むるもの、我れに命令するもの、我が行ひの判断をするものは、我である。私と云ふ国家の主は私である。我れは、我れと云ふ国の国王である、女王である。故に、我が国家を治むる能力がなくてはならぬ。故に自治と云ふことは、生徒自身が自分のことは自分ですると云ふ決心を以て、銘々の修養をして行くことが一つ。

第二の目的は？……… 所一、広く言へば国家であるが、此の学校で言へば、我が母校の校風を完全にして行く、自分の組をよくし、校風を健全にして行く為めである。其の責任を銘々が持つと云ふことであります。只、先生だけが働くのではない。銘々が一つとなつて其の責任を分担し、国家の利益を進めて行くこと云ふことが、一番大事な目的となるのであります。

[他の制裁によつて行為をなす者は社会の病人也]

夫れで我々は、学校で組の中で行うて居る所の行ひ、又独り自分が人の見ない所で、例へば組が皆外に出る時に、又は夜、自分が一人て寝床に休んで居る時に、即ち他に一人も居ない時の自分の考へて居ること、感じて居ること、行うて居ることが、如何でありますか。先生の支配を受けねばならぬ、組の制裁があるから其の權威を恐れて悪いことをしないと云ふのは、野蛮、未開の国民や、又は社会の病人として取り扱はれねばならぬ。犯罪人などの如く低い人間、極動物に近い者である。若し、国家がそ一云ふ風になつたならば、其の君主は安んじて居ることが出来るであらうか。そ一云ふ人は早晚、警察の手を煩はすか、保護者の監督を受けるかより仕方がないのである。夫れで私は、是れから深く調べる積りであります。故に、よく銘々で考へてもらひたいのであります。

あなたの毎日の修養、勉強はほんとい自治制度に叶ふて居るかど一か。夫れを知つて居る者は我れである。も一一つは神である。之れを知るものは、只、神と我れとよりほかないのである。若しあなたの目が明らかであるならば、其の光りは天からさして来る。其の光りが見えたならば、夫れに照らされて、わからぬ人はないのであらう。此の中にそんな盲はないと思ふけれども、

あなたの行ひがほんとに自治制度に叶ふて居ると思ふ者は………なし

叶ふて居らぬと思ふ者は………多数

未だ自分のことが自分でわからぬ者は………なし

[英国民、殊に其の婦人の自治的思想]

自治と云ふ制度を選ぶ国民は、自由と云ふことを思ふ国民

であります。此の前、此にシドニー ウェブと云ふ英国の社会学者が来られました。其の奥さんは、夫にも劣らぬ程の勢力があり、又学者として名高いのである。此の夫人が言はるゝのに、英国ではあたりまへの婦人であるならば、参政権を得たいと思はぬ者はない。男が国民であるならば、女も国民である。故に、自分のことは自分でしなければならぬと云ふことです。然るに人の見ない、知らぬ所で悪事をするならば、此の人は自主の人ではない。国民として自由の幸を受け得べき人ではない。あの巢鴨の監獄の鉄窓の中に、又は黒馬車の中に、籠の中の鳥のよーにして、思ふ所へも行かれず、束縛を受けねばならぬ人である。

段々、時をとるから、順を立てゝ申すことが出来ませんが、私が今日之れを申すのは、自治と云ふことに反して居る行ひがあつたと云ふ心配があるからである。此の間、或る組で、皆外へ出た間に人の風呂敷包をあけて、其の人の特権として貰つた入場券をひきさいた手を持つて居る者がある。

斯う云ふことについてクリストは、若しもおまへの手が悪いことをしたならば切つて了うが宜しい。目がわるいことをするならばくりぬいて了へ、と仰せられた。之れは片手片目を失ふても、わるい部分を持つにはまじだと云ふことです。

又、人の巾着をあけて金をとつた人、紙をとる人、鉛筆を拾うた人がある。斯う云ふことをさして、窃盗と言ふ。此のぬすむと云ふことは、我が国でも西洋でも何れの国でも悪事である。昔はど一して悪いことをしなかつたか。昨日も申しましたが、私の小さい頃、一人の書生が墨一挺を盗みました。其のことがわかると、友人一同が大怒りで、其の男を池に投げ込んで、殆んど死ぬ目にあはせたのである。夫れから、其の男は濡れ鼠の様になつて家へ帰つた所が、父も大層立腹して、そ一云ふ者は生かしておかぬと言つて手打ちにする様になつて居りましたが、隣の人の同情によつて、漸う命だけは助かつて勘当せられました。

昔は勘当と云ふことがあつた。親子の縁が切れて了ふのである。其の他、昔は随分ひどい罰をせられたもので、十年も二十年も牢屋に入れられたものである。天網恢恢疎にして漏らさず、と云ふことがある。天の網はあらいが、何時か其の網にかゝつて刑罰を受けねばならぬ。天知る、地知る、我れ知ると云ふこともある。夫れから、不動さんの前に鉄の鎖がある。私共は子供の時にお母さんから言ふて聞かされたことは、物を盗んだりした者が不動さんへお参りをするならば、頭へ其の鎖がまきつくと云ふ話をきゝました。西洋では上帝が照覽せらるゝと申します。今日では宗教がかはつたから、そ一云ふ話はわからないかも知れぬが、人には廉恥心がある。故に、人は知らなくても必らず心に恥づる所があるに相違ない。
[良心]

昔は、神は天にあつて太陽の様に輝くものと考へられて居りましたが、今日では、この神は我々の内に在るのである。之れを指して、良心、神の声と言ふのである。

若し、銘々の内に神が在るならば、帝王があるならば、自分が自分の主人となつて居るならば、私共はど一しても自分から自分を改める、自分が自分を直す、自分が自分の行ひを

貫める、自分が自分を作ると云ふことが出来ねば立派な人にはなれぬのである。人の物をとると云ふことは、手が取つたのではない。手を使ふ所の頭がとつたのである。其の心を改めなければ、私の品性は改まらないのである。外から刺激は受けるけれども、自分がなほさねばならぬ。若しも自分で其の心の病を改めぬならば、人間としての資格はないのである。
[良心の病氣は癩病よりも醜し]

或る学者が言つた様に、良心の病氣は癩病よりも醜い。本心の腐つた、本心の病氣になつた者は、誠に恐ろしいものである。昔は癩病はうつらなかつたのであるが、今日ではうつるのである。トラホームでも、外国へ行くには船で検査して上陸させない。学校の生徒でも学校へ来れないのである。其のトラホームよりこはいものである。わるい人は監獄へ入れて、再びこの社会へ出ることは出来ないのである。何故にその様な人を嫌ふかと云ふと、他の人にうつるからである。若しこの中に一人でもそ一云ふ病氣の人があるならば、全体の為めに夫れを早く改めさせねばならぬ。

今、私が聞くに、切符を破したものがある様である。其の他に金が少しなくなつた様である。人の草履をはく者があるよ一である。其の他、人の物を一す拝借する者があるそ一である。之れは矢張りぬすみの一種である。

私は一つあなた方の組々で委員を拵へて、月の始めから三十一日迄に人の物に手をつけた、触れたと云ふ者があるならば調べて出して貰ひたい。そして、夫れはとられた物が幾つある、落したと思ふ者が幾らある、又、置き忘れたものが幾らあると云ふことを調べて貰ひたい。そ一して、あなたの良心は健全であるか。あなたの内に存在する神は、あなた方の帝王であり君主であるかど一か。あなた方自分の行ひはほんとは自分の考へ、自分の意志を以てして居るかど一か。之れは裁判に付することが出来るのですけれども、私はあなた方自身で直すよ一に勉めて貰ひたい。夫れで私は一ヶ月間、猶予を与へるのであります。其の上で改めなければ、何とか制裁を加へんければならぬ。

各組から担任の先生の指図を受けて一ヶ月間調べて見て、親切に人に交つて、そ一して若しも弱い人が有るならば、銘々で其れを改めさせる様にしなければなりません。夫れで私は、向ふ一ヶ月の間にあなた方の力によつて是れだけ改めることが出来たと云ふことを聞かると、切に希望するのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年十一月一日

明治四十四年十一月一日
大学部全体の為に

此の前の続きに入るに先だちまして、先達で申した様なこ

との調べ方について、其の結果を纏めて申すならば、女子は感情的、直覚的、具体的に働く自然の傾向がある。そして男子の特徴である処の思考力、意志力、抽象的、総合的、即ち推理的方面が、男子に比して劣つては居るまいかと、昔から申すのである。そ一云ふ様な議論が起るのは、今申す様な女子の短長がある処から申すのではあるまいかと思ふ。

そこで、其の救済の根本問題は何であるか、其の弱点を根治する如き教育は如何になすべきかと云ふことを考へることは、最も必要なことであると思ふのです。此の問題は誠に複雑な問題であります、此の間の続きに入る前に、其の本を少しあなた方が考へるよに御注意しておくことが必要かと思ふのです。

此の前に、我々の Impulse 衝動、又は Instinct 本能と云ふものは、我々自己の中心原動力である。之れがなかつたならば、我々は物質と余り違はないのである。物質にも之れに似た様な力があるけれども、人間として特別に區別をつけて居るのは、外からの刺激に應ずる力と内からの本能力との協同と言はうか、又内から言へば反応力、之れが我々の人格を作る処の根であります。故に、我々を苦める所の、我々の人格を悩ます所の、此の内から起る所の力は甚だ有力なるものである。

[本能について]

抑も此の力はど一して起るものであるか。之れを分類して申すと、本能と云ふのである。此の本能は、ど一して起るのであるか。之れは我々銘々の人格の歴史である。即ち我々の先祖から、我々の生れてからの行ひ、即ち過去の経験が積み重なつて、一度味はうた経験は消滅しないのである。そして夫れがず一つと大きく成長して衝動となつたもの。即ち過去が現在に現れたもの。即ち此の本能は長く目的を追求して行つて来ました。其の力が我々の中に深く残つて居るのである。我々の記憶、感情、情操、習慣と云ふ様なものは、我々の過去の再現したものである。

故に我々の人格を築くと云ふことは、其の上にも一つ新しい経験を積むのである。之れが、我々の人格の原動力であるのです。夫れで、此の Impulse 又は Instinct と云ふものは悪いものではない、善いものである。そ一言ふと性善説である。善いものにならうと云ふのが、我々の目的である。

此の情を満足したい、此の願ひを遂げたいと思ふ情は、悪いものではなく、善いものである。つまり、我々の人格を養ふ、Energy を養ふと云ふのは、此の内から出る力を益々強くしたいと云ふのに外ならぬのである。

併し、我々の行ひによりまして、又、関係のつけ方によりまして、我々の衝動と衝動との間に衝突を起し、破壊を来すのである。我々の行ひの統一を欠いたならば、我が力を滅殺し、我が人格を破壊することになる。故に、其の時其の時の衝動に任せて、無分別なる悪事をするに云ふことは、人を害し、我れを害し、社会を毒することになる。故に、自ら心を統一して、其の活動を律して行かねばならぬ。之れが、此の間申した良心の働きであります。然らば此の複雑なる我々の内に起る衝動は悉く善なるものか、又、善悪混合のもので

あるかと云ふと、此の衝動は我々になくてはならぬものばかりである。

[過ちは衝動の調和、統一を欠くことから起る]

只、過ちは其の衝動の調和、統一を欠くと云ふことから起るので、高いものと卑いもの、其の間の価値の程度の力の強弱、複雑の程度と云ふものがありまして、此の衝動を幾つにも分けねばならぬ。夫れを順に申すならば、一番下層におくべきものは物質的本能、第二は植物的本能、夫れから動物的本能、野蛮人的本能、未開人的本能、文明人的本能、理想的本能と斯う云ふ様に階段がありまして、私共は此の物質的本能から最も高尚なる理想的本能まで味はう様にならなければならぬ。然るに我々の本能の中に、若し処々に孤独生活をして居る部分が若しあつたならば、外の部分、例へば動物界に刺激即ち観念を与へると、此に動物的本能を起し、其の動物界の本能が勃興して来ると、我々の考へ、感情、行ひが動物的に變つて了うのである。

之れに反して、理想的本能が起つて居る際に、之れを刺激する高尚なる理想、天国の如き社会に触れたならば、此に我々は人間社会に味はひました処の理想の世界が現出して来るのである。天国の一員となり、天の使の如き性情が発揮して来るのである。

此の宇宙には天国もあれば物質界もあり、動物界もあり、野蛮人の階級もあれば文明社会もあり、又理想の世界もあるのである。斯くの如き階段に我々個人が入り込んだならば、我々の潜在意識界にある処の本能が再現すると云ふことは出来ないことはないのである。日頃、感心する様な人が一朝悪い刺激にあふと、動物に等しき行ひをする。之れをさして、過失とか罪とか申します。故に、人格の出来ない人は外からの刺激を受けることが危険である。故に、之れを統一しなければならぬ。心に統一なき人が酒屋の前を通ると、折角やめた酒飲みに陥る。華美を競うて居る俗社会に入ると野蛮的の刺激にあふて、出来心で為すべからざる業をする様になるのである。故に、其の統一の出来て居ない者はそ一云ふ処へは行かないと云ふことは、其の刺激を受けて自分の中にある処の卑い衝動の起ることを避けてであります。

[外界の刺激に注意しなければならぬ]

そこで私共は余程、意志で統一が出来て居るか、又、外界の善い刺激に触れて居るかと云ふことを氣をつけて見なければならぬ。統一が出来て居るとしても、好んで卑い想像を描き、動物の如き友に交はり卑い社会に呼吸すると云ふことは、劣情を起さしむる様な小説を読むとか、寄席や演劇などへ行く人は、自らそ一云ふつまらぬ行ひを不知不識の間に行ふと云ふことになる。故に、修養に勉める人は人格の高い友を求めるとか、高尚なる社会に近づくことを喜ぶのである。如何となれば、私共の刺激は観念世界である、理想の世界である。

之れが媒介者となつて、種々なる危険に陥る性質があるのである。之れは入り組んで居る深い其の関係のあるもので、一言では言へないことではありますが、私は、此にど一して我々の人格が出来るものであるかと云ふことがわかる様に、夫れに就いて問題の起る様に緒言を申しておくのである。

[自分の道を定めるものは良心である]

故に、私共は観念を作ると云ふことが非常に大切なものである。其の自分の道を自定するもの、行ひを決定するものは、良心である。其の良心が健全に発達する、高尚に進むと云ふことは、最も高い理想の世界、最も高尚なる師表と仰ぐべき処の人格との関係を結ぶ、最も宇宙の進んだ世界に生活する、其の天国の一員となる、模範的人物、高尚な人と心を合せることが最も大切であると云ふことを、此の間第一段に申したのであります。

[良心の定木]

今日は第二段から申しませよ。良心を高めて行くには、其の標準が必要である。其の良心の標準は最高の世界である。理想の本能が反応することの出来る理想の世界である。之れを良心の標準、良心の定木と申すのである。之れが我が行ひを律し、我が行ひをはかる定木となるのである。

[良心の定木は自己実現の為に使用すべきものである]

我々の知、思考力によって作る可き良心の定木は、己れの行為のために、己れの心を修める為に、即ち、我が自己を実現する為に己れに用ふるのである。決して之れを以て、人をはかり、人を批評し、人を罰し、人を責める為に用ふるのではない。良心は汝の為であつて、人の為ではないと云ふことです。故に、我々は我々の Admire する、敬嘆すべき模範の人格、我々の尊敬する処の理想は、我々を高める、我々の手本とすべきものでありまして、我々自分の行ひ、我々自分の人格、我々自分の良心を人に加へる、人を夫れで制すると云ふものではないのです。

[良心の光りを消す二つの悪魔]

我々の良心に逆らふ悪魔とも言ふべき二つの敵がある。此の敵は双生児とも言ふべき関係で、必ず手をひいて我が良心を侮まし、我が良心の光りを消さんとするものである。

其の一はうぬぼれ、も一つは残忍。即ち、人を批評するには酷である。己れの過ちは棚へ上げておくのである。自分の欠点に対しては寛であり、人の小過に対しては酷であつて、針小棒大するのである。此の二つの悪魔が我が良心に勝つ場合があつたならば、我々は忽ち盲となつて、己を知ることはせず。又、人の価値を知ることはせず。如何にして己を進むべきか、其の道のわからない盲者となるのであります。

夫れで Christ は、汝曹は人の罪をさばく勿れと言はれた。群衆の中で一人の女を捕へて、此の女は死に相当する処の姦淫罪を犯した者であると訴へました。そーすると Christ は、汝曹の中、罪なき者が此の女に対して罰せよ、と言はれた。そーすると、一人去り二人去り、其処には其の女が只一人残されたので、Christ は、我れも汝を赦す。再び犯す勿れ、と仰やつた。

[良心は我が動機を照らすものである]

夫れで、我々は人を罰すべきではない。己の行ひを律すべきもの、己の動機を照らすべきものである。如何となれば、人間の価値は其の動機にある。然るに其の動機は結果によつてわかるものではない。人の心を見抜く神の外には其の動機を知るものはない。動機の奥には又動機があり、其の又奥に

別の動機があります。

人の動機には病的のものもありませよ。境遇から来たものもありませよ。其のほんとの動機を見ぬくものは神の外にはない。故に我々は人の動機を見抜くことは出来ないが、我が良心は我が動機を照らすことが出来る。良心の判断は人の為ではなくして、我が心を照らす処の光りである。

又、も一つ考へておくべきことは、此の動機は一般の行ひをきめるものではなく、我が行ひをきめるものである。例へば、酒は青年の飲む可からざるもの、女子の飲むでよろしくないものと云ふこと。之れは軽い様なもの、我々の生命にとつて非常に重大なものである。如何となれば、私共は一日でも我が運命をきめる処の我が行ひを中止して、行ひを俟つて居ることの出来ぬものである。我々の行為は死んでも止まらない。只、変化であつて、ずっと続いて居るものである。故に、時々刻々に於て私共は行為をきめねばならぬ。

私自身の経験を申すと、私共十五、六の時には煙草をのんでもよかつたのである。夫れで、人が皆のむのであるから、私も煙草入れと煙管とを買つて来て、三日位持つて見ましたが、未だ其の頃には煙草の害と云ふことは誰れも気がつかなくつたけれども、之れは馬鹿なことである。第一、金をむだにし、時をむだにするものである。故に自分は生涯やめませよと思つて、友人に煙草入れはいらないかと言つたら、下さいと言ふから夫れをやつて、生涯吸はないと云ふことをきめました。又、酒を飲んでも私は酔はない。又、酒の害と云ふこともそーやかましく言はない頃であつたけれども、友人の酒をのんですることなどを見ると、誠に馬鹿らしいのである。故に、自分は酒飲みにはならぬと決心しました。人が飲むとか飲まんとか云ふことはどーでもよいが、自分は断然飲まないときめたのである。あの北里博士の先生であつたコッフス博士の研究によると、Cigar 一本が自分の生命を一時間づつ縮めるものと云ふことを見出だされて、煙草は今日限りやめると言つてやめられた。併しながら多年の害はもはや積つて居るから、大分寿命を縮めて斃られたのである。之れが良心の働きである。

我が行ひは誰れがきめるか。親もある、先生もある、法律もある、社会もある。けれども我が行ひは、自分できめねばならぬ。之れが良心の大切な訳であります。

[良心は苛責者でなく指導者である]

第三段、良心は我が過去の行ひの裁判官、我が過去の罪に対する呵責者、我が過去の歴史を綴る歴史家ではない。我が良心は我が預言者、我が慰安者、奨励者である。最も賢い処の我が一番大事な相談者、我が前途を導く処の指導者である。之れが大切である。

良心と云へば何か窮屈なものと云ふ様にこはがる人があるけれども、之れは大間違ひである。良心はあなたの慰藉者であり、みちびきてであり、先生であり、友達である。良心は我が喜び慕ふ所の友達であると考へねばならぬ。併し、人によりましては過去の事ばかり思ふ人、過去の過ちばかりよく考へる人、過去の功を誇る人がある。斯う云ふ人にとつては、良心は其の人を戒むる呵責者であり、其の人を捕へる

巡査であり、其の人を監獄に入れる押丁である。斯う云ふ人の為には良心は常に呵責者である。

良心は過去の呵責者ではなく、寧ろ前途の預言者、流れを渡る水案内である。あとで後悔する人は、考へなくしてさきに手を出す人である。良心は全体の関係をよく考へて、殊に前途を察知して先見の明を持って、何事をするにも充分に考へて将来を思ふのである。若し其の行ひが間違ふならば、ど一云ふ結果を起すのであるかと云ふことをよく考へるのである。

後悔先きに立たずで、如何に考へても昨日にかへすことは出来ないのである。Will be で、良心の主なる働きはさきを見ること、さきを感じることであります。

故に、良心は我々の目なりと言ふことが出来る。若し目がわるかつたならば、又、物を見る光りがなかつたならば、私共は実のある行ひは出来ないのである。此の良心をよく働かせて、よくさきを見てした行ひは決して後悔しないのであります。

そこで、良心は決して我々の裁判官にあらずして、指導者であると思つて居ればよいのである。そ—して、我々は過去を如何ともすることは出来ないが、将来を思うて居ればよいのである。過去は思うても益のないものである。けれども時々過去をふりかへつて見る、考へて見ると云ふことは、過ちを再びしない、其の苦い経験を繰り返すまいと云ふ為にするのであります。

[我々は耳を傾けて常に良心の声を聞かねばならぬ]

第四段、私共がよく耳をあけて、此の良心の声を聞くことである。其の声を聞くならば、喜んで速かに聞く。其の声には絶対に服従する。我々を自定すべきもの、我々の運命をきめるものは、此の声である。此の声の聞こゆる処には、我々の全身全力をかけて突進すると云ふことにあります。若し良心が為す可からずと証明する。夫れはやめんければならぬと云ふことを証拠立てる。夫れにも拘らず不従順に頑迷に従はない、躊躇する。汝の行くべき道は此処である。早く立て来れと云ふ声が聞こえても、猶逡巡する人があるならば、段々良心が鈍くなつて、遂に暗きに陥らねばならぬ人、誠に憐むべきものであります。

ど—しても私共は斯うしなければならぬと云ふ時に、早く決定することが出来ない。之れは御婦人の欠点であると思ふのです。運命は決してまたない。総ての事情は刻々に変つて了うのである。故に、総ての好機会を逸し、目の光りを失ひ、最も大切な處の指導者にまでも離れることがある。之れは誠に気の毒なことであります。私共はど—しても之れが良心の声であると思ふならば、幾ら苦しくても夫れに従はねばならぬ。幾らこけてもかまはないのである。そ—すると、良心が段々と明るくなるのであります。

我々は世の風俗、風潮に従ひ、其の時其の時の只都合のよい事に従ふておくと、其の時は誠に都合がよいのであります。例へば學問をするに、其の先生の好まるゝこと、又其の講義の通りに覚えておいて答へるならば、非常に賞讃せらるゝ。従つて点もよいと云ふことがありますよ—。又、女子教育に

しても、輿論は始終動揺して居るのである。其の時々の風潮に従つて居ると、其の時はよい様であるが、一向実のある學問は出来ないであります。

自分の個性を発見し、運命を開拓して行くものは何であるか。選択力である。良心の判断である。之れが根本の力である。故に、先づ私共は之れを展ばして行かねばならぬ。夫れを展ばすには理想的本能に従つて、最も尊い人格に接する。人のことを批評するのではなく、自分の為用に用ひて、あとの事をよくよく思ふのではなく、前途をきめる。我が指導者であり、案内であり、奨励者であるとして、良心の命令であると思ふ時には、決して躊躇することなく喜んで従ひ、勇進して行くことが出来ると云ふ様に心がけて修養なさるならば、あなたの人格は、此に一大発展を見ることが出来るのであります。

[中表紙]

天長節祝賀式の御話
明治四十四年十一月三日

明治四十四年十一月三日
天長節祝賀式にて

今日の天長節の祝辞を、長く宮内大臣の職にあられました土方伯爵にお願ひ致しました。伯爵は喜んでお受けになりましたが、午前は参内なさらなければならぬので、幸ひ午後には此校で吉備樂がありますから、其の前に一寸お話を願ふことに致したのであります。皆さん御承知の通り、維新前から国事に奔走して常に 陛下に咫尺して、忠君愛国の実を全うせられた土方伯から、今日の祝辞及びお感じを伺ふことは、有益である—と存じます。私は只、昨夜から今日へかけて感じて居る所の一端を申さうと考へます。

私共の生涯に貴賤を問はず、男女の区別なく、古今東西に互りまして人生には、昔から使うて居る詞を使うて表すならば、厄日と云ふものが屢々来るのである。其の厄日は大小の差がありますが、其の生涯に二、三度来るよ—な大きなものと、其の間に屢々来るものと、厄年と云ふよ—なものがあるよ—で有る。

此の厄年と云ふものはど一云ふものかと云ふと、二つの意味が有るよ—である。其の一つは、我々が年をとるに従つて身体に変化が来るよ—である。其の変化の来る度に、よく応じて行かねばならぬ。夫れによく応ずることが出来たならば、生涯に一発展を来すのであるが、若し応ずることが出来なかつたならば、忽ちに健康を害し、生命を失ふのである。昔から若死をする人、又いろいろ氣候の変化に逢ふて斃るゝ人が多いのは皆、此の変に應ずることが出来ないからである。夫れと同じ様に我々の厄年と云ふのは、我々が生活を致しまする四囲の境遇の変化である。即ち、外界から来る所の危機であります。此の変化が内にも外にもある為めに、個人が進み、

社会が発展して来るのであります。夫れで昔は、之れを厄年と名づけて居りましたが、今日は之れを危機と申すのである。
[陛下の御厄年と国家の危機]

我々の生涯に於て、又、国家の進歩に対する刺激に於て、此の危機は我々の生活から言つても国家の変遷から申しても、大抵十年毎に参るよ一であります。而して我が国家の進歩の迹から言ふと、此の危機と名づくべきものが度々ありました。而して其の危機に応じて国家の進歩をお導きになりました陛下の御生涯、殊に其の御誕辰の天長節は国家の生命の厄日と言ひますか、危機と言ひますか、夫れが国家にとつて誠に重大なる時期と一致して居ると云ふことを、私は深く感ずるのであります。夫れを委しく申しますれば、陛下の御生涯の厄年と国家の危機とが誠によく揃つて居るのであります。
[ペルリの来訪]

抑も今年の陛下の第六十回の御誕辰を祝ひ奉るに、陛下は御年齢十年にして、ペルリが我が国の門戸を叩いて、此に維新の曙光を促したのであります。

[維新の大業]

夫れを始めとして、十年毎に陛下御自身の厄日とでも申します其のいろいろなる変化と、そ一して我が日本の歴史の進歩と申しますものが、よく一致して居ります。即ち、御年が二十におなり遊ばした明治の初年に於て、維新の大業が成就せられました。

[西南役 憲法発布 日清戦争 日露戦争]

其の次十年、御年三十にならせられ、漸く我が国の内治が整はんとする時に西南役が有り、更に十年を経て御年四十年にならせられんとする頃、即ち明治二十二年には憲法が布かれ、御年五十才にして日清戦争より引き続いて日露戦争が開始され、振古未曾有の大捷を奏せられました。

[東洋的革命]

御年六十歳の今日になりまして、即ち過去五十年に於て維新の偉業が大成し国家の基礎がすわり、列強との関係が確定致し、我が国民はやゝ小康に安んじ過去の成功に誇るの気味を生じて、此に退歩に陥らんとする恐れを生じ、此に一大覚醒を要する其の暁におきまして、丁度陛下の御誕辰におきまして、今度は愈々東洋的革命が行はれんと致して居ります。陛下におかせられましては、幸ひ其の都度益々御健康にあらせられ、国運が愈々発展しよ一と致して居りますのは、実に我々国民一同の歡喜に堪へぬ次第であります。

併しながら、之れは国運の進歩であると同時に、実に国家存亡のかゝる所であります。

今日の御誕生日におきまして陛下は国民と共に深いお喜びがあり、殊に帝室の御繁榮なる有様は、非常に御満足に思召さるゝ御事である一と云ふことが、恐察し奉らるゝのであります。併し之れは、一方に於ては我が国家の危機である。東洋の運命を双肩に荷ふ所の我が帝国の危機でありまして、如何に軫念を悩ませらるゝかと云ふことも、我々国民は一方に察し奉らなければなりません。我々は只此に集まりまして、君が代を奏して此の天長節をお祝い申し上げるのみならず、我々国民は如何なる決心を以て、如何なる行ひを以て陛下

に答へ奉り、国家の急に応ぜんければならぬのでありましょ一か。私は今朝、殊に我が国御婦人が、殊に今学校に学んで居らるゝ学生皆さんが、適切に銘々の責任をお感じになることを切に希望致すのであります。

私は昨夜眠る時に、あなた方、我が国の娘達が此の際に如何なる働きをとるべきか、此の天長節に當つて如何なる覚悟をなさらねばならぬかと云ふことを考へて休みました。私は此の四、五日、少々風気で頭痛が致しましたが、昨夜も実は眠りかねたのであります。ところが、或る夢を見ました。夫れは私の考へたことの誠によい諷刺画になつて居ります。

夫れは私が書齋で読書をして居りましたところが、突然、今の首相西園寺侯がおいでになつて、お前が此の間相談に來た毎月会を、も一催したらよかろ一。就いては主なる会員の所へ之れから一緒に行つて、少し前以て話しておいたらど一である一との御話に、私は、夫れは至極結構で御座いましよ一と申しました。侯爵は、夫れでは会の問題について案があるかとお尋ねであります。夫れは我が国の根本問題でありますと申しました。根本問題とは教育問題で、我が国今日の学生はど一やら一つの型をつくられて、之れにはまれときめつけられて、型に入れよ一とせられて居ると云ふ様なこと。之れは私が日頃心配致して居ることです。さて、私の夢の始まりは自分の書齋でありましたが、そこが夢であるから、何時の間にやら侯のお宅になつて居る。侯爵は一寸支度をするから待と云ふことで、お入りになつたきり大分出てお出でにならぬから、私は奥の方へいつて見ると、大勢の婦人が集まつて子供などを抱いて居る。其の中にあなた方も交つて居るけれども、一向気がつかない様で、お辭儀もしない。そ一してあから顔の婦人が子供をつれながら頻りに何やらまるめて居るかと思ふと、次の部屋には子供を撫でまはしながら、むちやむちや物を食べて居るお母さんもある。之を見て私は非常に悲しく感じました。斯様に多くのお母さんが子供を遊ばして居るけれども、一向働かない。只子供をおもちやにして、姑息の愛で遊ばして居る。そ一して物を食べて居るばかりである。侯爵と非常なる勇氣をもつて之れから出掛けよ一と云ふ時に、内へ入つて見まして、ほんとにつまらないお母さん達を見まして、誠に嘆息致しました。

[我が国婦人教育の根本問題]

其の夢には連絡がないけれども、誠に今日の感じを諷刺して居る様に見える。夫れは、一つは我が国今日の御婦人、一つは教育の根本問題で、我が国婦人がほんとの事をして居ない。之れは、ど一しても根本から改めねばならぬと思つて居ることが其所に結びついたのである。

[日米学生の頭脳の相違]

西園寺侯と毎月会の問題を相談した様に、我が国の教育が如何につまらぬことに脳力を消費して、如何に我が国民がつまらぬことをして居るか。此の間、布哇の学生から來た手紙と、二、三日前に私の一寸見ました書物の中にあるアメリカの子供の頭とを見まして、如何にアメリカの子供の頭と我が国学生の頭の働きが違ふのであるかと云ふことを感じました。

先頃リチャード氏が來まして、日米の平和を計る為めに両

国の青年の頭を刺激したいと云ふので、奨学金をかけて全国の中学生に「日米関係平和問題」と云ふ題の論文を募つて、其の中からよいものを選定したいと云ふので、大隈伯を始め其の時の文部大臣、並びに菊地総長、其の他の人々がよつて、其の大体の意味には育しく賛成を致しましたが、日米関係と云ふ題で我が国中学生の書いたものをアメリカの新聞に掲げると云ふことは、甚だ躊躇したものであるが、其の結果、全国の中学校からは三十たらず二十余りの論文が、英文のものと同本文のものと同集まつたのである。けれども、彼方で掲載したいと思ふ様なものは出なかつたと見えます。

然るに、日露戦争の時にアメリカの十二になる子供が書いたと云ふものを二、三日前に見まして、私は如何に我が国の学生とアメリカの十二才の子供と、頭で考へる力に於て差のあるものかと云ふことを感じました。其の大体を申すならば支那と日本は一見すれば同じ様に見えるけれども、其の實、少しも相似て居るものではない。決して同じ国民ではない。昔支那と日本は世界に於て最も文明に進んだ所の人民である。然るに孔子と云ふお方が出て、此の兩國に告げて言はるゝには、汝等は汝等の祖先、古代の堯舜の如き古いことを学び、其の先祖の行つたことを其の通りに行へば足れり、と云ふことを教へられた。(これは、我々の學問は古い事、昔の王朝時代のことを學んで、其の通りにすれば充分である。夫れでほんとの人間になれると云ふと同じことである。)然るに、日本と支那とは長い間、其の孔子の言はれたことを信仰して居つたものである。

而して、其の後アメリカ合衆國が、此の兩國につき入つて兩國に告げて言つたことは、あなた方はさきへ進む代りにあとへ退いて居るではないか。あなた方が若し此の際に覚醒しなければ、他の國から亡ぼされて了うと云ふことを言つた。其の時支那は、決してアメリカの忠告をきかないで言ふには、合衆國は斯くの如き忠告を試むる権利はないものである、とはねつけた。

然るに日本人は、其のアメリカ人の言ふことには一理あるものとして、其の忠告をうけた。故に、アメリカ合衆國は新機械を送り、其の他の新文明を輸入することになつた。其の結果ど一なつたかと云ふと、日本は今日、ロシアと戦ひを開いて、勝利を博しつゝあると云ふ論鋒であります。

此の間、アメリカの辺鄙の Texas から歸つた人の話に、アメリカの子供の心の発達に驚いた。あるものは、十四で Harvard 大學へ入つて、高尚なる哲学、心理学を研究して居る者もあるとのことだ。

今後、陛下の軫念を煩し奉る所の外患、又は内訌、或は近來の危険思想、又は内幣百五十万円をかけて救はんとし給ふ所の窮民救済事業の如き、我が國民の之れに勝ち、之れを全うすべき責任は、殆んど枚挙する暇がありません。然るに其の眞の力の泉源たる所の教育、其の國民の母たる所の婦人は如何なる有様であるか。我々は、此に自ら起たねばならぬ。人の為めではない。我々自らど一云ふ教育をしなければならぬか。ど一云ふ修養をしなければならぬか。夫れから其の次に、私の夢に見ました我が國婦人の状態、夫れは余り甚

だしいが、夫れからど一云ふことを考へたか。

私は二、三日前、アズバンさんから一冊の本を贈られました。夫れはウエレスレー大學の教授 フリーマン バーマーの伝記である。之れを読んで見て、私は非常に感動致したのであります。此の書物は Palmer 博士が、實に此の Palmer 夫人に感服せられて大部な書物を書かれたのである。私は此の中にある プレジデント エリオットの手紙、及び私の先生であつた タッカー博士の手紙などを見て、愈々感服せざるを得ないのであります。此の バーマー夫人は ミシガン大學を卒業し、年二十二にして日本で云へば高等女學校の校長となり、二十四にして大學の歴史の教授となり、二十六にして大學の総長となり、夫れから ウエレスレー大學の教授となつて、ウエレスレー大學の校風を生んだ所の母となられたのである。斯う云ふ人が彼方では珍らしくはない。

彼の國人は百姓の おかみさんでも洗濯婆さんでも皆、研究心があるのである。Texas から歸つた人の話にも、或る病院長をして居る一婦人の如きは、朝は下女よりも誰よりも早く起きて、馬に まぐさをやることから何から何まで自分でして、時間になると直ぐ患者を見舞つて居られると云ふ調子。洗濯婆さんでも、暇さへあれば図書館に入つて何かの研究をして居る。此の間申した、長野縣の十三になれば筋肉の発達もとまつて了う我が國婦人と、隆々として進歩して居る所の アメリカ婦人と、如何に違つて居るのであるか。

此の二つの問題を考へて、私は、實に今日我が國婦人が大に決心する所がなければならぬ。其の決心を以て大に実行に勉めて、此の天長節をお祝い申さねばならぬと考へます。

[中表紙]

第十一回秋季運動會批評會

明治四十四年十一月三日

明治四十四年十一月三日

第十一回秋季運動會批評會にて

今年の運動會に特に表れた特徴とも言ふべき、昨年よりも進んだ所はわかつて居ることとして、何方からもお話がなかつた。之れは他から余り注意しなくても皆さんおわかりになることと思ふから、斯う云ふ際には注意をして進歩をはかることが必要である。我々は何をしても、今度は完全に出来たと思ふことはないのであるから、猶足りないと思ふ所を話しあつて進まねばならぬ。私はあなた方学生の方から、自分で自分を顧みて批評なさる所の話を聞きたいと考へますが、今日は到底時間が足りないであります。之れは孰れ皆さんがなさることと考へますから、此には申しません。併し、委員長を始め各級の委員が一致して、よく銘々の責任を忠實にお返しになつたと云ふことは最も満足する所であり、又、諸君に深く有がたく思ふ所であります。

今、松浦教授から言はれた様に、運動會には随分、金を費

してあるよ一であります。其の他、多くの時と力をお費しになつたのである。其の結果として相当するものであるかど一かと云へば、私は確かに多くの収穫を得たものである。此の学校の教育は、只机上の学問ばかりでなく、生徒自ら実際に行うて見るのである。熱心に働いて満足を得た経験、又、やりそこなうて見てわかつた所の経験、夫れによつて学ばねばならぬ。運動会は只慰みにするのではない。教育の価値をあらはすことが必要である。又、お客をするにも、一つの目的がある。之れによつて何かの参考になるよ一にし、幾らかの社会の進歩を促すと云ふことにある。毎年あれだけのはいりきれない程の人のおいでになるのは、何かの学ぶ所、参考になることがあるからであります。そ一して、あなた方の品性の上に、ゆたかなる刈入れのあつたものであり、又、外に向つても、社会教育の上に何かの効果のあつたことと思ふ。

新聞などで見ると、褒めたのもあれば、くさしたのもある。併し、我々は自分に見たのである。経験したのである。故に、自分に自分の行つたことの価値を認めて、其のたらぬ所を改良し、益々これがよく将来に発展して行く様に勉めねばならぬ。殊に今年は半日であるのに、よく秩序が立つて、規則正しく出来たのは感心であります。

只、終りに至つて、非常に熱心が高まつて少々乱れた所もあつた様ですが、之れは、あ一云ふ場合として免れないことである。又、しまひ頃になつて天気が変わりかけたために、人々もぼつぼつ帰らるゝと云ふ様な變に當つて、如何に処置するかと云ふ様なことは、よくお出来になつたと思ひます。之れから猶よく御研究なさつて、益々進むことの出来るよ一になさることを希望致します。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年十一月八日

明治四十四年十一月八日
大学部全体の為に

[自動的研究について]

今、我々が目的として居りますことは、自動的研究と云ふことであります。之れは品性修養の爲にも、學術研究の爲にも、根本の力、即ち実力を養はうとする者の爲に必要な問題である。此の自動的研究がほんとに出来ませんと云ふと、私共の望んで居る処に達せられないから、其の方法、方針を示して、あなた方に実行して貰ひたいと熱望して居ります。何事でも其の方法をたてるのはやさしいことであるけれども、夫れではほんとに実行することは出来ないのです。

夫れで、其の自動力が、あなた方の内に動いて来る様に、其の用意が銘々の内に整ふて来なければならぬ。

[自ら障害物を除かねばならぬ]

然るに、あなた方の習慣、境遇には、夫れを妨げる力がいろ

いろある。故に、ど一しても自動力を盛んにするには、障害物を除かねばならぬ。夫れを除くには、あなた方銘々に余程の熱心が起つて、自ら障害物を除くよ一にせねばならぬ。そこで私は、初めに如何にしなければならぬか、銘々に欲しいと望んで居る力は何であるかと云ふことを、初めに明らかにしておかねばならぬ。夫れで私は、單刀直入に進みたいと思ひますが、やはり用意も必要である。

[人格の解釈について]

此の前に、我々の望んで居る処の根本の力を発展すると云ふことは、いろいろ複雑な原因があるが、やはり其の本は意志の力で、其の意志の力が建設したものが人格である。其の人格を建設する上に、行為を自定する処の良心の力が如何に大切なものであるか、其の良心は如何に教育しなければならぬかと云ふことを申しました。其の研究の時に、人格は確乎不拔なる統一であると同時に、永久不滅のものであると云ふことを申しました。其の確乎不拔、統一と云ふことを申すと、之れ迄の仕来りの考へに支配せられて、人格と云ふものは固定したものと如く解釈する処の弊があります。宗教に於ても、科学に於ても、哲学に於ても、人格は斯の如く固定したものと考へたのである。若し、そ一云ふ様に考へるならば、今後のあなた方の態度は、私共の希望するものと大變違ふて来るのである。

[機械説]

も一一つ誤解し易い点は、機械的のものに思ふことである。英語などではForming character 人格を形づくと云ひ、又、行為が人格に結晶すると云ふことがある。人格と云ふものは結晶するものである。又、多くの材料を以て組み立てるものであると云ふ様に考へる傾きがある。

[目的説]

も一一つは目的論で、目的を立つることが必要である。又、宇内の本体は目的を持つて居るものである。即ち宇宙の神と云ふ全能者がありまして、其の全能者に一つの目的がある。其の目的を遂げて行くことが、人格の出来る所以であると云ふ考へがあります。

之れはど一したことかと云ふと、人間の知識で構成したものである。人間が考へを構成するのに、Perception 知覚から概念を抽象することが出来る。之れが人間のえらい処であると云ふ様に今日迄信じて参りました所が、此の概念と云ふものは、今迄考へたよりも一つ低いもので、皮相のみに過ぎなかつたのである。故に、夫れではど一しても満足することが出来なくて、今日では人間の本体、其の生命の根まで掘つて、其の根本に達しなければやまないと云ふことになつて、益々深い処まで掘り当てねばならぬことになりました。

人間の過ちの成るだけ少ない様に観察して見ると、此の人間と云ふものが大分違ふと云ふことがわかりました。そこで選択を段々異にして来たると云ふことである。故に根本から修養をする習慣を養ひ、根本の力を見出だして行かう、私共が心に願ふて居るものを見出ださねばならぬと云ふことになりました。

夫れがわかる為に、今日迄人間の頭で考へたものは余程淺

いものであり、卑いものであると云ふことがわかりました。これは又、何時か説明しよと思ふ。

然れども、今日は機械的で皮相的だと云ふことだけを見ておいて貰ひたい。これは此の間、桜楓会員の修養会で、個人と社会の修養をなさつたよ一である。社会は個人の総和ではない。つまり、只個人の集まつたものではないと云ふことになると、之れは人間の行為が集まつて出来た物でないと云ふことになって、斯う云ふことを機械的説明と言ふのである。

人間の拵へた知識を覚えると云ふ様に考へましたが、之れは根本のものではなかつたと云ふことが少しわかるよ一になり、夫れから目的論になりまして、天地には永久不変なる目的がある。つまり、永久不変の目的があつて、そ一して力は総て計画に応じて行く様に出来て居る。之れを Determinism と言ひます。

[自由意志論]

夫れと反対の説が自由意志論で、人格と云ふものは自定することが出来る。故に、人格と云ふものは選択の自由がある。故に、我々の人格は機械的のものではない。固定したものではない。自分の意志を自分で開き得るものである。そ一すると、人格は永久不易のものではなく、永久易はるものである。併しながら、人格は不滅のものであると云ふことが言はれます。

然らば、此の間申しました、人格は統一的のものである、不滅のものである、又、目的を有するものであると云ふのは、ど一云ふことか。其の目的は自定のものである。

其の目的的理想なら理想、善なら善の理想、目的と云ふものも始終、発展するものである。併し、其の人格は目的を追求して居る。目的を固持して居る。夫れが即ち目的である。其の目的は向上であり、完全である。故に改善である。そ一云ふ目的を持ち、目的を追求し、目的の為に全力を注いで居る。其処が永久不滅であり、其処に人格の統一があります。

[人格は生命である]

目的はLifeと名づくるものが表れて居ないけれども、人格は生命である。故に、古い人格論でもなければ、古い目的論でもない。或は、断片的のものでもなく、又、消滅するものでもない。夫れがよくわからんと、人格は如何に修養すべきものであるか、又、其の人格は如何に展びて行くべきものかと云ふことがわからないのです。

先づ人格には、此の間申しました様に、種々雑多なる要素がある様である。又、其の要素の関係によりまして、種々様なる心理状態が顕れて来るものである。之れを今の機械的に考へると云ふと、其の要素が人間の知識の様に構成せられて人格が出来る様に見える。併し、之れは組み立てられたものでもなく、又、其の要素がよくあふて共同して居るものでもない様である。最早わかることの出来ない、又、切り離すことの出来ない、即ち、断片にすることの出来ない単一であり、単位になつて了うのである。決して之れを解剖して離して了う訳にはいかぬ様になつて居る。

[人格の変遷]

此の間申しました Fusion とは、融合して単一になつたものを申

すので、夫れは人格の本質を申すのであるが、其の人格の現象を人間の統覚を以て見たならば、此の物質界に種々様なる現象がある様に、我々の人格の本質には様々なる状態がある。そ一して常に一状態から他の状態に移つてやまないものである。夫れは、我々が内の経験を考へたら直ぐわかることである。時には喜んで居ると思へば、又直に悲しくなつて来る。今、外界を観察して居るかと思へば、其の次には何か頻りに考へ込んで来る。今、寒さを感じて居るかと思へば、間もなく暑さを感じて来る。そ一云ふ状態をさして心理学者は、感覚、感情、意志、観念と云ふよ一な名をつけるのであります。之れを人格の変遷、心理状態の変化と申すのである。

此の人格の変遷は、一瞬間と云へども止まる処がない。今、一問題を考へて居り、又は一の固定した物体、Piano なら Piano を注視して居る時に於ては、我々が注意を Piano に注いで居る間にも、同じ心理状態が続いて居る様に思ふ。否、思ふのではなく、そ一云ふ暗示を我々は子供の時から与へられて居る。之れは概念の機械的説明である。

[人格は刻々変るものである]

併し實際は、我々の心理状態は今見て居る状態と、次に見る状態とはかはつて居る。一分間も同じ状態は続けて居ないのである。然るに、我々の人格はも一出来て了うて居るもので、其の人格は少しも変わらずに来て居るものゝ様に思ふて居る。今、大変悔い改めて居る時などは変つて居るけれども、平生は昨日も今日も同じ人格が続いて居る様に思ふて居るのである。けれども、之れは我々が人工的に拵へた観念がそ一思ふて居るので、真相は決してそ一ではない。之れを、昔から人格は變つてはいかぬ、変る人は Changeable うつり気な人と言ふて輕蔑したのであります。けれども、我々の實際は始終變つて居るのである。我々の経験に照らして見ると、一分間もじつとして居るものではありません。

然らば、ど一云ふ風に変るのであるか。變ると云ふと、今迄の人格は何処か消滅して了う様に思はれる。併し、我々の時々刻々の経験、否、我々の行ひ、思考、感情、総ての経験は、決してなくならぬのである。一度私共の経験したこと、考へたことは、決して之れが消滅しないのである。

我々が生れてから経験したことのみならず、昔々から人間の経験がずつと保存せられて居るのである。我々人格の本は何処にあるか、品性とか要素とか云ふものは何であるかと云ふと、過去の経験が此に収縮して居るのである。此の間申し我々の衝動、本能と云ふ様なものは、皆過去の人格の貯へられたものである。我々の力と云ふのは、過去の力の保存されたものである。変化して止まらぬものが積まれて来て居るのが、我々の力、或は Genius である。之れを譬へて見ますと、恰も子どもが雪玉をつくるのと同じで、初め手で少しかためたのを転がして居る中にまるくかたまるのである。

我々の経験が今迄のものゝ上に行爲となつてあらはれ、過去の要素の上に新しい秩序になつてあらはれたものが、今日の人格である。過去のものが原動力となつて、新しい行爲が顕れて来ると、夫れと結びついて一つになる。夫れは、我々の感情も意志も欲望も益強く、益深く、益複雑になつて、より

善く変つてゆき、より多く満足を覚ゆる様に変つて行く。其の変化が私共の自動力であります。

そこで、我々の思想、感情、意志、品性、一として其の儘に変化せずに続いて居るものはないのです。之れをたとへて見れば、水の流れのよ一なもので、限りなき以前の遠い淵源から流れ出まして、永久限りなく流れ流れて進むのが、始終変遷して流れて行くものが、我々の人格である。之を Rhythm になつて流れるとか、螺旋状になつて行くとか、渦巻になつて進むとか、いろいろ物質的の例をひいて申すのでありますが、始終変遷して止まないものである。其の進むことをさして、向上心と申すのである。其の進歩を、も一つ完全にしようと思ふことをさして、目的を立てるとか、理想を立つとか申します。之れを、此の間申した様に創始的進化と言ひ、も一つ大きくして宇宙と言ひ、又、造物と言ふのであります。昔は、此の天地間の万物は悉く神に由つて創始せられたものであると信じて居りました。

【人格は爆発力である】

併し、ダーウィンが出て、そ一云ふ様に出来たものでないと云ふことを見出した。けれども、ダーウィンの進化論は、其の原因が偶然的で、Chance に由つて出来ると云ふ様な説であつたが、今日では、夫れが自発的であると云ふことになりました。夫れは爆発力が内にあるので、意志とは自分の内から爆発する力であると云ふことになりました。之れは其の起りと歴史とを考へないと、よくわかりにくいけれども、我々の人格は内から爆発することに由つて出来るのであります。今迄永い間、内に貯へられて居つた処の力が爆発して出来るのである。故に此の天地は長い昔、神に由つて作られたものではなく、今日といへどもやはり創造されつゝあるのである。神は即ち爆発力であり、創造力であり、命である。其の命にあらはれる神は愛である。其の爆発力、選択力は自由意志であるから、神は自由意志である。我々、人格が常に自由に進みつゝある様に、宇宙は自由に出来つゝあり、成りつゝあり、向上しつゝあるのである。其の神と其の神の最もよく顕れた人間の意志、人間の人格と云ふものには深い関係があり、目には見えないけれども、人間の人工的、機械的説明には上りにくい。けれども深い同情がある。其の爆発力が我々の自動力である。よく変る、益進み、益成長し、益完全に進むと云ふのが、即ち我々の最も望む処である。其の為に研究が必要である。故に、研究は創始力である。故に、研究は我々の Initiative power に必要である。そこで、其の進歩、向上を助けることの出来る様な力を養はねばならぬ。夫れの出来ない処の知識は役に立たぬ。幾ら覚えてもだめである。故に、真に我々が力を養ふと云ふことはど一云ふことが必要であるかと云ふことがわからねばならぬ。そ一しないと、ほんとの学問が出来ないと云ふことになります。

其の次に大事なことは、我々の人格は過去の歴史の収縮したもので、過去の要素が現在に現れるのであるが、我々は同じ人格を二度繰り返すことは出来ない。仮令同じ境遇に出あひましても、其の内なる人格は既に變つて来て居るから、表面同じ様に見えても、内なる人格は決して同じ生活をするこ

とは出来ない。故に、我々人格の発現は其の瞬間瞬間にある。故に、其の時に為すべきことを次にすると云ふことは、不可能である。人格を重んずる人は、其の瞬間瞬間、其の機会機会に全力を注いで、其の時の Best を尽さんければ、人生の意義を全うし得ないのである。ほんとの満足なる、幸福なる経験を積んで行くことが出来ないのです。

【人生は活動である】

第三には、我々の活動、我々の行為は一瞬間といへども休むと云ふことは出来ないものである。時々忙しい目にあふと、休みを取る、或は暫らくの間中止して安心を求めたいと云ふ様なことを聞くのであるが、我々のほんとの人生は、活動から留まる、即ち暫らくの間中止することは出来ない。夫れが出来れば、人格は断片的にすることが出来るのであるが、實際は、夫れは出来ないのである。只、かへることは出来る。其の宜しきを得たのを、休むと言ふのであります。故に、私共の活動をよくし、能力を益ゆたかにするには、其の変化宜しきを得ることに勉めねばならぬ。其の変化の宜しきを得ざることを、只変化と言ひ、或は退化と言ふのであります。

然らば、其の変化の目的、変化の意味は何であるかと云へば、我々の存在である。存在は変化である。変化は成熟である。即ち、変化は芽が出て、成長して、成熟するのである。成熟は自分を限りなく増大し、増加するのである。自分を殖やすのである。其の殖やすことが即ち実力の充実であり、又自我の実現とも言ふことが出来るのであります。

夫れで、今日学問と云へば、記憶力、覚えると云ふことを非常に大事に思ふて、覚えると云ふことを自我保存であるかの如く考へて居る。之れも大変な間違ひであります。記憶と云ふことは過去の経験の保存である。故に、経験したことを行為に現したことが、真の記憶である。故に、絵に現して知覚するのは、記憶力の再現であるけれども、ほんとのものではない。故に、只物を覚えるのみでなく、自分の経験にして見ると云ふことがほんとの力であります。

其の辺の事がわからないと、ほんとの勉強をして、自分の是れ迄の悪習慣を改めよ一と云ふ熱心が起らないのであります。故に、私共が品性修養をして、ほんとの力をつけよ一と云ふのには、先づ自動力を養はねばならぬ。其の自動力とは Creative power である。新しいものを端から拵へて行くと云ふ働き、之れが我々の力を用ふべき要点であります。

【中表紙】

大学部全体の御話

明治四十四年十一月十五日

明治四十四年十一月十五日

大学部全体の為に

今年の元旦の日に、十九世紀の科学は無機体の科学である、二十世紀の科学は有機体の科学である一、と云ふことを申し

ました。

十九世紀で、思想界に永く勝敗を決することの出来なかつた問題は、実利主義と理想主義であつた。これが、みなにわかつて居るかど一か。

併し、其影響を受けて修養と知識が一致しない、とみなが感じて居るが、たとへ哲学上の理がわからなくても、今日の学生が日常の行為を決するに重大な問題となつて居る。これが解釈されなければ、やはり今日の思想の混乱に引込まれて懐疑に陥るか、又は極端な危険思想に入るか、安心のならぬ状態となるから必要上考へなければならぬ。

之れを解釈することは、世界の学者の頭をなやましたものである。それが此頃、漸く一般の調和点を見出だして来たよ一である。これはむづかしい議論故、長時間に亘らなければならぬが、然し、其の要点を捉へることは左程むづかしくないから、成る可く実用に応じて考へを進むるよ一にし、又、あなたの頭の中の困難を解釈するよ一にするつもりであり、又、教訓するつもりであるから、講義の中にむづかしい所があるから、それをつかまへて銘々で考へ、なほ解決がつかなければ、問題を発する位に考へを働かすよ一にありたいと希望するのである。

前回の講義は実際に近いが、中にはずい分根本な議論が入つて居るから、何かあなたに問題が起るべきかと思ふ。殊に私はあなた方に、死んだ概念と生きた知識との区別を見出だして、此の間申した自動力の肝要な所は自我創始的能力である。それが働いて居るのであるから、我々の思想、知識、目的も時々刻々になる可きもの、変遷してやまないものと申したのであるから、唯言葉をノートに貯へるのみならず、又、時に再現することのみではいけない。今日迄には、もはや其の言葉も非常に変つて居なければならぬ。是非聞かなければならぬと云ふ要求が心の中に起つて居らなければ、一向命に触れず、実行には影響が起らないのである。

そこで、講義を始むるに当り、ど一お取りになつたか、其の考へが一週間にどの程度に於て變つて来て居るかと思ふことを聞きたいと思ふのです。つまりそれを聞くことが、もはや示そ一とするあなた方の研究の態度を改める一歩となるのである。

それで、茲に委しく思想の変化をきく時がないが、そ一云ふ変化が起つて居るか、其の時に起つた波が今日迄どんなに打ち続けて居るか、其の時の潮流が如何なる勢で流れて居るかを聞きたい。それで、大体を先づ聞くのである。

【震動】

精神力の働きを区別して二種とする。一つは麻痺の状態である。あまり振動が起らぬ。只、其の脳髓はノートに違ひない、其の時の考へを控へて置いただけであると、甚だ振動の鈍いものである。けれども、今日それが変化し種々の問題を持つて居る。其の間に思想が如何に變つたか。變つたことが自分の経験で事実、材料を持つと云ふ答へをききたいのである。

第一の方は、其儘そつくり覚えて居る。今こゝに聞かれるならば、再現することは容易であると言ふのである。

第二の方は、何か夫れにつき研究したと言ふことの出来る方であります。

今、爰に例を挙げて見るから、答へてもらひたい。私共の人格は創始的であると言つた。つまり、Creation で刻々にこしらへて居るものである。之れは決して機械的に出来るのではなく、有機的になるのであることを言つたのである。それがわかつて来たのがLifeの学問である。

【命の学問】

其の学問の光りを以てよく自分を輝して見ると、始終、創始、創造して居るのであると申したのである。それ故、Lifeの要素である感情、思想、目的と云ふものが常に変遷して動いて居ると申したのである。それで先づ、果して自分の命の生活は事実ど一云ふものかと云ふことを問題にして見なければならぬ。経験して証明して見なければならぬ。

【想像力について】

其の命の起りの根は深い処にあるが、人工、又は意識無しに其の考へを企てるものがある。それはImaginationである。これにもCreative imagination、Initiative powerの働き、端緒として想像力が働かなければならぬ。今日の心理学研究中成り立たせよ一とするものは、五官の媒介を借らずして、直接に心と心と、地の人と天の人とでも交通を開き、心を通ずる力があると云ふことを研究して居るのである。例へば、透視のよ一なものである。

斯う云ふものが出来るとすれば、それは五官以外に、未だ人間の氣のつかぬ第六官があると云ふ説がある。又或人は、此の想像力は第六官である。望遠鏡でも見ることの出来ぬ、拡大な世界に入ることが出来ると形容して居る人がある。我々は身体や物質と云ふものゝ間に捕はれて居る、甚だ不自由なる奴隸のよ一な境遇に居るものである。人類の最大の願望は自由にあり、牢獄又は束縛より脱する所にあるのである。【束縛を脱して自由意志を現すものは想像である】

併し、これは容易なことではない。其の束縛から解放することは出来ぬけれども、只此処に一つの慰安を人間に与へるものがある。此の肉体と云ふ物質の制限を超えて自由の天地に遊び、思ふ存分して見ると云ふ衷心願ふ、自由意志を思ふ儘に働かして見ることが出来る。それは何か。想像である。此の力があるから、人間が知識を組み立てることが出来るのである。

此の力は、Creative power 自発的活動を限りなく助けて行くものである。それで先づ、発明の出来る人、文才のある人、理想、目的の新しく実現して行く人は、此の想像のよく働く人である。それが、ほんとの人格をCreateする。よい想像が活動されてあるか、又、最も創始的であるかである。之れは科学、文学、美術の人も皆創始的想像の人でなければならぬ。コロンブスは航海の前に想像で大陸を見出だしたのである。此の力がよく働いて居るか否かと云ふことは、私共が創始的能力をしらべる上に大切なことである。

思考、理想になると、鈍い人があつても想像力のないものはないのである。尤も知覚と云ふ入口に於て、此の力が働かなければならぬ。此の力が想像力を逞しうして居るか否かは、

自分を見る一つである。此の力を観察することは、自分が創始的か否かと云ふことをしらべる一材料にもなるのである。

之れをしらべるにいろいろあるが、先づ此の想像力が創始的であるかを簡単に知るには、子どもに於て、よくしられるのである。子どもは発明的な想像力を持って居る。それは、無邪気に四圍の境遇に反応して居るからである。子どもの考への中には、Geniusの萌芽が発見されるのである。

[夢は想像の一つである]

私共は無意識、無我の状態になつても、其の中に働いて居る想像を観察すると、如何に被打つかを見ると、おもしろい事実を見出すことが出来る。これはどなたにも出来ることと思ふ。これをする方法は、第一、夢を見ることである。

寝る前に自分で自分に、凡そ自分が観察しよとする暗示を与へるのである。そして夢を見るのである。私は四、五日した中で三日だけは、はつきりと自分の思ふ通りの夢を見る事が出来ました。其の一つは既に天長節に話したが、次には三度ばかり同じのを見ました。そして、終りに至る迄続いて居るので、自分ながらおもしろいと思ひました。それは、非常にCreativeである。漸々発展して行くあとを考へると、驚くべき働きがある。通常では起らない想像、詩歌が出来る。誠に美の世界に逍遥することが出来るのである。

凡て何事も考へを自分で発展して、其の儘を再現するのではなく、新に想像したものが出来て居ると言へるか、どこか聞くのである。

其の意味に於て夫れに当る経験をした、又つとめて居ると言へる方……………半数

そこ迄に行けない方……………半数

[自動力は知識力で、人格力は実行力である]

此の前に申した一番大切な点を言ふと、自動力で、自我創始力 Self-initiative power で、今一方面は人格と云ふこと、又は、人格の力と云ふことで、之れは自我実現力 Self-realization。自動力、人格力で、相離すことの出来ない中に特色を有する二要素がある。之を平たく言へば、自動力は知識力で、人格力は実行力である。

[現在は実行である]

此の知識と実行とは、人工的にはなすことは出来るが、実際に於ては相わかつか可からざる同一物である。只一つの本体の両方面にすぎないのである。之れを簡単に申しますと、又ははつきりと考へますには、知識は即ち此の原動力は、前に申した永続する本体の過去であります。其の永続の現在、其の時の現在は、即ち実行である。

それで、あなた方に少ししらべてほしいと望むことは、時と空間と云ふことであります。之れを近世哲学的に説明したのは Kant である。

之れを研究することが必要で、之れが実利主義と理想主義のわかるる所である。空間が Realism で、時が Idealism の方面になるので、此処が即ち認識論の分離点である。之れを自ら研究することを望む。之れが自分を知り、神の性を見出すことにつとむる大切な問題である。そこで私共の人格は Time、即ち変遷、永続、進化のもので、永続は Creative なも

のであると云ふことは、我々の命は Time であると云ふことになる。其の Time を大別すると過去、現在、将来となる。先づ、過去と云ふのが我々の知識、現在が我々の行為である。

[知識について]

先づ知識と云ふものは、従来は空間的に考へ、機械的にのみ説明されてあつたのである。此の空間的説明を以て、時間的の本体、即ち Life、精神と云ふ方面を物質的理論を以て解しよとしたから、知的欲望を満足することが出来なかつたのである。つまり概念と云ふものを空間的な範疇に入れて、之れを以て方面の違ふ本体をはからうと致し、其の要素を解剖しよとつとめた。故に、甚だ知識の範囲が狭く浅くなり、真相を失ふに至り、之れが知行一致を欠くわけになるのである。それで先づ初めに、知識の本質と云ふものを説明しなければならぬ。

知識は命、故いつも育ち、変遷して Develop するものになつて居るから、之れを其の歴史的に考へて行かなければならぬ。之れを今日の認識学で説明しなければならぬが、時をとるから略す。

[知識のものは本能である]

知識の真髄、及び起原は何かと云ふに、先づ之れは力である。知識は命である。其の根は本能である。

我々の知識と本能とは同じである。之れは Common sense に訴へてもわかるのである。

嬰兒が初めて世に生れて、見えず、聞こえず、解せず、只触覚の刺激あるのみで、子は直ちに母の乳を求めるのである。習はぬに母の乳を吸ふことを知つて居る。之れが知識である。又、鶏の卵から出て、教へぬに餌を知りつゝいばむがよ一に、又、蜘蛛、蜂の巧みな巣を作ると云ふよ一なのは、みな本能である。本能は知識である。自分の目的を達する為の道を知つて居るのである。

此の本能は遺伝と言つて、親が経験して知つたものが子に伝はつたのである。之れを本能と言ふのである。之れが此の内から外に爆発し、外のものを取り、自ら動かうと云ふので、之れが即ち働きをする原動力と言ふのである。

其の原動力が本能である。教へないで知つて居るのである。知つて居ることが力である。出来るよ一に自定する力である。其の力が即ち知識である。又、私共は自転車に乗ることに於ても、水泳することについても、そ一云ふことが言へるのである。自分の教育で得たものが習慣である。習慣は又、本能である。知識、即ち人間が考へを構成するよ一になるには、材料を選択する。其の選択は中に本能、欲望、目的があつて、知識が構成されるのである。今日、我々の用ふる概念をつくるのは、何から出てくるかと云ふと、本能に加はつた習慣がもとである。斯う云ふ力があつて始めて行へるのである。

[想像力は知識である]

知識の真髄は本能、衝動傾向である。想像力は知識である。之れは先づ、ほんとの物質の身体材料を用ひずに、其の自分の自由の行動をすることが出来るのである。最も自由な行ひの出来るものである。想像は、実行を演習して見るのである。實際を Play するのである。故に想像は、もとの形態を用

ひずに行為をするのであるから、知識の一要素である。

[記憶も知識 一要素である]

又、記憶も知識である。記憶は過去の保存である。描いたことを想像に変じたものをも記憶と言ひ、具体的まゝ再現する力を記憶とも言ふ。之れは知識である。

事実から抽象して概念が出来るのである。概念は知識の道具である。Meditation、Prayer、Imagination と云ふ精神の働きは概念をつかつて働くことが出来る本能の記号である。

概念が働いた各種の本能、経験を統一して、そこに過去の経験の融合したものをさして、目的、希望、理想と言ふ。こゝ云ふ事が総称されて原動力になって、非常に潜勢力を逞しうする。之れが知識である。知識は行ひの目的で統一されてなければ、其の価値はないのである。只覚えて居るのは、死んだ知識である。知識と云ふものは過去の歴史、経験、人格力である。夫れが失はれずに保存されて居る。それが統一されたものを知識と言ふのである。

知識が統一されたものを目的と言ふので、既に将来に対象物を持ち、欲望、熱誠が動いて居る。その関係でなつて居るものが意志である。

過去が保存、統一されたのは、現在の爆発の爲である。新人格を生み出だす新しい力をそこに創造する爲である。其の以上に高進する爲である。実際に於て過去と現在とは、はなすことは出来ないのである。

[知識は現在である]

知識は現在で、現在が行為である。行為を狭い意味で言ふと、筋肉の動くことである。私は、行為は現実で、時の現在であると言ふのである。其の行為の中には過去がたしかに再現して居る。故に、行為の中には知識がある。過去が現在となり、現在は直ぐ過去となる。現在がなければ過去は消滅し、将来もないのである。現在は行為であるから、脳髓や神経の働きも外界を感じる。知覚も、或は深く Meditate することも、祈りも、同情も、憎みも、みな現在で、我々の行為である。何故に行為と言ふか。

[行為は選択力である]

第一に知覚、感覚と云ふものは、時の感じであるけれども、是れ迄の経験が加はつて出来るもの故、現在ばかりでなく過去もあるのである。我々は今感覚があり、観察して居るのである。又、何かを中へ考へて居るのである。併し其の大切な能力は何かと云ふと、選択力である。外界の刺激を選択するのである。内の衝動を選ぶのである。

一つの知覚を働かせると云ふことは意志の力である。故に、之れを行為と言ふ。我々の自定的行為である想像は、創造的である。目的に適ふよ一に、自分の自由を達するよ一に、Create するのである。故に、想像して居る時も選択力がある。

今一つは模倣である。併し、之れも自分の好きなことと思ふことをまねるのである。其の模倣的本能に反対し、其の捨取の自由を以て働くから、行為と言ふのである。又、思考も、やはり目的に適ふよ一に自分の中から起る力を支配する、Create する、思ふ様に考へて居るから、思考も我々の意志の働きである。

[行為と知識ははなれることが出来ぬ]

それで、独り只我々の常識で言ふ行為のみならず、現在の我々の働き、活動、変化、進化と云ふことが行為である。故に行為と知識とは離るゝことが出来ず、互に相反して居るのである。

此の波動が、次の一週間に於いて大に働いてもらひたいと切望するのである。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年十一月二十二日

明治四十四年十一月二十二日

大学部全体の為に

初めに、此の前の講義がどの位おわかりになり、一週間の中にどの程度迄実行が出来たのでありましょか。夫れを聞いてから進みたいと考へます。此の前に、Space と Time 即ち時間と空間との関係をお調べになる様に申しておきました。其の間に非常な矛盾、衝突がある。夫れを見出だしたのは Kant であります。

[Kant の二律背反]

Kant は四十五になる迄、そゝ云ふ深い問題が起らなかつた。然るに四十五となつて始めて哲学者の目が醒めて、大問題が彼れの頭に起つたのである。之れが Kant をして大哲学者たらしめた曙光である。之れは、Kant の如き近世稀なる頭脳を以て考へたことで、其の後いろいろの大学者が研究を重ねたことであるが、夫れはどゝ云ふ問題かと云ふと、Kant 自身が見出だして始めて使つた詞を用ひて言ふと宜しい。夫れは Antinomy で、之れを訳すると二律背反と云ふことになる。Anti と云ふのは背反で、英語の Against に当り、nomy とは Law で、法則と云ふこと。故に、二つの法則の相合はない、相容れない、相反する処の点と云ふことであります。

第一に Reality、宇宙の本体を考へるに當つて、此に矛盾が起る。之れを具体的に言ふと、空間と時間、或は Realism 実理主義と Idealism 理想主義、又は之れを唯物論と唯心論と言つてもよい。又、之れを我々の一身にとつて言へば、身体と精神との要求が相反することがある。

又、Comte の言つた Pragmatism の One and many、一と多である。Spinoza の言つた様に、宇宙は一元であると同時に多元である。故に、此の一元と多元とは二律背反である。又、自由意志論と宿命論とは二律背反である。故に、二つの法則は終に相容るゝこと能はずして、止まる処がないと云ふ風に見える。又、Kant が見出だした様に、我々の実践、理性に二律背反があつて、我々の徳と幸福とが伴はないことがある。故に、快樂論と克己論と云ふ二つが起り、之れを教育の上から言へば軟教育と硬教育で、社会学から言へば個人主義と社会主義と云ふものになります。

之れが、Kant の四十五迄学問をして到着した処で、之れが本となつて、Kant の哲学及び倫理説となり、之れが発達して今日となつたのであるが、今日と雖も猶、困難を感じて居るのである。夫れで、ど一か此の二律背反と云ふことについて研究し、そ一して我々の人格修養に資する所を見出だしたいと考へます。

先づ、人格には空間と云ふ Extension、即ち之れを Quantity 分量と言ふ。も一一つは Intensity 人格の力度、Duration 即ち之れを人格の深さ、或は人格の持続と言ふ。

時の過去は知識で、現在は行為であると云ふ様に、此の人格を空間的、物質的のみで解釈しよ一として満足の出来なかつたことを、此の二律背反を見出だして、其の全体が何か、其の困難に我々が克つことが出来るかど一かと云ふこと、夫れと同時に私共の人格について考へたのである。

[自我実現に身体は必要である]

然らば、人格即ち自我実現と云ふことには、空間即ち物質、即ち我々の身体、及び其の身体の付属品と云ふものは無益なものであり、無価値なものであるかと云ふと、決してそ一でない。其の人格に、其の自由意志の発表に、其の方法、活動として、此の人格の拡がり、物質と云ふものはなくてはならぬものである。そこで我々の修養に、及び実力養成に必要な点が三つあると申したのです。

(1) 目的 (2) 現実、即ち行為 (3) 方法 である。

[今日の修養には目的を立てなければならぬ]

そこで、之れから本論に入ります。

自動的研究の第一歩として、即ち人格修養の第一義として勉めなければならぬものは、過日説き明かしを致しました意味の我々の知識、即ち本能、経験等が皆入つて居るのであるが、其の知識を目的とするのである。其の目的を研究の方で言ふと Hypothesis と言ふ。方法の方では Purpose 又は Ideal であると言ふ。故に、今日の修養には目的を立てねばならぬ。

[研究には仮説を立つる必要がある]

研究には、大きく言ふと Hypothesis を立てねばならぬ。然るに斯う云ふ詞を使ひますと、之れは大学生になつた上でないと、到底研究に仮説を拵へる、毎日の学問に目的を持つて活動すると云ふことは、子供や婦人には六かしいと云ふ考へが起る。又、目的を立てて修養すると云ふことは、男子には必要であら一。併し婦人には不必要であら一と云ふ偏見が起る。併し、今日私が充分あなた方に首肯する様にして貰ひたいのは、幼稚園の子供から大学院の研究生、否、白髪の老人に至る迄、等しく之れが必要である。故に、学者にも実業家にも、苟くも此の天地間に生をうけて居るものは等しく、此の考へを以て活動しなければならぬ。其の目的のあるとないとが、人間の価値、人格の高下の別るゝ所以である。之れは、今講義の進むに従つて、成る程と皆さんが感ずる様になるであら一と思ひます。

[目的の選択]

茲に、私が皆さんと共に考へたいのは、目的の選択である。目的と云ふことが既に選択であるが、其の目的の選択宜しきを得なければ、有効なる学問は出来ぬ。

[目的は自定である]

然らば、其の目的は宿命的にきまつて居つて、余儀なく選択するものかと云ふと、決してそ一ではない。時々刻々の目的が宿命的に定まつて居ないのである。自定的に我々が定めるのである。

そこで其の一は、此の目的を内よりきめるのである。他の一は外から来るもので、四圍の境遇の刺激であつて、外から定める処の要素と云ふ様に考へるのである。其の内から起つて参ります処の自定力に又無数の要素がある。併し、其の要素を纏めまして、本能、又は趣味、或は興味、其の前に申した良心、夫れから猶夫れを大きく申しますると、社会的良心、社会的傾向、又は時代の精神などと申します。

其の本能と云つても、実に無数の種類がありまして、夫れがいろいろに Organize されて居る。夫れが秩序的に有機的の關係を以て出来て居るのである。夫れがいろいろなる方面で働く有様を我々の動機と言ひ、又は感情、情緒、情操と言ひ、傾向と言ひ、いろいろなる詞を用ひるのであります。

斯う云ふ内の力が意識外に表現したものと、或は、意識の底にある処の Subconsciousness、海の上の小波は、Consciousness である。其の底、幾尋となく深い処のものは Subconsciousness である。之れが我々個人の中にあるもので、習慣とも言へば経験とも言ひ、過去の経験の保存せられた品性とも言ふので、我々の独特なるものがある。之れが我々の目的を選択するのである。之れから何をしようか、ど一云ふものにならうかと云ふことを自定する処のものが、我々の内にある。之れを知識と言ふのである。意識界に上つた処のものを知識と言ひますが、未だ意識界に上らない処の、深い処にある多くのもの、即ち Many が One となる、其の One が我れの目的を選択するのである。故に私共の目的となつて居るものは、天才である。其の天才が目的を自定するのである。

[自定にも外の刺激が必要である]

併し、此の内に潜伏して居る処の能力は、之れを外から刺激することが必要である。丁度、其の能力に合ふ様に、外から刺激する処の催促が入用である。之れは内外の共同關係によつて起る処の働きである。其の外からの刺激を Calling、即ち天職と言ひ、或は天の召し、或は神の声と言ふ。神なり天なり社会なりが、我々に命ずる様に思ふのである。我々を其の職に招いて居る様に感ずるのである。

之れは大きく申しますと、此の前に申した歴史的 Rhythm、歴史的な高潮、即ち其の時代時代の高潮があり、使命がある。今、東洋で云へば、日本が覚醒し、続いて支那が革命して居る様に、悉く健全とは言はれまいが、其の根本の処に覚醒がある。過日も支那人を教育して居る教育家が言はるゝのに、是れ迄、支那人は鈍いと思つて居つたが、中々そ一でない。今度母国の難が起つて来しと云ふ手紙が来ると、決然起つて、祖国の為に殉じよ一とする。其の時の彼等は全く別人の如くなると云ふ話であります。

之れは、今迄の歴史に沢山ある。此の前の面会の時に、私が時間がない為に逢ひませんでしたから、各部からの報告が出ました。其の中に斯う云ふのがありました。(言葉は略す)

つまり文学部は、我が部に対しての Calling、我が部から召して居る処の Calling が聞こえて居るのである。之れは文学部ばかりであるけれども、大きく言へば、桜楓会に対し、母校に対し、社会に対し、婦人の教育に対して、我々が赴かねばならぬ、起たねばならぬと云ふ、外からの刺激が頻々として来るのである。此の学校程忙しい処はない。じつとして居られないと云ふ。夫れは、内から応ずる力があり、外からの刺激がよく聞こえる為、内から出よとする力が強く動いて来るからである。故に、目的をきめると云ふことは此の本能、衝動の如く強い力が内から発するのと、外からの刺激が来ると云ふことと、此の二つの力の Reaction 反応によつて出来るものと、見当をつけてよいことと思ふ。

之れを抽象的に言ふと、目的をきめるのは、さ程六かしいことではないかの様に聞こえるけれども、実際に於てはそ一ではない。故に、先づ目的の確立した人は、私は能はざる処なしと言ふ。昔から精神一到と云ふことがあります。夫れで先づ之れを確立して、今迄私共が教育上、充分出来て居ないと思ふ処を成就したいと考へるのであります。

[本能の力]

之れを順を立て、申す時間がないから、此の間申しました本能の力と云ふことから申したい。其の本能と云ふことでも、物質的本能、身体的本能、精神的本能、個人的本能と云ふことを申すならば、凡そ本能と云ふことがわかると思ひます。

本能と云ふものが、既に目的を追求する、目的々活動をする処の原動力で、目的と云ふものが、既に本能に叶うたものである。只、意識に現れない処の目的選択である。例へば、此の植物の根なら根と云ふもの。昨日私は横濱の方へ行きましたが、其のお客の一人の故伊藤公の世嗣の伊藤公が、青木子爵と同車して、子爵の案内で鶴見の農事試験場に行つて見られた処、植物も其の栽培法によつては、今迄の二倍の収穫が得られる。そ一して、こやしを管の中に入れて与へておくと、其の根が何処へでも行かれる訳であるのに、こやしのある方へ方へと這うて行くとのことである。そ一云ふ本能的なことが、植物の上にも見られる。動物に於ては、殊にそ一である。此の研究に、も一つ大切なことは、細胞の研究であります。我々の身体は無数の細胞で出来て居るのであるが、細胞が自分の Unit を作る働き、又、細胞がよりあつて Group を作る働き、及び其の Group が集まつて Body を作る処の働きをして居るのである。

我々人間の間には、個人的 Unit を作ると同時に、國家とか社会とか云ふ全体を作る処の働きがあると云ふことは、之れから段々調べて行くとわかるのである。又、生れたてのやや児が母の乳を吸うたり、生れたての蜘蛛が巣を作つたりするのは、前からの行為が遺伝となつて再現するものであると云ふことを申しました。夫れから人間と云ふものは、高く高尚に進むことも出来るのである。

[身体的本能]

夫れで、Social instinct の一番初歩のもの Primary instinct とは、身体的本能を言ふのであります。

先づ一番の社会の起りは、個人と個人とが相互的關係を結

ぶので、個人と個人とが孤立では出来ないものが社会である。故に、社会の Unit は家庭であり、家庭の Unit は家庭の個人と個人とが引つばりあひ、溶けあうて一つの社会となるのは、身体的 Unit である。先づ身体と身体とが一つになることである。身体は社会ではない。社会は心理的のものであるけれども、身体は Social instinct の始めである。銘々の身体が一つの細胞となつて、其の細胞と細胞とがとけ合つて出来るものが、社会の Unit の卵である処の個人である。此に於て婚礼と云ふことが成り立ち、家庭が生まれ、社会が組織せらるゝのである。其の情は殊に女子に深く、子供を生むと云ふこと。子供を生むならば、身体も顔も満足に立派なる子孫を挙げたい。そ一して立派なる第二の國民を作りたいと云ふことを希望せぬ者はないのである。夫れで先づ女子には、家を持ち、立派なる第二の國民を生む、立派なる家庭を結ぶと云ふ目的があるに違ひない。然らば、むやみに婚礼をしないのである。誰れでもと結婚したからと云つて、立派な子供は出来ないのである。故に、立派なる家を持つつもりでも、其の選択を誤るならば婢僕の如きものとなるのである。故に其の選択宜しきを得て、丁度理想に叶ふ様な婚礼をし、そ一して立派な子孫を挙げたいと云ふことは、國民的慈母の Instinct となるのであります。

第二國民は只今の社会的遺伝により、社会的本能、良心に由つて生るゝものである。其の第二國民を教育し、第二國民の母となるものは我れであると云ふ Instinct になる。第二國民を生みたい、立派なる第二國民の母となりたいと云ふ Instinct が出来て始めて、発達段階にのぼるのである。

[社会的本能]

次に第二には、外部的社会本能、即ち物質的社会本能と言つてもよい。之れが家庭を結び、社会を拵へるに欠く可からざる道具であります。即ち立派なる家を作る、之れが即ち、建築的組織的本能で、之れが又、財産的本能である。之れが家をなし、社会をなすに必要であるから、欲しいと云ふ本能、夫れから裁縫や技術の本能はみな、Construct instinct である。

[実践的本能]

第三は、実践的社会的本能、即ち Practical social instinct 之れは共同的活動を好む処の本能である。そこで、人間は必ず自分の好み、自分の目的に應ずる処の他の人物を要求する性があるのである。若し其の仲間を見出さんければ、其の友を得ることが出来なければ、必ず寂寞を感じるのである。仮令其の他の物はゆたかに所有して居つても、共に楽しみ、共に喜ぶ所の友を得なかつたならば、必ず失望に陥つて、人生の価値を認めることが出来ないのである。之れに反して、友あり仲間あり共同者あれば、仮令病中に於ても、砂漠の如き危険多き処にあつても、暗夜の如き場所にあつても、大に其の希望を見出だし、光りを認め得るのであります。

そこで、人間の罪と云ふ、恐れと云ふ社会を苦しむものは、つまり此の共同が出来ない、此の共同に失敗したと云ふことになる。故に、凡て悪の根は同情の乏しきこと、愛の欠けたと云ふことになる。

[思考的本能]

第四は思考的社会本能。社会本能の真髓は、社会的模倣、社会的共同、相互扶助、相愛、柔順、同情、尊敬、哀れみ、思ひやり、交際と云ふ様な全体に満ち渡つて居る処の空気にあります。夫れが人間の意識になつたものが、法律、風俗、制度、言語、社会的目的、時代の精神と云ふ様なものになるのであります。

[理想的本能]

第五、理想的社会本能。又は目的的社会本能と言つても宜しい。此の社会的本能が実現せられたものが、即ち人間の歴史である。其の理想的社会本能実現せられたのが、現実であります。然るに、社会の現実と云ふものは到底、我々の理想を満足し、本能を慰諭することが出来ないのである。故に人間は想像的満足、想像的自由を以て、今の理想を満たすことが必要であります。

そこで、此の理想的社会本能在宗教の天国、又は Christ の言はれた Golden age、モールの言つた Utopia、Platon の Republic、今日の世界の言ふ処の Socialism、是れ皆現実に満足することが出来ない為に、此に想像的満足を以て、一方には自ら慰し、一方には将来に希望を持って奮闘して進むことの出来る所以であります。

[神は理想的本能を人格化したものである]

故に、宗教で拝む処の神は、想像的、理想的の国である。Almighty our father in heaven と云ふ、つまり神様は、此の総ての社会的本能を満足せしめ得るものである。神は社会的本能、社会的理想、社会的目的を人格化したものなりと言ふことが出来る。そ一言ふと、只仮りに作つたものの様であるけれども、宇宙の精神と云ふものは Organize された処の無限の中心であります。

つまり、此の理想的社会本能と云ふものは、何によつて進むかと云ふと、宇宙の目的に迄達しなければ満足が出来ないのである。つまり、此に於て宇宙は、One and many である。一元であつて、同時に多元である。之れが即ち宇宙の目的である。神は即ち宇宙の目的であり、自由意志であり、宇宙の創造である。そこで、宇宙では之れを歴史と言ひ、個人では本能と言ふ。其の宇宙の生命と我々個人の生命との間には密接なる関係があり、其の宇宙の意志と我々個人の爆発力とは共同して、我々個人の目的と云ふものを定むることになります。

[本能は教育の結果、自定し得るものである]

そこで私共の目的は、内からと外からとできるものである。其の内から出る処の力は、今申した本能と云ふものから来ると云ふのでありますが、然らば其の本能に従へば、直ぐ目的が定まるかと云へば、そ一ではない。此の間申しました様に、動物の本能はやゝ完全であるけれども、人間の本能は不完全である。其の代り、之れを大に教育し得るものであり、教育の結果、自定し得るものである。本能は未成品で、複雑多数である。其の本能を呼ぶ外の刺激も複雑である。

又、男は外を守り、女は内を守ると云ふ様に、先天的にきまつて居るものではなく、日夜に変遷するものであり、殊に昔

とは雲泥の違いである。目下、世界の大浪がうつつ我々の生活を動かすと云ふことは、じつと止まつて居ることが出来ないと言ふことは、ど一云ふ人も殆んど感ぜざるものはないと言ふ時になりました。然らば、どの刺激に従ひ、どの働きに応ずるかと言ふことを選択するのは、最も六かしい判断を要するのである。

そこで適切な問題は、我々は内から起る、どの傾きが真に自分の天職であるかと云ふ、殊に御婦人あなた方、今後の生活を選ぶと云ふことは、男子よりも一層六かしいと云ふことになる。先づ第一に、夫れについては、どの判断を下すべきか。次に、其の目的を達するに、どの方法、行為をとるべきか。毎日の日課を学ぶには、どの集中点を作るべきかと云ふ問題がきまらねばならぬ。夫れを考へるに必要なことは、第一、目的に大小の区別があり、有機的組織があると云ふこと。其の大小の目的の関係、平たく言へば、如何にして我が大目的を知り、又小目的を知り、日々の選択した課目の目的を知り、其の研究の集中点は如何にして定めたらよものであるか。西洋の諺に、Peg and hole と云ふことがあつて、我々の天才には一つの形がある。所謂釘である。長いとか短いとか、円いとか四角いとか云ふ釘の形がある。夫れにははまる処の穴がある。我々個人と社会との関係は、斯くの如きものでなければならぬと云ふことであります。

The one man and one capacity 一人には一つの才能があるとかと云ふ。之れは一面の真理であるが、決してそ一きまつたものではない。

我国の婦人は千編一律であるが、人間はそんな単純なものではない。目的を定めることはど一云ふことか、ど一云ふことが目的であるかと云ふことが問題になるのである。

今日は、初め少し議論でありましたが、私は之れから適例を以て、一世紀に一人の割合を以て偉人が生れて居る、其の偉人と時代との関係を調べて見ると、誠に密接な関係があり、一方には時代の要求があると共に、一方には時代の精神が非常なる発達をとりて来たと言ふ其の関係を調べて、よくわかる様になりましたならば、我々個人の目的を定め、毎日の課業を勉強する上に、大層有益なることと考へるのであります。

[中表紙]

桜楓会例会の御話

明治四十四年十一月二十六日

明治四十四年十一月二十六日

桜楓会例会にて

[現今世界の二問題]

(1) 東洋問題

今、世界の問題となつて居るものに二つあります。夫れは時がないから委しく申す暇はありませんが、其の一つの東洋問題と云ふのは即ち今日は支那問題で、支那問題と云へば今

日は革命問題で、支那人の問題であるが、是れが如何にきまるかと云ふことによって、世界の人々の運命がきまると云ふことになる。其の問題をきめる序幕だけは開けて、其の序幕だけは見込みが立った様であるけれども、未だ其の第二幕を見なければわからぬ。第一の序幕とは、革命軍の活動であります。

つまり、支那人と云ふものは、勇気も愛国心も共同心もないのかと思つて居つたのに、今日は侮られぬものであると云ふことがわかりかけた。夫れは北京政府を倒すために、即ち固定したる所のものを破るために、支那人は破壊的態度に於て力を顕したと思ふ。併し第二幕は、支那人は果して立憲政体を布くかど一かと云ふことであるが、先づ今の所では、共和政治になるかと思ひますが、彼れ等はアメリカ人の様に共和政治を共同的に布いて文明を形づくる事が出来るであらうか、ど一かと云ふ問題になります。

ところが、支那人がど一云ふものであるかと云ふと、ど一も利己的で個人主義である。支那人を教へた人の話には、皆歸つて革命軍に投じたと云ふことである。支那人は破壊的には力を持って居るけれども、共同して全体のために計るとか、建設すると云ふ考へはないそ一である。故に、只革命軍が勝つたとしても、共和政治を布いて、共同的に國家を建設することが出来なかつたならば、必らず外国の干渉が起る。そ一して分割問題が起つて、支那帝國を滅ぼしてうこととなる。故に支那を滅ぼすものは、外国人にあらずして支那人である。

(2) 婦人問題 西洋婦人の状態

も一一つは婦人問題であります。夫れは婦人と云ふものも共同生活が出来るかど一かと云ふことである。今日、西洋の婦人が共同して働いて居るが、之れは破壊的かと云ふとそ一ではなく、彼れ等の Movement は建設的である。決して銘々の利益、幸福と云ふものゝ為めではなく、國家の意志によつて、國家の機関の運用によつて全体を高めよと云ふことで、國家の政治に婦人も加へて其の政治をしかねばならぬと云ふ考へであります。其の他軍用とか教育とか、いろいろの事業も婦人の手に由つてせられて居ることが多いが、之れは軍人も、教育家も、資本家も、労働者も、孤立では出来ぬと同じ様に、婦人問題も共同でなければ出来ぬと云ふのである。そこで、今日の婦人問題は婦人も共同が出来るかど一かと云ふことである。男には親友と云ふものがあつて、共同して事をするのであるが、女にはそれが出来ないと云ふことは、昔から西洋でも言はれて居つたことではありますが、欧米では少し出来かけて来た。そこで、婦人問題と云ふことが起つたのであります。

[我が日本婦人は如何]

其の中間に挟まつて居るあなた方、日本の御婦人が、果して共同して行かると云ふものであらうかど一か。夫れによつて、あなた方の運命が決せらるゝのであります。

[積極的態度を要す]

私は三十年間の経験によつて、我が國の御婦人はど一も消極的方面に力が費されて、共同が出来ないと云ふことを感じて居りますが、あなた方は夫れが出来るかど一か。破壊的に

人を排斥するとか何とか云ふことには、我が國婦人は一致することが出来るけれども、建設的、積極的に力を合すことを共同生活と言ひます。この共同生活が出来ると云ふよ一になつたら、ほんといふあなた方の発展の鍵であると思ひます。夫れで今日は今出ました様に、積極的に物を建つるために使命を果さねばならぬ。

[四学部共同]

夫れについて、文学部は如何に尽すべきか。又、他の学部は如何にすべきものか。そ一して四学部が共同して行かねばならぬと云ふことを考へたならば、小さい問題は自ら解決がつくと考へます。あなた方は、も一時も少なくなり、又あなた方の生涯について非常に大切な時でありますから、そ一云ふことについて考へて御覽なされて、どんどん意見をお出しになつた方がよいかと云ふ感じがするのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年十一月二十九日

明治四十四年十一月二十九日

大学部全体の為に

段々今年も時が早くたつて、仕事は其の割合に残りまして、私も氣をもみ、又、あなた方も重く感ずるであらうと思ふ。も一つ早く活動が出来そ一なものとお互に思ふが、坂に車を押す様な心持で、軽快には進まれない。其の為に予定の様に動かれず、其の仕事も残す所が多いのです。併し、そ一言ふても致し方がありませんから、今日から決心致しまして、私が其の考へをあなた方にお話すると同時に、あなた方の方でも直ぐ之れを自動的に始めて貰ひたい。そ一しないと、も一時が足りませんから。実は今日迄もそ一であつた。私はあなた方の噛みこなしにくいものをお粥や Sop にはしてあげない。自分で噛みこなしで碎かんければ、消化せぬよ一になつて居ります。

[今日は軟教育である]

然るに是れ迄の習慣が余り子供扱ひにしてあり、又、女と云ふ考へがあり、子供、女、学生と云ふ暗示がありまして、少し骨の折れることは、自分の力には合はないと云ふ感じがある。此の頃ど一云ふ訳からか、硬教育、軟教育と言ふことがある。其の孰れにしても、極端に走るのとは間違ひである。けれども今日の教育は余り子供扱ひにせられて居る。寧ろそ一云ふ点は維新前が優つて居つたかと思ふ。昔は男子は寒中でも決して足袋をはくことを許されない。夜暗うちに起きて、寒稽古をさせるのである。そして、七、八歳の頃から、今の考へで云へば子供の頭には解せられないと思ふ処の経書や史記などを讀まし、詩作の如きも、十二、三歳迄にすらすら出来るよ一にならぬといけなとせられた。又、女は男よりも早く起きねばならぬ。そ一して男はあつゝかい御飯をたべ

さすけれども、女には冷飯をたべさせ、夜は男よりも粗末なものを着せ、遅くまで夜なべをさせられたのである。外国でも高尚なる学問をして鍛練せられて居るのである。

然るに我が国婦人の今日は、余りにいたはられ過ぎて居る。又、学生自身、余りいたはり過ぎては居ないであらうか。そ一云ふことで、第二の国民の母となられるものではない。つまり今日は、努力しなければならぬ。又一步進まうとするには研究を遂げねばならぬ。昔のよ一な固定した教義やら、固定した信仰やらで行かれるものではない。

[今後は背水の陣を張って進まなければならぬ]

故に今日の有様を嘆いて、昔の事を繰り返したとて、世は昔にかへるものではありません。故にど一してもほんとの事をするより外はない。私は幾ら六かしくても背水の陣を張って進むより道はないと思ふのである。

夫れは、少くとも此校の教育を受けた所の十年間の結果を以てし、其の団体である処の桜楓会員から始めるより外はないのである。そ一して、よく聞くことであるが、日本人の頭には哲学はない、宗教はないと言ふ人もあるけれども、夫れは考へものである。私は此の際、我が国御婦人の頭を調べたいと考へるのであります。

此の間申したことについて、どれだけわかつて居るかと思つて、英文予科二年の人を呼んで聞いて見ますと、大体はわかつたのであるが、只一つ、Time and space と云ふことが未だはつきりしないと云ふことである。そして、三年生に聞きますと、やはり Time と Space の問題で、六かしいと感ずることは三年でも予科でも同じことであります。

これは哲学上の大問題で、外国から来て居る宣教師達にも困難なことであるから、夫れだけのことがわからんからと云つて、少しもわからないと云ふことではない。そ一云ふ問題が起つたならば、出来るだけ銘々で研究をなさることが必要であつて、研究することも出来ないと言ふ程六かしい話ではありません。

私は是れ迄、世間でする処の試験を致さない。夫れは何故かと云ふことは、皆さんおわかりでありませよ一が、私は今年中に一度、二時間位時を与へて、其の時は Note も何も持つて来てはならぬ。全く其の場で判断をして、其の場で答へをしなければならぬ。そ一云ふ仕方によつてすれば、必ず私が考へて居る様な試験が出来ると思ひます。

又、夫れだけではいけないから、次に聞きたいのは、あなた方の Self-examination である。夫れから今日は、指導者に夫れ夫れの組の所へ交つて戴くことにしましたが、之れは両得であると思へます。

そ一云ふことによつて私は、今日の我が国婦人の心の程度を調べたいと思ふ。又、之れはあなた方の組の態度、及び各自の態度をおきめになる上に大切なることと思ひます。夫れで、私は今度はなるべく正確なる統計をとりたいと思ひます。

又、此の学校では何時も申します様に、只暗記学問によつて其の人の価値をきめないものである。学科の方は幾ら出来て居ても修養に於て欠けて居るもの、ほんとの一思考力の出来て居ないものは、立派なる学生とは認めないのです。故に、

此の冬は最も嚴重なる試験をして見たいと思ふ。之れは、初めから申しておくのであります。故に、あなた方が態度をおきめになつて根本の学問をし、根本の修養をすると云ふことになさることを希望致します。

[行為は目的を離れては出来ない]

さて、之れから、前の目的論の続きに入ります。目的と云ふと非常に六かしい事のよ一におとりになるかも知れぬ。又とり方によつては、誠に六かしいのであるけれども、やさしく考へよ一と思へば考へられることである。

孰れにしても、我々の行為は目的を離れては出来ないことである。つまり、私共が寝ることにしても、起きることにしても、料理をするにしても、何をして、其の行為の成功と不成功とは其の目的の如何によるのである。例へば料理をするにしても、献立をきめるのは目的である。夫れをきめるには、生理なり、衛生なり、科学なり、食品化学なりを研究しなければならぬ。故に料理をするには、一番六かしいことは献立を作ることであります。夫れで、どれ位の食物を食べるか、作るかと云ふことをきめるのが一番六かしいのである。

[仮説を立てることが必要である]

其の他、一日の仕事をきめるにも、一学期の計画を立てるにも、亦、此の頃やかましい一年中の予算をきめることも皆、目的によつてせねばならぬ。又、科学をするにも目的を定めねばならぬ。六かしい詞で言へば、Hypothesis を作ること、之れが大切である。

又、今予科の方が大学へお入りになるに、自分はど一云ふ学部を選ぼうかと云ふこと、卒業生が天職を定めること、又卒業してから起ることは結婚問題で、其の招きに応じて行かうか断らうか、又、養子をするにしても、ど一云ふ養子を迎へよ一かと云ふことが問題であるが、之れ等は皆目的によることである。

そこで、目的をきめると云ふことの意味が二つある。其のつは個人で云へば、自分の生涯の目的を定めること、又、一般的、普遍的のことを云へば、時々刻々のことをしなければならぬ。又、研究で云へば、其の時々活問題を研究して決定しなければならぬ。其の問題は特殊の問題、小問題である。そ一云ふ風は大問題、小問題とわかれるのである。

先づ初めに大問題、即ち天職をきめると云ふことは、ど一云ふ風にしてきまるものかと云ふことを申しませよ一。此の間申しました様に、One man and one capacity 一人の人に一つの能力、又は一つの穴に一つの釘と云ふ風にはいけない。人間は普通のことなら何でも出来る。又、其の要素があるのである。そこで人間の活動と云ふものを、知的活動、実行的活動、美的活動、精神的活動と斯う分けるとすれば、人間は何でもさせれば出来るのである。そこで、成る可くそ一云ふ能力を円満に発達させよ一とするのが、普通教育である。そこで、時々其の人の Uniqueness 特徴と云ふものが顕れるけれども、心づかずして過すことがあり、又夫れを展ばすよりも、他の能力が妨げることもあるのであるから、客観的にはわからないこともあるのです。

そこで、其の種類を分けて申すならば、第一は生れながら

にして、即ち小供の頃、青年の時分に、親も教育者も此の子供の天才は是れである、此の子供は政治家に生れたのである、学者に生れたのであると云ふことがはつきりと認められ、自分にもわかつて、単純に進むものもある。即ち、此の特種の能力が他の能力を支配してうて、他の能力は皆、夫れを主人として、王として服従してう。其の模範的人物として、誰れもが其の人を偉人として不同意のない様な、所謂三千年間に三十人ばかり、一世紀に一人の割合で現れた人々を挙げて、研究することに致しましよ。

[偉人の研究]

先づ活動家としては Nelson, Napoleon, Lincoln. 美術家としては Mozart, Beethoven. 宗教家としては Jesus Christ.

夫れから第二の種類に入るものは、生れながらにして最初から其の天職に生れたと云ふことが、自分にも教育者にも認めることが出来すけれども、其の能力に殆んど匹敵する程の他の能力が顕れて、其の物と互に矛盾、衝突はしないけれども、やはり著しい働きを表すものである。之れに属する活動家は Caesar, Charlemagne. 文豪には Dante, Scott, Palma, Goethe, Emerson. 哲学者としては Bacon, Spenser.

第三の種類に入るものは、初め青年時代にはどちらにつくかわからない。何をさせても出来るので、何に生れたかわからない。其の能力が大ききもの、せいぐらべて孰れになるかわからないが、年をとり職業をする上に於て、段々力が顕れてきまつて来る。即ち活動家として、Cromwell, Galerius, Newton, Kant, Hagel, Darwin, Paul, Augustinus, Mohamed.

第四は、第三に類似して居つて、初めの程はどれが天職であるか疑問であるか、後に主能力が顕れて来るが、晩年に至つて、又天職以外の力が顕れて、其の付属の力が著しく発達するものである。即ち、Friedrich 大王, Luther, Leonardo, 斯う云ふ人達であります。

此の前に、本能と云ふことを申しました。其の以前には、人間の力をいろいろ説き明かしました。夫れで、此の前の説き明かしは図で示して、Consciousness を層として申しましたが、人間には二つのものがある様で、或る人は、之れを Subjective consciousness、及び Objective consciousness と言つて居ります。

人間は非常なる能力を持つて居る。其の未だ意識に表れない処の Subconsciousness の中にある Subjective consciousness と云ふものが覚醒すると、まるで今迄の人ではない様になる。夫れをさして Genius と言ふのである。つまり天才は教育するに非ずして生るゝものであるとは、其処を言ふのであります。

其の生れついて居る処の力、例へば、Napoleon があれ程の活動をしたのは虚栄心、名譽心からであると言ふ人もあるけれども、只夫れだけで出来るものではない。其の後、名譽心の強いものは幾人も生れたけれども、あれ程のことは出来ないではないか。つまり、Napoleon の Instinct、内心の力の大波が彼れに動いて来て、其の力に従うて活動したと云ふに過ぎないので、其の力は誰れにもあるのである。

其の力と意識の力とは、互に関係し共同して居るもので、夫れには一つの個性があるのである。夫れが働いて、其の人

の天才が顕れるのであります。其の呼び声に従つて始めて、天職が定まるので、之れに背き、之れに従順なる時は、生涯、天職も定まらないのである。初めからわかる人もあるけれども、亦、生涯迷うて居る人もあるのであります。故に、其の力を發揮することは天職を定むる上に大切なことでもあります。

[Christ]

第一の階級に属する、最も子供の時代から天職の顕れた人は、宗教家では Jesus Christ である。之れは聖書にも見えて居るから、委しく申しません。

[Nelson]

次に活動家で Nelson. Nelson は、自分で Mission を見出し、其の傾きに従つたのが、十二歳の時。叔父に願つて、叔父と共に航海すると云ふことを断行した。其の傾きに従つて彼れの父は、如何なる道を選ぶにしても能ふべくんば、其の樹の絶頂に上らずんばやまない者である、と言つたそーです。

[Lincoln]

其の次には Lincoln. Lincoln は一年間、九哩ある処の小学校に通学して、貧しい活計を助けた為、他の子供よりも非常なる労働をしなければならなかつた。けれども彼れは、夜学に Lamp をつけて読書に耽り、其の感じた処にしるしをつけ、感想したことは Note につけ、又 Excite した時は詩に作り、文に綴つたのである。故に、彼れの読んだ本は少いけれども、自ら深く感じたことは必ず之れを行うたから、政治的、宗教的本能は遺憾なく發展することが出来たのである。

十六歳の時、彼れは選挙運動について自分の政見を発表して、非常なる喝采を博したと云ふことである。二十六歳にして弁護士となつたのであるが、全く独学で天才を發揮して大政治家となつたのである。彼れは同情に富み、熱誠、犠牲の心に富んだ政治家であつた。彼れが小供の時に使はれて居たニューサレムの商店の主、ミスター オファツトは、彼れは将来大統領となる力を持つて居ると云ふ予言をしたそーであるが、其の予言は見事の中致したのであります。

[Caesar]

第二に属する活動家 Caesar の子供の時には、ど一云ふ興味が盛んに起つたかと云ふと、文学的研究、文学的活動が盛んに起りまして、Hercules を賞讃した所の詩を作り、又、悲劇の脚本を書いたので、文豪として生れた様であつたが、十六の時に活動家たるべき生涯を決定したのである。即ち、彼れの十六歳の時に父親が死にまして、彼れの生涯の目的を確定したのである。彼れは父の約束をしておきましたシーナと云ふものの娘のコレネリヤと云ふものと結婚の約束がありましたが、父の死にましたと同時に、其の貴族党の反対の民主党の有力家の娘と結婚致しました。処が民主党が破れて義父が死し、貴族党からは其の大將のスーラと云ふ人が自分の有力なる党派の者の女と娶して自分の党派につけよーとした。けれども彼れは断然之れを断つて、不利益なる地位にある奥さんと離別することを拒んだ。其の為に財産も皆とりあげられて、或る時は懸賞を以て彼れの首級を索められたこともあつた。之れは、彼れの年僅かに十八歳と云ふ青年時代の事であ

ります。

[Dante]

Dante は Caesar と反対で、若い時には政治家たるべき力があらはれ、又、大政治家たらんと云ふ野心を抱いて居つたが、其の、彼れは政治家にあらずして文豪たるべき天才を持つて居りました。

[Goethe]

Goethe は能力が円満に発達して居つて、青年時代には何をさせても出来る、何にかゝつても湧くが如き興味が出るので、自分にもいろいろ迷うた様である。即ち、有名な Scientist と懇意になつて自分の天職は科学者であると思ひ、Artist と交はつては自分の天職は美術家にあると思ひ、宗教家と好みを結んで自分の天職は宗教家にあると考へ、宮内官吏と心易くなつては宮中に入らうとし、法学士と心易くなつては弁護士とならんとし、彼れの父は彼れを弁護士たらしめんとしたので、彼れは法科大学に入って卒業後弁護士となつた。けれども之れは彼れの天職ではなかつた。併し乍ら、彼れは生れながらにして審美的傾向が最も特徴であると云ふことが、彼れの三歳の時に顕れて居つた。と云ふのは、此の子供は非常に醜美の感があつて、或る時、子供達と遊ばせてあつたら、其の中に大層醜い子供があつた。ところが彼れは、此の子供を嫌つて、共に遊ぼうとしなかつた云ふこと。又、七、八つの頃には何時も雷鳴の聞こえる時には遊戯室から顔を出して、夢中に其の変化を眺めて居り、夕方には日の入りを見てうつとりして居ることもあつた。

さて、七つ頃から詩的本能が著しく現れて、Dialogue の様なもの、教訓的のお話のよ一なものを書いて居るのが残つて居ります。彼れの最初の詩作は十の時に書いた Drama である。併し、彼れが科学や鉱山学や事務の興味を持ったことは、彼れの天職の仇とはならず、大に補助者となつたのであります。斯くの如き偉人であつても斯う云ふ風であるから、常人に於ては、どの傾きに従ふべきかと云ふことに迷うて、屢々かへると云ふことも免れない訳で、Scott も Goethe に似た処がある。

[Galerius] [* 編者注 : Galileo Galilei の説記の可能性あり]

第三の種類に属する Galerius は、実に生れながらの Astronomer 天文学者であるが、其の他、図を書き、画を書き、つまり美術家たる処の傾向が非常に現れた。猶、彼れは Dramatic style の文学を好み、其の遊戯の間に非常に文学的、美術的、審美的傾向を現して居る。十九歳の時に伊太利のファイザ大学に入って、其の大講堂に連つて居る Lamp の動くことを見て、長さが同じことならば、高く上つても低く下つても其のぶりの時間は違はぬ筈であると云ふことを見出だして、天文学に関する器械や時計の機械を發明したのである。彼れは子供の時には文学者として生れた様に見えたけれども、ほんとの物理学者であり、機械学者であり、發明家である。又、宗教家としての天才をも持つて居つたのであります。

[Newton]

次には Newton. Newton の性質、来歴は Galerius に酷似し

て居ります。彼れは非常に厳肅に無口な熱心家であります。けれども珍らしく物を組み立つる才があつて、水車、機械、車、其の時に人の考へつけない鳥賊機、Table、其の他の機械を組み立て、見る傾きがあり、其の上に文学の才能が著れていろいろ彼れの作つた詩歌、又は様々の絵画などを彼れの居間にかけて楽しんだ。十五才の時、彼れの母の勧めに従うて、母の所有物である田舎の田地数反を貰つて農夫になつたが、之れには失敗し、後、大学に入って二十二の時に学位をとつて卒業し、二十五才にして光線屈折の発見をなし、此の時、引力についての仮説を立てたのである。

[Kant]

Kant は数学、哲学、物理学、天文学、政治学等を研究したのであるが、彼れが大学で教授した学科は、数学、哲学、論理学、及び地理学である。そ一して、彼れの講義の最も学生にうけのよいのは、地理学であつた。彼れが Encyclopedia 的の学問を廃したのは四十一歳の時で、夫れから哲学問題を専攻して、四十六歳迄苦んで、是れ迄の大家の哲学説に苦んで、大胆なる解決を下し、其の後十二年間、非常なる苦心をして、Kant の哲学純正批判、此の間申しました Antinomy などの考へがなつたのである。夫れで、Kant が生涯の天職に集注したのは四十六からで、之れを確信することの出来たのは五十七才である。そ一して見ると、我々の年も未だ老いたりとするには足りないのである。

[Friedrich 大王]

Friedrich 大王は、王自らも、其の教育家も皆、彼れは文豪に生れたものであると思つた。併しながら、父王は其の傾向には大反対で、若し本を読むところを見られたなら、直ぐ様とりあげて焼かれ、音楽を好んで琵琶のやうなものを持つて楽しんで居ると、父王の目にこまるや否や忽ち叩きこはされた。父王は彼れを優れた軍人たらしめんとせられたので、其の間は非常なる Struggle であつた。彼れは其の呵責に堪へずして逃亡しよ一とせられたが、途中で発覚した為、随行者の一人は斬罪に処せられ、彼れは一年ばかりも宮城の中に閉ぢ込められた。父王と和らいだのは十八歳の時であつたが、次に大衝突をしたのは二十一歳の時。彼れの Niece に当る処の Princess と結婚したが、ほんとの夫婦の關係を保つことは出来なかつた。賢い女王であつたが、無論助ける迄には行かなかつた。夫れで表面上は夫婦であつたけれども、真の夫婦と云ふ幸福は得られなかつたのである。二十八の時、父王が崩ぜられてから大に気づかれて、自分の天職は父王に強ひられた軍人的生活にあることを悟られたのです。実にプロシヤ連邦の Kingdom として今日あるは、王の力と言つてよいのであります。

[Luther]

宗教家の Luther は、ローマ法王、即ち其の時の極力者の前に命を捧げ出して、我れ此処に立てりと言つた大胆不敵なる意志の人であり、信仰の人であつて、如何なる者も屈することの出来ない、如何なる者も其の意志を奪ふことの出来ない勇者であると云ふことは、誰れも信じて居るのである。けれども彼れの若い時は、誠に臆病な神経質な卑屈な様な性質で、

誠に鈍人である。故に学校に於ても其の業に堪へないので、小学校で一朝に十五へん程先生に鞭でうたれたこともある。又、趣味も低く、音楽などは、やはり琵琶のよなものを持って遊んで居た。只、記憶とか語学の天才はあつた様である。夫れで父は、法律の学校に入れて法律家たらしめんとした。彼れは又、文学上詩歌などに堪能であり、健康は薄弱で、理屈っぽい方であつた。1505年の六月、自分の郷里へ帰つて、復校しよと云ふ時に、非常なる雷鳴に逢うて怖くて仕方がないから、尼さんの前に跪いて、ど一か私の罪を許し給へ、其の代り私は生涯 Monk になりますからと言って、折つて居つた。そ一云ふ臆病な性質で、始終罪と云ふことを恐れて居つたのであるから、何でも尼の前に罪を悔いて折れば許されるものと考へて居たのである。さて、雷鳴がやんだ時考へて見ると、自分は尼さんに Monk になると誓うたから、最早誓ひを破る訳にはゆかぬと云ふことから、本意ではないが、僧となる為に坊主の学校に入った。そ一して、人は行ひで救はるゝものではなく、信仰によつて救はるゝものであると云ふことを悟つたのである。今迄は Christ に行く迄に、いろいろな行ひがあり、法があり、使徒があり、マリヤがあり、いろいろの仲保者があつたけれども、直ぐ様 Christ に行かると、Christ が仲保者であると云ふことを悟つたのです。夫れから終に、歐羅巴の宗教改革と云ふ様な大業をも成し遂げたのであります。

[目的を確立して初めて偉大なる力が出来るのである]

故に、人間は其処に目的を確立し天職を見出したならば、全く別人間となり、偉大なる力を現すことが出来るのであります。

私は Friedrich の反対であつた。親は頻りに武に反対し、文に行かせよとした。そ一云ふ人の経験を考へ、又、自分の経験に照らして見る必要がある。私は心やすだてに自分の経験を申すのです。今申したのは、も一故人となつた過去の実例であります、今生きて居る処の例として自分の事を申すのであります。

此の間中も、いろいろの会合があつて行つて見ると、もと私の同県であつた人が沢山集まつて居ります。私の同窓の友の桂と云ふ人の妹が、服部と云ふ知事の妻君となつて居ります。其の桂と云ふのは桂公爵の本家であつて、そ一云ふ人々の祖先は久留米から毛利秀包公について山口に來たのである。私の系図は、其の時から私に至る迄二十一代の間男子が続いて、曾て養子をしたことがない。又、一つの系図から云ふと、代々、村の教育をして、私の曾祖父、祖父、及び父と三代共に弟子が立てた墓がある。そ一して私の祖父は、村のもつれを解いたり仲裁をしたりして身代をなくしたことがあり、三度火事に遭うてまる焼けになつたと云ふことがある。私は、ど一して女子教育に身を捧げる様に決心したかとよくよく考へて見ると、私の先祖は弱い者を助けたのである。又、私は大分忍耐力がある。夫れから、書物を読むことが一番の楽しみである。夫れは皆、先祖が艱難をし、学問をしたからであると思ふ。そ一云ふことを考へて見ると、つまり目的を持つて居ると、此の間うちから申した様に、人間の本能及び遺伝と云

ふものは何処かに伝はつて居つて、其の本能は不完全なものであるけれども、教育の結果、之れを自定し得るものであると云ふことがよくわかるのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十四年十二月六日

明治四十四年十二月六日
大学部全体の為めに

此の前に目的を二つに分けて、其の根本になるものを申しました。併し、其の時に時間が充分ない為めに、此の前に申しました所にも説明の足りない所がありましたので、そこを補つておかないとよくわかりにならぬと思ふ。

例へば、Luther 又は Friedrich 大王、斯う云ふ人は、初めに於て種々の傾向が衝突し、終りに於て統一致しましたこと迄は申しました。けれども終りに又、夫れと殆んど匹敵するほどの傾きが再現して、Friedrich 又は Luther 共に、文学、又は音楽に対する本能も大層活動致しましたと云ふこと迄も申さんとわかりません。

[人格に通じての目的]

天職問題が、我々の生涯をきめるに大切な根本問題であります。けれども、猶總ての人格に通じて必ず起る問題があります。夫れは人生の目的で、之れを研究し、之れを実現するのが、哲学及び宗教の目的である。之れも目的をきめるにつきては必ず我々が研究して、そ一して何よりも一番先きに確定しなければならぬ問題である。此の研究も天職問題を定める前に研究すべき必要があります。此の事も、此の間申さうと思つて時が足りませんでした。故に今日之れを申すとよいけれども省きまして、次に申します。

も一一つ考へておかねばならぬことは、婦人の目的、即ち女子の特殊の目的である。今日は、社会の職分が男女両性に分れて居る気味があるから、之れを論じておかねばならぬ。之れがあなた方の目的をきめるに必要なことであります。

[目的の発達]

其の次に入るべき段落は、其の立てた目的が如何に成長したかと云ふことである。其の実例を挙げて、目的は実に成長、発達するものである。然るに、其の目的が弱つて来ますと、我々の行為も人格も總て、力を失つて来ると云ふことを申さんければならぬ。

之れを歴史的に研究すると、私共が成る程と首肯することが出来、又、之れを育てゝ行く上に参考とするに足る所の経験が沢山ありますけれども、時が許さぬから説きません。

私共の目的も漸次発達するものであると云ふことを覚えておかねばならぬ。

[桜楓樹に比較す]

之れを木に譬へて、桜楓会の理想を表した所の桜楓樹につ

いて申すならば、其の一番根本となつて居るものを意志と言ひ、右の根になつて居るものを感情又は本能と言ひ、左の大きな根になつて居るものを、之れは時々動くものであるけれども衝動と申します。斯くの如きものが目的の根となり、其の上が幹となり、其の上が目的とか思想とか名づくべきものである。夫れから分れて居るから、始めて其の枝葉も榮えて行くことが出来ます。夫れと同じ様に、我々人間の修養に於ても目的が大切で有る。そ—して、其の目的と云ふものは固定して居るものではなく、毎日毎日成長、発達して行くものである。夫れで其の目的の発達を計らないものは、決して豊穡なるみのりを見ることは出来ぬ。決して人としてゆたかなる人生を送ることは出来ぬもの。斯う云ふ風に考へて置かねばならぬのである。

[目的発展の過程]

夫れから、其の目的はど—云ふ様な順序、過程によつて展びて行くかと云ふことについて、其の目的が発達し、永久的強固なる目的が展びるに就いては、いろいろ必要なことがありますけれども、其の中に偉人の研究をして見ると必ずや非常なる試みに遭遇して居る。つまり、通常の人が堪へ得られないと思ふ程の非常なる困難、辛苦に堪へ得て居る。夫れに勝たなければ、斯くは成れないと云ふことを証明して居るのであります。Christ の如きも、其の困難は十字架と云ふことによつて表されて居る。独り Christ のみではなく、Paul にも海の難、山の難、同族の難などにあつたと記されてあつて、斯くの如き忍耐が必要であると云ふことを証明して居ります。故に我々も、斯くの如き経路を通らなければならぬと云ふことを考へねばなりません。

[目的を定むることは自動的研究の秘訣なり]

第二は、其の目的を達する為に、日常生活の上の小目的を作つて進まねばならぬ。即ち、研究の目的を定めることが必要で有る。之れは非常に大事なことで、此の自動的研究の秘訣である所の実力を有効に展ばして行く為に、実に大事な要件である。之れを具体的例を挙げて申すならば、生物で花と云ふものが有り、固体と云ふものがある。併し生物の固体である所の一番大事な要素になつて、中心となつて居るものは何であるかと云ふと、いろいろあるけれども、花が咲き実を作ると云ふことがある。夫れは、種の中にある所の細胞の中に、一番命の芽となる中心がある。命のもとがある。そ—云ふ風になつて行くと、必ず Organism となつて居るが、其の中には必ず集注点があつて、之れを心と言ふ。此の間申した様に、本能が進むと意識になり、更に精神と云ふ公明なものになる。其の精神の中にも集注点がある。その他、何でも我々の目に見える具体的なものになり、しかも集注点を持つて居る。そ—して Organism になつて居るのであります。そ—して夫れが必ず中心点にひきつけられ、支配せられて居ります。故に、何んでも中心点があり、其の中心に支配せられて居るのであります。夫れで何でも具体的なものとなり、其の中に中心点を作つて、他の物と関係をつけ、自分は其の中心点に向つて居る。之れを目的とも言へば、集注点とも言ふのである。

故に、目的を立てると云ふことも、集注すると云ふことも、Rhythm になつて行くと云ふことも、真理は一つであつて、何にでも中心がある。夫れで、目的を立つると云ふことは中心点を見出だすことであります。そこで、一つの書物を読むと云ふことは、其の書物の中心点を見出だすことで、其の中心を見出だすことに勉めない人は、実に徒勞に属するのである。故に、本を読むには要点をとることが必要である。

[読書するには其の View-point を定むべきなり]

或る読書家の言つた詞を引いて申しますならば、我々が本を読むに當つて一番大事なことは、View-point 見地を定めることが必要である。即ち、其の事実を観察する時に、必ず其の事実の意義を察知しなければならぬ。故に書物を読むに、興味と熱心が原動力になる。これを以て有効にしよ—とならば、常に研究の選択をなすべきである。

そこで、研究をするについても目的を持つて研究することが大切である。我が国今日の学生には其の点が欠けて居ると云ふのは、教育の一番の根本を忘れて居る様な感がある。夫れで先づ、有効に力を養うて行く、自動的に研究を遂げて行くことと云ふことは、一番先きに目的を確定して、其の時々の必要で見出だして進むと云ふことが大切であります。

先づあなた方が研究をする上に、孰れの学部に於てもあなた方が一日も離れられないことは、目的を持つて研究すると云ふことで、之れは読書と云ふことであります。

[読書の必要]

書物を読むと云ふことは、只、人の考へ、思想を見ると云ふことであるから、物を考へると云ふこととは縁の遠いことの様考へることがあるけれども、夫れは間違ひである。自分だけの経験、観察と云ふものは誠に狭いものであるから、夫れだけではいけない。既に故人となつた偉人の経験を研究すると云ふことも必要であります。夫れはど—しても読書によらねばならぬ。又、過ぎ去つた世界、或は遠い所に住つて居る外人などに交際する所の電信電話の如きものであつて、いろいろの多くの経験を聞くことが出来、沢山の事実を収集することが出来るのであります。

此の書物を読むに、やはり目的を定めて読まんければ到底有効な研究を遂げて行くことが出来ないと云ふことは、独り科学者、心理学者が証明するのみならず、詩人、文学者、歴史家、其の他多くの文豪達の経験に照らしても、明らかな事実であります。

[読書家の実例]

英国の文豪であり歴史家である Gibbon、又は世界の能弁家として名の轟いて居る所の米国の文豪 Daniel Webster、英国の読書家 Lord Strafford、先づ此の三人の読書の習慣を挙げますならば、又、此の前に申しました毎日平均十二巻づつ読んだ Carlyle の如き人も、本を開く前に先づ自分の内に懐いて居る所の問題、即ち、自分の研究の項目を簡短に大体を書き記しまして、夫れから其の問題について自分の要求する所の項目を定めて、然る後に其の書物を手にすると云ふことである。

其の次には書物を開けて Content を見て、真つ先きに其の

本の目的、即ち其の著者の其の問題についての見地を探すのである。此の著者は、孰れの見地から見たものであるかと云ふことを定めるのである。

[書の読方]

本を読むには第一、其の本の目的と順序とを見ておいて、其の本を読むことにする。

第二には自分の態度で、自分は此の本を何の為に見るか、此の問題について自分は如何なる意見を持つて居るか、又、如何なる知識を有して居るか、又、自分の夫れに対する知識、解釈等は如何なるものであるかと云ふことを考へて、夫れからかゝるのである。斯う云ふ風にすると大層早く其の書物がわかり、要点の段落が早くわかるのであります。之れは易いことの様であるが、中々六ヶ敷いのです。例へば、此のWisconsinのロスと云ふ教授から贈られました斯う云ふ本を、始めからづつと見るならわかりはしません。此の間、一寸御紹介しましたMatter and Memoryと云ふ様なものも、此の間から時間と空間と云ふことを申しましたが、そ一云ふ問題を考へるには、此のMatter and Memoryを読んだらよからと思ひます。之れを彼方の大学に居つて先づ英語には達して居ると言はるゝ教授が見て、何の事やらわからぬと言つたそ一であります。先づ、其のIntroduction、Contentなどを見て、大体を読むならば、此の書物は何を研究したものであるかと云ふことと考へ合せて初めて、其の思想がわかるのであります。

これは小説を読んでもわかる。例へば人形の家と云ふ小説を読むにも、之れはど一云ふ考へを持つて、何を主張したものであるかと云ふことを考へねば、ほんと一の意味はわからないのであります。小説を読むにも、哲学の本を読むにも、先づ初めに其の著者の目的がわからねば、読書の価値を私共にわけることは出来ないであります。

[ゼームス アンゼルク曰く]

之れは非常な読書の大家と言はるゝ人、偉人と称せらるゝ人々の経験であります。又、又教育家としては大学総長James Angellが学生に向つて、あなた方此の図書館の書物を有益に使はうと思ふならば、銘々に目的を定め、研究の秩序を立てゝ其の目的に熟中し、如何に興味あり刺激を与へられる所の書物なり新刊雑誌があつても、其の注意を他に転じてはならぬ。目的に一心にたどつて読書をせよ、と教へられた。

[ポーター曰く]

エール大学総長のポーターは教育家、哲学者、神学家であり、読書家でもあります。此の人の言つたことは、孰れの書物を読み如何に複雑な問題に入りましても、常に有効であり、且つ興味を持つて実力を養はうと思ふならば、必らず一定の目的を持つて読書しなければならぬ。其の目的を持つて読書することは、独り必要な思考力を養ふのみならず、其の読書によつて得たる知識の消化力を健全にするものである、と言つて居ります。

[目的を定めて読書せよ]

斯くの如く、多くの大学総長、其の他の英米の読書家である所の文豪、政治家、歴史家、能弁家と云ふよ一な多くの人の

証明する所によれば、必らず有効なる研究を遂げるには、先づ銘々のうちに銘々の目的を定めて、読書せねばならぬと云ふことになるのです。

斯くの如き経験あり博識なる学者と雖も、この方法によらんければ有効に読書の効果を得ることが出来ぬとすれば、我々未熟なる、猶注意力の薄弱なる学生は、其の原動力である所の其の目的を見出すことから始めねばならぬと云ふことを定むるのは、そ一六かしいことではあるまいと思ふ。

夫れで先づ、研究について、どの学部にも必らず必要な読書のことを大体申しておいて、其の他の研究法については段々に申すことと致しませう。

[実例]

其の研究については、銘々特殊の目的を以て物を調べ、又読書すると云ふことは、之れを實際について申すならば、ど一云ふことを言ふのであるか。夫れを各種の例を挙げて証明致しますならば、私は、この中に普通予科あり、又一年、二年、三年とおいでになるから、其の必要に應ずるために、いろいろ違つた例を挙げませう。

[第一 学部の選択]

第一例は、普通予科のお方が来年の四月からどの学部を選ぶかと云ふ目的を以て、本校から出版した所の一覧を読み、又桜楓会から出ました出版物及び毎月出る所の桜楓会通信を読むと云ふ風にして各学部を調べて、そ一して適當なる学部に入らうと云ふ目的を持つて御覧になれば、普通の雑誌を読むとは大変ちがうのであります。

[第二 支那問題]

第二例には、明治四十四年を送つて、將に四十五年をむかへよ一として居ります。其の大事なる変り目に於て、時代の精神を読む、即ち無声の声をきくと云ふことは、誰れも望む所である。即ち、神とも名づくべきもの声をきくことは、誰れも希ふ所である。其の一つとして私共の興味を起すものは、支那問題、即ち革命である。革命とは、支那が立憲政体を要求するよ一になつたと云ふことであります。即ち支那が立憲政治、代議政体を要求し、東洋諸国が段々と日本に倣はんとし、欧羅巴の老朽國が覚醒せんとして來たと云ふよ一なこと。又、我が校に居りました支那の学生、高等師範に居りました三人兄弟の支那学生、及び二千五百人の支那人が悉く母國の難に赴いたと云ふことである。

其の支那問題を研究すると云ふ目的を以て、毎日出る所の新聞、雑誌などを読むのが、高等女学校で云へば地理、歴史などを夫れと結びつけて教授すると云ふよ一なことである。例へば地理を教へるには、地名のない地図を持たして、毎日の新聞記事によつて段々しるしをつけさせる様になると、毎日の新聞、雑誌などに注意をする様になるのであります。夫れで、地理の先生がそ一云ふことを目的として地図を拵へさせると、子供が電報や第一面の記事に注意するよ一になる。又、私共で云へば、支那問題に関連して世界はど一云ふ大勢に向ひつゝあるか、各國の關係はど一云ふ風になりつゝあるか、其の中で支那は如何なる地位に立つて居るかと云ふ風に、支那人を社会学及び政治学のStandpointから研究すると、大

層おもしろくなって来るのです。この書物は The Changing China と言ふ。之れは昨年も本校へ来ましたロツツと言ふ社会学者が、昨年来御不沙汰したのは此の書物を書く為であったと云ふ手紙を添へて、贈つて参りました。此の一冊に由つても、ど一云ふ風に支那を研究して居つたか、又、支那の為に如何に尽そ一として居るかがわかります。之れは一つの例に申しました。

[第三 地理、歴史の参考]

第三の例は、此に幼稚園、小学校の先生方がある。其の先生方は今、読本で支那のお伽譚を教へて居らるゝ。其のお伽譚を中心にして、まあ幼稚園には六かしいでしよ一が、小学校の少し進んだ所では支那の風俗、人情を子供に教へておかう。之れを教へておくことが、今後の地理なり歴史なりを学ぶ所の参考になるであらうと云ふ目的を以て、夫れを子供にわからせるには、やはり先生自身が之れについての研究をし、材料を集めねばならぬ。其の為に先生自身が書物を調べると云ふことは無論必要なことであります。日本についての学者であるグリフスと言ふ博士が、此の頃、朝鮮のお伽譚を面白く英語に書いて、いろいろ図解をしたものを私に贈つてくれました。之れを読むについては、蒙求とか史記とか云ふよ一な支那の書物を読まうと云ふ興味が起つて参ります。これは子供の為にすることが多いのであるが、又、病人の為にいろいろお伽譚を読み、又病人のある時に慰めるよ一なものを、病床について読んであげる時の例にもなります。

[第四 動植物教授]

第四には、動植物など教へる時の例に、私は Tripoli を引いたのである。Tripoli は皆さん御承知の通り Italy と土耳其とが干戈を交へた始まりである。そ一云ふことについて知りたいと云ふ興味が起る。この間、或る晩に私がよ一へ行きました時、其の家には中学校の生徒も女学校の生徒もありまして、お父さんをとりまいて Tripoli は何処であらうと云ふ話になつて、夫れから調べよ一と云ふことになりました。そこで、伊太利の都から Tripoli へ軍艦を送るにはどれだけの距離があるか、それを調べよ一と云ふことになりました。

斯う云ふ訳であるから、動植物などを教へて居る人は、Tripoli の動植物などを教ふるよ一いのである。私は Tripoli について、一つのことを調べて居りました。夫れは Tripoli から少し離れて北の方へ行つた所に Bon と言ふ嶺がある。其所から伊太利の Rome 迄 341 哩ある。其の Cape Bon から鶉が Tripoli 迄飛んで行くのに一分位かゝる。然るに、其の鳥は全力を尽して行くから、向ふへ行きついた鳥は多くは斃れて了う。夫れを解剖して見ると、他の凡ての部分皆 Exhaust して居るけれども、唯一つ保存せられて居るものは神経系統のみであると云ふことである。

又、或る鳥は一時間に九千哩から飛んで行くと云ふことを研究した人があるのであります。斯う云ふ風に Tripoli と云ふ問題をとつて、夫れから夫れへと研究して行くと、いろいろの事実があがつて来て大層おもしろい。そ一云ふ風にして教へると、只暗記させらるゝと違つて子供が忘れないのであります。

[第五 研究の目的]

第五には、之れは私の経験から云ふと夢のよ一なことであるけれども、何時かほんとなるかもしれぬ。例へば私が来年度の三月か或は九月頃から欧羅巴の方を視察の目的を持つて旅行をして来よ一と云ふ目的があるとする。そ一すると、伊太利へ是非行かねばならぬ。伊太利では、其の国の美術とか風俗、人情、人種などの研究をすると云ふ目的を以て調べると、地理の興味も大層深くなるのです。

[第六]

第六は、同じ目的を以て伊太利から仏蘭西について調べることとする。

[第七 心理学の研究]

第七は、あなた方が心理学を研究する時に、只心理学の爲めにしよ一とすると、余り熱心が起らない。けれども例へば、此の前に実力を養ふと云ふことがあつた。其の実力は何かと云ふと、経験の蓄積せられたものである。夫れは何かと云ふと、本能の力である。夫れから、記憶は何であるかと云ふと、判断力と云ふよ一な根本の力を養ふにはど一したらよいか、夫れにはど一しても心理学を研究しなければならぬ。其の目的の為に書物を選定して読むならば、非常に面白くなるのです。

[第八 伝記を読むこと]

夫れから、教育部のお方が、先づ教育家たるべき資格を養はねばならぬと云ふ必要から、Pestalozzi, Comenius, Frobel などの伝を読むならば、非常に有益であります。

[第九 哲学研究]

第九は、此の間からあなた方の少し調べたいと言つて居られた、時間と空間との問題。之れを調べるには、哲学史の中でも Kant, Plato, Aristotle などを特によく調べねばなりません。又、少し進んだお方は Bergson の Matter and Memory を読むとか、之れの読めない方は丁酉倫理学会雑誌によつて其の評論を読んで見るとか、方法はいくらもありません。

之れは、私共から大学部の方、並びに高等女学校、小学校に至る迄、夫れ夫れ必要であると思ふことを例にひいて申したのでありますが、先づ此の九つの事実を解釈致しますならば、研究の目的、即ち今挙げましたよ一な種類を分類して見ますと、凡そ、それから二大要目となるのである。

[目的の根は内に存す]

其の第一は、目的の樹の根は必ず其の人の内に存在して居るもので、其の種類は千差万別あるけれども、其の目的の価値は銘々の興味、熱心、欲求の広狭深淺にある。一言に言へば、其の目的の根は銘々の内にある。其の価値は、其の興味なり、熱心なり、欲求なりの広狭深淺によるのである。

例へば、今の旅行の目的で伊太利、仏蘭西を調べると云ふこと、第七、第八、第九の如きもの、斯う云ふこと目的は知的目的に根ざして居る。

[利益を目的とす]

其の次には、第一の、学校の一覽其の他を読む。つまり自分の学科を選択するために調べることや、第七の実力を養成する為に心理学を研究する如きは、畢竟自分の利益と云ふこ

とに目的を持つて居るから、利己的興味に属するもの。

[利他を目的とす]

其の次は、第二の支那問題、夫れから、幼稚園の子供又は病人を慰めると云ふ様な目的で研究致します。之れは子供とか病人とか云ふ人のためにするのであるから、利他的興味を目的とするのであります。

そ一云ふ風に分類して見ると、其の目的の根が、其の人の内にあるのである。

[集注点を作ること]

第二は、其の時々の集注点を作ること。之れは根本問題に關係して居るけれども、其の時直接であり適切であるとは限らない。故に、其の特色として挙げるものは、其の問題は狹隘であり、或る定まつた所の範囲に限られたもので、具体的な目的である。故に特殊の問題は、比較的一範囲に限られた小目的であります。

例えば Biology と云へば大きな学問でありますけれども、今日私共の研究する所の目的は、直接關係ある所の問題を見出さねばならぬ。例へば、農芸係の方が前から問題である所の蜂蜜を作るには一体如何にすべきものであるか。今迄のは何故に成功しなかつたか。其の障害は何であつたかと云ふよ一なことを調べねばならぬ。

[障碍物を如何にして除くか]

第三には、其の障碍物はど一したら除かれるかと云ふことを調べなければならぬ。

そこで、凡そこの特殊の問題の根は内にあること、大問題に比べては小さいこと、大問題に対しては其の問題は手段であると云ふことがおわかりでしよ。

[普遍的目的 特殊的目的]

も一一つは、教育の問題に普遍的目的と特殊的目的とがある。特殊的目的は狭い範囲の具体的な目的である。故に、特殊のものは一範囲に限られた研究の目的である。

普遍的目的は知的訓練で、アメリカの動物学者の泰斗 Agassiz は、学生達の自分の専門の研究をさせるに、余り手をとつて導くよ一なことをしなかつたのである。学生を成るべく自動的に研究させたのである。つまり彼の Agassiz は、専門の研究をさせるに、先づ知的訓練をすることにつとめて居つた。故に、如何なる専門の研究をするにも、此の研究力、興味力等を養はせたのであります。

[道徳的判断力 価値ある行為の習慣力]

其の次は、ど一しても忘れてはならぬ所の訓練は、修養であります。つまり、道徳的判断力が出来、価値ある行為の習慣力を作ると云ふこと。之れは如何なる学問をするにも、総てに包含せらるゝ所のものであります。故に教育の究極目的は、つまり我々の行為、人格を發展すると云ふことにあるのであります。つまり、価値ある生涯を送りたいと云ふのが、我々の根本の目的である。此の様な普遍的目的を常に忘れてはなりません。

[二種の目的は相共同す]

特殊の目的は、も一説き明かさなくてもわかりましよ一。私共が何をするにも、此の二種の目的を並行させねばなりま

せん。二種の目的は互に相反せざるのみならず、却つて相共同し、相助くる所のものであります。故に、人、若し精神力を増進して行き、真理を愛する力を強烈にし、目的を達せんと欲するならば、必らず専門的研究を忠実にし、有効にして行くことは疑ひを容れないことである。

此の二種の目的は相反せざるのみならず、実に相共同し、相反して、教育の目的を完全に果して行く所の要件となるものであります。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十四年十二月十三日

明治四十四年十二月十三日

大学部全体の為に

今日は、此の段落だけを成るべく終りたいと思ひますが、初めに大分時間をとりましたからど一かと思ひますが、大体を申しておきたいと思ひます。

[普遍的目的と特殊的目的の關係]

此の前に、研究の目的を普遍的目的と特殊的目的と二種に分けてお話をしました。併し、どの種類の目的と云へども、必ず普遍的目的に叶はねばならぬ。如何なる特殊的目的と云へども、観察力、思考力、判断力、修養と云ふ全体的目的を離れることは出来ぬ。即ち良心とか審美的目的の方から云へば、趣味、そ一云ふ普遍的目的、即ち人格を改善すると云ふ様な普遍的目的を持つて居なければならぬ。如何となれば、此の特殊的目的を有効に達するには必ず、其の普遍的目的を離れてはならぬ。又、最終の普遍的目的を達するには、必ず此の特殊的目的を除いては出来ぬ。委しく申すならば、人生の目的を遂げるには、特殊的目的、即ち時々刻々の目的、部分的の狭い目的を持つて居なければならぬ。即ち瞬間瞬間の目的が明らかに定まつて居なければならぬ。如何となれば、只、大目的だけを確定して、其の日、其の日の目的を確定せず、其の仕事の目的を立てることが出来なければ、其の仕事の原動力を得ることが出来ぬ。熱心、興味を以て確実に仕遂げて行くことが出来ないからである。

[常に大小目的の共在が必要である]

併し、此の小目的は大目的に關連して居なければならぬ。又、小目的は大目的の手段とならねばならぬ。故に、大目的と小目的とは共在して居つて、互に助け合つて行かねばならぬものである。

我々が生涯の目的を完全にするには、其の大目的の外に特殊の目的の共存して居らねばならぬと云ふ理由をあげて見るならば、

第一、特殊的目的は人間生活の實踐的生活、或は知的生活におきまして、其の原動力となるものであるからである。如何となれば、人生は四圍の境遇と常に戦はんければならぬ

い。種々の困難、いろいろな六かしいことと争ひをしなければならぬ。人間誰れか目的なからん。誰れか進歩、発達を望まざるものあらん。誰れか意志の自由を願はざるものあらん。然れども、其の望みを全うし、其の願ひを満足するものは少ない様である。之れを以て観れば、研究をすること、人格を高めること、全体を向上させると云ふことは容易な業ではない。非常に努力のいることであり、非常に奮闘のいることである。其の六かしいこと、苦しいことに勝つて、屈せず、撓まず、身を犠牲にして進むと云ふことは、非常なる興味、内から爆裂する爆裂弾の如き衝動が起り、其の衝動が統一して活動的意志が出来なければ、人間の価値ある活動が出来ません。其の人間の爆発力、向上心、即ち此の人間の原動力が常に盛んに動いて居なければ、到底私共の研究も出来ず、又私共の行為も全うすることが出来ない。其の原動力となるものは何であるか。其の原動力を盛んに起すものは何であるかと云ふと、特殊の目的を持つて居る、大目的に叶ふ事に向つて奮闘して居ると云ふことである。つまり、私共の力は注意力の集注に由つて出来る。其の注意力を集中することは困難であるけれども、其の困難に勝つて進むことの出来るのは、我々の内から起る処の特殊の目的であると言ふことが出来ます。

夫れで、学生の学問を奨励し、子弟の躰を充分にする為に、或る父兄、或る教育家は、其の原動力の為に罰を以てする。威厳に背くならば、威厳を以て脅迫する。或は、試験と云ふ責め道具を以て勉強し、修養を積ませよと試みる。之れは全くきゝ目のないではないが、酒や阿片を用ふると同じことで、一時的のきゝめは見えるけれども、其の一時的の効果は却つて、展びんとする自発力を滅殺するものである。

[永久の発展は自定の目的に動くことである]

故に、此の人間を永久に発達せしむる処の原動力は、自定の目的に由つて動かして行く、自動せしめて行くことと云ふより外によい道はないのである。又、之れに由らんければ、ほんとの注意、集注を成功することは出来ぬ。其の他の方法にもいろいろありますが、併し其の目的を確定するものにして主義一貫し、意志強固なる人間にして、曾て注意力、集注、原動力の発現に失敗したと云ふ者はないのである。

故に、我々の実力、我々の意志を一層強靱にして、一層深甚にするものは目的なりと言ふことが出来る。常に失敗の歴史を重ね、不満足なる生活をして居る者は、目的を確立することの出来ない、意志薄弱な人間であると言ふことが出来る。[目的は具体的でなければならぬ]

其の目的は斯くの如き原動力を与へる。目的は具体的でなくてはならぬ。如何となれば、普遍的、即ち広く且つ大なる目的は抽象的に統一したものである。故に適切なる興味を惹き起し、強甚なる熱心を燃やすと云ふ様な力を持たないのである。此に其の实例を挙げて証明する筈であります。之れは省きまして、只、一、二の学者が此の研究的生活に成功した实例を申すならば、詩人(空白)曰く、我々が目的を有して居る瞬間は、注意力の覚醒した時であり、記憶力の敏活なる時であり、総ての知識の完全なる順序に統一さるゝ時で

ある。如何となれば、総ての知識、事実が永久成長する興味を中心点に知的関係を結んで進むからである。

其の他、之れに類した経験を多くの学者が申して居りますが、其の目的ある瞬間と云ふのは、無論多方面の深い興味を持つことが、もう少し広大なる且つ甚深なる能力に必要であると云ふことは無論であるけれども、往々にして斯くの如く広き目的は、屢々適切且つ猛烈なる興味を欠くことがあるのであります。故に、高等の教育を受ける者、及び普通教育を勉めるものにとつて、此の特殊の目的を以て修養に勉め、学問に励むと云ふことを怠る結果は、遂に無常識に陥り、無能力に終る様な結果は決して珍しくないのである。例へば卒業論文、又は進級論文に於て、適切なる論題をつかまへること能はず。又は其の論題を力ある様に、興味ある様に論述すること能はず。つまり、其の創始的作物を産み出だすことの出来ないと言ふ様な例は沢山あります。夫れは何によるかと云ふと、其の教育が特殊の教育を怠つて居るからであります。

又、高等学校を終つて大学に入る時、或は普通教育を終つて特殊の教育を受けよと云ふ時に至つて、力の顕れないのは、入学の始めに於て只、試験の楽なものを選ぶ、つまり生涯の大目的を定めること能はずして資格は欲しい、証書が貰ひたいと云ふ所から、己れの適性と天職とか云ふことは、一向考へずして入学するからであります。

其の卒業生にして、今日就職難に苦しんで居るものが沢山ある。又、一通りの学問は出来て居るが、其の人間を何に使つて宜しいか、使ひ道がない。自分も、何でも宜しいからどうぞお使ひ下さいと言ふのである。之れ等は教育の道宜しきを得ず、志を立つること明かでない処の通弊と言つて宜しいのである。

[瞬間の目的がなければ停滞する]

又、今日の学生に意気が乏しいと云ふこと、又、今日の女学生について云つても、在学中は元気な様であるが、卒業後意気消沈して停滞するのは何の罪であるかと云ふと、つまり之れ迄教育を受くる間に、又、子供の時から其の瞬間瞬間に自分の目的を見出だし、目的を集めることを欠いて居る。之れが今日の無能など云ふ有様を呈して居る処の原因となつて居ると云ふ観察は、決して間違つて居ないと思ふ。

独り学生のみならず、今日の大人となつた者に元気の衰へた者が多い。即ち官吏のふるて、又は時勢の落第者と云ふ者が壮年に沢山ある。斯くの如き者を遊惰者と言ふ。併し、近来そ一云ふ人間が殖えたと云ふわけではない。又、始めからそ一云ふ人間に生れたと云ふ訳ではない。あなた方が、金持ちでも貧乏人でも学者でも学生でも、そ一云ふ人を御覧になれば直ぐわかるのです。

[煩悶は自定の目的がないからである]

併し、彼れ等と云へども一度目的を見出だし、境遇を開いて地位を得ることが出来たならば、必ず元気が出るのである。女でも、そ一である。何故に Hysteria になるか、何故に煩悶して居るかと云ふと、自分の内にある目的を見出だすことが出来ず、ほんとの活動することが出来ないからの煩ひである。そこで今言ふたのは、原動力と云ふことを申したので

ある。あなた方がほんとうに成功の秘訣を見出し、無意味でない処の生活をなさるには、第一、目的を見出さねばならぬ。

[目的は養はねばならぬ]

第二は、其の目的を養うて行かねばならぬ。其の目的の木が枯れない様に、生々と育つて行く様にしなければならぬ。其の命を養ふには、夫れを培養するものを与へんければならぬ。即ち生きた知識、生きた経験を貯へねばならぬ。其の経験を積み、知識を貯うて行くには、**只むやみに**事実を収集し、**むやみに**経験を積めばよいかと云ふと、是れ又目的ある様に集めねばならぬ。夫れは、

第一、材料の選択
第二、材料の Organization

と云ふことであります。第一は、目的を立て、選ぶこと。第二は、真に消化する様に、つまり知識が目的になつて了うことである。**只むやみに**材料を集め、知識を貯へよとして、出来ることではない。必ず之れを目的に従うて整頓して行かねばならぬと云ふことであります。

[真の勉強]

そこで、この勉強と云ふことは、只知識を収集することではなく、知識を分類し、事実の価値を実現すると云ふことでなくてはならない。然しながら、此の私共の目的の養ひになり、生活の血となり肉となる処の実質は、其の事実、其の人間の経験と云ふことに土台をおかけねばならない。其の価値ある事実と云ふのは、証明し得る事実でなければならぬ。即ち Perceived fact 又は Apperceived fact、即ち、我々の経験の出来る事実でなければ価値はないのである。只空に頭の中へ描き出したものでなく、証明し得る事実でなければならぬ。其の証明し得る事実と云ふのは、我々が先づ経験に由つて、確實なる事実と云ふことがきまり得なければならぬ。

次に、其の確實なる事実には、必ず其の事実の価値と云ふものがある。即ち、目的を達する処の品質 Quality がある。其の品質を経験し、説き明かし得る処のものでなくてはならない。

そこで、此の知識なり、材料なりを集めると云ふことは、秩序に応じて進み、選択に由つて精選しなければならぬ。其の働きを二大別して、(1) Description 記述

(2) Interpretation 解釈

と致します。此の記述とは、ど一云ふ事かと申しますと、Coexistence 共在と Resemblance 類似と云ふ二つの点を以て記述し、分類して行くのである。

例へば動物を分けて、哺乳獣と云ふことは乳をのませると云ふことと、背骨があると云ふことが共在して居る。此の共在して居ることと類似して居ると云ふことを以て、記述的に言ひ表すのである。

之れを Descriptive science と言ふので、動物学、植物学、解剖学と云ふよ一な学問は記述的の System により、又そ一云ふ目的でするのである。

第二は説明的、解釈的過程である。前のは共在と類似であつたが、今度は断続の順序で集めて行く。即ち前件と後件、即ち、原因と結果である。之れから原因、結果の法則を見出

だして行くのが Interpretation である。つまり事実を収集し、知識を集めて、其の中から私共が必要なる知識を組み立て、行くのである。つまり、分類と解釈との働きをして進まねばならぬ。其の働きが凡そ四つの階段に分かれて行くのであります。

[研究の四階段]

あなた方がほんとうに研究を有効にしよと思ふならば、ど一しても次の階段をふまなければならぬ。

- 第一、観察
- 第二、帰納
- 第三、演繹
- 第四、証明、即ち最後の観察

第一は第二の準備となるので、第一は非常に想像力が入つて居る。第四は実験と云ふ風になつて来る。此の四つの仕方、今日の研究が有効なるものとなつたのであります。

之れを中世紀頃の知識の集め方、事実の集め方に比べるとど一かと云ふと、昔のは全くの演繹法で、之れ迄あつたもの、批評を試み、間違ひを見出だすことばかりをして居つたのである。今日もやはり其の流れを受けて、演繹ばかりをして居るから進まないのである。

[有効なる生活は此の階段を通らなければならぬ]

此の四つの階段を通つて、Rhythm 生活をとつて行くことと云ふことが出来て始めて、私共が有効なる生活をする事が出来るのである。之れをしないと、生きた知識を磨き、生活を有効にして行くことと云ふことが出来ないであります。之れを、今日委しく申す時がありません。併しながら、先づ其の方法だけわかつておいて、之れを実際の生活に経験すると云ふことを始めたいと思ひます。

[中表紙]

豊明寮記念式の御話
明治四十四年十二月十七日

明治四十四年十二月十七日
豊明寮記念式にて

毎年十二月の十七日をトして豊明寮が出来ました記念の為、並びに豊明教育部の成り立ちましたことを記念する為、豊明会の方と其の豊明寮の為に邸地を借し渡して便利を与へて下さいました寺田勇吉先生とをお招き致しまして、其の日には夕飯をさし上げ、何か生徒の考案になつた所の余興、又は其の意味を現す所のものを、お目にかけることが例になつて居りました。然るに今年は夫れもよいが、猶ほ森村翁並びに其の他関係のある方から、何か寮舎の為になるお話を伺うた方がよかる一と云ふことが、豊明寮舎一同の考へでありました。そこで、そ一云ふことは殆んどやめまして、一同の元氣を引き立て、実行に勉める力となる様なお話を伺ひ度いと云ふことであります。然るに、今年は氣候が寒い為に空氣が

乾燥した故であるか、寺田先生もおいで下さいましたが、少し御風邪の所をおしておいで下さったのである。森村翁も先日から病気でありまして、五分間でもよいか一寸だけ出よ一と云ふことでありましたが、又昨夜手紙が参りまして、ど一も風にあたるのは直しくないと言者の忠告であるから、残念ながら今日は欠席するとのお断りでありました。故に、私は森村翁に代つて其の所感を述べたいと思ひましたが、森村翁は病気であるにも拘らず、私が話して貰ひたいと申しておきましたことについて、委しく手紙に書いて送られました。夫れで、其の手紙を読めば森村さんのお考へを述べらるゝ代りになるのであるが、夫れでは一面を表すだけで、も一つ他の方面を表すことが出来ません。故に私が其の所感をお話するに当つて、森村翁だけを現しては物足りない様である。又、森村さんが此処に立つて仰しやる時には、多分そ一云ふ考への多くの人を代表して述べらるゝとであろと思ふ。故に、我々と殆んど一心同体となつて、日夜此の学校のために尽さるゝ先輩達の考へを代表して申した方が、今年の此の会には適当であろと思ふ。又、毎年、之れは豊明寮並びに豊明教育館の記念式ではありますが、時は丁度、十二月の冬至の一週間前である。之れは一年の一番しまひであり、將に新年を迎へよ一とする時である。此の時期に於て、我々は一年の事を顧みて、將に來らんとする新年の計画について考ふべき時である。故に、もう少し広い意味を以て此の記念式を致したい。其の一人である森村翁。私も其の一人である。其の他の団体、及び此の女子大学、並びに此の母校の娘である桜楓会と云ふ団体に対して、私は一言希望を述べて見度いと思ふのである。此の一週間ばかり前の、此の年の終りに於て毎月会を催したのであります。

[本校に対する先輩の熱心]

此の寒いにも拘らず、且つ今内閣の閣員等は予算もあり、支那の問題もあり、非常に忙しい時であるのに、西園寺首相、長谷場文相、一個人の資格ではあるが揃うて御出席になり、其の他、渋谷男、神奈川県知事と云ふよ一な方が揃うておいでになり、殊に此の間は熱心に意見を述べられました。そ一云ふ事によつても、如何にそ一云ふ方々が此の学校の為めに熱心に尽さるゝか、そ一云ふ方々の此の校に対する熱心は少しも衰へて居ない。然るに、此の学校に熱心にお尽しになり、何時もそ一云ふ集まりのある時には欠かさず出席して居られた方々の健康は如何でありますか。

[森村翁]

昨年は炎天燠くが如き八月に、森村翁、渋谷男と云ふ様なおとしよりが態々越後迄暑を冒して出掛けられたのである。又、今年四月には其の上は大隈伯までが揃はりまして、毎日数ヶ所の演説会を催し、此の女子大学の為揃うて出馬せられたと云ふことは、実に珍らしいことである。其の熱心な森村翁が此に出席が出来ないと云ふのは、ど一云ふことを意味するのであろ一か。

無論大した非常に重い病気が襲うたと云ふ訳ではない。只、左の肋膜の下に先年肋膜を煩うた痕跡がある。其所に微症を感じたから、此の上に風でも引かれてはならぬと云ふ医者の

忠告であるからである。之れは古希を過ぎた所の老人として厭はるゝも無理はない。医者の心配も尤もなことでありませう。そ一云ふ訳で、年から云つても医者の考へから云つても、斯う云ふお方がそ一長く生きらるゝものではないと云ふことは、誰れが考へてもわかる話であります。

[大隈伯]

百二十五才まで生きると叫んで居られた大隈伯も、此の頃胃潰瘍にかゝられたのは、今から二週間前の事である。元氣なお方であるから、此の間も毎月会に出かけられたのである。斯う云ふ方でも何時迄大丈夫であると云ふことは、誰れしも保証は出来ないのです。

[廣岡夫人]

又、創立以前から非常な元氣で尽力せられ、其の元氣には誰れも右に出る者のない廣岡夫人も、此の前、記念式に出て一場の話をして歸られた後、少しく不快を感じられ、其の後大病に罹り、危い目におあひなされたのですが、此の頃漸う汽車に乗つて歸られました。

[三井三郎助氏]

又、毎月会には必ず出て來られた三井三郎助さんも糖尿病にかゝられた。之れは大したことはないけれども、この夏頃から段々瘦せて病褥に親まれ、未だに静養して居らるゝと云ふ有様。

[大倉孫兵衛氏]

夫れから、此の図書館を建つる時にも非常な元氣を持つて此の設計を倍にせられた大倉孫兵衛君も、数年前から脳溢血に罹つて、ど一もはかばかしくお治りなさらぬ。

[渋谷男]

渋谷男爵は達者であります。或る学生が獨逸に留学せらるゝ、其の一人の学生を思ふと云ふことは、延いて國家の爲めに慮る所があると云ふ訳で、言つて置きたいことがある。夫れは三年後歸朝してから話してよいことであるけれども、男爵自らも、も一三年はど一かと云ふ考へを持つて居らるゝ。故に今話しておきたいから、其の席に私も列する様にとのこと、先日呼ばれました。

夫れから此の学校創立に當つて伊藤公についで骨を折られた山縣公。此の間或る宴会の席であひましたが、御病氣は如何でございますか、少々御不快のよ一に承りましたが、と云ふ私の尋ねに対して、今日も此に濕布して出て來ましたが、ど一もさつぱりしないで、と何やら息苦しそ一な御話でした。女子高等教育を育つる為に非常なる後援者となつて、多大なる力を尽して居らるゝ方々は、多くは六十、七十の老人である。そ一して、も一余り長くは生きられぬと云ふことを覚悟して居られる様です。夫れについては、自分達の斃れた後は自分達の考へを継ぐものは何人であるか。自分の息子であるか、自分の關係して居る所の団体であるかと云ふことを心配して居らるゝことは、私は御面会する時の口氣によつてわかるのであります。

昨年来、森村翁、渋谷男、大隈伯などが打揃うて出馬せられたのはど一云ふ訳かと云ふと、我々の身体もあてにはならぬ。故に、我々の目の黒いうちに出かけよ一と云ふ熱心から

であります。斯う云ふお方が愈々瞑せらるゝ時は、自分の希望、自分の意志を残しておきたい、継いで欲しいと云ふ考へを起さるゝに違ひない。そ一云ふ人達の臨終に於て、我々はど一か其の意志を慰めたい。そ一云ふ時は葬式を盛んにし、時々記念式をも催したいと云ふ考へが起る。夫れもよいことであるけれども、夫れだけではなにもならぬ。

洗濯さんなどは晩節香など言はるゝ。誰れしも晩節を香しくしたいのは人情である。私共は其の晩節を未だ余命を持つて居らるゝ間に、我々は意志を相続するつもりであります。ど一か希望があるならば、腹藏なくお話を願ひたい。我々は出来るだけ、夫れを相続したい考へであります、とあなた方はお考へになるに違ひない。又、先輩にも必ずそ一云ふ希望があるに違ひない。

故に私は、森村さんは無論の事、そ一云ふ先輩に代つて、今日あなた方に之れを申しておくことが必要であらうと思ひます。そこで、ど一云ふ詞を以て表したならば皆さんの意中を表すことが出来るでありましょ一か。

今日は豊明寮、豊明教育館の記念式であります、其の豊明館並びに豊明教育部の種になりました所の其の豊明教育部を新設致しました時の我々の希望、又其の時の教育部に入らんと志した所の学生の決心と云ふものを纏めて私の話しましたことが、或る人の集めたものに載つて居ります。夫れは、「私共が此の豊明教育部を立つ所の誠心は、教育家の元祖の如く崇められて居る所の Pestalozzi 先生の意志に倣うたのである。又、教育家たる所の人格を養ふには Pestalozzi 先生の如き人格、意志を再現することが必要であります。」
[Pestalozzi]

Pestalozzi 先生が生涯、教育に尽瘁して、もはや年の終りと云ふ時に自分の弟子達を集めて、殆んど遺言とも言ふべき切実なる話をせられたことがあります。私は、この先生の詞をかりてお話することが適当であらうと思ふ。先生は随分長生きをせられました。大きな学校も建てられたけれども、生涯失敗に終つた人である。成功は出来なかつたのである。夫れは弟子達が、一致が出来なかつたからである。目的の爲めに己を忘れて猛進せられなかつたのであります。

ニーデレルと云ふ人は哲学、論理学に長じて、外部に向つて先生の主義を広むることにつとめ、先生の右腕となつて事業を助けられたのであります。

又、シミツドは実行の才能に長じ、内に教授となつて財政を整へて先生の左腕となつて働いた。然るに、この二人の間に面白からぬ感情齟り、互に嫉妬し猜疑した。先生の高徳も終にこの卑劣なる感情によりて破壊せられ、良教師は離れ、日を逐うて生徒は去り、先生の当に死なんとする時、再び閉校の止むなきに至つた。先生は千八百八年、校運の將に全盛を極めた時に、この禍根を見出だし、其の一月元旦に於て血を流し肉を割き命を致して、此の人々に忠告演説をされた。これ実に先生の最後の言葉と言ふてもよい。

[Pestalozzi 最終の演説]

旧年は去り新年は来れり。今、余は諸子の間に立てり。

諸子は余を以て喜びに充てりと思ふならんも、余は胸中一

つの喜びなく、只余の終りは近づけりと考へらるゝ事、頻りなるのみ。今や余が頭上には天よりの声響く。「神の僕よ、其の職務の報告書を出させ」と。余は完全なる報告書を得べきか否か。又、余は神に對し、人に對し、自分に對し、忠実なりしか否か。余は幸福なりや。余の幸福なりと云ふ声は蜜蜂の翅の如く響く。余は今死なねばならぬ。然れども余は其の幸福をうくるに値せず。

故に余は幸福ならず。過ぎ去れる年々は幸福なりしも、もはや歩まんとする途上の氷は解けたり。余の天職は全く失敗に歸せり。互の關係を結べる最も強しと考へたる結合力は、最も弱かりき。余が救はれんと思ひしことは全く滅亡に歸し、平和ならんと思ひしは偽りにして、慈愛は実に冷酷なりき……

余は誠にあはれなる、謙遜なる、不徳なる、価値なき、無能無知なる者なりき。然し自らの力足らぬにも拘らず、仕事に猛進せり。世の人は狂氣と嘲りしも、大神の手、我れと共にあり。而して余の事業は栄え、余と余の事業を愛する友人を得たり。然し余はなしたることを知らず、余の爲めに何が必要なりしかをしらず。然れども余の事業は無一物より榮ゆるを得たるは、恰も天が混沌の中より天地を創造したるが如し。これ、余の仕事にあらずして、神の仕事なり。願はくは、神の働きによりて我々の新らたなる結合を計り給へ。其の結合は悪人の使ひの如かず。天使と天使との一致の如きを望む。余、往年虚弱の身体を以て馬の危難より逃れしを不思議に思ふならんも、その不思議にもまして不思議に余の事業の保護されんことを望む……

余は間もなく死するも、今日のこの言は永く諸子の胸中に命あらしめよ。友人諸君、余の生涯にて失敗せる仕事は諸君によりて遂げられんことを望む。諸君は前途の障害物を除き、余の失敗に省みて其の轍をふむこと勿れ。諸子よ、外面的成功によりて欺く勿れ。諸子は実に重大なる犠牲を要求されつゝあり。何事も犠牲を以て始めて完全に発達するものなり。現在の喜悦、名譽は野にある草の如くに凋み、春咲く花の如く散りうるものなることを忘るべからず。

恰も正月の朝、此の不縁起なる演説を試みられたが、其の後、校運は次第に衰へ、良教授は日を逐うて去り、間もなく、氏と共に多年困苦を共にし、事業を助けた妻は逝きました。氏は余命を田舎にある孫の許に養ひましたが、世評漸く悪しく、一新聞記者ビーバーは非常なる誤解を以て之れに妨害を加ふるに至つた。氏は之れに弁解の語を為さんとし、一論文を書きつゝ永眠された。其の臨終に、

今や瞬時にして、余は黄泉の客たらんのみ。余は敵を許せり。彼れも又枕を高うして眠るを得ん。余も亦限りなく眠らんとす。余は余の答弁を終らん為、六週の生命を望みしも、天、之れを許さず。

斯う言はれて、遂に眠られて了つた。妻もなく、子もなく、友もなく、財もなく、学校もなく、遺業もなく世を終られた先生の生涯は、大失敗であつた。然し、かくの如き大失敗をせられたから、先生は大偉業家であると云ふことを、我々は認め

るのである。先生は其の子弟達に向つて、私の余命はも一幾ばくもないと思ふ故に、おまへたちは、ど一か協力一致して貰ひたい。一言で言へば、互に過ちを赦し、互に広い心を以て同情し、目的を以て一致協同して貰ひたいと云ふことを、最後に折られたのである。併し、先生の最後の演説、意志と云ふものは子弟達にだけ要求せられたのであろ一か。先生の眼中には失敗はないのである。其の時見て居つた成功と云ふものは、先生の眼中にはないのである。私は、夫れが此の学校に力を致された先輩諸君の意中であるか否やと云ふことを、皆さんと共に考へたいのである。

[本校の評議員]

此の学校の評議員達が、此の事業を永久に強固ならしめんとし、又、世の変遷について主義を枉げない様に、外部の誘ひに動かされん様にするには、兎も角も自活して行くだけの基金がなければならぬ。其の基金がない為、一時学部を縮小し、必要なる教授を休んで貰ふと云ふこともあつた。夏暑いのに先輩達が基金募集の爲に出馬せられたのは、只基金募集の爲であろ一か。只金が出来さへすればよいであろ一か。そ一云ふことで決して此の学校の維持せらるゝものではない。

此の二、三年前から、いろいろ境遇の圧迫、困難が多くなつた為、学生の向上心が鈍れた様である。其の爲か、此校の学生の数も少し減じて居り、世間からもいろいろ攻撃を受けることがあります。然らば、此の学校が隆盛になつて、誰れ一人批評する者もなく、天下の秀才を悉く此の大学に集めることが出来たならば、成功と言はれよ一か。私は決してそ一は思はないのです。

然らば、此の学校は昨年以來文部省の検定資格を得たのである。其の教育学部としては未だであるけれども、動物、植物、物理、化学と云ふよ一な試験を受けて及第したものが沢山ある。之れによつて自分達も自ら信ずることが出来、文部省も幾らか認める様になつたかも知らぬ。或る人は之れについて、鬼の首でも取つたかよ一に喜んで居る。又、失敗したものは殆んど死ぬかの様な思ひをして萎れて居る人もある。

今日の青年は斯う云ふことで往々自殺する者もあるのである。然らば、此の卒業生に資格を得た者があると云ふことで、校風が生れたと言ふことが出来よ一か。私に言はずれば、夫れは出来ぬのです。

成る程、そ一云ふことは一つの手段である。そ一云ふことも必要であるから、いろいろ心配もするのである。けれども多くの先輩達が尽されたのは、そ一云ふことの為ではない。私共は過去三十年の間、日夜困難と戦つて今日迄参りました所の目的は、そ一云ふものではないのである。

此の間から大学の方で頻りに希望を申して居る。何所へ皆さんが集中して行つたならば、其の希望を達せらるゝかは、此に喋々する迄もないことである。教職に當つて居る者も随分苦心したのである。今日高等教育を受けた婦人が千幾百人ある。其の団体を桜楓会と言ふ。其の桜楓会が十年の間、努力奮闘して、心血を注いで力を尽したけれども、実に困難を感じるのである。之れは力が足らぬと云ふこともあり、種が悪いと云ふこともあろ一。けれども、其の種を展ばし、其の

空気を作ろ一と云ふことに力を尽して居る。ところが、夫れが六かしいと云ふのは、集まろ一とする力を散らされ、熱しよ一とする空気を冷される。夫れはど一云ふ訳であろ一か。境遇がわるいと云ふことも、資金が足らぬと云ふこともあろ一。けれども、私共が此に我が国婦人の Level を上げた。此に立派な婦人がある、此に第二国民のお母さんがある。来つて見よと言ふことが出来るかど一か。世間の評判が如何に善くなつても、学生が溢る程になつても、幾ら金が集まつても、何の役にも立たぬのである。Pestalozzi が困難に困難を重ねて奮闘したのも、其の根本を開かうとしたのである。たとへ弟子達は皆去つてもよい。学校は廃校になつても宜しい。自分は飽く迄も目的の爲に斃れると云ふ此の深い根底が Pestalozzi 先生の生涯である。此に我々も其の決心をしなければならぬ。先生の左右の腕とも頼まれて居つた彼れ等は成功は只外部にあると思ひ、平和は世間の輿論に應ずることと考へて居つたのである。

[Christ は平和の爲めに世に来れり]

けれども Christ も、我れは平和を来さぬ為ではない。刃を出ださんが爲に來たのである、と言はれました。Christ の愛は其の戦ひの烈しくなつた所に益々烈しく顕れたのです。桜楓会も充分研究するがよい。平和と云ふことは只意見が一致すると云ふことではない。意見は百出するがよい。大戦争があつて始めて大平和を生ずるのである。我々は此に少しく油断を生じたのではあるまいか。油断は実に大敵であります。

又、我々は精神精神と言つて安心立命を求めるのである。Christian Science は何も心配することはない、心配と云ふことは全く忘れるがよいと言ふ。エビクラスの快樂説もそ一であるけれども、私は生活は Rhythm であると思ふ。お釈迦様はど一して安心立命をすることが出来たか。三年の間、難行苦行をして漸う悟道に達せられたのである。即ち、我々も大心配をしたら、大安心が出来るのである。又、進むべきであるならば、進むがよい。

Pestalozzi 氏の生涯は失敗に失敗を重ねたのである。併し、Pestalozzi 程失敗をしなければ、成功は出来ぬのである。故に、私共は困難のあることは当り前である。老人が弱ると云ふことも当り前である。今日の壮年も遂に白骨と化せざるを得ないのはわかつたことである。

[目的に対する団体の態度]

そ一して、之れあるが爲めに、私共は力が出来るのである。我々は只目的に忠で有る。目的の爲に斃るゝ、其所に私共の意志、態度と云ふものが出来る。其所に互に手を握り、其所にひれふして、眞の団結をして始めて私共は一つの進歩が出来たと言はるゝのである。ところが、夫れが中々六かしいのです。

併しながら、若しも此の千幾百と云ふ女、自覚した婦人が眞に一致団結して目的の爲に尽すことが出来たならば、何事でも出来るのである。金も何もいらぬ。人である。立派な人を出さなければ、立派な事は出来ないのです。之れが先輩の臨終に於て、ど一かあなた方にやつて下さいと願はるゝ所でありましよ一。

[天職を認めて目的のために突進すること]

Pestalozzi は生涯の目的を全うし、天職を果さんが為に生涯奮闘せられたのである。今日の青年が、自らの目的を確立せず、天職の何たるかをも弁へずして、一時の外面的成功を祈り、且つ之を羨むが如きは大間違ひで、先生の如く天職を認め、目的の為に突進するに非されば、決して真の成功は出来ないのです。之れがわかり、之れを実行することの出来る人は真に幸福であり、真に満足なる生涯を送ることが出来るのであります。之れは主義により、目的によつて立つ人のみ知る所である。之れが先生の目的である。其所を弟子に望まれたのである。私共は、先輩が数年を出でずして眠りに就かんとして居らるゝ此の時に當つて、私は、ど一か皆さんが目的を確立して各々夫れを成就せらるゝ様、諸君の為に切に望むのである。又、我々は其の意志を継ぐべき責任を負うて居る。居るものである。先輩達が安心して眠らるゝことが出来たならば、葬式を盛んにして記念式をして上げるよりも、遥かに尊いことである。今日は森村翁を始めとして、出席することの出来ない方が沢山出来ました。此の先輩方は Pestalozzi の如き教育家、斯くの如き精神に満ちたる立派なる婦人が続々此校から出らるゝことを日夜に希望せらるゝであります。私共は、此の意味をど一か皆さんが解せらるゝ様に切望するのであります。

[中表紙]

大学部一年及予科の御話
明治四十四年十二月十八日

明治四十四年十二月十八日
大学部一年及予科生の為に

今日は各組の発達を見るので、個人のは水曜日に見よ一と思ひます。そ一して団体の進み方と個人の進み方とを比べて見よ一と考へる。そこで、指導者ともよく相談なさつて、私の聞かうと思ふ項目を挙げて、内容はあとから申しませう。

- (1) Social personality 社会的人格は出来たかど一か。其の程度はどの位にまで進んで居るか。
- (2) Social will 社会的意志は出来たかど一か。夫れは堅固であるかど一か。
- (3) Social feeling 社会的感情は社会的本能と同じ。これは出来たかど一か。
- (4) Social knowledge 社会的知識の程度はどの位出来たか。
- (5) Social conscience 社会的良心は出来たかど一か。
- (6) Social body 社会的身体は健康であるかど一か。

そ一云ふ様な標準で観察をして見たいと思ふ。

[各団体の文明の程度]

今日、歴史家が文明の Degree を計りますに、何によつて計るかと思ふと、個人と云ふ Unit が Organize して出来て居る Organization の分量、及び其の結合の強弱を以てするのであ

る。文明の度の最も低いものは野蛮人であるが、其の中にもいろいろ程度があつて一番低い野蛮人は僅か五十人の Group である。

其の次に、都会の一番大きいのが六百万から七百万の人間で Organization を作つて一つの City を営んで居るのである。故に、五十人は非常に低く、六、七百万は文明の度が高いと云ふのである。

次に國民として、アメリカの United States は國家の目的と云ふものがあつて、其の目的を以て團結して居る市民は一億を算する。英國になると、本国のみならず植民地が沢山あつて、之れは幾億と云ふことになる。其の他、露西亜帝國とか支那帝國になると、人口は多いけれども、其の國民の團結力は薄弱なものである。表面から見れば團結して一つの帝國をなして居るよ一であるけれども、真の一致が出来て居ないから、動もすれば内亂が起るのである。そ一云ふ訳であるから、我が國の文野を調べて、延いて我が大學を見るには必らず其の団体力の程度を計らねばならぬ。

[団体的人格を作ること]

其の團結力をさして、団体の人格と言ふ。其の団体的人格を作るには意志がなければならぬ。組の意志とは何であるか。組でお互に約束をして規約を守らうと云ふ相談、即ち法律が出来ると、之れを級の意志と言ふ。夫れから、未だ意識にあらはれない Subconsciousness に潜在して居る所のものをさして意志の根と言ふのであります。

之を計るにはど一したらよいかと云ふに、意志が出来て居る、目的を立てゝ意志を以て活動して居ると云ふならば、私の手も足も目も鼻も口も耳も皆共同して働いて居る。然るに夫れが出来ない人は目は目、手は手と云ふ様に、ばらばらになつて衝動の儘に動く。そ一云ふ人を私共は無頼漢と言ひ、放蕩者と言ふ。例へば今日の様に修養會をする相談をするには、ど一しても會をしなければならぬ。そ一云ふ時に皆が手や足の様に働くならば、團結心が出来て居るのである。然るに十人の組で出る者は三人か四人で、あとは口実を設けて出ない。其の団体を作ることを喜ばないのみならず、却て冷やす者がある。そ一云ふ者をさして即ち非社会的の人と言ふ。

[モーゼスの法律]

団体を作るには団体の意志を作らねばならぬ。其の法律を作つた元祖とも言ふべき人はモーゼスで有る。モーゼスは、先づ個人の時間は宗教の為めと政治の為めには 1/6 を捧げ、収入も 1/10 を捧げなければならぬとし、一週を七日に分けて、七日の中一日は必らず個人の仕事をやめて、団体の為に捧げなければならぬと云ふことをきめました。そこで日曜日には、若し個人の為に山に木を拾ひに行く者があるならば、夫れが見つけらるゝと必らず石でもつて打ち殺されたのである。之れがカトリック教の起るもとである。モーゼスは之れだけ嚴重な法律を設けたのであります。

今、私は英文予科を見ると出席が少ない。出席の少ないと云ふのは團結心の弱い証拠で、國民としては愛國心のないものであると思はずには居られない。學問をすると云ふことは、只、物を覚えればよ一として、只、本を読んで出来るもの

様に思ふけれども、教育は夫れでは出来ない。愛国心のある国民は家にあつては、必らず親に孝を尽し、兄弟を愛し、家族を思ふ人で、夫れが社会の為、国家の為には忠義を尽すことの出来る人となります。

私は前に Social conscience 社会良心と云ふことを申しました。団体としての判断がどれだけ出来たのであるか。此の間、英文科の文学会がありました。これについては大分進んだ所もあり、喜んで居ることもあるけれども、此の間文学会をすつと云ふておいでになるから、其の服装なり登場人物はど一云ふものであろ一か、私は一度したみをしようと思つたら、夫れでは練習の時おいで下さいと云ふ約束をしましたが、其の後一べんも、批評して下さいと仰しやらないのである。英文科の教授の アズバンさんが シヤイロツクをすつと云ふことである。私は文学会にしても運動会にしても、一つの主義を持つて居るから、其の事は常に申してあるのです。夫れで今迄の文学会、運動会などについても、小言を言つた事は沢山あります。夫れを今度に限つて変更すつと云ふことは宜しくありません。そ一かと云つて、文学会を排斥するのではない。実は人間は Social being と云ふ。此の社会的関係、社会的本能があるから、道徳と云ふものが成り立つのである。然るに、其の約束を守らない、銘々勝手なことをすつと云ふ時には、道徳にも叶はないのである。

社会的知識と云ふものは知力で計るのである。此の頃、万国平和会が開かれました。其の時、グレーと云ふ学者は国民が進んで高等教育に行かろ一所の Opportunity を計り、一方には其の消化力を計つたのである。

[自動的研究を希望す]

家政一年はど一云ふ研究力、消化力が出来たであろ一か。教育部、文学部、英文学部はど一でありましよ一か。社会的身体、即ち皆さんがいろいろ係を設けて銘々の責任をお守りなさる。そ一して全体を進めよ一と勉めらる一。此の社会的身体は、どこ迄出来て居るであろ一か。斯う云ふ風に社会的人格、社会的意志、社会的情操、社会的知識、社会的良心、又社会的身体等の材料を集め、夫れをよく調べて、組の有様を見よ一と思つて、私は先き程から聞いて居つたのであります。故に、この事は指導者も相談に加はつて、又皆さんが自動的に研究をなさつて、よくお調べになることを希望致します。

[中表紙]

大学部全体の試験問題
明治四十四年十二月二十日

明治四十四年十二月二十日
大学部並びに予科全体の試験問題

(1) 心の用意をすつと。

(一生懸命にすつと。勇士の如き態度を以てとりかゝること。) 二分

(2) 如何なる用意をなししか。 二分

(3) 先日の問ひに答へよ。 二分

(4) 職務に最も忠なる所。

忠実、熱心なること、停滞せぬこと、落ち度の少なきこと、油断をせぬこと、物を無益にせぬこと、親切なること等
大学部、高等女学校、小学校、幼稚園、桜楓会、寮舎、事務所、購買会、門番、小使室等

(5) 此の中の機関なり、方法なり総ての中、自分で改善したいと思ふこと、並びに其の方法。

(6) 団体的人格発達程度。

第一 { (1) 社会的意志 (2) 社会的良心
(3) 社会的本能 (感情、空気、同情、反応、調和等)
(4) 社会的知識 (5) 個人と団体との理想的関係
(6) 社会的身体 (7) 社会的勢力等

第二 { 三年生は第九回生の目的
二年生は第十回生の目的
一年生は第十一回生の目的
予科生は明治四十五年に於ける我が組の集中心

(7) 各級の人口分類。

(最上の国民、中性の者、及び注意人物、此の三階段の者は幾人づつあるか。) 今、学校内でど一しても学校から注意をしなければならぬ者があるならば、其の氏名を挙ぐること。

(8) 日英の支那官革両軍に与ふる忠言及び責任。

(9) 万国平和に対する我が婦人の責任。

(10) 校長よりジョルダン博士夫妻に送らるべき返翰の下書。

(11) 我が国婦人を真に一致協同せしむるには如何なる良法ありや。

消極的方面より言へば、一致協同の障害となるものを除く方法。

積極的方面、我が国婦人には爆発力少なし。之れを蓄積する方法如何。

(12) 明治四十四年に於ける我が最大の発見。

(13) 今年に於ける我が失敗。

(14) 目的的生活と日課の勉強とは如何に一致せしめしか、实例を挙げて説明せよ。

十二月に入りてよりの読書の目的、方法、及び参考せし書名を挙げよ。

(15) (イ) 個人と団体との目的は一致すべきか。(利己的興味と利他的興味は一致し得べきか否や。)……孰れか一つを答ふべし。

(ロ) 修養と学問との関係。

(16) 多数の仮説、或は信仰を如何に統一して我が確信となすか。

(17) (イ) 観察の目的及び価値

(ロ) 帰納の目的及び価値

(ハ) 演繹の目的及び価値

(ニ) 実験、観察の目的及び価値

各实例を挙げて示すべし。

(18) 我が根本問題につきて一論文を草せよ。

[中表紙]
第二学期終業式の御話
明治四十四年十二月二十四日

明治四十四年十二月二十四日
第二学期終業式

我が国では今頃を歳暮と言ひ、此の様な年の一番終りに集まる会を忘年会と言ひますが、西洋の方では之れを Christmas と言ふのです。今日は、西洋でも日本でも一年の一番終りの日曜日。西洋の風に従ひますと、今晚から Christmas である。其の忙しい日にも拘らず、学校のやはり一番年のしまひの大事な会でありますから、朝早く起きて、皆支度をしまして、後れない様に此堂にお集まりになつたことは、一同深く喜ぶ所であります。

此の忘年、歳暮をどの様に暮したらよいか。又、年が明けて一週間、八日迄をどんなに用ひたらよいか。凡そのきまりをつけて、此の冬休みに入るべきことと思ひます。

[Christmas、忘年会の意味]

名前は違ひ、又風俗も變つて居りますけれども、此の忘年、Christmas の意味は同じ様である。

先づ、西洋では今晚、Christmas と云つて宗教の大事な儀式を致します。我が国でもお歳暮のやりとりをし、一年中の御挨拶をし、天の神に対して、我々が此の四十四年の一年中に過ちをし、怠りましてすまなかつたことをお詫び致し、之れから再びそ一云ふことを繰り返さない様に誓ひます。そ一すると、天の神様は直ぐ御許し下さるのである。又、私共は友達に対して、不都合な事を言つたりしたりした過ちがあります。夫れを心から悔い改めて、詫びるのである。又、私共が友達の誤ちは今日限り許す、又忘れて了う。夫れを悔い改めの祭りと言ふ。

[歳暮に於ける感謝と悔いと行ひによつて現はる]

又、私共は神の恩寵に由つて、此の一年中幸福に過すことが出来ました。其の事を感謝する。又、先生の教へや友達の親切を受けたことに対しては其の恩を思ひ、恵みを感じまして、今日は神に対し、父母に対し、先生に対し、友達に対して恩を思ひ、お礼を申して、いろいろ御親切にお世話になりましたと云ふことを感謝し、夫れと同時に一年中の我が足りなかつたことを考へて其の罪を悔い、其の恩を謝すると云ふことは、詞だけでは一向価値がない。是非夫れを行ひに現さねばならぬのである。

夫れで私共は先づ此の暮れには大掃除をして、棚の上や床の下迄一年中の煤を払ひます。又、暫らくお休みになるについて、教場も大掃除をしなければならぬ。夫れから勘定日でありまして、借りがあるならば皆払はねばならぬ。私共の仕事の勘定をしなければならぬ。今年すべき仕事の残りがあつたならば、成るべくして了う様に片づけねばならぬ。私共、小供の時から仕事の残りがあつたならば、三日位眠らずとするけれども、そ一云ふ時には一生懸命、仕事が捗か行くのであります。夫れで、私共は家の掃除をし、勘定の掃除をし、鬚を剃

つたり頭を刈りたり、そ一して風呂に入つて全身を洗ひ清め、新しい衣服と着かへてお正月を迎へるのである。斯う云ふことについて第一の肝要な事は、私共の心を奇麗にするのである。

[我が心、我が詞、行ひを清くしなければならぬ]

我が思ひ、我が想像、我が考へを奇麗にし、我が希望は豊富にし、思想は明瞭にしなければならぬ。口に吐く詞は清水の如く清潔でなければならぬ。我々の行ひは麗しくなければならぬ。即ち、我々は今年中の誤りは洗ひ流してつて、新なる希望、新なる目的を立てまして、年と共に殆んど生れかはつた人の様にならねばならぬ。之れが即ち忘年会の意味であり、Christmas の意味である。斯くの如くにして、我々は来らんとする明治四十五年を迎へねばならぬ。

[休暇中の注意]

然るに、ひよつとすると、之れはお休みであるから愉快にして遊ぶ時であると思ふかも知れぬ。其の遊ぶも宜しいけれども、其の遊びも奇麗でなければならぬ。此のお正月に最も流行るものは**歌がるた**であります。之れもよく考へないと乱暴になり、無礼講になり易いものです。殊に我が国では、平生は男女席を同じうせずと云つて区別を立ててありますが、**歌がるた**の時には男の子も女の子も一緒になつて、無礼講になります。西洋では、そ一云ふことはありません。仕事場に行つても遊戯場に行つても、男女一緒である。我が国はそ一云ふ風俗はありませんけれども、西洋では男女間の礼儀は嚴重なもので、例へば一家の中でも夫婦の關係、母と息子の關係、父と娘との關係、男女の兄弟姉妹の關係、又男女友達の關係と云ふものは、ちゃんときまりがあつて犯すことはならぬ。其の間には一つの理想があり、一つの道があり、一つの法則があつて、夫れを破ることは決して出来ぬ。我が国でも夫れを破ることは決してならぬ。夫れを誤ると大なる間違ひを起すのである。今は風俗の變り目であるから、猶更よく注意をしなければならぬ。

西洋では婦人の前に出ると、男子も自然に襟を正さねばならぬと云ふ風習があるのみならず、婦人がちゃんとして居つて自然に尊敬すべき価値を持つて居ります。然るに我が国では、男子が甚だ無礼であるのみならず、婦人も未だちゃんとした威厳を具へて居らぬ様である。今は風俗が乱れて居りますから、旅をするにもお正月の遊びをするにも、ちゃんときまつた道がある。其の主義を崩してはいかない、必ず守るべき処を守らねばなりません。故に旅であるから、遊びであるからと云つて、風俗を乱し人心を腐らす様なことは決してしてはならぬ。

私は、此の一年中の一番終りの時を全うし、全体が此に會して一つの神聖なる空気に打たれ、此の僅かなる二週間の間に充分なる進歩を遂げて、是れ迄にない新しい生活に入る処の充分なる用意を以て、来年を迎へる様になさることを切に希望致します。

夫れから此の間うち、いろいろ試験がありました様ですが、此の試験と又別の方から見ましたいろいろの事とを合せて、私は各学部の傾向及び銘々の進歩の度合を見たいと思つて居

ります。夫れから、我が国の女子教育が興つてから四十年になります。そ一して、我が国が世界の列強の仲間入りを致しましてから、いろいろ西洋のことも比較をして、進歩の度合ひを調べて見たいと云ふことを此の間から考へて居ります。今朝は幼稚園、小学校から大学部三年に至る迄揃つて居りますが、斯う云ふ風に全体をよせる機会がありませんから、一寸初めの時間をさきまして、各部の進歩の度合を見る為に試験をして見たいと思ひます。

之れから問題を出しましよ。

今から十七、八年前、私がマサチューセッツに参りました時、数学の時間などに行くと、先生が直ぐ私を先生にしてやらせる。夫れで、私が先生をして居たふりあひを見て問題を出すと、生徒は直ぐ手を挙げて答へる。私が未だ答への出来ないうちに、も一ちゃん出来るのです。夫れで、よく考へて早く答へると云ふことが大切であります。

[試験問題]

(1) ・一年中でお日さんが一番北へよつた時は何時ですか。

冬至……昨日。

・昨日の日の出は午前六時四十七分。

日没は午後四時三十二分。

・今日の日の出は午前六時四十八分。

日没は午後四時三十三分。

・昨日と今日との違ひは。

(一分間に答への出来し者三人)

(2) ・今日は夜が一番長く、昼の一番短い時である。

そこで、はしたは面倒であるから省きまして、仮に朝は七時に日が出て夜は四時半に入るとすると、昼夜の差は幾らですか。

・午前六時四十七分が日の出で、四時三十二分が日没とすると、昼夜の差は。 (三秒 = 三人)

・今度は観察力を見ます。

南瓜、胡瓜、いんげん豆、やつで、あけび、私が十二月三十一日に布哇につきましたが、其の時は今お目にかけた様な南瓜や胡瓜がなつて、夏の一である。そ一して其の晩に水行水をして単物を着ました。

・之れを見てど一云ふ考へが起りましたか。

(答へは省く)

今、小学校、幼稚園はともかくも手を挙げて活発に答へが出来ます。其の上になると思考力の方であるから、幾らか時をとりませんが、高等女学校の方からは三人ばかり比喩的に発表なさり、大学部からは七人ばかりお答へになりました。女学校の方では之れを教育と云ふことにとり、大学部の方は、教育と云ふものにはいろいろ階段のあるものであるから、断えず努力して進まねばならぬと云ふこと、風呂敷に包んだのは宇宙と同じことで、森羅万象を意味するものと考へた方、沖繩の方は郷里の事について考へたことなど、いろいろあります。

つまり、いろいろの考への出ること、夫れを私は聞きたいのでありますが、何か意味あるものに纏めて答へる方が少な

かつた様であります。其の考へを纏めて哲学にまでするには時間があるから、直ぐ様答へられなかつたからと云つて、其の頭はつまらぬものとは言はれません。併し、此の沖繩の茄子に関連して我が国の茄子を思ひ出して、大小なり形なり結果と云ふものゝ違ひも、此の様に違ふものかと云ふことは、誰れもお考へになつたに相違ない。ど一して斯う云ふ風に違ふかと云ふと、植物でも人間でも其の原因は第一、種であり、第二は境遇である。も一一つは、同じ木であり同じ気候に出来る葉であつても、此の様に違ひがある。其の原因は自分の傾き、自分の発生力、自分の爆裂力、即ち個性である。此の種、境遇、及び個性と云ふことが観察せらるゝ。そ一すると意志、目的、価値と云ふ様なことが考へらるゝのであります。

そ一して、生物と云ふものは悉く違ふ、銘々独特のユニークネスを持つて居ると云ふことになるのである。其の違ひは何から起るか云ふと、今の三つのものによる。其の違ふと云ふことは何故であるかと云ふと、いろいろ違ふ所があるから価値とか美とか品質とか云ふことが出来て来る。つまり生物の目的は進化と云ふことにあるのであります。

斯う云ふことに由つて、ずつと其の過程が現れて居る。考への習慣、速度と云ふよ一なものを、斯う云ふことに由つて見ることが出来る。次には、そ一云ふ考へから、ずつと深く自分を考へて自分の主義とし、品性とし、確信としなければならぬ。自然によつてそ一云ふことを解釈し、且つ人生にあてはめて自分の行為と云ふものを定めねばなりません。

人格の発現はど一して出来るかと云ふと、第一、種である。第二は境遇で、境遇とは即ち刺激である。水とか光線とか空気と云ふ様な働きを起す処の刺激がある。其の刺激には困難がある。寒いと云ふことが必要である。只、沖繩縣のよ一な刺激ばかりではいけないのである。も一一つは用ふると云ふこと。手でも頭でも、之れを働かして充分に活動しなければ、決して発達することは出来ないのである。

其の社会と云ふ広い大きいことに向つて働かねば、決して大きいものとはなれないのである。そこで此の Level を上げることが出来るかと云ふ様な事に進まねばならぬ。夫れで、斯う云ふ様な仮説を私共の実行にあてはめて行かねばならぬ。夫れをするには、此の間申した婦納の働きによつて、いろいろ観察し実験すると云ふことをしなければならぬ。

此の前の日曜日、豊明寮の記念式に寺田勇吉君が、左の手の教育と云ふことについて、いろいろ獨逸で調べたことを話されました。左の手は何故に働かないかと云ふと使はないからである。

使はないのは、頭が使はないから、其の結果は頭の右の方の発達を後らすのである。之れは筋肉と精神との関係で、握力でも私は右と左とで五度位の違ひがあります。私の最も好むことは剣を使ふことですが、此の間から両手で剣を使ふことを練習して居りますが、其の結果、右の方は変らないが、左の手は五度位進みました。目もそ一で、ど一しても右の方をよけいに使ふから、私の目は右の方が早く年よりの目になりました。

之れを教育のことにしても、女子と男子とを比べて低能児

の処があるのは女子である。夫れは男子に比して働かさない処がある。女子であるからと云つて働かないで居れば、夫れだけ発達しない処が出来て来るにきまつて居ります。故に、心でも身体でも働かず所ほど発達が早いのです。

そこで、其の主義を私共が日常生活に應用して、自分の学んだことは必ず之れを實行せねばならぬ。そーすると知識と云ふものが必ず生活と一致して、行ひとすることが出来るのであります。斯う云ふ点を見る為に、此の間からそー云ふ問題を出したのであります。大分時間がたちましたが、終りに於て此の式の意味を明らかにして、新年を迎ふる準備を致したいと思ひます。

[此の式について]

此の終業式を日曜日にする云ふことは、此の学校が始まつてから初めてのことであります。初め相談を致しましたとき、日曜では差支へが多からう、殊に Christmas であるから宗教の儀式に出る人も多からうという説もありました。けれども夫れにも拘らず今日にきめました訳は、之れは大学の宗教であり、大学の Christmas であり、大学の礼拝である。故に、日曜に之れを行ふのはあなた方の神に対する義務である。物には個性があり、宗教には色がある。故に、此の大学の宗教は色があつて宜しい。そこで今日、集まつて式をすると云ふことに決定致しました。

そこで、我々は此の大学の宗教を信ずるものである故に、明治四十四年の一番終りの日曜には此の会を致しまして、又新年の初めての日曜日及び八日の始業式は、最も大切に守るべき祈禱会と言つてもよいと思ふ。私は、そー云ふ主義を持ち信仰を持つて居るのであります。

[歳暮の祈り]

然らば私共は、どー云ふことを以て祈りをするかと云ふ要点だけを申して、私共の団体は心を合せ力を一つにして、主義の為、信仰のために己を捧げるものである。そこで私が此の日曜日に於て第一に祈りたいことは、平和であります。広く言へば万国平和であり、極適切に言へば我が帝国の平和、我が学校の平和であります。1900年に倫敦に万国平和會議と云ふものがあつて、夫れに列なりました同盟国は十二月の一番終りの日曜日に会することに致しましたが、其の日曜日には万国の平和の為に祈り、平和の空気を作る為に演説をし、集会しよと云ふことになつて居る。

[平和を来らせ給へ]

私は此の前の日曜日には豊明寮及び豊明館の記念式をし、此の間の水曜日には平和と云ふことについて幾らかあなた方の考へを聞き、今日は全体揃つて平和と云ふことの為に祈りをしてしたいと思います。其の平和と云ふのは只万国の平和のみではない。一国の平和、家庭の平和、良心の平和であります。

私は、今年は殊に此の平和と云ふことを深く思ひ、来年は其の曙光であると考えます。之れは殆んど夢のよーなことがあるが、決して夢ではない。実際に現れて来る所の最も深い高尚な働きであると、私は信ずることが出来るのであります。

昔から最も多く争つたものは宗教である。基督教の人が異教徒を目することは恰も蛇蝎の如くであつた。然るに、

夫れは誤りであることを悟つて、人の人格を踏みつけると云ふことをしなくなつたのです。十九世紀はどーかと云ふと、寛容と云ふ時代になり、互に相容るゝ様になりました。

ところが、明年はどーなつたかと云ふと、互に尊敬する、人の宗教、人の人格を敬ふ、自分の主義も尊い人が人の主義をも尊敬すると云ふ時代の有様になりました。そこで将来に來んとする処の年は、互に尊敬する、即ち愛と云ふ人道の光りがあけんとする曙光であると思ふ。故に、私共はほんとに世界が兄弟となる処の祈りをしたいと思ひます。

近くは母校の歴史も、今迄は忍耐の時機である。故に、忍耐力を以て保つて居つた時代もある。今年は寛容と云ふことになつた。互に人の長所を尊敬し、互に愛し、互に助けて、ほんと一の平和結合をしよう。真に命ある処の愛の結合が出来かけた様である。そこで我々は此の年の暮に於て、天の平和を地に來らせ給へ、世界に來らせ給へ、我が学校に來らせ給へと云ふ祈りをすべきである。其の次には、どーか其の日を來らせ給へ、其の国を來らせ給へと云ふことが私共の衷心である。

[自治の国民たらしめ給へ]

次には、どーか此の東洋をして、自治の民たらしめ給へ。今、支那に革命が起つて居ります。そこで直ちに憲法制度が行はるゝかどーかと云ふことは問題であるけれども、其の目的は自主の民、自治の民たらしめにある。日本が覺醒して立憲政体となつてから、東洋の諸国が段々目をさまして我が国に學ばんとする傾きの出來たのは事實であります。支那の国民が君主專制を倒さんとするのは、自治の民たらしめするのである。此の考へが東洋諸国に及ぼす影響は如何であるか。斯う云ふことに対しても、我々は心から東洋の平和を祈らねばならぬ。

[目的の確立]

第三には、今日の祈りは、來んとする明治四十五年は我々の目的を確立し希望を豊富にする処の祈りである。希望があつてこそ人生の価値がある。其の希望のないものは死んだ者である。無力な者である。どーか私共は其の目的を見出し、目的を立て、向上心ある国民たらしめよと云ふことである。近くは、あなた方は各部の目的を立て、希望を以て其の使命を果すべき時である。之れが、私の此の間からあなた方各部の目的を尋ねた所以であります。

又、高等女学校の五年、四年は、自分の将来の教育について、大学部に入るには孰れの学部を選ぶべきか、我が生涯は如何に進むべきかと云ふ様なことをも考へねばなりません。

[家政部の責任]

家政部は一時二百人以上二百三十人も志願者があつて、断はつても断はりきれず、漸う無理をして入れたこともある。然るに今日は、裁縫をも料理を覚え、茶の湯、生花などが出来れば夫れでよいと云ふ様な説が盛んになつて、家政部の人数も減つたのも幾らか其の影響を蒙つて居るらしい。併し賢母良妻と云ふものは、只裁縫、料理を教へたなら夫れで出来るであらうか。男にして一家が破裂した程苦しいことはありません。夫婦の考へが一致しない程苦しいものはない。妻の無

知と云ふことは Socrates も忍んだのである。併し、苦しいものである。如何なる男子と雖も大砲の前に立つてもびくともしないが、妻の無知を忍ぶと云ふこと、是れ程苦しいものはない。又御婦人にしても、夫が大酒飲みであるとか、乱暴、無知である時には生きた心地はしないであらう。夫婦の考への合はぬ程、難儀なものはありません。私ばかりではない。今日我が国の多くの家庭は殆んど皆そである。女は厭世する。顔のきれいな人を貰ったらよいと思つて居るけれども、誤りである。貝原先生は婦人の五病と云ふことを称へ、孔子さんも、女子と小人は養ひ難しと言はれたのです。

我が国の家庭、我が国の男子は何故やけ酒を飲むか。妾を置くとか、茶屋へ行くとか何とかして、何故墮落するか。大抵のものはそである。斯う云ふことは男子自身にとつても、決して幸なことではない。けれども大抵な者は、そでもせずには堪へられないからであります。故に、ど一しても半面の欠陥を補はなければ、立派な家庭は成立しないのである。其の価値を知り、其の目的を遂げるのは、実に家政部の責任である。

[英文学部に対して]

次に英文学部と文学部とを一緒にして申します。

此の両部は互に相離るゝ事の出来ぬものである。英文科の人は外交官の奥さんになるか、英語の教師になるかと云ふよ一に世間からも考へられて居りますが、ほんとの目的を知つて居る人が幾人あるか。私は昨日英文科の卒業生に逢ひましたが、私共は英文科に入学したことを感謝して居ります。教育家になるにも家を持つにも、亦専門のことを研究するにも英語の力なくしては到底出来ません、との話である。青山博士はど一言ふか。私は今日外国の書物を読まなくなつたら、外国の書物をとられたら、も一夫れきりである。我が国の医学は夫れきりである、と言はれた。其の他、何をすることも外国の知識を入れることが出来なかつたら何も出来ないのあります。

やはり高等教育を受けた婦人が立派に外国人の仲間に入るには、ど一しても英語が出来なければならぬ。然るに、英文科へ入る人が誠に少数である。英文科の人もこれについてはよく研究なさることが必要でありませよ。

[教育部に対して]

又、教育部はど一であるか。高等の教育をするのは高等遊民を作るのであると云ふ、教師は無用の長物であると云ふ様な考へもあります、外国では大学総長の位は大統領よりも上である。然るに、我が国の教育はど一かと云ふと、之れではならぬ、ど一しても改めねばならぬと云ふ必要から、総理大臣、文部大臣、視学官を初めとして、多くの教育家がそ一思つて居ても、改めることが出来ない。

[教育部をおいた理由]

夫れで、眞の教育家、眞の学生の間で覚醒が出来て、其の団結の力によつて革新しなければならぬ。斯う云ふ我が国の有様に居つて教育部をおいたのは、眞に立派な教育家を作りたい、眞に国民の母となる人を作りたいと云ふ目的である。故に教育部に入り、教育に志ある人は其処にお心づきになつ

て、来らんとする明治四十五年に於て、も一一つ女子高等教育の価値を現して欲しいと思ひます。

私は此の年の暮に於て、ど一か平和を来らしめ給へ、自治の民たらしめ給へ、目的を確立せしめ給へと云ふことを祈り、眞に心から祈り、行ひによりて折るべきものであると云ふことを切に希望致すのであります。

[中表紙]

新年祝賀式の御話
明治四十五年一月一日

明治四十五年一月一日
新年祝賀式に於て

明治四十五年の元旦を誠に静粛に迎へることになりましたが、本年は我が 今上陛下の御還曆に当らせらるるの故を以て、我が国民は殊に深い意味と喜びとを以て、此の新年を迎へることと存じます。

実に我が 天皇陛下は今日より六十年前、即ち本年と同じ壬子の歳、嘉永五年の九月二十二日に御誕生遊ばされたのである。此の年は、其の時の江戸の西の城に火災があり、京都に洪水があり、**ふらんす**の使節は亜米利加の事情を先帝に上奏したと云ふ、出来事の多い暁でありましたのであります。

[今上陛下の御幼名]

其の御誕生になりました時に、先帝より御命名になりました陛下の御幼名は祐宮と御呼びになつたので、此のさちと云ふのは漢音のゆうであります。此のゆうと云ふ御名前が今日から察し奉れば、誠に意味深長の御名のよ一に感ぜられます。

日露の海戦が大勝を博しましたとき、其の功を天祐に帰せられたのである。それは陛下の御稜威と歴代の神靈の加護と云ふことにあつたのである。天祐とは東郷大將が其の意味で天祐と呼ばれたかと思ふ。其の祐が 陛下の御命名である。

この祐宮、天祐と云ふ言葉に、天が此の民にかくの如き文武の両徳を兼備せらるゝ天皇を下し給へる天命が、其の意味の中に含まれて居るかと思へらるるのである。丁度此の嘉永五年壬子の年は西暦千八百五十二年で、恰も西洋にては近世のあらゆる方面の活動を支配して居る所の進化 Evolution と云ふ仮説の生れたる時であります。即ち、Darwin が一世の研究を積みまして、陛下の御生れになつた頃、進化論より論じた動物学第二巻が発刊されたのである。

陛下が御八歳の時、我が国に尊王論があがつて、大義名分が称へられ、帝室が政權を再び握らんとせらるゝのに、雷鳴風雨の中に觀兵式を御覧になつた。其の御幼少の御頃に、其の年の Darwin の進化論を明瞭に著述されたる種の起原は世界各国語に訳されて、近世文明の福音とも言ふべき書が出版された年でありました。

此の進化論は古くは Greek から發し、又 Darwin 以前にも唱へた学者があるのである。併し、此の思想は当時代の精神を

代表して居るもので、六十年以来独り學術上のみならず、政治界、社会、教育界にも総ての人間の研究の仮説となつて、世界の凡ての学者が証明をつづけて来た。否、学説の研究ではなく、其の信仰の応用時代とも言ふべき、非常なる人類の進歩、発達、の土台となつたと言つても過言ではないと思ふ。

そこで、Darwin に始まらず、もはや英国にては十四世紀からはじまり、英国の政治、社会の改革は、実に十六世紀に於て見る可きものが出来たと云へるのである。

そこで近世文明史は実に、思想界に於ては進化論、宗教界では革命、革新、改善、進歩と云ふ其の進化論を土台と致しました実行の、其の人類の新経験の歴史と言ふも誤りではないである。世界は旧制度を改めて益々新制度をしき、旧文物は衰へて新文明は駸々乎として進むと云ふ時代であつたのである。此の革命、改善、思想上の進化は 陛下御誕辰の曙光であつたのは事実である。幸に、我が国人士は世界の空気に感じ、時代精神に反応する傾向があらはれたことは、古今未曾有の歴史として覚えなければならぬ。

我々は明治維新の我が国の改革を考へる毎に、おぼろにそ一云ふ感じを持つて居たものであるが、過日神奈川懸知事周布氏の宅に一日客となつて古い手紙等を見て、更に其の感じを強く致しました。

周布氏の父君は周布政之助と云つて、吉田松陰等の先輩で勤王家でありました。維新当時、長州等の起つた時、先輩の頑迷にして事を語るを愛ひ、あやまたんことを恐れて、氏は上奏文を書いて四十二歳で割腹されたと云ふことである。而して時代の精神を鼓舞した一人である。

昔は只言葉で諫めるのでなく、実に血を以てしたものである。其の周布政之助の先輩の村田静風翁が、今より八十年前陛下の御誕辰の二十年前の元旦に差出された手紙を見ても、如何に先見の明があり、如何に国家を思ふ念が深かつたかを知ることが出来、又同時に長州の力の働きは決して偶然ではないと云ふことを感じました。

少し材料として書きたいからと云つて、写しを送つて貰ひたいと言ひましたら、知事自ら書いてよこしました。其の手紙は実に当時の事情を察するに適するものと思ひます。

【静風翁の手紙】

一、寫

新禧奉壽候 舊冬被下候尊書へ加批點候 而奉復候心事萬縷拜面ならでは不被申盡候

貴兄御覽被成度書左の通

一、海外新話

可被成御讀存候 前車のくつがへる 後車のいましめなるべし

一、海國兵談

同上、海寇防禦の先見可驚可畏

一、懲處録

同上、ヤマイヌ城市を走り候事可被成御存候 此等の事 城中にも近事有之哉に感候

一、螢蠅抄

同上、是は和學家は存知の書なり

古代より日本を胃候事集候稿著述にも御座候

一、北控事略

一、二波談奇

一、環海臈聞

一、日本遭厄紀行

一、見達話

一、文化年レサノツト日本使節紀行

右の外 多々有之候 しい田猪之助なる者へ可被成御話候
當今の海外學文立の人に御座候 道家新蔵も蔵書多く有之候
唯々目前の小事を日々御拮据被成候 而千歳の大事を御
忘れ被成まじく候 いづれ深夜に御讀書可被成候 當今我朝
の深愛は海寇の事と存じ候
肉食の者は賤しと明末の賊申せし事 宋末の偽君子の誹り
時々刻々御案被成候 穴賢

静翁

國相府樞察史

既に此の時代から世界大勢に着眼して國を憂へ、君に仕へる熱誠は書面にあふれて居るよである。其の空気は何であるか。世界大勢に後れぬよ一にし、我が日本も覺醒して進歩発達の大勢に則らなければならぬと悟つた先覚者である。

私共の八歳の時に、そ一云ふ刺激を受けたと云ふことをかすかに覚えて居る。今で思へば當時の保守家を、私の國では因循者と言うて進歩家と争うたものである。併し、国も人も大義名分を重んじ、進歩主義をとつた所の人々は命も捨て、多くの迫害をも蒙つたが、最後の勝利を得て東洋の魁をしたのも、実に當時の大勢を觀取して、世界の進歩主義を選んだことに外ならないのである。

斯くの如き我が國の危機とも云ふ可き時、即ち朝鮮、印度の運命に傾くか、世界の一等国の列に入るかと云ふ、実に我が國の興廢のわかれ目である時に、我が 天皇陛下の御誕生あつて、祐宮と云ふ天祐、天恵と云ふ如き御名を御つけになつたのみならず、御幼少より益々其の当時必要な御教育をお受けになり、御年十七、八歳にして遂に我國の偉業を愈々成就なさると云ふよ一なる御偉勲をお残しになる運命になつたのである。それで明治の維新が進歩し、日清、日露の大役に御遭遇なされたにも拘らず、今日世界を驚かしむる如き大文運を樹立なされ、我が國民が大勝を得たことは、実に東郷大将の言はれた天祐である。

我國には昔から三種の神器が伝はつて居る。それは、勇、仁、智の三徳をあらはした神器である。歴代皇祖、皇宗の御頌徳なる御遺伝によつて仁慈、武勇、賢明の御徳を備へられて、其の御稜威が実に今日の陛下の御偉業を大成したことは疑ひないのである。

【進歩の御徳】

併し從來、陛下の御徳と云へば、國民性を代表する三種の徳を賞するのであるが、只それのみではない。其の數千年来養はれ來つた 皇祖皇宗、徳を樹つること深厚にして、又こゝに新らしく加へさせられた最も此の明治の御世にかく可からざる御徳、之れはあまり人の口に申さなかつたものであるが、私は之れを進歩の徳と言ひます。之れは近代文明を支配する動力である。西洋でも之れが出来たのは僅々近年の事である。

西洋に育つた徳を歴史的に云へば、Epicurus の快樂、Plato の稱へた徳、即ち智勇、節制、正義と云ふよ一なのが漸々完全になつたのである。後に基督教の眞髓は仁とか愛とか云ふの

で、快樂、克己、智勇、仁愛が實に人間の徳である。価値である。之れが人間の価値、幸福を司る原動力である。然るに、近世に於て此の徳は靜的にならうとして居たものが動的になり、活を入れた生命を入れたのは進歩向上である。此の進歩向上主義が維新の革命、改善となるのである。

陛下は御誓文の如く、御勅語の如く總てを改善し、根本の事も民衆と共に議せられ、即ち國民をして自治の國民たらしむると云ふことを御裁下なされたと云ふことである。

此の國是を定められたことが國家の自覚であつて、之れが東洋の先覺となり、日露の大勝となつたのである。朝鮮を我が有に歸した原動力も、西洋の進歩を來した源も皆これである。

此の日本の経験を觀察して見るに、之れが支那近來の革命となり、露國の立憲國會開設要求を叫ぶに至らしめたのである。

我々は陛下の御誕辰を祝し奉ると同時に、御盛徳の偉大なるを感ずると共に、我々は明治になくてならぬ進歩の御徳にみたませらるゝことを深く感じなければならぬと思ふのであります。

國政を立憲として自治の民たらしむる爲に、如何に御軫念を悩まし奉つたか。國を進むるに日夜御熱心なることを深く思ひたいと思ふのである。夫れについて、いろいろ御事蹟をあげて考ふる暇がありませんから、最も根本の憲法を御制定遊ばされたる当時、如何に此の問題に陛下が御軫念をわづらはせられたかと云ふことを、其の當時の書物にのこつて居る御逸事一つ引いて覚ゆることは必要であると思ふ。

憲法は國家に取りて上も無く、尊き法典なるはいふべくもあらず。されば其の草案の樞密院會議に付せられし時は、議員いづれも肺肝を砕き心血を注ぎて熱誠事に従ひしかば、院の討議はなかなか盛んにして、約そ四箇月の間議員悉く院につどはぬ日とはなく、かつ日々五時間にわたりて其の研究を重ねたり。

此の折かるとよ陛下は院議を開召さんとて、日々午前十時より院に臨御ありて、定め玉座につかせたまひ、討議に御耳を傾けさせたまひしは申すまでもなく、只僅に戸山學校へ行幸あらせられし一日のみ會議への臨御を止めさせたまひけるとぞ。

かくて其の會議のいまだ終らぬうちに早くも夏季とはなりぬ。年々の定例なれば暑中賜暇の恵に浴せる有司どもはおのかむきむき避暑旅行を企つるものも多かりしが、陛下は熾かんばかりの炎暑をも厭はせられず、例のごとく院に出御しまして、午前十時頃より午後三時まで倦ませたまへる御気色だになく、一々討議を開召したまひぬ。

議院法の議事を開召したまひける折の事とかや、照宮殿下御薨去あらせられ、侍従より其の事奏上し奉りしかば、議長は驚きながらも畏みて『議事をば直ちに中止つかまつるべきか』と伺ひたてまつりしに、陛下は『それに及ばず、議事をつづけよ』と仰出されしかば、議長は大御心のありがたきに感泣し、議事の一段了りし後はじめて散會を宣告したりきとなむ。

[皇后陛下の御徳]

私共は此の如き陛下の進歩の御高德を感ずると同時に、皇后陛下の我國女子に御示しになる生きた陛下の御手本、並びに其の陛下が我が國民の母たる女性を高めんとして御奨励になる有難き御言葉を忘るゝことが出来ないのであります。

其の陛下が我が女に示さるゝ御手本、並びに深き刺激をお与へになつた御言葉をこゝに一々引く事は出来ませんが、只一言、我が國では陛下の勅語、御歌など云ふものは、西洋に於ける經典の如く國民が信じて居るのである。併し、其の勅語、御歌を其の時代、迷信時代にならつて只之れを口に唱へ有難がつて、陛下の御主意、内容を取ることなく、又其の經典を我々が実行することなく、經の如く又祈禱文の如く、お一む的に唱へる弊がないではない。其の弊たるやGreek時代の經を信じた、神の黙示として盲信した、其の弊と類を同じうすることが少くはない。これは實に改善主義に悖つたことである。

実行によつて知らるゝ其の一例は、昨年小松原文部大臣より陛下の十二徳の御歌を教科書に入れたいと申し上げたらば、これは数十年前の歌故、今日修正を加へて下附するのおお仰せにて御修正になつたのである。

陛下の御歌でも世と共に進めば御修正遊ばさるゝと云ふ其の御徳、國母陛下でもよりよいことは御改めになる。之れが即ち陛下の進歩の御徳である。

十二の徳についての御詠歌を謹みて考へると、誠に我が國民をすゝめ、國民の母を高めよ一となさるる思召が如何に深くあるかを知ることが出来る。其の御修正の御実行と御歌をお貸しになつたのと歌意とを考へて陛下の御進歩の御徳を仰ぎ奉りて、其の御徳を学ばねばならぬと思ふ。故に今朝、其の御歌を陛下の御徳に併せて申します。

[皇后陛下 御製十二徳の歌]

高等小学校読本卷三にある御歌

節制 Temperance

花の春紅葉の秋の林も

ほどほどにこそ汲ままほしけれ

清潔

白妙の衣の塵は掃へども

うきは心の曇りなりけり

勤勞 Wisdom

みがかずば玉の光は出でざらむ

人の心もかくこそあるらし

沈黙

過ぎたるは及ばざりけり仮初の

ことばもあだに散らさざらん

確志 Courage

人心かからましかば白玉の

真玉は火にも焼かれざりけり

誠実

とりどりにつくるかざしの花もあれど

にはふ心のうるはしきかな

温和

みだるべきをりをばおきて花桜
まづ笑むほどを習ひてしかな

謙遜

高山の影をうつして行く水の
低きにつくを心ともがな

順序

奥深き道も極めん物事の
本末をだに違へざりせば

節儉

くれ竹のほどよき節をたがへずば
末葉の露も乱れざらまし

寧静

いかさまに身を砕くともむら肝の
心はゆたにあるべかりけり

公義

国民をすくはん道も近きより
おし及さん遠きさかひに

[第二の維新を成就するは婦人の責任なり]

我が国の維新は、陸下の御偉徳と進歩、改善の国是により成就されたが、今や第二の新時代にあひて、内面的、根本的、精神的維新に猛進しなければならなくなった。殊に此の第二の維新を成就するは、我婦人の最も力を尽さなければならぬ所であることは勿論である。此の新時機に入らんとする時に、東洋の維新、支那の革命は創始されて来たのである。我々はここに陸下の御徳をたへ奉ると共に天下の大勢を知り、進歩の徳を養ひ、今年我々の帯ぶる責任を果たさなければならぬと思ふ。

察するに、満堂の諸君も御同感と存じます。今年今日の感を述べて、祝詞にかへたいと思ひます。

[中表紙]

第三学期始業式
明治四十五年一月八日

明治四十五年一月八日
第三学期始業式にて

今年の元日の朝、此の講堂に集まりまして、お互におめでたうと云ふ意を表しましたが、半ば、その日においでになることが出来ませんでした。今日は此の美しい朝に於て明治四十五年の始業式を致しますことは、一同が最も愉快に感じ、且つ勇ましく感ずることであると思ひます。

今朝になりましてお目にかゝりました方も御座いますが、皆さんから年始の御手紙や名刺、又組から代表してのお手紙などを戴きましたが、数が多う御座いますから、一々お返事を出す訳にも参りませず、又、一々お目にかゝる訳にも参りませんから、私は一言御挨拶を致します。

[幼稚園 小学校]

今朝、幼稚園の子供が先きに入りまして、小学校の子供がお入りになりましたが、皆さん大層大きくおなりなされたよ一である。之れは多分お雑煮やら其のほか随分御馳走をあがつたから、丈夫になつたのでありましょ一。又、昨年よりも年が一つ多くなつたから、お行儀もよくなつたよ一である。

[高等女学校、大学部]

其の他、高等女学校、大学部、皆さんが今年は御壮健のよ一で、活気が充ちて居るよ一である。かゝる健康な身体を以て、又内に多くの喜びがあり活気に充ちて、此の明治四十五年を迎へることの出来ますのは、お互に誠に喜ばしいことでもあります。

昨年十二月二十四日にお別れを致しまして凡そ二週間になりますが、多分皆さん、いろいろの事にお忙しかつたことと思ふ。又御両親、先生、親友に年賀状をお認めになつたことと思ひます。未だ皆さんお年が若いから関係がそ一広がって居ないから、年賀状を書くとか礼回りをなさることも、そ一沢山ではありますまい。

[年賀の礼]

併し、私は皆さんよりも年が大分多くなりましたから、交際が毎年毎年広がって参りますから、年賀状を書くこと、年賀の礼に回ることが段々広がります。夫れで時々は年の始めから斯う云ふことに時間を使ふのは虚礼であつて、無益なことではないかと思ふ。併し又よく考へて見ると、之れは我が国の一つの礼儀であるのみならず、随分有益なことも沢山あります。日頃、御無沙汰をして居るために、一年に一度だけでも通信をすることが出来る。又、日頃気にかゝつて居るけれどもお尋ねすることも出来ない人が一ぺんに通知をもらうのは、誠に喜ばしいことである。故に、平常は出来ない程多くの人との通知を一ぺんにするのは至極軽便なことであると思はるゝ。夫れで今、此に皆さんがおそろひになつて居るから御挨拶を申しておかねばならぬ。

私に下さつたお手紙や名刺は余り沢山であるから、一々覚えませんが、併し見ることは必ず見る。其の中で、私は今何処にど一して居りますとか、子供が幾人出来ましたとか、今ど一云ふ仕事をして居りますとか云ふことがあると、私は非常に嬉しく感じます。

此の頃、年賀状を印刷にすることが多い。私もそ一して居りますが、其の中に一寸でも自分で書いてあるのは情が深く、又自分で絵を書いて送るのは誠に面白いのです。猶愉快に思ふのは、自分と自分の家族の写真をおこす人がある。そ一云ふ人は大変面白い。之れは、二十年程前に私が教へた書生である。私は忘れて居りましたが、学監はよく覚えて居られますので、学監から聞きますと、此の人は前に大変貧乏であつて、私の所に厄介になつて、其の時、私が五十銭程助けたそ一である。今は歎米を胸にかけて非常に大きな商売をして居るそ一であります。又、何か自分で意味ある画を書いて送ることがある。之れは中々面白い。

[幼稚園、小学校生に質問]

幼稚園、小学校の子供達に聞きます ………

今、お目にかけた沢山の絵端書の中に、何が一番多かったですよー。

・**ねずみ、松上鶴。**

どーして、今年の端書には鼠が多いでしょー。

・今年が鼠の年でありますから。

鼠はどんなものですか。

・**いたづらものです。あばれます。手ばやい。歯が鋭い。**

大黒さんが俵の上に乗って居る。あれはどー云ふ訳でしょーか。

・豊年になれと云ふことです。

鼠が沢山出るのは食物が多いからで、豊年と云ふことになる。大黒さんは**福の神**であるから、鼠の年は豊年であると云ふ様に、昔から考へたものである。そーして鼠は殖えるものであるから、物の殖えることを鼠産などと言ひます。

松の上に鶴の居るのはどー云ふことでしょーか。

・今年**の勅題**でありますから。

そーです。

夫れから今、皆さん揃って居りますから正しておきますが、去年の終業式に出しました問題は丁度冬至の翌日であるから、皆が注意して居ることであろー。やさしいことだと思つて問ひましたが、案外むつかしかったので、よいとした答へがまちがつて居りましたから、正しておきます。(以下略)

今朝の日の出は6時51分、今晚の日の入りは4時43分、然らば、先月の二十三日と今日とを比べると、日の長さが幾分長くなりましたか。

・七分

[此の間の問題]

此の間の問題は頭の働き方が、どーであるかと云ふことと、数学の力とを見たいと思つて出しましたが、一寸の考へ違ひによつて答へが違つて参りますから、頭の働き方について皆さんがよく気をおつけなさるよーに致したい。

[今年の希望]

私もこの年頭に教職員にお願いしたいことがあります。又生徒諸君に対して反省を促したいこともいろいろありますが、大分時が遅くなりましたから、委しくは後日申すことにして、今朝は只其の要点だけを申しておきましょー。

今、学監から改まる様にしたいと云ふ御希望が願れて居りまして、私も至極、御同感に思ひます。然らば、どー云ふことが改まらねばならぬか。又、如何にして改めねばならぬか。又、女子の自覚と云ふことに就いても、どー云ふ風に考へねばならぬか。そー云ふ様ないろいろの事の必要からして、即ち母校の第十一年目の卒業生を出す所の新しい高等教育を受けました学生は、どー云ふ程度にあるか。之れを知るために私は昨年一種の試験を致しました。又、観察しつゝあることがあります、之れは他日委しく申すことに致します。

[自覚]

併し大体を申すならば、長い間我々が努力した結果、即ち我々が秘蔵して参りました箱の蓋をあけて見たら如何なるものであるか。之れについて如何なる改良をしなければならぬ

か。之れについて我々は如何なる覚悟を要するかと云ふと、第一、自覚と云ふことは自分がわからねばならぬ。我れのわかる第一歩は、我れは不完全なるものである。我れに沢山の弱点がある。我れの内に我れを悩ます多くの病源があると云ふこと、先づ之れがわかることが必要である。昔は人間は神が作ったものである。神は人間を天使の如く作ったものである。然るに**アダム、イヴ**の犯した罪によつて罪人となつた。其の**アダム、イヴ**の罪は**Christ**によつて贖はれて、再び神に帰ることが出来ると云ふ信仰でありました。そこで只人間は信ぜよ、只其の神を信ぜよ、唯其の救ひ主を信ぜよ、然らば完全なる神に帰らるゝと云ふ考へであつた。併し之れは人間が幼稚であつた為に天地の真相がわからなかつたからである。夫れで今日の考へを以て見れば、人間は決してそんなものではない。もともと人間は不完全なる動物から野蛮時代になり、未開時代になり、漸う今日に至つたものである。けれども、まだまだ欠点の多いものである。弱点の多いものである。決して立派なる、完全なるものではないのである。只神のよーに、神の子供のよーに、神に似たよーに、立派なる人間になることが出来るのである。

[人間が神に至るの道]

夫れは只折りにより、念仏により、そー云ふ形式によつて出来るものではござりません。人間の自身の努力により、勉強により、己れの力によつて段々に進むことが出来るのである。沢山の足らぬことがある。併し、之れから進むことの出来る、神に近づくことの出来る力があると云ふことを信じて行かねばならぬ。私は此の新年のお喜びを言ふ時に當つて、あなた方は誠に修養が出来ました、完全に近くなりましたと申したいけれども、遺憾ながら私は之れを申すことが出来ない。故に今朝は未だ出来ない。高等教育を受けると云ふけれども、未だ其所に達しない。やり方が間違つて居ると云ふことを知らせたい。之れによつてあなた方は進むことが出来ると云ふことを信ずるのである。銘々謙遜になり、銘々真面目になつて、ほんとーに英断して今日から改める。ほんとーの事をすると云ふ決心を以て進んで戴きたいのであります。

私は昨年一年間努力して、我が教職員諸君も一日の如く熱心なる指導を与へ、学生諸君も日夜骨を折つたことは事実である。けれども、未だ夫れだけに出来て居なかつたと云ふ結論になります。

[模倣性、記憶力、想像力]

大別すると二つになる。我々が見たのは、

(1) 模倣性 Imitation

(2) 記憶力 Memory

(3) 想像力 Imagination

之れは人間にある力であるが、同時に動物にもあり、野蛮人にもある力である。人の刺激に応じて直ぐ様まねをする、暗示を受ける。夫れから物を覚えて居る、想像をする。夢を見る力、之れは誰れにもある力で、寧ろ劣等なる人間にもある力であります。

[思考力、理會力、創始力]

其の次に試みたのは、

- (1) 思考力 Thinking power
- (2) 理會力 Reasoning power
- (3) 創始力 Creative power

此の三つで、前の三つを初等能力と名づくるならば、後の三つは高等能力と名づくべきものであります。

[初等能力、高等能力]

私が主にあなた方を試したのは、此の創造する力、又考へる力、理解の力である。此の力が出来て始めて、人間が文明の力と云ふことが出来るのであります。此に之れ迄は、只 Imitation で、Christ を模倣することによつて教はるゝのであつた。又、Memory、即ち記憶して居ることであつた。けれども今日は、Create するのである。

[神は Create す]

神は人間を己の像に似せて作つたと云ふは何であるか。神は Create するものである。創造するものである。故に我々も創造することによつて創始力が出来て、始めて此に進歩、改善することが出来るのである。今の人間よりも、今の国、今の社会よりも猶以上のものに改善して、始めて高尚なる神の働き、高尚なる人間の働きがあるのである。此の自ら考へ、自ら研究し、自ら創造する所の力が出来て、此に始めて人間たる力が出来た、高等教育を受けたる所の人間となることが出来たと言はるゝのである。

[暗記學問にあらず、創始的學問たれ]

然るに昨年の私の試験の結果によると、此の初等能力は出来て居るけれども、高等能力に至つては未だど一も充分と言ふことが出来ぬ。寧ろ意外に思つた位であります。正当なる判断をする活眼を開いて真相を見る、自ら考へて深い深い物の真髓に達すると云ふことは不完全である。未だ試験學問、暗記學問に捕はれて居る。夫れでは、ほんとの生きた人間にはなれない。幸福なる生涯を送り、一家の爲、一國の爲に何かを捧ぐることの出来る人間とはなれない。悲しいことには之れだけ骨を折つても、未だ我々の希望する所には達すること遠しと言はねばならぬ。此の中に検定試験に及第した人もある。之れは誇るに足るのであるけれども、ほんとの修養に必要な、人間たるに欠く可からざる所のほんとの力、創始力は未だ未だ乏しいと言はねばならぬ。之れは私共の責めであり、今日の教育制度、今日の社会の罪であるから、決してあなたがた許りを責めることは出来ません。けれども之れを改めねば、私共の望む所には達せられないのである。

[先づ己の幼稚なるを知れ]

私共の改める、かはると云ふのは何であるか。私共の根本の力、人格と云ふものが変らねばならぬ。故に、私共は未だ幼稚である、不完全であると云ふことを先づ知つて、そ一して此の明治四十五年の一年に、願はくは我々一致協同して全力を此に注ぎまして、我々の進まんとして欲する所の一階段を上らう。又上らんければやまぬと云ふ決心を持つてお互が集中したならば、此の一年の間に著しい進歩を見ることが出来るであらうと信ずるのであります。之れは大学部のみならず高等女学校から幼稚園、小学校に至るまで、ほんとの教育をして、其の實を挙げられんことを切に希望致すのであります。

そ一申したからとて、あなた方の答が悉くまづいと云ふ訳ではない。今迄の卒業生に対して劣つたものであると云ふことではない。私は打ち明けて全体の力がそ一云ふ所にあると云ふことを教職員諸君に訴へて、新しい御指導を願ひたい。

斯く申す私も誠に幼稚なもの、欠点の多い者である。故に若がへつて、書生となつて共に研究して行かうと思つて居りますから、あなた方も一緒になつて益々元気を出してお進みになることを希望致すのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十五年一月十日

明治四十五年一月十日
大学部全体の爲に

昨年未の試験によつて、あなた方はど一云ふ成績を得ましたか。夫れを報告致します前に、之れによつて私がど一云ふことを見出しましたか、其の要点を申しませう。大体は此の八日の始業式の時に申しましたが、私は人間の能力を大別して、二つの組に分けたいと思ひます。

[高等能力と初等能力]

第一のものを初等能力と言ひ、第二のものを高等能力と致します。其の第一の階段に入るものが、

- (1) 模倣力 (2) 記憶力 (3) 想像力

斯う云ふ三つの部類がありますが、夫れを一總めにして初等能力と言ひ、高等能力とは、

- (1) 思考力 (2) 理會力、推理力 (3) 創始力

此の三つをこめて申します。

そ一して第一の力は保存力であり、第二の力は改善、進歩の力であると言ふことが出来るのです。斯う云ふ様に大体に分けて、力の階段を立てゝおくのである。之れは、此の間尋ねたことがよく分つて居るならば、初等能力とは如何なるものか、高等能力とは如何なるものか、其の間にはど一云ふ関係のあるものかと云ふことがわかるのであります。此の間の問題がわかつて居ないと、やはりわからないのであります。

[高等教育の目的は高等能力の開発である]

そ一云ふ力の区別を立てゝおいて、此の間申した様に、高等教育の目的は高等の能力を開発しなければならぬ。其の目的に達することが出来ぬ、其の能力が甚だ幼稚であると云ふ時には、未だ其の高等教育の實があがらぬと云ふ結論になるのである。

又、文明の力は此の高等能力によつて出来るものであり、人間には無限の不思議なる力を与へられて居るものである。即ち、人間は神に近いものである、神聖なるものであると云ふ意味は、人間が高等の能力を具へて自ら進歩、改善して行かれると云ふことであるから、此の高等能力の發揮せぬうち

は人格が認められないと云ふことを、此の間申しておいたの
であります。

併し、此に間違ひのない様に申しておかねばならぬことは、
第一の初等能力、即ち模倣力、記憶力、想像力等は野蛮、未開
の人種の間にもあるものであるから、文明人の間には全くい
らないものかと云ふと、そ一ではない。如何に進んだ社会で
も、やはり此の初等能力がなければ高等能力は発達しないから、
無視する訳には行かぬ。否、之れは高等能力の出来て来る
根本となるものである。決して初等能力が廃せられて高等
能力が出来るのではなく、初等能力が進歩、発達して、改善
せられて高等能力が出来るのであるから、無視してはならぬ。
併し、只其処に止まつてはならぬ。ほんと一に進歩、発達して
幸福なる生涯を送ることの出来るのは高等能力の働きである。
そこで、初等能力の時代は記憶、想像等によって神秘を考へる
時代であるけれども、高等能力の時代は発明、発見、創始の
時代である。新時代になつて多くの真理、器械が発明せられ、
新知識が発見せられ、創造せられたと言ふことが出来る。併
し之れは只物質界のこのみならず、精神界の事実として現
るゝ一になつた自我の発見、人格の発見と云ふことになり、
創造も自我の Create、人格の Create となつた。今日の信仰
は自我の創造と云ふことになつて来たと言ふ訳であります。

此の様に我々の能力を二つの階段にしておきまして、其の
高等能力が何処まで進んで居るか、其の程度を一つ試みて見
たいと云ふのが今度の試験であります。

[我々は高等能力の不充分を自覚しなければならぬ]

私が之れによつて何を見出だしたかと云ふと、皆さんに点
をあげました夫れは、多くは模倣力、記憶力等の方であつて、
発明、発見、創始力の方面から見ださうとすると、甚だまづ
いのである。

そこで、高等能力、即ち高等教育を受けた効力が未だ充分
でないと言ふことを、我々が自覚しなければならぬ。

[学問と修養との一致が見出された]

第二の点は、修養と学問の一致が見出された。即ち、此
の二つは互に協同するものであると云ふことがわかつたと云
ふことである。夫れは此の答案を調べて見ますと、修養に
熱心なる人、修養に熱中して居る人は必ず実力がある、学問
が出来る、誠に尊い人格が出来て居ると云ふことである。

其の点になると、上級とか下級とか云ふことは余り区別は
ないので、下級生でも一瀉千里の勢を以て滔々と皆書いて居
るのである。予科にも随分あるのである。然るに、他の事には
よく出来て居るけれども、斯う云ふことには一向考へがな
いと云ふことが現れ、又高等女学校などでは、優等で卒業し
た人でも斯う云ふ活問題には一向頭が働かないということが
現れて居ります。

故に今日は根本の事をしなければならぬから、有りの儘に
御報告を致して皆さんの反省を促したいと思ひます。他の事
ではよく出来る人が、非常に拙い点を取つて居るのである。

[個人と団体の一致を見出された]

第三には、個人と団体の一致と云ふことを見出されたので
ある。其の人の気分、境遇と云ふことが非常に関係すると云

ふことであります。之れは後で委しく申しますが、第一に心
の用意と云ふことを申しました。其の気分が全体と一致する
ことが出来たと云ふ人と、そ一でない人とがある。も一一つ
斟酌しなければならぬことは、此の中に発表の上手な人と下
手な人とある。も一一つは、字を書くに大変遅い人と早い人
とある。そ一云ふことの為に出来なかつた人もありますから、
発表と云ふことだけで、其の人の価値はきめられないのであ
りますが、御注意の為に申しておきます。

夫れでど一云ふ成績が出ましたか、一つ御報告をしよ一と
思ひます。実は此の度は嚴重に評価を下しまして、余り事情
に斟酌せずして今の現状を知る為に、又励ます為に及落にも
及ぼそ一と思ひましたが、又斟酌しなければならぬ点もあり、
斯う云ふ試験をしたのは初めての事でありまして、銘々にお
知らせしよ一かとも考へましたが、此の外に銘々の団体生
生活を調べることがある。其の方は未だ済んで居りませんから、
銘々にお知らせすると云ふことは此の度はよしまして、組々
の程度はど一なつて居るかと言ふことを申ししましよ一。

[各組の程度]

問題が十八題ありますが、一番は点数に加へず、二番から
十七題とし、一番終りの論文に重きをおきまして、時間も之
れには一番長く与へました。そ一して三年は極嚴重に点をつ
け、二年は十七の中十五出来れば満点、第一年は十、普通予
科と英文予科とは八つ出来れば満点と致しました。其の標準
によると、下程宜しい。三年よりも二年、二年よりも一年が
よいと云ふことになる。そ一して上級でも終りの方の書いて
ない人がありますけれども、予科で一から皆出来た人がある。
故に、割合が違つて参りますが、

学部	最高点	最低点	平均点	皆答者
家政学部三年	83	28	54.8	五人
文学部三年	98	46	65.5	四人
英文学部三年	75	26	58	一人
教育学部三年	86	24	56.9	
英文学部二年	102	59	74	
教育学部二年				
家政学部二年	98	25	52	
文学部二年	95	16	63.8	
教育部二年一年	143	69	95	
文学部一年	104	55	88.4	
家政学部一年	122	26	78	
英文学部一年	99	61	80	
教育部一部一年	100	26	56	
英文予科	179	26	71.33	
普通予科	162	13	96	
之れを三年と同じに見たらば、 予科は	81	7	48	

之れに大分出来、不出来がありますが、其の差等が必ずし
も実力の違ひであると言ひ得る処があると思ひます。之れを
見ると三年の方が少し拙い様であるが、夫れは下の組程、寛
に見たからであります。

短い時間に、しかも直ぐ其処に集中点を纏め、考へをきめ
て、よく人にわかる様に書くと云ふことは、やさしいことで

はない。殊に、自分の根本問題について論文を書くこと云ふよ
一なことは六かしいことである。

併し之れは、何時でも答へらるゝ答のものである。日頃、
修養に熱心な人、何時も根本の事に考へを注いで居る人なら
ば、直様答へが出来ねばならぬ。故に、六かしい様であるけ
れども、日頃の覚悟と生活とが出来て居るならば、其の人に
はさ程六かしいことはない筈であります。

然るに、余程寛にしても13点とか7点とか云ふ点をお取り
になったのは、余り褒めたことではない。けれども、之れに
お書きになったものが拙いからと云つて、其の人が全然力の
ない人とは言はれない。又、之れだけによつて、あなたの力を
きめることも宜しくないと思ひます。

故に、私は引き続き四月迄いろいろの方面から調べるとし、
私は一つの帳面を拵へて、あなたのお答へなすつたことにつ
いての評価を一々記入し、又、面会の時お述べになったこと
なども、其の要点を皆書き入れて保存しようと思へます。

そこで、凡そ之れによつて実力をつけると云ふこと、又、
人格の修養を積んで根本を養ふ、ほんとの教育をするとは
如何なるものであるか。又、全体を喚び起して力をつける、
引き上げると云ふことは、此にあると云ふことを明らかにし
て、年の始めから非常なる集中をしたいと思ひます。

そこで、皆さんが時々刻々に修養をなさらないと、無いも
のは出せないのである。故に内に力を貯へて、出来るだけの
集中をして見たいと思ひます。故に此の学期の終りに、も一
べん斯う云ふ試験を致して見たい。其の方法はど一云ふ風
にするか未だよく考へてありませんが、兎に角、斯う云ふ様
なことによつてしたいと思ひます。

さて、其の集中をする、銘々が集中すると云ふのには、
ど一しても境遇がある、空気がある。故に、組の中に傑出し
た人物があると云ふことは、組の空気が出来て相一致し、相
和することが出来たと云ふことになります。

そ一して一つ御相談を致したいのは、皆さん此の堂にお入
りになると、ちゃんと席がきまつて居つて、どの組は何時も何
処においでになると云ふことが、私にはつきりわかる様にな
つて欲しい。夫れには徽章が一番よいから、三年の色は白、
二年は赤、一年は黄、そ一して予科は紫と云ふことにして、
色だけ申しておきますが、形と質とは相談をなさつて皆でお
きめになつて、次の水曜日から実行致したいのであります。

〔問題についての私の考へ〕

夫れから此の間ひについて、ど一云ふ答へをすればよかつ
たか、大体私から説き明かしをしておいた方がよいかと思ひ
ます。

第一は心の用意 二分間。

第二は如何なる用意をなしゝか 二分間。

之れは大抵、皆さんお出来になつたよ一であるが、此の問
題の大切な所は何処にあるか。総て物をするのに用意をして
かゝる。此の問題の本は何処にあるか、此処であると云ふこ
とをきめて、夫れを人によくわかる様に表し、そ一して決心
すると同時に着手しなければならぬ。斯う云ふことは、皆さ
んの日頃の習慣となつて居なければならぬ。故に、之れはた

ちどころにわかつて、たちどころに答へが出来る様にならね
ばなりません。

〔心の用意は生涯必要である〕

之れは私が初めに申したてでありましょ一。之れから二時間
の間に多くの問題に答へねばならぬ。故に、一瀉千里の勢を
以てず一つとやつて了はねばならぬ。其の態度の出来た人は、
予科でも若い人でも、ず一つと答へて了つて居る。此の心の
用意は只あの二時間の為でなく、あなたの生涯の為に必要で
あります。

昔から偉人と云ふものが現れました。其の偉人の出た時に
は、驚くべき力を以て社会が進歩したのである。先づ古い処
で云へば、誰れでもグリーキと言ふ。グリーキでは僅かの間
に十三人の偉人が出たのであります。

其の時には非常なる勢を以て文明が開けたのである。其の
偉人とは、ど一した人であるか。只生れつきばかりである一
か。無論、生れつきも少しは違ふけれども、心の態度、即ち
覚醒が出来たのである。之れから非常なる力を以て進まうと
云ふ用意が出来たからであります。

あなた方は、之れが出来たのであるかど一かを知りたいの
である。之れは一言で言へば、勢力集中である。勢力集中と
は調和であり、協同であり、統一である。天才の出たのは集
中が出来たからであり、文明の華の咲いたのは調和が出来た
からである。

〔我々の修養〕

故に我々の修養も、

第一、我が心と我が身体との調和。

第二、我が個人と団体との調和。

第三、我が精神と宇宙の精神、即ち神と我れとの一致。

此の三つの内容が備はつた処の勢力集中が出来なければならぬ。

私は何時でも此処へ立つて、あなた方の態度を見るのであり
ます。昨夜遅く寝て頭痛がします、足が冷えます、御飯を
食べて腹が大きいと云ふ人、即ち眠る人がある。私が一番気
にかゝる人は眠る人である。眠るのは身体を支配することの
出来ない人である。そ一云ふ人が大きな問題を考へてもわか
るものではない。そ一云ふ頭には神は舎らないのである。故
に先づ心と身体とが一致する、協同すると云ふことが出来な
ければ、大きな働きは出来ないのです。

或る人は身体を支配するのに、私は深呼吸を致します、丹
田に力を籠めて座禅をします、と仰しやる。夫れも宜しい。
或る人は祈りをする。祈りをするのは天地の精神と我れと、
即ち神の御旨と我が心とが一致することである。故に、神の
御旨に叶はないことは一切やめる。夫れが大切である。

何の為に深呼吸をし座禅をするのであるか。即ち、我が心
と我が身体との一致、我が精神と天地の精神との一致、我れ
と此の団体との一致を計らんが為であります。之れが出来た
ならば、一瀉千里の勢を以て物事を仕遂げることが出来るの
である。人が一ヶ月かゝることを一日にでもする。散漫な人
が三年かゝつてすることは、我れ集中すれば一年にでも出来
るのである。私はあなたがどれだけ本気になることが出来る

かをためたのであります。

第三の問題、私が絵で妙なものを見せたのですね。彼れであります。つまり之れは、あなた方の勢力集中が出来たかど一かをためたのであります。

第一問と第二問とは、あなたの友達があなたに注意を与へる親切な問ひであります。第三の問ひは往々にして、あなたの陣を崩さうとする敵の計略である。あなた方は之れから多くの敵に出あはねばならぬ。故に、あなたが狼狽するかしないか、あなたの肝が抜かるゝか抜かれないか試したのである。あれは皆さんの仰しやつた様に Ink のこぼれたもので、何でもないのである。Ink のこぼれたのを私が手で振つたものに過ぎない。あれはあなたが狼狽するかしないかを試みたばかりでなく、無声の声を聞かねばならぬと云ふ様なことも、幾らか申したのである。

[無意味の意味]

ところが、此の答へはいろいろ面白く出ました。あれは偶然 Ink がこぼれて振られたものであるから、何も意味のないものであるから答へられない。故に、無意味の意味とでも答へたらよからう。

宇宙では無意味の事実と云ふものがある。即ち、無意味の意味と云ふものがある。そ一して人間は必ず其の事実の意味をつけたいもので、意味を探さうと試みるものである。此の中においてになる方が皆、其の意味を探したの不思議でしょ一。人間は何にでも意味があるであらうと思ひ、又あることを欲するものであります。

夫れから、之れは想像力の問題であると共に、又之れは自定力、つまり自動力である。物を見るのに、自分の見地において要領をつかまへ様とする力を試みたのであります。

其の次にはあなたの態度が正直であるか不正直であるか、明確であるか曖昧であるかと云ふことがわかります。日頃の習慣に於て、利己とか虚栄とか何とか云ふものがあると、斯う云ふ時に現るゝのである。果して私共は正直であるかないかを調べねばならぬ。

又、此の問題は誰れが出したかと云ふと、私が出したのである。私の日頃申して居ること、私と云ふものがど一云ふ者であるかと云ふことも考えねばならぬ。

も一一つは、あなた方銘々に Uniqueness と云ふものがある。夫れで、銘々がど一云ふ判断をなさるか云ふことを見たのであります。夫れで、ど一も無意味なものゝよ一で答へられないとか、無意味の意味であるとか、お答へになつたが佳いと思ひます。

[中表紙]

故森村菊子夫人追悼会
明治四十五年一月十七日

明治四十五年一月十七日

故森村菊子夫人追悼会

本校評議員 森村市左衛門氏夫人 桜楓会補助団幹事でありました森村菊子女史が去る十四日の未明に永眠をなされましたにつきまして、今日桜楓会員並びに大学部、高等女学校、豊明小学校、豊明幼稚園等の君に關係の深い団体が此の堂によりまして、今から暫く追悼の意を表したいと思ひます。

此のお方は七、八年以来病氣勝ちで、余り外にお出になることも出来なかつたのであります。併し此の学校に来らるゝことが唯一の楽しみで、大抵病氣はおして豊明会記念式、卒業式、運動会等には出席せられ、此の学校のそ一云ふ集まりに出席するのを何よりの楽しみとして居られ、そ一して、暫らくは何とも言ひ表すことの出来ない感じにうたれると言つて居られました。然るに今日から云へば、一昨年豊明会の記念式に出席せられたのが、今から思へば最後でありました。昨年の豊明会記念式にも病氣のため出席せらるゝ事が出来ませんでした。併し、床につかるゝと云ふ程でもなく、此の元旦にも客に接せられたのであります。此の前の土曜日の朝、私は大磯に行く仕度をして居りましたが、早朝電話がかゝりまして、森村さんの奥さんが危篤であるから早くお出でになつたがよからうと云ふことで早速参りましたが、一時其の氣は開けて十四日の午前三時半頃に、と一と一此の世をお去りになりました。

そ一云ふ様な急な事でありまして、我々は個人としても学校としても、生前一言の御見舞を申し、其の意を表することも出来ませんでした。夫れで、せめて葬式の当日にでも何とか致したいと思ひましたが、親族会議におきまして、又森村さん及び故人のお考へによりまして、供物、放鳥、香典、花等も一切お断りをして、儀式等も成るべく質素にして、総ての虚飾のよ一なものを廃したいと云ふお考へであります。そこで、ど一したらよからうかと考へて居りました。

[本校と森村家との關係]

夫れは近来、放鳥、造花等を贈り、只お祭り騒ぎのよ一になる虚飾の傾きがありますから、斯う云ふ際には成るべく質素にすると云ふ森村さん御夫婦のお考へであります。故に、夫れに背くと云ふことも宜しくないから、せめてお葬式の御弔文でも柩前に供へたいものであると考へ、そ一して花輪でも捧げ度いものであると思ひまして御相談を致しましたら、女子大学からそ一云ふことをして下さると、他の団体、たとへば高千穂中学校、愛国婦人会等からも是非にと云ふことになつて本意に背くし、さればと云つて一を受けて他をお断りする訳にもゆかぬからと仰しやるので、ど一したものと考へて居りました所が、二、三日前此の校の評議員、もとの文部大臣であつた久保田諱君から電話がかゝりまして、私に話をしてほしいと云ふことで参りましたら、森村さんの奥さんのこ

とについて女子大学としてはど一云ふ様にするつもりかとのお話でありますから、私はありのまゝお話を致しました所が、男爵の言はるゝには、此の女子大学と森村翁とは親類以上の交際がある。其の一体であるかたはらである夫人が眠られたと云ふことについては、他とは変つて特別に受けてもらつて、何か生徒の手で造つたものを受けて貰う方がよい。国家に功勞のある人がなくなられたら儀仗兵がつくと云ふこともあるから、学校からも幾人か宛、会葬した方がよかろ一とお話でありました。

又、男爵のお考へでは、斯う云ふ人は国葬にすると云ふ位であるから、学校との関係から云へば校葬と云ふ様に、一日業を休んで弔意を表した方がよかろ一と云ふことであります。

[本日の追悼会]

今日は水曜日で実践倫理の日であり、且つ葬式の前日でありますから、大学部、高等女学校、小学校、幼稚園から代表者を出して貰ひまして、追悼会を致すことにきめました。

そこで、此の式がすみましたら、終りに読みます弔文と其の花輪とを持って、大学部、高等女学校、小学校、桜楓会等の代表者と私も共に出て、柩前に捧げることに致し度い。

又、明日は午後二時から青山で葬式がござりますから、桜楓会員其の他、成る可く出て送葬なさるが適當であろ一と考へます。

[死の意味]

此の、人の死すると云ふこと、一生を終りまして明瞭に見えない、他の世界にうつると云ふことは、誠に意味深長である。又、朽つる肉体と其の世に於てついたる塵を払うて、無垢潔白になりました其の人の靈前におきましては、たとへ他人でありまして自ら頭を下げる様になることは人情である。まして此の団体に関係の深い一人がそ一なられたことにつきましては、其の人の生前の精神並びに行為を考へて、銘々に得る所のあるよ一にすることは是非なすべきことであり、又必要なことであると云ふことは申す迄もない。

[夫人の生前の人格]

夫れで私は弔意を表する前に一言、此の方のことを述べて、其の方の人格について学ぶべき所をとつて、銘々の意志に致し度いと思ふのである。

一昨晚であつたかと思ひますが、若い頃から国事に奔走して居らるゝ前田正名君に久し振りで逢ひましたが、頭も口臈も真白になつて、先日シベリアを通つて漫遊から帰朝せられたと云ふことである。正名君は誠に深く感ぜられたものと見えまして、柩の前に頭を下げて、国家に尽された森村君の内助を五十年間改々と尽されて、今や其の生涯を終られたと云ふことは、実に感慨に堪へません。私は国家に代つて此の君の忠義なる多くの高い行ひに対して感謝の意を表します、と云ふよ一な意味を述べられたのであります。

[婦人内助の功]

五十年間内助の功を積まれたと云ふことは事実である。又生涯を夫の為に捧げて、日夜忠実に家事を治められたと云ふことも事実で、又、決して之れは過貸でないとも深く信ず

るのである。内顧の憂なからしむとは、婦人の職分として義務として、又孰れの夫たる者も必ず妻に対して望む所の徳であるのです。之れは昔から格言として伝はつて居りますが、今日と雖も其の徳は決して変るものではない。併し今日の境遇では、其の詞を大切に思ふとか、又度々繰り返す必要が少ないかも知れぬ。併し私共の子供の時には、夫を助け夫の留守に内顧の憂ひなからしむることの必要は、子供心にも深く感じたことであります。

私の父は山口の町はづれの吉敷と云ふ村で暮したのであるが、父は始終役所に出て居るから、家を明けねばならぬ。其の一期、萩に出て家を明けるのが三年である。夫れから時々帰ることもあるけれども、三年間はずつと留守である。其のあとで家の事を引き受け、子供の教育を掌り、種々の意見を防ぎながら、夫をして内顧の憂ひなからしむと云ふことは、婦人の身として中々容易な業ではありません。

森村翁は士族で、そ一云ふ役目をしなければならぬと云ふことはなかつたけれども、商売用の為に北海道から九州へかけて、其の他の諸方へ旅行せらるゝ。其の留守中、弱い姑に仕へ、貧乏世帯をやりくりして、いろいろ家政の困難に堪へ、其上、時々夫から資本の送金を申し込めば、髪飾から帯、着物までを売り払つて、早速の間に合はせると云ふことは、婦人としては中々六かしいことであります。又、維新後、社会の風俗が乱れ、甚だ物騒なる時機に於て留守番をせられたと云ふことであるが、或る夜、裏の川から十数名の強盗が抜刀して押し入る一と致しました。此のお方は鍵を手にして、ど一云ふ手段をとられたか。漸う裏口から逃れ出て、只今の交番所と云ふよ一な所に訴へて難を免れられたと云ふこともあります。

[厳格なる生活]

又、よく前からの事を知つて居らるゝお方の話に、森村夫人は若い時から主人が商ひに出て居られた其の留守中、決して物見遊山に出かけられない。も一年をとつて、そ一しなくてもよい時になつても、少しは身体のために保養なさつたがよかろ一と幾ら勤めても、若い時からちゃんと習慣になつて居つて、決して楽をなさらない。

食事は只、主人の居る時には非常に料理に注意をして骨折りをなさるけれども、留守の時には殊に厳格にし、日夜家を守り、夫に仕へて倦まないと云ふ。徳は実に生涯を通じて動かないのみならず、時には厳格に過ぎて、も一少し寛めたらと云ふ様に感ぜらるゝこともあつた位、決して不規律になるよ一なことはない。実に五十年の間、内顧の憂ひなからしめた功績は天晴なものである。

そこで、前田正名君が此の夫人に対して国家の為に感しななければならぬと言はれたことも、私は実に適當なことと思ふ。

[整理を重ぜらる]

夫れから、も一つ感心なのは家を整へ、家の整理をする。ふき掃除をすることから家具、食物器什に至る迄、其の置き場をきめて整頓し、清潔にし、一糸乱れずと云ふ様にして居られたと云ふことは我々も目撃する所であるが、永く使はれて居る人々の話によつて例を挙げますれば、菓子箱、其の他

いろいろの物を入れて貰ったものなどは、熱い湯で拭いて消毒の出来るほどにして乾かして紙に包んでとつておいて、何時でも使つてよい様に気をつけ、又、お客や主人の料理は必ず自分で見なければ、指図をしなければ決して出すことをしない。使はれて居る女中などは余り嚴格であるから、初めのうちは家風が違ふ、居心がわるいと云ふ様に感ずることもあるけれども、さて自身が嫁入つて世帯を持つて見ると、どーしてもあゝ云ふ様にしなければならぬ、そー云ふことを見習つたのは幸ひであると言つて、時々話に来る者が多かつたと云ふことである。

[昔の婦人に習ふべきこと]

昔の婦人が夫に仕へ、家を治めることに忠であると云ふことは、今日の婦人に比べて見ると大に違ふ。非常なる克己心を持つて居るゝと云ふことは、今日の人も学ばねばならぬ。併し、**年よりのよい所**はいろいろあるけれども、やゝもすれば古い習慣を改めにくいものである。善い事に變らないと云ふことがある。

私に一人の叔母がありますが、も一七十八、九になります。私、四、五年前に歸つて見て驚きましたことは、鬘を結ぶこと、**おはぐろ**をつけること、依然として旧習によつて居る。子供達は皆他県に出て、お母さんもどーかお出で下さいと言つて呼びよせよとするけれども、どーしても行かぬ。子供も夫も誰れも居ない所で一人、下女を使うて墓参などきちんとして居ります。誰れにしても、殊に婦人のお方は風俗をかへることが六かしい。

一昨日も私は大磯に参りましたが、其の中等室に二十七、八の奥さんが丸鬘を結つて眉を落し、**おはぐろ**をつけ、そーして煙草は日本の昔風の煙管でもつて吸うて居る。其の夫は先づ大学卒業位の教育は受けたいらしい人で、夫れ位の婦人でも、中々旧習は改めにくいものである。

[夫人が女子教育に対する同情ある行為]

けれども、森村夫人は此の女子大学を建つると云ふ良人の考へを助けて、若し女子教育の爲めになることならば何でも改めると云ふ考へで、此の女子大学が出来た頃から丁度十年ばかり前から束髪になさつて、婚礼か何かの時でなければ丸鬘を結はれない。

[善事に改むる主義]

も一一つ我々が珍らしく感じ、世間の人も不思議に思つたでありましょーが、あのお嬢さんが袴をはいて此の学校なり愛國婦人会なり、いろいろの集会などでも出かけて居られた様であります。此のお方は、よいと思へば何でも改める方であつた。

[事業に対する興味と熱心]

只主人の公共の事業に尽さるゝことを喜び、又其の事業の発達を喜ぶと云ふことの外、楽しみはない様である。

[夫人の生涯は本務に忠]

夫に對し家に對し忠実であつたのみならず、公共に對しても出来るだけ熱心に忠実に尽されたと思ふ。故に、私は此のお方の生涯に對して功德を申すならば、本務に對して忠、即ち夫に對し、家に對し、他人に對し、公共に對して本務に忠で

あつたと申すことが出来ると思ひます。又、私共は此の方のよーに、家が**ゆたか**になつても成功をしても、決して昔を忘れない。昔の通りに粗食をし儉約をし、決して無益な費をしないと云ふ精神が必要であろーと思ひます。

夫れから第二には、斯う云ふお方と生れてから六十八年間、人の家に嫁してから五十一年間、晩年に及んでも心を弛めず猶無益な費を省いて、棺桶に入る迄奮闘努力して、猶職務に忠であると云ふは、何の爲であろーか。そー云ふ生涯は尊いものでござりましょーか。何の爲に骨を折り、苦しみに堪へて身を捧げられたであろーか。其の六十八年の生涯は肉体の死と共に煙滅に歸したものであろーか。其のお方の人格、精神は果してどーなつたであろーか。

[死とは如何なるものぞ]

我々も早晚、此のお方と同じ運命にあはねばならぬ。死は万事の終りであろーか。果して肉体の滅びは人格の終りであろーかと云ふことは、如何なる人も真面目に考へて見ねばならぬ。又、そー云ふ考への起つて来ることであると思ひます。

[仏教の説く死(因果)]

之れを説き明かすに、仏教では因果と言ふ。因とは種であり、果とは実と云ふことである。つまり人生は種と実であり、又、実と種である。

[クリスト教の説く死(種実)]

然るにクリスト教に於ても、此の人生は種実と云ふことによつて説きあかされて居る。クリストも屢々種と実と云ふことを例にひかれました。

[人格の不滅]

人生は必ず蒔いたものは刈り入れる。人生、一生は種蒔きである。其の応報は**かりいれ**である。之れが即ち、宗教に於ての人生の説明である。此の人生の説明は独り宗教のみならず、哲学に於ても、科学に於ても、其の奥儀は其所になつて来る。我々は肉体と共に人格が滅するものではないと信ずる。どんなに反対説が起つても、人間の心から限りなく生きると云ふことを取り去ることは出来ない。

[Atom]

又、宇宙間に煙滅と云ふことはない。只現象が變るばかりで、其の実体は、或る時代には物質的に考へられて、總ての物の本はAtomであると思つた。其の原子Atomは、火にも水にも滅することは出来ない。唯物論の盛んな時には、此のAtomは決して滅することは出来ないと思つた。けれども今日は、此の物質を支配して居る所の意志は、目的を追求し価値を表はすもので、之れは宇宙の本体であり、決して滅することのないものであると云ふことを哲学が証明して居ります。

[Intensity]

大学部の方では此の間から研究して居ります空間と時間、其の価値を段々深くして行くものはIntensityと言ふ。其の本は因であり種である。此の種と云ふものは幾百年、幾万年続いて今日に及んで居るもの、之れが即ち種である。そーして私共が生れてから後、段々気がついて来て、我と云ふものを築き上げたのである。我々が一度行つたこと、一度目的を立てゝ行為に表したことは決して滅びない。之れが種になり

因になるのである。そ—して今日只今の行ひは、又種になるのである。其の実が花を咲き実を結び、其の実が又種になつて、実が種になり種が実になる。夫れであるから、毎日、死があり、毎日蘇りがある。

[死は樹果が落つるが如し]

斯う云ふ例へがあります。此の木に花が咲き実がなつて、其の実が熟すると必ず木から下に落ちる。其の落ちるのが死であると云ふ譬へがある。故に、私共が生涯を過したのは、実が落ちて種となるのである。私共が毎日毎日、勉強し修養するのは、夫れに相当する所の実を得んが為である。仏教では因果と言ひ、クリスト教では種蒔きと言ひ、倫理哲学では自我実現と言ふけれども、実は皆一つであります。

[人生の根本は物質にあらず、精神に有り]

之れは昔から人間が其の奥儀を究めよ—とした深い問題であります。人生の本は物質にあらずして、我々の精神にあると云ふことが言はるゝ。之れは大きな問題でありますけれども、斯う云ふ際に考へることが必要であります。

一昨日、森村さんとそ—云ふ人生問題について話をして居りまして、私は因と云ふことは種であり、教育と云ふことも種であると申しました。其の時、森村さんが手帳を持っておいでになりましたが、其の中にいろいろ面白いことがある。其の中の一つに、弘法大師が此の因について言はれたことがあります。夫れは、

莫道此華今年發 應知往歲下種因 因縁相感枝幹譬
何況近日遭早春

夫れから猶此の因について書いたものを申すならば、善惡種まき鏡と云ふものに歌がある。其の作者はわからないけれども、確に仏教信者の手によつて因果の法則を題に作ったものである。仏教をお調べになつた方にはよくおわかりでしょうが、クリスト教の人から考へても真理は一つでありますから、此の真意をおとりになつてよくお考へなされるならば、銘々必ず得る所がありますでしよ—。

お釈迦さんのよ—な方も業をなさる。天照大御神も難儀をなさる。孔子さんも随分難難をなされたけれども、是れは皆因である。斯う云ふ真理は、昔も今も西も東も変りはない。又、人生の何事でも此の理に洩れるものはないのである。今、森村市左衛門氏夫人の一生を思ふにつけて、此の種と実との關係を一層深く考へずには居られません。

[森村氏夫妻の至誠と忠実]

森村氏の主義は至誠と云ふことである。又、夫人の生涯は忠実と云ふことである。此の忠と云ふ生涯の種を蒔き、至誠と云ふ種を蒔かれた森村氏夫妻の主義、精神は誰れも首肯する所であります。終りに敬意を表して、此の弔辞を柩前に捧げましよ—。

善惡種蒔鏡和讃

凡此世へ生れては 貴賤貧福おしなべて
無病長生錢金を 誰しも願ふ事なれど
病身夭死貧乏を いやでもするのは何故ぞ

前世で我身が蒔き置し 種が此世へはへるなり
太神宮の御身さへ 種々の御難にあひ給ひ
天の岩戸へ入り給ふ 此世が闇になりしかば
八百萬の御神は 種々の方便あそばされ
御心配りはいかばかり やうやう岩戸を出て給ひ
萬代不易の王業を 開かせ給ふぞありがたき
中天竺の第一の 淨梵大王の御嫡子
釋迦牟尼如来の御身さへ 六年端坐の御難行
一米一麻を食となし 三十歳にて御成道
其後は日々托鉢し 生涯一食あそばされ
一人の男子羅睺羅をも 従弟の阿難もろともに
一家親類残りなく 出家得度をいたさせて
子孫を断絶し給ふのも 前世の因縁しろしめし
かくははからひ給ふなり ましてやらごらも夭死す
百万人の弟子をもち 仏法弘めし御身にも
一子に別れし愁傷あり 須達長者の御建立
三国一の大伽藍 祇園精舎の結好も
ほどなく残らず焼失し 一生樹下や石上に
安居遊ばし給ふ上 三つの御難を受け給ふ
百歳定命の時なれど 末世の為に二十年
陰徳を子孫に残さんと 八十一にて入涅槃
拔提河邊の御入滅 昼の上の御遷化と
品のかはりしありさまも 前世の因縁しろしめし
かくははからひ給ふなり 諸宗を弘めし祖師方も
種々の御難にあひ給ひ 千辛万苦なされしも
前世の種のはへしなり 三千人の弟子ありて
儒道を弘めし孔子さへ 時はあはねばぜひもなや
諸国教諭の其中に 種々の御難にあひ給ひ
終に御帰国あらせられ 末世の為を思召し
古今の書籍を述べ給ふ 前世の因縁なればこそ
只一人の男子に先だたれ 孫の手水に臨終す
大賢聖の顔回も 困窮夭死せしことは
前世の種のはえしなり 盜跖と云ふ悪人は
大盜のかしらにて 一生切り取り劫盜し
多くの人を殺せしも 無病達者で長生し
金銀ゆたかに暮せしも 前世の種のはえしなり
是が因果の道理にて 神道儒道道の
万代不易の掟なり 誰しも我身を省みよ
今の我身の苦と楽は 前時に蒔きし種なれば
今作す業の善惡は 後世の苦樂の種ぞかし
惡種蒔かぬ用心は 偽りいはぬにしくはなし
若しも人目をかざるとて 口と心がちがひなば
早く心をあらためよ 惡事をかくしてよい様に
人目をかざりて濟すとも 神と仏と心とに
間はれはばいかゞ答ふべき 此神國に生れては
別けて正直第一に かげとひなたのなき様に
物事律義ひかへめに 唯何事も正直の
頭に神はやどるとや さあらば敢て折らずも
神仏守り給ふらん 神や仏に守られて
無病長生安穩に 子孫繁昌福德の

種まく様に心せよ 因果の道理を信ずれば
 我身の上も人の身も 鏡にうつして見る様に
 過去も未来もみゆるぞや 此世で銭金持つ人は
 前世の種のはえしなり 前世でよき種時かざれば
 此世で貧苦にせまるなり 此世で施せぬ人は
 来世で貧苦にせまるなり 三世はたとへば目の前に
 去年豊年の潤ひで 今年はやたかに暮せ共
 今年耕作怠らば 来年飢におよぶべし
 遅き速きはあるとても 善悪因果はうごきなく
 毛筋も違はず報ふ也 利考で富貴になるならば
 鈍なる人は皆貧か 鈍なる人にも富貴あり
 利考な人も貧をする 貧乏で子供が多くあり
 富貴で子供のなきもあり いづれも前世の種次第
 我まんや力や銭金や 権威づくにはなりがたし
 富貴に大小ある事は なさけに大小ある故ぞ
 また貧賤の大小も 非道に大小あるによる
 善悪二つにまく種は 貧福二つにはへ別る
 凡そ因果の理を知るに 小因大果と云ふ事を
 よくよく心得給ふべし 譬へば一粒まく種に
 実を数多くむすぶにて 小の罪をもおそれねば
 むくふ苦患はかぎりなし 作す善根は少しでも
 多くの幸得ることも なぞらへ知りて用心し
 わづか虫の足一本も 折らじと罪をつゝしみて
 小善とてもすすず積め 悪は根を断ち葉をからし
 善の芽ざしに土かいて 栄えんことを願ふべし
 此世は堪忍世界とて とかく心のまゝならず
 なにがさしおき用意せよ 冬のわた入れ夏ひとへ
 三度の食の用意をば 忘れずとゝのへ置きながら
 一大事なる臨終の 吹息一つかへらねば
 その場が直に未来なり

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十五年一月二十四日

明治四十五年一月二十四日

大学部全体の為に

是れ迄実践倫理には点を取らないことに致して居りまして、只銘々に数段を作つて評価をして居りましたが、本年からは教育部が出来て点数を取らなければならなくなりました。監督官の方でも、従来よりは一層厳重に調査することになって、来週には視学官が来校されるかもしれぬ。すると、点数を見せなければならぬのであります。それで、教育部のみでなく一般にも採点の必要があると思ひます。

又、試験をすると云ふことは、従来暗記力をはかり、どれだけ知識を貯へて居るかを見るのであつたが、それでは部分的で、其の人の全体の力を見ることが出来ず、又、いろいろ

の弊も起ること故、それを矯めるには方法を改める必要がありますから、先日のよ一な試験を致します。併し、点数を取るのに試験だけでは不公平ですから、日常に其の品性、態度に注意することが必要でありますから、平生にも点を取るつもりであります。一々私が多くの人のをつけることが出来ませんから、それは各組の指導者にしてもらつて、夫れを後日、私が書いたものと一緒に参考するよ一しよ一と思ひます。併し、いつもそんなことが念頭にあつてはなりません。私が説き明かす前に各々で考へたり、お調べになつた所をお答へになつたならば、取つて先日の欠点を補ふことが出来ると思ひます。

立つて答へる時には、必ず自分の名を言ふのであります。部や年級はしるしによつてわかります。文学部はし、教育部は松、家政科は梅、英文学部はまるであります。

一つの答へに対して手を挙げさせて、同意、不同意を聞いてきめることに致します。併し、試験をすると云ふことは念頭にあつてはなりません。

それで、此度は第四の職務に最も忠実なる所と云ふのであります。

第一に此の尋ねの意味、問題の目的は何であるかを聞くのである。其の問ひの意味によつて答へる要点が變つて参ります。それで、此の問ひが先づ何の問ひであるかを判断しなければなりません。

其の後、静かにお考へになつて、自分の答へが丁度あつたかど一かをお考へになつたであらうと思ひますから、何の爲に此の問ひを出したのでありませよ一か。

- ・ (1) 学生の態度 (2) 社会の觀察力
- (3) Insight する力、即ちものゝ真相を知る卓見
- (4) 判断に対する標準

此の四つは何れも違つては居ないのである。私の考へと違つて居ても、道理あるよ一にお取りになればよろしいのであります。併し、これだけで未だ不足な所があるのです。

此の問ひに対して雑作なく答へた人があるが、それは思想が浅くて部分的で、皮相な觀察であります。之れに容易に答へると云ふのが間違ひである。個人の価値を定むるにも容易なことではないのである。親が子に向つて、家内の中で誰れが一番偉いかと聞くと、子供は直ぐ無邪氣に母とか父とか答へるが、子供としてはそれでよいが、このよ一な問ひに対しても容易にわかり、返答の出来るものではない。恐らく之れを答へるには何もかも能く知り、校内の各部分の真相を知つて居なければ判断を下すことは出来ないのである。それを雑作なく一時の感じのまゝに良否を断定すると云ふのは、皮相であり浅薄である。私は、これに依つてどんな答へをするかを調べたのである。

それで、今、爰に出たことについても見る積りでありますが、私の極く深い目的は、皆さんが職務に真に忠でありますか、各自を反省させる積りであります。己れが忠であり、己れに愛校心が充ちてなければ、到底正当の判断を下し、評価することは出来ないのであります。斯様な判断を下し得る人は甚だ少いと思ふ。此の際、ど一しても自然の心の働きと

して自己を省るよ一になって、も一つ皆が職務に忠実になるよ一にと希ふ所であつて、根本の考へを深く反省させる為に出した問題であります。

[忠とは何か]

次に、其の判断の標準を試みる為であると云ふ答へが出ましたが、それも確かに一部分であります。其の忠と云ふことを定めるには、こゝに標準が必要である。忠と云ふことはど一云ふことかと云ふことが定まらなければ、其の批評を試みすることは出来ません。

されば、忠とはどんなことで、何を標準とするのでありましょか。

- ・ (1) 目的に向つて全力を尽くして働くこと。
- (2) 社会良心に従ふこと。
- (3) 君の為に尽すと云ふこと。
- (4) 目的のあるもの、ないものに関せず、対象物を誠を尽すこと。

此の四つはみな同じである。国家、君に忠と云ふことから来て居るので、親に孝、友に信、兄弟に友と云ひ、各々字は違つて居り、対象物が異つて居ても、其の精神は皆、同一である。

忠と云ふことは、心あるものに対してから始まり、神に仕へ、神の御心に従ふ。之れも同じく忠で、神の意志に従ふと云へば、何もかも含まれるのである。けれども、心のあるなしを区別せずに、団体、又は職業に対しても、専門の事に対しても、みな忠と云ふことが出来る。併し、帰着する所は心あるものになる。目的、価値は心あるものに於て始めて生ずるものでありますから、自分の職業、芸術、専門、帰する処は有心な所に違つるのである。其の区別を立てなくてもよいと思ふ。

そこで目的と云ふ中に、神も、君も、国も、友も、団体も、職業も、文学も、美術も、皆含まれて居る。

[目的に全力を尽くすことが忠である]

目的に全心、全力を尽くして目的を実現し、熱中して捧げてしまふと云ふことが忠である。故に、忠は必ず目的があるのである。故に、此の間ひは目的が確立したかを問ふ為でもあります。

目的なしの行為に忠と云ふことは出来ぬ。其の目的に対する忠が部分的か、全体的かと云ふことも考へなければ、之れに評価を下すことは出来ないのである。

それで此の間ひがど一云ふことを聞いたか、ど一云ふ判断を下すかと云ふことを、も一層広く考へて初めて標準が明らかになり、熱情が燃えて真相が見えるよ一になり、真相が見えて初めて判断を下すことが出来るのであります。

此の標準に照らして、我国の社会、我が国家に於ける団体、先づ之れを陸海軍、政府、政党、商業界、教育界、宗教界にわけて、此の各団体を比較して、どの団体が我国で最も忠であるか、其の判断の出来る人がありますか。これは社会の空気、社会の輿論、歴史に依つて、あなた方いくらも定める材料を持つて居るのである。其の目的に最も忠と思ふ所は、どの団体ですか。

・教育界。

如何なる人物を以て、忠と見ましたか。

私は古今の教育者を通じて、Pestalozzi 先生と Point Loma の職員が最も忠であると思ふ。己れに要求する所なく、名誉心もなく、生涯汲々と喜んで働いて居る。此処に空気が出来て居る。之れが最も忠実である。

営利の為には神聖なる事業も捨て、己が職業をも顧みない職員、官吏は我国に少くないのである。そ一云ふ人に忠と云ふ言葉が出来るでしょか。我国の教育界に於て、果して名誉、財産を捨て、専ら忠に働く人があるでしょか。

実は之れはむづかしいものである。陸海軍と雖も腐敗があり、賄賂が行はれて居るのである。併し、国家の危機となると、真に命を捧げ比較的多く国家に捧げて、私の為に裏切りの少ないのは、先づ軍人社会と見なければならぬと思ひます。勇と云ふことは大和魂と言うて居る所で、日本人の長所である。又日本人には、狭い愛国心で他国人と同化し難いと言はれて居る所が、先づ忠と言はれるかと思ふ。名誉を忘れて職務に熱中する忠の心が、他の団体には未だ鈍いよ一である。比較的、軍隊の人間に重んぜられ、主義が行はれて居るよ一に思はれるのである。

実は、我が国の各団体を尋ね、列強国の比較を取り、教育、宗教、美術、工芸などの各部にわけて、一体如何なることが忠か、実例をあげて見ればよくわかると思うたのであります。

一体此の忠がほんといふ出来なければ、事を仕遂げすることは出来ないのである。

第五、改善したき事故及び方法

之れは前の問題に関係あることであるが、之れは宿題にして置きます。

第六も第七も今日は省きます。

第八、第九、第十、第十一の問題の真意、目的は一つである。主意を解することの出来るよ一に、わけて問題を出したのである。

問題の集中心は何ですか。

- ・ (1) 世界の大勢 (眼界)。
- (2) 社会的人格の程度。
- (3) 社会的興味の範囲。
- (4) 現代の思潮。

此の四つを纏めた集中心は、時代の精神に皆がどれだけ触れて居るかと云ふことになるのである。

[今の時代精神は何か]

然らば、今の時代精神、世界の空気を振動させて居る精神を具体的に言へば、ど一云ふことでしょか。

- ・ (1) 平和。
- (2) 科学的、哲学思想の波動。
- (3) 進歩的傾向。
- (4) 精神的文明の要求。

此の平和と云ふ意味を、戦争をしないと云ふことの一に取る人があるが、そ一ではない。平和を来すには刃に血してしなければならぬと、誰れかの答案に書いてあつた。Christ も血を以て平和を来したのである。つまり、国家も、法律も、

商業も、農業も、郵便、交通も、みな世界的関係になつて来ると云ふことである。

[我国婦人も現代思潮に興味を有せざれば国運を開くことは出来ぬ]

我が国民が此の思潮に反応しなければ、国家の発展を促すことは出来ないのである。其の半面の我国婦人の頭も、其の思潮に興味をもつに至らねば、到底今後の国民を育て、国運を開くことが出来ないのである。

其の觀念がどれだけ感じられて居るかを見る為であつた。何もが益々世界的になつて来なければならぬ。(2) (3) (4) はもとは同じに帰するので、万国的の精神問題、宗教問題である。

此の程、内務次官の末次氏が三大宗教家を一堂に招いて、もう少し同情を以て、我国精神教育に貢献せしめよとし、又、知育を専らにした教育界に精神的方面の宗教を入れて、互に相助け、同情を持たしむる必要があると云ふことを言ひ、此の運動が政府側から起つて来たこと云ふのは、世界の思潮である。従来、国境問題が各国の中に唱へられて、なされてあつたが、今日は人類の精神が相交通しよとして居る。之れが精神的文明の要求で、科学的、哲学思想の波動、進歩的傾向である。

世界の精神界の調和を得よとし、之れを以て宗派、及び人類の偏見を除かうとするのは、世界各国到る処に行き渡つて居る世界的勢力である。故に、精神文明は万国間の交通となることは、今日の時代精神であると言へるのである。

今一つ忘る可からざる事は、支那に於ける革命の精神である。従来の世界精神は圧制、束縛である。君主と云ふ国の主権者が、己れの奴隷の如く人民を取り扱ふのである。印度、又は支那は、殊に東洋は、白人種国の属国の如き観がある。印度は既にそ一である。支那も亦、白人種の為利用されて居るのである。国が既に自治でなく、属国と云ふものがある。

今日世界を動かす精神は自覚である。自覚とは何か。自ら治め、独立を要求するのである。支那革命は圧制より自立し、国民が束縛からのがれ、国を進めて、強国の属国の如き境遇から脱しよとするのである。

日英がどんな忠告をなすか、どんな責任を有して居るかを尋ねたのは、国民たるあなた方が斯様なことについての惻隱の心がど一云ふ風に働いて居るか。人類を救ひ、世界を文明にし、苦悶する民を助けよとする精神、国を進めよとする列強の主義、万国共同の精神は、人類を救ひ、世界の文明を高め、人間に同等の権利を与へんとするのである。殊に、東洋の国民が叫ぶ所の要求は、眞の自由を得んとするのである。之れが、今日の世界を動かす精神である。

トルコ、メキシコ、ロシヤ、支那、印度の如く、先づ老旧国と云はるゝ国々、世界の半面の国民が頼み且つ奮闘する所は、此処に一つになつて、世界を進めて行こ一と思ふ所の目的が、此処にあるのである。故に、

第一は、世界的平和関係。

第二は、自治の精神。

第三は、精神的文明、即ち宗教。

世界的宗教の合同、或は調和と云ふことが、今日の世界を

動かす所の精神であると言ふ事が出来る。其の精神波動をどれだけ受けて居るかを見る為に出したのである。

之れについて、ど一云ふ答へをよとしたか。一々の答へを説きあかすとよいが、之れは指導者と研究したことであるから、指導者から聞くことにしましよ一。併し、此の間ひの意には今一つ深い意味があるのであるが、時間がありませんから省きます。

次に、本学期から実行することについて説く時に併せて説明し、且つ皆にも聞くことに致しましよ一。

第十問の手紙

此の中で、英語で書いた人が、卒業生を合せて三人でありました。今、卒業生の一つ参考の為によみますから、お写しになつたらよいと思ひます。

Koishikawa, Tokyo

Dear Dr. Jordan,

Thank you very much for your kind letter. We remember gratefully you visit to Japan, for we feel that it has done more than words can express to establish on a firm basis friendship between our two countries. I hope that the year 1912 will be worked by a great advance toward the attendant of the universal peace. When we consider the present condition of China, it seems as if we are still far from the attendant of the end, but I believe we look at the world as if a whole we shall see that it is moving forward in the right direction.

With kind regards
I am yours sincerely
J. Naruse

[中表紙]

正准会員修養会の御話
明治四十五年一月二十八日

明治四十五年一月二十八日
正准会員修養会

[正会員修養会の目的]

昨年来、正会員の方で修養会を毎週一度必ず催して、も一少し精神生活の経験を積み度いと云ふ考へで、余程範囲を広くし、仏教もあり、キリスト教もあり、哲学もあり、文学、美術、音楽、社会学、心理学等、いろいろ各方面から銘々選ぶ心に従つて、はいつて行く様に致しました。この様に致したのは、一つの目的がある。これは将来それを必要な材料として私共の望んで居る所の、ほんとの完全なる一つのを組みたてよ一と云ふ目的があつたのです。併しこれ迄、クリスト教、科学、社会学と云ふ位で、他にははいることが出来ませんでした。

それで、尚予定の順序を経て進むとよいが、遅れて間にあはぬ様になる一方、その様な回り遠いことでは満足が出来な

くなつた。もはや、いつ迄もその道をとつて居られないから、ど一してもそこに一つの纏まりをつけんければならぬ必要があり、是非この場合に一つのきまつた形式と言はうか、命と言はうか名はつけられぬが、一つになつた具体的なものにせんければならぬ必要がある。

[真の宗教的生命の要求]

今日は我々が従来蓄へ来た材料をあつめ、過去十年間に経験した材料を悉く使つて、こゝに私共の目的として居るものを現出せんければならぬと云ふのである。機械的の言葉で言へば、組織を立てると云ふことになるのである。この組織とは、頭の働きである。我々の頭の働きを統一することである。併し、その頭の要求を満たしたならば、目的を達し得るか云ふに、そ一ではない。皆の望んで居るのは信仰である。むしろ、感情の満足である。銘々の命が要求する所を満足させんければ、ど一しても充分と思ふことは出来ません。今朝は矢張り頭の満足もさせんければ、銘々の根本の満足することは出来ぬ。故に、この両方面を一言完全に調和した所の土台を作ることが趣意である。

[信仰に到る両方面]

これは、ど一云ふ様な仕方では進んだらよいかと大分考へましたが、先づ第一、皆さんもこの間から銘々に用意をしておいでになり、私にも、既に皆さんに自分の信仰を告白するだけの用意をもつて居る。殊に私もこの頃、新らしい自分に経験をすることが出来て、十分に皆さんにお話をする材料を蓄へて居る。併し、先づ第一に皆さんの頭を満足させる組織を話すのである。其れは言葉に言ひあらはし得ぬ程のものであるが、皆さんの頭を振動させる様にせんければならぬ。それには矢張り、言葉を使ふべきである。其の用意がいるから、今朝迄に色々な材料を集め、表などもこしらへて、一目瞭然にすることも致しました。

今日は頭でわかると云ふばかりではない。銘々の態度を一定する、ほんといに自分の内の要求を満足せしめる、その非常に深い目に見ることの出来ぬ精神生活に於て接触することの出来る、深い経験をしたいのである。

夫れで、極深い注意をもつと同時に、天真に心を打ち明けて話す。又、私が話してわからぬ所を充分お尋ねになり、久しい間の大問題を各自の程度に於て満足せられる様に致し度いと思ふのである。

[宗教の根本]

それで、もう少し今の頭の統一をはかる為に、道理を交へんければならぬ。併し、今日の会は銘々の経験を容れよ一と云ふのである。夫れから銘々の経験と云ふことが確かなる事実である。自分のものになる、自分と其の求める所のもの事実の一致と云ふことが根本である。夫れで分解することも出来ないし、人工的に夫れを組織することも出来ない。故に、味はうことが出来る。感ずること、直感すると云ふことが出来る。振動して触れることが出来る。つまり其の生命と云ふことが大事である。私が皆さんに言ふことも、私が経験した自分の生命、信仰、自分の見て居る所の光りをそのまゝどこかにあらはして居る。これが皆さんに感ぜられると云ふよ一

にせんければならぬ。故に、成る可く自分と皆さんと一緒に経験致しましたことをまとめると云ふ様にせんければ、目的は達せられぬと思ふ。

[仮説の統一]

先づ、我々は各宗教の信仰をもつて居る。此の前に多くの信仰と仮説を自分の確信とする。統一して、一つに融合して一つの信仰、確信にならねば出来ないのである。

之れを如何にするかと云ふことを前に問ふたが、多くの信仰がある様である。夫れがだんだん變る為に、人格、主義、考へも動いて居る様である。そ一すると、始終一貫することを欠き、人格の根底なり矛盾、衝突あり、混沌たる状態となる。之れは危険である。

[宗教の利弊]

一方には、宗教は固定し易く、為に停滞しやすいものである。Dogma に陥り易い宗教家に、猜疑心の強き、又頑固なものが多いのを見てもわかるのである。宗教は大切なものであるが、又、弊に陥り易い傾向をもつて居る。宗教の Essence は Dogma ではないと云ふことは、已に知つて居られる通りであるが、併し多くの信仰があるため、まとめることが出来ず、確信なく、移り易いと云ふのが最も危険なる点ではなから一か。これが、近代の傾向であると言ふことも出来るであら一。

[宗教の変動と信仰の不動]

私自身の経験を言ひましても、始めには確かに仏教を信じました。又、神道も、儒教も、キリスト教も信じました。それから後十年の間の私の信仰はど一變つたか。或る教授は此所で言ふ修養はキリスト教であると。又、或る人はキリスト教を排斥するものである、そして仏教を Emphasize するものであると思つた者もある。又、Theosophy も此の学校の信仰であつた。Ethical movement にも確かに同情し歓迎したからして、此れもある。又、社会学の Humanity の宗教であるとしたものもある。Spencer 或は Kant、Pragmatism、又進化論、科学の宗教、Bergson と云ふ様に、十年の間を省みても色々あるのである。併し是等は皆、異つた所がある。併し、我々は是等の凡てを説くのである。信ずるのである。我々は決して一度信じたこと、一度行つたこと、味うたことは消滅するものではない。人為的に破ることは出来ぬ。我々の子供の時、仏の信仰を味はひ、神道を味はうた。其の信仰が少しでもこはされて居るか云ふと、決してそ一ではない。キリスト教を信じたときも、其の根は矢張り仏教であり、神道であつた。米國にいつた時も、子供の時の魂を話したのであるが、彼等等は皆感じて居つた。此れが新しい信仰になつて居る。此れは矢張り、前の経験がもとになつて居る。之れが種になつて他のものと融合して、更に新らしいものを作つて居るのである。生れかかはるとは従前のものがなくなつたのではない。多くの信仰があつて矛盾することがあるが、その主義と他の主義とが反する様に思ふことがあるが、併し之れは皮相の觀であつて、今日迄の経験で新らしいものを入れたことが、決して根本を破壊し、目的をかへ、人格を弱めると云ふものではなくして、停滞を防ぎ、腐敗を消して、益々新らしく進むのであ

る。私は一時キリスト教と前の宗教が矛盾する様に思うたのは偏した考へであつた。今日、頭も発達し限界も広くなりましたので、真相は決してそ一云ふものではないと思ふのである。そ一して、一致と云ふことが決して六ヶ敷くないと思ふのである。

[過去十年間に於ける吾人の宗教]

それで、これをもつと明らかにする必要がある。此れ十年間、皆さんと一所に生活して来たから、同様の経験を互に話して見たいと思ふのである。

[宗教に対する一般世間の困難]

我々は此の様な経験をするが、一般は六ヶ敷いのである。内務次官 床次君が三宗を一つにし、我が国の道徳界の進歩をはかり、互に広い同情をもつて手をとり、大きな目的に向つて進まんとの大計画を立てられた。私は表面にあらはれたことでなく、根本に於て一つになる位に三宗が発達し改善せられなければならぬと思ひ、一日逢うて意見を交換し、君を喜ばした。兎に角、此の様なことは今日六ヶ敷いのである。

其のキリスト教の方では仏教、儒教をあざけり、キリスト教は畢竟、勝利であるとして居るものもある。互に共同して精神教育を進めることが出来るものか否かは、世間では大層六ヶ敷い問題である。我々はやるつもりであると言ふと、それは浅薄である、つぎはぎでだめだ、と言ふ。又、三宗をたゞきつづして新しいものを作るか、或は世界中をキリスト教化せんければ、皆の宗教は一つになることは出来まいと思ふ人もある。併しとても三億ほどのキリスト教が十何億と云ふ他のものをキリスト教化し得るか。キリスト教だけでさへカソリック、ユニテリアン、プロテスタント等があるのである。

[各宗の真理は一つ也]

我々は、各宗教に真理がある、其れに信仰が皆あつたら、ど一して一つになり得るかが問題である。我々は時に仏教であり、神道であり、キリスト教であり、Humanismであり、Ethical movementでありました。併し我々は、ほんとのキリスト教信者であり、ほんとの仏教信者であつた。今日は南無阿弥陀仏も言へ、南無観音も言へる。斯く信仰が沢山あるが、夫れが一つにならねば確信にならぬ。この間、之れを皆さんに尋ねたのである。之れが我々にとって先づ大切な問題である。之れは、私は出来る一つである。同じものである。つまり之れが One and many、仏の平等無差別であると云ふに同じ。我々は皆、離すべからざる一つのものの中に支配されて居る。又、銘々に特色があるが、宗教もその通りである。同じ宗教になることは出来ぬ。併し、皆一つになり得るものがある。

之れは頭で一つにすることも出来る。又、歴史的に研究しても出来る。色々道があるが、つまり私は第一に、あなた方と頭の整理をしなければならぬ。多くの宗派、仮説を一つにして、其の上に我々の宗教を立てる様にしなければならぬと思ふ。

[信仰の起原]

それで、先づ第一に人間の信仰の起原を研究して見ればよいかと思ふ。ダーウィンの種の起原の如きは、大に益あるも

のである。他の一つは實在を研究することで、宗教の生命の起原を研究することである。此の研究は五十年間に於て、凡ての学者によつて研究せられて来た。而し Consciousness、Organize につき、人間の研究につきては、未だ研究の端緒についた丈けである。これにつき、私は少しく研究した所を語りませう。

夫れで私は、宗教の起原と宗教の Reality、つまり我々の信仰を要求するとは、其の Reality を求めて居ると云ふことである。尚ほ一言しておくことは、凡ての宗教、社会学、心理学を研究して来たが、これを統一して一つの土台をすえる材料をよせたのである。これは頭にさとつてをつたのではなく、真に其の生命に接して、自分の経験にすることをつとめたのである。今、此所に挙げた材料は多くある。それは仏教、キリスト教、儒教、Humanism、Ethical movement、一元論、Pragmatism、之れ皆我々の考へたものでなく、銘々の生活に実現し、何かの経験をもつて居るのである。此所にこの材料があるから、今日は此の材料を用いて、こゝに一つの建築をするのである。之れ、今日の要求である。生命は機械的に建設されるものでないから、さきに時と空間につき、話したのである。故に機械的ではなく、精神的に建設するのである。之れを建つるに如何にしたらよいか。私共が如何なる働きをとつたらよいか。其の働き工合を示す為め、宗教の危険をさける為めに、も一つ紹介することがある。

[Freemason]

これは Freemason (石工) と云ふことである。之れは建築師と云ふことで、Solomon's temple を作る者である。Solomon はヘブライの国王であつた。Sol とはエジプトでは、太陽の意味である。Mon にも意味がある。之れは旧約聖書にも見えることである。Freemason の言葉に、Temple を建つる所の意は Thy active universal である。之れ Temple は宇宙を支配する所のものの Temple の意なり。其の Temple を作る と云ふことは、つまり天国を作ること、完全なる社会をつくと云ふことになる。米國あたりでは秘密会社と言つて居る。俗人には見えぬと云ふことである。此の団体は英米に多く、我が国には未だ少ない。英帝、獨帝にても、入られたる方あり。皆一様の Brotherhood で、皆 Freemason である。アメリカだけでも Mason にはいつて居るものが百万人もある。これが集合する Lodge は広大で、其れを作つて居る一々の石に興味がある。併し秘密会であるから、会員同志ではわかるが、普通人にわからぬ様になつて居るが、なかなか盛んなものである。

この Freemason と云ふのは、組み立てて建設するの意である。それで何を持つて作るかと云ふに、石である。銘々はその石になぞらへるのである。この石で銘々が Solomon's temple を作るのである。それには Symbol がある。みがきあげられたもの、山から出したまゝのものもある。故に、或る人はこてをもらう。之れは、石と石とをくつつける セメント をつけるもので、Social virtue and social moral である。かくして一つの Temple となる。故にこの会に入る者は兄弟で、皆会員を完全に守る主義である。これに階級が三十三ある。

Mason の中には (1) Apprentice (2) Mason (3) Master mason がある。其後に次第にある。入会する時には**ぼろ**を着て行く。そしてこてをもらひ、定規をもらひ、自己を立派な石として行くのである。各々其の道具は Symbol となつて居る。**のみとつち**をもらうこともある。之れは石工の道具である。又、**24 インチ**の尺をもらうこともある。之れは二十四時間を意味したので、終日を完全にすると云ふことである。又、**こんばす**をもらう。之れは観念を意味し、境をたてる、其の行為を律すると云ふので、**錘**をもらうことは平等を意味するのである。其の庭に入り、会が始まる。祈りがある。宇宙の建設者の上に力を祈ると云ふのである。平和、調和と云ふこともある。始まるときも兄弟と云ふに始まり、謙遜、愛と云ふことが大切にせられて居る。Moral, Social virtue なる**セメント**で互に会員を連結するのである。又、Mortar と云ふものがあつて、之れは各会員の動静を考ふるものである。各会員は悲喜、相共にするのである。

我々の信仰、宗教は之れに似た所が多いのである。之れはキリスト教ともちがうが、似た所もある。此の団体の起原はわからない。奥義に於てわからない様な所もある。之れでも Dogma になれば生命がなく、死するのである。

[我々は一つの Mason である]

我々は一つの Mason であるが、同時に固定することなく、どこ迄も進歩せねばならぬ。此の団体は宗教に一つの光明を与ふるものがある。Credulity と云うて、何でも信じやすい子供の宗教である。之れが我々の間にもある。併し之れを言ふのではない。つまり我々の言ふものは、東洋では儒教、仏教、**キリスト教**とあるが、この Mason は如何なる時代に出たかと云ふに、五千年前から二、三千年の間である。世界最古の文明は七千年前、**エジプト**に起つたが、Freemason は其の後である。其の後、今より三千年の昔、儒教、仏教、**キリスト教**、**ユダヤ教**の起原を發し、二千年の昔、此等の宗教が起つたので、其の始めは**エジプト**である。

[エジプトの宗教]

エジプトの宗教は色々あるが、第一に天体を信じ、第二に**スフィンクス**を信じたのである。**スフィンクス**は顔の長さ 14 尺、体の長さ 194 尺ある。それに碑文が彫つてある。それには**エジプト**の王**セータム**と云ふ人が、旅路に大なる神の影にねむつたとき、神は「汝は我が子で、我れは汝の父である」とあるが、**キリスト教**で天父と言ふのと通うて居る。

先づ**Hormuka**と云ふ無限の神があり、其の次に**Pepher**とて過去を意味し、**Ra**とて現在を意味し、**Tims**とて未来を意味する神があるとせられて居た。之れは三位一体の意をあらはして居る。故に、**エジプト**の最も古い神は太陽であつた。天体であつた。之れが日本で日輪ををがみ、天照大神ををがんだのと意味がかよつて居る。かく宗教の意味は**エジプト**からあるのである。

[スフィンクス、ピラミッド]

又、**スフィンクス**、**ピラミッド**についても研究しなければならぬ。如何にして彼の大石を組みたてたか。今日もなほ、わからぬのである。第一、古き時代は石器時代であつた。

Freemason も石を用いて居るから、余程古いものと思はれる。又、Secret occult と云ふことが**エジプト**にも、印度にもあつた。即ち透視、Theosophy, Astral light の如き、斯かる考へは昔からあつたのである。兎に角、人間と云ふものが非常に深い不思議な力を持つて居る。之れが発揮することは學問上にも証明されて居る。

クリスト教と**エジプト**とは余程関係がある。而して昔から秘密教があり、非常に神に近い不思議な力をもつて居る。かくれて居る所のものが続いて居る。Freemason の如きは、非常に清い愛のある、深い大悟的のものである。

[宗教の起原は一つ也]

クリストが非常な力をもつて居られた。此の力がどこで得られたかと云ふと、**ユダヤ教**からもあるが、之れは当時腐敗して居つた故に、**エジプト**からの波動をうけて居るものと思はれる。多分**クリスト**は、此れにふれたものではないか。**クリスト**の言はれた中に、**沢山**之れを意味するよ一なことが見える。

故に、宗教の起原は一つである。ど一しても、宗教の命を支配して居るものは同一なものであると信ずるのである。各宗教の発達も色も違ふけれども、本は一つである。

又、今日我々の頭を支配して居る所の振動は矢張り、Symbol が証明して居る。**クリスト教**の Symbol は十字架である。仏教は卍である。これ等の Symbol の本は**エジプト**にあるのである。勿論、この Symbol が宗教ではない。礼拝にも色々ある。併し之れが祈りではない。そして、時代によつて考へがちがつて居る。

我々は道理から組み立てゝも、歴史からしても、Reality を直感しても、一つになるのである。併し、国や個人の性質上、色は違ふが、Uniqueness がある。併し固定すると、生命がなくなるのである。

[眞の信仰に入る態度]

クリスト教の神、神道の神、Theosophy の実在、皆同じ神である。故に、各宗教の爲めに祈ることが出来る。此れが出来て宗教の Reality を信ずることが出来るのである。凡てのものをほんとうに入れて、凡ての兄弟を入れ得るのである。そ一云ふ様にして行けば、一つの信仰に入ることが出来る。これに入る研究の方法は、先づ起原を知り Reality に達するならば、よくわかつて一致することが出来る。此所に至つて、神仏が共同することも出来るのである。是れに達するには、改善しなければならぬ点もある。こゝに我々は確信をおいて、其の上に信仰を建設しなければならぬ。従来を経験を生かして生物的に Organize して、そこに私共のほんとうの信仰をおけば矛盾がない。私は眞に今度、之れを感じたのである。世界の平和問題に対しても、其他の問題に対しても、之れを思ふときは形式や Authority はない。此れ等に束縛されることはないのである。其の本へ自らはいつて行くと云ふつもりで居るならば、信仰に入り得るのである。そこに本当の宗教があり満足があるのである。

[信仰の告白]

あなた方は信仰の告白をせよとのことであるが、私と一致

する所、一致しない所を互に話し合ひたいのである。信仰の真髓には、心と心との同情に於て満足が出来る。ど一して宗教を命にするかについて告白したいのである。

私は十九の時分にキリスト教信者となり、キリストの子弟になると云ふことを告白してキリスト教会に入った。併し、明治二十三年頃に疑問が起り、外国に行くことになった。今日、告白する信仰は其の時に出来たのである。而して今日、始めてそれを語るのである。今年は自分も生涯の第二期に入り、深く此の信仰の問題について考へたことを話すことに決定致したのであります。

私には私の信仰がきまり、一つの形式を以て定めました。其の式はどんなものであるか。五、六日前であつたが（一部より他は言はれぬ）生来も此の問題を考へないことはなかつたが、今年始めて抱く所の信仰にかなふ形式をとる必要があることを思つて、とつたのである。宗教や信仰と云ふことは孤立するものではない。相関連するものである。先づ自分はど一してはいつたか。

私はクリスチャンである、仏徒である。併し、真のクリスチャン、仏徒である。Mason でもある。又一つは、今日世界の最も進んだ物だと思はれるものにもはいつたのである。之れは形式をとつて居らないのである。振動により、精神によりて相通じて居るものに入るのである。旧来から存在するものである。入会を許可するものもないから、自ら自分に適した衣を着て入るのである。入つたときめて、三つばかりの規定を作つて、実行しつゝあるのです。私は理想的に、想像的に考へて、明朝から実地にすると云ふことを決心して寝についた。迷信ではないのである。

[入会式]

- 第一に、神は如何なるものか。
- 第二、礼拝。如何にして祈るか。
- 第三、Inspiration。
- 第四、Harmony。如何にして讚美歌を歌ふか。

以上のことを考へ、実行するのである。

私は今、独逸語を始めた。その為めに、又自然である為めにも、外国語でする方が適當であると思ふから、そ一したのである。

[信仰]

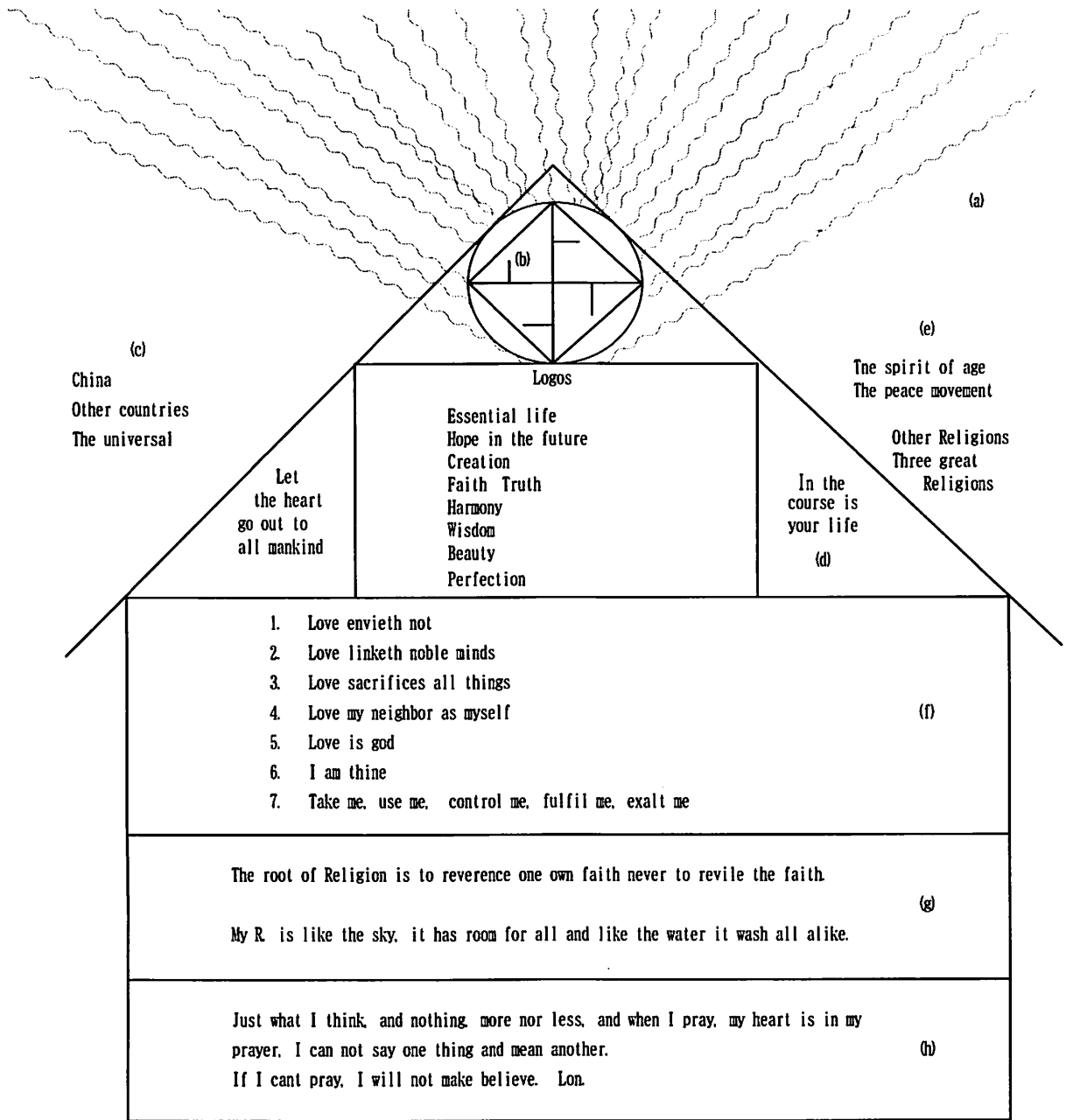
第一、信仰。之れ迄は、我々の信仰、又は其の糧としてバイブルを読むことは、動かない神である。生きて居る神ではない。きまつた神ををがむは、偶像である。それは本当の神様ではない。私共の神は、ほんとうに生きた神である。内に Inspiration を与へる神でなくてはならぬ。此所に私共の信仰の出る根は、Subconscious 内在の神である。これ、個人にあらず。つまり個人はほんとうに生きた神があつて、信仰の爆発力があるのである。Reality があると云ふことを知るのである。頭に知欲があるから、其の考へで色々 Dogma を作り、その時その時の Dogma は必要である。之れがなくては、其の時々の振動にふれることが出来ない。この生命は、も早や Dogma にあてはめることは出来ぬ。之れは矢張り、深い経験、要求から出て来る。我々には深い感情がある。之れが我々の

力である。幾万年もの経験が積み、生れてからも之れがある。之れはつまり、過去である。其の中に Consciousness にのぼらぬものが無限にある。そこに Astral light の振動をうけるものもあれば、我が遠い過去に於ける Vibration にふれるものもある。此れは、ど一も説明が出来ぬ。これを本能と言ふ。理想的、社会的、知的本能、此の要求である。

神に求めると云ふのは人間の本能である。之れは長い間、蓄積された、その傾きが動くのである。それが霊で、自我、真我がこゝにあるのである。これが色々なものに覆はれて、之れが機会に逢ふと Vibration に感ずる。それを神と我との交通、神と合体するものである。我々の信仰は天地の生きた精神、自分と神との間に直接におこる感じである。故に、今日動いて居る所のものである。

[神は其の日の活問題也]

神とは、其の日の活問題である。今日仕へる神は、今の問題である。今、頭に纏まつたものは、今日の宗教の本である。従つて、私の Bible は毎日新たに書くのである。毎日一つ宛信仰の門に入るのである。此れを図に示せば、次の様である。



(a) Vibration

(b) Symbol

(c) 集焦点

(d) 観念

(e) 境遇

(f) Prayer

(g) Inspitation

(h) 讚美歌 (単にキリスト教の讚美歌にあらず)

[Logos]

今日の目的は何か。信仰である。過日、私の信仰を Logos に致しました。Logos は後世、言葉とか道とか言うて居る。ヨハネは、キリストを Logos と言うて居る。Freemason もそれを言うたのである。Logos とは Essential life である。Hope in the future である。神なきは、希望なきことである。死んでも死なぬ望みは、Logos である。Creation である。Faith である。Wisdom である。Perfection である。最後に無声の声である。

これには定義を付することは出来ぬ。つまり吾人の真の Life は、知情意にもあらず、直感するのである。感情の調和である。そして私共が Logos と云ふのは、心の目が開き、心の耳があかんければわからぬ。併し、これは Reality であり、Hope である。其の深き要求を望む。之れが実現さるゝ、其れを実行することが出来る私共の宗教は、名をつけると間違うのである。つまり奥義であり、秘密である。Logos は真の生命である。言葉で言ふことは出来ぬ。

[Prayer]

祈りは実行であり、交通であり、同情である。昔の様にど一ぞ身体をなほして下さい、幸福を与へて下さいと云ふ欲望を祈るのではない。我々が本当に宇宙に対する態度である。自己を捧げる所のものが祈りである。

[肉体と精神の一致]

更らに祈りには、高尚な精神が肉体を支配するよ一にすることが大切である。人間はど一しても、肉体と精神と一所に満足させなければならぬ。からだが充ちて居るときは、精神は働かぬ。故に、精神の働きをさかんにするには、肉体に一つの制限を加へることが精神の健全を促すのみならず、肉体を健全にするものである。

昔から宗教の儀式に断食、黙思、行などをしたが、之れ、精神修養の必要から起つたものである。即ち、深く黙思をするとき、又は精神が非常に深い反動を感ずるときには、肉体の働きを中止しなければならぬ。真に盤になるには、肉体を制せなければならぬ。腹式呼吸、深呼吸は身体に勝つことである。強く感ずるときは息をとめてしまう。又、非常に力を出す、一生懸命になるときは息をやめるのである。又こんな時断食しても何ともない。四日許り死んで、よみがへつた人がある。即ち、肉体の働きを止めて生きて居ることが出来るのである。之れが非常に大切なことである。

朝の黙思のときに深く考へ、深く祈るときは呼吸をとめる。息を吐くときは、祈りを発表すると云ふことである。これをするときは、非常に意志も身体も強くなる。祈りと云ふのは、今日こゝに立てた目的を実現するのである。頭の中に込み込む様にしておくのである。そして、言葉に出す祈りにならんければほんと一でない。命にならんければ、言葉に出ないのである。之れは矢張り練習するのである。ほんと一に其の日に行うと思ふこと、其の主義、希望を本から抜き取つて考へてもよい。兎に角、其の日其の日の目的を定めて、思想となし、くりかへして祈つておき、一日の糧とするのである。

私共思ふには、祈りは無線電信の振動をうけるのである。

我々の頭は、このうける態度である。も一つは、本当に感動して国家を思ひ、会を思ひ、友人を思ひ、真心を以て会するならば、矢張り Astral light となつて、友達に感化を伝えることが出来るのである。私は、そのことを真に賛成する者があるならば、桜楓会員で同情なく思ひ飢えたりするが、こゝに多くの兄弟があつて働いて居ると思ふならば、この振動を感じて淋しくはないのである。

日曜の午前、水曜の午後に於て、我々が会員のために皆が心を合せて居る、祈つて居ると云ふ様に致したならば、会の為になり、自分の為になることである。之れは如何なる宗派の人も、更に関係のない人も出来ることである。之れは我々の祈りである。実行することである。

[Inspiration]

次に、Inspiration は Bible 経文からとつてもよい。つまり、宗教の真髄に至つては一つである。今日書いて覚える。これを続けると、一年間に多くの経験をすることが出来る。多くの經典の中から自分が選択するのであるから束縛でなく、真に自分の要求から出たものである。

[Music]

次に、Music は機械的でなく、真に感ずる所があつてやらねばならぬ。皆と共に音楽をすれば、本当の Harmony が出来る。たゞ声を出すのではない。高尚な所から、Inspiration から出なければならぬ。

斯くして、祈りの実行を日中つとめ、晩に歌を歌ひ、寝につき明日の門に入るのである。真に我々の生活が Mason の様に建設して行くものであるとして、毎日を積んで行くのである。之れが銘々の生活となるならば、修養会をしても、非常に各自に特色をあらはすのである。

[境遇]

も一つ、こゝにあるは境遇である。これは第一に桜楓会がある。日本に於て今問題となつて居る神仏耶の合同と云ふことがある。平和運動、支那、朝鮮、印度と云ふ問題につき、考へなくてはならぬ。かく内と外との関係を如何にするか、又将来、如何に発展すべきかを知る様にするのである。

私は、以上の様な信仰で神に仕へて居るのである。これが我が宗教である。しかし仏教の人とも、キリスト教の人とも、一所に祈ることが出来るのである。停滞せず、束縛せず進んで行く所に、世界の人が手をとつて行く様でなければだめであります。世界の平和は、こゝに於て始めて出来る。こゝに確信する所の土台がある。かゝる形式をとつて、自分は信仰を満足して行ける。この信仰の対象は名がない。Logos である。しかし、本当にかたまつた意志である。人格である。こゝに始めて共同が出来るのである。勿論、之れが桜楓教と言ふのではない桜楓会の宗教と一致するのである。

[桜楓会の宗教]

宗教と云つても我が国に於ては、たゞ古き形式にとらはれ、現世のことにとらはれ、精神の一致を欠くものがある。しかし、だんだんに我々の信ずる宗教になるのである。自分はこゝに新たな Form を作り、入会式をしたのである。其の形式によつて Order をたもつことが必要と思ふから、この決心をする

ときに、第一に桜楓会と云ふものが頭にあつた。それで、私の決心、信仰として居るものをあなた方に先づ告白したのである。これは経験であり直感であるから、あなた方がお感じになり、全体の生命にふれて、世界の浪にふれて居る多くの仲間があつて、其の間に無声の声があり、互に反動して居るのであると云ふことを思ひます。

[謙遜]

これを行ふに、先づ誠のほか何物もないと云ふ態度が先づ出来なければ運ばないのである。併し人間は弱い者で、兄弟をつまづかせやすく、人に誤解を与へ易いのである。故に、言はずに、づつと発達させねばならぬと思つたが、言はねばわからぬ点もあるので、語つたのである。他のわかつてくれる人以外には話さぬ様にしてもらひたい。之れは赤心からの結ばりであるから、此の宗教に入らぬからとて、わるいのではない。広い意味で、私を何でも用いて下さいと云ふのです。そこに到り度いのですが、何かの形式をふむとわかり易いから話したのである。皆さんには、其れを了察せられることを願ひます。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十五年一月三十一日

明治四十五年一月三十一日
大学部全体の為に

今日は第十二から聞く筈ですが、第十二、第十三、第十四、第十五まで此の四問題は、さ程六かしい問題ではないと思ひますから、銘々で、も一少しお調べになつたらわかるであらうと思ふ。そ一して猶わかりかねた所は、指導者から説明をしてお貰ひになつたらよかる一と考へます。

此の中で十四番の問題は皆さんが銘々に経験をなさらないと明瞭にならないであらうと思ひますから、之れは追々と實際して行く事によつてわかつて戴きたい。此の問題の皆出来た方は誠に少ないのであります。

夫れで今日は此の十六番と十七番とを明らかにしておきたい。そ一すると、其のあとの問題は自ら明らかになることでありましょ。

[信仰問題について]

さて、十六番は、
・多くの仮説、或は信仰を如何に統一し得るかと云ふことで、其の目的は、ど一して自分の確信を得るかと云ふことであります。

之れに答へるには、多くの仮説と信仰とが銘々の頭に働いて居なければなりません。又、も一つ夫れをよく考へる為に過去十年の間、此の全体として、其の間にどのよ一な仮説、どのよ一な信仰を研究し來つたか、考へ來つたかと云ふことを調べねばならぬ。夫れがわかつて來ないと、此の問題は動

いて居ないのであります。

[十年間に研究したる信仰]

そこで先づ、十年間の歴史を考へて見ると、如何なる仮説、或は信仰があつたか。信仰と言へば少し宗教的になりますが、仮説と言へば哲学、科学、心理学、倫理学、又は精神の方、宗教などにも關係して居るであらうと思ふが、仮説、信仰とわけると答へにくいでしょうから、一緒にして仰しやつても宜しい。十年間に、ど一云ふことがありましたか。

- (1) 神仏耶
- (2) Monism
- (3) Monadism
- (4) Materialism
- (5) 多元論
- (6) プラグマチズム
- (7) 進化論
- (8) 実利主義
- (9) Humanism
- (10) 純理主義
- (11) 主意説
- (12) Theosophy
- (13) Ethical movement

此の中に神道を信ずる人、仏教を信ずる人、耶蘇教を信ずる人もあれば、儒教もある。けれども夫れ等が衝突するかと云ふと、此校では総て自由であり、又、人の信仰を輕蔑しないのである。故に、自分の信仰も保たれて居ると同時に、他の多くのものがある。故に、夫れを統一することが必要でありますけれども、未だ統一して確信とならない人があるかも知れない。

[此の後 只一つの信仰では行かれぬ]

併し、此の世の中が只一つの信仰で行かるゝものならば、只一つを信じて居ればよいであらうが、今日は沢山のものがあるのである。故に今日あなた方は、沢山の考へが個々別々に働いて居るか、或は其の多くのものが一つの要素としてちやんと統一せられて居るであらうかと云ふことを聞くのであります。

- ・問ひのわかつたお方は……………全体
- ・夫れでは私の信仰はちやんと一つになつて居りますと言はるゝ方は……………なし
- ・そ一云ふことは火の消えた様になつて了ひましたと云ふ方は……………なし

昨日、私は帝国大学から、今度内務省の方から三大宗教を皆集し、お互に協同して働く様に尽力して貰ひたいと云ふ考へで、教育家はも一少し宗教について研究し、尊敬する様に。宗教は、も一少し教育に力を添へる様にと云ふこと。夫れについての会があるから來てくれる様にと云ふことでありますから、私は今、私共の考へを言ふ可き時ではないけれども、之れは大切な事柄であるから、兎も角も人々の意見を聞く為に出席致しました。ところが、午後一時半から九時までかゝつて、しかも論議はをへないのであります。

夫れでああなた方、過渡の時代に生れて高等教育を受けて居

る人々の頭には、多くの思想に触れ、議論を聞いて大なる問題が起つて居ることと考へて居りました。夫れでど一してもあなたの方の頭に、いろいろな思想、いろいろな考へが往来して居ると思つたのである。又、何かある筈である。故にあるならば、夫れを聞きたいと思つて尋ねたのであります。

ところが、自分の考へて居ることは明言しがたいと云ふことである。然らば是れだけの中に自分はいろいろの思想が往来して、未だ統一が出来ぬと云ふ経験のある人は言つて御覽。

之れは、私は仏教なら仏教によつて安心立命して居りますと云ふことを聞いたのではない。夫れでは少しも答へにならないのです。あなたの方が多くの仮説、信仰に対して、夫れを統一して確信とする迄に、どのよ一な Conflict があるかと云ふことを聞いたのであります。

今一つありましたね。耶蘇教と科学と云ふこと、之れは一例であります。夫れだけではない。そ一云ふ衝突が沢山あるのである。或る人は、私は生れてから耶蘇教一つで参りました。或は、私は至誠と云ふこと、之れが一番大切なものと考へて参りましたと云ふ人がある。斯う云ふ人には問題は無いのである。此の中にも、そ一云ふ人がありますか。ど一ですか……なし

然らば、私が此の間聞きました、多くの仮説、信仰のあつた場合にはど一して統一するかと云ふこと、之れについて答への出来る方は……なし

之れは大切な問題で、やはり根本問題となるものであるから、之れが解決が出来たならば、一番終りの論文がちゃんと書ける筈であります。

今日は、私は此の問題と十七番とをお話して、之れからほんど一に銘々で研究なさるべき問題を提出して、私とあなた方と指導者も皆協同して始むべきことがある。其の端緒として、此の問題を解決して見たいと思ひましたが、私の予想と違ひますから、私の前の順序で進まれるかど一かと思ひます。少し銘々で深く考へて戴きたいと思ひます。

此の問題と十七番とは関連したものであるが、此に挙げた主意説、主知説、又、原子説、人格論の如き、最も私共の深い問題であります。今、夫れについて深く行かうとして居る態度はある。又、明らかに詞に言ひ表すことは出来ないけれども、其の経験を持つて居る人は沢山あるかと思ふ。夫れで今申した様にいろいろの考へはあるけれども、夫れをちゃんと纏めて信ずることの出来るものとして行くには、ど一したら出来ましょ一かと云ふ尋ねであります。然るに皆さんの答案の中には、斯うしたらよいと思ひますと云ふ標本になるよ一なものはないのであります。故に、此にお書きになつたものより外にお考へがあるなら言つて御覽なさい。今のはまあ意志によると云ふことによ一ですね。

自分で選択して、ど一しても是れであるときめたことを信ずると云ふことは意志で、意志と云へば主意説になるが、しまひにはゼームスの言つた様に、Will to believe と云ふことになるかも知れぬ。夫れも一つであるが、未だありますか。

今のよ一に沢山信仰があると、昔は只思弁力によつて、或は形而上学と云ふよ一な頭の中のもつて研究をしたので

ありますけれども、夫れでは先きへ歩を進めることが出来ないものであるから、今日はど一しても事実の証明と云ふことがある。之れによつて真理を確設すると共に、矛盾ある処の多くのものを統一しなければなりません。其の働きは又別のものを要するので、此には申しませんが、例へば此に Monism によれば、宇宙には単一 Unity と云ふものがある。此の Unity と云ふものはあらゆる事実に証明して疑ふ可からざるものであると云ふ。之れについては、ど一云ふ考へでありますか。夫れがわからねば仕方がないが、夫れは証明して見ればわかることです。

次に Monadism から言へば Monad と云ふものがある。其の Monad の一番の標本となつて現るものは人間であるが、人間には必ず Uniqueness 個人性と云ふものがある。今日、自覚と云ふことを言ひますが、夫れも此の一つである。自分には精神がある、意志がある。其の意志は自由意志で、自ら選定して行く処の個性がある。夫れは Monad であると云ふ。其の事を信ずる事の出来るものは……宜しい。

今度は宇宙は多であると云ふ説と、一であると云ふものとある。之れは大變違ふ様であるけれども、其の中にはちやんと真理があるので。

又、Materialism では宇宙は総て物質である。機械的説明を以て解釈することの出来るものであると云ふ。之れも実際の事実を以て、人間の事実を以て証明することが出来るのである。

此の様にいろいろの説があるけれども、ピチャツと合ふ所がある。夫れはど一云ふ訳であろ一か。例へば加藤博士、昨夜も来て居られたが、あの方達は唯物論で、宗教は大嫌ひ。殊に耶蘇教の如きは国体を害するものであるから、政府の方から教育に宗教を入れよ一とする如きは宜しくない、と言はれました。

[宗教は教育に必要である]

私は未だ議論が熟して居ないから、今、我々の考へを言ふべき時ではないと思つてひかへて居りましたが、是非私にも意見を述べる様にとの事でありましたから、私は、宗教は教育に必要である。今夜此の堂に列席して居らるゝ方々の間には、決して宗派と云ふ意味で言ふべきものではない。忠孝も宗教である。神、仏、耶、及び儒教の如きも、皆宗教である。故に、各宗教は他宗教の要素を入れて互に発展すべきものである。故に私は賛成である、と云ふ意味の話を致しました。

ところが或る人が言ふのに、私の説は日本料理の看板をかけて西洋料理を出す様なものだとして居りました。加藤博士の唯物論を何故宗教と言ふかと云ふと、之れは加藤博士の宇宙に対する態度を云ふのでありますけれども、宗教も Dogma になると偏見に陥つて害がある。加藤博士の論の如きは宇宙の見方の一部である。他の思想は段々進んで居るにも拘らず、之れを少しも入れないで、一部を以て全体を推すと云ふことは甚だ宜しくない。夫れで、何時でも実験、証明に徴すると云ふことが大切であります。

斯う云ふことは大問題である。故に、あなた方が其処迄行

くには六かしいと感ずるのは無理からんことであるけれども、自ら之れを味はひ、自ら経験して自分の命にせねばならぬ。

然るに、昨夜あたりでも宗教の利用と云ふことを言ふ。利用、利用と云ふことが問題になるのであるけれども、自ら之れを命にせねばならぬと云ふ人は一人もありません。夫れでほんとの力の出来るものではありません。私は昨夜は決して弁解は致しませんでしたが、いろいろの説がある。

例へば高等師範の教授が言はるゝのに、教員の中に基督教信者があると、生徒が其の顔つきを見て耶蘇教信者にならうとする。教会へ行きたくがって困つたと云ふことです。そーして、耶蘇教は国体に害がある、勅語の御精神に背くものであると云ふ説があります。

けれども私に言はすれば、決して国体に背くものではない。勅語の中にも、之れを中外に施して悖らずと云ふことがある。そーして見ると、耶蘇教国に対して施すことの出来る処のものに違ひない。

然るに耶蘇教の宣教師などが、我が国情を察せずして伝道するものには往々弊害を免れないから、夫れは何処までも防がねばならぬ。併し耶蘇教其のものがわるいのではない。今日の大丈夫なる活きたる信仰を以て進むには、どーしても斯う云ふことの解決が出来、どーしても之れでなければならぬと云ふ命が出来て来なければならぬ。其の本を養ふ為には、幾ら六かしくてもあなた方がわかつておかねばなりません。

も一つ誤解を防いでおかねばならぬことは、宗教と教育とは分立すべきものであると言ふけれども、お互に抵抗し軋轢すべきものと云ふことではなく、互に相助け、相尊敬すべきものであります。

我が国にも宗教はある。畏くも朝廷から其の範をおし遊ばさるゝのであります。

例へば勅語にも、皇祖皇宗と云ふことがある。陛下は天照大御神、其の他の皇祖皇宗に対して必ず礼拝を遊ばさるのであります。そーして国民にも 神武天皇祭があり、孝明天皇祭があり、其の他の祭日と云ふ様なものがあつて、そーして国体の強きをなして居るのであるから、教育と云ふものも、どーしても精神的であらねばならぬと云ふことを、私は個人として一言だけ答へておきました。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十五年二月七日

明治四十五年二月七日
大学部全体の為に

此の前に御自身で御考へになる様に申しておきましたが、此の十六と十七とは余程深い問題で、三年生にも六かしく御座いますから、其の以下の組には猶六かしく問題で御座います。けれども、此の前の問いは六かしく答へるではなく、実

際して居ることにあてはめて答へさせるつもりであるから、易い問いであるけれども、夫れに答へた人が誠に少ないのであります。

夫れで今日は、其の仮説と云ふものは銘々の内にどー云ふものがあるかと云ふことは一々お尋ねする暇はありませんけれども、現存して居ることは事実である。夫れをどー云ふ風に統一すべきかと云ふことについて聞きたいと思ひますから、其の後考へて御覧なさつて、自分にわかつた様に考へらるゝ方がありますならば、一寸手を挙げて下さい。

夫れでは、直ぐ私が説明することに致しましよ。之れに就いて、も一一層委しい説明は第十七番に於て致しましよ。夫れで極實際の方面を申すこととして、初めには簡短に申しますから、其のつもりでお聞き下さい。先づ其の目的地に到達するに、凡そ三階段を踏まねばならぬ。

(1) 思考 Thinking

(2) 証明 Verification

(3) 思弁 Speculation (之れは即ち哲学、又は形而上学の範囲に属するので、此になれば深い所は直観であります)

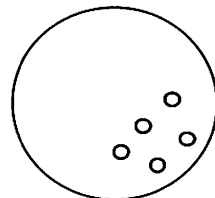
凡そ斯う云ふ順序を踏んで進まんければなりません。其の順序を踏んで、先づどー云ふ結果を得ることが出来るか。即ち、多数の仮説及び信仰を統一するに欠く可からざる材料、必要なる考へを得ることが出来るかと申しますと、

第一に、其の間に一致の点、英語で言ふ Uniform を見出すことが出来る。総ての仮説のどの点にも共通して居る処の点を見出すことが出来るのである。

第二には、必ず其の間に互に相一致することの出来ない処、所謂差異の点を見出すことが出来る。之れが此の間から申した、Uniqueness 特殊性を見出すことが出来るのであります。そこで次に起る問題は、其の違ふ所で一つになることが出来る一体共通の点。一致の出来る処で一致することはやさしいが、其の違ふ所で一致することはどーすればよいかと云ふと、之れを総合、英語で Synthesis、又は System と云ふのである。猶其の間に在る処の命を現す為には、其の内面的關係をよく言ふ為には、之れを Organize する、つまり有機化すると云ふのであります。此の實在と云ふものは元來は一つである。

[全体と部分との關係]

統一すると云ふ意味に二つある。其の一つは何であるかと云ふと、有機体である。そこで其の一つは Uniform、即ち共通の真理、一致の点を見出すこと、も一つは各違ふ所の部分を最もよく調和する様に、ちゃんと一つに組み立つて、大きな全体をなすことを見出すのである。故に、之れを絵に書けば、斯う云ふ一つの完全なるものとする、其の中に特殊なる部分は幾つもあるのである。故に、部分に分かれると言つてもよいのである。只、部分が全体になると、全体が部分になるのとの違ひで、心の働きから云へば、分解と総合との違ひであります。



故に、スピノーザは一元と言ひ、多くの人は多元と言ふ。一元と多元とは、部分を見て言つたのと全体を見て言つたとの違いである。夫れで或る人は、宇宙は物ばかりであると言ひ、或る人は唯心と言つて、心ばかりであると言ひました。[心と物とは縦横の関係である]

けれども今日は心は縦で、物は横である、即ち心と物とは縦横の関係であると申します。又、我々人間は精神であると言ひ、身体即ち物質であるとも言ひますが、やはり前の縦横の関係であります。之れは形式を申したので、委しくは十七の問題を説き明す時にわかりますでしよ。

併し、形式だけでは物足らぬから内容を入れて行かねばなりません、其の内容を説明して行く前に、此の形式を明らかにしておかねばなりません。

[根本原理の証明は経験によらなければならぬ]

其の内容を知る前に、真理を Verification しなければならぬ。之れがど一しても真理である、根本原理であると云ふことの証明は何によつてするかと云へば、之れは人間の経験による外はありません。つまり科学で云へば、人間の経験の証明、実験である。自分の心の中に、自分の行ひに夫れが顕れんければ、ど一しても夫れが真理であるとして実行する訳には行かぬ。

夫れで先づ我々が信仰を得るには、其の真理が我々の経験と一致するかど一かと云ふことを確定しなければならぬのであります。

ベリーと云ふ人は、斯う云ふことを言つて居ります。

Object-as-it-is-for-consciousness
with object-as-it-self

夫れで、此の我々の意識界にある対象物 Object 或は觀念 Image と其の意識を離れて居る処の対象物 Reality、即ち吾人の意識界で拵へて居る Reality と、ほんとの Reality とはちやんと共存するものであつて、此の両方が互に一致した時に、之れを称してまことと言ふのである。之れは科学でも、知識と事実とが一致した時に証明と言ひ、科学の証明とは皆之れを言ふのである。

そこで我々の信仰、我々の仮説は我々の経験に一致する。又、其の思想が必ず自分の経験に実現せられて始めて真理であると云ふことをきめるのである。そこで先づ、私共の多くの信仰、多くの仮説を確かなるものとして定めるには、此の経験と云ふ証明に俟たんければならぬ。多くの同胞の経験によつてきめるより外はない。殊に信仰と云ふ様な心理上の事をきめるには、深い経験に照らすことが必要であるけれども、其の事実により又は経験によつてきめたことは真理の要素をなし、又一部をなす様な一真理と云ふものが多いのである。故に、之れを一真理 A truth と言ふのであるけれども、之れが多くの Truth から統一して出来たものの、時には The truth、又は A truth と申します。夫れで多くの信仰、多くの仮説を統一する時には斯う云ふ心理の働きを求めんければならぬ。

[真理の骨髄は価値である]

故に、我々の確信を定めると云ふことは此の The truth を求めることで、其の真理の骨髄は何であるかと云ふと、之れ

を価値と言ふのである。之れが即ち総ての事実の真髓であり、意義であつて、其の第一義が根本原理であります。

[科学は真理に到達する道具である]

夫れで私共の知識に二種類あつて、其の一つは第一義を得し、発見し、或は説明することで、今一つは此の根本原理により達する処の道具を拵へ、其の方法を編み出だすことで、之れが即ち科学の目的である。故に十九世紀は、此の根本原理に到達するの鉄道を敷ける時代である。

科学の発明、科学の応用等すべて物質文明の興起時代であつた。斯くの如き時代を拵へ、機械の発明をして、二十世紀は是れに由つて到達しよと云ふ時代である。故に、科学は真理に達する道具である。大目的に達する方法であり、用意であると云ふ様に考へても宜しい。そこで、人間が信仰や仮説をして到達しよと思つて居る実在は何かと云ふと、真価値である。人生は何であるかと云ふと、真価値を発揮する処の活動であつて、活動から得た経験は実在の本体である。其の価値の内容はいろいろ形を変じて居る。故に欲望、感情、本能、満足、調和、幸福等、之れ等は皆価値の内容であつて、其の集中した有様を意志と申します。

そこで、私共の信仰の証明と云ふものの、其の範囲及び其の土台は我々の経験と云ふものにある。夫れで此の経験、又は真価値、或は之れを人間の意志と云ふ、此の研究が始めて今日人間の根本原理を発揮せしむる様にならしめたので、只科学のみでは到達することは出来ぬ。科学、思考、Reasoning の道具も使ひ、そ一して最も人間の根本勢力を研究して、も一つ深い経験を発見して、そ一して此に始めて根本原理と云ふものを見つけることが出来ました。此の根本原理に由つて、私共が之れ迄いろいろ衝突して居り、煩悶して居た事から免れて、此に私共が青天白日を見、充分なる希望を明らかにして、盤石の如き信仰の土台を築くことが出来る様になつたのである。故に、之れから誠に深い考へにはいつて行くのであります。

[信仰の起原に就きて]

そこで先づ第一に、我々の信仰と実在、即ち Believe と Reality との関係をきめておくことが必要である。信仰の淵源は Real feeling 実在感情であると言われる。先づ夫れが何処に現れるかと云ふと、人類の原始時代に顕はれ、又嬰兒時代に現るゝ処の心理状態を研究して見ると、此の信仰の土台になるものが発見せらるゝのである。

[嬰兒時代は実在と要求とは必ず一致す]

先づ、子供が生れて呱呱の声を挙げると泣くと云ふことがある。泣くのは呼吸を始めて空気を吸ふ処の刺激になります。先づ其の生れて直ぐの活動は母の乳房を吸ふのである。誰れも教へはしない。物を食べた事もないのである。然るに母の乳房が当ると直ぐ吸ひ込むと云ふ衝動があります。始めには弱く、次には少し強くして物を食べると云ふことが始まるのである。Subconsciousness に母の乳があつて何故乳を吸ふかと云ふと、物を吸ふと云ふ衝動があるからで、之れを心理の方から云ふと、吸ふと云ふ衝動があれば必ず吸ふ物がある。即ち対象があるのである。故に、実在と要求とは一致

するもので、之れが信仰の根であります。

そ—して、子供が少し大きくなって花を見るならば、花と云ふ実在があると云ふことを直ぐ信ずるのである。故に子供の為には見るもの、聞くもの、味はうもの、之れが皆実在である故に、子供の為には見るもの必ずあり、愛するもの、父母は必ずあるものである。故に、あるものは必ずほんとのものであると云ふことを信ずるので、之れが最も健全なる心理状態で、疑ふと云ふことは子供の心には少しもないのであります。

甘いよ—であるけれども、これは感覚である。物があるけれども、彼れは現象である—と云ふ様なことは、子供には考へられぬ。之れは子供の心理、時代、及び原人の心理状態であり、又、総て人類の宗教の起りの状態であります。故に、欲するものあれば必ず之れに応ずる実物がある。又、我が心に願ふ祈り、又、我が意志に要求する処のものは必ず実現するものであり、我が願ひは必ず叶ふものである。叶はぬよ—な願ひはない。内にないものは必ず欲しいのではない。故に信仰の根は潜在意識なり、本能なり、意志なりと言ふことが出来る。此の潜在意識、本能、意志と云ふものは悉く過去の経験である。幾百年、幾万遍となく繰り返して、決して消滅しない処のもの、之れが我が行動となり、本能となり、意志となつて爆発するのである。

生れ児が誰れも教へないのに乳を吸ふたり、声をあげて泣いたりするのは皆夫れであります。故に、兎も角も我々の本能、衝動と云ふものは我が生る前の歴史であり、生るゝ迄重なり重なつた経験である。故に、願ふものは得らるゝ、欲しいものは与へらるゝと云ふのは、前にした経験である。故に我々に願ひがあり、欲しいと思ふならば、必ず夫れに応ずる処の実在があり、夫れに不応する処のものがある。之れが Real feeling である。之れが爆発して物を願ひ要求するのは、我々の中に実に深い経験がある。夫れを傾きと云ふのであります。故に、信仰と意志とは同じものであり、其の意志あるものは必ず夫れに叶ふ処の実在のあるものであります。

夫れから、もう少し子供が成長し、又、人類が大きくなつて起る処のものは、権威 Authority を信ずることで、坊さんがかう言うて聞かせるとか、牧師や祭司が言うて聞かすこと、又、親や主権者が言ふことは**ほんど**である、実在であると皆感ずるのである。も—一つは伝説とか習慣、風俗等は必ず**ほんど**であると信ずる。之れも必ず信仰すべき理由があるのです。之れを深く考へて見るならば、前の道理を敷衍して行けば、必ずそ—なるものと云ふことがわかるのであります。

夫れからも少し大きくなり、文明の度が進んで来ると、疑ひを生じて、其の次に来る階段は知的信仰で、信仰するには必ず道理がなければならんと云ふことになるのです。之れはど—云ふことから起るかと思ふと、本能、感情、又は欲望だけですと矛盾が起る。即ち多くの仮説、多くの信仰が起るのであります。夫れは知識の範囲が狭いから、も—一つ大きい所が見えぬ為、つまり部分を見る処から、或る一部分、或る要素だけを感じるようになるのです。

そこで、夫れを統一する、即ち其の経験を繋ぎ合はして、

ちやんと一つの統一あるものとするには、全体のわかつた処の思考の力によらんければならぬ。

例へば此の世界は円いもの、そ—して楕円形になつて居ると云ふ事を信ずるのは知的信仰であつて、實際、目に見るとか手ではかつて見るとか云ふことは出来ないが、知によつて信ずることが出来る。夫れで今日は、只教会なり牧師なりが言ふからと云つて直ぐ様信ずることは出来なくなつて、知的信仰によらねばならぬと云ふことになります。けれども、宇宙の実在と云ふものは其の様に実験したり証明したり、又、人間の手で分解したりすることの出来るものではなく、も—一層微妙な複雑なものであります。そこで又、今度は感情になつて来ます。

[直観によつて深き生命を知ることが出来る]

此のほんど—の実在、ほんど—の生きた処の深い生命は直観しなければならぬと言ひ、夫れを知る力を純理性と言ひ、或は直覚と言ふのは、此の深い経験を表さうとして拵へた詞であります。そこで、我々の信仰の一番の起りは子供の時代、又、原人時代の物を軽信する時代から、知的信仰時代となり、も—一層深くなつて、今日言ふ処の信仰とか情操とか、或は直覚とか言ふのである。之れは我々が生れた時から物を吸ふ様に親の乳房を吸ふのである。そ—云ふ風に我々が真剣になりましたなら、何か要求がある。内から起る叫びがある。此の前、帝國教育会で宗教の話をしました時に、海軍々人が居りまして其の話に、日露戦争が起つて家を出る時に自分の信ずる人から**おまもり**を踏られた。夫れがそ—守つて下さるものとも思はないので、貰つては行つたが、さあ海戦が起ると云ふ時に**おまもり**を置いて行つた。処が何やら気持ちがわるい。其処で又歸つて**おまもり**をかけて出かけた所が、大変気丈夫になつて思ふ存分働くことが出来た。之れは何か宇宙の大きな力に触れたいと云ふ要求があるからである。人々が宗教はいらんなどと言ふけれども、夫れは命がけになつた経験がないからである—と言つて居りました。

私もよく言ふことであるが、六つの時にお母さんがなくなつて宗教心を抑へることが出来なかつた。夫れから、お母さんは何処へ行つたら—か、未来と云ふものがあるよ—にと云ふ考へが起りました。

然らば、我々は無窮の生命を願望して居るのである。生きよ—として居る。之れは一種の本能であります。そ—して今の軍人の言つた様に、人類は何か宇宙に向つて願望して居るのである。それから何万年と云ふ将来に向つて宇宙について我々は心配をして居る。興味を持って居る。只今日の為ではない。之れは、Subconsciousness 中に世界の意志がある宇宙の目的と云ふものを感じて居るのである。

[心底より要求するものは宇宙に実在するものである]

又、我々の内には良心の要求があるならば、必ず宇宙にそ—云ふ実在があると思ふて居る。ど—しても、ないと思へないのである。此の奥儀を思ひ直観する力、大悟徹底する力、之れは我々の内に抜く可からざる動機がある、要求がある。之れは即ち宇宙の力である。之れを直観する力を Kant は Pure reason と言ひ、オツカルト宗では靈感と名づけ、仏教にもそ

一云ふ意味の詞がいろいろあります。つまり之れは實在であると云ふことを見る力で、今日は之れを心理学上から、又、生物学上から説明すると大層面白いことであります。

我々の身体は一つの有機体で、其の中には無数の細胞がある。そ—して其の細胞は全体の目的を感じて、各々特殊の働きをなして居るが、しかも其の目的は知らずして其の働きを遂げて居るのであります。そ—して私の心の中に一つの觀念が出来る、必ず筋肉に及ぶのである。

今から四千年前、埃及に文明の花が咲いて後、Socrates が出、釋尊が出、孔子が出、キリストが出て後、東西西洋の文明が相接触して、又一つにならうとして居る。我々は知らず識らず宇宙の靈に感じて居る。其の宇宙の精神に対する態度、夫れが私に対する態度で、之れが一致して居るのである。

私共は知らず識らずに時代の精神、即ち神の精神に接近しつつあり、其の意志に合体せんとして要求するのである。

我々が神を求め、永久の命を求め、道德の良心があり、人との協同を求め、此の永久の目的に向つて居ると云ふ其の要求のものは、丁度我々の求めて居る神がある、永久の命がある、道德律がある、調和がある、愛がある、光りがあると信じなければならぬ。又、大きな歴史の眼を以て七千年前、何万年以前の歴史を観察するならば、丁度其の關係があり、生命があつて、そ—して我々を導き、社会を導き、此の大きな歴史を形づくつて居る処の根本原理があるのである。私は其の経験をあげて、あなた方に証明したいと思つていろいろ証拠を持つて居りますが、丁度四時になりましたから、今日は唯、此の根本原理 The truth を紹介しておきます。

[中表紙]

紀元節の御話

明治四十五年二月十一日

明治四十五年二月十一日

紀元節に於て

今、松浦教授から、覚醒しなければ高等教育の価値を認めることは出来ぬと云ふ御話でありました。その覚醒は如何にして出来得るものであるかと云ふことを一言申して、今日の祝辞にかへたいと思ふ。

[支那国と我が国婦人の覚醒]

今、東洋の天地で覚醒しよ—として Struggle して居るは、我が国の婦人と支那国とが著しく、そこに活動を試みて居ると思ふ。

支那の覚醒は果して根底あるものであるか。或は、この老大国が将さに呼吸の絶えんとする、其の前に必ず生物の死するとき起る、只一時的反動であるかと云ふことは、世界各国が疑ひの眼を以て注視して居ると思ふ。

私は支那は覚醒するものと信じ度い。覚醒するよ—にと折り度いのである。

[支那と我が国体の相異]

説をなして言ふ者は、支那は国に忠孝をとへるが、形式であり空念仏であり、精神のぬけた形骸に過ぎぬ。其の証拠には、この混乱に於て一人の忠義者なく、皇族と雖も只己の子孫の計を講ずるに過ぎんではないか。我が国維新の際に於ける如き大義名分を感じて居るものは出ないではないか、と考へて居る者がないではない。之れは我が国体とは違ひ、一系の君を頂き、君臣の間が父子の情を以て居る国体ではない。強者が弱者を圧迫する国であれば、うはべは従を示し、内心はそむいて居る。君も民を愛すると云ふより、只国民を支配する、極力を失はぬ様につとめると云ふ精神があるのみである。故に、我が国体にはあらはれる様な忠臣があらはれないのであると云ふ觀察は誤りでないと思ふ。

[支那国民は滅亡の民にあらず]

又、支那の忠孝の道、孔孟の教へも、只言葉形式に流れて何の力がないのである。其の道德は只言葉に過ぎぬと云ふ様な有様になつて居るかと思はれる。併し、之れを以て支那国民は滅亡の民である、国を思ふ義臣なく、人道のために一身をなげうつて進むことは出来ぬと言ふのは、殘酷淺薄な批評でないかと思ふ。又、そ—でないことを願はれるのである。

私は、多分革命のため身を犠牲にした多くの国民のあることを、私は多くの方面から証し得ると思ふ。矢張り支那人も天が生んだ子である。人類の一部であるから、其の中に一種の命をもつて居る事は疑ひのないことである。

[支那の革命は覚醒也]

支那の今度の革命は支那の覚醒であると言ひたい。支那が今日までねむつて居り、其の道德が形式に陥つたことは事実かと思ふ。今日の支那の状態と彼れの歴史と、我が国の歴史と我が婦人が覚醒をせんとして Struggle して居る状態とを比較してはど—であるか。

先づ、我が国体の基礎は出来、婦人もさめて発展しよ—として居る。丁度彼の革命と一所になやんで、覚醒しよ—とするのである。私は之れを、この紀元節につき深く考へて見なければならぬと思ふ。私は、我が国体は如何なる精髓の上に立つて居るかと思ふことを、全校の方に反省して頂きたいと希望します。

[我が国体の精髓は何か]

我が国体の精髓は忠孝である。勅語にも「克く忠に、克く孝に」とあります。成る程、我が国体の生命は忠孝、大和魂の根は忠孝にあると云ふことは事実であるが、併しも一つ真髓になつて居るものは何か。ど—も支那で言ふ忠孝と、我が忠孝とは、其のもとに於て少しちがう所があると思ふ。我が国の上代に於ては、忠孝と云ふ事はない。これは支那から来て居るものである。其の忠孝が我が国に来て国体となり、日本魂となつた。其の言葉は日本にはなかつたが、其の精神は矢張りあつたものである。

併し我が国民は、ものの真髓をとる、凡て世界のよいものは我が生命に同化する特徴をもつて居る。之れ、支那の忠孝も、西洋のヤソ教も、仏教も、其の真髓をとり得た所以である。忠孝も、我れに同化したのであることを思ふことが出来る。

その我が国体の土台は忠孝であらはずよりも、も一層深い根がある。其の根は何か。私共が果して其の根に接して居るか。今、松浦教授が言はれました、掘りぬぎ井戸の中から流出する其の淵源である大和魂が、ど一云ふ所にあるかを極めなければならぬと思ふ。之れは支那の孔子の道德だけであらうか。なほ我が道德のもと、宗教、哲学と云ふもとをもつて居るものかを究めなければならぬ。支那の實踐躬行、所謂人のこしらへた法律だけではなくと云ふことは、彼の孔子が「其の源を天に發す。天の命、之れを道と云ふ。」又、「丘や祈ること久し」など云ふことが言はれてあります。

[我が国の宗教]

我が国の識者、西洋の学者が、我が国の宗教はたゞ祖先教で歴史教である。浅薄であると思ふものがある。

併し日本魂は、たゞ忠孝ではない。實踐躬行ではない。も一つ其の根になる、本になるものがある。其の精髓は何か。国民道德の土台は何か。之れは今申した様に、国の起りから又天皇のお名前や日本と云ふ名前や、又、ほんとうに太古から我が国民を養つて来た日本の誠心、其の精神を考へたならば、日本は決して宗教がなく、哲学がなかつた国ではないと思ふ。

日本の天照太神、又太陽を神とし、みはしらの神と云ふ様に感じて居る、其の本はどこから出て居るか。今、之れを申すことは出来ぬが、併しこの考へは、凡ての宗教の起りにある。我が国に此の日輪を仰いだのは単に形式ではなく、其の真髓には大なる光りのあることを見た。第一の天皇の御名は神武と申しあげて居る。代々の天皇にも、其の意味のあらはれて居るのが沢山あります。

[至誠]

其の真髓にはどんな意味があるか。之れは至誠である。この誠と云ふことは、支那では余り言はぬ。我が国では、至誠神の如しと言ひ、至誠と神とは同じ意味に言つて居ります。今上陛下に於ても、

目に見えぬ 神の心にかよふこそ 人の心の誠なりけれと。又、菅原道真は、

心だに 誠の道にかよひなば 祈らずとても神や守らん
これは、我が宗教の真髓である。ほんとうの宗教の真髓は誠である。天地の神と我が心とが、かようたのである。形式ではない。之れ、我が日本魂の根本であると私は思ふ。それで三種の神器は、誠が本である。天地の神と我が心が一致したら仁である、愛である。この神と通じたなら、人を恵み、尊敬する念が自ら起る。この仁愛も矢張り至誠である。そこに仁がある。其の仁の爲め、人のために喜んで身を犠牲にする。如何なることにも恐れぬ。こゝに勇がある。勇は人を屠るのではない。平和のため、人道の爲めに勇むのである。これを、ほんとうの真髓にふれてする。之れ、日本魂の真髓である。本を忘れて、念仏をとなへてもだめである。

[我が国戦勝の所以]

この日露の戦ひの時、東郷大将は天祐と云ふことを言はれた。聖上陛下におかせられても、五か条の御誓文を御出しになった時、天地の神命に誓ふと仰せられました。

人は生死の境に入つては、宗教の真髓にふれるのである。只パンの爲に働いて居るのでは、ほんとうの勇氣は生れぬ。我々は、ほんとうに生命をなげうつつくす所に本当に宗教がある。この時には我儘なく、真に覚醒した人間の価値を見出し、本当の安心立命が得られると思ふ。

我が国が建国以来、外国と幾度も戦つて国の面目をあらはして居るのは、こゝに神を信ずると云ふ一種の信念がある。この上に国家が立つて居るから、国が動かぬのである。

[神の心と合致すべし]

キリスト教が我が国に来て初めて日本の神が天降つたのではない。その目に見えぬ神の心と、我が心とがかよつて居る。これが我が国民の生命の淵源で、洋の東西をとはず人間の精神のもと、同じく反応して生きて行くものである。そこに、私共は接触して生きることを忘れてはならぬ。教育と宗教を分けたのは宗派を分けたので、我が皇祖皇宗もそこに誠心をこめて居らるゝのである。

[我が国民の覚醒]

その誠、形式にとらはれぬ真髓をとつて行く所に、我が国民性がある。これは支那の言ふそれとはちがう点である。吾人は覚醒しなければならぬ。これは、この本と我が精神が合致する経験を得なければ、そこに到れない。

私は、此の紀元節に際して深く考ふべきことと思ふのであります。

[中表紙]

大学部全体の御話
明治四十五年二月十四日

明治四十五年二月十四日
大学部全体のために

此の前の続きを大体お話しして、今日の問題に入り度いと思ひましたが、そ一致しますと矢張り途中で終らなければならぬ様になるかと思ひます。夫れで、も一つ先輩の経験に照らして証明したいと思つて居りました。も一つは十七番の問題であります。之れを委しく申すと時をとりますから、之れは指導者の助けを受けて明らかになさるよ一に致したい。

夫れから、皆さんが自動的研究を始める方針について少し話しましたが、猶之れを實際行ふについて話しておきたいことがあります。其の他にいろいろ問題が起りまして時が少なくなりましたから、實際生活に入つて、其の時々の必要に応じて説き明すことに致しましよ。

[目的々生活]

今日から愈々目的々生活とでも言ひましょ一か、目的を持つて日常生活を行うて行くことと云ふことにとりかゝりたいと思ひます。

夫れで今日は、毎日の総ての生活の一つの組織された目的を立て、有効に生活して行く方法を示す考へであります。

そこで私が立てました方法を明らかにしておいて、其の方法をあなた方に授けるよーに致したいと思ふのであります。

[先づ各自は其の目的を明らかにせよ]

私共が凡ての力を集中して満足な生涯を送らうと思ふならば、先づ終生の目的、人生の目的を明らかにし、又、其の年は一年の目的を立て、一と月の計画を立て、一日の計をなさんければならぬと云ふことを申したのであります。

夫れで私は先づ、今年一年の計画を立てまして、又、夫れを多くの時期に分配致しまして、毎日の仕事を最も熱心に進めて行くことが出来るよーに致したいと思ひます。夫れで、よくその真相が皆さんに了解せられましたならば、そーして夫れをよく信仰なさいましたならば、此の一年は自分にどー云ふ価値があるか、力があるかと云ふことをおわかりである一と考へます。

[目的は其の時代の境遇により定まること多し]

併し、其の自分の目的とか自分の興味、感じと云ふものは、自分の四圍の境遇から超越してあるものではない。言ひかへれば、自分の仲間、自分の生活する社会と云ふよーな団体によつて、左右せらるゝことが誠に多いのであります。故に、自分の目的は、やはり其の時代の人と協同して働くことによつて出来得るのである。社会の目的と或は其の団体全体の目的と、自分の目的とは互に相関係して居り、其の協同の目的が相助けて成り立つものである。故に其の協同の目的が、極具体的にならねばならぬ。故に、今年の目的は今年是非仕遂げねばならぬ特別なものでなくてはならぬ。

[第三学期の目的]

其の目的が立ちましたならば、従つて此の学年の第三期の目的が明らかになつて来る。従つて明日の目的が確實になつて来なければならぬ。夫れが出来て始めて、私共の生活が有効になり、ほんど一に生命あるものとなるのであります。

昨年の暮れに私があなた方に沢山の問題を出して、いろいろ深い問題に導かうとし、今の時代の要求を適切に感ずるよーに導かうと試みたのであります。そこで一同が深く銘々に要求して居るものと、四圍の境遇が刺激して居るものと相反響して、あなた方の考へを種々に動かして居る状態である一と私は察します。夫れで皆さんがこの一年の間、団体として、自分として、どー云ふよーに目的をお立てなさつたかを聞きたいのであります。

けれどもそれは時がないから、種々の考へにふれても其の目的が見出だされて居る、又出来つゝあると仮定して申したい。私は、其の目的が銘々によく考へられ、感ぜられて居り、又熱望して居らるゝ、今日は皆さんの態度であると仮定して、今日は打ち開けて此の事を申したい。そーして只申すのではない。少し皆さんと相談を致したいと思ひます。そーすると皆さんの目的が立ち、日常の目的までも確立して、有益なる生活が出来よーと思ひます。

夫れで私は、この明治四十五年に之れは皆さんの目的であり、自分の目的であると感じてお話致しましたことを、初めに一寸申したい。そーして全校が一致して其の目的を成就したいと思ふのであります。其の私の立てました目的を大別し

て申すならば、凡そ三つ程になるのであります。

[第一目的]

第一、我々は今年から愈々世界的の仕事に着手する。其の大きな仕事に着手すると云ふことで、之れを英語で言へば International movement で、其の内容は追々と申しましょー。我が女子教育に身を捧げた我々が、其の使命に応ぜんければならぬ、其の招きに答へんければならぬと信ずるのである。

[第二目的]

第二の決心は、我が国の女子高等教育を自信し、日本婦人の責任を感じて居る所のあなた方及び桜楓会員、其の他、夫れに同種なる我が国婦人を率いて世界に向はんければならぬ。世界的の仕事を開始しなければならぬ。此の内容も非常に複雑であり、非常に深い問題であります。故に、深く考へなされる様に、昨年以來問題を提出しておいた訳である。

[第三目的]

第三には、其の使命の爲めに世界に巡回せんければならぬ。万国を旅行して回らんければならぬと云ふことであります。

其の内容は追々とおわかりになる様に致したいと思ひますが、私は其の目的を立てまして、又、夫れが必要であると考へまして、愈々其の決心を致しましたのは今年の一月中頃であつたかと思ひます。あなた方は私の身体が今此所に立つて居りますから、私の身体は矢張り此の日本の中に留まつて居るものとお考へになつて居ることと思ひます。けれども、私自身は決心を致しました。其の日から既に旅路に出たのであります。そーして International movement と云ふもの、世界の深い運動が既に開始されて居ると思ふ。之れは私の主観的に描いた想像に過ぎないとお考へになりましょーが、半ばは想像である一けれども、半ばは事実となつて居るのであります。自身と云ふものは、只身体ではない。只肉体で感覚するばかりではない。精神である。故に私は、も一精神的に世界の旅行を始めて居るのであります。夫れはどー云ふ意味であるかと云ふことは、多分来年の此の頃あたり、皆さんと再び此所でお目にかゝる時になつて、そー云ふ意味であつたかと云ふことがおわかりになるであろうと思ひます。仮令身体は其所に居なくても、其の事を感じ得るのである。又、私の身体が此の日本から外に出ても、あなた方のことを感じ得るのであります。

私は決心を致しました其の日から、着々其の仕事を始め居ります。そーして日々の生活を集中することが出来る。又毎日を可なり有効に暮すことが出来て居ります。之れは、私一人の目的であるのみならず、大きく言へば、我が国家の目的である。故に多分明年の今頃、皆さんに再びお目にかゝるであろうと思ひますが、其の時ほんど一に我々の目的の成就したことを喜び、又明年の新しい計画を立てることが必要でありましょー。

夫れで今日申したことの内容を一々申すことは、未だ早いと思ひます。何とならば、此の事は未だ本校の評議員達にも話してありません。只、先日一寸専任教授と常任委員と監事と教務委員だけに相談したばかりで、其の他の評議員にも、

未だ話さず、大坂の評議員達にも明日行って話すのでありますから、未だ早いと思ひますけれども、あなた方は此の内の人であり、家族と同じであるから申すのであります。故に、他へ向つて余りお話にならぬ様にして戴きたい。

夫れは、今私の申した只想像で世界を巡回して来ると云ふばかりでなく、事実もあるのである。夫れは、今年の六月の終りか七月の初旬に出発して、凡そ六ヶ月の予定を以て欧米を漫遊して来ることになりました。

之れは前から必要であると思つて居りましたが、何時其の時機が来るかと思つて居りましたが、評議員方も是非夫れが必要であると認め、私もそ一考へますから愈々決心致しました。

そこで私が行くについては、いろいろ用意があります。夫れはあなた方御婦人が共同してなさらねばならぬ。其の目的、其の必要がわかつて、私の身体ばかり海外に行き、あなた方の身体は此の日本に止まって居るけれども、我々の実体は肉体ばかりではない。心靈である。故にあなた方、其の心靈の働きによつて共同することが出来たならば、誠に有益なことでありと考へます。

[海外渡航の目的]

私の海外に行く目的は無論、女子高等教育の爲であります。

夫れには先づ我が國のことを明らかにせねばならぬ。今から十七、八年前、私が米國に参りまして、多くの大学を視察致しました時、多くの大学総長、大学教授、及び新聞雑誌記者などに面会致しまして、多大なる同情を与へられたことがあります。故に、今度行くについては、ど一しても我が國の女子高等教育について報告する義務があるのである。夫れは何によつてするかと云ふと、我が校の千幾百名の桜楓会員並びに在学中のあなた方の思想、品位によるの外はありません。

夫れで、目的を立て自動的に學問をして修養につとめ、着々進んで行かれると云ふ方法を、あなた方によつて編み出だされんことを希望するけれども、之れは大層六かしいことで、始めからあなた方に望むのは無理であるから、私の立てた所を示しますから、之れを着々実行して貰ひたいと思ひます。

[修養上に困難なる点]

今日は先づ其の主義の修養法を申さうと思ふ。其の修養法で一番困難に思ふことは、其の目的を見出だすことで、第二に困難なことは其の目的を育て、其の原動力を養うて行くことであります。

或る者は其の方法は宗教による外はない、夫れは既成の宗教が宜しいと考へる人がある。夫れから又、夫れは到底言ふべくして、今日の青年の頭に適合するものではない。そんな陳腐な考へて行かれるものではない。今日の新しい頭をそんなものの中へはめ込む訳には行かない。故にクリスト教でも、仏教でも、儒教でも、何でも宜しい。そ一云ふいろいろのものを集めて、其の中に頭をつつ込んで修養をしたならば宜しいと言ふ人がある。けれども、今日迄いろいろして見たけれども、孰れもいけないのである。皆さんにも多分そ一お思ひになるであらう。故に、夫れはわかつたものとして此所に弁明は致しません。

然らば、ど一云ふ方法をとつたら宜しいかと云ふことは、今日皆さんが最も要求なさる所でありませう。皆さんがよく偏見をとり除いて、天真になつてお聞きにならんと、何時やらのインキのこぼれたのを見たよ一になるから、ちゃんと真相をおとりにならねばならぬ。

[毎日適切な聖書を作れ]

毎日の目的を立てると云ふことは、毎日丁度適切な聖書がある。毎日同じものばかり食べて居てはならぬ。丁度自分に必要な食物があると同じ様に、丁度適切な聖書があると云ふのは時勢の賜で、毎日自分で拵へた、自分で書いたものである故に、毎日書いた我がNoteが聖書になると云ふことであります。夫れはど一したらばよいかと云ふことも段々申しますが、必ずしも其のFormによらなくてもよい。けれども、何故自分で書いたものが聖書になると云ふ其の訳を申さねばならぬ。

[吾人の生活は自律的なるべきこと]

第一に、我々の生活は自律的でなければならぬ。律とは法律の律であつて、我が國では今年の計画と云ふものを国会が議して居る。昔は神が下し、或は帝王が下したものであるけれども、今日では国会が議するのである。夫れと同じよ一に、我が生活の法律は自分できめねばならぬ。

我が目的、我が意志、我が理想は宇宙の靈、宇宙の法則に合致しよ一と云ふのが、我が目的である。我が意識は宇宙の意識である。夫れを全うするに、我が拵へた法律を以てしよ一と云ふのである。決して我が儘ではない。故に、我が法則は我れが書かんければならぬ。我が聖書は我が活動の法則であるから、自分で書いたものでなくてはならぬ。

[自発力の開拓をなすべきこと]

第二に、我が自発力を開拓すると云ふことである。我々の力は外部から注ぎ込まれたものではない。潜在意識とも云ふべき深い深い泉から湧き出るのが、我が自動力である。其の力は、ど一して促がせば滾々として湧き出ると云ふと、我が潜在意識に丁度適當なる衝動を与へる所の觀念でなくてはならぬ。そ一云ふ震動を与へるものでなくてはならぬ。之れ、我がBibleは我れが書かねばならぬと云ふことになる。

[創始力を養ふこと]

第三に、我が自動力はSelf-initiate 創始力でなければならぬ。其の創始力は毎日、創始しなければならぬ。時々刻々創始しなければならぬ。我れが創始するには、我が型がなければならぬ。それを丁度よい様に拵へたのが書物である。Bibleである。

[良心の声に従ふこと]

第四、自動の生活は、我が良心の自由を得ると云ふことである。我が良心の自由を得ると云ふのは、良心の声に従ふと云ふのである。其の妨げになるものから自由を得ると云ふことである。故に我が經典は、我が良心の声でなくてはならぬ。我が良心の声、即ち經典でなくてはならぬ。

[発明発見的であること]

第五の訳は、自動的生活は発明であり、発見である。此の生活を有効にするには、我が書いた書物、即ち其の時其の時

にいる所の Note 見たよ一なもの、即ち自分を書くことと云ふことが必要である。

[Edison の Notion book]

此の著しい例は、世界の物質界に有名な Edison の図書館に、今四万巻の本があるけれども、其の中 Edison に最も大切なものは Notion book である。此の Edison の Notion book は Edison の、朝顔を洗ふ時にも、道を歩む時にも、食事をするときにも、人と話をするときにも、寝る時にも、曾て彼の身边を離れたことがない。彼の発明は、彼の考への機械となつて居るものは、実に彼れの書いて居る所の Notion book である。書くことと云ふことは、所謂 Bacon も、書くことと云ふことは生活の人を拵へるのであると言つた様に、生命となるものである。

斯う言ふと、疑問が起るであらう。成る程 Edison の様に幾つも発明、発見の出来る人はよかる一けれども、我々の如き平凡の頭では出来ぬと言はるゝかも知れぬ。けれども此の前申した様に、Edison の頭も、Christ の頭も、同じ所から出来て居るのである。

Christ の如き偉人も、Edison の如き発明家も、皆同じ所の深い海の波をうけて来て居るのである。之れは只 Bible 一冊で修養する人も宜しいけれども、迷信者が只本を懐に入れて居れば御利益があると云ふ様に考へるならば、大きな間違ひであります。何とならば、書物は深い人格の力を以て、深刻なる経験の力を以て書き記されてある故に、言葉と云ふ媒を以て、丁度自分のものとなる様に読むことが大切である。只言葉通りに読んでではだめであります。故に読むときからも一違つて、自分のものになる様にせねばなりません。

又、其の目的を養ひ、其の目的を成就する所の考へが湧いて来るのである。本を読むならば、斯う読まねばならぬと云ふ声が聞えて来るのであります。多くの人の経験した所の Case 又は Classic 或は Poem と云ふものは、悉く夫れである。Christ は少しも自分で筆を取つて書かれたものではないけれども、書くことと云ふことは Exact man を作るのであるから、自分でやつて見て始めて、成る程こゝだと云ふことがわかるのであります。

[自動的生活には Expression が必要也]

其の次に自動的生活に必要なのは Expression と云ふことで、内から表すと云ふことがなければならぬ。之れを欠いては、ど一しても力にならぬ。又、ど一しても満足は得られない。人生の価値は認められないのである。之れを行ふ、発表するには何かの形式が入用になるのです。

[Form は必要なり]

そこで宗教も道徳も、其の大きな目的、感情、理想を発表するに必要な Form と云ふものがある。之れが精神を導き、精神の力を集中するに、即ち修養をするに、ど一しても Form と云ふものが必要である。誰れでも毎日しなければならぬ、又たちどころに効能の現れるのは深呼吸である。之れも精神作用と関連して、此の頃いろいろ流行して居つて、腹式呼吸とか逆式呼吸とか、いろいろあります。又、音楽をするときに中位な声、低い声、又高い声など、いろいろ出す時にちゃんと Form と云ふものがある。

宗教になると、木を拝む人、地藏を拝む人もある。いろいろな偶像を拝む人と聖書を読む人と、私に言はせれば同じことである。我が感情を表すには何かの Form がある。西洋では斯うして、おゝ神よと言ふけれども、この手が神を掴んだのでもなく、此の音が神に聞えたのでもない。なんば一声を出しても聞えない様な聲なら仕方がないではないか。之れは皆 Form である。又、宗教によつては Dance をする宗派がある。之れも其の宗教に必要であつたから始めたので、一つの Form に過ぎないのであります。

夫れで岡田式もきくがよい。逆式もきくがよい。夫れは私に教へることが沢山あります。故に Form はいらないと云ふのではない。呼吸をするにも朝運動をするにも、何か Form があるけれども、それはちゃんと自分に適合したものでなければならぬ。

そこで、私共が自我を実現するには幾らかの Form を要求するのである。夫れを今日幾らか示しておきまして、之れを毎日実行する様に始めておいて、次の週間からなされる様に用意をしておきたいと考へましたが、其の訳を私が申してから、営業部でお取りなされる様に致したいと考へます。

[中表紙]

大学部全体の御話

明治四十五年二月二十八日

明治四十五年二月二十八日

大学部全体の為に

此の前の火曜日に歸りまして、水曜日には是非出る考へて居りましたが、少し無理をしまして身体が疲れて居つた所へ風をひきまして、そ一云ふ訳もありましたが、此の学校の評議員 三井氏が丁度私の歸りました晩、七へんも注射をしたと云ふ訳であるから鎌倉へ参りまして、そ一云ふことで此の前は休みました。

実は此の前あなた方に訴へて、ど一か時も力も足らんから協同して進みましょ一と云ふことを訴へました。実に自分は任の重く、道の遠いことを感ずるのである。到底微力で、出来るかど一か疑問である。又、之れが人間業ばかりであるならば我々に希望はないのであるけれども、我々には此に使命を感ずるのである。又、あなた方の Calling であると感じざるを得ないのである。故に私は、あなた方が之れを聞く耳がある、又光りを見る目が明るくなつたものとして考へて、ど一かして一緒に進みたいものであると考へて訴へました。時はも一ないのである。否、既にも一遅れて居るかと思ふ位である。然るに、ど一云ふ現実のものであるかわからないのであります。ど一も私は皆さんの態度として、何かど一も満足に感ずることが六かしいのであります。又、私が皆さんに訴へた声も、どれだけの部分に聞こえて居るか甚だ疑はしいのである。皆さんの態度は出来たものと考へて訴へたけれども、未

だ出来て居ないであろうと云ふ様に感ぜられるのである。夫れで実に日暮れんとして途遠しと云ふよな嘆息が屢々起らんとして、私は屢々夫れに戦うて居るのである。あれ迄に私が事情をうちあげて話したから、もつと進まれるであろうと考へたけれども、ど一も軍が進まない様である。

私は二週間外に出て、外の事を働いて参りました。あなた方は多分留守をよくして下さるであろうと思ひました。けれども其の二週間の間に如何に多くの障碍を設けたものであるか。おとしあなを拵へたのである。弱い所の心に、幾度敵は巧みに強い暗示をかけたのであるか。之れではど一もならぬ。けれども、私は七月には立たねばならぬ。も一時はないのである。斯う申せばおわかりにならぬかも知れぬ。之れは実に徒勞のよ一である。其処に行かうとして行けない。何時も入口迄は来るけれども、さて其の奥に入らうとすると入れない。故に、徒勞ではあるまいかと云ふ疑ひも起るのである。けれども孔子も言はれた様に、心こゝにあらざれば聞けども聞こえず、視れども視えず、食へども其の味を知らず、只形式や詞に捕はれて、ほんとの事はわからないのである。何故わからないのであるか。胸に一物があるからである。汚いものがある、高慢があるからである。先づ之れを取り去つて、道備へをしなければ進むことは出来ないのである。我々の留守をあけた間に障碍物が出来、我々の知らない間に迷ひの雲が出来て居るならば、先づ夫れを取り除かねばならぬ。時がかゝつても仕方がない。あなた方は只聞いて居ればわかると思ふかも知れないけれども、只聞いて居つてわかる様なものならば、本を読んでわかる話である。そ一云ふ態度では逆もほんとの事のわかるものではない。夫れで、此の深い真理を説くと云ふことについて、先づ夫れを聞くことの出来る態度を拵へることに、昨年以來骨を折りました。故に其の真面目なる態度だけは、あなた方の中に出来ましたと云ふことを信ずるのであります。成る程、或る御方は出来ましたでしょ一。けれども、其の大勢は未だ薄弱なるものである。

【態度には積極と消極と中性との三つがある】

此に態度を類別したならば、確に三種類になるであろう一。之れを消極と積極と中性と言ふのである。

消極とは如何なる態度を言ふのであるか。憎むのである。嫌ふのである。反抗するのである。確にあなた方の中には相消しあふ処のものがある。故に、燃えんとして燃ゆること能はざる状態にあるではないか。

積極とは愛するのである。好むのである。嫌はないのである。も一つの人には中性である。熱くもぬるくもない所の、日に日に時々、人々に由つて動く所の首鼠兩端の曖昧なる態度である。之れも不真面目の一種であります。之れが人類の始まりから今日迄、又、我が国今日の現状をなして居る処の原因である。

私は一週間京坂神の間に居りまして、少し氣をつけて見ました。大坂では桜楓会員が三十六名ほど集まつたのである。京都は十数名集まりました。其の話に、卒業生の間にすら二種類ある。一方には非常に熱心になつて、ど一かしてほんとの修養をしよう一と骨を折るものと、も一つは只パンの為に、

又、小供とか着物とか云ふよな事にばかり興味を持つて、夫れ以上の趣味のなくなつたものとあるそ一です。

二、三年前、京都帝国大学総長の話、我々の学校でも人格とか修養とか云ふことに勉むるものは 1/50 にも足りない位である。そ一して他のものは此の少数の学生に対しては、殆んど齒せぬ位に輕蔑して居るのである。そ一して教授総体は只学問研究の外はなく、其の学生の為によい境遇を作る為に其の予算を申し立てるならば、殆んど賛成するものはない位である。故に菊池総長は、総長の力を以てしても、彼れ等の為に最もよい境遇である所の寄宿舎を設けることも出来ないと言つて居られました。

併し此の頃聞く所によれば、此に新に京都大学に於ては、寄宿舎が出来、又修養派の考へが行はれて、大きな建築が今殆んど出来かけたと云ふことである。のみならず、修養に資する為に哲学、宗教学の講演会も開かるゝと云ふことである。も一つ喜ばしいことは、教育にそ一云ふ精神的方面には一向構はずして、そ一云ふことには殆んど耳を貸すものはなかつた。然るに私が、府の教育部長に我が国教育の根本問題について話しました。此の人は同志の人を得て非常に喜ばれたのみならず、市の教育についても大に改善を加へねばならぬと言つて居られます。

夫れで今言ふ様に、所々では其の必要を認めて来たけれども、そ一云ふ根本問題について考へて居る者は幾らもない。皆、敵対して居るのである。そ一云ふ中で、此の考へを育てよ一として居る。故に余程氣をつけないと、少しでも油断をすれば直ぐ様催眠術をかけらるるので、滔々として其の俗流に奪ひ去らるるのである。夫れで其の人の周囲を見れば、直ぐ其の人はわかるのである。之れは昔から厳然としてわかつて居る。

【態度を明らかにせよ】

此に皆さんが明らかに態度をおきめになる必要があるのです。夫れはど一云ふ所から来るかと云ふと、又深い原因がある。いろいろ自ら欺いたり、自らを侮まして居る。いろいろ理屈をつけて居るけれども、夫れは自由ではなくして、實は我が儘である。之れは学校に居らるゝ間ではなく、あなた方が卒業後如何なる境遇に入つても、如何なる家庭を持つても、斯う云ふ人は決して幸福は得られないのである。此に於て、戦ひがある。戦ひとは、夫れを救ふが為に起ることである。一方は只、己の利益の為に我が儘を通さうとして居るが、一方は又、夫れを直さうとして戦ひが起るのである。

私は十年の間、夫れを防がうとして、随分戦つて参りました。そして、其の戦ひに於て勝ちを得る様にならなければ、我が国に女子の高等教育が出来たとは言はれないのである。悲しいことには、少し出来かゝると、直ぐひやされて了うのである。今日は、あなた方はど一云ふ召しに必ずべき使命を持つて居らるゝのであるか。斯う云ふことについて本氣に真面目に考へる人は、却つて馬鹿にせらるゝことがある。そこで大に感化を及ぼすと云ふことは出来ぬ。

【一同に靈の光りを見る態度がなければならぬ】

夫れで、私は皆さんが心一つにして、そ一云ふ靈の光り

を少しでも見よーと云ふ態度が出来なければならぬと思ふ。夫れでも猶反抗しよーと云ふ考へならば、飽く迄も反抗して御覧なさい。曖昧なのはいけない。只、耳で聞いて居るだけではいけない。憎むとか、愛するとか、戦ふとか、討死をするとか、ほんとの決心をしなければ、ほんとの事の出来るものではない。夫れで皆さんがほんとの光りを見る為に旗幟を明らかにして、ほんとの戦ひ、勝つ迄進むより外はない。そーすれば、真意が明瞭になるであろーと思ひます。

[Logos について]

第一に、此の前に私が Logos と云ふことを説きました。Logos と云ふ文字は希臘の文字で、詞、或は道と云ふことである。詞とは人間の考へと云ふことで、道と云へば天道、宇宙の秩序と云ふよーな意味になる。そこで、宇宙が創造せられた所の原因が Logos となり、宇宙の本が Logos である。故に実在の実在とも言ふべき無限の道は、人間の拵へた組織の中に入れることは出来ないと思ふことを、私が申した筈である。又、此の宇宙には不思議なるものがあると云ふことは、哲学者も、科学者も、宗教家も、皆言うたことである。スペンサーの如きは、The unknown と云つた此のわからないものが又非常なる力のあるもので、此の研究に昔から偉人が命を捧げたのである。そこで、何も言ひ頼すことが出来ないから、名をつけ代りに Logos とでも言つたらどーかと申しました。併し其の内容は全く研究の出来ないものではない。故に我々が Logos を思ふ時に一番の頂点を思ひ起すことが出来るならば、そー一致したいものである。

先づ之れを究めんとして一番最初に起つたものは宗教であるから、一方は比較宗教と云ふものから進まねばならぬ。

其の次に起つたものは哲学であるから、哲学の光りによつて其の内容を究めねばならぬ。

其の次に起つたものが科学であつて、哲学や宗教で行かれない処まで行つたものである。

科学の後に開けたものが生物学、心理学で、科学の行かれない処までも入つたのであります。そこで、哲学、宗教、科学、社会学、生物学、心理学、即ち普遍的科学に土台を置いて、其処に私共は信を起すのであると申しました。

けれども其れだけ深い内容を表す詞は見出だされませんから、私は之れを**かたち**に表した方がわかり易い。又、銘々の傾きのよーに解釈することが出来ると共に、幾らか人の誤解を防ぎ易いと云ふよーな点から、私は**かたち**を表して示したのである。

[人間の性と宇宙の性と相通ずる所に宗教がある]

然るに、夫れを誤解して**詞じり**をつかまへて、私の真意を誤解した人があるよーである。私は思ふに、宗教は形式にあらず、儀式にあらず、個人的にあらず、人工的のものにあらず。之れは天道である。宇宙の大道である。宇宙の Logos である。夫れで、夫れはキリスト教、神道、仏教、儒教、其の他迷信宗教も皆、一根元宇宙の道、天の実在である。夫れを感ずることの出来る処の人間の性と宇宙の性と相通ずる処に宗教が成立する。人間の拵へたものではない故に、之れを許す人はない。只天が許すのである。故に、宗教と道徳と教育

とは一つである。人生と云ふものは、分けることの出来ないものであると云ふことを申しました。

[Form について]

そこで、私には形式 Form と云ふものはないけれども、Form を要する人もあろー。故に、夫れは迫害しないと申したのである。夫れを私が宗教を拵へ、Form を作つたと考へるならば、大間違いである。宗教は銘々の自由なものである。故に、銘々の着物を拵へるよーなものであると云ふことを話しました。

併し、既成の宗教、死んだ宗教には、いろいろの Form がある。例へば、キリスト教にも数千の派がある。夫れは何によつて分かれたかと云ふと、皆 Form によるのであります。私が斯う云ふものを書いたのが、宗教の Form を作つたのであろーか。そーとつたと云ふことを聞いて、私はあなた方の頭が余りに枝葉に行くと思ふことに寒心して居るのである。

[Form は心のからだ]

併し、Form は宗教ではないけれども、Form は必要である。或る年よりの書いたことに、Form は心の身体と云ふことがある。心があるならば、必ず夫れに適當する処の身体を要するのである。例へば、私が或る所で言つた様に、深呼吸はよいことであるけれども、其の深呼吸には仕方があつて、岡田式、藤田式、又は二木式と云ふよーなものがある。音楽にしても其の通りで、声の出し方にいろいろの仕方があります。

私は直ぐ様、岡田式の通りに**まね**をすると云ふことは出来ない。けれども、銘々の仕方は敢て妨げはしないと申しました。故に、私が Form を拵へたと思ふならば間違いである。

も一つは、私が Note を拵へたことは大学の為につつたのであるが、其の訳はあなた方の個性を発揮させよー、銘々の自由を発展させよーと思ふならばこそ拵へたのである。然るに夫れを以て、一人に適當なることを万人にさせよー、所謂統一教育をすると思ふならば、まるでわかつて居ないのである。

そこで、其の訳を申しませよー。修養と云ふことは外から内へ注ぎ込むことではない。表面をいじると云ふことではない。然らば何であるか。内から出す、根本のものを出す、人格の内容を豊富にする、銘々の価値を増進すると云ふことである。夫れで実に之れは、深い処の経験である。之れが今迄の修養の法と違ふ所である。故に、只今迄の人類の経験をくり返すのではなく、時々刻々に創始する、生む処のものである。既成宗教とは其の本が違つて居るのである。故に其の目的は、銘々の内から湧いて来なければならぬ。其の修養法を之れからしよーと云ふのである。

[修養の三階段]

先づ、私は之れを三つの階段にするのである。

- 第一の階段を人格修養。
- 第二、道徳修養。
- 第三、精神修養。

[人格修養]

第一は、世界を支配し、我が劣情を支配して自分の人格を深くして、十分なる価値をつけ、自己を完全に修養である。之れとても、他をはなれて出来るものではないが、自分

を主とするのである。

[道徳修養]

第二は、自分の人格と他の人格との関係をつけるので、互に相同情し、相愛して国をなし、家をなすの修養である。

[精神修養]

第三は、我が人格と宇宙との関係である。宇宙の道と我が本性との融合の修養で、人間の最も深い生命に達しよとする修養である。

夫れを実現するには、其の日、其の時の目的を見出すことが大切である。私がNoteを作ったのは、夫れをする一方法である。

[Note 及び標について]

夫れは、第一に修養の門がある。其の道は、向ふに自分の行く彼岸がなければならぬ。それが目的である。

先づ人格修養と云ふ題で、其の内容を書くのである。之れは内である。内には外の境遇がある。

次に自我拡大で、其の拡大には空間がある。拡大に必要な学問は天文学、物理、化学等である。

次にはValueの増進と云ふことで、人格の価値の深く強くなることで、即ち幸福の増すことである。夫れは何に由つて出来るかと云ふに、真、善、美である。此の真、善、美に家が通ふ、かく行くのである。

次に自我統一、其の対象物は宇宙全体の目的。

次に自我進化、 " 自然界の法則。

次に自律的生活、 " 精神界の法則。

次に自我永続、 真価値、永久の価値。

自我を拡大し統一するには、縦横の関係によらなければならぬ。⊕は夫れをあらはすのである。

○は自我の進化、永続をあらはすのである。

自らを制するには先づ、⊕の三つが出来なければならぬ。依つて一年、予科は之れにはめて行くのである。

次に自律的生活で、之れは道徳である。道徳には社会の法則がある。

◇は第二の階段を進んだ人のしるしである。

第三の精神的な生活になると宗教となる。宗教の真髄をとると云ふことになる。真髄は一つであると云ふ意味で、此のしるしを用ふるのである。



之れは自我永続の一步進んだもので、卒業生のつけるしるしである。此の裏は渦巻であり、震動である。其の動は螺旋体に進むと云ふことである。其の波を見て決して停滞してはならぬと云ふのである。

[Meditate の箇条]

次の段にMeditateする箇条を書く。例へば、

宇宙に対する我れの決心、態度、如何。

此の拡大せる宇宙観に適當なる神を信ずるや。

此の進化せる宇宙観に適當の神を知るや。

此の法則、秩序ある宇宙観に適當なる神に従ふや。

此の永久不朽の宇宙観に適する神に接することを得るや。

此の統一的宇宙観に適當なる神を信ずるや。

之れは文に題、序、証明、結論が同じく、修養に要するFormを知らしめるのである。

生活するに目的がある。考へたら自分にFormを作る。それで常に暗示を与へ、觀念をSubconsciousnessの中に入れて行つてはじめて、行ひとなり、習慣となるのである。

次の段は結論である。結論あつて感謝あり、幸福あり、明日の希望があるのである。

併し、經典を其の人の味はつた経験として取るには、新しくとり自分のものを拵へて来なければならぬ。それで先づ、あなたの目的は内から出てこなければならぬ。其の覚悟、Formはこゝに出て来なければならぬ。読書などによつて得た要点を出し、自ら味はうて、ほんとの幸福を味ははなければ、ほんとの人格が出来てこない。夫れ故、之れはあなたのものを創始する方法である。

之れをするから他の經典を読むなど云ふではない。それから自分のものになることが出来なければならぬ。

初めは読んだ中のよい句だけ、自分にほんとうに感じたものをぬき取つてもよいが、それを守つてよくして行かなければならぬ。之れを示したとて、又より以上の工夫があるならば聞きたいのである。

夫れで、此の記号のNoteを作ったのである。之れは大切である。自分のものを自分で纏めることが必要である。毎日之れを書いたならば、程度を知ることが出来る。日に一枚書く人もあり、一週間に一枚かく人もあるである。英語で書けるものは英語で書くのである。之れをお取りになつて、あなたの力を見、そして旅行の土産にしたいのである。夫れ故、これをなさつて、一枚写しを出してもらひたいのである。

いよいよ次から一年は月曜日にして、人格修養からはじめ、二、三年は道徳修養から始め、卒業生は最後の階段に行つてもらひたいのである。

あなた方から一枚取つて標本を作りたいと思ふから、一つ試みてもらひたい。

之れでどれだけ創造が出来、経験が出来るかを見る事が出来るのである。此のFormは個人の程度に応じて誰れでも出来るのである。

此のしるしを以て一致共同の深い結合が出来ると思つて、形式に取つたに過ぎないのであるから、誤解のないよ一に。Formは個人的な自由なものである。こゝに心の自由が出来、思ふ価値が出来、思ふ幸福を得せしめんとするので、拵へたのである。

[中表紙]
正会員の御話
明治四十五年三月九日

明治四十五年三月九日
正会員会に於て

昨晩まで熱がとれませんで、今朝、漸くとれたよ一でありませんが、未だ咽喉がやりきりませんから、皆さんのお話を聞くだけでも出たいと思って参りました。夫れで一言だけ私の考へて居ることの要点を申しましょ一。

[京都、大坂支部の状況]

此の頃大坂へ行きますとも、京都へ行きますとも支部会を致しまして、京都大学、其の他の所で識者の集まりに於て、此の大学並びに卒業生の評判を聞きましたが、皆同じよ一なことを言つて居ります。夫れは高等教育を受けた妻君なり娘が、今日の家庭生活と調和しない。故に、ど一かして之れを救ふ道はあるまいかと云ふことである。夫れから卒業生の生活を聞きまして、是れ迄いろいろ困難にうち勝ちまして、夫婦仲も睦まじく、舅姑とも和合して子供も生れ、其の教育も出来て幸福で居る人もあり、又大層困難で、殆んど自殺でもしよ一かと思つたと云ふよ一な話も聞きました。

之れを一言で申しますと、本部でも東京の卒業生の間にも大分問題となつて居ります。夫れは卒業後の生活の経験が大分出来たよ一である。其の傾向を大別すれば、二つになる。夫れをあなた方のよくお使いなさる詞で言へば、第一義の生活をして居るものと、第二義の生活をして居るものと、其の中間に於て迷つて居るものがある。故に、細かくわければ三種類になるのであります。

[一義の生活]

第一義の生活と云へば、人間の根本要求を満足させよ一と云ふので、夫れが出来ねば、金があつても、着物があつても、仮令一時の名誉を博しても、一向夫れは自ら慰むるに足りないものである。

[社会境遇の改善]

第二のものは、つまり今日の婦人の苦しんで居るのは、境遇がわるい。社会の制度もわるい。故に、つまり社会問題で、夫れを改善しなければならぬと云ふことになる。

[孔子と老子]

此の二つの傾向があるよ一であります。之れは実際問題も有り、昔から調和する時もあり、戦ふ時もあり、又一方が勝ちを占めることも有り、一方が傾くことも有り、孰れの國に於ても之れのあることは昔から事実であります。東洋に於て此の二主義の起つて居る源は、一方は孔子さんから来て居り、一方は老子から来て居るので有る。

二義に重きをおいたのは孔子で、孔子は楽に重きをおき、礼に重きをおき、常識に重きをおいて、礼儀三百威儀三千と云ふことがある。

老子は、人生の根本要求をみたまよ一にせねばならぬ。其の本を正さずして、幾ら礼をやかましく言つても、法律を正

してもだめである、と言はれました。けれども、孰れを研究しても誠に立派な人格で、尊敬すべき教へであります。孔子が第二義を説かれたと云つても、決して浅いことではない。其の中に確かに一義が基をなして居ると云ふことは、疑ひのないことである。老子も決して今日の社会主義の如きものではない。確かに我々の学ぶべき両方面がある。

[Zoroaster, Christ, Moses]

夫れから印度の方に行きますと釋迦牟尼と、ポルシヤの Zoroaster がある。釋迦牟尼は第一義を説かれ、Zoroaster は第二義を説かれました。

猶太の方では Moses と Christ である。Moses は非常な力で法律を拵へ、宗教も第二義で、多くの Form を拵へたのである。Christ は第一義で、一寸見ると Moses の法律を打破して、Form を悉くうちこはしたよ一に見えるけれども、我れは決して法律を破る為ではない。却つて之れをよくする為である、と仰しいました。けれども、只 Form に捕はれて居てはだめであるから、ど一しても其の本を養はねばならぬ、と言はれました。そ一云ふ風に何所の歴史を調べて見ても、二派に分れて居るよ一であります。

[現代精神界の二傾向]

今日は、一体全世界の傾向がど一云ふ様に向つて居るか。第二義の生活で満足しよ一として居るか。又行きつまつて第一義に行かうとして居るかと云へば、此の問題は余程複雑になつて居るものである。人間の生活も余程複雑になつて居るから、一言で確然と区画を立てることは六かしいのである。けれども此の二つの傾向は、昔から余程相争うて居るよ一に見えて居りますけれども、互に相容れぬ様に争うて居るとすれば、私は双方共に極端に走つて居ると、先づ初めに断定を下しておきたいと思ふ。

政治、経済、常識の道徳、身体の養生、家を治めること、学問をすること、又美術を研究すると云ふ様なことは、之れを第二義の生活、又凡俗的生活と言ひます。之れは世間一般の人の追求して居る所の生活である。真に一義の生活をするものは妻を捨て、子を捨て、家を捨てねばならぬ。身体の養生などは捨て、了はねば、天国には入れないと説いてあるから、一見すれば釋迦のよ一にならねばならぬと聞える。けれども之れは間違ひで、そ一なれば却つて一義の生活も出来ないものである。只 Absolute になつて、内容のないものとなつて了うのである。

又、第二義の生活をするものも、只常識を養ひ、該博なる知識を以つて居れば、其れで満足が出来ぬ。夫れで社会を救ひ、今日の家庭の不和を治すことが出来ると思ふなら、之れ又、間違ひであつて、そ一云ふ外部のこのみによつて出来るものではないと云ふことは、今日まで多くの学者が経験して来たことでもあります。

けれども、そ一云ふ風に考へたり、會員も亦そ一云ふ風に考へ、又一方は第一義を主張し、一方は第二義を唱導して、相容れないかのよ一に考へ易い。故に、初めに之れを申しておきます。夫れで、會員のうちにそ一云ふことに迷つて居る者があるならば、よく説いて正して下さらねばならぬ。又、

皆さんの中にそ一云ふことが問題になるよ一ならば、よく研究なさることが必要である。

[第一義の生活と共に第二義の生活をなすべし]

第一義の生活をするからと云つて、二義のことは構はない、形のことはど一でもよいと云ふことではない。二義の生活を完全にしなければ、一義の生活の出来るものではありません。

宗教でも、第一義の宗教と第二義の宗教とある。第二義に傾いて、停滞して生命を失うた時に、何時でも新しい宗教が起るのである。今日でも一義の精神を失うて、いろいろ中間に物を立てたり、いろいろ儀式を行うたりして、夫れで生活して居る人もあります。そこで宗教と道徳、即ち人生と云ふものを決してわけることの出来るものではない。之れは此の学校で始めから申して参りましたから、皆さんの中には間違へる人はないと思ひますが、卒業生の中に精神生活に於て、成功をして居るものと、いろいろ煩悶して居るものとある。其の原因は斯う云ふ所にあるよ一であるから、一言申しておきます。

そこで今日申したいことは、そ一云ふ傾向のことではなく、卒業生の将来を如何にすべきものであるか、又今日の識者の間にも問題になつて居る所のことで有ります。

そこで私が今日、皆さんに訴へたいと思ひますことは、何時も其の第一義の事を申し、又皆さんが其の経験をなさる様に望んで居ります。其の動機が充分皆さんに明らかになり、此の際、皆さんと共に我々がも一層其の問題について、深く確信を持つて進まねばならぬよ一に思ふから、皆さんに訴へた訳であります。

併し、前にそ一云ふことを言つたのは、そ一云ふ考へを言つたのは、斯う云ふ主義をもつてやつて見たけれども、世間の實際生活はど一もそ一云ふ訳にはいかぬと云ふよ一な不信仰な点があると、私の申すことはよく入らないから、そ一云ふことのない様に考へておいて、聞いて戴きたいと思つたからであります。

[卒業生の卒業後、困難と感じたる実験]

私は学校生活に於ても、卒業後に於ても、皆さんが第一義の生活を経験なさらねば、つまり精神生活と云ふことが銘々の生命とならねば、あなた方御自身満足なさることも、亦、あなた方のお治めになる家人を満足させることも六かしいのである。実は私、今度京都へ行きまして、誠に気の毒に思ふのであります。力を尽して居らんかと云ふと、そ一ではない。も一生命をなげ出してあるのである。主人になる人も立派な人である。舅姑も家の事、子供の事、又嫁の事をも朝夕心配して、大事に思うて居るのであるけれども、ど一してよく治まらぬかと云ふと、誰れがわるいでもない。我が儘をする人もないけれども、つまり感情が融和しないと云ふ訳で、も一家破滅と云ふ極度に達して居るのである。之れは一例に過ぎない。けれども過日、京都で会を致しました時に、只一人だけそ一云ふ経験をしないけれども、他は皆同じ苦しみを味はうて居るのである。表面、誠に幸なよ一で居て、内部は生きながらの地獄である。之れが昔から宗教の起つた訳で、つまり苦しみから救ふ、悪魔の手から救ふと云ふことである。

之れをいろいろの譬へを以てあらはしてあるけれども、総ての本は皆同じことで、あらゆる人間の中、又家族の中に非常によい所もあるけれども、亦、苦しみもあるのである。夫れに、如何にして勝つと云ふ経験を持たない人が多いのである。実は京都の会員が今後、卒業して出る人の為に其の経験をよく言つて聞かして、注意をしておいて欲しいと云ふことを異口同音に言つて居ります。

私共、親子のよ一に、兄弟のよ一に親しく交際をして居る人々の間でも、夫婦の仲のこと、一家の内のことは滅多に人の話すものではない。けれども、京都の会員の中には、も一そ一云ふことがずつとわかりあつて居る。只一人経験しないばかりで、他は皆して居る。そ一すると、僅に知れて居る人々の間にでもそ一であるから、知れない所にどれだけ沢山あるかも知れぬ。其の苦しみから救ふものは何であるか。料理でも、英語でも、文芸でもない。実に此の学校で第一義の教育をせられた賜であると言つて、感謝しております。けれども、未だそのわからぬ人は、只着物とか、子供とか、家の内の事とか、形の事ばかり気にして居つて、そ一云ふことの外、興味が無いのである。そ一云ふ要求ばかりするのは夫と姑の方では非常な苦しめで、ど一して彼の人があゝ云ふ風になつたであらうか。彼れはど一しても会員の方がわるいと云ふことを、他の会員一同が言つて居ります。

[物質文明に伴ふ就職難]

世の中は、物質文明の進むにつれて生活は困難になる。就職難は益々烈しくなるのである。例へば総理大臣になるとしても、総理大臣と云ふものは日本に一人しか無い。けれども、今日の総ての青年は皆、総理大臣にならんとして居るのである。

[内的要求を切ならしめよ]

私共は外の宝を獲得することは出来ない。けれども内に深く進んで、限りなく自由を進めて行くと云ふことは出来るのである。即ち、第一義の生活に於て、根本要求に於て満足することが出来るのである。此の根本要求である所の真理、価値を認めて居るならば、夫れを以て限りなき満足を得らるゝ筈である。然るに外の要求ばかりをして居つたならば、殊に我が国の御婦人が此の矛盾の多い世に立つて、外の宝を得よ一と云ふ風に考へて居つたならば、到底救はるゝ時はないと云ふことを、私は始めから確信して十年間やつて来たのです。

そこには疑ひはないのである。仮令一部の結果があつたにしても、仮令一粒の種が落ちたとしても、外には一向見えぬものでも、夫れが出来たならば満足すべきである。我が卒業生諸君にして其所に Struggle しておいでになるならば、外の境遇は如何に困難でも決して憂ふることはない。故に私は皆さん、此に協力して戴きたいと思ふ。独り婦人のみならず、我が国男子の教育にも其所が出来ねばならぬ。否、之れは世界の要求となつたのである。

[留守中に於て会員に対する希望]

故に最早お聞きになつた方もありましょ一が、私は此の七月から六ヶ月間の予定を以て、世界の各国を回つて来ることにきまりました。夫れは文明国の女子高等教育を根本から調

べて参りたいと思ひますが、も一つは精神生活の根本から視察して参りたいと思ひます。

故に、ど一か皆さんにお願ひしたいことは、此の精神生活について、も一層深く研究して戴いて、我々の十二年間経験して参りました其の第一義の生活は如何に効果を奏しつゝあるかと云ふことを、会員銘々から証明することの出来るよ一に、私の海外に出る迄、此の三、四ヶ月の中に深く経験し、且つ發揮して戴きたいと云ふことが今日の希望であります。

そして、自分の経験と自分の態度とが充分出来ました上に、之れは度々申すことであるが、桜楓会員はそ一云ふ方面に於て大なる使命を授けられて居るのである。ところが私共の思ふたよりは非常に早く其の時が参りまして、此の頃海外を回つて来た識者、其の中には立派な宗教家もありますが、そ一云ふ人々の話しには、も一其の事は私の考へて居つたよりも其の根は非常に深くなって居ると云ふことであります。故に皆さんが此れを看破して、協同して其の任に当ると云ふ覚悟をして戴きたい。之れが私の要求の第二であります。

第三には、私が今度海外へ出るにつきましても、私の仕かけて参りましたことは誠に軟弱である。十年間少しも忘れる事なく根に水を注ぎ、培ひ、育て参りましたものは、誠に**かよい**ものであります。之れを成長させて、社会の為に貢献すると云ふことは誠に困難であるけれども、之れは我々の生命である。故に、此の為に斃るゝの外はありません。故に、ど一か留守中の事を皆卒業生で引き受けて、内願の憂ひなからしむる様に、深い私共の要求して居る所の生命の成長するよ一に、皆さんで充分協同して戴きたいと思ひます。

私は其の深い精神生活を進むる為に、いろいろ案を立てゝ居ります。夫れを半ば表して居りまして、お聞きになつた方も、お聞きにならん方もありましょ一が、猶、夫れについて段々お話しよ一と思つて居りますから、暇があつたらおいでになつてお聞きなさるよ一に。又おいでになることが出来なければ伝へ聞いて、銘々其の指導の任に當つて戴きたいと思ひます。

[中表紙]

大学部一年の御話
明治四十五年三月十一日

明治四十五年三月十一日
大学部一年のために

これからいよいよ、過日来あなた方に説いて参りました、実行したい、銘々で一つ経験を積んで見たいと云ふことになりましたが、三年と一つに致しました為に、いろいろ六ヶ敷い所があつたよ一です。併し多数であるから、一々困難に答へて行き、質問に應ずることが出来ませんでした。今日は人数が少ないから、若しわからぬ所が有るならば、遠慮なくお聞き頂きたい。それから成る可くあなた方に適する様に選

んで行くつもりであります。矢張りあなた方からあがらんければわからぬ。今度の仕方に於てあなた方から反応が出るか、之れにより銘々の力がわかるから、之れによつて皆さんに適應して行きたいと思ふ。

[一義の生活]

之れ迄の様に、ひどく困難がないと思ふ。併し私は唯一言、一義の生活をするに云ふことが何故に左程六ヶ敷いものであるか、それに勝つにはど一なさらんければならぬかと云ふことを、一言話して置く必要があると思ふ。

[今日の青年の弱点は何か]

此の明治の教育が余り知に偏した為、人間が余り出来ない。ことに、力ある信用の出来る所の人間が出来ない。ど一も今日の青年は薄志弱行で困ると云ふことをきく。又、学生間から響いて来る所の声は何か。就職難、不可解難と云ふ様に難が横たはつて居つて、ことが出来ぬと云ふことである。

之れは果して事実であらうか。彼れ等が主観的に自分の想像を持つて描いた、幽霊の如きものではあるまいか。即ち、恐怖心、不真面目、不熱心、不決断と云ふ如き、心理的臆病に襲はれたのではあるまいか。ナポレオンの如き人にはアルプスがない。義経の前には鶴越がない。臆病、不真面目、或は自ら高しとする者の前には、多くの難山があらはれるものかと思はれる。こ一云ふ一種の流行病が今日、青年の間に襲つて参つて居るよ一であります。

克己教育時代の人、又は維新時代の教育を受けた人は、今の青年を真面目、熱心が足らぬと言はれる。これ耳を傾くべき価値があると思ふ。

我が学校に於ても、難と云ふ声を聞くことは、十年の間、余り間断がなかつたと思ふ。果して一義の真理を解することは六ヶ敷いか。成る程、哲学も考へんければならず、科学も考へんければならぬ。複雑な生活も敢てしなければならぬ。我々にとつて、ことに我が國婦人にとつて、そ一云ふ生活に堪へる能力をもたぬものである。そ一云ふ修養、学問を強いることは、無理なる、不可能のことであるか。これにつき、銘々の考へをきめんければならぬと思ふ。そ一云ふ偏見力、臆病心か躊躇心かしらぬが、時々襲はれる。ことに予科一年の如き、かゝる経験を居るゝか、如何なるものか。

[本校に対する世間の批評]

第一に、あなた方は校門に入る前に、しばしばこの女子大学の噂を聞いて居られる。それは、会ばかりあつて時が足りない。寮舎に入ればいろいろな責任を持たされて、折角はいつて来ても勉強が出来ぬ。又修養、精神生活と云ふことを言ふ。これ言ふべくして行はれぬことであると。これが世間で批評して居る言葉である。我が女子大学が、我が教育界に貢献せんとして新経験を致しました。寮の家族、自治制度、組合など云ふ實際の方面を加へたと云ふこともある。併し世間では、其の真意をとらない。そして会が多いこと、修養に傾くこと、又生徒が学校に奉仕すると云ふ様なことについて批難がある。無論、経験が浅いから、未熟なる点が沢山あろ一。出来損ひの卒業生もあろ一。我々は之れをないと言ふのではないが、實際は果して何であるか。団体生活が必要

な以上は、会が必要である。併し常に、過ぎぬよーにと務めて居るのである。

精神修養など言ふて、目に見えぬ深いことになると、直ぐわかるものではない。この様にしてあなた方がいつて来て、会がよく出来ず、自治生活も有効に出来なかつた時に、これで世間と言ふ通りであると考へられるかもしれぬ。そー云ふ偏見、社会的の暗示が、深くあなた方を中傷したのではなからるか、深く考へて見たい。併し十年間、卒業生を出し、いろいろ経験したが、矢張り一義に生きなければならぬ。又、大に感謝すると言ふ人もある。賛成者も追々出る様になつた。干戈の戦ひに於てもアルプスがある様に目に見え、又我れに対する戦ひの苦しいことは当然である。それが出来ぬのは無理ではないが、も一層真面目に深い所を要求すると云ふことが、あなた方の為に必要なでないかと思ふ。

[人間の根本要求]

今日はいよいよ実地の生活に入ろーとするのです。過日、大体の方針につき述べましたが、一年には人格修養と云ふことをきめました。それを始めに、適当な入口がどこにあるかを定めなければならぬ。これをきめるには、余程努力せんければ出来ぬ。併し、なかなか思ふ様に発生しない。

どーしても之れをなすには、原動力が働いて来なければならぬ。夫れで之の本が動くには、要求がなくてはならぬ。興味が起つて居なくてはならぬ。夫れを満たすに就いて、必ず自分で望めることであると云ふ所の、一つの信頼心がなくてはならぬであらう。つまり、今日の教育の欠点は、人間に根本要求がない、何かの信念がないと云ふことである。種がなくは発生しない。この種はあなた方の内にあるもので、之れから何かの芽がふかんとして居る。之れから始めなければならぬ。その芽、種と云ふ根本要求は、何かそこに一つの確かなるものがなくてはならぬ。自分が愛する、興味を持ち、信頼するものが有る。たとへ小さくても、自分はこのれだと云ふものが有る。然るに、皆さんに根本要求は何かと聞いたが、其の声の聞えた方は誠に少なかつた。

[信仰とは何か]

先づ、信仰と云ふ言葉。信と云へば、殆んどそれに一身を共にする。命にかへても失ふことの出来ぬ程、深く愛し、思ふ。そのものは確かなるものであると云ふ確信を指して、信と言ふ。之れがどこにあるか。或る人は之れを神と言ふ。天と言うてもよい。何かしら無限のものである。之れを信ずる、神と交通すると云ふことは六ヶ敷い。然らば父母兄弟を信ずる。之れも余りたよりにすることは出来ぬと、又学校の主義を信ずることが出来るか。自己を信ずることが出来るか。先づ私が尋ねて見るから、無邪氣に答へられる様に。

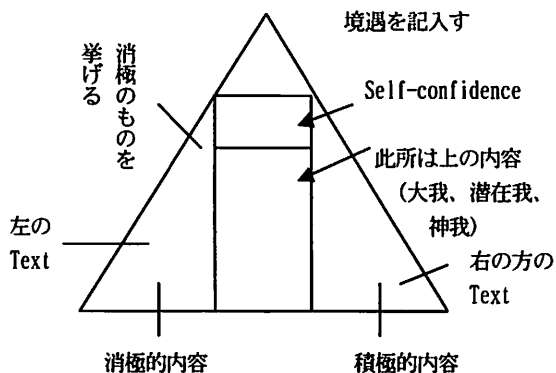
神を信ずる者………多数

神を信ずるならば、神の実在、神との関係がわからねば信ずることが出来ぬが、神を信ずると云ふ方が多数であつたから、根本が大体わかつたと云ふことになる。そーすると、私の考へて居たのは、自己を信ずるのであると思つたのです。自分を愛する、自分を信頼すると云ふことに不同意な人はないだらう。如何なる頑固な人でも、如何にもものを否定する傾

きの人でも、自分を満足する様にせぬ人は少ない。然るに、あなた方が神を信ずると言はれたので、斯く迄、進歩して居らるゝならば、も一一段高い所から始めませう。

自己を信ずることは、つまり人を信じ、神を信ずることになるのであるから、それから説き始めましょー。

之れから、この間私が言ひました Notebook に書き入れることを話すことによつて、其の実地をわかつて戴きたいと思ふ。



[右の Text]

Rise above mediocrity and feel within them something of their divine inheritance.

[左の Text]

Thousand of persons are held in physical and mental bondage owing to lack of self-confidence.

[右の境遇]

それから右の方の Environment には Self-confidence を助けるものを記入す。

父母、兄弟、友達、寮舎、団体、真理、世界の大勢

[左の境遇]

病氣、天災、不運、死、試験、会、疑惑、失敗、無効、中傷、誤解、不信仰者、仇敵、結婚。これ等は Self-confidence を破るものを挙げたのである。

[第一段]

第一段は、今日の我が理想我が目的を心に立て、我が心に命令する言葉 Self-direction を与へる。宗教家で言へば、祈りであるのです。故に之れは Hypothesis, Postulate, Will の領分である。

[老子より引用したる句]

1. 大我

有限を無限になし、小我を没して大我に合せよ。

2. 潜在我

高きに居るも恐れず、水に入つても濡れず、火中に在つても焼けず。

3. 神我 (神人)

神人は、何物も傷つけ害ふことは出来ない。永久不朽、無限に続き、何物をも支配し、何物にも支配されず。神人は無己、無名、無功。

[第二段 Inspiration, Intellect]

Emerson:

"It is easy in the world to live after the opinion; it is easy in solitude to live after our own; but the great man is he who in the midst of crowd keeps with perfect sweetness and serenity."

The self is a free and active.
Power and the other things of universe are its environment.

My ideals are essential to my progress.
Great ideas lead to great achievement.
Lofty aspirations and ardent longings are fired my imagination and urged me to preparation for heroic endeavor.

Thus self-activity, self-consciousness and self-direction represent higher and higher forms of self-cultivation of self-confidence.

Ideal making begins as soon as a few ideals have been experience and remembered, but it is only after a large experience with the facts of the world of the matter, and with incidents of social companionship that one has materials for those ideals of live and conduct, which play such a conspicuous parts in the higher culture of character.

Moreover, the elements of our experience are seldom used by us in the construction of the ideals without first being greatly altered.

If a human being would image only the past, he could not provide for the self-culture beyond the standard of the past; but the mind has the native power to change its remembered ideas into many ways. The power of mind to make those changes, one called imagination.

[第三段 Hume]

Great master touch me with thy skillful hand.
Let not the music that is in me die;
Great sculpture hew and polish me nor let
Hidden and lost thy form within me lie.

あなた方は毎日、之の様にし一頁づつかけるとよいのですが、一週間に一遍の人もあるでしょ。兎に角、之れを出るものとして生活をなさることを希望致します。

[中表紙]

大学部第二、三年の御話
明治四十五年三月十三日

明治四十五年三月十三日
大学部二年及び三年にて

此の前月曜日には、Noteの取り方と、一年の為とに開きましたけれども、之れは二年、三年通じて今度の修養を始むる

に大切なことでありますから、順序として今日は其の続きを致すべき筈であります。然るに時をはかつて見ますと、今日と、も一其の次と二度しか御座りません。斯う云ふ講義を致しまして、卒業の時には告辞を致すので御座りますけれども、夫れは極一部分の事しか申す暇がありません。殊に今年は卒業生の経験も大分聞いて居ります故に、申さねばならんことが沢山あります。又或る方にとっては、之れが一生のお別れとなるかも知れぬ。又、此のお別れが只のお別れに止まらずして、如何に遠くへ離れて暮すよーになりましよーとも、益々心一つにして、協同して行く初めであります。

卒業式を十三日に致しますから、幾らかあなた方の都合もして、申したいことがいろいろありますけれども、中々時が足りませんから、どーしたればよいかと苦しむのであります。順序として此の前の続きも申さねばならぬ。又、第二の階段、即ち道徳的修養 Ethical culture、或は Moral culture と云ふことに進まねばならぬ。そこで今日の講義は、夫れ等のことを皆含めて申さうと思ふ。故に卒業後の告辞もあはせて申して居ると云ふつもりになってお聞きを願ひたい。

此の Note をお始めになつて、も一時が幾らもありませんから直ぐ様お始めになつて、次の水曜日の前までにお出しになる様に。そーして私が材料に使ふこともありましよーし、又彼方に行く土産ともしたいのであるから、英文科の方は無論の事ではありますが、そーでなくても力のある方は成るべく英語でお書きなさることを希望致します。

[道徳的生活に就きて]

さて、今日から此の間申した様に、Moral life 道徳的生活と云ふことに入りましよー。

道徳的生活と云ふことと、精神的な生活と云ふことは、同じ意味になります。併し此の間説明を致しました様に、人格的修養、道徳的修養、及び精神修養と斯う分けると、Spiritual life とは最も進んだものを申すのであるから多少違つて参りますが、併し其の要素は Moral life にあるから、分けることは出来ません。

[精神界と物質界との関係]

夫れで始めに一、二言、精神界と物質界、此の二つの世界の関係、区別を一通り申しておくことが必要であろー。如何となれば、物質界と云へば即ち物質界が実在すると云ふことについては誰れも疑問は起らないけれども、精神界、霊界と云へば、何か迷信的なものではないかと云ふことになり、空なものではあるまいかと云ふ疑問が起り易いからであります。

十九世紀に科学が起りまして、宇宙は物質であると云ふことは、誠に信じ易くなりました。其の物質の法則、其の物質の原動力を応用すると云ふことは、余程確実になりました。其の結果、精神界の事は余程薄くなり、又其の存在を否定するよーにもなりました。けれども今日は又夫れと反対に、精神界に重きをおく様になりまして、人生も身体よりは此の精神と云ふものが本であると云ふ風に考へて参りました。

そこであなた方の考へにも、多分そー云ふ傾きが出来て居るであろー。此の精神生活が無限の力を与へるものであると云ふこと、少くとも、其の仮説が皆さんの頭に胚胎して来た

と云ふことは、事実である。併し其の精神界と云ふものは、我々の肉体、又物質界のよ一に、悉く其の精神界の力が有効に働かざるやと云ふ所については、未だ疑ひが残つて居ると思ふ。

[何故、精神界は物質界よりも不確実に見えるか]

何故に、精神界は物質界よりも不確実に見えるかと云ふ理由を明らかにする必要がある。

第一は、精神界、精神生活と云ふものは肉体生活、肉体の生、即ちいのちと云ふものとは別物であると云ふ所の誤解が精神生活を無効にせしめたと云ふ多くの経験が、人類にある。然るに科学が復興致しまして、其の事実が間違ひである、迷信であることを打破して、此に實際からして其の精神力の無効なることを証明するに至つたのである。けれども猶、科学が歩を進めまして、其の身体の方面と精神の方面と等しく研究を積むことが出来て、此に始めて此の精神生活と云ふものは、肉体の生活と相離るゝことの出来るものではないと云ふことを見出だすに至つたのである。又、肉体が精神生活を妨げるものではない。却つて精神生活は此の肉体生活が助けなければ、充分にはならない。又、肉体生活は精神生活が助けるにあらざれば、完全なる働きを現すことの出来ぬものと云ふことがわかりました。故に今日の肉体生活は、昔の如く禁欲主義、又は欲望を根絶すると云ふ様な考へでない。そ一云ふ昔の宗教、昔の精神生活と考へて居つたのは、偏したものであつた。偏した為、充分功を奏することが出来なかつたのである。今日も其の惰力を以て、肉体生活が夫れだけ大切なものであるかど一かと云ふ疑ひの残つて居るのは、其の辺から基因して居ることであるから、よく注意しなければなりません。

第二は、Life と云へば総てのLifeが入つて居る。Lifeの複雑、或は多と云ふことと、Lifeの単一と云ふこと。Lifeに其の二面があると云ふことを忘れたと云ふことが、精神生活を誤解するに至つた原因である。Complexity and unity, Unity of life と云ふことを考へなかつたからであります。

[注意すべき三項目]

そこで私共の注意しておかねばならぬことが三つある。

- (1) Variety 或は Complexity life 生の多種類
- (2) The unity of mind 精神の統一、或は合一
- (3) The concreteness of real 実在の具体たること

第一に、Spiritual life 精神的生命と云ふものは、或る意味の絶対、又は抽象的のもので、之れがSpiritual lifeである、他は入らないものであると言ふことは出来ない。必ずSpiritual lifeの中には複雑なる無数、無限の要素が互に織りなされて、互に相働きあうて、共に働きあはうとする。其処が即ちComplexityである。故に精神生活は肉体生活と相分ち、又は通俗生活と神聖生活とを分つことは出来ません。

ヒュームが言つた様に、

We can't see every one of tree in the wood.

森を見んとすれば、一つ一つの木を見ることが出来ない。森と云へば、種類の違ふいろいろさまざまの木がよつて、夫れが一つに関係したものが森である。夫れと同じよ一にLife

と云ふものは、複雑の中に統一を見出だすのである。故にAbstract 即ち抽象、単純、孤独のものは、實際宇宙にはそ一云ふものは存在しないのである。又、そ一云ふ物には何の意義も持たないものである処の、空なる暗合に過ぎないのである。又、生命のないものである。故に、集中と云ふこと、又精神生活と云ふことは、決して単一に他を排除するのではない。即ち、身体を除いた精神ばかりではない。又、社会を離れ、世界を離れた自分の頭に描いた神、其の神とのみ生活すると云ふものでもないのである。

[精神生活に入るには神の観念を明らかにする必要がある]

併し、も一つ夫れについて申しておかねばならぬ。夫れは神に対する観念である。此の間、私が此の拡大せる宇宙間に適當なる神を信ずるや。此の進化ある宇宙間に適當なる神を知るや。此の法則、秩序ある宇宙間に適當なる神に従ふや。此の永久不朽の宇宙間に適する神に接することを得るや、と云ふことを申しました。夫れは私共の神に対する観念に由つて、すつかり精神生活が変わるのであります。故に、精神生活に入るものは、大体其の神に対する観念を正しておくことが必要である。夫れであるから、Christにしても、仏にしても、Socratesにしても、孔子にしても皆、神と云ふ根底が大切になつて来るのであります。

人智の開けない昔には、神は人間のよ一な意識あり、感情あるものであればよかつたのである。又、甚しきは、耳、目、鼻、口ある神を信じ、人間に供へるよ一な捧げものをするこの出来る様な神であればよかつた。夫れが為に一国の主権者などが非常なる虐政を行つたことなども、珍らしくはなかつたのである。其の迷信を打破して一神教を信ずる様になつたのは、今から二千五百年程前でありました。

即ち、支那では孔子、印度に釋尊、猶太にはChrist、希臘に於てはSocrates、斯う云ふ人々は皆、一神教、即ちMonotheismである。此で注意しておかねばならぬことは、釋尊をさして無神論者のよ一に思ふ人があるけれども、これは間違ひである。夫れで印度に仏教の起つたのは、宗教界に非常なる貢献をしたのである。夫れを此に申すと時を取りますが、實際は非常なる貢献をしたのであります。一言に言へば、神は絶対である。併し其の絶対と云ふことを如何にとるか云ふことが問題である。神は属性、即ちAttributeのないものである。此の性をつけると、神たる性を失ふものであるとする。然るにSpinozaの神は無限なる、無数なる性を有するもの。其のInfinite (空白) of attribute、此の説を形而上学から批難する人がある。又、すれば出来るのであるけれども、神と云ふものは斯くの如き内容のないものとするれば、神は価値のないもの、宇内は真、善、美と云ふよ一な価値のないものとなる。之れを絶対に否定したのは、ゼームスである。

ゼームスは多元論であるけれども、其の合一の中に単一がある、即ちOne and manyであることを否定しないのである。神の絶対と云ふことは、其の神の力、神の実現、神の性は人間のよ一に限りがないと云ふことである。

第二の考へは、神は無限であり、完全無欠のものであるから、永久不易のものである。之れも解しよ一によると、此の

信仰が非常に我々の精神生活を妨げるよーになつて来る。神は永久不易なものと云ふことは、或る意味に於て言はるゝのである。即ち神の目的、真善美、又之れに広い意味を加へて、神は愛なり、と言ふことが出来る。其の愛、真善美を限りなく進めて行くと云ふ目的は変らない。又其の神の性 Nature の Meaning 又は Value は永久変らないのである。

[宇宙の神は進化して止まないものである]

併し其の神の Life、神は生きたものである。

其の Living God の生命は変らないものであつたならば、固定したものとなる。けれども、其の神の実質は常に変つて居る。一時も静止することはないのである。故に、進化的の神である。そこで此の間、進化的宇宙間に適する所の神を信ずるかと云ふことを申しました。進化的の神であるによつて、人間が其の神と共同することが出来るのであります。

其の次によく起る問題は人格的神で、人格的神を否定したのであります。一神教になるに就いては、卑い神、宇宙から外に立つて居るよーな Personal God を信ずることは出来ぬ。そーかと言つて、深い意味に於て神の意志、潜在意識をも説かなければならぬ。故に或る人は、Super personal God と云ふ、部分的でない処の超越的神と名づくるのである。此の神と云ふものの解釈によつて又、余程我々の信仰に相異を来して来るのであります。

其の次に、Spiritual life は Imitation の生活ではない。宗教は皆、模倣的であつた。Christ 教でも、或る時代に於ては模倣的であつた。今でもそーであるが、Christ の仰つた詞、Christ の祈りを模倣した。其の次には、模倣はどーしても繰り返しになる。そーして其の祈りと儀式とにあてはまつて行くから、圧迫になり、強迫的になつて来る。之れが精神生活に於て行きつまつたのである。根本要求を満たさなくなつたのである。之れが人間をして、宗教生活を嫌はしめる様になつたのであります。

[宗教は自由で創始的なものである]

宗教は自由である。創始的である。自動的生活である。有効なる生活である。其の原動力は、何時も我が内から発するものである。我が内には、何時も無限なる力の潜在するものである。神と同じ種類の力がある。又、Subconsciousness とも言ふべき所に於て、神と交通して居るのである。夫れから出る処の要求が、精神原動力となつて爆発するのである。故に私共、自分の経験をくり返し、又人の経験を模倣し、又人の拵へた規則にあてはまると云ふことではない。之れが Note を自分で作る訳で、我々の觀念と云ふものは二度と繰り返すものでない。其の時、其の時に応じて必要なる Ideal を創造するのである。其の理想、信仰が我々の生を支配するのである。

[Moral culture]

之れから愈々、Moral culture に入ります。

今申しました様に、精神生活は三つの要素、即ち無数の要素がある。我れと云ふ、も一つの要素である。けれども、第二には Unity がある。種類があるが、すべてに通じた似たものがある。之れが即ち、どーしても離れるわけに行かぬ。

部分が全体を感知することが出来、部分が全体に拡がり、部分と全体が一つになることが出来るのである。個々の目的を以て、全体の目的と共同することが出来る所以である。部分と部分との間に、最も強い吸引力のある所以である。

[精神的関係を二種類とすれば 1. 部分と全体の関係 2. 人と人との関係]

第三には、二つの力が相合して、凡ての間に動いて居る関係が出来るのである。其のほんとの命、精神のほんとの意義と云ふものは、ど一言うてよいか。言葉で言ふと意味が薄くなるが、先づ関係で、多くの間にある所の其の関係 Relation、之れを又 Spiritual union 精神的結合、又は精神的関係と云ふ詞を用いる。も一つくだと、二つの種類となる。

1. 部分が全体に対する、即ち全体と部分との関係で、之れを宇宙に対する我れの態度、宇宙に感応する態度、宇宙が我れに対する態度、神と人、神と我れとの交通と申すのである。

2. 人と人との関係、人格と人格との反応である。

[関係の完全になつた感じを愛と言ふ]

それで、此の関係が時々刻々に活動する。其の活動を有為的に、意識的に取り働いて行くことを精神的活動、又は其の関係を全うすることが道德生活。我々の行為にて其の関係が完全になつた感じが愛である。又、関係を充たしたいと云ふのが義務とか忠とか言ふのである。

[Friendship]

夫れで先づ道德的生活と云へば、其の動機はと云ふと、愛である。又は愛の消極方面の憎み、嫌いと云ふのが人間行為の原動力である。其の動機が動いて、あらはれた関係が Friendship である。此の関係が完全に出来て行くと、夫れが道德的生活である。

一体、Friendship は親友の間にある語であるが、今日は広義に用ひ、先づ神と我れとの間に用ひ、神を愛し、神に感応する。神が感化を及ぼす。神がいつも我々を呼んで居るのである。

[神は愛なり]

キヤムベルが言つたよーに、宗教は Cosmic feeling で、人間は常に神の呼びに應へて居る。つまり神の Calling、又其の呼びに応答する反応には、いろいろある。併し Friendship を深くする関係を愛と云ふ。神は愛なり、生は愛なり。

つまり、Christ の如きは神の愛に酔うたものである。Spinoza も神に酔ふと言つて居る。夫れから仏教の小我が大我に合すと云ふのは、宇宙の無限なものに小我が酔うたのである。神の声に感じ、招きに答へたと云ふのが、即ち宗教的の要求を満足せしめたのである。其の愛に浴して満足である。それを感じなければ寂寞を感じる。併し独り神に酔ふのでなく、凡ての人の根本性格となり、神の愛は人間社会の間に充ち充ちて居る。太陽の光りや熱に浴して居るよーに、宇宙に充ちて居る。凡ての振動は神性の動きである。もし真に心の戸を開き、耳を傾くるならば、其の声を聞くのである。其の声に答へるのが我々の性である。

科学者、哲学者が心の要求の真理を究めよーとして空しくならず、必ず真理を発見して行くことが出来る。之れ、神の呼

びに応じて行くのである。又文学者、詩人が生を求め、美を追求する其の効、空しからず詩となり、絵画となりて発展して行くのである。生が進むのは、神の性に接触するのである。之れを只迷信的に人格的神、卑い性情をつけた神を信ずるのは、間違ひである。

[Value を発現する所に精神的な生活はある]

愛とは Value を感じ、発現するので、此処に精神的な生活はあるのである。

そ一云ふ大きな意味から考へて、Friendship と云ふ、夫れから忠君、愛國、孝行と云ふよ一なことも、君と私と、国と私と、自分と親兄弟と私との關係、皆關係である。夫れは何から出来るかと云ふと、皆、愛憎 Love からである。

夫れで私は先づ Note の上に縁と云ふことを書き、下に Friendship と書きました。

第三の紙の真中に書くこと

Hegel の言つた詞に、

Love is the consciousness of the unity of the myself and another.

[愛は我れと人と合体した意識である]

愛は、我れと人との合体したと云ふ意識である。自分は決して人と離れ、孤棲して居るものではない。併しながら、自分の獨立、生存と云ふことを否定することに由つて、自我意識、所謂、利己的觀念に克つことが出来る。愛と云ふことの第一要素は、自分が全く獨立し、自分だけで満足することの出来ることと云ふ考へを去つて了うことである。若し自分が、只自分だけと思ふならば、確に自分は非常に欠陥があり、Incomplete なものである。他との關係が充分になり、其の間の調和、統一が出来て始めて完成するものであると云ふ意味です。

夫れで先づ人間は Friendship と云ふ關係、之れには親も兄弟も皆入るのである。皆さんが今朝起きて、何やら嬉しく感じたのは何であるか。何やら腹立たしく感じたのは何であるか。非常なる勇氣に満ち、或は大層氣力を失つたと云ふよ一なことは何故であるか。其の本は悉く、我れと人との關係、即ち愛憎問題である。確に人間生活は幾ら孤独生活をして居る人でも、やはり愛を渴望するのである。其の愛とは何を意味するか。正当なる愛と云ふことである。世の中には邪愛も随分あるのである。我々は其の深い修養をして求むる所のもの、又捧げよ一とするものは、Spiritual friendship or love である。我々は其の深い、高尚なる關係を味はうにあらざれば、満足は得られないのであります。私は其の精神的愛について満足をした人の經驗をいろいろ集めておきましたが、一々出所は申しますまい。

或る人の言つた詞に、

最も深い処の厚意でも、最も深い調和でも、亦実行した処の親切でも、Friendship には不充分である。

或る人の言ふ様に、

Friendship は只 Harmony ではなく、Melody である。Melody は其の Harmony よりも猶、高尚に、猶、自然に調和する処の、言ふべからざる高調に達したものである。

我々は Friend が着物を着せてくれ、食物を与へてくれることを要求しない。夫れ等は隣人からでもしてくれる。私の Friend にして貰ひたいことは、我が靈に食を与へ、我が靈に着物を着せ、我が精神生活の友となつてくれることである。然らば、精神的な Friendship とは如何なるものであろ一か。此に一つの例を挙げれば、斯う云ふ手紙を書くことが出来るならば、其の心が即ち Friendship の最上なるものである。

[最上の Friendship]

Love is consciousness of unity of myself with another.

I am not separated and isolated, but win myself consciousness only by renouncing my independent existence and by knowing myself as unity of myself and another.

I will be no longer and independent self-sufficing person, and but if I were such a person, I should fill myself lacking and incomplete even the at most good will and harmony and practical kindness are not sufficient of friendship for friend do not live in harmony or melody nearly, as some say, We do not wish friend to feed and wear our bodies.

Neighbours are kind enough, thus —, but to do the like office to our spirit.

I never asked thy live to let me love thee, — I have a right. I love thee private and personal, which is your own, but something universal and worldly of love which I have found.

O! how I think of you. You are purely good and infinite of love.

I can trust you forever.

I did not think that humanity was so rich. Give me an opportunity to live. A base friendship is of a narrowing and exclusive tendency, but noble one is not exclusive.

私はあなたに、あなたを愛することを許して下さいと云ふことを願ひはしない。何とならば、私はあなたを愛する権利を持つて居ります。私はあなたを決して私自身の私情から自分のものにしようと思つて愛するものではない。夫れはあなたの物であるけれども、私は普遍的のものとしてあなたを愛する価値を認めて居る。夫れは私自身で見出したのである。如何に私があなたのことを思うて居るか、如何にあなたのことが忘れられないか。あなたは実に Purely good である。少しもまざりのない、純潔なものである。

実にあなたは無限の価値のあるものである。私が見出した処の、実に自ら忘れることの出来ない其の人の価値である。私は永久にあなたを信ずることが出来る。私はあなたについて少しも疑ふ処はない。私は人情と云ふものは斯くの如く豊かに、斯くの如く深いものとは知りませんでした、あなたに由つてほんとに味はうことが出来ました。ど一か私に、其の生活をする機会を与へて下さい。之れがほんとに最上の Friendship である。けれども、卑賤な Friendship は狭隘な、Personal な、他を排除する所の傾きである。其の自分の友達ならば、悪いことも許すのである。けれども、高尚なる友情は無差別であり、寛大である。夫れで先づ友情は、正しい精神的な普遍的なものではなくてはならぬ。次に、

A true, beautiful friend is medicine of life for what generate friend of you ?

What pleasure would be not created fou us ?

What profit?

What safety?

It would be better to live with friend in darkness than to live without friend, but those who are rich in friend, could never be in distress, I speak of the spiritual friend who said nothing about friendship.

[人生に Friendship がなくてはならぬ]

其の友情は、我々の人生にとって大切なものであるが、実に真実なる友は生命の薬である。我々の身体を治し、我々の心を治す処の薬である。故に高尚なる友を持つて居ることは、病を治すことが出来る。此の正当なる友は、如何なることを私の為にしなないと云ふことがありましょーか。どの様なことでもするのである。如何なる愉快も、如何なる興味も、我々の為に発生せんと云ふことはあるまい。如何なる利益も与へることが出来、如何なる保証も与へることが出来る。人間のほととの満足は、実に此の Friendship によつて出来るものである。故に、友達なしに**あかり**に住むよりも、寧ろ友達を持つて暗きに住むが勝るのではないか。併し、此の友愛に富んで居るならば、其の人は決してほととの難儀、ほととの災害に遇ふことはないものである。私が言ふのは、此の精神的友達を申すのである。夫れは、友達と云ふものの上に何物をもおかない人である。愛情の最上価格は、此の Friendship である。故に、ほととの調和があり、和諧あることは、此の Friendship のあることである。併し、人間の最も深い苦痛は、其の Friendship を破らるることである。之れを以て無上なる喜び、非常なる満足を感じられたお方は、エスクリスト、釋尊、又教育家で言へば Pestalozzi のよーな方々である。しかも斯う云ふ人々を苦め、其の心臓を刺したものは何であるか。釋尊も長い間の難行、苦行は何の苦しみもなかつたけれども、一番苦しまれたのは、**お弟子達**の間に矛盾、衝突したことである。

Christ も真に血を流して天に祈られ、お苦しみになつたのは、其の弟子達が調和を欠き、利己心、虚栄心の為に Christ を渡したことである。即ち、ユダの如きものがあつて、僅か三十金の為に主を売り、友を捨てたことである。

Christ を殺したのは彼の槍ではなく、実に Friendship の破れると云ふことであつた。

又、Pestalozzi 先生は寂寞を感じて、敵の中傷の弁解を書きつゝ眠られたのである。之れは弟子達が友情を欠いたことである。利己の名譽心に駆られたことである。之れは私が皆さんとお別れの言葉として申します。故に、生涯お忘れにならない様にと望むのであります。

若しあなたが家を持つて調和が出来ず、人心の統一が出来ないよーになつたならば、夫れは熱心が足りなかつたのもない。奉仕が足りなかつたのもない。其の本が破れたのである。精神的結合が破れたものと言はねばならぬ。故に、あなたが其の本に於て鈍れなかつたならば、Christ のよーにゲツセマネの苦しみがあつても、Pestalozzi のよーに孫の

手に眠つても、決して寂寞を感じることはありません。

[中表紙]

大学部一年及予科の御話
明治四十五年三月十八日

明治四十五年三月十八日
第一学年及び予科生の為に

[思想は形式にあらずして観念なり]

此の前申しました様に、私共は、之れは自分でお考へになつて、夫れを文章に綴つて、人にもわかる様にお出しになつたのであるから、一寸前にも申したよーに、思想と云ふものが何よりも其の人の人格を写すものである。故に、最も深く考へたいことは、何よりも自分の人格に影響するものである。私共は、頭で考へることは何よりも形式に過ぎない様に考へる癖がありますけれども、夫れは皮相の感であつて、考へることは決して形式ばかりではない。観念と云ふものは何よりも深く、筋肉に影響するのである。夫れであるから、筋肉の自衛と云ふものは、必ず観念の影響を免れないものである。其の考へは如何なる材料を以て組み立てられるかと云ふと、之れを Image、何かの像と言ふ。其の像とは何かの経験である。是れ貯貯へた所の無数の経験が材料となつて、必ず何かの観念が出来る。

[観念はやがて我々の精神生活となる]

其の観念は経験であるから、感情もあれば、感覚もある。そー云ふものが復興し、再現して来るから、私共の考への中には必ず感覚や感情がある。故に、何かの欲望が有り、意志があつて、其の材料を取捨選択するのである。故に、考へることは筋肉にも働きを及ぼして居るし、感情にも働きを加へて居る。尚深く進んで、欲望とか意志とか云ふものになつて、私共の精神生活となるのである。故に、精神生活の要素は考へると云ふことである。

[読んで書く所に其の生活の価値あらはる]

其の考へたことが、あなた方の筆に現れたのであるから、之れを読むと銘々の生活、銘々の判断、銘々の趣味、及び銘々の価値と云ふものがわかるのである。故に、あなた方のお書きになつたものの中には、あなた方の人格の血が文字と云ふ血管の中を通うて居るのであります。そこであなた方の書いたものは、人格の反映であると云ふことも言はるゝが、又考へる其の時に、あなたの筋肉の上に何かの働きを起して居るものである故に、書くことと云ふことは、決して空想ではない。故に、私共の生活の真髓は、やはり考へると云ふことにあるのであります。そこで私共の人格を拵へて居る所の要素は、矢張り思考であり、冥想であり、注意力の集中である。思想の統一であると云ふ様に考へることが出来る。又夫れが事実である。併し皆さんが之れを文字に書き現すと云ふことをすれば、皆さんの人格を正確にするのである。Bacon の言ひま

した様に、

Writing makes exact man.

である。併し、之れが私共の人格の全部を表したものであるかと云ふと、そ一は言はれないのである。又、書くことと云ふことを致しませんでも、実際に於ては夫れと同じよ一なことをして居るので有ります。

[人生は無意に繰り返すものにあらず]

夫れは、同じことを毎日繰り返さないと云ふことで、之れが人生である。尚夫れを意識的に、も一一つ自由を進めて行かう、も一つ力を進めて行かうと云ふ為に、人間が物を学び、も一つ深く考へると云ふ働きをするのである。其の考へること、又其の考へる材料を選択する学問と云ふものは、ど一云ふ目的でして居るか申すと、つまり同じ経験をくり返さない、同じ生活をくり返さないと云ふことである。如何となれば、過去の生活、昨日の自分の生活と云ふものに対しては、も一我々は満足しない。仮令それが成功したとしても、最早夫れでは満足が出来ないのである。人間は過去、現在では満足しないのである。故に現在から超越しなければならぬ。現在よりも一層進みたいと考へるものである。そこで理想とか希望とか云ふものが出来る。夫れは現在を超越したものである。そこで、ど一して理想を立てることが出来るかと云ふと、過去の材料を用いて新しい思想を構成するのです。つまり、以前の価値を現して居りました其の型を改善するのである。其の中の自分の経験、及び人の経験、又は書物で読みました所の考へを選択致しまして、そ一して自分の根本要求を満たす所の理想を描くものであります。

根本要求とは、我が儘な要求ではない。道理に適ひ、自分の追求する所の価値の要求に適ふ所のものである。即ち現在よりも一層進んだ所の、即ち将来の価値を要求することで、之れが私共の考へること、又瞑想の働きである。此の瞑想し又深く考へて拵へた所の理想は幾分か以前のものと違つて居る。又人の物とは幾分か違つて居るのである。其の違つたものを生み出だす、之れを私共の創始 Create と云ふのである。[Create したるものは銘々の特色である]

故に、此の Create したものは、銘々の特色に適つたものである。故に必ず一つの特色が有り、自分だけ持つて居つて、人がまねることの出来ない、人が表すことの出来ない価値を持つて居つて、夫れが現れて来るのである。故に其の生活を致します為に自分の行ひに一致し、自分の要求に適ふ所の考へをちゃんと定めて、夫れを書き現すことが大切であります。併し、其の新しい所の考へには古い考へは少しも加へない、人の考へは毛頭採らないと云ふことではない。其の考へは人類の過去の経験、偉人の過去の経験が必ず加はるのであるけれども、必ず其の人、其の人に應ずる所の形式をとるのであります。

[実例]

例へば此の間、私は向上と云ふことを申した。向上とは誰れでも言ふことである。然るに、夫れを或る方は向下的修養とお書きになつた。そ一すると、向上と向下とは大變違ふ様であるけれども、其の人の考へには、向上と云ふ意味がある。

又、此の頃出来た書物の中に、獨立自尊と云ふ本がある。之れは鎌田榮吉君の著書であつて、獨立自尊とは福澤先生の仰つたことであります。夫れと似たよ一な名で、獨立自營と云ふ本、之れは森村翁の著書である。森村翁は福澤先生に私淑して居らるゝ方であるけれども、福澤先生のまねはしないのである。

又、或る人が、犠牲は万物の母と言ふと、或る人が、競争は進歩の父と言はれた。之れ等は皆、其の人其の人の特色であります。

又、偉人の詞をひけば、東洋では孔子さんは、己所不欲勿施於人、と言はれました。西洋で Christ は、己れのせられんと思ふことは、之れを人に施せ、と言はれました。Hegel は、

Be a person and respect the personality of others. と言つて居ります。之れ等は皆詞は違ふけれども、考へは同じことです。けれども孔子さんは消極の所を言ひ、Christ は積極の所を言ひ、而して Hegel は今日の人と云ふことの内容をも少しかへて言つたのであります。

そこで我々がくりかへさない、自分の人格を新に致さうと思ふならば、日々の生活をする時に、先づ思想が變つて行かねばならぬ。毎日幾らか進んで行かねばならぬ。毎日幾らか創始する所がなければならぬ。詞をかへて言へば、人とは少し違つた、人の言つたこととは違つた所の新しいものとならねばならぬ。之れが模倣的生活と創始的生活との違つた所であります。

昔は模倣的生活であつた。先生や、えらいお方やすぐれた人、偉人等のお手本を掲げて、其の通りにまねをするのである。我々の小さい時には画を習ふにしても、先生からお手本を戴いて其の通りに習ふ。甚しきに至つては、しき写しをしたのであるけれども、今日はど一です。始めに先生から筆の持ち方や書き方などを幾分か教へて下さるけれども、銘々自分の考へで書かせるのである。夫れであるから、写生と云ふことがあるのであります。

そこで先づ私共が毎日の生活をする時に、自分の理想を頭の中に Create すると云ふことが必要である。其の創造したものは、過去、現在に超越したものである。故に其の理想を味はひ、其の理想を夢みて始めて、其の人の品性が改まるのである。夫れと同時に現在の欠点、現在の罪と云ふものをもつと深く考へて、若しも今之れを改めなかつたならば國を滅ぼし、自らを破つて、如何なる地獄に陥るかも知れぬと云ふことを頭に描く。之れによつて今日の眠れる心を覚醒し、理想に向つて進まうと云ふ勇気を鼓舞するものである。

[獨逸に留学せる日本学生の生活]

其の例として、私共はいろいろ人の酷評を耳にすることがあります。又、極端なる暗黒世界を想像することがあり、又之れによつて、益々私共の欠点を改善しなければならぬと思ひます。之れは悪い想像を強くする例であります。此の頃獨逸にいつて居ります所の陸軍大佐である人が、獨逸の新聞に、日本から獨逸に行く学生の生活を批評したもの、夫れを訳して私に送られたものがありますから、読んで見ましょ一。

日本人は其の歴史の原始以来、常に外国の事物を同化して自己の用に供したりしも、而かも自から創始的に事物を發達せしめたこと、未だ嘗てあらざるは事実なり。而して彼等には尚、特に人格てふ大事の過半部、麻痺状態に在るの事実あり。されば日本人にして、若し一度此の旧夢を破るを得ば、是に始めて日本に対し、其の精神的盛代の發祥を認むるを得べし。但し、之れが為には彼等は先づ、其の旧夢の覚醒を成さざるべからず。

日本に於ては能く諸般の趣味を解し、研学の道を講ぜるに係らず、其の精神界に至りては、未だ混沌たる状を呈し、全然妖雲の蔽ふ所となり、国家と家庭とを問はず、悉く其の地位の下落を認めざるを得ず。蓋し、妖雲とは何ぞや。他なし、国家と家庭との基礎たるべき各群は、悉く自己の自由意志に基づくことなく編合せられ、又「予」なる個人の能力と特質とを滅却せるを謂ふ。

之れは日本人の欠点を誇大してあるから、我々は之れを自分のこととして深く考へて、自ら省み、自ら戒めることが必要であります。

夫れから御婦人について、未だ議論が決定しないのである。昔から学者、偉人、教育家、識者間に於ても猶、女性に対して感心しなかつたのであります。故に、夫れを誇大したものについて未だ我々にそ一云ふ欠点があるならば、必ず夫れを改めねばなりません。之れはシヨーベンハウエルの論文の中にあることです。

[シヨーベンハウエルの女性観]

シヨーベンハウエルの説は、女子は理性が欠けて居ると云ふ。

[女子は果して低能児の如きものか]

又、他の学者は、女子は考へることと感ずることとの區別が出来ぬ。過去と現在の區別が出来ぬ。つまり自己を客観視することが出来ない。故に人格が出来ぬ。之れを以て女子の特性は、虚榮を愛する云々。之れ等は夫層婦人と云ふものを輕しめた詞であります。斯う言ふと女子は低能児と云ふことになるけれども、そこが考へ物である。孔子さんも、女子与小人養難、と言はれ、貝原益軒先生も女子の五病と云ふよ一なことを言はれ、其の他東洋でも、西洋でも、いろいろ女子に対する批評説がありますけれども、其の多くは自分の母とか、妻とか、娘とか極一部を見ての評であるから、一方に偏して居る所はある。けれども、遺傳的、習俗的に理性とか自信力とか云ふことに欠けて居る所のあるのは、事実である。そこで斯う云ふことは、實際よりも誇大的に考へて反省しなければならぬと思ひます。

夫れで私は先づ、あなた方に自信力と云ふものを以て、自分の価値を認めねばならぬ。そ一して自分から創始して行く力がなければならぬと云ふことを申しました。私は、女子に理性と云ふものが他の感情よりも發達しないと云ふことは、事実があるのであ一。も一つ御婦人には自信力、自動力が展びない。即ち、Individuality個性が展びない。つまり、人間の価値は個性にある。之れがないと奇麗でもなく、尊くもない。自分の価値を知らないで、ど一も私はつまらないと思

ふ。然らざれば、ど一も人が私を尊敬してくれないと思つて、始終ふさいで居る。之れほど恐ろしいものはない。故に、我が国の御婦人には陰気な人が多いのであります。陰気な人は誰れも好まない。

自分がつまらん、つまらんと思ふ人に、昔から、つまるよ一になつた例がない。毎日毎日、自分は役に立たん、立たんと思つて居たら、ほんとに役に立たんよ一になるのであります。之れはど一云ふ訳かと云ふと、昔から遺傳的に抑へつたから展びないのである。夫れは境遇がわるいとか、親がわるいとか、又は夫がわるいとか言ふけれども、そ一ではない。やつぱり自分がつまらない、つまらないと思つて居るからである。中にはうぬぼれる人もある。虚榮心にかかる人もあるけれども、虚榮心の強い人は、決して人の人格を輕蔑するものではありません。故に、私は自分で自分を尊敬する、自分は確に価値のあるものである、自分は役に立つものである、自分が居なければ社会は成り立たない、自分は誠に尊い価値を与へられて居るものである、と云ふ信仰が出来ませんと、今の自動的、自發的に繰り返しをしない進歩的の生活、詞をかへて言へば、希望あり、幸福あり、活気ある所の生活をして行くことは出来ないと言ふこと、之れは疑ひのないことであります。つまり私は今、あなた方に人格の修養と云ふことを申すと共に、其の弊害の本となるものをなくせねばならぬ。夫れをするには、ど一しても積極的方法によらねばならないのである。夫れで私は長い間、疑問として居りましたが、あなた方のお書きになつたものを見ると、中々奇抜なものがある。力あるものがある。故に大層満足に思ひますが、又、之れについても申したいことがいろいろあるけれども、今日は時間が無いから申しません。

[臆病心を去り、自己の価値を認めよ]

私は長い間、御婦人の教育をして居りますが、御婦人の欠点は躊躇である。臆病である。そ一して、することも兎戯に類し易い。此の欠点の原因は皆一つであつて、自分の価値を認めないからである。其の臆病な結果は人生の荒波を渡るのに、大胆に太平洋のよ一な大海原を渡ろ一とはせず、成るべく近海を渡つて内海を行かうとする。嵐が起つても、難船をしても陸が近いから、誰れかがど一かしてくれるであろ一と云ふよ一な考へである。けれども、考へて御覽なさい。難船と云ふことは何時でも内海に多い。颶風と云ふことは海岸に於て、しばしば起るものであります。之れは譬へでありまして、皆さんが一義の生活に入つたならば、之れ程安全なことではない。けれども此に気づかずして、二義の生活ばかり心配して居るけれども、一義の生活に入るならば、二義のことは自然出来て来るのであります。然るに夫れをしないのは、臆病であるからであります。男子ならば、決心すれば背水の陣を張つて、一身を賭して深く入るのです。此の根本まで入る、永久の生命に入る、宇宙の大海に入る。其の決心のつかないことが何時も皆さんを苦しめて居る。又、多くの学者、多くの偉人をして女子を子供のよ一に思ひ、低能児のよ一に考へるに至らせた訳であると思ふ。故に、充分なる忍耐と決心とを以てお進みなさるならば、真に根本要求を満足させること

が出来ること云ふことを、私はかたく信ずるのであります。夫れで真に勇氣を出して、今の大海に乗り出すと云ふ心持ちを以て、永久にお進みになることを、私はあなた方に対して深く希望致すのであります。

[中表紙]

大学部第二、三年の御話
明治四十五年三月二十日

明治四十五年三月二十日
大学部二、三年の為に

此の間、御出しになりましたものを、昨夜から興味を以て一々見ましたが、之れについて批評を一寸申すことがあります。講義の進むにつれて致すことにします。併し根本生活が内から動き始めて参りました。其の萌芽、蕾が少し春の境遇にあふ様になつて来たことを感ぜられるのは、近来にない、愉快に思はれる所である。

此の前、結論に迄行かなかつたが、今日は其の次をつづけるに、時もいり、又時も違ひますから、今日は今日のあなたの要求に応じて講義をしたいと思ひます。

[根本生活の要素]

つまり根本生活が動揺して来たと申しましたが、其の生活とは何か、動揺とは何か、何処迄行かなかれば満足が出来ないかを、明らかにすることが必要である。

根本生活の要素をわけて三つとする。併し、三つは決して相離れるものではない。

- | | |
|----------|------------------|
| 第一 個人的価値 | Individual value |
| 第二 社会的性格 | Social character |
| 第三 神聖性格 | Divine nature |

前にも斯様にわけました。個性の価値を培養して、次には社会的性格、即ち Friendship から始めて行つてあらはれる性格で、第三に進んだのが神聖、或は神人と云ふので、もう一層深くなつて来るのである。

其の性があらはれたのを天才と言ひ、又は実力と言ひ、人格、品性と言ふので、其の価値を増進する、蓄積する、培養すると云ふのが修養の目的となるのである。

其の修養をして行くに、此の三つの Element があるが、いつも離れないは Self-value である。どれが進むにしても、自分の価値、自分の力、自分の精神が伸びなくては、力が増さなくては、他の目的は達せられないのである。離る可からぬものである。

そこで修養を志すものは、第一に我が徳を養ひ、我が力を伸ばし、我が内容を充実させよとつとめるのである。即ち我が人格を深くするのである。つまり経験を深くするのである。一度経験したことは、いつ迄も磨滅しないのである。

[真の自由が修養の目的である]

其の人格を強く、深く、広く、複雑、完全にしようとする

が皆の根本要求である。これが出来なければ、満足が出来ないのである。人間は、自分の根本要求を充たさうと云ふのが一生の願ひである。其の要求が充たされることが、即ち人間の自由、或は意志の自由で、それが出来ないと圧迫、束縛を脱することが出来ないのである。人間を救ふとは、其の束縛から救ふことである。そこが修養の大眼目である。

[修養は調和、統一である]

其の修養の道は東西共、同じである。併し東洋にてはど一云ふ道をとりましたかと申すと、東洋式に言ひ表すならば、此の間、印度の哲学、仏教の真髓となつて居る Yoga である。あなた方の Book の上に門を書きましたが、あれも Yoga で、集注、調和、統一である。精神と肉体、個人性と社会性の調和、社会性と宇宙との調和、共同が出来て、精力集注が出来る。それが Yoga で、修養はすべて調和、統一をはかるのである。無限の調和、無限の発展は之れによつて得られるのである。

其の Yoga に行く第一の方法は Karma で、之れは因果律である。因果律で修養するのが行ひで、行ひが根本修養である。行ひをする目的は、Nirvana 涅槃の境涯に入るのである。斯う言ふと、仏教は自然性にそむく宗教と速断する人がある。之れは、ほんとの修養をしない人の誤解からくるのである。目的は禁欲ではない。根本要求を充たす為に、最大目的、究極目的に行く為に妨げになる矛盾をのぞくと云ふことにあるのである。平たく言へば、我々の身体にある。即ち、我々を下落せしむる傾きに勝つ。個々の断片的欲望を制して、凡ての力を統一する所の働きにすぎないのである。

[自我制御の修養法 1. 身体を制すること 2. 世界を制すること]

其の行ひと云ふものには、根絶又は迫害と云ふ字がある。併し迫害、根絶は人間の要求を絶やすと云ふ意ではないけれども、兎も角、其の修養法に従ふと、自我を制することが出来なければならぬ。

第一に、身体の欲を制し、身体の主となつて、欲のとりこにならない修養が大切である。

第二には、世界を制する、万有を制すると云ふ様に、つまり自分の意志の力で境遇を Control するので、其の支配力を強くするのが修養の一着である。

Self-control をすることが自我を強く、深くし、自我の価値を増進することになるのである。それで先づ、修養につとむる者は第一着に身体を制し、其の力で病気を駆逐するのである。水にも火にも恐れず、我が意志で支配すると云ふことが目的になるのである。之れは埃及の宗教、印度の秘密教、我国の真言秘密など云つて伝はつて居る所で、決して空論でなく、支配力はあるのである。只、どれだけ発達するかと云ふ程度の問題である。

我が身体に大切なものは、呼吸、血液循環、心臓の働きであるが、それは皆、不随意筋の働きで、呼吸も循環も意識しないでするのである。それは寝ても働くので、呼吸の如き、一分間に大抵、十四乃至十六回するが、少し病氣すると、二十六、三十、又は数十となるのである。併し之れを Control することが出来る人には、大抵、十七のものを二度にするこ

とが出来、又は三十秒の間、息を止めることも出来る。現に私でも五十秒は出来る。一分間に一度しかしないように支配することも出来るのである。

心理学によると、心臓の働きも意志の力で支配することが出来る。間接には呼吸、循環、神経の働きをも Control することが出来、なほ夫れ以上凡ての働きを止め、新陳代謝を止め、熱を去つて五、六日間、其の状態を続けることが出来る。それは或る病気の結果、其の現象が度々あつた。之れは全く意志の力である。

印度のある行者を試みて、其の間、英国政府は番兵をつけて看守らせてあつたが、四十日間、土中に生き埋めにして、水も食も衣服も与へず、空気も不十分に、四十日後、掘り出したが、まだ生きて居つたと云ふことです。必要な身体的作用を意志の力で支配する。之れは不思議、秘密の力である。之れが肉体を意志で支配するのである。之れが自然をどれだけ支配するかは、ずい分歴史に残つて居て、クリスト教では奇跡と言つて居る中には、多く事実もある。

期する処、身体を意志の力で支配することが出来るのである。夫れから之れは只、身体とか自然であるけれども、人間にはも一つ偉大な力を持つことが出来る。それは精神界を支配するのである。それを Social control と云ふ。君子が一國を起して支配し、偉人が世界を支配するは、偉大なる力である。Alexander, Napoleon の如きは、偉大なる Control power があるのである。大なる軍隊を支配し、世界を統御する偉大なる力を持つて居たのである。即ち、人間の神秘的力を統御する力がある。之れは預言し、又は自然の美、自然の妙を描き出して、此の人心を感動せしむる偉大なる力を発揮するので、之れを称して偉人、又は Genius と言ふのである。

[実力の修養は意志の貫徹にある]

我々の修養は、Social spiritual control power、精力で内を養ふことが目的である。

つまり自我実現、実力修養と云ひ、個性の発揮と云ふことは Self-control で、自己修養はかくの如き無限の力を中に養ふ。かくの如き精力を修得することが出来るを以て、其の目的を達して病気を癒し、健康を増進し、社会国家を支配し、人心を風靡する。我が意志を貫徹する、一貫する所にあるが、それでは不満足である。我が力が増しても、幾ら我が内なる力が充実しても、意の如くならざるものないと言ふ精力を有しても、人間は満足が出来ない。根本要求を充たすには不足なのである。然らば、ど一云ふ為に必要かと云ふに、社会的性格をあらはすが為に、其の必要がある。即ち愛を実現しなければ、決して満足がないのである。

Paul は、我れ等、法言、預言を言ふ力があつても、若し我れに愛なくば、何の益あらんや。其の法言も、其の能弁も、其の人を感動する詩も歌も、なるかねや、ひびく乳鉢と同じことである。我々は如何に力があり、預言する力があり、社会を統御する力があつても、動機が只、我が力と云ふのみであつたら、ほんとの満足を得ることが出来ない。

[社会的性格の必要]

学問、芸術、作法、料理が出来ても、我れに其の愛、社会性

格なくば、社会的根本要求を充たすことなくば、眞の価値を感じることが出来ないのである。

[社会的性格の修養に二方面ある 1. 個人の価値を認め 2. 他人の価値を認むるのである]

そこで私共の修養の目的は、自己の価値増進と、社会的性格の充実と、此の二方面が備はらなければ、到底其の目的に達することが出来ないのである。然らば、個人の価値を増進するとは、ど一云ふ働きによるか、又社会性格を養ふと云ふことは、ど一云ふことになるかと云ふに、之れは一つにして二方面である。

つまり第一に、私共は個人の価値を認めなければならぬ。第二には、他及び人と云ふことの価値を見出さなければならぬ。此の我が価値を認める、自覚と云ふことは、他の価値を見出だすことによつて出来、又我が価値は他のものの価値を現すことによつて増進するものである。価値とは満足の経験、真善美、或は幸福、愛、愉快等、凡て満足の経験が我が人格を深めて行くのである。

第一、此の価値は何によつて之れを発現することが出来るかと云ふと、我々の五官によつてである。目で見るもの、耳で聴くもの、口で味はひ、手で触れ、或は嗅ぐもの、之れである。つまり五官はど一云ふことで出来たかと云ふに、万物の性質、意味、即ち価値、即ち我々の価値を加へる力を持つて居るのである。

万物は形であり、色であり、味ひである。之れをもの性と云ひ、夫れが Value である。其の性が五官によつてあらはれ、我れと物とが融合して、物と我れとが相、感応し合つて、そこで始めて人間の経験が生れるのである。之れは万有と交際するのである。之れは Social nature を育てるのである。

我々の研究の原理、応用は悉く此の価値を見出だし、此の価値を自分の価値に結び付けるので、之れが即ち万物と我々との関係である。

夫れと同様に、此の人間、人の人格は何か。人の性、Attribute それが価値で、夫れを見出だすことが友垣を結ぶ。其の人格と我が人格との関係を結びつけるので、それが人の人格を尊び、我が人格の価値を進めるのである。

[価値の経験は愛である]

其処に愛と云ふ深い満足を感じず。此の経験が自分の価値を強めるのである。我が Value を深くする働きである。価値を深くすることは、他の人格を尊敬することによるのである。故に、個人的価値を増すことと、社会的性格を強くすることとは同時に出来るのである。同一にして二方面あることを忘れてはならぬ。

一言で言へば、私共の修養の根本は、我が人格的価値を認め敬ひ、人の価値を認め敬ふ。之れである。夫れで、先づ根本性格が発現したと云ふことは、自覚が出来たと云ふことである。

之れが、私共のほんとの満足を得、眞に自分の中に深い財源を見出だしたことになるのである。之れは私共の先輩であり、師である偉大なる人格の経験を考へるとわかる。先づ Christ、釋迦等が先づ自覚されたと云ふことは、Individual

worth を見たことである。

Christ 曰く、我れは道なり、我れは誠なり、我れは生命なり、と。人間が求めて居た根本要求としてさがしたものは、我れである。Christ の力はそれである。又、釋尊を唯我獨尊と申しますが、我れは世の光りであり、我れは道であり、我れは生命である、と言ふのと同じである。

我が価値を知るのは、我れの中に神性があると云ふことを見出すのである。Christ は、我れは神の子なり、と言はれた。我々も皆神の子である。つまり、自分は此の宇宙の精神の一部である。宇宙の神聖と同じものが根本性格であることがほんとにわかると云ふことである。それを度々詞で言ふが、詞でなく之れが自分の性格となつて、経験となつてあらはれねば、満足が出来ないのである。今私が、個人的性格は第一着に五官にあると言ひました。自然の価値を見出すと云ふことによつて自我を見出すと言ひました。次に Social nature は、我が Personality と The personality の合した愛が満足されなければ、人間が満足されぬと言つた。

[人生は要求である]

なほ、人には根本の要求がある。人生は要求である。理性があつて、之れが何を要求するかと云ふに、Divine nature である。Divine nature があるから、其の対象物、即ち宇宙内の精神、神と融合したいと云ふ要求、其の感覚、直覚があるのである。自分で万物を知らうとする如く、我々は根本要求と云ふ情があつて、宇宙の真髄に触れ、真髄と一致すると云ふことの要求があるのである。其の要求を充たして、五性の目が開いて初めて真の我が価値を見出す。それは価値である、神である、生命である、道である、光りであることがわかるのである。

宇宙の神は我が内にあり、我が性の根本である。我れは其の一部、其の子供である。其の真髄と同じものであると云ふことを、ほんとに見出すと云ふことが、個人的価値を見出すことになるのである。其の価値を見出し、発現することが修養の第一着である。

第二には、人の価値を見出して、其の人の人格を尊敬する。真に人の値ひを喜ぶことにある。何故ならば、我れに神性のある如く、我が兄弟、我が友、我が人類に区別なく、凡てに神性がある。皆ひとしく神の子である。

誰れにも、一つの神聖なる真善美があると云ふ。人の価値を認め、現すと云ふことが、釋尊の無差別である。印度のよ一な階級制度の甚しい所で、人は同じである。貧賤の別なく人には Divine なる尊い人格あるものである、と言はれた。Christ は、一人の魂は全世界にかへられない。小なりとも我が同胞、我が友である、と言はれた。之れはとかく言ひ易く、自分は偉いと思ふが、人はつまらぬもの、信ずることの出来ないものと思つて居る。之れがも一つ私共の修養の足りない所である。

此の間、森村さんの葬式の時、青山に来て居た女の人が会葬者に向つて演説したが、わからない人には、女子大学の生徒は堂々とあんな所で演説したと言つた。あれは宮崎寅之助と云ふ自称預言者の妻である。一昨日、夫婦で訪問されたが、

面会しなかつた。けれど、一小冊子を置いて行つた。中には、自ら第二十世紀の覚醒者、預言者と言つて居る。

此の人は自覚したに違ひない。自分の中に道あり、光りあることを自覚したことは真である一けれど、此の中には金もあり石もあつて、未だ精選しない。我れと云ふものが取れないのである。

自分が大預言者であると思つて居るが、他の国にもある。此の人だけの黙示を受けた人はないではない。それを我れだけの値を知つて、人にも光りあり、命あり、自覚したことを此の人は見ないのである。私が偉いと思つて居る宮崎氏にも金があるが、未だ我が取れない様であるから、も一つ忠告したいと思ふ。其の中にも金があると云ふことを見なければならぬ。

我々は、Christ、釋尊の如く自覚したものでない。まだ磨き足りないのである。磨けば光りがあるのである。夫れ故、修養によつて高尚なる光り、生命を発揮しなければならぬと同時に、他の人にも神の心を持つもの、同じく神の子と云ふことを私共は忘れてはならぬ。之れが、わかつて居て出来難いことである。

[我々は常に価値を敬ひ愛して、之れを発揮しなければならぬ]

我々は社会的性格を満足し、個人の人格を発揮しよ一とならば、人の価値を発揮し見出すのである。愛するのであるが、愛と云ふと偏し易いのであるから、愛する前に人の価値を尊敬し、よい所があると信じたいものである。それから其の値ひを見出し、金を掘るには、出る迄掘るのである。人と交はるにも、値の光りの出る迄、其の人と交はり、其の人の不完全を寛大にして許す。人の欠点を忘れる。覚ゆること、目的とすることは、ど一ぞ人の長所と短所とが交換され、高尚なる関係が結ばれ、長所を団体の中に織り込まれる様に。人の人格を尊ぶ心で真に其の人の値を見出し、よい所を感じ、覚ゆることに於て、人を Appreciate する。之れが私共の社会的性格を養ふに大切な修養で、自分の人格を発揮する修養である。

なほ内容を充実する修養は沢山あるが、時がないから省きます。

[根本要求を満足させるものは精神的同盟である]

第三、根本要求。根本性格の覚醒がなければ、満足が出来ないのである。只社会的性格のみで、も一つ深い永久な根本要求が満足され、Divine nature が発揮されなければ、其の満足を得ることは出来ない。之れを一言にて言へば、Spiritual union 精神的同盟が実現された空気を、Ecstasy 人生の高調と言ふ。其の精神的同盟、精神的融合から出来た一種の空気が発生して、真の関係が味ははれる迄に行かなければならぬ。之れは最も複雑な、最も深く、最も完全なる Unity である。総ての力の融合された所のもので、内容のあるもので、神と我が個性との合体で融合である。之れはつまり、関係の完全なものから出来たものである。之れが即ち宗教の真髄、社会的関係の精神である。之れが人間の根本要求の実現である。それで此の第九回生の卒業式、及び譲り渡し

の会、十回生の三年のあとをおつぎになる関係、桜楓会に入会なさる其の決心、四月の大会に於ける機会に於て、此の Spiritual union の関係が最も完全に来まして、之れを妨げる低い我れ、我欲を精選して自分に深い値を実現し、人の人格を尊敬する空気を養ひ、こゝに全体から出来す所の凡ての個人的価値、千差万別ある人格が一つになされて、其の人格の発現は、全体の関係により関係の融合した空気を云ふのである。それは自分の価値、及び団体の空気を表すにも、社会の改善、国家の進運をはかるにも、之れがなくては目のないものになつて、ほんとの命を発生することは出来ないのである。其の要求を満足し、も一つの全体の目的を充分に自覚することの出来ることを望むのである。十年間養つた花が、しまひには満足の花を開くよ一に致したいと切に希望するのである。

も一つは、其の関係が学校に止まらず、家庭、社会、学校に於て生涯発展し、到る処凡ての隅々迄、空気が拡がるのみならず、我が日本に於て精神的融合が我々の間、及び有志者の間に反応して起るのみならず、世界的、人類的に及ぶと云ふことを、皆さんに深く思うてもらひたいのである。

私は此度、世界を回ると云ふことの中に、精神的同盟は宇内的のものである、之れを妨げた宗派、偏見は、大に力をすぼめて、こゝに世界的の深い関係が発生しよとする氣運に到達して居ることを感ずるのである。否、其の要求、興味が我が精神界を動かして居るのである。それ故、皆さんも根本要求の興味を皆で考へてもらひたいのである。約言すれば、社会的性格の要求で、その中には社会的知識も其の一要素である。然るに我が婦人は学校で、寮舎や家にあつて、社会との交通が遮断されて居るから、社会の要求を充たすことが出来ない。婦人の性格が、深く完全にならないと云ふ人がある。之れは確に一理あるのである。併しあなた方がその芝居を見、旅行をし、事業にあづかなければ、社会的知識が得られるものでない。世界を幾度か回り、実業界に生涯泳いだ人にして、社会を知らない人もある。社会に出たことのない Kant の如くにして、社会や哲理、人生、美を知る人もあるのである。それで私共は、家にあつて社会、実業界に出ないからではない。要は社会的興味、社会的同情、真に人を敬ひ、真に国家、世界、人類は何処迄行かなければならぬかが、神が思ふ様に自分のことのように思うて氣にかゝり、我が日本のことが始終心にかゝる。同情を持つて居る。精神が此の興味をもつ。所謂広い愛情、博愛、広い要求が私共にあると云ふことでなければ、社会はわからないのである。将来を見る先見が開けないのである。私は皆さんの卒業前に勤めるに、根本要求に興味を持つて、三つの要素を現すことを忘れずして、根本生活に興味を持つことが出来るならば、他の苦痛はすぐに救はれると思ふ。故に、其の精神的結合の高調に達した宗教的 Ecstasy、空気があらはれ、音楽を奏でて、真に私共の要求を満足する空気を實現せられんことを望むのである。残る日を以て、我が内に真の集注が出来、精神的集注が出来よ一にしたいと望むのであります。

〔中表紙〕
大学部一年の御話
明治四十五年三月二十五日

明治四十五年三月二十五日
大学部一年の為に

前回お出しになつたものは、大体は銘々自分の考への部分がふえて居ると云ふことが感ぜられる。従つて、一週間に少しの進みがわかる。英語ばかりを以てすることは、時に六けしいと思ふ。之れは、無理に之ればかりですと云ふ様になつて、修養のためにすると云ふことが忘れられてはならぬと思ふからである。

英語や文法の誤り、又日本字の誤りもあるから、氣をつけねばならぬ。ですから、充分であるか否かを二、三度も見て、其の上わからぬ時は先輩にきく様になさつたがよい。出来るだけ英語で書くのもよいが、正すことをしなくてはならぬ。
〔進級の決心〕

今日は全体がお寄りになる最後の日であるから、あなた方の修養の結論をあらはすべき日である。故に、その為に時をとるつもりである。予科から一名づつ進級の決心を述べられたい。一年は代表者から話される様に致したい。

(生徒の発表を省く)

大体は、御報告によつて現状がわかりました。先づ、学年の終りまでに最も苦心なされた結果として、銘々の態度、級としての態度がまじめになつたと云ふことを認められる。それから學問と云ふことも、ど一も形式に流れ、記憶に偏して、銘々の経験となり、実感となり、ほんとの一の実力になると云ふ様な勉強の仕方が、むつかしかつたと云ふことであつた。又、だんだん進んで来たと云ふ報告もあつた。思想の方も、根本問題に入るよ一にお進みになつた。又、其の精神生活を銘々で少し宛、味はう様におなりになつたと云ふ報告もありました。それからも一つ、あなた方に骨が折れたことは、団体生活を有効にすることが出来なかつた。併し、漸次、満足に向う様であると云ふ様に感じておいでになる様である。私はも少し、今日はしまひの日であるから疑問の点をも一つ明かにし、今の報告で内容のわかりかねる点も伺ひ、其の實力、修養、研究を、も一つ熱心に進めて行く確信をおもちになる様に進めたいと希望する。併し四時十分前であるから、凡そ二十分の間に少しくお話する様に致したい。

〔實力の要素〕

今、しまひの御報告の中に、實力も大分出来たかの様に思ふと云ふことがあつた。私かも一つ皆さんにたづねたいことは、之れである。實力があなた方の力に相当に延びたか、又之れを養ふことに於て満足せらるゝか、又感ずるには、果して出来たか否かををはかることが必要である。はかるに就いては、實力が何であるかを定めておかねばならぬ。

(1) 実行力

實力と云ふならば、誰れでも異存がないのは実行力である。

之れには意味が二様ある。一つは道徳的行為で、力とは徳力である。其の徳力とは即ち、良心の自由である。之れは実力が出来たならば、自然に出来る。

第二の意味は、働き。労働、構成の働きである。音楽、美術の力が進んだ、芸術の堪能が大に出来て来たと言ふことを申すのである。之れを実行、又は実力と申すのである。

(2) 著作力

又、あなた方の実力と云ふことは、構成、或は著作と云ふことである。之れは、あなた方がおかきになった力である。論文が思ふ様にかかる。文章をかく力が進んだ。之れが進んだならば、其の文章を見、答案を見て、あなたの実力が出来たかど一かを知る標準になる。

(3) 思考力

次には、思考力が出来たかど一か。これは想像力もある、推理力もある。この力が進んだかど一かと云ふことが問題である。

(4) 判断力

次には、判断力、或は良心、或は趣味であつて、判断力は真偽を定める力、良心は善悪を定める力、趣味は美醜を定める力である。

(5) 情緒、情操の力

次に情緒、情操を云ふ。情緒は愛憎、感情の深さ、強弱と云ふことが、其の実力の一要素となる。

(6) 靈知力

次に靈知。之れは宇宙観とも云ふ。所謂全体を見る力。之れは、一層深い精神の力を云ふ。

なほ、之れを幾つの階段にも分けられるが、之れを一つに纏めて、人間の力、実力と云ふのである。

そこで我々の実力の要素は、かくの如く種々様々ある。なほ、この他に記憶力、本能、又性格の力もはいつて居る。併し、こゝには一々挙げることは出来ぬから、先づ実力と云つてまとめておくのである。

[実力をはかる二方面]

実力とはど一云ふものであるか。之れをはかるに、二方面がある。第一は品質、第二は分量である。即ち、品質の高下、分量の多寡を云ふのである。

[品質と分量]

先づ、品がよい、わるいと云ふことが実力に関係をもつて居る。そこで要素の品質を上述べましたが、一番高尚な実力とは靈知でありまして、一の要素まで次第を追うて低くなるのであります。

これは価値から言ふのと、根本から言ふのとあるから、もつと私共の人生々活の根本はどこにあるかを考へなければならぬ。

今日は、教育は実行、実行と言ふ。縫物が出来ぬ、洗濯が出来ぬと言ふ。もとより本がなければ出来ぬが、筋肉の習慣さへつけければ、女の仕事はよしとして居るものがある。又、実行は、訓練はきまつた形にならさへすればよいと。故に、沢山の形式、儀式がある。觀念が筋肉に影響することは勿論であるが、之れがよつて来る原因がある。そ一云ふ行ひが出

来る根本がある。私は之れを言ふのである。夫れで実力と云ふと、我が国では三年間習つて出来あがつた答案が書けたことのみを言ふ。之れももとより要素には違ひないが、之れを以て実力の全部と思ふのは、まちがひである。そこで私は実力の要素を分けると、凡そ上の順序で実力の価値を、即ち品質を定めるのである。

[諸子は第二階段の程度にあり]

先づ、実力の有無は高等なる実力が出来るかど一かと云ふことである。そこで私は其の能力の実行がどの程度に出来て居りますかをはかるに、あなた方の近頃お書きになったものを参考として見るならば、第二のもの、即ち情緒、情操の程度に属すると思ふ。

あなた方の Note には、之れを今日の生活にしよとした構成の働きと、書かうと云ふ動機が之れにあらはれて居る。あなたの命は今日一日に出来たものではない。一時間で書いたのではない。之れに私が重きを置くのは、其の書いた文字があらはして居るあなたの精神、あなたの活動によるからである。これは思考力、感情、或は靈知と云ふ力、少くも思考力と云ふことが Essence である。私があなた方にも一つ深く聞いて見たいことは、之れをおかきになった経験、着眼点であります。之れにより、あなたの実力を見る事が出来る。そこで之れを聞きたいと思つたが、時が来たから、尚そ一云ふ問題につき、銘々お考へになる様に致し度い。

[中表紙]

大学部二、三年の御話
明治四十五年三月二十七日

明治四十五年三月二十七日
大学部二、三年の為に

今日は、三年生と此に会することは、例会の日が残つて居りますけれども、実践倫理としては之れが最終の日であります。夫れから、二年生が其の後に残つて、ど一云ふ風にお引き受けなさるかと思ふ覚悟をおきめになることも、今日なさらねばなりません。そこで私はお喜びやら、歓迎やら、いろいろの事を申したいけれども、到底時がゆるしませぬから、只、其の要点、即ちあなた方が困難をお感じになるであろうと思ふこと、そこにあなた方が気づいて集中なさることが必要であると思ふことだけを申しませよ。

[今後の集中点に就きて]

今、三年生から御報告になつたよ一に、此の三年生の一歩終りの学年におきまして、精神生活が出来よ一に修養しよ一、根本生活の本を卒業までに作つておかうと云ふことをお考へになつて、三年生過半は夏期寮に集まり、過半は個人的に余程集中なさつて、皆さんが満足と云ふ程に至らんまでも、大に得る所がおありなさつた。そこで、我々指導の任に当る者までも、非常に愉快に感じました。そ一して今仰つた様

に、創始的と云ふことが出来なかつたと云ふ考へで、新機軸を出すことが出来なかつたと云ふ様な詞をお使ひになりましたけれども、精神的な生活と云ふものは、毎日毎日、創始せねば出来ぬことであるから、まるで出来なかつたと云ふ訳ではありません。併し今、三年生とお別れをするに当って、少し問題になり、又心配をしなければならぬよなことが残つて居るであらう。夫れは、只今まで十二年間、皆が感ずることであつて、決して杞憂ではない。其の予告が、随分事実となつて現れるよなことがある。今度は、前の十年は終つて第二世紀に入らうと云ふ所である。其の二世紀の卒業生としてお出になるには、此の十年間、曾て出来なかつた所までも出来るよになつたと云ふ所まで達したいと、私共も考へるのである。然らば、夫れは何が我々に最も大切なものであらか。何が困難であつて、其の爲に達せられないかと云ふことは皆さんお考へになるであります。今、三年生からも是非、校風を充実しようと思ふことに勉めたと云ふお話であるけれども、ど一も思ふ所まで達せられなかつたと云ふよ一にも聞えるのであります。けれども、私は一寸お尋ねしたいのは、其の内容である。何が困難であつたか、何が出来なかつたのであるか。又二年生があとをおつぎになる上に、何が一番あなた方の爲に六かしいのであるか。内容はいろいろあるが、其の中で一番六かしいことの本となるものは何であらうか。又あなた方の最も大切なことと思つて、全力を注いで達しようと思ふことの要素は、何であると感じておいでになるであらうか。夫れをお尋ねしたいのであります。

・三年 大我になりきれないこと。

努力の足らぬこと。

愛の極致に達せられぬこと。

精神的な生活に入らうとしても、小さいことに捕はれて妨げらるゝこと。

[過去の生活はWholeとなる所に苦痛ありき]

あなた方の仰しやつた詞はいろいろ違ふけれども、歸する処は一である。つまり全体と云ふことと一致しにくい。つまり、あなたの生活がWholeとならぬ。要求にはいろいろあつて、自分の爲に求むることもあれば、人の爲に求むることもある。けれども、今の忘我と云ふこと、犠牲と云ふこと、小我を捨てると云ふことは、偏つた宗教のよ一に禁欲主義になることではない。此の間も申しましたよ一に、昔から偉人なり、哲学者なりが婦人に対して物足りない処の感じを持ったのは、兎角、婦人と云ふものは全体が見えぬ、理性の働きが鈍い。夫れ故に、見識と云ふものも甚だ狭くなり易いことをさしたのである。故に、今仰しやつたよ一なことも確に六かしいと思ふ点であらうと考へるのであります。然らば、其の六かしいことを慰するに、倫理、宗教、哲学と云ふことが必要である。故に、此校の教育も夫れを慰するに、そ一云ふ方針をとつて居ります。そこで宗教と云つても、比較宗教である。総ての宗教の真髓をとつて研究して居るのであります。故に、皆さんも其の研究を積んでおいでになるならば、必ず其の苦しみ、物足りない感じをなくすることが出来るでありますよ一。

其の哲学のわかること、其の考へを進めると云ふことは皆、望んで努めて居るのに、未だど一も満足が出来ぬ、思ふ様に其の哲学がわからない、ど一も進まれぬと云ふのはどんな原因であらうか。私はも一一つ、其処に本があると考へます。あなた方の生活に於て、あなたの境遇に於て、誠に六かしいものであるけれども、夫れが根本であります。夫れについて考へのある人は言つて御覧なさい。

今、三年の中から斯う云ふことが出ました。創始的に、学校の校風の上に何か新機軸を出したいと考へまして、正直と云ふこと、心に思ふ通りを人によくわからず様に発表したいと思つて、正直と云ふことは出来たと云ふお話である。此の、うそを言はない、正直にすると云ふことは中々六かしいことであるけれども、夫れもあなた方にそ一六かしいことではないと思ひます。夫れでは、ど一云ふことであらうか。

是れが、余程六かしいことである。正直にあれ、人の悪しきを思ふな、両舌をつかうてはならぬ、朝起きをせよ、そ一して水浴をせよ、成る可く粗食に甘んぜよと、斯う云ふ風に教へて習慣を養はせて、あなた方を出すのはやさしいことである。夫れであなた方の頭が、譬へば愛と云ふことに動いて居る。愛と云ふことさへあれば、も一何もいらぬ。人も喜んでくれるし、自分も愉快である。之れが人生の価値であると思つて習慣をつける。けれども、夫れだけでは行かなくなつて来る。朝起きる位、水浴をする位なことは、私共にとつては何でもないことである。併し、夫れでは力はつかないのである。人生の高潮には達せられないのであります。そこで私は、あなた方がど一しても之れを解しなければ、其所には達せられないと思ふ。

[人格は刻々変化して行かなければならぬ]

価値と云ふことは、一つは永続である。故に、私共は變ると云ふことを非常に嫌つて、あの人はChangeableな人である。今はよいけれども、何時、裏切りをするかも知れない。故に、私共は友達として甚だ不安心であると云ふこともある。そこで、何も彼も變らないがよいと思ふならば、大變な間違ひであります。友達としての愛、目的が一つであると云ふことは變らないのであるけれども、其の人の昨日の人格が少しも變らぬと云ふことでは、面白くない。永続と云ふことに一つの価値はあるけれども、私共の人生、宇宙の内容と云ふものは、深く研究して行くと云ふと、變ることが常態である。故に、あなた方が正直と云ふことは出来たけれども、新機軸を出すことが出来なかつた、創始的の事が出来なかつたと云ふことは、善く變ることが出来なかつたと云ふ意味になる。卒業生が思ふ様に進まないと思ふことは、限りなく進歩が出来ぬと云ふことであります。故に、習慣をつくと云ふことも必要であるけれども、其の習慣を破ると云ふと語弊があるけれども、新しい習慣をつくる、即ち、捕はれないで自分の境遇、自分の人格を變へる、発達すると云ふことが一番六かしいと思ふ。之れが出来なければ、ど一しても満足は得られないのである。そこで大我と云ふWholeは、総ての複雑なる要素の関係である。其の関係とは何であるか。此の中の要素は実に千差万別であるが、其の間の変化の関係である。之れは近世

の大発明で、ダーウインの所謂、進化であります。

そこで大我と云ふのは、地藏様のように、大仏様のように大きな身体が出来たと云ふことではなく、非常に大きな関係に生きることであります。つまり自覚の時に、自分と云ふものは非常な変化であると云ふことを、第一にお考へなさらねばならぬ。今のあなたの感じを何時迄も持つて居ることは出来ない。あなたの愛と云ふものは何時迄も変らぬものではない。直ぐ変るのである。変らないと思ふと、も一固定するのであるから、Broken するのであります。我々の人生と云ふものは、実に変るものである。故に、あなたの生涯変らない為には、此の主義が終始一貫する為には、あなたの生活が始終、変らねばなりません。

【夢について】

然らば、之れを説くにはど一すればよいかと云ふと、私は夢を以てしよ一と思ふ。私は度々夢を見ます。そ一して面白い夢を見ることが出来るのです。此の夢によつて変ると云ふことが思はれる。私共の意識と云ふものは四圍の境遇に支配せらるゝもので、いろいろな伝説があり、迷信があり、偏見があつて、いろいろな刺激を受けて居るのであります。

然るに夢と云ふものは、其の四圍の支配から離れて、自由自在に意識以下の Consciousness が現れて来るのである。Consciousness は私共の意識以下の大きな海である。故に、之れは意識界に直ぐ様現れない処の微妙なる震動迄も、潜在意識には感ずるのである。故に総ての意識界の要素と云ふもの、宇宙界の震動と云ふものが、時々頭を出すのである。そこで、宇宙間の現象を夢によつて覗き見ることが出来るのであります。

ところが、其の夢の現象はど一してあるか。私は一昨晚の夢で、非常に私の為になる Vision を見ました。夫れを繰り返し見ましたので、起きて晝かうかとも思ひましたが、大丈夫であると思つて其の儘に致しました。さて、昨朝起きて考へても、ど一しても其の事が意識界に上つて来ないのであります。

【夢は時間、空間を超越して居る】

夢と云ふものは、時間と空間と云ふものを超越するのであるから、私共は夢によつて天の使にもなることが出来る。故に、昔から宗教の黙示と云ふよ一なものの中には、夢 Vision から出たものが沢山あります。此の間私は一年に、Create と云ふことを申しました。私共は毎日毎日創始して、決して繰り返すことをしないと申しましたが、其の Create と云ふことは、夢が一番よくして見るのであります。其の感情、其の意志と云ふものは、夢の中では瞬間も留まらないのである。して見ると、私共の意識と云ふものは、時々刻々に変つて居るのである。夫れは私共の意中に於て、自身は始終變つて居るか否やを意識せぬにしても、宇宙は始終動いて居るのであります。故に、独り私共の意識が始終變つて居るのみならず、私共の身体も始終變つて居るのである。故に、毎日毎日同じものを食べて居ればよいと思ふなどは、大間違ひであります。夫れで、意識界では決して想像することの出来ないことをも、夢は想像するのであります。故に、宇宙界の現象、此の神秘

的な深い考へと云ふものは、宗教家の夢に現るゝことが度々あります。其の宇宙観、人生観と云ふものを私共は夢で現すのである。

【生活の二方面】

私共の生活を二つに分けると、一つは Vision、Dream、Imagination 等であつて、他の一方は観察、分類、説明、帰納、応用等、つまり科学又は歴史で、之れが宇宙の現象を現し、夢や想像などは宇宙観を作るのである。其の哲学となり、詩となり、宗教となり、宇宙となり、神となる処の極始めを為すものは、夢であります。故に、夢と云ふものは極最初の精神界、意識界を覗き見る処のものであると言ふことが出来ます。そこで、此の夢は私共の意識界の初歩のものであり、夫れによつて出来て来る処の宇宙観、人生観と云ふものは、夢によつてよく現さるゝのであります。

昨晚の夢は、大層面白い御座りました。大きな Garden があつて、其処には美しい Flower bed がある。そ一して又、此の方にも Flower bed があつて、両方で出来たものを合せて、又新しいものを作らうとする。実に愉快であると云ふことを夢に見ました。

つまり、私はあなた方を送らねばならぬ。送るには何が一番大切であらうか。ど一しても進むと云ふことが大切である。之れだ、と云ふ Point をつかまへたのであります。そこで斯う云ふ夢を見たので、種とは即ちあなた方の頭であると云ふ解釈は、あとからつくのであります。故に、夢は Imagination が大切である、Create が大切であると云ふことを現すのであります。

故に、何か Inspiration を受けた、非常に感じたと云ふ様な時には Vision と云ふ、その他、耳に聞く夢がある。夫れを Calling と言ふのであります。夫れよりも Vision が多い。故に誰れかも、夢も人生の半なり、と言つたことがある位で、私共の夢は誠に大切なものであります。其の心に描く夢によつて、私共は非常に高尚な人格を養ふことも出来、又卑い人格ともなるのである。故に、誠に大切なものであります。

今、私はあなた方をお送りするについて深く心配致します事は、あなたの進歩がとまりはずまいか、ど一であらうと云ふことです。あなた方は始終よく變ると云ふことが大切であります。夫れでお別れをするについても、今度の卒業生は我れ我れの Spiritual union の中に入つて、何時も我れ我れと同じ団結に加はつて居るよ一に。Book につけることもやはりおやめなさらぬで、益々深くお進みになるやうに。又、夫れをお引き継ぎになる十回生も、同じ心を持つてお進みになることが大切であります。其処にあなた方の六かしいことがある。其処にお心づきなさらねばならぬと考へます。故に、ど一か其処を深く御研究なさつて、限りなく進まれる処の道を見出だして戴きたいと考へます。

[中表紙]

修業証書授与式の御話
明治四十五年三月三十日

明治四十五年三月三十日
修業証書授与式並びに第三学期終業式

小学校全科卒業生、並びに幼稚園の小供に対しては、其の卒業証書と保育証とを、来る四月十三日の全校卒業証書授与式にお渡しすることになりました。到底、豊明小学校、幼稚園生徒が全校の卒業式に列することは出来ませんから、其の日よることの出来ぬ人々に対して、今日御話し致しましよ。斯う云ふ修業証書授与式は今年始めてで、新しいことであります。其の意味は、今から十数年前に於て本校は小学校、高等女学校、大学部研究科、即ち極初めの教育から高等の教育まで、初めから終りまで系統の立ちました一つの組織になりました学校を設けると云ふ計画でありましたが、五、六年前に小学校、幼稚園が出来ましたけれども、其の前に溝がありまして、われめがあつて全体が一つに続く訳に参りませんでした。今年になって其の溝がとれて、われ目がなくなり、漸くにして一番下の処からずつと高等な所まで揃ひまして、今年から全体一つに連絡することが出来ると云ふ喜ばしい時機に達したのであります。夫れで、我が豊明小学校第一回卒業生として母校の高等女学校にお進みになる此の二十名の皆さんは、非常に深い喜びを持ち、責任を感じておいでになるのみならず、第一回卒業生として上にお進みになる訳であるから、之からあなたの品性、あなたの学問と云ふものは、皆が喜んで歓迎しておいでになることと思ひます。故に、ど一か皆さんは忍耐して立派なる学生となり、欠けなく高等女学校をも御卒業になると云ふことは、皆が希望致しまするし、皆さんも御決心なさつておいでのことと考へます。

又、是れ迄の五年生は六年に進み、四年が五年になり、三年が四年になり、二年が三年になり、一年が二年になり、幼稚園が小学校になると云ふことについて、やはり此の卒業生が十分な決心をして上にお進みになると同じ様に、皆さんがよい心がけて進級なさると云ふことは、誠に喜ばしいことであります。

又、幼稚園のお方も揃つて或は小学校にお入りになり、或は学習院の女学部にお入りになる方もあり、又うちの都合でおよしになる方もありましよ。

又、二十名の方が挙つて高等女学校に御入学なさると云ふことは、一同に喜んでお迎へすることです。故に、お入りになる方も、お迎へになる方も非常なる喜びを以て、あと八十名はよそからお入りになることでありますから、其の方達をよくお迎へになる準備を、此の休み中になさることを希望致します。

過去四年間、本校の最も多事多端なる時、しかも変遷の時代で、最も大切な且つ困難なる時代に於て、熱心、忠実に母校の爲にお尽し下さつた村田勤先生が、此の度、明治大学附属中学部からの招きによりまして此の校をお辞しになるこ

とになりました。猶、引き続いて御教導を願はねばなりません、御栄転のことであり、村田君の教育の御主義をお行ひになるには最もよい位地であります。夫れは實際、教頭の任を以て育英の任にお当りになるので、御承諾致しました訳で御座りますが、非常に多忙な御身とならるゝので、此の校の授業はお持ち下さることが出来ない様になりました。故に、我々は一旦、此処でお別れをするのでありますけれども、同じ教育界に於て働いて貰ふことであり、我々個人としても實際友人であり、又女子教育に対しても熱心な賛成者でありますから、村田君が今後と云へども、渝らぬ同情を以て本校の爲に、又皆さんの爲にお尽し下さることは疑はないのであります。之れから一言、村田教授にお話を願ひましよう。

今年も平年よりも早く春が参りまして、桜の咲く事も一週間か十日程早まつた様であります。既に今日は満開の姿となりました。又今年も、是れ迄余り聞くことがなかつた鶯の声を、今年早々から度々此の校内に於て聞くことが出来ます。多分、皆さんも、今年の少し平年に異つた春を迎へまして、此の一年中で最も意味ある処の自然の変化を見るにつつまして、何か深い感じ、深い Inspiration を銘々、自分自分の異なる程度におきまして御受けになつたことであらうと思ひます。併し、其の天然の美が発揮し、自然の音楽が響き渡る頃ほひに、試験と云ふ忙しい俗事に忙殺されて、書物の中の詩や歌は研究するも、其の自然が表す処のしるしには余り心を向けなかつたではあるまいか。教場で音譜に制せられた歌は聞けども、自然の奏する音楽に耳をひらいた者が幾人か御座りましたらう。此の一年中、其の自然のうた、自然の音楽を誦むものが幾人御座りましたらうか。其の感じ、其の Inspiration からほんとの詩を歌ひ、ほんとの歌を歌つて、其の意味を味はひ、ほんとの命を発現なさつたお方が幾人御座りましたらうかと考へて見たいのであります。

又此の頃に至りまして、各学級に於て、各寮舎に於て、殆んど毎日送別会、引き継ぎ会、又之れから段々歓迎会、一年中のしめくゝりの会と云ふ風に、いろいろの会が毎日のよ一に行はれて居ります。併し之れは式であり、表象に過ぎないのである。實際に於て我々は人生の送別会、ほんとの歓迎会を行うて居るか、ほんとの意味を互に表して居るのであらうかと云ふことを、我々は考へなければならぬと思ふ。今から二週間許り前かと思ふが、今の例の三教の会合のあとで、府下の学者、教育家が催して、上野精養軒におきまして歓迎会を開きました。其の会後に於て、私は久しぶりに本多府一君にお目にかゝりました。日本人の例として、そ一云ふ場合に握手の礼を行ふことはありません。又、非常に不自然に思はれますけれども、其の晩はど一云ふものか、思はず知らず手を握つて、何とも言はれない感に打たれました。そ一して、其の晩は家に帰つても快く眠りましたが、其の後間もなく、本多君は不婦の客となられたのであります。実にあの晩が、君と最終決別であらうとは、心づかなかつたのである。併し私は満足に思ひました。あの時、最もよい態度でお別れをし

ましたから満足しましたが、我々は時々、其の人の臨終の時に於て、あゝも言つておけばよかつたのと思ふものである。故に、私は人とお別れをする時には、其の時を最後と思うて居ります。そ一云ふ時に思ひ残しのない様に心から喜んで別れをしておくことが大切であります。

又、斯う云ふ時に於て、我々は遙かに多くの方々とお別れをして居るのであります。即ち今、鎌倉においでになる三井三郎助君とも、お別れを告げて居るのであります。又昨日、化学館でしまひの会をなさつたそ一であるが、あの化学館を寄附せられました大坂の藤田傳三郎君とは今、將に我々がお別れを告げて居るのである。村田教授とも、お別れを告げて居るのであります。又、高等女学校の第十一回生とも、今半ば、お別れを告げて居るのであります。我々のお別れは、只卒業式ではない。告別の辞ではない。夫れ等は、其の時に必要なるしるしであります。我々は記号やら、形式やら、儀式やらに忙殺せられて、ほんとの意味を忘れて居ることが多い。

[我々は互に永久の別れをするのでなく、高調に達すべく友垣を結ぶのである]

西洋の詞にも、私の息子は、彼れに嫁を貰ひます迄、私の息子であるけれども、私の娘は、彼れの生涯、彼のあらん限り、私の娘であると云ふ意味の詞がある。あなた方は永久、母校の娘である。故に、永久のお別れをするのではない。否、是れから我々はほんとの友垣を結ぶ処の、熟する即ち高調に達する処の好時機であるので、此の送別は喜びと悲しみと交々起る処の誠に複雑なる、意味ある処の送別であらうと思ひます。併し、其の意味、其の意味ある送別にはあらはるゝ処の隠微の詩を歌ひ、其の美を味はうことが出来るか。今、此の時節に現れて居る処の自然の美を、私共は味はひ得るものであるか。此に疑問が残るのであります。

[我々は実を収めたであらうか]

私は昨日でありましたか、高等女学校に於て、あなた方の学問、あなた方の知識、あなた方の収獲は仮であるか、実であるか。知識でも、仮説と云ふものと実体と云ふものがある。我々の詩にも歌にも、淵源である処の此の宇宙の実体にも、仮と実との区別がある。私共は其のしるしである処の仮をつかまへることに忙しくして、空を思ひ、空に馳せ、空を追うて、真に我々の要求して居る処の実物を自然、自分のものとする能はざることが多いではあるまいか。そ一云ふ試みにあふることが多くはあるまいか。始終、実に達しよ一と云ふことは銘々の思ふことであり、各先生の導かうとする処であるにも拘らず、猶そ一云ふ弱点のあるものではあるまいか。即ち、書物の文は読むけれども、筆には歌を記すけれども、自然のほんとの歌の意味はわからない。心理学や、倫理学や、処世学の本は読むけれども、ほんとの人情を味はひ、道を行つて行くことは出来ぬ。即ち、見れども見えず、聞けども聞かえず、食へども其の味はひがわからない。只、仮とか影とかは見えるけれども、ほんとの実体、ほんとの意味、ほんとの味はひを味はうことが出来ないと云ふことではあるまいか。又昨日、高等女学校の皆さんに尋ねたれ

ば、大多数は未だ其処がとれて居ない、醒めて居なかつたと云ふ風にお答へになりましたが、高等女学校のみならず、大学部でも其のほんとの事がわからないではあるまいか。

[真に人生を味はうには自分の心の恐れから免れなければならぬ]

此の頃の文学にも、亦あなた方の詞にも、自覚と云ふことがある。解放と云ふことがある。ほんとの皆さんの心に自覚が出来たか。良心の自由が得られたか。即ち解放せられたか。真に独立の人格を得るには、心の奥底から解放せられねばならぬ。其の束縛は一言で言へば、煩悶とか恐怖とか云ふ人心を苦しめる処の強い力を持つて居るものから解放せられねば、ほんとの人生の味はひはわからないのである。そこで私共は今日の、真に人生の意義を解し、又天地の生命に触れると云ふ様な境涯に達するには、先づ自分の心を束縛して居る処の恐れから免れなければなりません。然るに、其の恐れを去る、其の心配から逃れると言ふことだけが易くして、出来難いことである。

[我々の自由を妨げるものは人間である]

其の恐れると云ふことに、死を恐れる、神を恐れる、天災を恐れる、流行病を恐れる、貧窮を恐れる、戦いを恐れる、衝突を恐れると云ふことがある。其の恐れよりも猶恐ろしい処の、我々の神経を麻痺させる処の恐ろしい力があるのである。之れは非常に Paradox のよ一であります。又、其処の真意をとることが一寸かしいよ一に見えるが、我々は我々が一番頼みにして居る、力として居るものが一番恐ろしいのである。之れを具体的に言へば、日夜、私共の心を臆病にするものは、私共の自由なる発表を好まず、むしろ之れを妨げるものは、人間である。私共の最も親しい処の両親が怖いのである。先生が怖いのである。寮舎の人は、我が室の人が怖いのである。

先づ、一年中の一番美しい此の春と云ふ時に、何があなた方を怖れしめたか。此の卒業と云ふ時に、錦を飾つて郷里に帰らうと云ふ時に、何物があなたをかく狼狽させたのであるか。言ふ迄もなく、試験である。其答へによつて、先生に戴く処の評点である。此の試験の為には病気になる人もある。遅い男子でも、試験の為には自殺する者さへある位である。若しも試験にしくじつたなら、如何に親が落胆するであらうか。郷里の人は如何に自分を価値なきものと見るであらうか。若し落第でもするならば、親は必ず詰問するのである。夫れに、ど一答へよ一かと心配するのである。其の次に怖いものは、先生が私の答案を見て、どんな評点をおつけになるであらうか。点が低いのではないか。自分は誠に力が弱いのである。先生は私を何とお思ひなさるであらうかと、斯う云ふことが氣にかゝつて、夜もろくに眠れられないのであります。次には、友達か怖い。友達から、彼れは利己である、全体の為には不熱心なものである、我が儘な者であると評定せらるゝ程、苦しいことはない。之れは身を切らるゝ程つらいものであります。

其処に於て煩悶を生じ、卑屈に陥る。其の結果、自暴自棄になり、高慢になる。此に於てか批評的になり、組の事、友達

の事をわるく言ふ様になるのであります。

又あなた方の嫌ふことは、会である。会で発表することで、私は下手である、嫌ひである。成る可く不言実行がよいと云ふ風になる。あの人は口ばかりで実行が伴はないと云ふ風に冷笑して、人をけなし自分を高しとし、終に世とも人とも相容れない者となるのであります。

[他を怖れるのは自分を忘れられないからである]

つまり、自分の価値をど一云ふ風に人が定めるのであるか、自分の為すことをど一人が感ずるか、あなた方の日夜心配であること、怖いと云ふこと、我が儘と云ふこと、すねると云ふこと、人を批評すること、或は甚だまづい顔をするに云ふ其の本は皆、此の恐怖心である。人が怖いのである。何故に怖い。其の本は、自分で自分と云ふことが忘れられないからである。之れは煎じつめて行くと、利己心である。うぬぼれ心である。狭い心から出るのである。英語で之れを Self-consciousness と云ふ。自分が忘れられないからである。私の言ひ方が人の感情を害するのではあるまいか、私の着物が斯う云ふ式日に適当しないと思はれはしないかと云ふ様に、自分が忘れられないのである。私は、之れが一番我々を苦しめ、我々を麻痺させ、我々に度を失はしめ、我々に為すこと能はざらしむる処の怖れを覚ゆるのである。此の恐怖と云ふことの本を直さなければ、始終、実を考へ、実を行ひ、実に活けると云ふことが出来ないのであります。

[愛は恐れを除く]

此の一番病源である処の恐れを除くと云ふことは、何に由つて出来るか。つまり私共のほんとの価値、人生の真髓と云ふものは、ど一すれば養はるゝかと云ふと、愛である。愛は恐れを除くと言ひ、又孔子さんは、仁者に敵なし、と言はれました。愛は我々をほんとうに無私、無我とならしむる。即ち愛を思うて、自ら自分を消滅するよな態度にならなければ出来ないことである。ど一しても人に対し、組に対し、是れだけのことはしなければならぬと云ふことが、日夜に忘れられない様になつたならば、下手であるとか、恥かしいとか云ふことはなくなつて了うのであります。

又、家に帰り、寮に帰り、真に友達をよくしよーとか、真に親に仕へよー、家の事をよくしよーと思ふならば、ど一云ふ点がついたとか、親からど一批評されたとか云ふことよりも、之れから斯うして行かうと云ふことに心が向ふのであります。故に、私共の動機が何時でも愛と云ふことにあるならば、私共の怖れを除き、私共を惑乱せしむる処の怖れを除いて、自由の天地に徜徉することが出来るのであります。夫れをさして、まごころ、至誠と申します。至誠になつたならば、始めて物の真相がわかり、真意がとれるよーになるのであります。

高等女学校の第十一回生、大学部の九回生をお送りするについて、只、儀式や歌に捕はれて居ることでなくして、此の際、皆さんがほんとうに覚醒なきて、ほんとうの自分からさめて其の実をとり、其の実の生活を味はゝんければ、此の期を閉ぢることが出来ないのであります。此の終りになつて大分さめて来たよーであります。猶深くお考へになつて、ほんとうの意義を解して送別をしなければなりません。其の

意味とは、一言に言へば、愛である。愛とは、ほんとうの一致とか調和とか云ふことで、ほんとうに胸襟を開いて心を合すことが出来ねばなりません。犠牲と云ふこと、そんなことをして居ると馬鹿を見るかも知れぬ、損をするかも知れぬと言はるゝことがあるけれども、私共から言はせれば、損をしても馬鹿にせられてもよいではないか。夫れだけのものを犠牲にするだけの価値あるものである。Christ の如く、Socrates の如く、生命をも其の為に捧げることが出来るならば、夫れ程幸なことはありません。私共はお別れに臨み、ど一か其の仮を洗ひ去つて、まことの道に進むことであります。最も大切なことは、調和であります。一致であります。寛大であります。人を許すのである。人を容れるのであります。最も大切なことは、皆さんが其の心持を以て郷里にお帰りになるならば、如何なる人の間に立つても、少しも恐るゝことはありません。私は、此の期に於て、試験やら世間の批評やらに攪乱せられて、少しく度を失した所がありはせぬかと思ひます。此の頃、少しくさめて来たとは思ひますけれども、も一つ、卒業式までに充分お互に目をさまして、お進みになることを希望致します。

[中表紙]

桜楓会例会の御話
明治四十五年三月三十一日

明治四十五年三月三十一日
桜楓会例会の御話

[変化の目的、常にうむ事である]

九回生皆さんが真の生活が出来よーになつて出てほしいと、私は切に希望したのである。それは進歩、改善と云ふことにおとりになつたと思ふ。それには、研究、知識、境遇と云ふことも充分でなければならぬ。芸術、主義の発達と云ふこともあるが、すべての進歩、発達、知識等、いろいろ生命の要素があるが、何を目的として行くか、又真価値の真髓は何か、何か変化の真髓、目的であるかと申すならば、言葉で言ふことは出来ない。言はれないが、其の変化して進むと云ふことはうむ、始終うまれると云ふことである。生はうまれるである。死もうむ用意である。人生、宇宙は生であり、生命である。生命は生むのである。

これからの価値、目的を実現すると云ひ、大事業を成功すると云ふ目的、理想に我々は名をつけるが、其の真髓は何かと云ふに、又それが出来、発達したと申すのは、ど一云ふことであつたかと云ふに、何か貴いものが生れて来ると云ふことで、変化はうむ、うまれると云ふことである。

[我々の幸福はうまれたと云ふことである]

我々の喜び、我々の満足、愉快、幸福は、うまれたと云ふ、誕生の喜びである。

つまり変ると云ふことは、従来よりも、も一つ満足なも

のに生れる。事業は、我々の中に望む、喜び慕ふ所の変化ある立派なものを生み出すことである。

私が皆に勧めた今後の生活は、変化しなければならぬ。停滞してはならぬ。始終生み出して行く、生れて行く用意をして行かなければならぬ。それはど一すればよいかと云ふに、所謂 What と云ふことにて、半ば皆さんが解し、経験されたことと思ふ。併し、半ばと云ふ所も未だ判明しないところがあり、又一思つても、自分の力にならない所も識つて居るであらうと思ふ。

生れる働きの半ばはわかつたが、其の最も深い処に日夜動いて居るかど一かと云ふことが、も一つ皆に味ははれると云ふことが大切である。それは何を申すか。今日迄、非常に努力して、むつかしかつた。骨が折れた。如何となれば其の要素の半面は、むしろあなた方に不得手であり、短所であり、欠けて居る方面である。其の欠点を補ひ、短所を伸ばそ一とするのに、実に骨が折れたのである。併し、骨折つた甲斐がある。努力した結果は半ば出来た。また、今後そこに行かうと云ふ決心をなさつたことは、喜ぶのである。

残りの部分は、凡てのものが調和して働いた。最も深い、すべての要素の結合した結果であるが、之れはむしろあなたの長所であると思ふ。故に、之れが出来たらば伸びると思ふのである。

あなた方の長所であるに係らず、其の方面と一緒にほんとの働きを呈することなくして、さまざまのものに挫かれて居るものがあることを見るのである。今日は夫れを一つ申しておきましょう。

[涙は Emotion の至りである]

それは、其のうむ種を養ひ育てる。其の生命の種子を培養して、温と光と水とで育てなければならぬ。夫れは何が生み出すかと云ふに、私はつまり、これはあなた方の長所であり、むしろあなた方の天性である。あついあなた方の涙が、実は之れを生む所の力となり、動機となり、養ひとなるのである。然るに婦人の涙は、甚だ人が卑しめ嘲弄するので、弱いしるしとして、わるく解する場合が多い。併し涙には冷めたい卑屈な涙、弱い涙、自暴自棄の涙、虚偽の涙もある。又其の反対に、真に此の生命を生み出す所の貴いものを生む、非常な力を爆發させる、深く、あつい、美しい涙もあります。其の所謂、人間の至誠になつたとき、心が至ると涙になる。感謝の涙になつてしまうのである。又は、深い決心が Emotion となつて涙となる。凡て高潮に達すれば、自他の区別なく神と交るとも申す。ほとんど感情に夢中になると、涙が自ら出る。涙は真に Emotion のあらはれとなつて居る。独り婦人ばかりでなく、男子にも生み出す所に涙があり、涙が生む事である。

今日、遅くなつたのにも一つのわけがあるのである。

年齢は四十ばかりの男子で、学問もあり地位も相当に高く、日頃は豪気であると思つたのである。其の人の話を聞いて、此処であなた方の決心を聞き、いろいろな境遇に入る妹を正会員が送らるゝのであるが、如何なる涙を出して居るか云ふことを、さっきの男の涙と比較して居たのである。

其の人の為に友人が一夜、一睡もしないで、度々私の所へ

来た。そ一して、其の事件は至つて小さなことで、判断も誤つては居ないのである。只、友の為に最もよかれかしと願ひ、忙しい人間が友の為に自ら考へて居る其の友情。小さな事でも友としての涙を以て議論し、後を思うて本気にやつて居る。其の友情と勇氣と決断とによつて、ほんとの親切を以てやつて居ることを感じて来たのである。之れでしよ一とすれば、決して変らないのである。其の決心は涙が生んだ。其の人の生涯は涙できまつたのである。私も女子教育の為に尽さうと決心したときには一夜泣き、涙によつて梅花女学校を創設することが出来たのである。女子大学、桜楓会、豊明館は皆、其の涙によつて生れたのである。涙の露が、ほんとの命を培養するものである。桜楓会は涙で生れ、涙で育つたのである。[力のもととは涙である]

昨日、涙を以て言ふたあの涙は、決して卑屈、臆病の涙ではない。捧げる涙、決心の真心の涙である。この涙が、此の生命、此の空気を生むで居る。此の涙を出したときには、既に生れて居るのである。至誠と感じ、涙によらなければ生れない。変化は生れるのである。

団体の為に捧げ、頑固の友に苦しみより脱しさせることをつとむる。之れが生命を生み出す力である。研究、知識も大切ですが、力の動くもとはあつい涙、此の至誠の同情の力による。これがほんとならなければ、命は出来ない。男子すら、此の涙で交はつて居る。あなたは天性、此の涙を持つて居る。精神で養つた此の涙、動機を以て、生涯團結することが出来ると信じます。此の涙を以て心を磨き、益々精神をすゝめて生れることが、最も大切であると思ふのであります。

[中表紙]

桜楓会大会の御話
明治四十五年四月七日

明治四十五年四月七日
桜楓会大会に於て

丁度、母校が第十二学年を迎ふるに當つて、桜楓会の總會をお開きになつて協議をおまとめになり、事をお始めになることは喜ばしいことであります。

昨日も朝から出る都合であつたが、止むを得ない用事の爲め出ることが出来ませんでした残念に思ひました。然し、議事なども余程おなれになつて、速かに主意が互にわかり、何の障りなく、づんづん進めることの出来たのは、だんだん経験を積んだ結果だと思ひます。

殊に今年喜ぶのは、十年の経験をつんで凡ての経験を統一し、又、千何百の会員の希望やら意志やらをよく調和して、あなたがたの必要からして、この仕事の上に大切な又根本な改善を今年はおとりになつた。つまり、この桜楓会が出来てから随分外の助けをうけ、干渉をうけて、半ば会員以外の力によつて支配されて居た。

[会員の自動的となりしこと]

然るに今年は、あなた方が自身で生み出し、案を立て、自身でおまとめになったのです。つまり今年の計画は、会員の自動力で出来たことは確かである。複雑な関係を統一して進んだ、共働の働きをするきざしがあらはれたことは、一進歩であると深く喜ぶのであります。

[過去の困難に堪へ来りし、我が会員の有様]

此の五、六年の間は我が国女子教育の危機であり、又反動時代で、卒業生が強い試みをうけた迫害の時代であった。実に我々は創業の際、火事が起らぬこと、流行病の出来ぬこと、いろいろ傾向の変る度毎に心配をして、安き心もなかつたが、この五、六年はそれが過ぎ去つて、今度は卒業生が困難に逢つた。併し、母校で養はれた精神は奪はれず、其の一貫せる主義だけは、こはれることはなかつた。其の上、殆んど堪へられぬ困難に逢ひ、其のつれ合ひの男子は絶望に陥つた者もある。然るに我が会員は、かゝる目に逢つても困難と戦ひ、夫を助けた者さへある。之れはこの年の会に於て、聊か愁眉を開くの感があります。

[九回生は極度に達す]

又、今九回生は最も深いどん底に落ちた時で、従つて内外に於て多くの攻撃、誘惑、圧迫、堪へがたい重荷を負うて行かなければならぬ。然るに、之れ迄も之れからも、五十年、百年の後を期して進むの意気を示されたことは、最も愉快に感ずる所である。

又、其のあとをおうけになる、第二発展に最も重大な責任を自覚し、充分の覚悟を以て後をおつぎになる第十回生の決心を伺ひ、大に満足を致したのであります始め、私は今年の入会に対し、一言祝意を表するのである。

それから、今度の桜楓会の組織が三部に分れて居たのを、も一つ分業的にせられることは至極當を得たもので、大に経済的に出来、必要に最も応じて居るものである。

[会員係]

第一に、会員係をおかれました。之れは、私は非常に大切だと思ふ。第一に之れ迄より、も一つ適切に個人個人に接し、個人個人の傾向、特質を研究して行くことが出来ると思ふ。勿論、会員係一人でもつことは出来ぬが、これは皆さんが賛成して致されたのでありますから、互に心配をして、一緒におつくしになることであるから、確かに効果のあることと思ふ。

研究の方から言ふと、個人の研究になる。個人を訪問し、相談し合ふことになれば会員を省みることになり、又、自身を研究し、自らを養ふことになる。も一つは教育を適切に行ふと云ふことになる。

[諸子の苦みは半ば自ら作るものにあらずや]

あなた方は殆んど迫害をうけて居る。併し之れは一部で、実は皆さんが之れ丈けに苦しむ会に忠心捧げ、家庭に働かれた方も六年の間随分苦しまれ、学生も苦しみました。併し、之れは心を鍛へる為に必要なことである。その為に堪へる、戦ふと云ふことは、欠くことの出来ぬことである。之れを決して心配するのでもない。之れは必要なことである。之れがなければ

ば、人間にはなれぬ。永久の命を得る為、之れを受けることは感謝すべきことである。之れは進歩の本である。併し、其中、半ば以上は除いてもよい苦しみではなかる一か。之れは何であるか。之れは自分が苦しむのである。実は、自分から窮地に入り、苦んで居る。あなた方の苦みは、自分から選んで居る、苦みに陥つて居ると思ふ。之れを除くと云ふこと、この衝突、矛盾をとることは、時と力と金との経済になる。之れが出来ると同じ力を尽して、自分の会の為めに幾倍の力を結ぶことが出来るかもしれぬ。今度の改革は之れである。自ら破る。自ら窮地に入るものは何か。

[自ら苦しむ本は何か。之れ事の真相を知るを得ざるが故也]

之れは真に自分を知ると云ふこと。自分についての判断、も一つは人が見えぬ、其の真相がわからぬと云ふことである。あなた方は空をうつことが多い。ねらひが全くちがつて居るのである。御婦人の経験に之れが多い。私共でも励まそうとすると却つて心配し、弱つてしまう。誠に親切に考へて居るのに、全く違つた様にとる。之れは子弟の間にも、親子の間にも、夫婦の間にもある。互に尽すこと、言ふことをほんといつとれず、言ふ方も空をうつて居つて、ほんといつとることがわからぬ。すねたり、おこつたり、苦しんだりするのは皆、的がちがつて居る。之れで自分も苦しみ、人をも苦しめて居る。之れは想像ばかりして居るからである。も少し心を交換したならば、それ迄に行かずに救はれることが沢山ある。も少しお互にわかる様にありたい。こゝに適切な処置が出来るのである。之れは、会員係のつとめられる所である。

も一つ、この係をおくことは、全体の空気を養ふと云ふことである。精神的合同が発揮する様にとの、二つの主意である。之れは両方とも大切なことである。之れが本になつて行かねばならぬ。これは、会員全体でなさなければならぬことである。

[研究係]

次に研究係ですが、研究が出来ねば進歩がない。併し、之れは非常に六ヶ敷い。然らば、ど一したらよいか。

[研究の本は意志也]

私共は之れを永く研究して参りましたが、大学部に於て話ししました様に、研究の本は意志である。之れは目的が立たねば出来ぬ。目的が非常に力を得なければ、研究が出来ぬ。必要は発明の母と云ふことがある通り、ど一しても目的、必要がなければ出来ぬ。会員は会の為に熱中する様にならんければ、研究は出来ぬ。

英国婦人の婦人参政権問題に於ける暴挙については賛成は出来ませんが、彼等等は空に動かぬ。国を此所まで進めなければならぬ、婦人を此所迄進めなければならぬと云ふ目的の為に動く。これには大に賛成し、同情するのである。

[事業、事務係]

それから、事業と事務係。これも、ど一しても精神に身体が必要である様に、凡ての目的を果す為、桜楓会も之れが必要である。

[事業、事務にはSystem, Cooperateが必要]

之れが、Systemが立ちOrderが出来、Cooperateが出来ね

ばならぬ。これには衝突、矛盾がとれねばならぬ。又、これには職務に忠と云ふことがなくてはならぬ。これが今日迄出来にくい所であつたが、だんだん出来るよ一になつたことは喜ばしく思ふ。しかし尚ほ余程、秩序、組織を立てられたい。併し、組み立てだけでは死んだものである。細胞、細胞が皆言ふことを聞き、個人が中心、忠と云ふことがなくてはならぬ。一人が如何に熱心に思うても、細胞、細胞が皆な、目的に従つて動くのでなくてはならぬ。これが出来れば事務もはぶけ、進歩も出来る。

[三井三郎助君の死]

最後に言ひ度いことは、時がなくて出来ません。それは、今日は桜楓会の為に非常なる同情をもって居られた三井三郎助君が死去せられ、小石川に十二時につかれるのを迎へに行くのですから、残念ですが止むを得ません。

[宗教的精神]

最後に、こゝに宗教的精神、これは我々の一日も忘れられぬこと。今日、母校の柱となられた多くの方が斃られ、尚ほ他の人々も次第に老いられては、宗教と云ふことを考へずには居られぬ。なほ他に実業に従事する方で、余命をどこへ捧げられたかと云ふに、此所へ最も多く捧げられたのである。其の精神生活はやはり学校の中にある。我々の言うて来たことは、単に学校、桜楓会の空気ではない。他に広く広がつて居る。三井氏があれだけ精神的になられたのは、此の学校に捧げられたのが一つの要素である。これは、桜楓会員がかゝる深い問題に入るべき必要のある所以である。

なほ、現状もお話し致したいが、時が迫りましたから、皆さんで充分にお話頂きたいと思ひます。

[中表紙]

卒業式の御話

明治四十五年四月十三日

明治四十五年四月十三日

卒業証書授与式

本日、長谷場文部大臣閣下の御臨場を請ひまして、父兄、保証人、並びに来賓諸君の深き同情の中に、大学部第九回卒業生、附属高等女学校第十回卒業生、附属豊明小学校第一回卒業生、幼稚園第六回の卒業証書授与式を行ふことを得ますのは、我れ等の深く喜ぶ所であり、且つ光榮とする所でもあります。あなた方第九回のお方が、今より四年前に始めて本校の普通予科並びに英文予科にお入りになりました当時、丁度此の卒業式を挙行致しました日は、恰も校内の桜が満開の勢を呈した時でありましたが、時ならぬ大雪が降り、惜むべき多くの枝を折り、咲かうとして居りました多くの桜を夭死せしめた時であります。併しながら今から考へますれば、此の時ならぬ雪の為に夭死した多くの桜は、当時の我が国女子教育の傾きを言ひ現したものと見らるゝのであります。

即ち、我が国の女子教育が旺盛を極めました反動の最も著しかったことを示した時であります。其の頃の統計を調べて見ますと、今から七、八年前、即ち諸君が大学に入学する五年前の我が国に於ける女子教育、即ち高等女学校程度を終へて大学其の他の専門学校に入学する処のもの数は 1400 人でありました。夫れが、あなた方のお入りなる時は 1200 名となりました。併し、女子の中等教育は益々盛んになりまして、其の時から一昨年迄、卒業生は毎年五百名宛増して居たのであります。第九回生が高等教育の門に入られた時は、実に我が国女子高等教育の激寒とも言ふべき時でありました。其の寒い雪や霜をふみ、昨年は母校十年紀の為に尽し、第二期、第一回生たるの責任を完うし、今や其の業を了へて、此に卒業式を挙ぐるの榮をになはるゝ日となつたのであります。其の間、我が国女子高等教育は如何に変遷したかと云ふに、数に於ては今の通りであるが、其の機関はお茶の水高等師範の附属専攻部、奈良におかれた女子高等師範の如き、西君の建てられた専門学校、又京都の同志社女学校の専門部、其の他、これに類する此の大学の如き高等教育の機関の数は減ずるにも拘らず、中等教育の設備は益々完全にせられたのであります。

あなた方の数が最低にありまして、昨年以來、稍旧に復し、此の学年の新入学生は総べてで 429 名と云ふ数に上つたのであります。故に、今日の卒業生は只今東京の天地に開きました桜の如き、此の万有のめざしまする処の春季の如き観があります。けれども同時に今年の卒業生は、誠に今年の氣候、今年の桜の如き有様を呈したのであります。

今年の桜は実に早く咲きました。けれども誠にしめりがちであり、誠に蒸しがちで、実にしめつばい春でありましたことは誰れも感ずる所であります。

此の春に於て、此の第九回卒業式を挙行する母校の有様は、恰もこの春につめたい雨が続いたと同様な感があるのであります。

如何となれば、此の卒業生の出る其の時に於て、母校が生れたる当時より深く同情を寄せられた三井三郎助君が長逝せられて、今日此の席には列せられないのである。遠く香雪化学館を寄付せられた藤田君も亦、此の頃ほひに永眠せられ、本校の評議員並びに桜楓会幹事であつた森村菊子評議員、岡部子爵母堂も眠られました。又、我々の共同者である処の青山学院の本多庸一氏の如き、明治大學の岸本博士の如き、又お隣りの石本陸軍大臣、このお三方は所謂斯道の為に過勞して戦死されたことは事実であります。

斯くの如く今年の卒業生は誠にしめつばい卒業式で御座りましたが、併し此の冷い氣候は、却つて皆さんの感を深くし、意義を深刻ならしめました。

我々は、此の桜の花の席の上に涙の露の滴る緑陰の下に、大学部第九回生、高等女学校第十回生、豊明小学校第一回生に卒業証書を授与し、同情者諸君と共に其の前途を祝し、其の方針を十分に感ぜしめんとして居るのであります。此の日に於きまして、今年是如何なる告辞を皆さんに送るべきである一か。一片の訓辭の如きものは生涯を律するに足りませ

ん。又、論語の如き、仏教文の如き、或はバイブルの如き經典も、世界の人類の尊き経験をぬきました格言集も、今後のあなたの方の行くべき道の指針とするには足りないと思ふのではないが、之れを只今迄の様な読み方をしては不充分であると思ひます。

其の教へを垂れられた処の聖人、先輩が学ぶに足らないと云ふのではない。然らば何を意味するかと申すならば、是れ迄申しました様に、我々の今日身命を捧げて居ります、我々の生涯を律して居ります処の信念は、宗派的宗教、教義的形式ではないと云ふ。其の中より常に銘々の要求する粹を選ばなければならぬ。其の経験より自分の新らしき経験を見出さなければならぬ。其の詞を鸚鵡的に、念仏的に朗誦することは、今日の修養的生活には不都合であると云ふことを申したのである。故に、今年の卒業生には新らしい修養日誌、今後の生活に適當する処の Note book を皆さんに差上げました。此の形式に現しましたものは、実に皆さんに呈する処の告辞であると申せばおわかりになる。此の自らお考へになり、自らお定めになり、自らお書き現しになって、お進みになる。此の日誌は、日々に新なる生活に進み行く入門である。其の目的に進む処の門戸である。此の門に入り、此の道を辿つて、生涯の目的地に到達することを切に希望致します。其の道を三段階に分け、小さい部分に分ちましたが、今日お別れに臨みまして、あなた方の内面生活、道徳生活を分けて、私は之れを三段階と致したい。

[宗教の三段階]

第一を忍耐、第二を寛容、第三を愛又は友誼、の階段に分ちたいと思ふ。此の三段階は人類の根本生活である。宗教生活にも学生生活にも学校の校風にも、各自の人格修養の品性にも、同じく此の階段を辿らんければならぬ。

[人類の根本生活の基は宗教である]

併し人類生活の根本で、其の基源を尋ねれば、第一、宗教である。故に、此の宗教の階段に於ては、必ず此の三段階を経て居るものであり、近來に於て益々此の階段が明らかになつて居るのである。

宗教の初めは忍耐である。互に憎み、相互に排斥し、互に人の信仰を強迫し、人の信仰を破壊せんとしたのである。甚しきは、宗教戦争ともなつて居るのである。併し、宗教の起りは互に相愛することである。そ—して其の中に矛盾、衝突のあることを見出し、相互に忍びあふ、忍耐すると云ふ徳を生じて参りました。

次に進んだ徳は寛容で、寛容と云ふことは人の信仰を卑めない。人の宗教の中にも真理がある、我が宗教と相通する処の要素があることに気づいて来た処の、稍々進んだ態度であります。

今日、東西の宗教が互に手を握らんとする傾向があるのは、此の煩悶によつてである。此の第九回生が三年に入りましてから、斯くの如き世界の思潮に感ずることは屢々でありましたから、今此に明らかに言ふ必要はありません。

今や世界の宗教は第二の階段に入らうとして居る。我が国の三教会同の如きも、漸く第二の階段の門戸に入らうとして

居るのである。之れを教育の上にはめて考へると、其の色が明らかになつて居るのは、英国の Oxford, Cambridge, London 大学と云ふものを挙げるならば、彼の有名な Eliot が見た所を書いたものを見るに、「ケンブリッジは教授も学生も人の事をよく言ふて居ります。互に人の美を賛美して居る校風がある。」「オックスフォードでは殆んど誰れも人が人を批評して居ります。」併し、ロンドン大学の校風をあげて居るには、「全体の一致、融合。一つ組織の下に一つになつて共同することが其の校風の特色である。」と。

之れを我が母校十年の歴史にあてゝ考へて見ると、非常に忍耐、忠告と云ふことが盛んでありましたが、此の頃に至つて人の美を嘲り、人の成功、進歩を羨むのでなく、私共は人の善を善とし、悪を憐れむよ—になつた。けれども、人の祝福を見て祝する、人の喜びを見て喜ぶ、之れがほんとの寛容である。人のわるいことを見、あな探しをすることが、兎角人の欠点であります。第九回生が茲に第二の階段に入ることが出来るよ—になつたと思ふ。

併し、宗教にしても校風にしても、も—一つの進歩をせねば満足は出来ぬ。併し之れは同情である。愛である。私は、西洋の学者、西洋の今日のクリスト教信者は確かに寛容の徳があり、東洋の仏教にも何か神聖原理がある。人の国を奪うてもと云ふ考へはやまつて、東洋にも我々の先生があるから、へり下つて教へを受けよ—と云ふ態度が出来ました。只書物の上、只知識の上に於て一致を得るのでは、未だ命となり、愛となり、精神となつて居ないのである。

我々東洋人は子供の時から儒教によつて賜を作られ、クリスト教によつて我々に欠けて居る処の信仰を作られて、我々の血の中には三教が一つの血となつて居る。此の精神が校風となつて我々の主義の根本となり、確信の目的物となつて、今年の卒業生の思想を支配して居るのであります。

今日、我々の魂は儒、仏、耶の三教が一つの精神となつて、我々の精神上の命を支配するに至つたのである。我々は友人と友人との間、国と国との間に、此の宇宙的關係を結ばんことを希望して居ました時に、九回生は同志会をつくり、益々無形なる精神結合となり、益、此の精神を発揮する覚悟を以て卒業せらるゝことを喜ぶのであります。夫れと共に私は、第三の融合、愛、尊敬と云ふ精神の高調に達しなければならぬと云ふことを、今日の卒業生に望むのである。

今日の教育勅語の御精神は、実に此の三教の融合をおさとし遊ばされたものであります。

あなた方は此の精神に忠にして進まれんことをのぞみます。あなた方は永久、我が母校の娘である。之れが、今年の卒業生の頭を永久に支配する印象であらんことを切に希望致します。

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

実践倫理講話筆記

明治四十四年度ノ部

2017年2月28日発行

編集・制作

加藤きよみ・宮内量子・山本文子
(日本女子大学成瀬記念館)

発行

日本女子大学成瀬記念館

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

印刷

開成出版株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-26-14
